

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第461集

長野原一本松遺跡(5)

ハッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

— 本文編 —

2009

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第461集

長野原一本松遺跡(5)

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第28集

— 本文編 —

2009

国 土 交 通 省
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



5区全景



5-77号住居跡全景



5-88号住居跡炉石棒出土状態



5-113号住居跡土器圓い炉

序

長野原一本松遺跡は、山間を深く刻んで流れる吾妻川を望む段丘上に営まれた遺跡です。昭和27年、この吾妻川を堰き止め、洪水調整、水利用のハツ場ダムの建設計画が発表され、平成6年度よりダム工事に係わる発掘調査が本格的に開始されました。

長野原一本松遺跡は、ハツ場ダム建設に伴う発掘調査として行われた最初の遺跡であり、平成17年度までの足かけ12年に涉って継続調査が実施され、多くの遺構・遺物が検出され、群馬県内においても有数な、縄文時代の集落遺跡であることが明らかになりました。

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成20年度をもって一応の終了となり、発掘された多量の遺構・遺物の整理作業が本格的に開始される事となりました。

すでに、平成6～14年度までの調査報告は『長野原一本松遺跡』(1)～(4)として刊行されており、本書『長野原一本松遺跡(5)』は平成15年度に調査された遺構・遺物の報告となります。本書は集落の中心域の北側にあたる部分の報告で、多くの住居跡、掘立柱建物柱、土坑等が調査されました。

これらの遺構に伴い、大量の遺物も出土しており、集落構造を解明する上で重要な部分の報告でもあります。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省ハツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

本書が長野原町、吾妻郡内、ひいては群馬県における縄文時代研究の新たな資料として活用されることを願い序といたします。

平成21年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 高橋 勇 夫

例 言

1. 本書はハッ場ダム建設工事に伴い発掘調査された、長野原一本松遺跡の発掘調査報告書である。すでに刊行された報告書の内容は以下のとおりである。

〔長野原一本松遺跡(1)〕2002……平成6～8年度調査成果の報告

〔長野原一本松遺跡(2)〕2007……平成9～11年度調査成果の報告

〔長野原一本松遺跡(3)〕2008……平成12・13年度調査成果の報告

〔長野原一本松遺跡(4)〕2008……平成14年度調査成果の報告

本書は平成15年度調査成果の報告である。

2. 本書で報告する平成15年度の発掘調査期間は以下のとおりである。

平成15年4月1日～平成15年12月31日

3. 長野原一本松遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字長野原一本松地内に所在する。

4. 発掘調査は建設省（現国土交通省）の委託を受け、群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施された。

5. 本報告書に関係する平成15度の発掘調査組織は以下のとおりである。

理事長 小野野三郎、常務理事 住谷永市、事業局長 神保伯史、管理部長 萩原利通

ハッ場ダム調査事務所長 木田 稔、同調査研究部長 津金澤吉茂、同調査研究課長 斉藤和之

同庶務係長 野口富太郎、同庶務係 矢嶋知恵子

6. 本報告書に関する平成19・20年度の整理組織は以下のとおりである。

平成19年度 理事長 高橋勇夫、常務理事 木村裕紀、事業局長 津金澤吉茂、管理部長 矢嶋俊夫

資料整理部長 佐藤明人 調査研究部長 西田健彦

総務部長 萩原 勉 総務G 笠原秀樹、須田朋子、矢島一美 斉藤陽子

経理G 石井 清、斉藤恵利子、柳岡良宏、

ハッ場ダム調査事務所長 巾 隆之、同調査研究部長 中東耕志、

同庶務GL 吉田有光、若林正人

平成20年度 理事長 高橋勇夫、常務理事 津金澤吉茂、木村裕紀（事務局長）、総務GL笠原秀樹

経理GL 佐嶋芳明、調査研究部長 飯島義雄、資料整理部長 相京建史、

ハッ場ダム調査事務所長 中東耕志、調査研究部長 中澤 悟、整理GL 藤巻幸男

調査研究GL 飯田陽一、庶務GL 吉田有光、主幹 若林正人

7. 発掘調査期間 平成15年4月1日～平成15年12月31日

8. 発掘調査担当者 小野和之・飯森康広・原 信行・瀧川仲男

9. 整理期間 平成19年度 平成19年4月1日～平成20年3月31日

平成20年度 平成20年4月1日～平成21年3月31日

10. 報告書作成担当

整理担当 小野和之（平成19・20年度） 山口逸弘（平成20年度）

編集担当 小野和之

本文執筆 小野和之

遺物写真撮影 佐藤元彦

遺物保存処理 関 邦一、土橋まり子、小村浩一、津久井桂一、森田智子

石材鑑定 渡辺弘幸（甘栗町立新屋小学校）

整理嘱託員 新山保和（平成19年度）

整理補助員 足立やよい 中嶋公江 富澤友理 唐澤美恵子 鈴木理佐（平成20年度）

（株式会社歴史の杜）新保純子（平成19・20） 小林里子（平19・20） 深井美紀（平19・20）

霜田順子（平成19） 石井なみ枝（平19） 長崎弘美（平19） 朝比奈香奈（平19）

井草峯子（平20） 丸山里美（平20） 篠原信子（平20）

11. 出土遺物および図面・写真等の記録は群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12. 発掘調査および本書の作成にあたっては下記の機関、諸氏よりご教示、ご指導をいただいた。記して感謝の意を表する。（敬称略）

国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム工事事務所、長野原町教育委員会、

白石光男 富田孝彦 大工原 豊

凡 例

1 本書で使用した方位は、国家座標の北を示す。

2 等高線・遺構断面図等に記した数値は海拔標高を示す。

3 付図を含む遺構図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構全体図 1/1000 各別遺構全体図 1/200

住居跡 1/60 炉 1/30 カマド 1/30 埋設土器 1/20 土坑 1/40または 1/60

掘立柱建物 1/80 配石 1/40または 1/60 その他は図中に明記

4 遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

・土器 完形・半完形 1/4 破片類 1/3

・石器 石皿、台石、丸石等の大形品 1/4または 1/6 打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石等 1/3

石鏃、石鏃等 1/1 石核 1/2 垂飾品等の小型品 1/2

5 図に使用したスクリーントーンは以下のことを示す。

遺構 焼土 

遺物 土器 赤彩痕 

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の方法	2
第3節 調査経過	3
第2章 地理的及び歴史的環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 検出された遺構と遺物	11
第1節 基本層序	11
第2節 遺構・遺物の概要	13
第3節 縄文時代の遺構と遺物	18
1. 住居跡	18
2. 掘立柱建物跡	333
3. 埋塞	336
4. 炉	336
5. 列石・配石	339
6. 土坑	343
7. ビット	454
8. 遺構外出土遺物	456
(1) 土器・土製品	456
(2) 石器・石製品	475
9. 出土遺物観察表	484
第4節 平安時代の遺構と遺物	589
1. 住居跡	589
第5節 中・近世の遺構と遺物	592
1. 掘立柱建物跡	592
2. 竪穴状遺構	594
3. 焼土	598
4. 土坑	601
5. ヤックラ(集石遺構)	603
6. 遺構外出土遺物	608
第4章 まとめ	617
第5章 自然化学分析編	626

插图目次

第 1 图	兵野原一本松道跡位置図	1	第 58 图	5-71号住居跡②	67
第 2 图	兵野原一本松道跡調査区及び経路図	5	第 59 图	5-71号住居跡出土遺物①	67
第 3 图	周辺の道跡	折込み	第 60 图	5-71号住居跡出土遺物②	68
第 4 图	基本順序	12	第 61 图	5-71号住居跡出土遺物③	69
第 5 图	4・5・6区全体図	折込み	第 62 图	5-71号住居跡出土遺物④	70
第 6 图	5区遺構集中部	17	第 63 图	5-71号住居跡出土遺物⑤	71
第 7 图	4-16号住居跡	19	第 64 图	5-72号住居跡①	72
第 8 图	4-16号住居跡出土遺物	20	第 65 图	5-72号住居跡②	73
第 9 图	4-17号住居跡①	22	第 66 图	5-72号住居跡出土遺物①	73
第 10 图	4-17号住居跡②	23	第 67 图	5-72号住居跡出土遺物②	74
第 11 图	4-17号住居跡出土遺物①	23	第 68 图	5-72号住居跡出土遺物③	75
第 12 图	4-17号住居跡出土遺物②	24	第 69 图	5-72号住居跡出土遺物④	76
第 13 图	4-17号住居跡出土遺物③	25	第 70 图	5-73号住居跡	77
第 14 图	4-18号住居跡①	26	第 71 图	5-73号住居跡出土遺物①	78
第 15 图	4-18号住居跡②	27	第 72 图	5-73号住居跡出土遺物②	79
第 16 图	4-18号住居跡出土遺物①	28	第 73 图	5-73号住居跡出土遺物③	80
第 17 图	4-18号住居跡出土遺物②	29	第 74 图	5-74号住居跡①	81
第 18 图	4-18号住居跡出土遺物③	30	第 75 图	5-74号住居跡②	82
第 19 图	4-19号住居跡	31	第 76 图	5-74号住居跡出土遺物①	82
第 20 图	4-19号住居跡出土遺物	32	第 77 图	5-74号住居跡出土遺物②	83
第 21 图	4-20号住居跡	33	第 78 图	5-74号住居跡出土遺物③	84
第 22 图	4-20号住居跡出土遺物	34	第 79 图	5-74号住居跡出土遺物④	85
第 23 图	4-22号住居跡	35	第 80 图	5-75号住居跡	86
第 24 图	4-22号住居跡出土遺物	36	第 81 图	5-75号住居跡出土遺物①	86
第 25 图	4-23号住居跡①	36	第 82 图	5-75号住居跡出土遺物②	87
第 26 图	4-23号住居跡②	37	第 83 图	5-75号住居跡出土遺物③	88
第 27 图	4-23号住居跡③	38	第 84 图	5-76号住居跡	89
第 28 图	4-23号住居跡出土遺物①	38	第 85 图	5-76号住居跡出土遺物①	89
第 29 图	4-23号住居跡出土遺物②	39	第 86 图	5-76号住居跡出土遺物②	90
第 30 图	4-23号住居跡出土遺物③	40	第 87 图	5-76号住居跡出土遺物③	91
第 31 图	4-23号住居跡出土遺物④	41	第 88 图	5-77号住居跡①	92
第 32 图	4-23号住居跡出土遺物⑤	42	第 89 图	5-77号住居跡②	93
第 33 图	5-1号住居跡	43	第 90 图	5-77号住居跡③	94
第 34 图	5-1号住居跡出土遺物	43	第 91 图	5-77号住居跡出土遺物①	94
第 35 图	5-38・39号住居跡①	46	第 92 图	5-77号住居跡出土遺物②	95
第 36 图	5-38・39号住居跡②	47	第 93 图	5-77号住居跡出土遺物③	96
第 37 图	5-38・39号住居跡出土遺物①	47	第 94 图	5-77号住居跡出土遺物④	97
第 38 图	5-39号住居跡出土遺物②	48	第 95 图	5-78号住居跡	98
第 39 图	5-39号住居跡出土遺物③	49	第 96 图	5-78号住居跡出土遺物①	99
第 40 图	5-39号住居跡出土遺物④	50	第 97 图	5-78号住居跡出土遺物②	100
第 41 图	5-69号住居跡	52	第 98 图	5-78号住居跡出土遺物③	101
第 42 图	5-69号住居跡出土遺物①	53	第 99 图	5-78号住居跡出土遺物④	102
第 43 图	5-69号住居跡出土遺物②	54	第 100 图	5-78号住居跡出土遺物⑤	103
第 44 图	5-69号住居跡出土遺物③	55	第 101 图	5-78号住居跡出土遺物⑥	104
第 45 图	5-69号住居跡出土遺物④	56	第 102 图	5-79号住居跡	105
第 46 图	5-69号住居跡出土遺物⑤	57	第 103 图	5-79号住居跡出土遺物	105
第 47 图	5-70号住居跡①	57	第 104 图	5-80号住居跡	106
第 48 图	5-70号住居跡②	58	第 105 图	5-80号住居跡出土遺物①	106
第 49 图	5-70号住居跡③	59	第 106 图	5-80号住居跡出土遺物②	107
第 50 图	5-70号住居跡出土遺物①	59	第 107 图	5-81号住居跡①	108
第 51 图	5-70号住居跡出土遺物②	60	第 108 图	5-81号住居跡②	109
第 52 图	5-70号住居跡出土遺物③	61	第 109 图	5-81号住居跡出土遺物①	110
第 53 图	5-70号住居跡出土遺物④	62	第 110 图	5-81号住居跡出土遺物②	111
第 54 图	5-70号住居跡出土遺物⑤	63	第 111 图	5-82号住居跡	112
第 55 图	5-70号住居跡出土遺物⑥	64	第 112 图	5-82号住居跡出土遺物①	113
第 56 图	5-70号住居跡出土遺物⑦	65	第 113 图	5-82号住居跡出土遺物②	114
第 57 图	5-71号住居跡①	66	第 114 图	5-82号住居跡出土遺物③	115

第1158段	5-83号住居原1	116	第177段	5-93号住居跡出土遺物7	170
第1168段	5-83号住居原2	117	第178段	5-94号住居跡	171
第1178段	5-83号住居原3	118	第179段	5-94号住居跡出土遺物1	172
第1188段	5-83号住居跡出土遺物1	118	第180段	5-94号住居跡出土遺物2	173
第1198段	5-83号住居跡出土遺物2	119	第181段	5-94号住居跡出土遺物3	174
第1208段	5-83号住居跡出土遺物3	120	第182段	5-95号住居跡	175
第1218段	5-83号住居跡出土遺物4	121	第183段	5-95号住居跡出土遺物	176
第1228段	5-83号住居跡出土遺物5	122	第184段	5-96号住居跡	176
第1238段	5-83号住居跡出土遺物6	123	第185段	5-96号住居跡出土遺物	177
第1248段	5-83号住居跡出土遺物7	124	第186段	5-97号住居跡	178
第1258段	5-83号住居跡出土遺物8	125	第187段	5-97号住居跡出土遺物	179
第1268段	5-83号住居跡出土遺物9	126	第188段	5-98号住居跡1	179
第1278段	5-83号住居跡出土遺物10	127	第189段	5-98号住居跡2	180
第1288段	5-83号住居跡出土遺物11	128	第190段	5-98号住居跡3	181
第1298段	5-83号住居跡出土遺物12	129	第191段	5-98号住居跡出土遺物1	182
第1308段	5-83号住居跡出土遺物13	130	第192段	5-98号住居跡出土遺物2	183
第1318段	5-84号住居原1	131	第193段	5-99号住居跡1	184
第1328段	5-84号住居原2	132	第194段	5-99号住居跡2	185
第1338段	5-84号住居原3	133	第195段	5-99号住居跡出土遺物1	186
第1348段	5-84号住居跡出土遺物1	133	第196段	5-99号住居跡出土遺物2	187
第1358段	5-84号住居跡出土遺物2	134	第197段	5-99号住居跡出土遺物3	188
第1368段	5-84号住居跡出土遺物3	135	第198段	5-100号住居跡1	188
第1378段	5-85号住居原1	136	第199段	5-100号住居跡2	189
第1388段	5-85号住居原2	137	第200段	5-100号住居跡3	190
第1398段	5-85号住居跡出土遺物1	138	第201段	5-100号住居跡出土遺物1	190
第1408段	5-85号住居跡出土遺物2	139	第202段	5-100号住居跡出土遺物2	191
第1418段	5-86号住居跡	140	第203段	5-100号住居跡出土遺物3	192
第1428段	5-86号住居跡出土遺物	140	第204段	5-100号住居跡出土遺物4	193
第1438段	5-87号住居原1	141	第205段	5-100号住居跡出土遺物5	194
第1448段	5-87号住居原2	142	第206段	5-100号住居跡出土遺物6	195
第1458段	5-87号住居跡出土遺物1	142	第207段	5-101号住居跡1	196
第1468段	5-87号住居跡出土遺物2	143	第208段	5-101号住居跡2	197
第1478段	5-88号住居原1	144	第209段	5-101号住居跡出土遺物1	198
第1488段	5-88号住居原2	145	第210段	5-101号住居跡出土遺物2	199
第1498段	5-88号住居原3	146	第211段	5-101号住居跡出土遺物3	200
第1508段	5-88号住居跡出土遺物1	146	第212段	5-101号住居跡出土遺物4	201
第1518段	5-88号住居跡出土遺物2	147	第213段	5-102号住居跡	202
第1528段	5-88号住居跡出土遺物3	148	第214段	5-102号住居跡出土遺物	203
第1538段	5-88号住居跡出土遺物4	149	第215段	5-103号住居跡	204
第1548段	5-89号住居跡	149	第216段	5-103号住居跡出土遺物	205
第1558段	5-89号住居跡出土遺物	150	第217段	5-104号住居跡	206
第1568段	5-90号住居原1	151	第218段	5-104号住居跡出土遺物	207
第1578段	5-90号住居原2	152	第219段	5-105号住居跡1	208
第1588段	5-90号住居跡出土遺物1	152	第220段	5-105号住居跡2	209
第1598段	5-90号住居跡出土遺物2	153	第221段	5-105号住居跡出土遺物1	210
第1608段	5-91号住居跡	154	第222段	5-105号住居跡出土遺物2	211
第1618段	5-91号住居跡出土遺物	155	第223段	5-105号住居跡出土遺物3	212
第1628段	5-92号住居原1	156	第224段	5-106号住居跡・出土遺物	213
第1638段	5-92号住居原2	157	第225段	5-107号住居跡	214
第1648段	5-92号住居跡出土遺物1	158	第226段	5-107号住居跡出土遺物	215
第1658段	5-92号住居跡出土遺物2	159	第227段	5-108号住居跡	216
第1668段	5-92号住居跡出土遺物3	160	第228段	5-108号住居跡出土遺物	217
第1678段	5-92号住居跡出土遺物4	161	第229段	5-109号住居跡1	218
第1688段	5-93号住居原1	162	第230段	5-109号住居跡2	219
第1698段	5-93号住居跡出土遺物1	162	第231段	5-109号住居跡出土遺物1	220
第1708段	5-93号住居原2	163	第232段	5-109号住居跡出土遺物2	221
第1718段	5-93号住居原3	164	第233段	5-110号住居跡	222
第1728段	5-93号住居跡出土遺物1	165	第234段	5-110号住居跡出土遺物	222
第1738段	5-93号住居跡出土遺物2	166	第235段	5-111・112号住居跡1	224
第1748段	5-93号住居跡出土遺物3	167	第236段	5-111・112号住居跡2	225
第1758段	5-93号住居跡出土遺物4	168	第237段	5-111号住居跡出土遺物1	225
第1768段	5-93号住居跡出土遺物5	169	第238段	5-111号住居跡出土遺物2	226

第2395段	5-112号住居跡出土遺物1)	227	第301段	5-125号住居跡1)	282
第2405段	5-112号住居跡出土遺物2)	228	第302段	5-125号住居跡2)	283
第241段	5-113号住居跡1)	229	第303段	5-125号住居跡出土遺物1)	283
第242段	5-113号住居跡2)	230	第304段	5-125号住居跡出土遺物2)	284
第243段	5-113号住居跡3)	231	第305段	5-125号住居跡出土遺物3)	285
第244段	5-113号住居跡出土遺物1)	231	第306段	5-125号住居跡出土遺物4)	286
第245段	5-113号住居跡出土遺物2)	232	第307段	5-125号住居跡出土遺物5)	287
第246段	5-113号住居跡出土遺物3)	232	第308段	5-126号住居跡	287
第247段	5-113号住居跡出土遺物4)	234	第309段	5-126号住居跡出土遺物	288
第248段	5-113号住居跡出土遺物5)	235	第310段	5-127号住居跡	289
第249段	5-113号住居跡出土遺物6)	236	第311段	5-127号住居跡出土遺物1)	289
第250段	5-113号住居跡出土遺物7)	237	第312段	5-127号住居跡出土遺物2)	290
第251段	5-113号住居跡出土遺物8)	238	第313段	5-128・129号住居跡	290
第252段	5-114号住居跡	239	第314段	5-128号住居跡出土遺物	291
第253段	5-114号住居跡出土遺物	240	第315段	5-129号住居跡出土遺物	291
第254段	5-115号住居跡	241	第316段	5-130・133号住居跡	292
第255段	5-115号住居跡出土遺物	241	第317段	5-133号住居跡	293
第256段	5-116号住居跡	242	第318段	5-130号住居跡出土遺物	293
第257段	5-116号住居跡出土遺物	242	第319段	5-131・139号住居跡	294
第258段	5-117号住居跡	243	第320段	5-131号住居跡出土遺物1)	295
第259段	5-117号住居跡出土遺物	243	第321段	5-131号住居跡出土遺物2)	296
第260段	5-118号住居跡	244	第322段	5-132号住居跡	296
第261段	5-118号住居跡出土遺物1)	244	第323段	5-132号住居跡出土遺物1)	297
第262段	5-118号住居跡出土遺物2)	245	第324段	5-132号住居跡出土遺物2)	298
第263段	5-119号住居跡	246	第325段	5-133号住居跡出土遺物1)	299
第264段	5-119号住居跡出土遺物1)	246	第326段	5-133号住居跡出土遺物2)	300
第265段	5-119号住居跡出土遺物2)	247	第327段	5-134号住居跡	301
第266段	5-120号住居跡1)	248	第328段	5-134号住居跡出土遺物1)	301
第267段	5-120号住居跡2)	249	第329段	5-134号住居跡出土遺物2)	302
第268段	5-120号住居跡出土遺物1)	249	第330段	5-134号住居跡出土遺物3)	303
第269段	5-120号住居跡出土遺物2)	250	第331段	5-134号住居跡出土遺物4)	304
第270段	5-120号住居跡出土遺物3)	251	第332段	5-135号住居跡	305
第271段	5-120号住居跡出土遺物4)	252	第333段	5-135号住居跡出土遺物	306
第272段	5-121号住居跡	253	第334段	5-136号住居跡	307
第273段	5-121号住居跡出土遺物	253	第335段	5-136号住居跡出土遺物	307
第274段	5-122号住居跡	254	第336段	5-137号住居跡	307
第275段	5-122号住居跡出土遺物	255	第337段	5-137号住居跡出土遺物	307
第276段	5-123号住居跡	256	第338段	5-138号住居跡	308
第277段	5-123号住居跡出土遺物1)	257	第339段	5-138号住居跡出土遺物	309
第278段	5-123号住居跡出土遺物2)	258	第340段	5-139号住居跡出土遺物1)	309
第279段	5-123号住居跡出土遺物3)	259	第341段	5-139号住居跡出土遺物2)	310
第280段	5-124号住居跡1)	260	第342段	5-140号住居跡	310
第281段	5-124号住居跡2)	折込6	第343段	5-140号住居跡出土遺物	311
第282段	5-124号住居跡3)	263	第344段	5-141号住居跡	311
第283段	5-124号住居跡出土遺物1)	264	第345段	5-141号住居跡出土遺物	312
第284段	5-124号住居跡出土遺物2)	265	第346段	5-142号住居跡	313
第285段	5-124号住居跡出土遺物3)	266	第347段	5-142号住居跡出土遺物	313
第286段	5-124号住居跡出土遺物4)	267	第348段	5-144号住居跡	314
第287段	5-124号住居跡出土遺物5)	268	第349段	5-144号住居跡出土遺物1)	315
第288段	5-124号住居跡出土遺物6)	269	第350段	5-144号住居跡出土遺物2)	316
第289段	5-124号住居跡出土遺物7)	270	第351段	5-144号住居跡出土遺物3)	317
第290段	5-124号住居跡出土遺物8)	271	第352段	5-144号住居跡出土遺物4)	318
第291段	5-124号住居跡出土遺物9)	272	第353段	5-145号住居跡	319
第292段	5-124号住居跡出土遺物9B)	273	第354段	5-145号住居跡出土遺物	320
第293段	5-124号住居跡出土遺物10)	274	第355段	6-10号住居跡1)	321
第294段	5-124号住居跡出土遺物10B)	275	第356段	6-10号住居跡2)	322
第295段	5-124号住居跡出土遺物11)	276	第357段	6-10号住居跡出土遺物1)	323
第296段	5-124号住居跡出土遺物10A)	277	第358段	6-10号住居跡出土遺物2)	324
第297段	5-124号住居跡出土遺物12)	278	第359段	6-15号住居跡	324
第298段	5-124号住居跡出土遺物13)	279	第360段	6-15号住居跡出土遺物	325
第299段	5-124号住居跡出土遺物14)	280	第361段	6-16号住居跡1)	326
第300段	5-124号住居跡出土遺物15)	281	第362段	6-16号住居跡2)	327

第363段	6-16号住居跡出土遺物①	327	第425段	土坑出土遺物③	390
第364段	6-16号住居跡出土遺物②	328	第426段	土坑出土遺物④	391
第365段	6-16号住居跡出土遺物③	329	第427段	土坑出土遺物⑤	392
第366段	6-16号住居跡出土遺物④	330	第428段	土坑出土遺物⑥	393
第367段	6-16号住居跡出土遺物⑤	331	第429段	土坑出土遺物⑦	394
第368段	6-17号住居跡	332	第430段	土坑出土遺物⑧	395
第369段	6-17号住居跡出土遺物	332	第431段	土坑出土遺物⑨	396
第370段	5-6号獨立柱建物跡	334	第432段	土坑出土遺物⑩	397
第371段	5-7号獨立柱建物跡	335	第433段	土坑出土遺物⑪	398
第372段	5-1号焼土出土遺物	336	第434段	土坑出土遺物⑫	399
第373段	5-9-12号埋燬・5-11・12号炉	337	第435段	土坑出土遺物⑬	400
第374段	5-9-11号埋燬出土遺物	338	第436段	土坑出土遺物⑭	401
第375段	5-12号埋燬・5-11号炉出土遺物	339	第437段	土坑出土遺物⑮	402
第376段	配石・列石全体⑤・5-9号列石	340	第438段	土坑出土遺物⑯	403
第377段	5-441~445号配石	341	第439段	土坑出土遺物⑰	404
第378段	5-442~445号配石出土遺物	342	第440段	土坑出土遺物⑱	405
第379段	4-71・73・75~80号土坑	344	第441段	土坑出土遺物⑲	406
第380段	4-81・82・85・88~95号土坑	345	第442段	土坑出土遺物⑳	407
第381段	4-96~99・102・103・105号土坑	346	第443段	土坑出土遺物㉑	408
第382段	4-106~109号土坑	347	第444段	土坑出土遺物㉒	409
第383段	4-104・110~116号土坑	348	第445段	土坑出土遺物㉓	410
第384段	5-804・807~811号土坑	349	第446段	土坑出土遺物㉔	411
第385段	5-812~816・821・822号土坑	350	第447段	土坑出土遺物㉕	412
第386段	5-823~828号土坑	351	第448段	土坑出土遺物㉖	413
第387段	5-829~835号土坑	352	第449段	土坑出土遺物㉗	414
第388段	5-836~844号土坑	353	第450段	土坑出土遺物㉘	415
第389段	5-845~855号土坑	354	第451段	土坑出土遺物㉙	416
第390段	5-856~863号土坑	355	第452段	土坑出土遺物㉚	417
第391段	5-864~871・873号土坑	356	第453段	土坑出土遺物㉛	418
第392段	5-872・874~878・883号土坑	357	第454段	土坑出土遺物㉜	419
第393段	5-879~881・884~888号土坑	358	第455段	土坑出土遺物㉝	420
第394段	5-890~895号土坑	359	第456段	土坑出土遺物㉞	421
第395段	5-899・896~900号土坑	360	第457段	土坑出土遺物㉟	422
第396段	5-901~903・905・906号土坑	361	第458段	土坑出土遺物㊱	423
第397段	5-907~910・913~917号土坑	362	第459段	土坑出土遺物㊲	424
第398段	5-918~924号土坑	363	第460段	土坑出土遺物㊳	425
第399段	5-925~929・931号土坑	364	第461段	土坑出土遺物㊴	426
第400段	5-932~937号土坑	365	第462段	土坑出土遺物㊵	427
第401段	5-938~945号土坑	366	第463段	土坑出土遺物㊶	428
第402段	5-946~951号土坑	367	第464段	土坑出土遺物㊷	429
第403段	5-952~957号土坑	368	第465段	土坑出土遺物㊸	430
第404段	5-958~964号土坑	369	第466段	土坑出土遺物㊹	431
第405段	5-965~970・972・973号土坑	370	第467段	土坑出土遺物㊺	432
第406段	5-975~979号土坑	371	第468段	土坑出土遺物㊻	433
第407段	5-980・984~987号土坑	372	第469段	土坑出土遺物㊼	434
第408段	5-988~993・995号土坑	373	第470段	土坑出土遺物㊽	435
第409段	5-996~1001・1005・1006号土坑	374	第471段	土坑出土遺物㊾	436
第410段	5-1003・1004・1007~1013号土坑	375	第472段	土坑出土遺物㊿	437
第411段	5-1014~1022号土坑	376	第473段	土坑出土遺物①	438
第412段	5-1023~1031号土坑	377	第474段	土坑出土遺物②	439
第413段	5-1032・1034~1041・1043号土坑	378	第475段	土坑出土遺物③	440
第414段	5-1044~1052・1054号土坑	379	第476段	土坑出土遺物④	441
第415段	5-1055・1056・1058~1064号土坑	380	第477段	土坑出土遺物⑤	442
第416段	5-1065~1075・1077号土坑	381	第478段	土坑出土遺物⑥	443
第417段	5-1078~1080・1082~1087号土坑	382	第479段	土坑出土遺物⑦	444
第418段	5-1088~1096号土坑	383	第480段	土坑出土遺物⑧	445
第419段	5-1097~1104号土坑	384	第481段	土坑出土遺物⑨	446
第420段	5-1105・1107~1112・1114号土坑	385	第482段	土坑出土遺物⑩	447
第421段	6-181・197・204~209号土坑	386	第483段	土坑出土遺物⑪	448
第422段	6-210~214・15-1号土坑	387	第484段	土坑出土遺物⑫	449
第423段	土坑出土遺物①	388	第485段	土坑出土遺物⑬	450
第424段	土坑出土遺物②	389	第486段	土坑出土遺物⑭	451

第487図	土坑出土遺物⑧	452	第516図	5-68号住居跡(1)	590
第488図	土坑出土遺物⑨	453	第517図	5-68号住居跡(2)	591
第489図	4-47・90・91・5-259~265号ピット	454	第518図	5-68号住居跡出土遺物	591
第490図	5-267~284号ピット	455	第519図	4-1号竪立柱建物跡・出土遺物	593
第491図	遺構外出土土器(1)	460	第520図	4-2号竪立柱建物跡	594
第492図	遺構外出土土器(2)	461	第521図	4-3号竪穴状遺構・出土遺物	595
第493図	遺構外出土土器(3)	462	第522図	4-4号竪穴状遺構	596
第494図	遺構外出土土器(4)	463	第523図	4-5・6号竪穴状遺構(1)	597
第495図	遺構外出土土器(5)	464	第524図	4-5・6号竪穴状遺構(2)	598
第496図	遺構外出土土器(6)	465	第525図	4-5号竪穴状遺構出土遺物	599
第497図	遺構外出土土器(7)	466	第526図	4-3~8号焼土	600
第498図	遺構外出土土器(8)	467	第527図	4-9~11号焼土・出土遺物	601
第499図	遺構外出土土器(9)	468	第528図	4-83-84-86・100・101・5-803-805・806号土坑	602
第500図	遺構外出土土器(10)	469	第529図	5-817~820号土坑	603
第501図	遺構外出土土器(11)	470	第530図	土坑出土遺物	603
第502図	遺構外出土土器(12)	471	第531図	4・5区ヤックラ全体図	604
第503図	遺構外出土土器(13)	472	第532図	4-1号ヤックラ	605
第504図	遺構外出土土器(14)	473	第533図	4-2・3号ヤックラ	606
第505図	遺構外出土土器(15)	474	第534図	5-1号ヤックラ	607
第506図	遺構外出土土器(1)	476	第535図	ヤックラ出土遺物	607
第507図	遺構外出土土器(2)	477	第536図	遺構外出土遺物	608
第508図	遺構外出土土器(3)	478	第537図	住居時期別分布図	618
第509図	遺構外出土土器(4)	479	第538図	4-17号住居跡遺物出土土器	619
第510図	遺構外出土土器(5)	480	第539図	5-88号住居跡遺物出土土器	620
第511図	遺構外出土土器(6)	481	第540図	5-124号住居跡遺物出土土器	621
第512図	遺構外出土土器(7)	482	第541図	5-77号住居跡遺物出土土器	622
第513図	遺構外出土土器(8)	483	第542図	5区柱穴列	623
第514図	4-21号住居跡	589	第543図	石帯組成図	624
第515図	4-21号住居跡出土遺物	589	第544図	直線分布図	625

表 目 次

表1	周辺道路一覧表	8	表4	平安時代・中・近世遺物観察表	608
表2	土器観察表	484	表5	遺構一覧表(平成15年度)	610
表3	石器観察表	565			

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

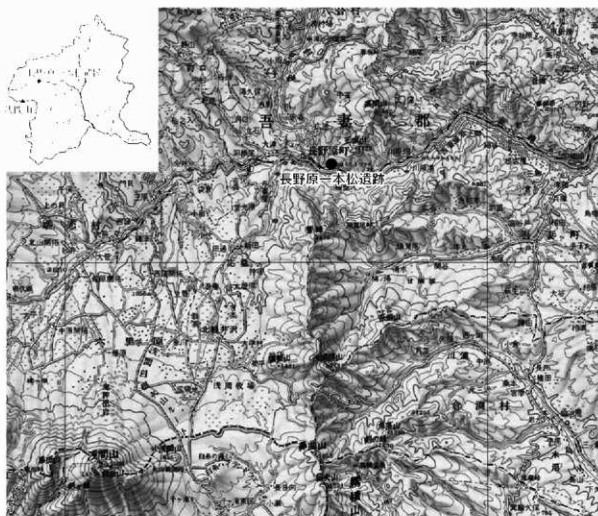
第1節 発掘調査に至る経緯

八場ダム建設に伴う発掘調査は平成6年度より開始され、長野原一本松遺跡では、長野原地区の代替地造成に伴う発掘調査として行われた。調査開始からちょうど10年目にあたる平成15年度は、代替地の北側部分を対象として調査を行った。代替地の北東部にあたる4区の北側部分から西に調査は進められ、5区の北側部分さらに6区の一部について調査を行った。調査面積は9,550㎡である。

4区では調査範囲の北及び東側には近・現代の集石遺構（ヤックラ）が存在していた。特に北側のヤックラは小山状に石が集められていた。これらのヤックラは現在の畑や山林の地境ともなっている。

調査区内北側部分は傾斜がやや強くなり、黒色土の厚さも比較的薄い状況を呈していた。区の南側には大きく開く谷が在り、遺構はこの谷を廻るように作られた状況が見られる。検出された遺構は縄文時代の住居跡7軒、平安時代1軒、土坑46基（数基の風倒木含む）、中世の掘立柱建物跡2棟、竪穴状遺構4基、その他焼土等である。

5区については調査区の南側から西にかけて多くの住居跡、土坑が検出された。切り合いも多く、堆積する黒色土も厚かった。検出した住居は縄文時代80軒、平安時代1軒、土坑311基である。6区については東側の一部を調査、住居跡4軒、土坑13基を検出した。



第1図 長野原一本松遺跡位置図

第2節 発掘調査の方法

長野原一本松遺跡の発掘調査は平成6年より開始され、調査にあたって調査区全体を覆う形でグリッド設定を行った。設定にあたっては、日本平面直角座標第IX系を使用し、1km方眼の大グリッド「地区」を設定しさらにこの中を100m方眼の中グリッド「区」に分けた。この区が調査区を表す名称として使用されている。

中グリッド「区」の中をさらに4m方眼で細分したものを最小グリッドとして使用している。このグリッドの呼称は、中グリッドの南東隅を起点とし、北方向に1・2・3……と数字を付し25まで、西方向へA・B・C……とYまで付した。こうして設定した最小グリッドの呼称は中グリッド「区」、小グリッドの南東交点（例えばA-1）を付け4m方眼名とした。

遺構番号は区毎に1から付し年度を超える場合でも、続き番号を使用している。このため年度をまたいで調査を行った遺構については同番号を用いている。

発掘調査の手順は調査対称区域を委託者側立ち会いの下で範囲および土物等の確認を行った。調査では、まず重機によって表土の除去を行い、遺構確認面を確定した。場所により2ないし3面調査が必要となる場合があり、特に谷地部分については黒色土の堆積状況により注意を要した。表土除去後遺構確認作業に入り、時期の新しい遺構から掘り下げを行った。また黒色土の堆積が厚く遺構の検出が難しい場所については、グリッド方眼を設定し、人力による掘り下げを行った。また遺物については極力出土位置に留めて掘削を行い、遺構等の確認ができない部分についてはグリッド毎に取り上げを行った。

確認された各遺構の調査は基本的に土層観察用のベルトを1ないし2本を設定し掘り下げた。この際遺物については原位置に留め、床面あるいは底面確認後土層観察を行い、写真、実測後ベルトの除去を行う。

ベルト除去後は遺物出土状態の観察、写真・実測を行い取り上げを行った。遺物取り上げ後は土坑等については底面の確認、精査を行い平面図、断面図、写真撮影を行う。また、住居については、床面の精査、柱穴、埋塞、炉の確認を行い、それぞれの断面図、平面図、写真撮影後掘り上げを行った。その後全体の写真、平面図、断面図を取り生活面の調査を終了する。最後に床面、炉、埋塞等の断り割りを行い、堀方面の調査、検出を行い、床下土坑、重複等の確認をし調査を終了する。

各遺構調査後は全体図の作成、写真撮影を行なった。なお、発掘調査は4月から12月までとし、凍結等により1～3月の間は行っていない。

ハッ場ダム関連遺跡の略称として調査開始時に協議を行い下記の略号を付すこととなった。

1. ハッ場ダムの略称 YD (Yanba-Dam)
2. 遺跡番号 長野原町の5地区に1～5までの番号を付し、それぞれの地区内における調査順に1から始まる連番を用いることとした。

1-川原畑地区、2-川原湯地区、3-横壁地区、4-林地地区、5-長野原地区である。ちなみに、長野原一本松遺跡はYD (ハッ場ダムの略称)、5 (長野原地区)、01 (地区内における1番目の調査遺跡) となり、YD 5-01が長野原一本松遺跡の略称となる。

調査時における取り上げ遺物のラベル、各図面には基本的にこの略称が付されている。但し、報告書作成時には基本的に遺跡略称は使用していない。

なお、住居、土坑等の遺構番号については100方眼の中グリッド「区」毎に、1から付番し、当該年度の調査では、前年度からの続き番号を使用している。

第3節 発掘調査の経過

平成15年度調査の経過

以下に4月からの調査経過を概述する。

4月

調査開始、一部前年度に表土を除去した部分より進め全面遺構確認作業開始。

昨年度に炉の存在を確認していた4-16住居の掘削を開始、他に土坑や包含層確認に入る。

4-71・72号土坑確認、風倒木の可能性。北西部分の谷地を確認調査、掘削、礫および土器の集中が見られる。トレンチにて下部の確認。4-16号住居跡の全体をほぼ検出、張り出し部を南に持つ敷石住居、張り出し部分は削平か、接合部に方形石組み遺構あり。4-16号住居跡の北側に4-3号竪穴状遺構確認、南壁に石積みあり、床面に炭化物、焼土が見られる。その他、近世と判断される焼土が点在。4-17号住居跡は主体部が方形を呈し南側に張り出しを有す。

敷石は僅かに点在する程度で床面に凹凸顕著。奥壁に平石を埋め込んだ立石および北西角に石樺が埋め込まれていた。調査は北側から南に進めて行った。中世と考えられる掘立柱建物が2棟検出された。(4-1号および2号)さらに竪穴状遺構が4基検出された、特に3号、5号は遺存状況が良く、焼失した状況が伺われた。

5月

4-17号住居跡に石組遺構確認、一部に地山礫を利用。4-3号竪穴の床面より円盤状鉄製品出土、紡錘車か。調査区の南東部において4-18号住居跡を確認、比較的大型の住居であるが、南側が削平されていた。住居北よりの床面に大型の土器が伏した状態で検出されている。

4-18号住居跡の西側に検出された4-19号住居跡は当初石が大量に投げ込まれた土坑と考えていたが、礫を取り除いた後に炉が検出されたことから住居に変更。

4-16号住居の掘方を行う中でほぼ真下に位置する4-20号住居跡を確認したが遺存状況は悪かった。

4-1・2号ヤックラ断ち割り、全景写真。

土坑調査出土遺物少なく時期不明なものも多い。区の西側谷地において平安住居(4-21号)を検出したものの、状態は極めて悪く、全容は不明。

6月

4区に続き西側5区の調査を進める。北東側は遺構が遺構はまばらで僅かに平安時代の住居(5-68号)が検出されたのみであった。このため黒色土の残る部分について、トレンチ調査で遺構確認を行ったが遺構は確認されなかった。

4区と5区にかけて土坑が点在して検出された。いわゆる陥し穴の他に長円形で礫が多量に詰まった近世以降と考えられる土坑が見られた。

7月

さらに東へ調査を進めて行く中で、遺物が多く出土しはじめる。4区との境部分である谷地において縄文の住居を確認、さらに南側平成11年度の調査区に接する部分において数軒の重複する住居を確認した。

また、4区において検出した4-5号竪穴状遺構は多くの炭化材、種実、焼土が検出され茶臼や筒状の刷製品が出土した。5区の南側において5-38・39号住居跡の調査、本住居は一部平成11年度に調査を実施している。4区の調査がほぼ終了となり高所作業車による全景写真。

第1章 長野原一本松遺跡の発掘調査

8月

調査の中心を5区に移す。調査区の南側にほぼ東西に走る水道管に沿って住居が並ぶように検出された。多くの住居が重複するなかにおいて5-77号住居跡（敷石住居）は状態が良好であった。主体部は全面に石が敷かれ、南に延びた張り出し部にも比較的大きな石が並んで検出された。西側に検出された5-92・93・113号住居跡は重複し、多量の土器および石器が出土している。さらに西側には10軒以上の住居跡が重複して作られていたために、調査は困難を強いられた。また土坑も多く検出されており、整理を進める中で2棟の孤立柱建物（5-A・B号）を認定するに至った。

遺構の集中部分から北側に僅かに離れるだけで住居はもうろんのこと、土坑の検出もほとんど見られなくなった。

9月

5区西側部分の調査、5-83号住居跡確認、後期的大型住居、張り出し部は平成8年度に配石として調査されている。多量の土器、石器を出土。周辺部に5-94・96号住居跡を検出したがいずれも、削られており残りが悪い。北側の遺構集中部において多くの土坑を確認、いずれも住居を切って掘り込まれている。

5-39号住居跡の東側に重複した5-74号住居跡（敷石住居）を確認、張り出し部には扇形の敷石が見られる。主体部は東西に走る水道管敷設溝により大きく壊されている。

10月

住居の広がりにはさらに調査区の北西側に広がっていたが、薄くなっている。逆に南西側は住居および土坑が極めて重複して構築された状況で、各遺構の状況は極めて悪かった。そうした状況の中5-83号および5-124号住居跡は大型の柄鏡形住居で東西に約30m程離れて位置するが形状が似ており時期もほぼ同時期と考えられ注目される。

住居の密集度合いは西側6区に入り途切れる状況を示す。6-10号住居跡は敷石住居であるが主体部にほとんど石は見られず。炉から南側張り出し部に向かって石が検出されている。

本年度の調査は東から4・5・6区と進めてきたが、住居跡の分布状況からちょうど環状集落域の北側弧状部分の調査であったと考えられる。時間的には中期後半から後期前半の住居や土坑が確認されたわけであるが、一本松遺跡を理解する上でかなり重要な部分が明らかになったものと考えられる。

11月

5区南西部の最も遺構集中部の調査に入る。黒色土中より多くの遺物が出土するが、遺構の範囲が確定しがたい。著しい重複のため、極めて困難な状況が続く、検出した住居は北側の遺存状況は比較的良かったものの、南側に関しては多くの土坑の重複が見られることから削平が著しい。

僅かに検出した住居の並びを見ると明らかに弧状を為している状況であった。5-124号住居跡を確認、大型の柄鏡形住居、掘り込み深く礎や遺物も多く出土。周囲は自然礎多く、また他の住居、土坑が多く重複する。大型の礎が弧状に並んだ5-9号列石を確認、5-124号住居跡と関連か。

12月

5-124号住居の調査に集中する。下面の調査に入り遺物の量も多く覆土中に多量の礎が見られたことなどから調査はなかなか進まない状況であった。検出した炉は浅い落ち込みと埋設土器を伴う。さらに、本址の掘方を行う中でさらに古い5-145号住居跡も検出された。張り出し部の下位に検出した土坑の中に大きな礎を検出した。調査終盤の12月後半に大雪が降り、大変な状況下ながら、何とか12月最終週をもって平成15年度の調査を終了した。

第2章 地理的及び歴史的環境

第1節 地理的環境

長野一本松道跡が所在する吾妻郡長野原町は、関東地方の北西奥部、群馬県吾妻郡域の南西部に広がる町である。町の北部を吾妻川が東流し、川の左岸を国道145号線が走る。この国道は渋川市で新潟に続く国道17号と分岐し、吾妻川に沿って長野原町に入り大津で草津と嬶恋方面に別れる。古くは草津道として川の右岸側を通過していた。

道跡に立って周囲を臨むと南には川を隔てて須賀尾峠、丸岩を、遙か北西方向には草津白根山、南西には浅間山が位置している。いずれも現在も活発に活動している日本でも有数の活火山として知られている。

町の北部を流れる吾妻川は、長野県境の鳥居峠付近に源を発して東に流れ、町域のほぼ中央で川幅をやや広くし、東端では第3紀層を深く刻んで紅葉の名所として知られる吾妻渓谷を形成し、さらに東に流れ渋川市付近で利根川に合流している。この吾妻川には両側に迫る山地から流れ下る多くの支流が見られる。

長野一本松道跡が載る台地は、吾妻川左岸の河岸段丘上で、左岸側にあっては比較的平坦で開けた場所でもある。

道跡地の地形は北側の山から傾斜する台地がやや南傾斜を持つ舌状地形を為し、東西および南側が谷地形となっており、下位段丘面には現在JRの長野原草津口駅、長野原町立東中学校等が、やはり比較的平坦な舌状地形となっている。吾妻川はこの台地の南を大きく迂回する形で流れている。

道跡地内の地形をさらに詳細に見ると、集落の中心部分が位置する場所の標高は635m前後である、この集落のある舌状台地は南への張り出しに比して横幅を有す、東にもやや狭いながら同様の地形が見られるが、遺構の広がりはほとんど見られない。さらに東側には、この台地の東縁を区切る「とちのき沢」が谷を作り吾妻川に流れ込んでいる。この沢を隔てた東側が幸神道跡である。

また、この付近は道跡地の南側がかなり急崖であるのに対し、西側については平坦部分こそ幅狭となつてはいるが、比較的緩やかな傾斜をもって続いており、現在でも道跡地に入る道路はこの場所を通過している。

道跡の西側約500mには、六合村方面から流れ下る白砂川が吾妻川に合流しており、流れ込む支流としては大きな河川の一つである。

第2節 歴史的環境

長野原町における道跡調査の先駆けは昭和29年に行われた勘場木道跡が揚げられる。「勘場木石器時代住居跡」として県指定史跡となっている。その後、昭和30年代後半から40年代にかけて分布調査が行われ、昭和53年には川原畑地区に所在する石畑岩陰道跡が鉄道工事に伴い調査が行われている。昭和62年からは八ツ場ダム建設に関する埋蔵文化財詳細分布調査が、県および町教育委員会によって行われ、183カ所の遺跡(包蔵地)が報告されている。

また、昭和63年の櫛(くぬぎ)Ⅱ遺跡の調査をはじめとし、多くの発掘調査が町教育委員会によって行われている。平成6年からは、当事業団による八ツ場ダム建設に伴う発掘調査が開始され、本道跡を始め、対岸の横壁中村遺跡、久々戸遺跡、林檎木遺跡、中棚遺跡等々新たな遺跡の調査が実施され、縄文時代から近世にかけての調査が行われ現在に至っている。

以下、長野原一本松遺跡周辺における時代毎の主な遺跡を概観しておきたい。一覧表のNoは地図の遺跡番号と一致する。なお、遺跡分布図上の細線は遺跡の範囲を、太線で囲まれた部分は各調査年次毎の調査区を示している。

旧石器時代

長野原町においては旧石器時代の遺物は現在のところ出土していない。

縄文時代

長野原一本松遺跡の南側を東流する吾妻川は、ハッ場地区を南北に分ける大きな自然的要因であったと考えられる。本遺跡を含め両岸の上下段丘上、さらには川に注ぐ沢筋に面した場所に多くの遺跡が所在する。

先述したように草創期、早期の遺物に関しては近年の調査で発見が相次ぐようになってきた。林檎木II遺跡・立馬II遺跡等で草創期後半の燃糸文土器や早期の押型文土器などが出土している。また岩陰遺跡等も知られ、石畑岩陰遺跡などで多縄文系の土器が出土している。これらの遺跡では早期末から前期初頭の繊維土器なども見られる。右岸側の遺跡では現在のところ草創期、早期の遺跡はほとんど見られない。

前期については早期末から続く遺跡として林檎木II・立馬I・III遺跡・三平遺跡において早期末の繊維土器、前期初頭から後半にかけての花積下層式、関山式、諸磯式土器等が出土している。

中期になると遺跡は拡大し、両岸の比較的大きな地を求めて居住するようになる。初頭から前半にかけての遺跡は林檎木II、立馬I・II遺跡で中期初頭の住居、土坑が検出されている。中葉から後半になると遺跡数、遺構数は増え、本遺跡と横壁中村遺跡は吾妻川を隔てて対峙する大集落を形成するようになる。

この時期のその他の遺跡としては、左岸では上ノ平遺跡が、右岸には横壁中村遺跡の上流に接して位置する山根I、III遺跡があるもののその規模は前述した2遺跡に比すれば小規模である。なお、上ノ平遺跡では中期中葉の住居がまとめて検出されている。

後期については、長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡で引き続き集落の継続が見られ、林中原・同原I・IV遺跡で住居等が見られる。さらに、平成20年度に調査が行われた川原湯石川原遺跡において縄文・後期の住居の他、配石墓、列石遺構等が検出された。晩期については長野原一本松遺跡ではほとんど見られないが、横壁中村遺跡では多くの遺物が見られる。左岸では下原遺跡、立馬遺跡で、右岸では久々戸遺跡、下原遺跡で少量の土器が出土、川原湯勝沼遺跡では晩期末から弥生前期に比定される再葬墓が検出されている。

弥生時代の遺跡は少ないものの、前期の遺物は川原湯勝沼遺跡で見られ、中期については横壁中村遺跡、立馬II遺跡等で出土しており、今後その数は増えてゆくものと考えられる。

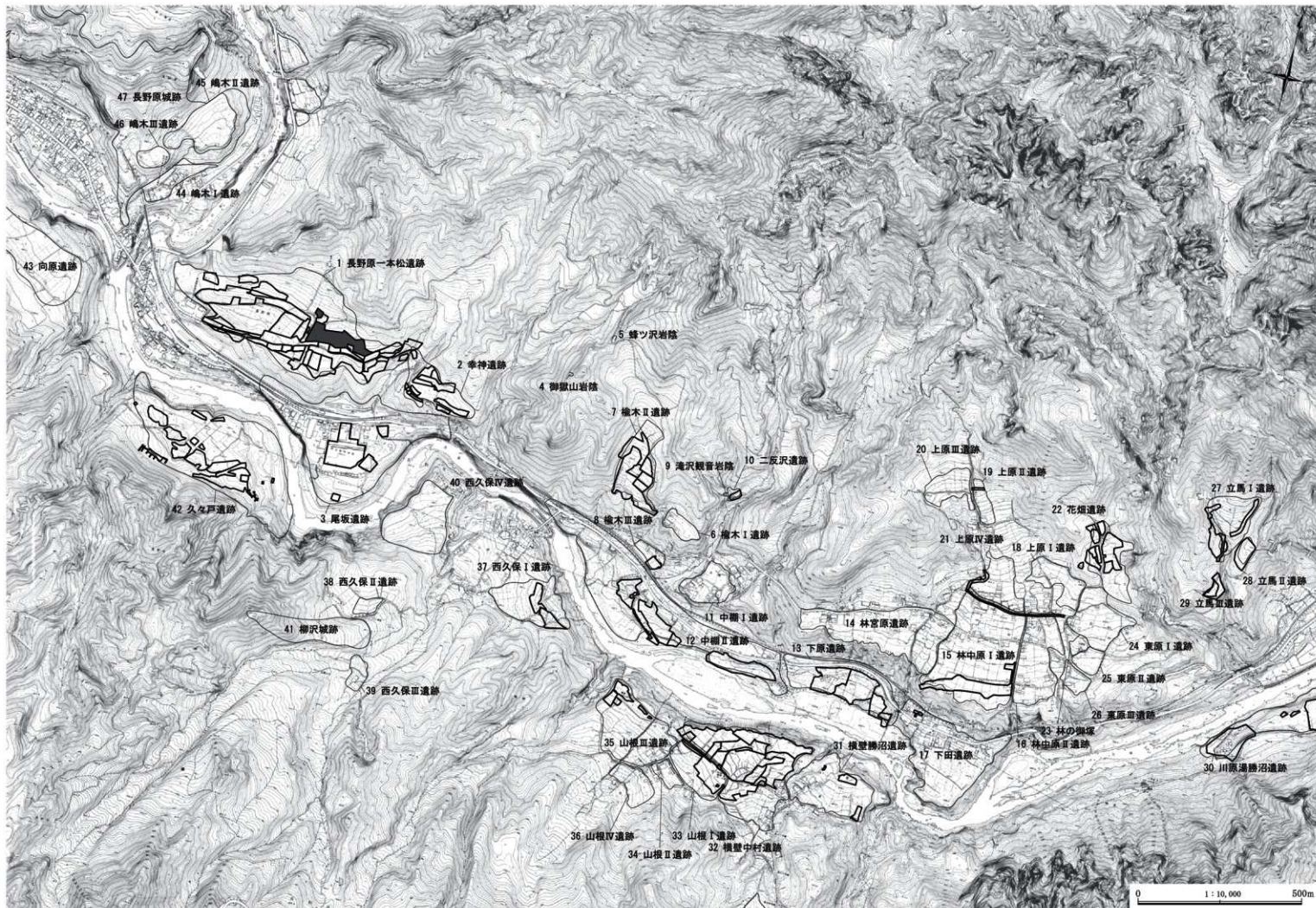
古墳時代についてはこれまで明確な遺構が確認されていなかったが、下原遺跡、林中原遺跡で中期の住居跡が発見され注目される。古墳に関しては現在のところ確認はされていない。

奈良・平安時代の遺跡は長野原一本松、檜木II、花畑、立馬、三平、川原湯勝沼、横壁中村遺跡等で住居が検出されている。時期は9世紀後半から10世紀を中心としている。この時期の遺構の調査数は近年増しており、沢治の奥まった場所にも集落が点在することが確認されている。

中世に関しては長野原一本松・横壁中村・中標II遺跡等で遺構・遺物が検出されている。周辺に見られる城郭跡としては、林城、西に白砂川を隔てて長野原城が位置し、川を挟んだ南には柳沢城が位置している。

近世の遺跡は両岸の下位段丘において久々戸、尾坂、中棚、下原、川原湯勝沼遺跡等において天明三年の浅間山噴火に伴う泥流下の建物や畑が検出されている。中でも平成19年度に調査が開始された川原湯東宮遺跡では、泥流に埋没した大型の建物跡が検出され、多くの木製品や金属製品が出土し注目された。

・参考文献 長野原町教育委員会 1990「長野原町の遺跡—町内遺跡詳細分布調査報告書—」



第3図 周辺の遺跡

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 基本層序

長野原一本松遺跡は、吾妻川の左岸に形成された河岸段丘上に立地する。この段丘は浅間山起源の「応桑泥流」堆積物を吾妻川が浸食して形成されたものと考えられており、この堆積物が本遺跡の基盤層をなしている。

「応桑泥流」下には泥流発生直前に降下したとされる、As-BP（浅間一板鼻褐色軽石）およそBP1,800～20,000が、さらに下位には始良火山灰（AT、BP25,000）層の存在が想定される。また、「応桑泥流」上層ローム中に観察される浅間山給源の軽石層は、浅間一白系軽石（As-SP、BP18,000）、浅間一板鼻黄色軽石（As-YP、BP13,000～14,000）、浅間一草津黄色軽石（As-YPK、BP10,500～11,500）の軽石層が認められている。

本遺跡内で肉眼的に観察されるのは、As-YPKである。基本層序ではⅧ-1からⅧ-3層にあたる。このAs-YPK層中、Ⅷ-2層はほぼ純粋で発泡も良好（10mm～50mm）な軽石層で、1～2mの厚さで見られる。

Ⅵ（ローム層）上位は、黒褐色ないしは黒色土で台地上部分では4ないしは5層に分けられる。

Ⅰ層は表土層で、現耕作地部ではおよそ20～30cm、山林その他の場所では30cm前後である。下のⅡ層は部分的にAs-A（浅間一A軽石、天明三（1783年）降下）の混入が認められるⅡ-1と、Ⅱ-1を基調とするも、比較的安定したAs-Aをほとんど含まないⅡ-2とに分層される。そして、このⅡ-2層上層において灰褐色を呈すAs-Kk（浅間一船川テフラ、1128年）の堆積も、極めて部分的にはあるが確認されている。また、As-B（浅間B軽石、天仁元（1108年））およびAs-C（浅間C軽石、4世紀初頭）の存在も示唆されているが、現在のところ確認されていない。さらにAs-D（浅間D軽石、およそBP4,000）についても今後慎重に見てゆく必要がある。

Ⅲ層は小軽石粒がわずかに含まれる黒色土で、かなり軟質である。このⅢ層において確認される遺構として陥し穴がある、平面形が楕円形を呈し底面が長方形を呈すロート状の穴で、覆土は軟質な土で埋まっている。ⅡおよびⅢ層は、台地上ではほぼ均一な堆積状況を示すが、谷部分においては急激に厚さを増すことが確認できる。本書中の95区の谷地部がその好例である。また、対照的に3区については谷地に向かう斜面部であるが、急傾斜地ということもあり、Ⅰ層表土下にⅡおよびⅢ層がほとんど認められないという状況であった。地形その他自然の作用による変化が看取される。

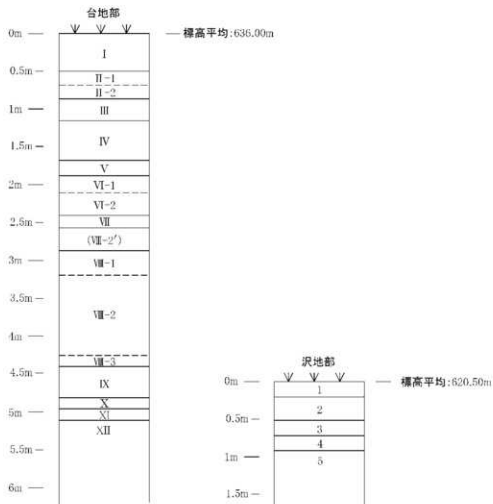
Ⅳ層は白色および黄色軽石を含む黒褐色土で、やや大粒の軽石なども混入する、本層は主に縄文時代の遺構検出面であるが、黒味が強く場所によっては極めて検出が困難であった。このため明確な検出面として、Ⅴ層まで下げなければならない場面も多々であった。

Ⅴ層はいわゆるローム漸移層で若干の軽石粒を含む比較的安定した層として認識される。色調は明るい黒褐色土で、比較的締まりがある。

以下Ⅵ層はローム層でⅥ-1（ソフトローム）、Ⅵ-2（ハードローム）に大別される。長野原一本松遺跡で検出されたほとんどの遺構構築面でもある。

平成15年度の調査対象地である4・5・6区については、東西に長く北側が高く南に傾斜を持つ地形で、4区と5区かかる部分が、南に下がる谷地の谷頭にあたり、かなり厚く黒色土の堆積を認めた、さらに上から流れ落ちてきたと思われる礫なども多く含まれている。

第3章 検出された遺構と遺物



第4図 基本層序

基本層序

台地部

- I 層 埋土 赤土を流入する埋土。
色調やや赤色がかる。As-Aを多量混入し、I層に類似するが硬く、均質でない。
- II-1層 暗褐色土 色調やや赤色がかる。シルト質土をブロック状に混入するが、他の混入物を殆ど含まない。土粒子が揃って、サラサラする。
- II-2層 赤褐色土 色調やや赤色がかる。シルト質土をブロック状に混入するが、他の混入物を殆ど含まない。粗粒が少なく、軟質。
- III層 赤褐色土 赤色や黄色などの小粒石を少量混入する。他は、具体的に混入物を殆ど含まない。粗粒が少なく、軟質。
- IV層 赤褐色土 赤色や黄色などを帯する粒径約1~5mm前後の小粒石を多量混入する。層の上・下位で混入物の量に差が著される部分がある。
- V層 暗褐色土 コーム層移行。粒径を徐々に減少させる。(一部にIV層との層間的な層も含む。)
- VI層 黄褐色ローム (VI-1層):ソフトローム (VI-2層):ハードローム
- VII層 黄褐色砂質土 粒径約1~3mm前後の小粒石による砂質土。硬化しており、ブロック状の層間部分も散見される。(VIII-2'層 As-YTK。部々の二次堆積層。台地部の特定範囲で確認される。)
- VIII層 As-YTK (VIII-1層) 赤褐色・黄褐色土・赤土などの塊(石)に分離される。断片に作りもので、硬化しているアッシュ。
(VIII-2層) 灰質・赤褐色土層。風化などにより、色調が赤褐色になる部分がある。粒径は概ね約10~30mm前後の層が著される。
- (VIII-3層) 赤褐色土層。赤土などの塊(石)に分離される。断片に作りもので、硬化しているアッシュ。
- IX層 黄褐色ローム 土質を主体に、砂質土を多量混入する。
- X層 黄褐色ローム 色調やや赤色がかる。As-BIと見られる石と小片を少量混入する。
- XI層 黄褐色ローム 赤褐色土層の埋土。赤褐色土を多量混入する。

沢地部

- 1層 暗褐色土 色調やや赤色がかる。埋土。
硬さを多量混入する。I層は、台地部の埋土に類似する。
- 2層 赤褐色土 埋土を多量混入する。I層は、台地部の埋土に類似する。
- 3層 赤褐色土 埋土を多量混入する。I層は、台地部の埋土に類似する。
- 4層 埋土 埋土を多量混入する。I層は、台地部の埋土に類似する。
- 5層 砂質土 埋土を多量混入する。I層は、台地部の埋土に類似する。

第2節 遺構・遺物の概要

発掘調査は第5図に示すように、東西に細長い形で、地形的にもやや違いが見られ、遺構の密集度にも大きな差が認められる。

それぞれの調査区を遺跡地内における地形から見ると、4区の東側部分は北側の傾斜がかなりきつく、高低差がかなりある。傾斜のある部分においては、表土、黒色土は薄く、地山は大小の礫を多く含んでいる。区の中央部分では北からやや西に弧を描くようにあまり深くは無いが埋没谷の存在が認められた。

黒色土の上層からは遺物の出土はあるが、下位にはほとんど認められなかった。遺構もこの黒色土を切って構築されていた。

5区は最も広く調査された区で南に向かう緩斜面であるが比較的であった。遺構は南側に集中しており、東西に長く連続と検出された、特に南西部分では遺構の集中が顕著であった。

6区についてはちょうど遺構の切れる場所にあたり、検出数も少なかった。以下、検出された遺構および遺物について、それぞれの時代毎にその概要を記す。

旧石器時代

各調査区において試掘調査を実施したが、遺物は検出されなかった。

縄文時代

本遺跡において主体的な遺構の時期である。検出された遺構数は、住居跡が91軒で、この内3軒(5-1・38・39号、6-17号住居跡)が複数年度に調査がまたがっている。その他、掘立柱建物2棟、単独の埋壘3基、炉3基、配石4基、土坑350基、ピット等を検出した。

住居跡は5区を中心とした緩やかに南に傾斜する場所に多く広がる様相を呈す。平6～14年度にかけて調査を行った環状集落の北側部分にあたると思われる。住居は東西方向への連続性を伺わせている他、4区及び5区の北西部分は点在する状況を示している。4区の住居跡は中期後半～末葉で2軒の敷石住居も検出されている。また、5区では遺構集中部の住居は中期後半に比定されるものが多く、さらに後期の住居が重複するという様相を呈している。

住居の規模を見ると中期後半では径6m前後の比較的大型のものと、径3m前後の小型のものに大別される。それぞれは同様の分布域を有し、重複している者も多い。また、その数はほぼ同数である。

敷石住居は中期末と思われるものが4区で検出されている。南に向かう傾斜地に張り出し部を持つ形状で、いずれも、張り出し部と主体部の間に方形石組み遺構を有す。

さらに後期Ⅱ内式1期の敷石住居は5区に2軒と6区に1軒が確認された。その他、敷石住居跡と思われるものもあるが、敷石の状況が不明瞭であった。

後期の住居は敷石住居を除くとあまり良好なものは少なかった。そうした中において、5-83号・124号住居は大型の椀形住居で掘り込みも比較的深く良好な状況で検出された。規模は主体部の径は8mを越え、長さも約11mを有す。規模、形状が似ており、時期もほぼ同時期と思われる。約30m離れて位置している。

住居集中部においては、多くの土坑も検出されている。また、M-O-17・18グリッドに位置する2棟の掘立柱建物跡は注目される。調査時には確認できなかったが整理を行う中で認定に至った。1棟は8本柱穴の亀甲形、もう1棟は8本の円(八角)形である。柱穴は深さ形ともに1m前後である。時期は後期と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物

土坑は中期、後期のものが主体であるが、遺構集中部のものは後期が中心と見られる。また、柱痕などが見られるものもあり、掘立柱建物と考えられるものも存在している。

その他の遺構としては埋壘、炉が見られる。埋壘は4基を検出した、9号、12号はそれぞれ住居と接して検出されたことから関連が窺えるが、レベルや埋土の違いなどから単独の埋壘とした。

その他、列石や配石が検出されているが、南に検出されている1～4号列石（長野原一本松遺跡2002）と関連するものと判断される。ピットについてはほとんど遺物が見られないこともあり、時期が未確定なものが多いが、形状、掘り込み共に不明瞭なものが目立ち極めて新しくなる可能性が高い。

なお、今回の調査で検出された陥し穴に関しては、重複関係から明らかに住居よりも新しくなり、埋土も縄文時代の遺構とは異なっている。出土遺物においても、時期を確定できるようなものが見られず、現時点では時代の判断が難しい。平安時代あるいは中世にまで下る可能性もある。

弥生時代

遺構については検出されなかった。

古墳時代

遺構・遺物は検出されなかった。

奈良・平安時代

4区および5区において2軒の住居跡が検出されている。4-21号住居跡は4区の西端、南に開く谷部に位置する。遺存状況は悪く、東壁に付いたカマドの残骸と僅かにのこる壁を確認したのみである。出土遺物もほとんど見られなかった。5-68号住居跡は5区の北東部に単独で位置し、北東角に石組のカマドを有し羽釜や坏などが出土している。いずれも時期は11世紀前半か。その他には、この時期と判断される土坑などは確認できなかった。

中世

4区において2棟の掘立柱建物跡を検出、4-1号掘立柱建物は東西方向の梁に庇を有す構造か、立て替えが行われた可能性が高い。柱穴の1つより治平元寶が出土している。また、4-2号掘立柱建物は2間×2間である。いずれの建物内にもそれぞれ4-5号焼土、4-11号焼土が建物内に位置しており、開伊裏等の可能性も考えられる。さらに、4区においては4基の竪穴状遺構が検出されている。4-3号竪穴状遺構は南壁に石垣を有す。また4-5号竪穴状遺構は6号を切って構築され、大量の炭化材、焼土が検出されている。出土遺物は割られた茶臼、磁器、鉢、筒状の銅製品などが出土している。

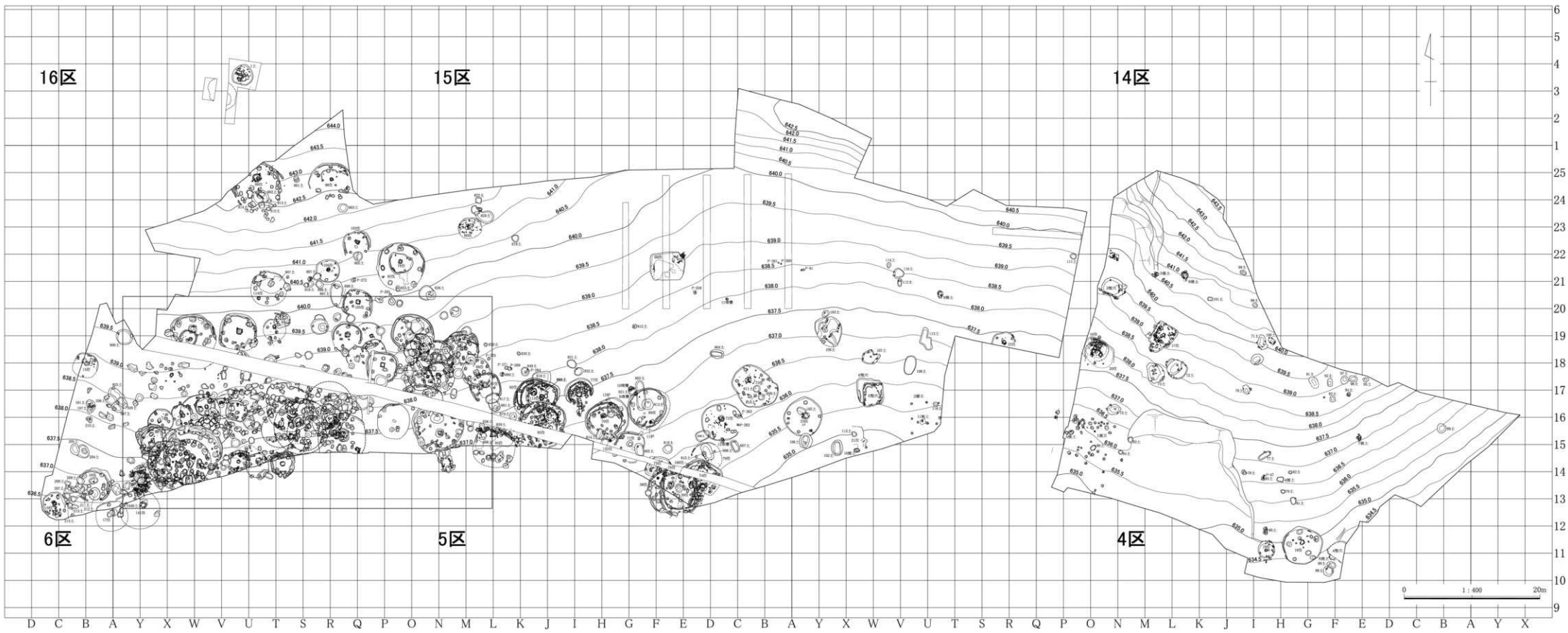
近世

建物跡などの遺構は検出されていない。土坑については近世あるいは近・現代に属すと思われる掘り込みが見られるが時期の確定されたものは少ない。

その他4区において焼土遺構が10基ほど検出されている。円形を基調とする不定形に広がる焼土に礫を伴うものも見られる。前述した掘立柱建物に付属する可能性のあるものも見られるが、多くは近世以降の所産と考えられる。4-9号より煙管吸い口が出土している。いわゆるヤックラ（集石遺構）が4区、5区において見られた。畑の開墾時や耕作時に出てきた石を地境に帯状に積み上げたもので、下部には比較的大型の石を置き、上にはやや小振りな石が積まれている。

最初に構築されたのは江戸期に遡る可能性もあるが、明確な時期は特定できない。

遺構外の遺物としては若干の陶磁器片の他、鉄製品としては火打ち金が2点出土している。また寛永通宝も2点出土している。



第5图 4・5・6区全体图



第6図 5区遺構集中部

第3節 縄文時代の遺構と遺物

1. 住居跡

平成15年度の調査において検出された縄文時代の住居跡は総数91軒である。各区毎の内訳は4区7軒、5区80軒、6区4軒となる。このうち5-1号・38・39号および6-10号住居跡はそれぞれ平成7年、平成11年、13年度の調査において南側ないしは西側の約半分の調査を行っている。また、6-15号住居跡については平成13年度にやはり西側の半分ほど調査を行い、当初土坑としてしていたが、今次の調査でほぼ中央に炉が検出されたことから住居とした。

今回の調査では東から4・5・6区部分の北側が対象とされ、その南側はすでに調査が終了した部分となる。このため前述のように複数年にわたり調査された遺構も多く見られる。住居の他にも土坑や配石、列石なども例外ではない。

住居の時期は中期後半から後期前半に比定され、その分布を見ると4区については北側の傾斜部に2軒の敷石住居が検出されている。いずれも本遺跡における敷石住居としては比較的古くに位置づけられよう。

4-17号住居跡は奥壁寄りに板状の立石を設け、さらに北西コーナーに石棒を埋め込んで立石としている。この他4区南東側において2軒の住居が検出された。4-18号住居跡は大型で隣接する4-19号住居跡は小型の住居である。

5区については東西に長い調査区の南側に集中して検出されている。調査面積が最も広く検出した遺構数も多い。検出した住居の分布状況は弧状を呈し、環状集落の北側部分であることがわかる。遺構の重複は著しく、中期後半に環状に構築された住居群の上に後期の住居、土坑が重なって構築されている。

このため多くの住居は遺存状況が悪く、全容を把握できなかったものも多い。規模は後期の柄鏡形を呈す5-83・124号住居跡が径8mを越える他、6m前後、3m前後のものに大別される。炉は中期後半のものは方形に石を組む石囲い炉を基本とし、やや不定型な自然礫を円形ないしは楕円形に配すようである。後期のものは焼土を伴う浅い落ち込みみに埋裏を据えた埋裏炉などが見られる。やや特殊な例として土器片を楕円形に立て並べた土器囲い炉(5-113号住居跡)などが注目される。この他、5-88号住居の石囲い炉の角には石棒が埋め込まれていた。

後期の敷石住居跡は5-77・74、6-10号などが挙げられる、5-77号住居跡は円形の主体部を持ち南に1列の敷石が延び、脇には大きな石が据えられていた。床面には大型土器が伏された状態で出土しており、注口土器や蓋型土器などが見られた。またミニチュアの石棒も出土している。

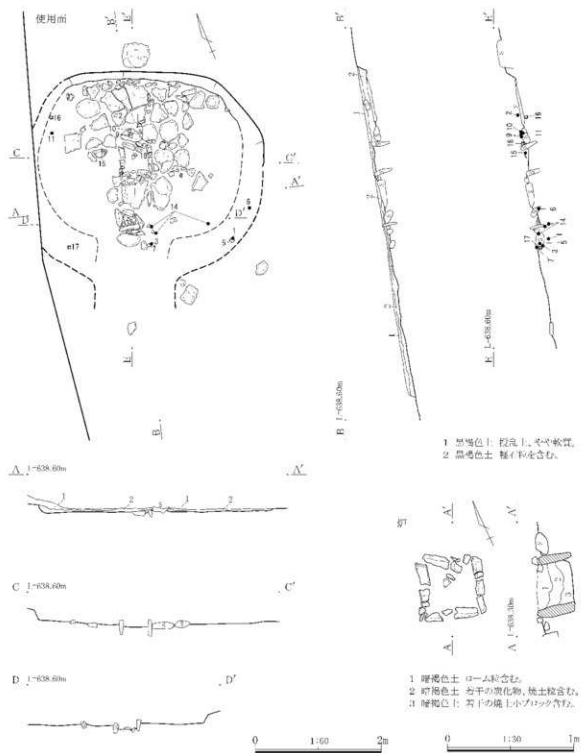
4-16号住居跡 (第7・8図:PL3・4・112)

位置 N・O-18グリッドに位置する。重複 4-20号住居跡上の西に僅かにずれて重複する。

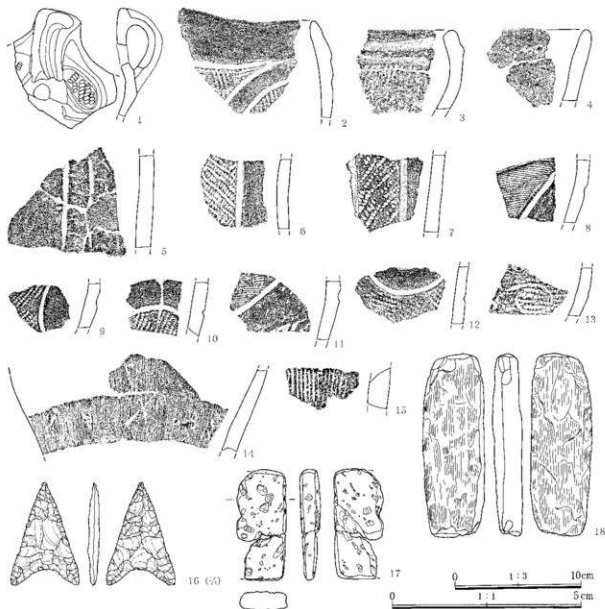
形状 主体部は隅丸方形を呈し、南側に張り出し部が付く柄鏡形敷石住居と考えられるが、南側半分は削平されており判然としない。規模 (420)×(370)×15cmである。方位 N-23°E

床面 炉の周囲から北側奥にかけて扇形に敷石が残る、住居は南斜面部に構築されており、床面はやや南に傾斜を持つ。炉の手前側にやや崩れた形ではあったが、礫を四角に組んだ石組み遺構が検出されている。石組み遺構の底部には平石が敷かれていた。内部には焼土などは認められなかった。

炉 主体部はほぼ中央に位置、板状の石を四角に組んだ石組炉である。規模は一辺約50cmである。炉石は被熱によりひび割れが顕著である。柱穴 確認できなかった。埋裏 検出されなかった。



第7図 4-16号住居跡



第8図 4-16号住居跡出土遺物

掘方 下部に4-20号住居跡が存在したために、掘方は不明瞭である。重複後の北西部分についても掘り込みは極めて浅い。

出土遺物 床面および炉の周辺部において若干の土器片、石器が見られた。石器は石鏃の他、長方形で板状の軽石製品が出土している。

時期・所見 南に傾斜を持つ斜面部に構築されており、張り出し部側が低くなっている。最奥部と張り出し部とでは床面で約30cmの高低差が見られる。炉および石組み遺構の北側の石が、いずれも南側に押されたように倒れ込んでおり、北側から何らかの物理的な力が作用したことが想像される。時期は出土土器から称名寺1式期と見られる。

4-17号住居跡 (第9~13図: PL 4・5・112・113)

位置 K・L-18・19グリッドに位置する。 **重複** なし

形状 主体部ほぼ方形の柄鏡形敷石住居跡である。 **規模** 460×324×60cm。 **方位** N-40°-E

床面 入り口部から炉を通る、主軸線上の奥壁近くに平石が立てられていた。地面より上の部分は高さ15cm、幅約25cm、厚さは約5cmで表面は平滑に磨った痕跡が認められた。埋め込まれた部分は約25cmで、石の両面には押さえに用いられたと思われる小礫が埋められていた。さらに、住居の北西角には、長さ20cmの石棒が約3分の1を地上に出した状態で埋め込まれていた。敷石は住居の西側に認められたものの部分的である。炉の手前には石組み遺構が構築されている、長さ30cm程の川原石、平石で方形を意識しているものと思われるが、東側は地山の大型礫を利用している。また、この石組みの手前左脇には径30cm程の丸石が据えられた状態で出土している。

炉 主体部のほぼ中央に作られている。自然礫を四角に組んでいたものと考えられるが、西側の礫は抜き取られたと思われ、確認されなかった。それぞれの炉石は被熱によりひび割れが顕著で、手前側の石は一部炉の中に落ち込んだ状態で出土していた。炉内からは土器片が出土している。 **柱穴** 主体部の壁に沿って7本を検出した。奥壁に3本、手前両角の各1本が主柱穴と見られる。径はいずれも20~30cmの円ないしは長円形で、深さは25~40cmである。 **埋嚢** 検出されなかった。

掘方 床下の土坑等は見られず、いわゆる対ピットも確認されなかった。また主体部壁下に周溝が確認され、奥壁下では2重に廻らされている。

出土遺物 土器はあまり多くなく、深鉢の口縁部片等が出土している。炉および床面近くより若干出土した。石器類は埋め込まれた石棒、石皿の他に石鏃、磨石、打製石斧等が見られた。

時期・所見 本住居跡は地山中に極めて大きな礫が含まれている場所に構築されており、住居の床および壁面に露出した状態で残されていた。敷石も炉の周囲にはほとんど見られず、壁側にかなりまばらな状況で認められた。石が敷かれた面についても凹凸が顕著であった。時期は出土土器等から、加曽利E 4式期と思われる。

4-18号住居跡 (第14~18図: PL 5・6・113・114)

位置 F・G-10・11 **重複** 無し **形状** ほぼ円形を呈す。 **規模** 597×561×52cm。

方位 N-9°-W

床面 北および西側は比較的硬く締まった面を検出したが、南側、東側については攪乱を受けていると思われる、明確な床面は確認できなかった。一部にロームを用いた貼り床を認めたが極めて部分的で、あまり締まりは無かった。 **炉** 中央の北寄りに作られている。規模は1辺約50cmである。やや細長い礫を方形に組んだ石囲い炉であるが、東側の炉石は割られた石皿の転用である。また、炉の南西角には多孔石が据えられていた。炉の底部には炉体土器の破片が出土している。

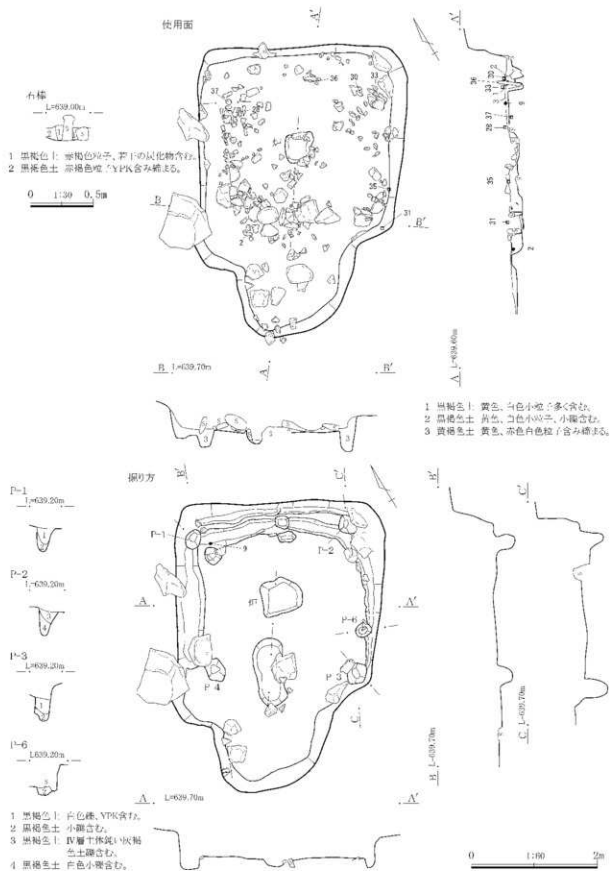
柱穴 壁際に沿って5本を検出した。径約50~80cmで、円ないしは長円形を呈し、深さは50~70cmである。

埋嚢 住居のほぼ中央に小型の深鉢胴部が検出されている。

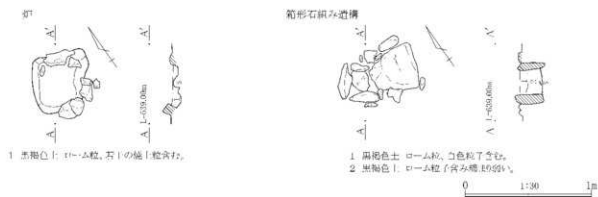
掘方 炉の南に近接して土坑が検出されている。片部分に礫が部分的に残ることや、若干の焼土が見られた事などから炉と思われる、建て替え前の炉と考えられる。

出土遺物 北西部に底部を欠いた大型の深鉢1が逆位で床に置かれた状態で出土している。その他、波状口縁を呈す深鉢などが見られ、炉の周囲に集中して出土している。石器類は小形の磨製石斧および大形の石皿

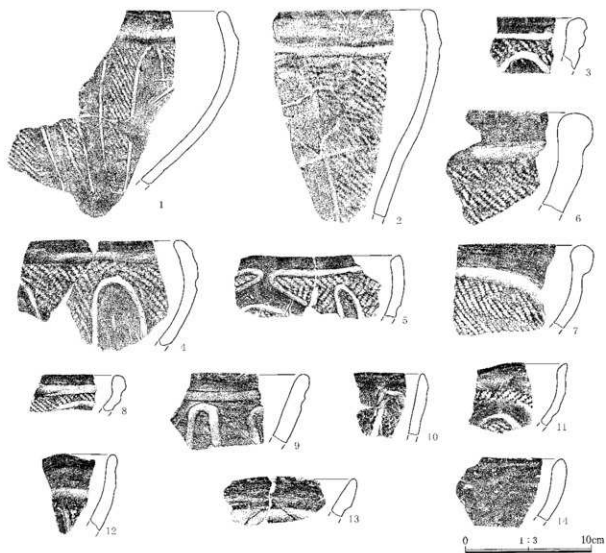
第3章 検出された遺構と遺物



第9図 4-17号住居跡(1)

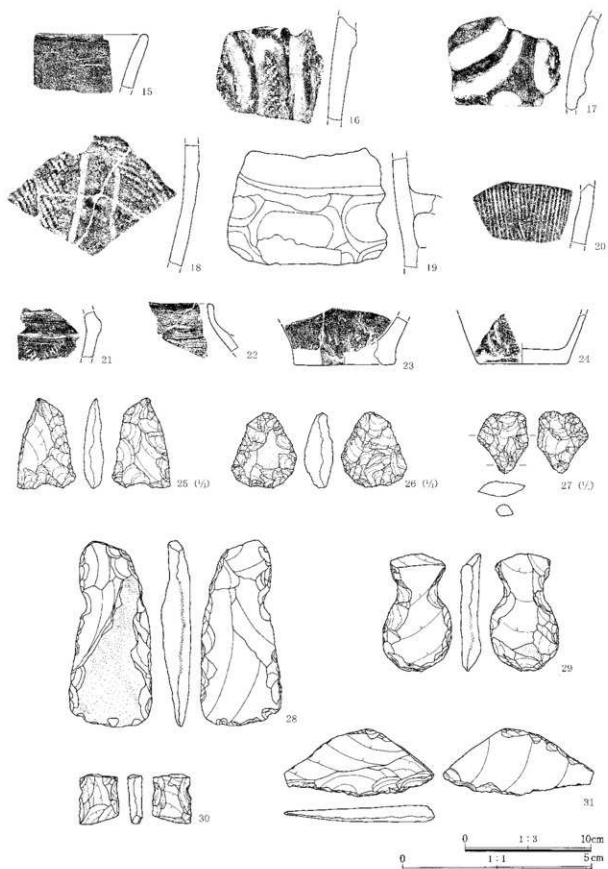


第10図 4-17号住居跡(2)

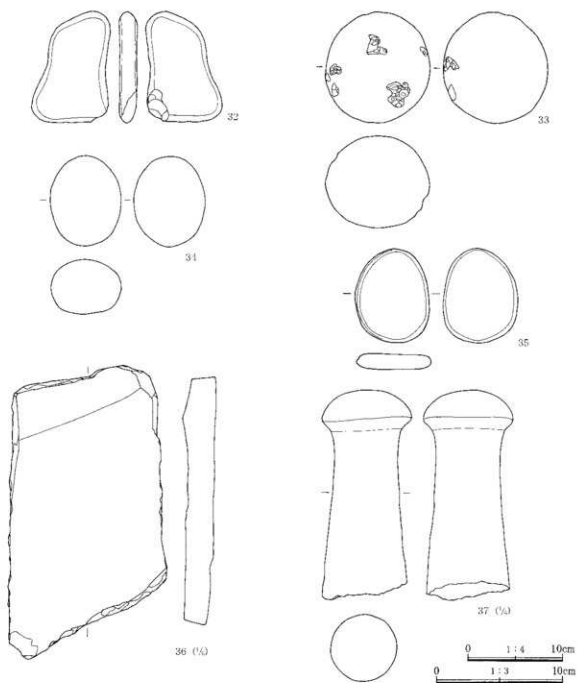


第11図 4-17号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第12図 4-17号住居跡出土遺物(2)

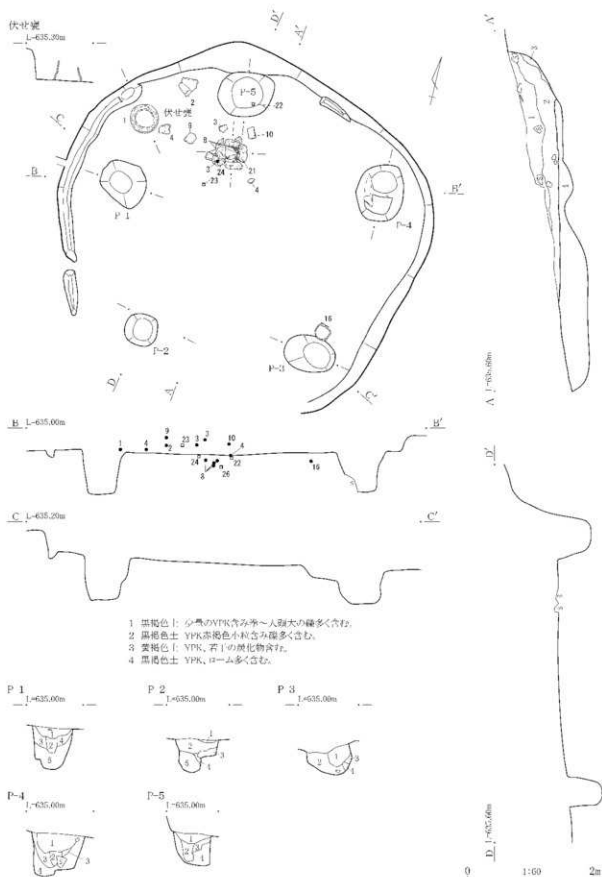


第13図 4-17号住居跡出土遺物(3)

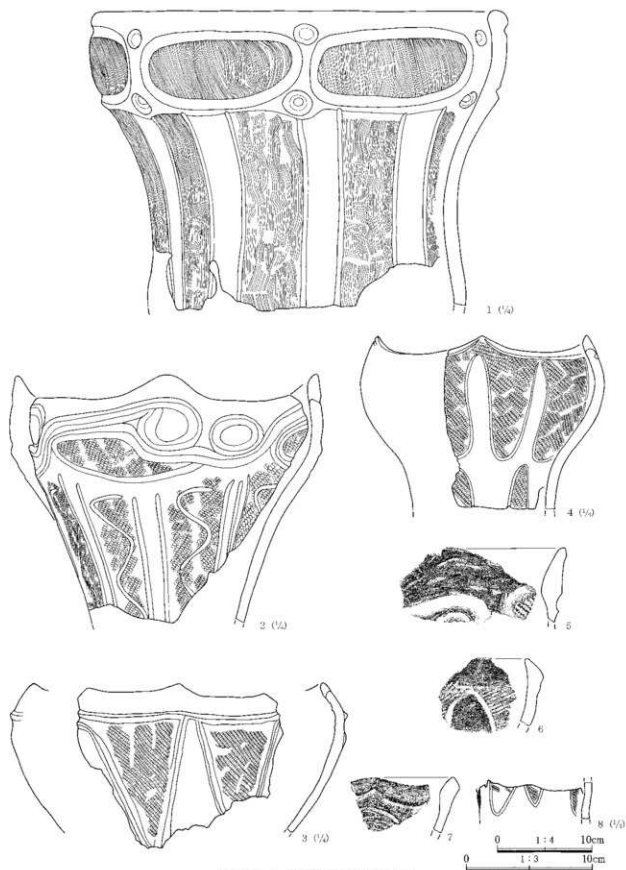
や多孔石2点が出土している。

時期・所見 古い炉が検出されていることから、建て替え住居と思われる。壁は北側は明瞭に確認できたが、南側は表土からの攪乱が床面にまで及んでいたために検出されなかった。時期は出土土器から建て替え後の加曾利E3式末と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物

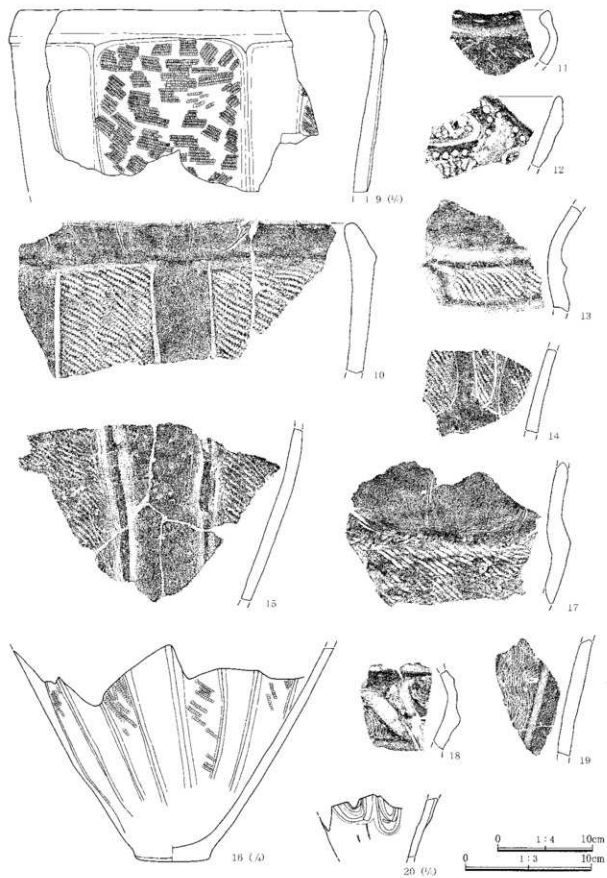


第14図 4-18号住居跡(1)



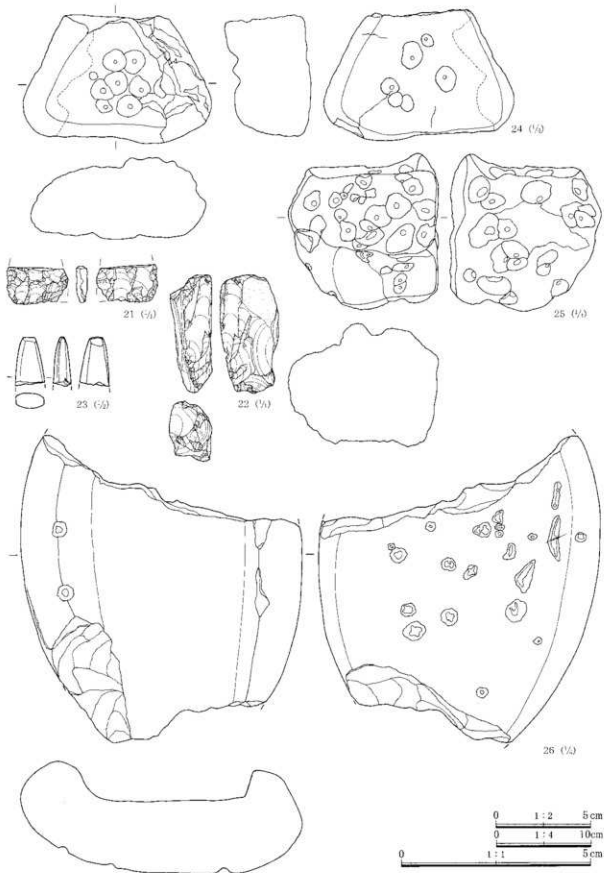
第16図 4-18号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第17図 4-18号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第18図 4-18号住居跡出土遺物(3)

4-19号住居跡 (第19・20図: PL 6・7・114)

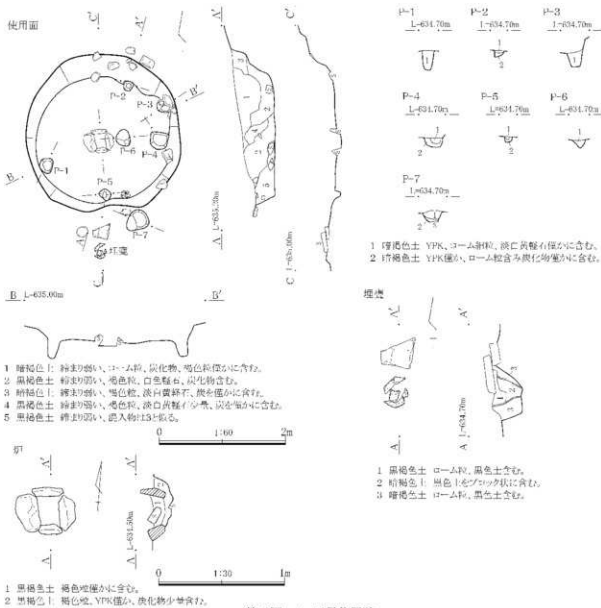
位置 H-10・11グリッドに位置する。重複 無し 形状 柄鏡形か。

規模 (325)×245×35cm。方位 N-2°-W 床面 やや凹凸が見られるが全体的には平坦で貼り床等の痕跡は見られず。地山が露出した状況であった。全体的に炉に向かって僅かに下がっている。

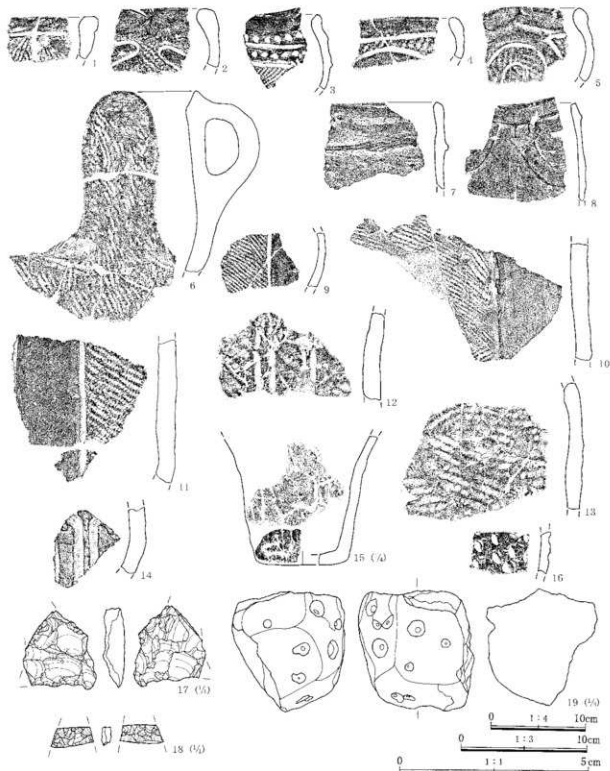
炉 中央に作られている。4個の石を組んだ石囲い炉である。東西の石は厚みを持った自然産であるが、南北には平たい石を用いている。炉内には炉体土器あり、極めて脆弱であったために復元できず。三十稲場式の破片出土。柱穴 壁に沿って5本を検出、北西部にも存在していたものと思われるが検出されなかった。深さは15~20cmと比較的浅い。埋壁 張り出し部に深鉢胴部が埋設された状態で検出された。

掘方 床下土坑等は検出されなかった。出土遺物 炉体土器(復元できず)、若干の土器片出土。

時期・所見 覆土中に拳大から人頭大の礫が投げ込まれた状態で出土。当初小形の円形住居と思われたが、南側に平石および埋壁が検出され、柄鏡形敷石住居の可能性もある。後期初頭(称名寺1式期)と思われる。



第3章 検出された遺構と遺物



第20図 4-19号住居跡出土遺物

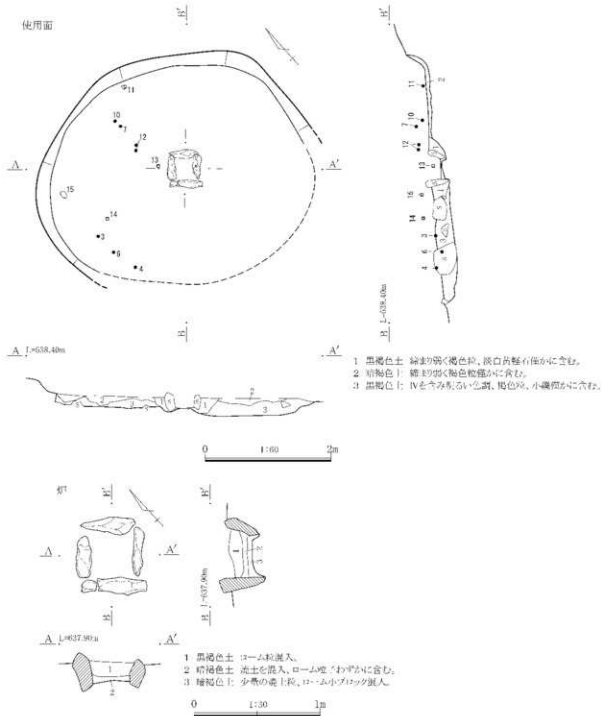
4-20号住居跡 (第21・22図:P 7・L115)

位置 N-17・18 重複 4-16号住居跡が重複、重なる状況で本址を切る。形状 円形
規模 425×(371)×29cm。方位 N-42-E 床面 貼り床などは確認できなかった。地山を掘り込んだ面をそのまま床としている。地山の礫が所々露出し凹凸が顕著で、柱穴も確認できなかった。

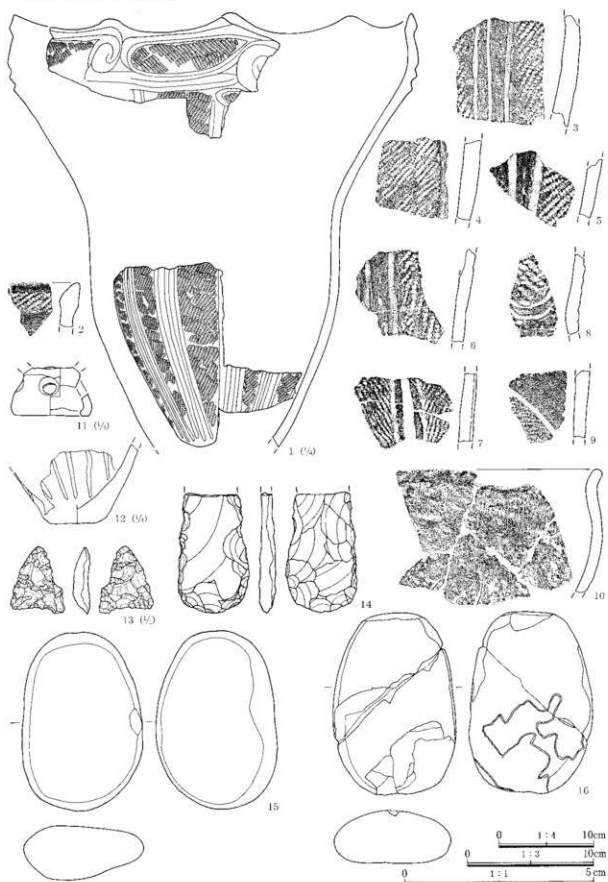
炉 ほぼ中央に作られている。やや扁平な礎を四角に組んでいる。規模は60×50cmである。

柱穴 検出できなかった。**埋嚢** 検出されなかった。**掘方** 土坑、ピット等の検出は無く、露出した地山中には礎が多く見られた。**出土遺物** 点数は少なく、破片が点在したに過ぎない。

時期・所見 西側半分以上が4-16号住居跡の下に入っている状態で、レベル差はあまり無い。南側は削平されており、壁の立ち上がりは確認できなかった。時期は出土土器から加曾利E3式期(古)と思われる。



第21図 4-20号住居跡



第22図 4-20号住居跡出土遺物

4-22号住居跡 (第23・24図: PL 8・115)

位置 Q・R-14・15グリッドに位置する。重複 無し、南側半分は次年度調査。

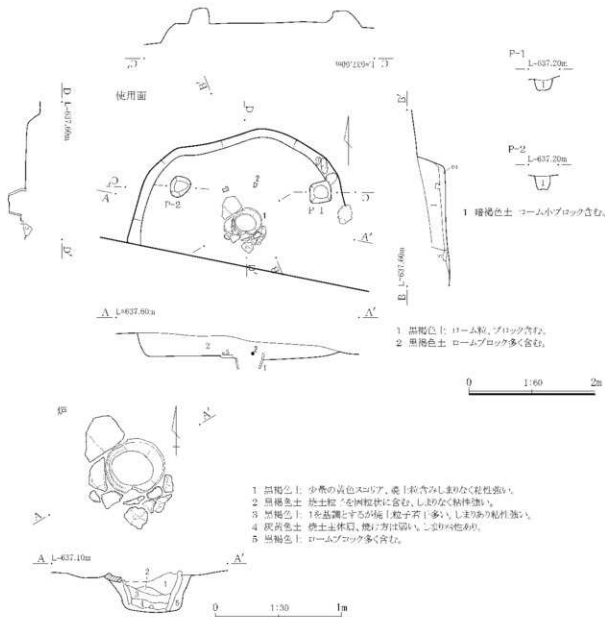
形状 円形 規模 (350)×226×33cm。方位 ー 床面 ほぼ平坦であるがやや軟質。

炉 10個程の石で囲われた埋炭炉である。深鉢の胴上半部を埋め込み炉としている。土器の埋土中には若干の炭化物が見られたが、焼土はほとんど確認されなかった。柱穴 北壁下に2本を検出。

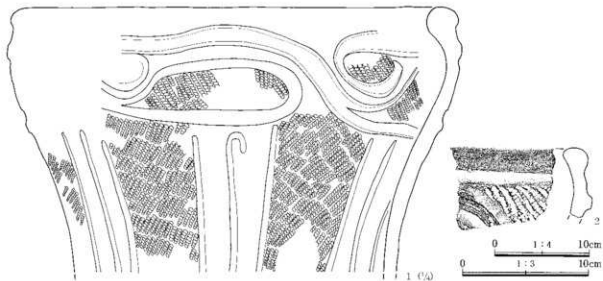
埋炭 確認されなかった。掘方 床下の掘り込み等は確認されなかった。

出土遺物 炉に転用されていた大形土器以外にはほとんど見られず。

時期・所見 南側は未調査である。本遺跡においては極めて少ない埋炭炉である。時期は加曾利E3式期。



第23図 4-22号住居跡



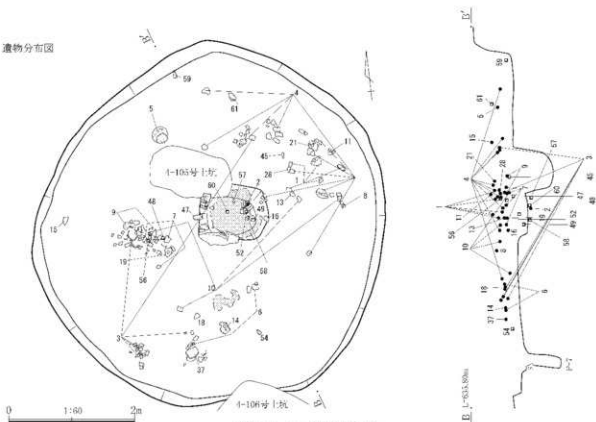
第24図 4-22号住居跡出土遺物

4-23号住居跡 (第25~32図: PL 8・9・115~117)

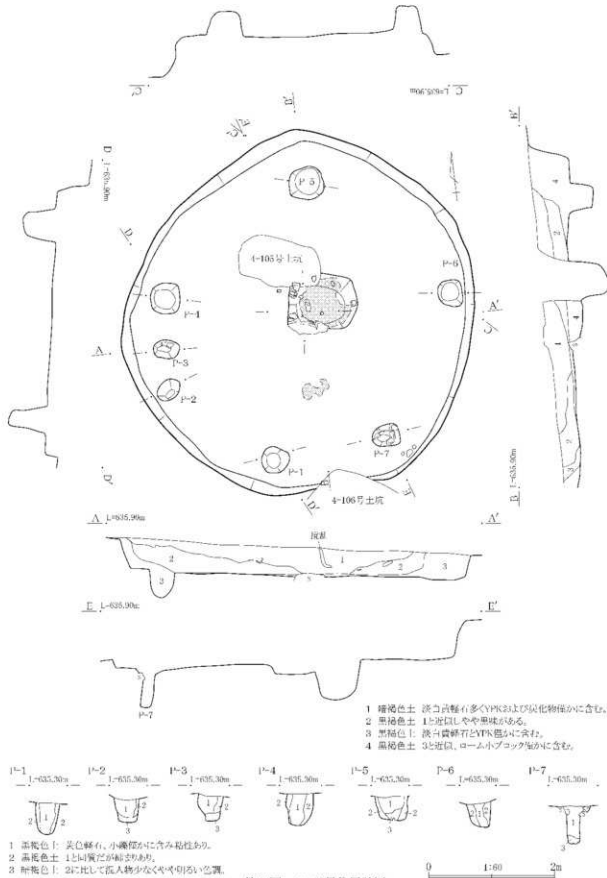
位置 Y-15・16グリッドに位置する。 **重複** 住居内に5-105号土坑が南端に5-106号土坑が重複、いずれも本址より新しいものである。 **形状** ほぼ円形を呈す。 **規模** 578×562×45cmである。

方位 N-5°-E **床面** 掘り込みが黒色土中で終わっており、ロームを用いた貼り床や硬化面なども見られなかったことから、明確な生活面は確認できなかった。 **炉** やや大形の礫を用いた石囲い炉である

遺物分布図



第25図 4-23号住居跡(1)

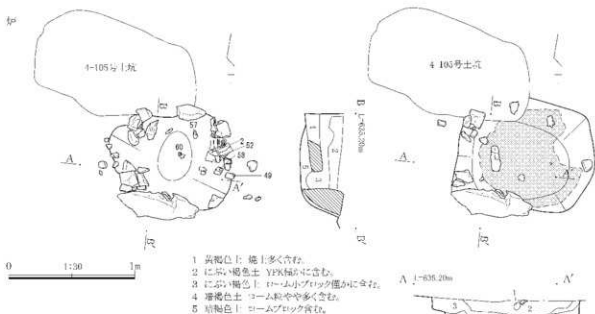


第3章 検出された遺構と遺物

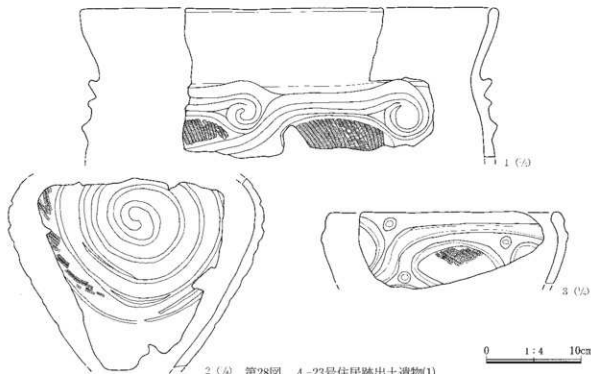
が、南側に大きな石が残っていたが他はほとんど抜き取られたものと判断される。割れた残骸が散在していた。また焼土が2層検出されていることから、作り替えが行われたものと見られる。柱穴 壁に沿って計7本を検出した。埋壘 検出されなかった。掘方 床下土坑等は検出されなかった。

出土遺物 土器、石器等が見られたが、いずれも覆土上層からのものが多かった。

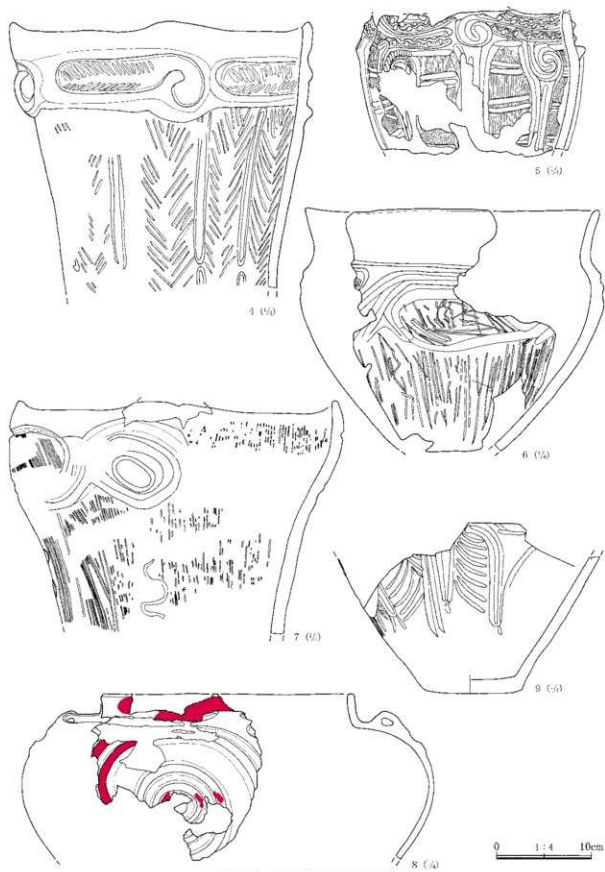
時期・所見 やや谷地部の黒色土中に作られていたために、壁、床面等に関してはやや明確でない部分がある。時期は炉内出土土器から中期末、加曾利E4式期と考えられる。



第27図 4-23号住居跡(3)



第28図 4-23号住居跡出土遺物(1)

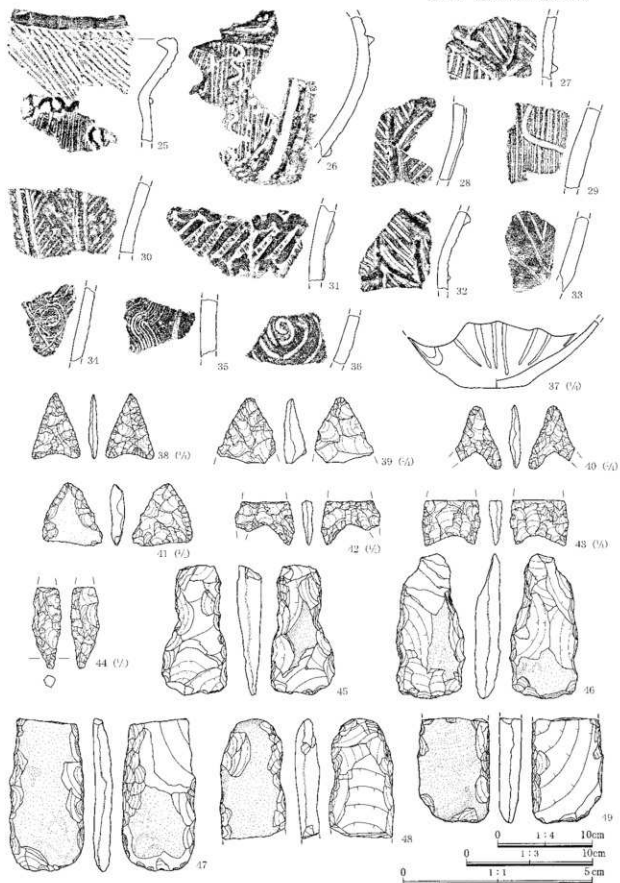


第29図 4-23号住居跡出土遺物(2)

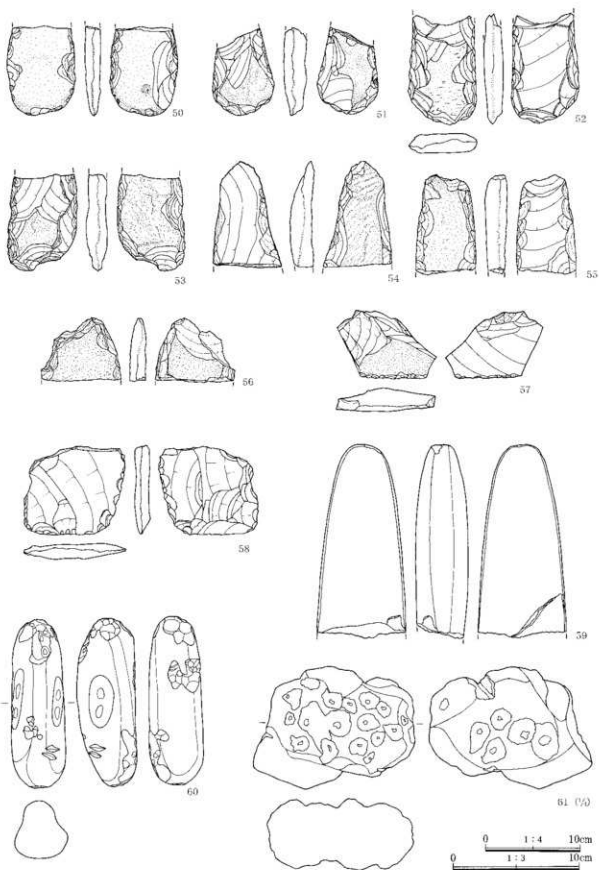


第30図 4-23号住居跡出土遺物(3)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第31図 4-23号住居跡出土遺物(4)



第32図 4-23号住居跡出土遺物(5)

5-1号住居跡 (第33・34図: PL 9・117)

位置 S・T-13・14グリッドに位置する。 **重複** 上面に5号列石が構築される。

形状 やや南北に長い楕円形を呈す。 **規模** 390×360×40cm。 **方位** N-0°

床面 ローム地山を踏み固め平坦な硬化面としている。また周溝がほぼ全周する。

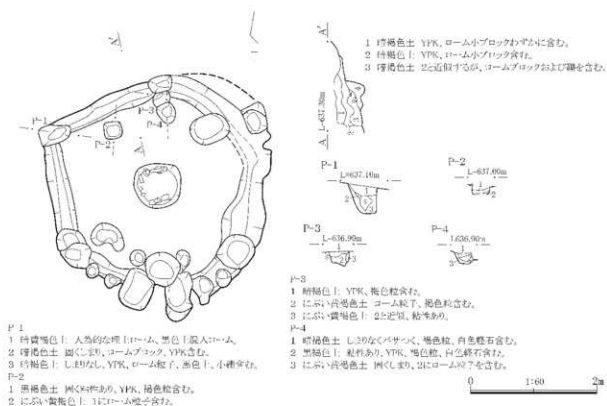
炉 ほぼ中央に作られ、ほぼ円形に礫を配した石囲炉と思われる。北側に立位の板状礫が残るが、他の炉石は抜き取られたり、炉内に転石として検出されている。炉の中央に口縁、底部を欠く深鉢が埋設されるが、明確な火床面は検出されなかった。 **柱穴** 壁際に掘り込まれている。四隅および入り口部の対ビットを含め6本と考えられる。

埋塞 蓋石を持つ。胴上半部を欠いた深鉢が正位に埋められていた。(長野原一本松遺跡2002)

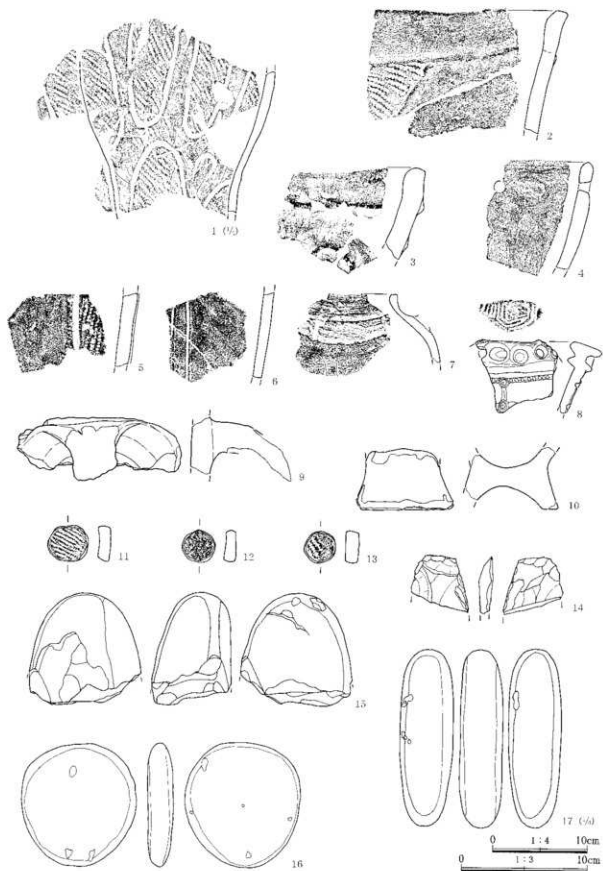
掘方 床下の遺構は確認されなかった。

出土遺物 覆土中に多くの礫が出土している。土器は炉体土器、埋塞の他は破片類が多い。10は台付土器の脚部である。11-13は土製円盤である。出土した石器は打製石斧の欠損品および磨石である。17は棒状を呈す。

時期・所見 本址は平成8年度に調査が行われており、今回の調査では残った北側の一部が検出されたものである。時期は埋塞等から加曾利E3式末と見られるが、炉体土器はやや新しい様相を示す。



第33図 5-1号住居跡



第34図 5-1号住居跡出土遺物

5-38号住居跡 (第35~37図: PL10・117)

位置 E・F-12・13グリッドに位置する。**重複** 東側を大きく5-39号住居に切られ、さらに北側にも5-76号住居跡が重複する。**形状** 円形を呈すと思われる。**規模** 推定径6.6m。

方位 不明。**床面** 西側の壁に沿った部分が残っている。比較的平坦である。

炉 5-39号住居跡の床面下に掘方が検出された。長径1m、短径0.7m程の長円形の掘り込みが認められる。深さは30cm程で壁面、下部に焼土層が検出されている。

柱穴 7本と考えられる。西側壁寄りに掘り込まれたP1~P4および5-39号住居跡の掘方調査時に検出されたP4~6が対応するものと考えられる。**埋篋** 検出されなかった。

掘方 床面下に数個の小ピットが確認されている。

出土遺物 今回の調査で確認した範囲は極僅かであったために、帰属すると思われる遺物は多くはなかった。平11年度調査時に若干の出土遺物が見られる。長野原一本松遺跡2 (2007) 参照。

時期・所見 出土遺物、切り合い関係などから中期後半と判断される。

5-39号住居跡 (第35~40図: PL 9~11・36・117・118)

位置 D・E-12・13グリッドに位置する。**重複** 5-76号・38号住居跡を切り、東側には5-74号住居跡(敷石住居)が重複する。**形状** 円形を呈すと思われるが、周溝はやや直線的に走る部分が見られ、南側入り口部と思われる部分がやや張り出す形か。**規模** 径およそ5.8m。

方位 N-5'-E。**床面** ほぼ平坦で比較的締まっている。炉を中心にやや厚く堆積した焼土の広がりが見られる。**炉** 中央やや北寄りに作られていた。南北に長い隅丸長方形の掘方を持つ、炉石と見られる焼けて割れた礫が埋土中に点在していた。最下層に厚さ2~3cmの焼土層が認められた。

柱穴 拡張後のものは外側の周溝に沿って廻る7本と思われる。その他内部に10数本のピットが検出されているが、拡張前のものと判断できたものはない。

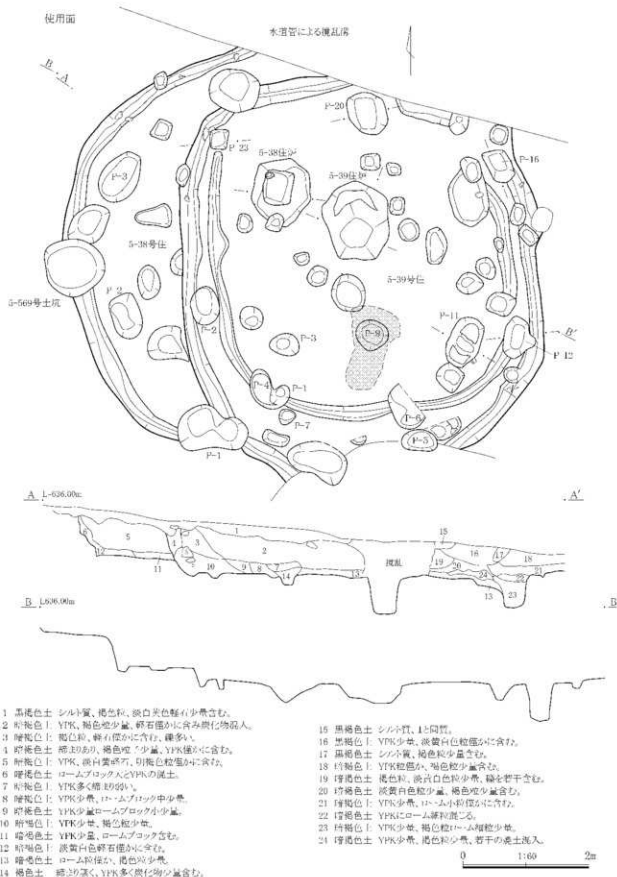
埋篋 検出されなかった。

掘方 前述したように5-38号住居跡の炉を北西部分において検出した。また炉の周囲にも小ピットが検出されている。

出土遺物 平成11年度の調査時には覆土上層より多くの土器、石器が出土している。今次の調査は住居の北側一部のため、土器はそれ程多くはなかったが、石器は石鏃、石錐などの小形品から、打製石斧頭、磨石、石皿、多孔石などかなりの数が出土している。特殊な遺物としては、底が平らで浅い器状を呈す軽石製品がある。側面部には細い溝が廻り、紐で固定したものか。

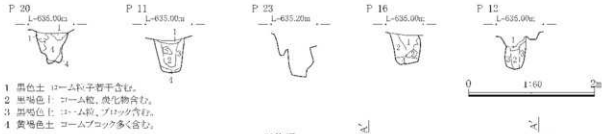
時期・所見 平成11年度に南西部約半分を調査しており、今次の調査でほぼ全容が明らかになった住居である。周溝が2重に廻ることから拡張が行われたものと判断される。なお、北東部の一部については、水道管敷設時に壊されている。時期は中期後半加曾利E3式期と見られる。形状がやや隅丸方形を呈す。周溝が2重に廻っていることから建て替えが考えられ、さらに南側の周溝はやや張り出すように見られることから、張り出し部を有していた可能性もある。

第3章 検出された遺構と遺物



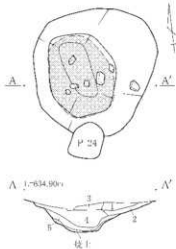
第35図 5-38・39号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



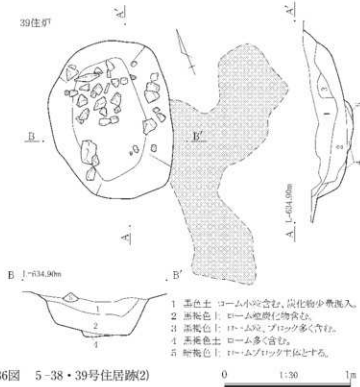
- 1 黒色土 コーム和子若干含む。
- 2 黒褐色土 コーム粒、炭化物含む。
- 3 黒褐色土 コーム粒、フロック含む。
- 4 黄褐色土 コームフロック多く含む。

38住居



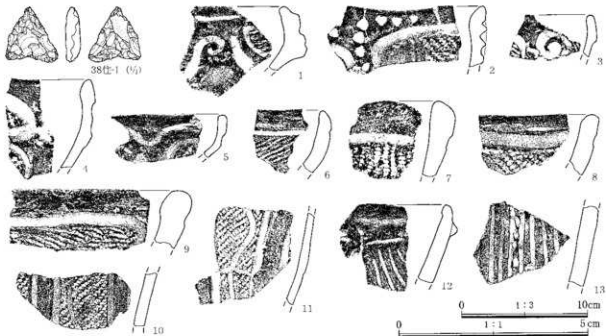
- 1 赤褐色土 コーム粒、粘土粒少量含む。
- 2 赤褐色土 コーム小フロック、焼土粒含む。
- 3 赤褐色土 焼土粒多く含む。
- 4 赤褐色土 炭1多く、表土の炭化物含む。
- 5 暗褐色土 燐子の焼土粒、コームを含む。

39住居

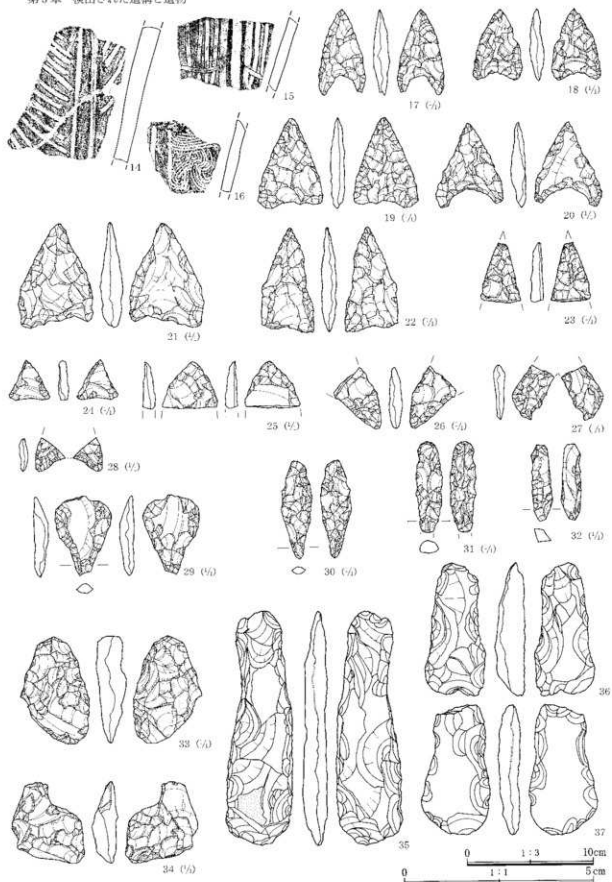


- 1 黒色土 コーム小粒含む、炭化物少量混入。
- 2 黒褐色土 コーム粒炭化物含む。
- 3 黒褐色土 コーム粒、フロック多く含む。
- 4 赤褐色土 コーム多く含む。
- 5 暗褐色土 コームフロック下土とする。

第36図 5-38・39号住居跡(2)

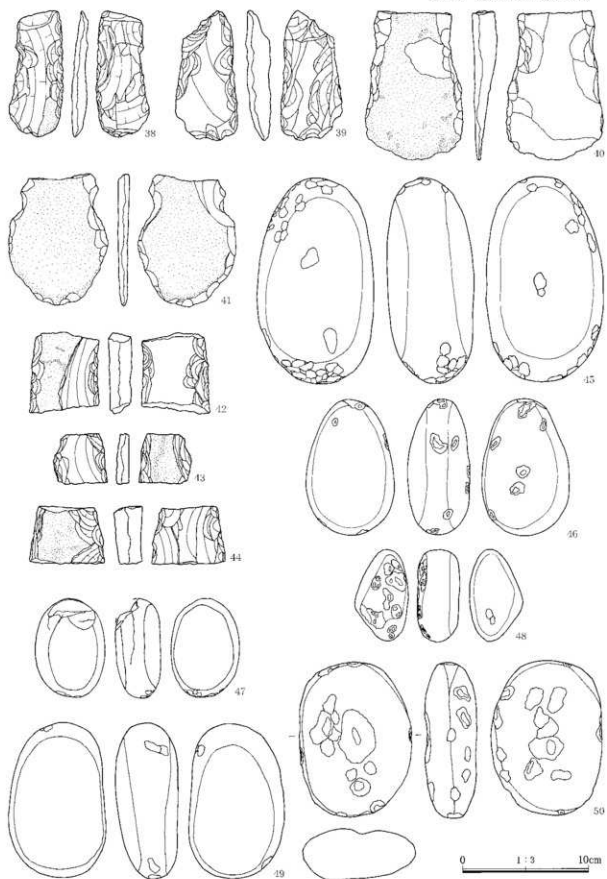


第37図 5-38・39号住居跡出土遺物(1)

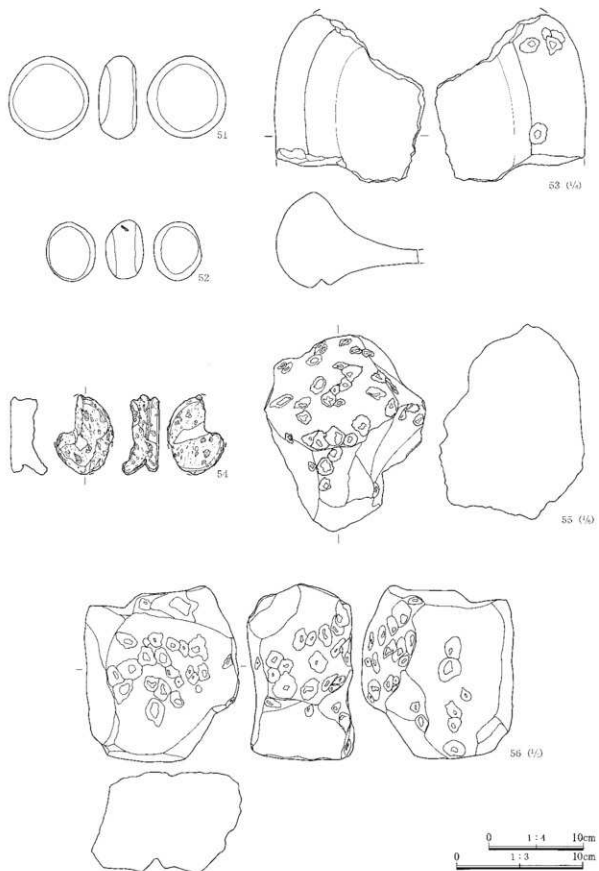


第38図 5-39号住居跡出土遺物(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第39図 5-39号住居跡出土遺物(3)



第40図 5-39号住居跡出土遺物(4)

5-69号住居跡 (第41~46図: PL11・119・120)

位置 E・F-15・16グリッドに位置する。**重複** 北側に5-803号土坑(近世)、その西に5-821号土坑が重複する。この土坑には9・10号埋壘が伴っており、南側の9号埋壘は住居範囲内に検出されている。中央部には5-813号土坑が掘り込まれており、その大部分が壊されていた。また南側の入り口部には覆土上層にはあるが、単独の5-11号炉が作られていた。**形状** 円形 **規模** 600×600×55cm。**方位** N-6°-W **床面** 比較的平坦で締まりも良い、中央から南側部分には貼り床が見られた。1号 Pitの脇には角が丸いほぼ三角形の大形扁平礫が半分以上埋め込まれた状態で置かれていた。表面中央部分が浅く凹んでおり、使用による摩耗が観察された。**炉** 中央やや北寄りに作られていたと思われるが、5-813号土坑により失われている。**柱穴** 主柱穴は周溝内に廻る6本(P-1~6)と思われる。径は40~60cmの円ないしは長円形で深さは50~60cmである。**埋壘** 奥壁のやや西よりに検出されているが伴うものかは不明である。**掘方** 住居の手前側、大形扁平礫の周囲に厚さ数cmの黒色土混じりのロームを密土した貼床が部分的に見られた。その他小 Pit が検出されたが、床下土坑等は見られなかった。

出土遺物 埋土中より土器、多くの石器が出土している、またやや大形の石などもかなり多く混在していた。1はキャリバー形を呈し、全面に複雑縄文が施文されている。

時期・所見 炉が後世の土坑によって削られていたが、全体的には良好な状態で検出された。時期は中期後半である。

5-70号住居跡 (第47~56図: PL12・121~123)

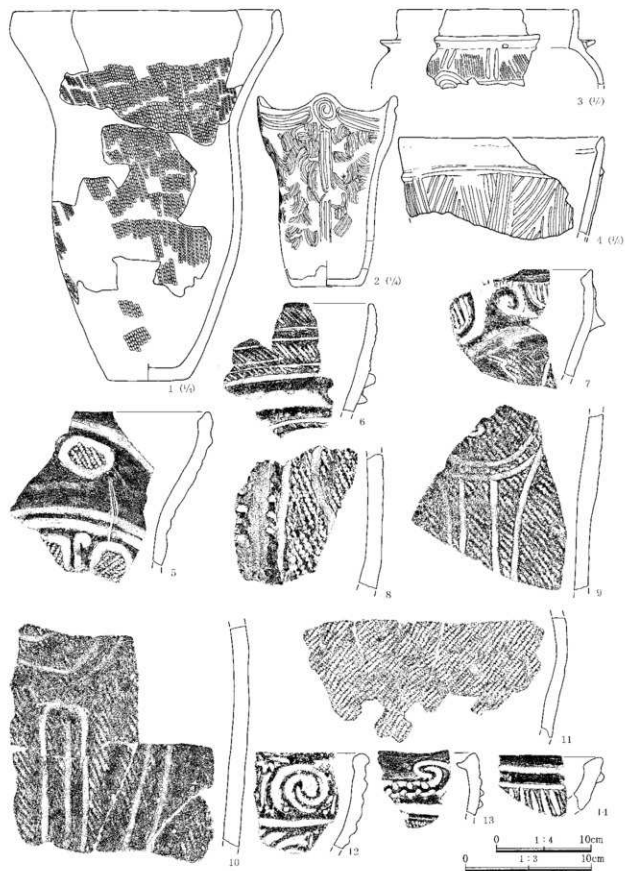
位置 G・H-15・16 **重複** 東西にややずれた形での2軒重複と見られる。5-69号住居跡の西側に接しており、南端には5-40号住居跡、5-814号土坑が重複する。**形状** ほぼ円形を呈すが、東側壁がやや外側に張り出した部分があり、旧い住居の掘方と見られ、立ち上がりも緩やかになっている。**規模** 645×640×40cm。**方位** N-20°-W **床面** 中央部分を中心に比較的締まりの良い状態で平坦であった。床面の所々に地山に含まれる大形の礫が露出した状態で検出されている。周溝が2重に廻ることから拡張が行われたものと見られる。

炉 新旧2基が検出された。最終時の1号炉は中央やや北寄りに構築されている。大形の礫を方形に組んでいたものと思われるが、北および東側の石は抜かれていた。また手前右側の石は地山礫を利用している。炉底は良く焼けて赤褐色を呈し、中央には深鉢の胴部が炉体土器として埋設されていた。旧い2号炉は1号炉の東に検出された。北側は地山の礫を炉石として利用していたと見られる、他の石は検出されなかった。掘方径約1m、深さ35cm程である。底面に若干の焼土が見られた。

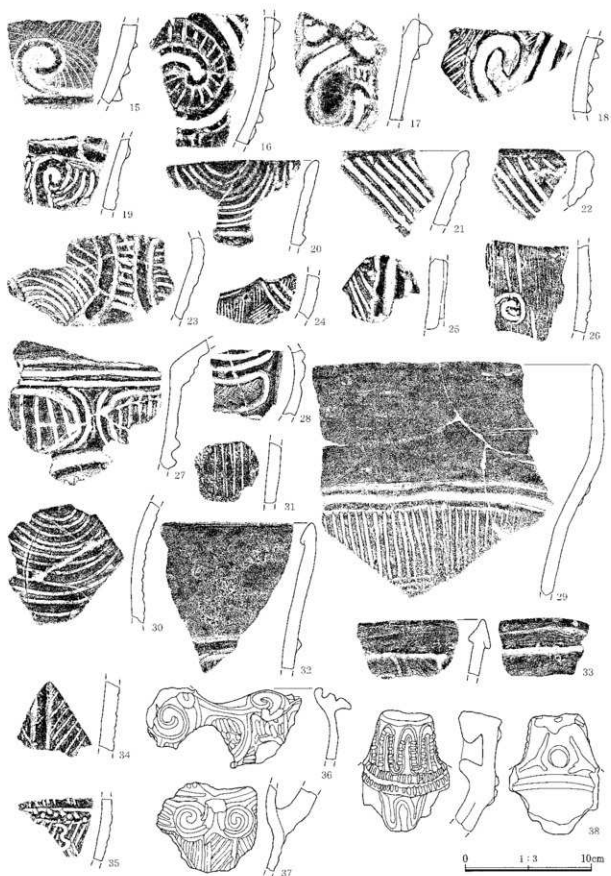
柱穴 新旧に大別されると思われる Pit が2重(一部3重)に廻る。8本ないしは9本が同時使用されていたものと判断される。**埋壘** 検出されなかった。**掘方** 2号炉は掘方時に検出された。覆土上層にローム混じりの比較的締まりの良い層が認められた。出土遺物はほとんど見られなかった。

出土遺物 比較的出土遺物が多い。1は吊り手土器である。床面に潰れた状態で出土している。石器も多く、石鏃、石錐をはじめ打製石斧も多く出土している。また68は大型の砥石である。4面に溝状の使用面が見られ、極めて平滑である。

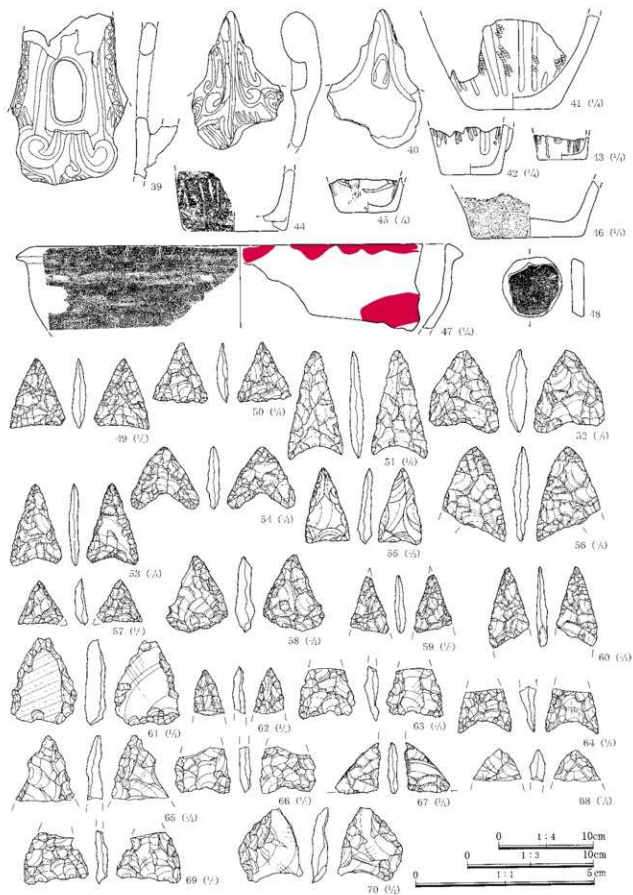
時期・所見 建て替え、あるいは重複がなされ、その後さらに拡張されたことが伺われる。重複住居である可能性が高いが番号は付さずに1軒として記載。出土遺物から中期後半と判断される、旧い住居についても近接した時期と思われる。出土土器は唐草文系のものが多く見られる。中期後半。



第42図 5-69号住居跡出土遺物(1)

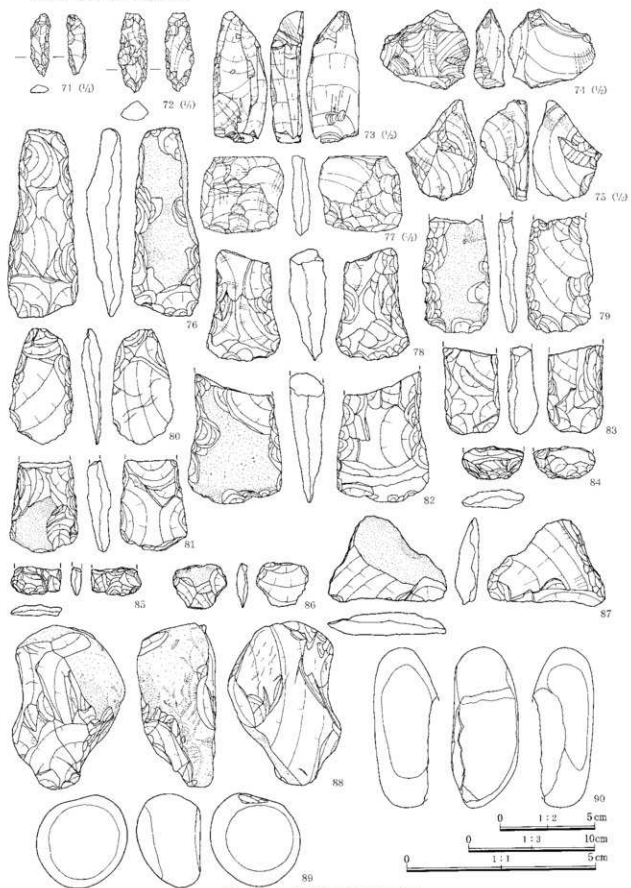


第43図 5-69号住居跡出土遺物(2)

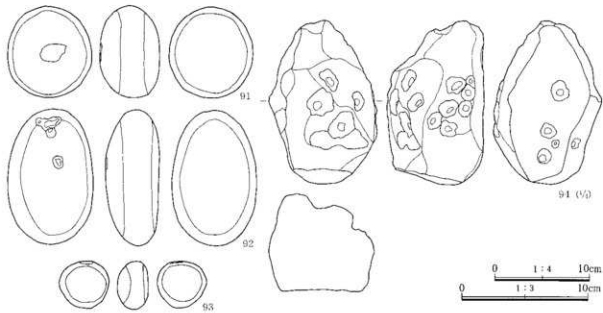


第44図 5-69号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

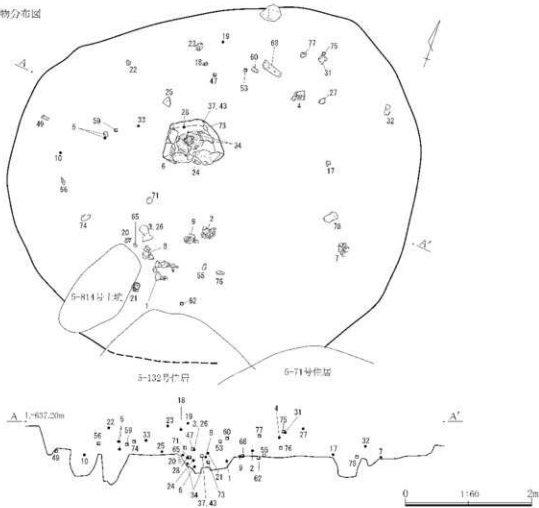


第45図 5-69号住居跡出土遺物(4)

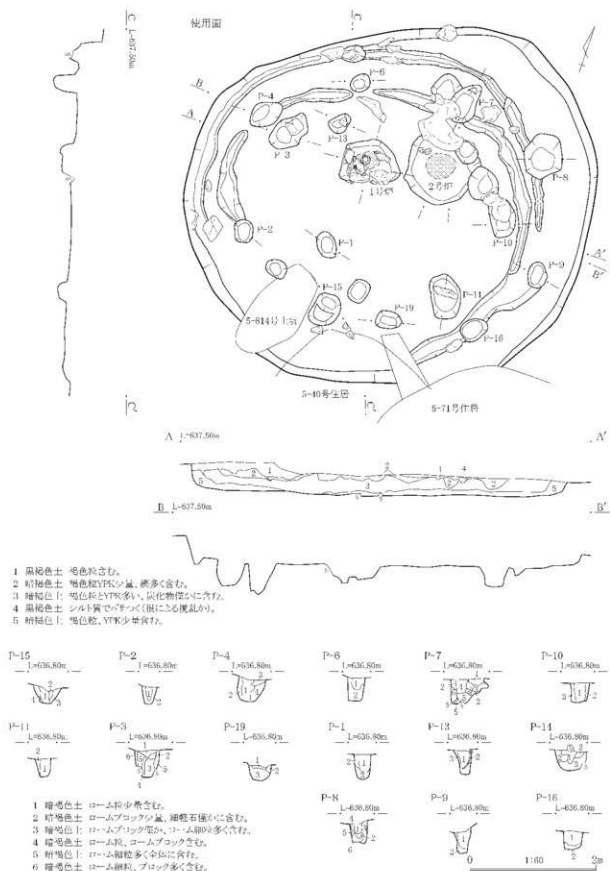


第46図 5-69号住居跡出土遺物(5)

遺物分布図

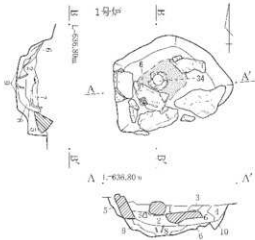


第47図 5-70号住居跡(1)

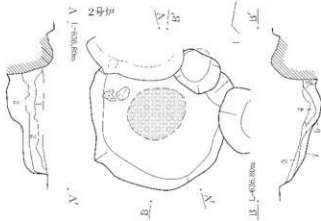


第48図 5-70号住居跡(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



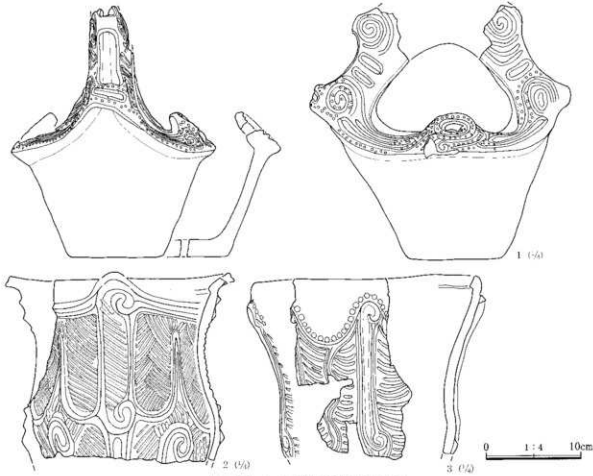
- 1 雑褐色土: 淡白黄色砂石、褐色の、炭化物等に含む。
- 2 暗褐色土: 褐色粒と炭化物、ローム粒等に含む。
- 3 粘褐色土: 粘りなしローム粒粒僅か。
- 4 暗褐色土: コームアソック強が、褐色粒少量。
- 5 粘褐色土: 褐色粒ローム粒粒僅か。
- 6 雑褐色土: 褐色粒少量、引水褐色粒と炭化物等に含む。
- 7 粘褐色土: 粘りなく炭化物と褐色粒少量。
- 8 粘褐色土: 白色軽石VPM含み粘り欠く。
- 9 暗褐色土: コーム粒混入。
- 10 粘り褐色土: 粘上。



- 1 黄色土: ローム主体とする(軽石混入の)少量の黒色土ブロック含む。
- 2 暗褐色土: 若干のローム粒と、炭化物、焼土を含む。
- 3 粘り褐色土: 或は粘り、炭化物を含む。
- 4 黒色土: 粘りなくの干つ。
- 5 粘褐色土: ローム粒が多量混入。
- 6 粘褐色土: VPM多量含むロームブロック混入。
- 7 粘褐色土: 粘り方はあつく、黒色土小ブロック僅かに混入。

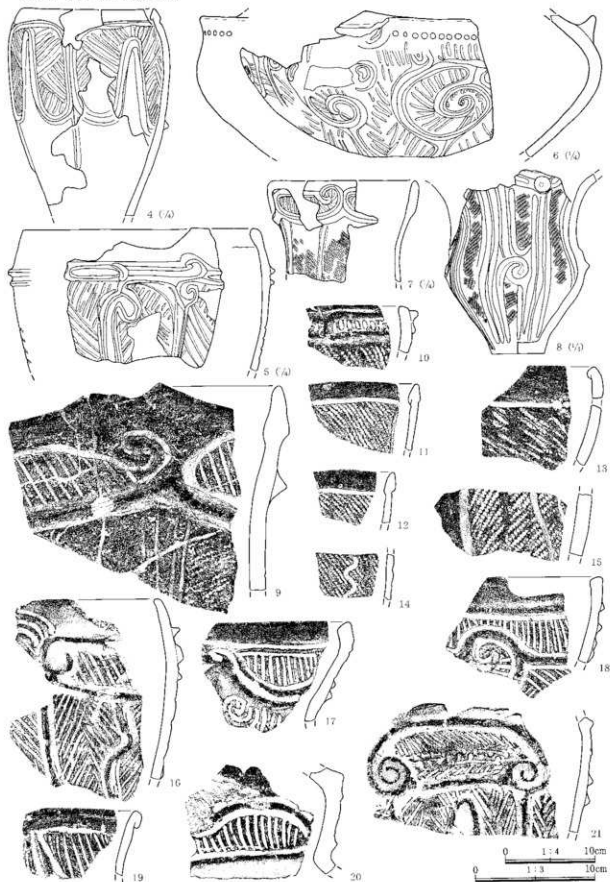
第49図 5-70号住居跡(3)

0 1:30 1m

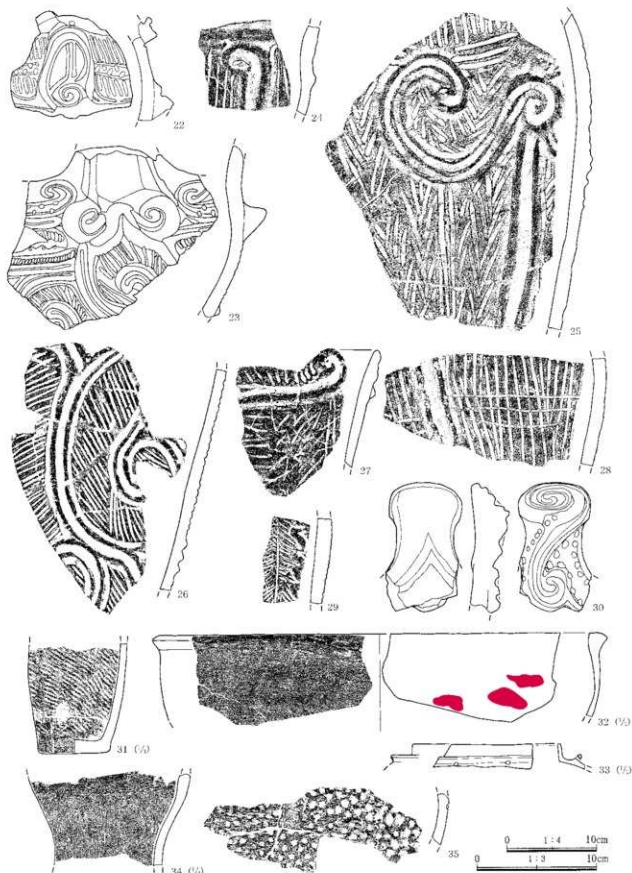


第50図 5-70号住居跡出土遺物(1)

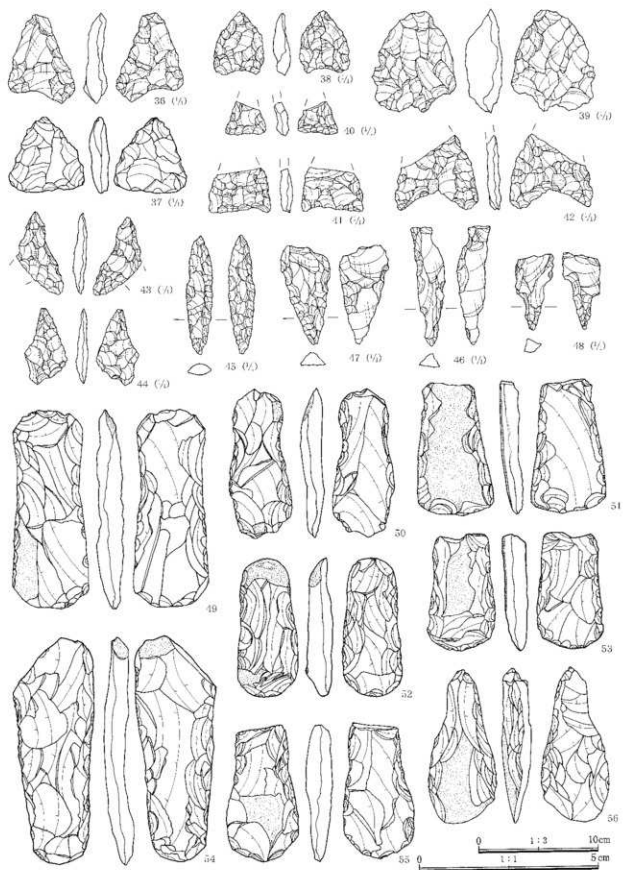
第3章 検出された遺構と遺物



第51図 5-70号住居跡出土遺物(2)

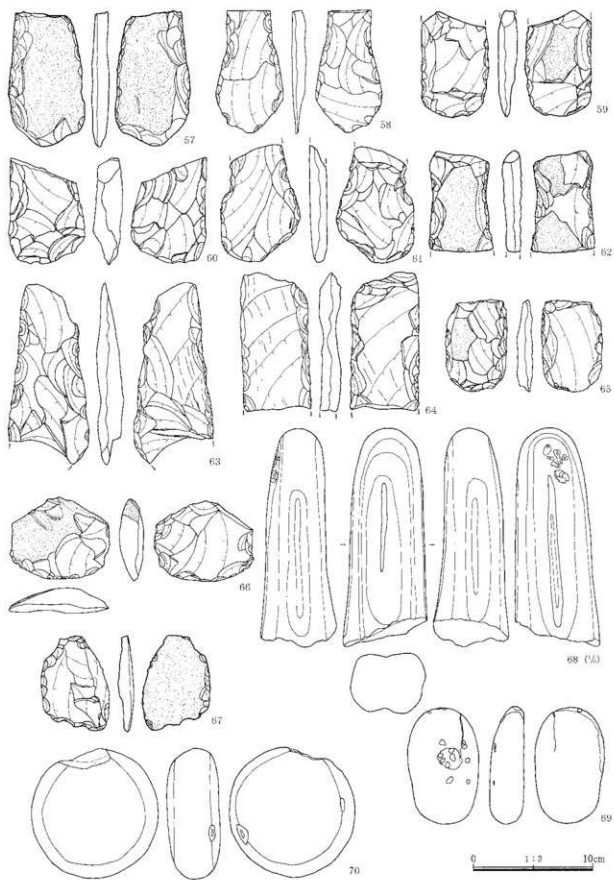


第52図 5-70号住居跡出土遺物(3)



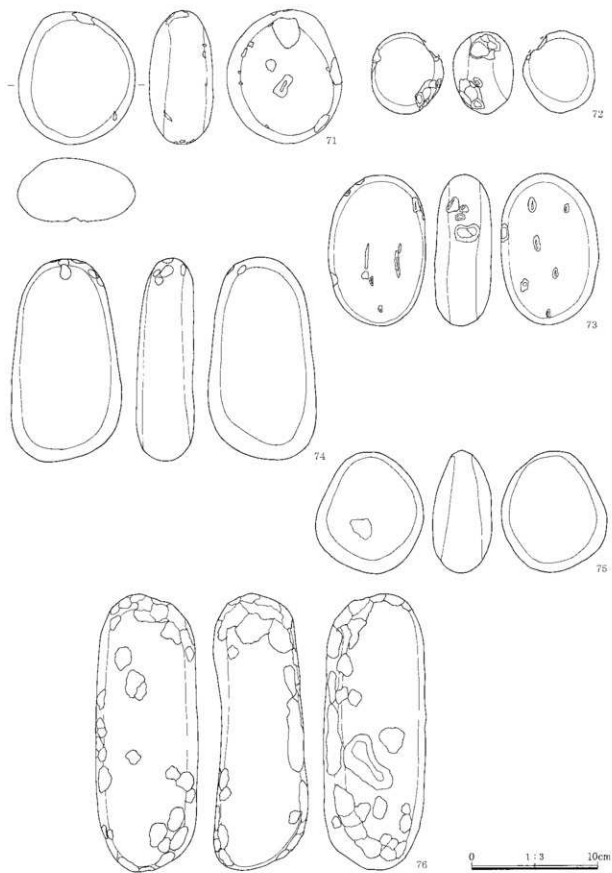
第53図 5-70号住居跡出土遺物(4)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

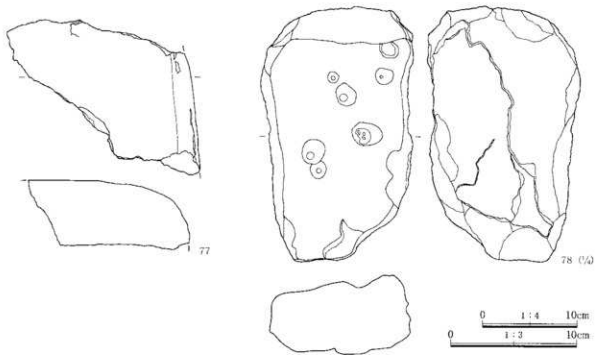


第54図 5-70号住居跡出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物



第55図 5-70号住居跡出土遺物(6)



第56図 5-70号住居跡出土遺物(7)

5-71号住居跡 (第57~63図: PL13・123・124)

位置 F・G-14・15グリッドに位置する。**重複** 東側に5-805号土坑が、南側に5-40号住居跡が重複し、さらに東西に走る水道管敷設溝により南部分を壊されている。

形状 やや縦長の隅丸方形か。**規模** 450×420×40cmである。**方位** N-11°-E

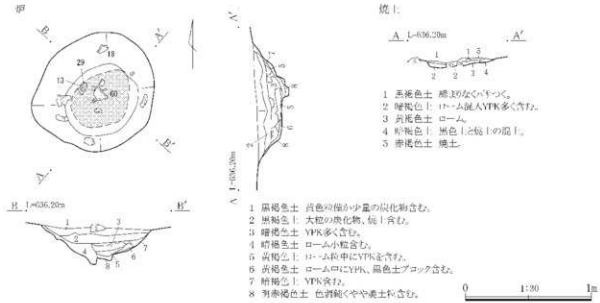
床面 平坦で締まりも良いが、地山の小礫が所々に露出している。炉の南東脇に焼土の広がりが見られた。北壁に沿って部分的に周溝が認められた。**炉** 住居中央のやや北寄りに検出された地床炉である。炉石は検出されず、径約90cm、深さ25cm程の円形ですり鉢状の掘り込みが見られた。覆土中より若干の土器片と角礫が出土した、下部には焼土が検出されている。

柱穴 西に2本、東に2本(1本は5-805号土坑中)の計4本が確認された、さらに南に2本存在していたものと思われるが、攪乱溝により壊されている。**埋壘** 検出されなかった。

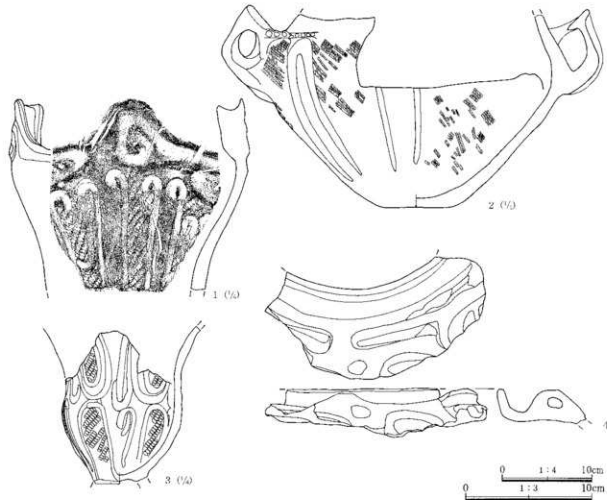
掘方 貼り床、床下土坑などは見られなかった。

出土遺物 遺物は炉内および周辺部に多く見られた。2は両耳壺、3は台付きの深鉢である。4は広口の壺形土器で赤彩が見られる。石器類は石鏃および磨石が多く、打製石斧の出土は少ない。さらには石皿や多孔石も出土している。

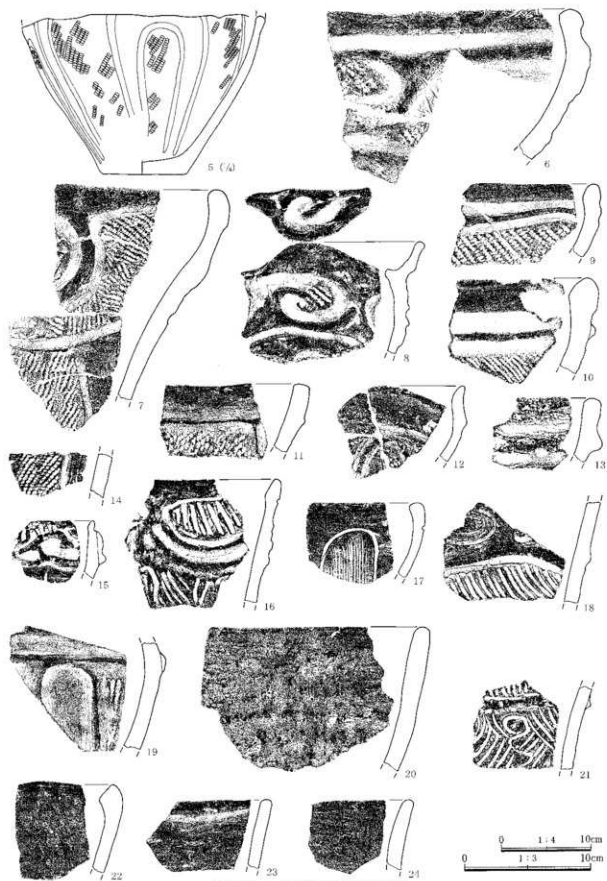
時期・所見 隅丸方形を呈す住居である。南側が水道管の敷設溝等でかなり壊されていた。出土遺物から時期は中期後半と考えられる。



第58図 5-71号住居跡(2)

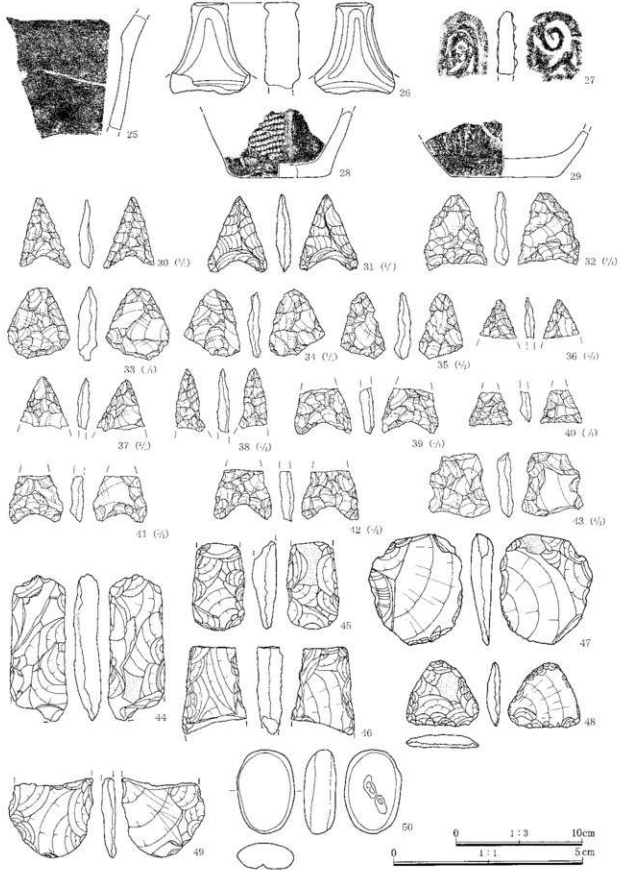


第59図 5-71号住居跡出土遺物(1)



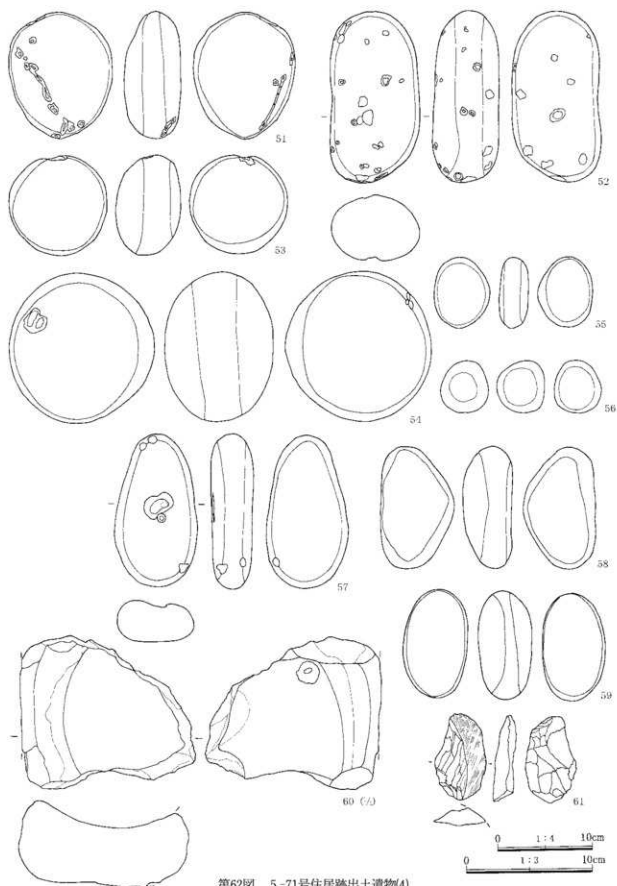
第60図 5-71号住居跡出土遺物(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

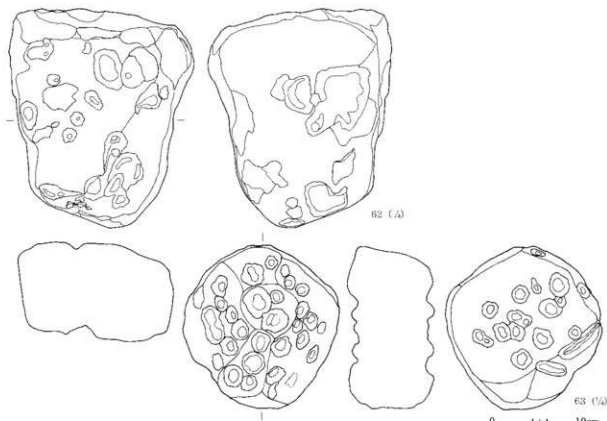


第61図 5-71号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第62図 5-71号住居跡出土遺物(4)



第63図 5-71号住居跡出土遺物(5)

5-72号住居跡 (第64~69図: PL13・14・124・125)

位置 B-D-15・16グリッドに位置する。 **重複** 南西端に5-808号土坑が重複する。

形状 円形を呈す。 **規模** 600×550×40cm。 **方位** N-12°-W

床面 ローム面にまでは掘り下げておらず、黒褐色土中に床面を構築、全体にやや緩やかな凹凸が見られる。締まりは有るが硬質と言う程ではない。 **炉** 中央やや北寄りに構築されている。石を方形に組んだ石組み炉であるが、北側の石は見られなかった。 **柱穴** 壁に沿って主柱穴5本が検出されている。北側に位置する3本がやや大きく長径70cm、短径50cm程の長円形で深さが50~60cmである。

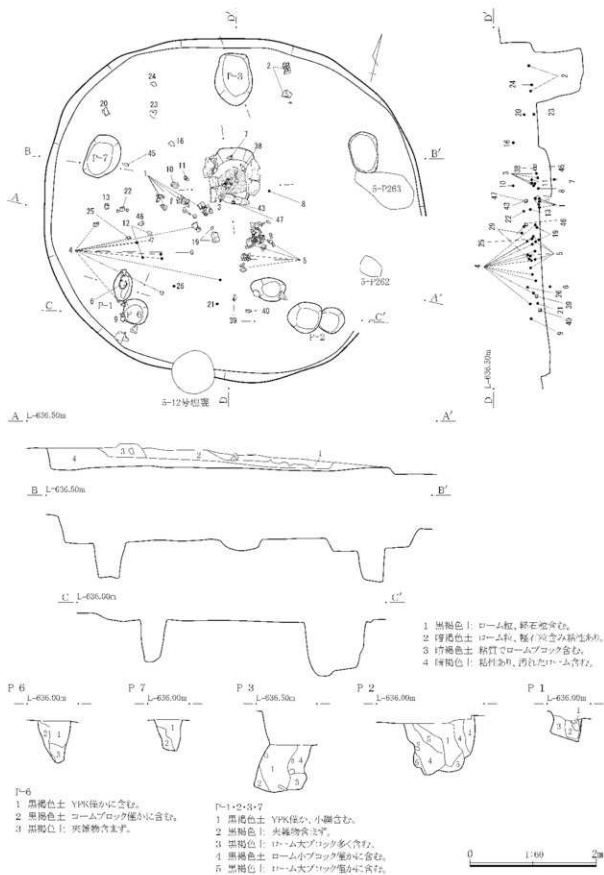
埋壘 南西のPit 6の中にやや小型の深鉢が正位状態で埋められていた。また南側入り口部、壁外にやや張り出して5-12号埋壘が位置している。本址に伴う可能性もあるが、レベル差があり不確定要素もある。

掘方 一部にロームブロックを混入した貼り床状の面を確認したが一部に限られる。

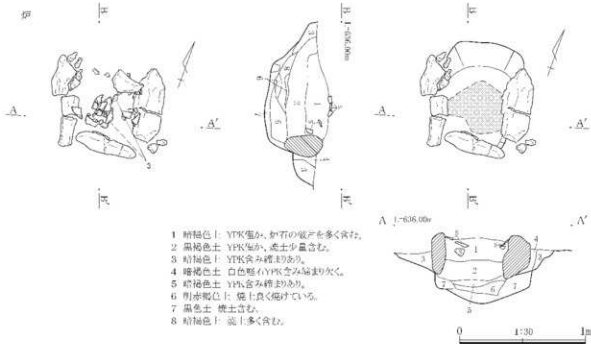
出土遺物 覆土中より多くの土器および石器が出土している。4は大きく口縁部を広げた大型の土器である。5は全面に列点状文が見られる。石器は石鏃、打製石斧および磨石類が出土している。磨石類は被熱したものが見られる。

時期・所見 南東にやや傾斜する谷地部に向かう場所に構築された住居で、掘り込み面の黒色土が厚く壁の検出が困難な住居である。床面も前述したように黒色土で構築されていた。出土遺物中には礫も多く覆土の上・中層からのものが多かった。5-12号埋壘については本址との関連が明確にし得なかった為、単独遺構として記載した。住居の時期は出土遺物から中期後半と判断された。

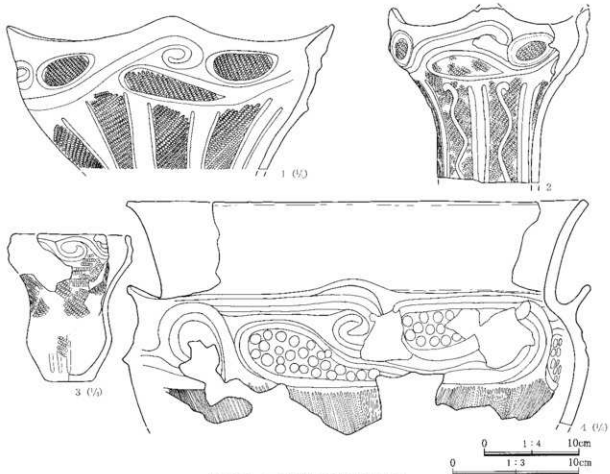
第3章 検出された遺構と遺物



第64図 5-72号住居跡(1)



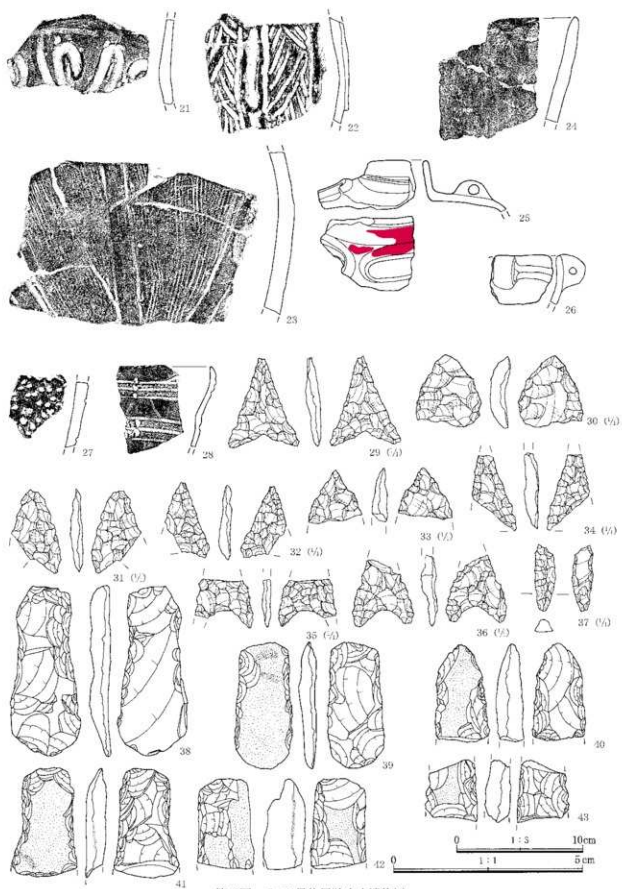
第65図 5-72号住居跡(2)



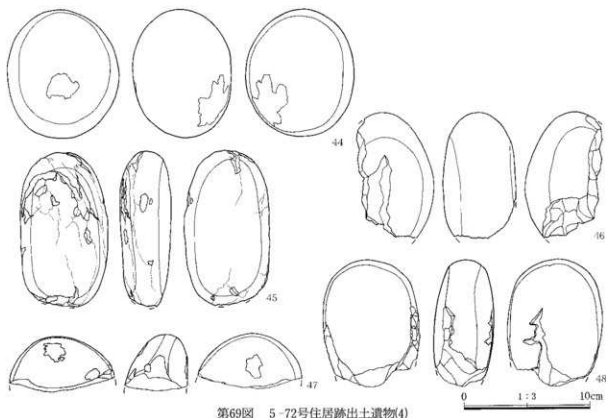
第66図 5-72号住居跡出土遺物(1)



第67図 5-72号住居跡出土遺物(2)



第68図 5-72号住居跡出土遺物(3)



第69図 5-72号住居跡出土遺物(4)

5-73号住居跡 (第70~73図: PL14・15・126・127)

位置 A~C-16・17グリッドに位置する。重複 無し

形状 調査を進めてゆく過程で結果的に長円形となったが、南側については掘りすぎの可能性あり。

規模 (690)×540×40cm。方位 ー

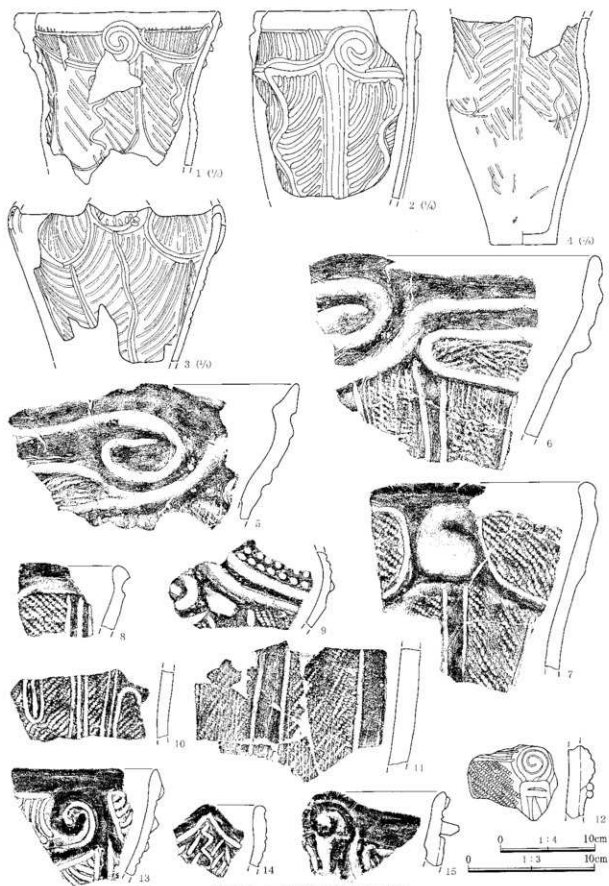
床面 本址は黒色土中に構築されており、平面形状が明確につかめない状況であった。また地山の礫が所々に露出しており凹凸が見られた。

炉 北寄りに検出された。確認時には礫が集中した状態で位置の確定ができず、掘り下げた時点で炉と確認した。炉石は部分的に残っているものもあるが、原位置をとどめず形状は明確にできなかった。最終的に長円形の掘方を検出、下層部に焼土が認められた。柱穴 炉を中心に9本が検出されているが、支柱穴と思われるのは5ないしは6本と思われる。埋壘 検出されなかった。

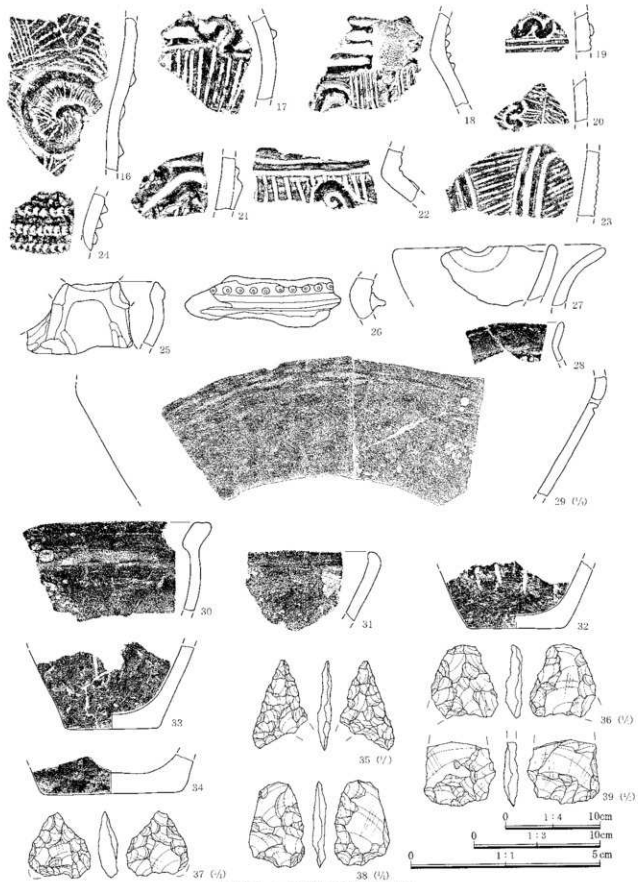
掘方 貼り床等は見られなかった。住居南側に検出されたピット中よりやや大形の土器片が出土している。

出土遺物 覆土中に多くの自然礫と混在して土器片石器等が出土、床面からの出土はあまり多くはなかった。加曽利E系および唐草文系が出土している。石器は石鏃類、小形磨製石斧が出土、43は横刃のスクレイパーである。また、42は縦型の石匙であろうか、頭部に両側から抉りを入れ、つまみ部を作出する。その他磨石、凹石が見られる。

時期・所見 確認面が黒色土中であったことから、範囲の確定が難しかった。炉の位置に対して南側が大きく張り出した形状となっており、拡張などが行われた可能性もある。出土土器から、時期は中期後半と判断される。



第71図 5-73号住居跡出土遺物(1)



第72図 5-73号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第73図 5-73号住居跡出土遺物(3)

5-74号住居跡 (第74~79図: PL15・36・127・128)

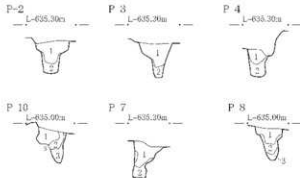
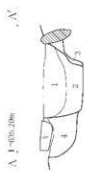
位置 C~E-13・14グリッドに位置する。 **重複** 5-39号住居の北東部分に位置する。また主体部中央を水道管が東西に横断していたためにこの部分は未調査である。

形状 主体部は隅丸方形を呈す柄鏡形敷石住居である。主体部西側の立ち上がりが外側に広がる形になるが、重複住居(5-106号住居跡)が存在したものと見られる。 **規模** 残存長約6.5mで主体部は一辺がおおよそ4mである。 **方位** 炉は検出されないが軸方向はN-21°-Eである。

床面 主体部には顕著な敷石は見られなかったが縁辺部に小礫が方形に点在して認められた。南に延びる張り出し部には、大形でやや扁平な礫が接合部には1列に、手前側には複数の石が広がるように敷かれている。

第3章 検出された遺構と遺物

対ビット



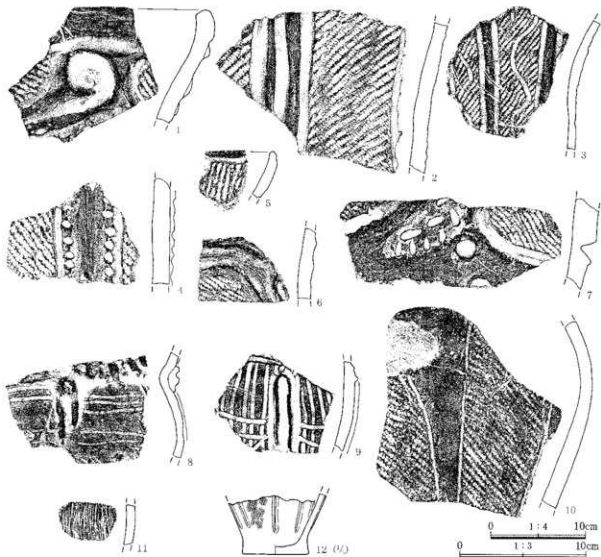
- 1 暗褐色土 YPK含み多まる。
- 2 暗褐色土 YPK, ローム粒を含み多まる。
- 3 暗褐色土 ローム粒, ブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒, ブロックを含みやや板状あり。

- 1 黒褐色土 ローム粒が多く含む。
- 2 黄褐色土 ローム粒が多く含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:30 1m

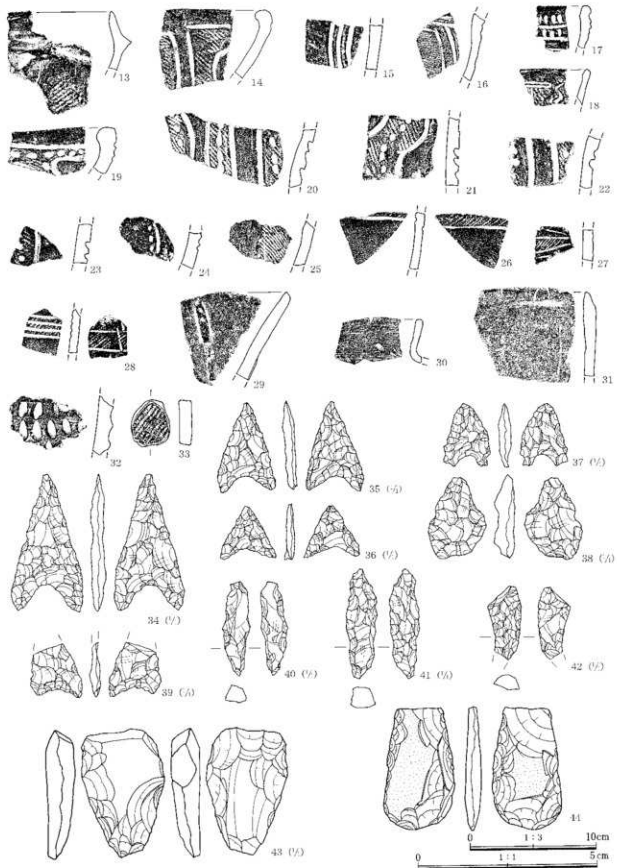
0 1:60 2m

第75図 5-74号住居跡(2)



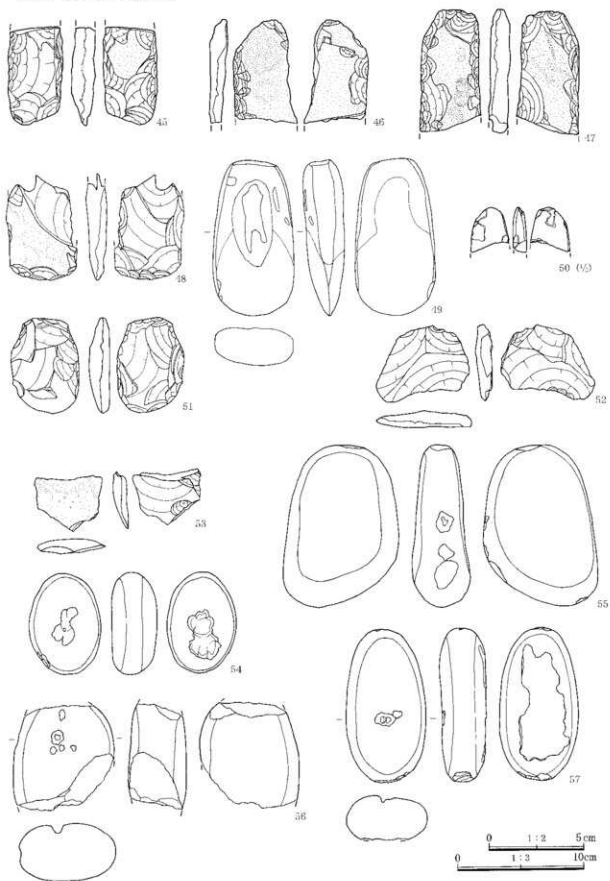
第76図 5-74号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

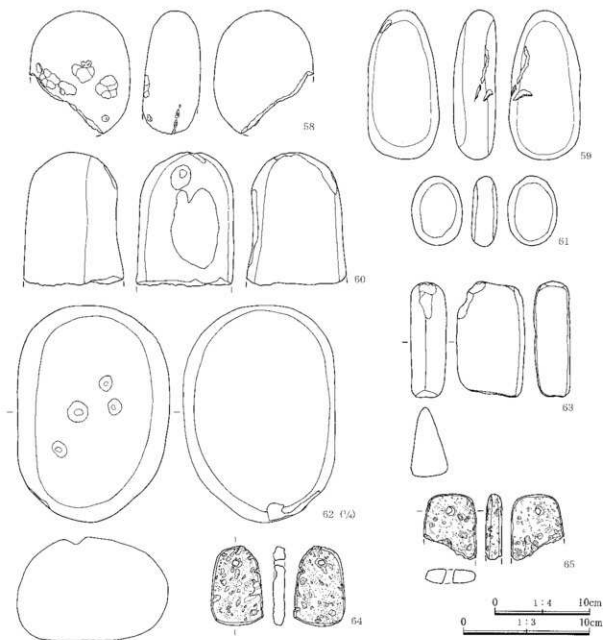


第77図 5-74号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第78図 5-74号住居跡出土遺物(3)



第79図 5-74号住居跡出土遺物(4)

5-75号住居跡 (第80~83図: PL15・16・128)

位置 E・F-13・14グリッドに位置する。 **重複** 5-76号住居跡の西に重複し、ほぼ中央部に水道管敷設溝が走る。 **形状** ほぼ円形を呈すと思われる。 **規模** 350×(350)×36cm。 **方位** -

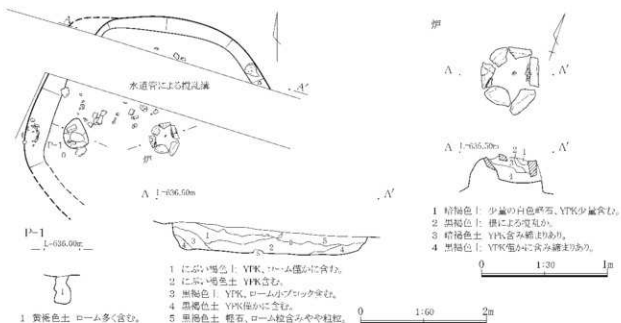
床面 西側については掘り込まれたローム面は比較的締まりは良く、外側に行くに従ってやや高くなっている。東側に関しては調査時点で5-76号住居を先に掘り下げてしまい明瞭な面が把握できなかった。

炉 旧5-13号炉、やや扁平な礫の横にして、6角形に組んでいる。西側の床面高に対して、炉が構築された部分は5-76号住居跡の覆土上であったため全体にやや下がっている。 **柱穴** 南西部に1本を検出しているのみである。 **埋篋** 検出されなかった。 **掘方** 東半分は5-76号住居跡の覆土となる。

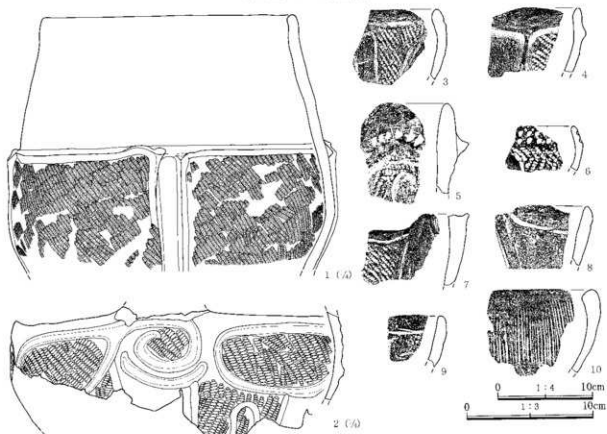
第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 若干の土器片および石器が出土。1は口縁部が幅広い無文である。

時期・所見 重複する5-76号住居跡の調査時に5-13号炉が検出され、その存在を確認した。また水道管敷設溝によって中央部分を大きく壊されている。時期は出土遺物から中期後半と判断される。

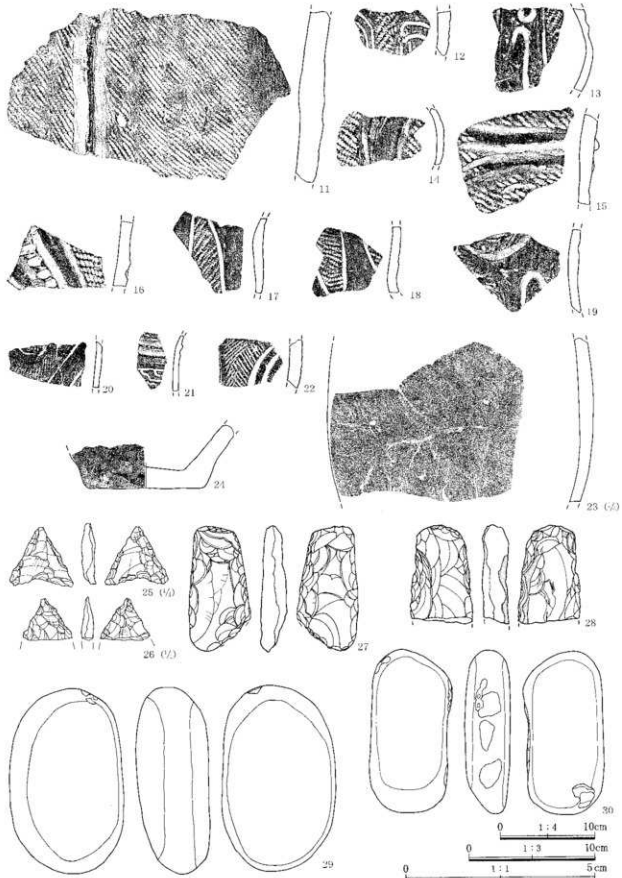


第80図 5-75号住居跡

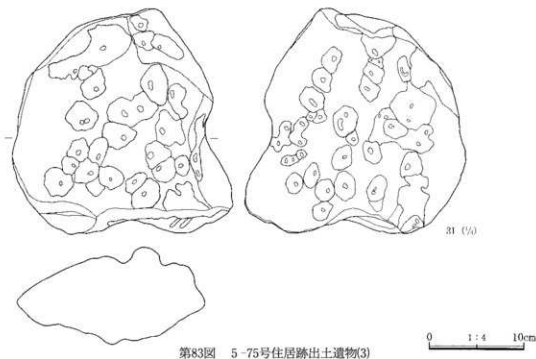


第81図 5-75号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第82図 5-75号住居跡出土遺物(2)



第83図 5-75号住居跡出土遺物(3)

5-76号住居跡 (第84~87図: PL15・16・129)

位置 E-13・14グリッドに位置する。**重複** 5-75号住居跡が北西部に重複、本址の上に乗っている。また、5-38号住居跡の北西部に一部が重複する。さらに北側部分が水道管敷設溝によって壊されている。**形状** 円形を呈すと思われる。**規模** 推定径350cmで、残存する西側部分での壁高は35cmを測る。

方位 N-6°-W **床面** 凹凸が顕著で、西側が高く炉の周辺および東側が低くなる。

炉 住居のほぼ中央やや北に寄った位置に作られている。自然礫をほぼ四角に配置するものの、北側、西側の礫は割れ崩れており原位置を留めていない。**柱穴** 計9本を検出した。このうち主柱穴と思われるものは、D-1・2・4・6・7・8・10の7本と見られる。いずれも径およそ30~40cmの円形ないしは楕円形を呈し、深さは25~40cmである。**埋壘** 検出されていない。

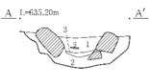
掘方 土坑等は確認されず、東側において5-38号住居跡を検出している。

出土遺物 若干の土器片および石器が出土している。石器は石鏃、石錐、打製石斧などが見られ、31は板状の砥石であろうか。

時期・所見 5-75号住居跡の下位に作られた小型の住居である。北側は水道管敷設溝に壊されており、南側の一部については平成11年度の調査区内に入るが、壁の立ち上がりについては確認できなかった。時期は中期後半である。



第3節 縄文時代の遺構と遺物



- 1 黄褐色土: YPK, 炭化物質が、10cm 程度含まれるが弱い。
- 2 黒褐色土: 腐植質多量、褐色地盤が認められる。
- 3 赤褐色土: 雑土。

0 1:30 1m

P 3 L=635.60m



P 7 L=635.60m



P 8 L=635.60m



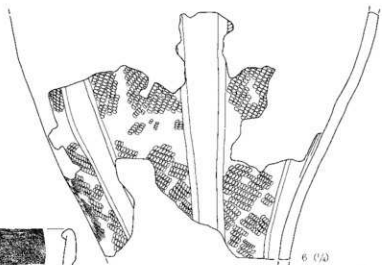
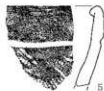
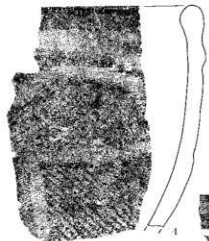
P 9 L=635.60m



- 1 黄褐色土: YPK 含む層あり。
- 2 暗褐色土: ローム状土、ブロック含む層あり。

第84図 5-76号住居跡

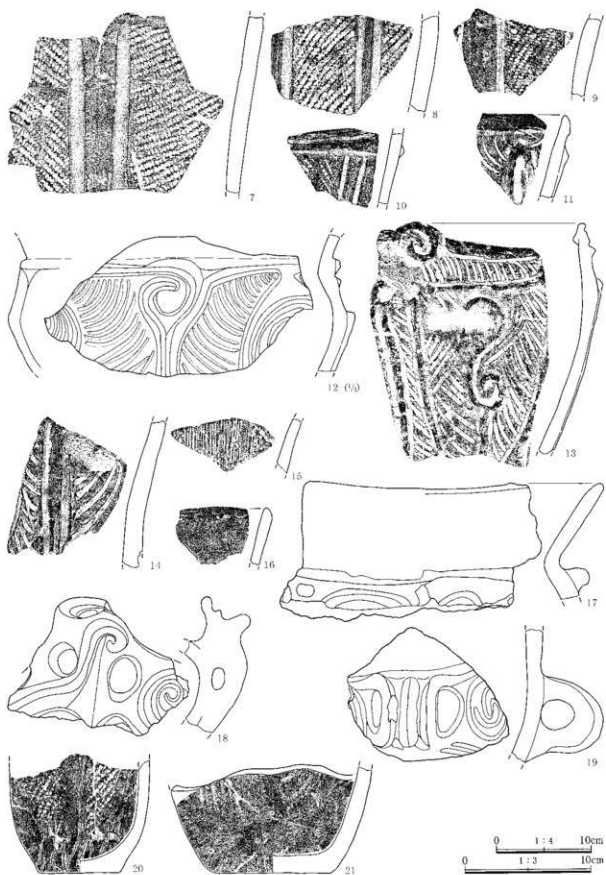
0 1:60 2m



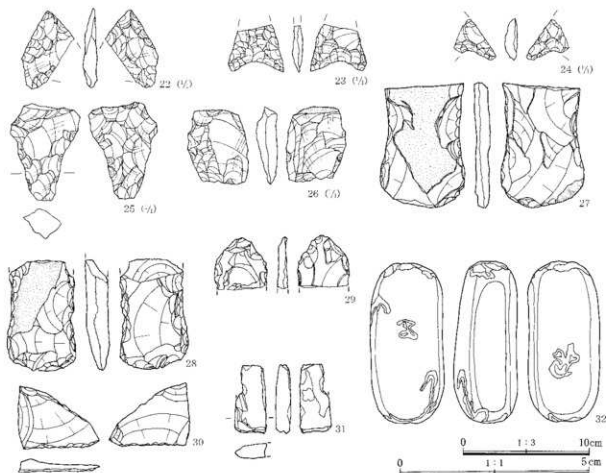
0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

第85図 5-76号住居跡出土遺物(1)



第86図 5-76号住居跡出土遺物(2)



第87図 5-76号住居跡出土遺物(3)

5-77号住居跡 (第88~94図: PL16・17・129・130)

位置 H・J-16・17グリッドに位置する。重複 無し。

形状 柄鏡形敷石住居 規模 全長560cm、幅430cm、深さ40cmである。方位 N-4°-W

床面 主体部ほぼ全面、および張り出し部には一列に石が敷かれる。張り出し部手前側の石が最も大形で長さ80cmを測る。また張り出し部の両側には縁に置かれたものと思われる石が検出されている。

炉 主体部のほぼ中央に作られている。縦横の長さは約90cmで大形の細長い4石を方形に組んで構築している、北側の石を除き被熱の為に割れた状態である。

柱穴 主体部の内側周溝中にほぼ全周する様に15本を検出した。径は20~30cmで深さは約35~50cmである。

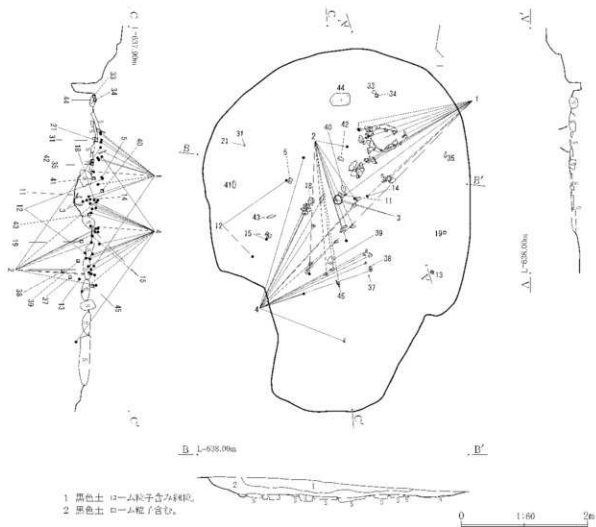
埋嚢 検出されなかった。

第3章 検出された遺構と遺物

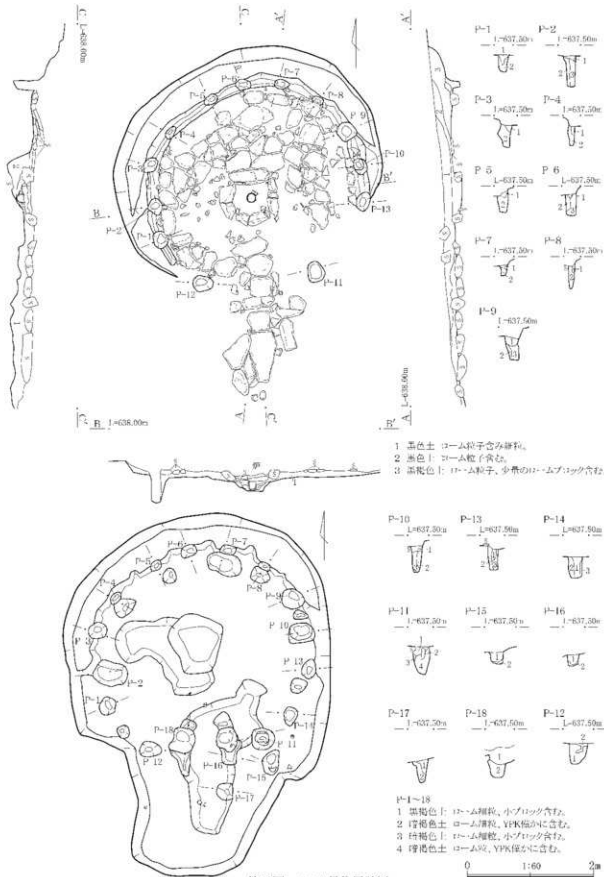
掘方 北側の柱穴に付随するように内側にピットが検出されたほか、連結部には不定形な落ち込みと、対ピットが検出されている。

出土遺物 主体部伊の北東部に、大型の深鉢胴上半部が敷石上に伏せられた状態で出土している。その他、比較的多くの土器片、石器が伊を中心に出土している。さらにミニチュアの石棒が張り出し部と主体部の連結部で出土している。1は床面に伏した状態で出土した土器である。3は伊体土器、深鉢の胴部を利用している。15は小型の広口の土器で器面研磨され赤彩されている。16は注口土器、17の蓋とセットか。18は小形の壺形土器で算盤玉形を呈す。石器類は石鏃、スクレイパーの他小型の磨製石斧や、ミニチュアの石棒が特筆される。

時期・所見 敷石は主体部のほぼ全面に敷かれていた、張り出し部の敷石は1列で手前側は両側に大型の礎が置かれていた。また連結部に置かれた石はほぼ四角形で手前側主体部と張り出し部を仕切る石は約10cm程高く据えられている。時期は出土土器から堀之内1式期であろう。

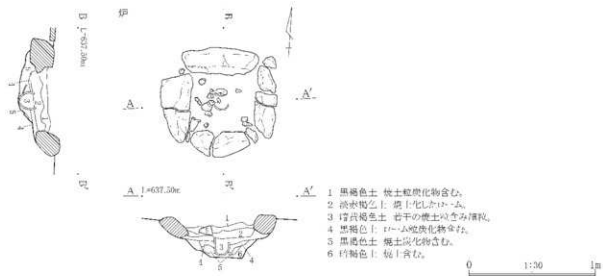


第88図 5-77号住居跡(1)

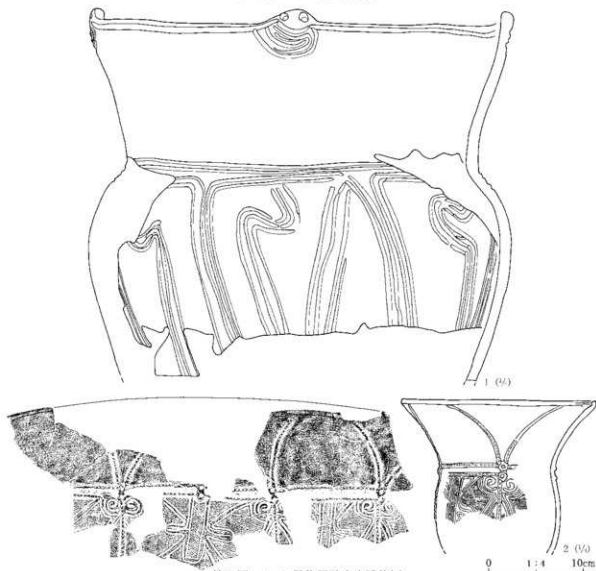


第89図 5-77号住居跡(2)

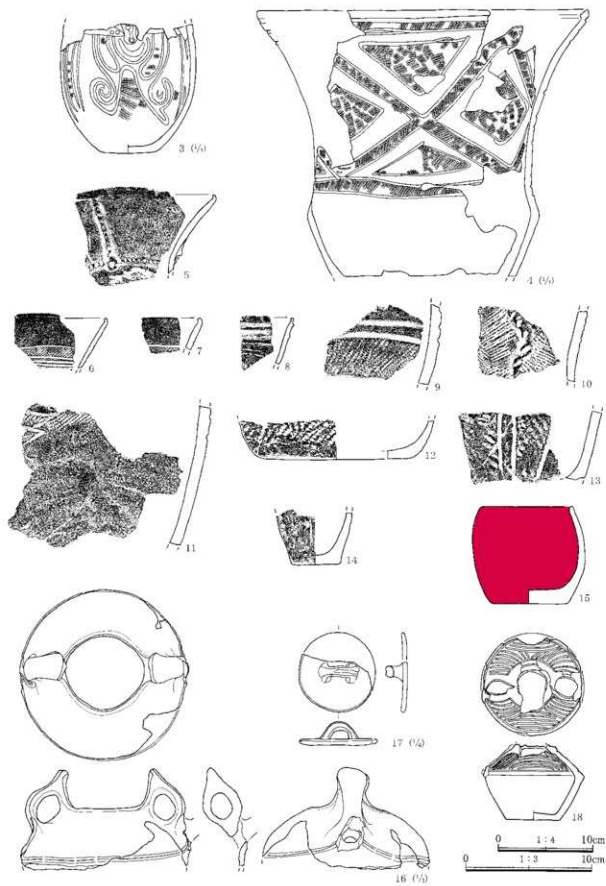
第3章 検出された遺構と遺物



第90図 5-77号住居跡(3)

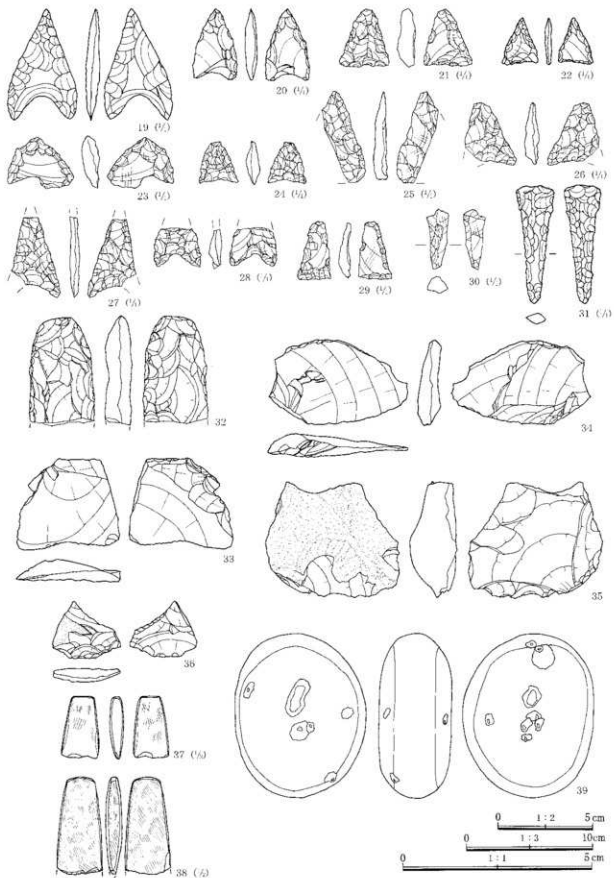


第91図 5-77号住居跡出土遺物(1)

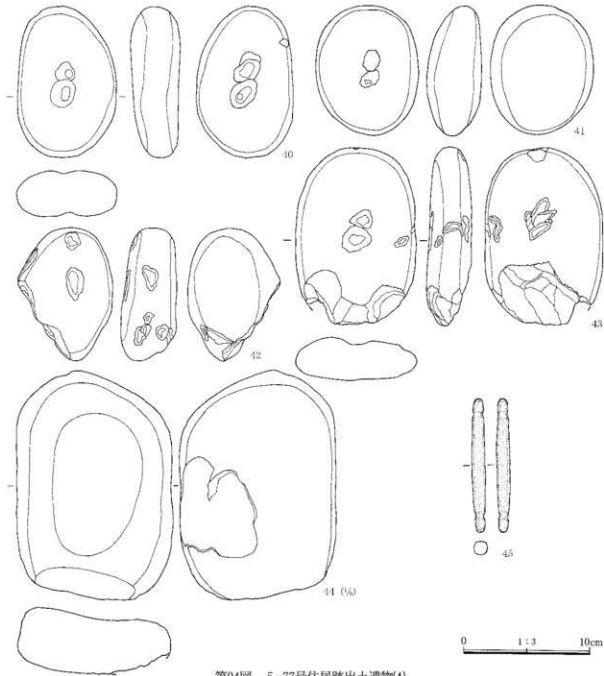


第92図 5-77号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第93図 5-77号住居跡出土遺物(3)



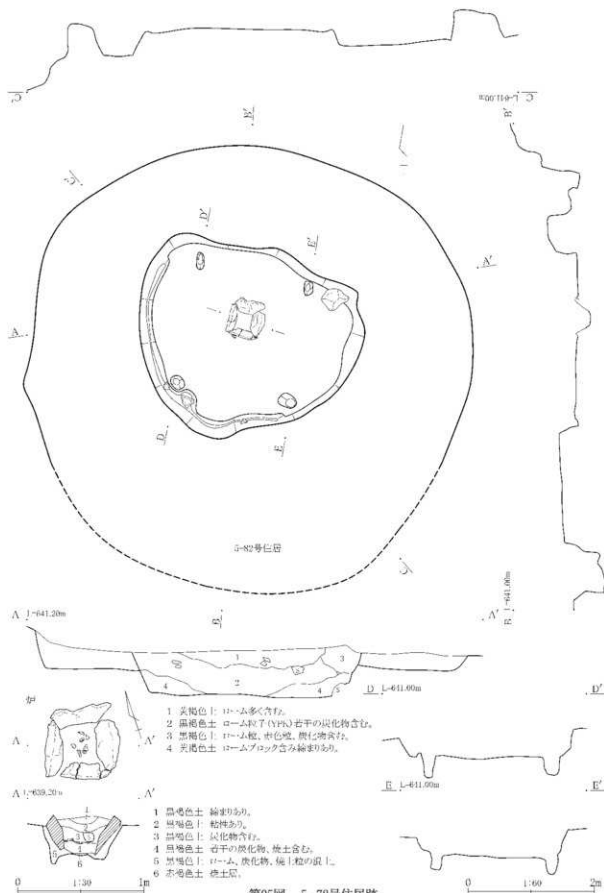
第94図 5-77号住居跡出土遺物(4)

5-78号住居跡 (第95~101図: PL18・20・131・132)

位置 O-12グリッドに位置する。重複 5-82号住居跡の中に重複する。

形状 北壁が直線的な不正円形を呈す。規模 360×290×70cm。方位 N-18'-E

床面 掘り込んだローム地山をそのまま地床とし、かなり締まっていた。周溝は西と南側の壁下に部分的に認められた。炉 ほぼ中央に作られていた。やや細長い角線を四角に組んだ石圍い炉である。規模は東西55cm、南北60cmである。焼土は少なく、下部に深鉢の胴部片が潰れた状態で出土している。



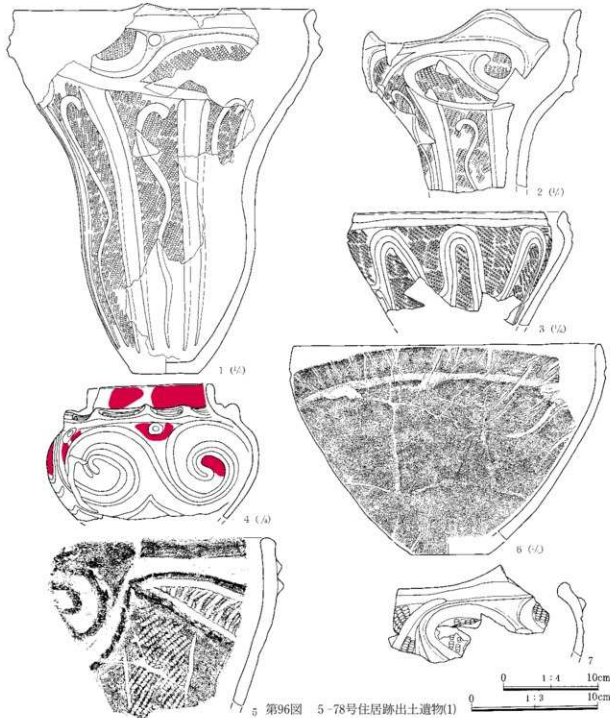
第95図 5-78号住居跡

柱穴 壁際に4本を検出した。径およそ20～25cmの長円形で深さは30～40cmである。

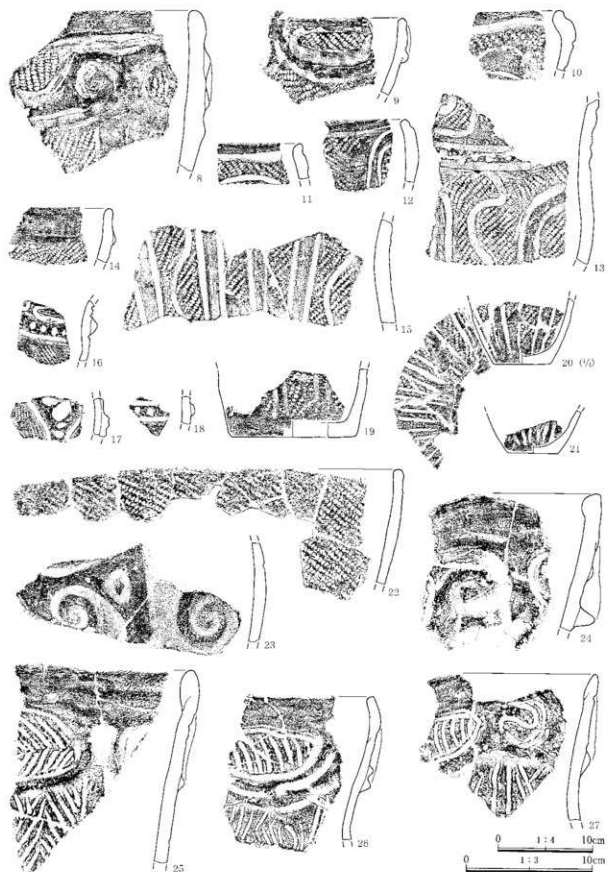
埋壙 検出されなかった。 **掘方** 土坑等は検出されなかった。

出土遺物 かなり多くの土器、石器が出土している、4は広口の壺型土器で赤彩が見られる。石器は石鏃、打製石斧類が多く見られた。88はヒスイ製の垂飾未製品である。

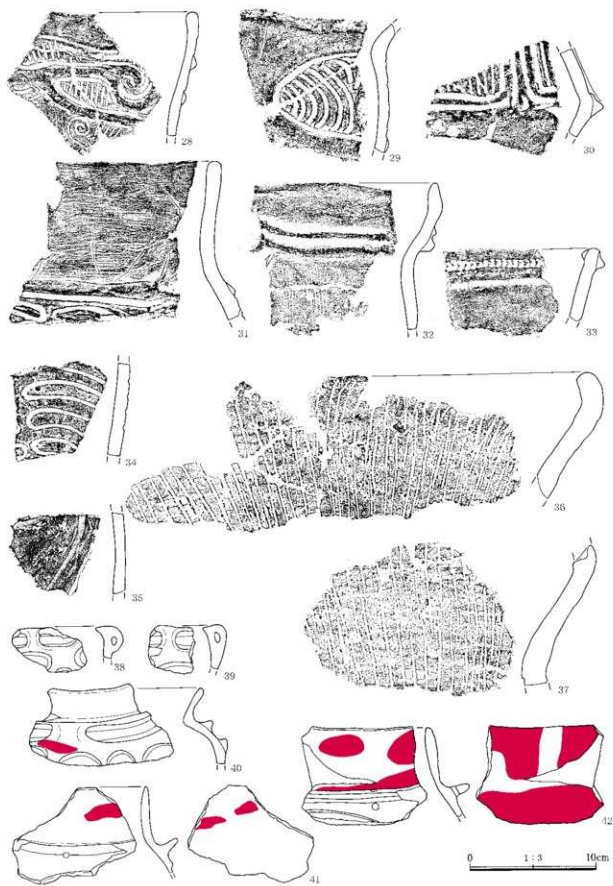
時期・所見 5-82号住居跡の中にすっぽりと入る形で検出された。5-82号住居跡が埋没後に本址が作られたものと判断されるが、ほとんど時間差は無いものと考えられる。覆土上層から中位にかけて大量の礫が投げ込まれた状況で検出されている。時期は出土土器から中期後半である。



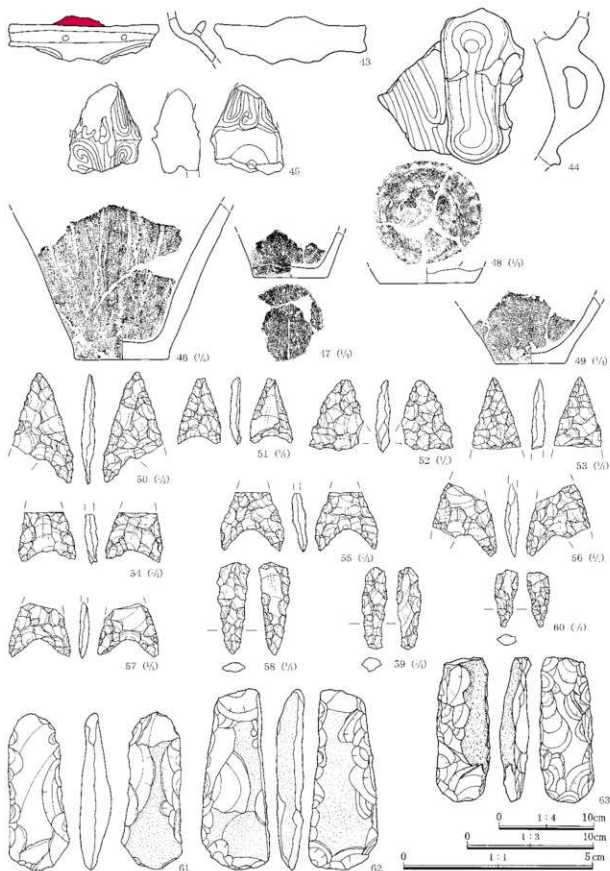
第96図 5-78号住居跡出土遺物(1)



第97図 5-78号住居跡出土遺物(2)

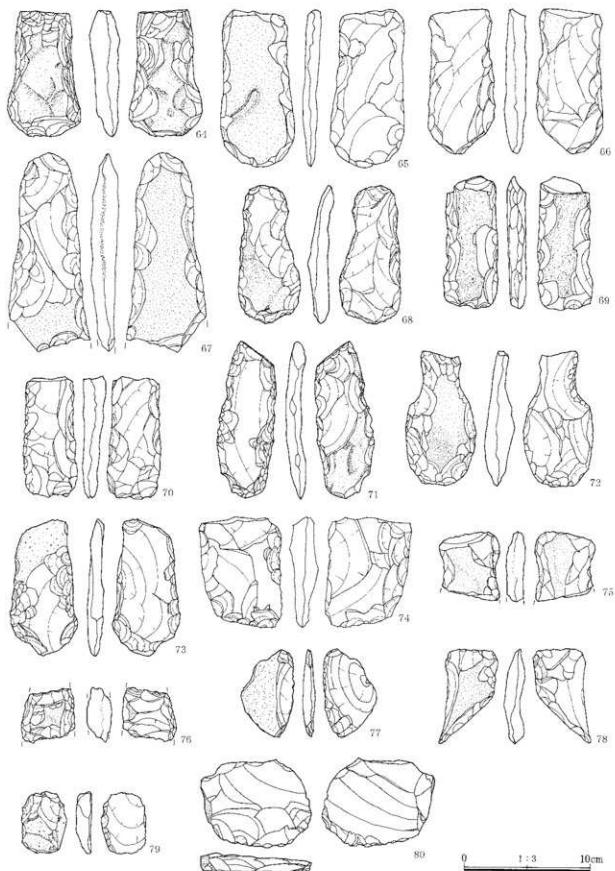


第98図 5-78号住居跡出土遺物(3)

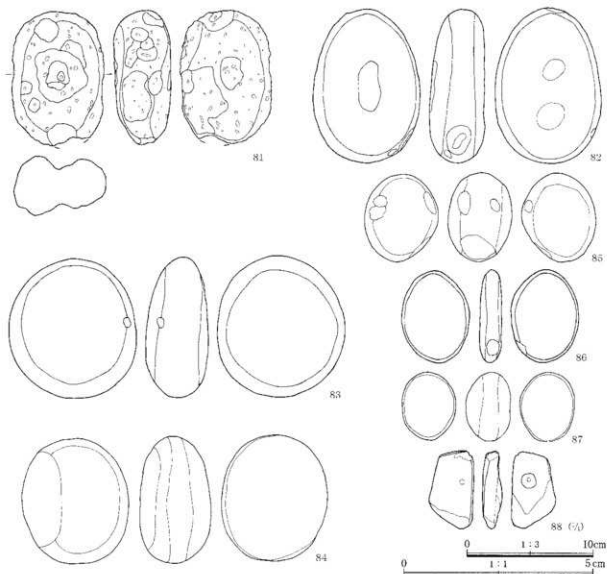


第99図 5-78号住居跡出土遺物(4)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



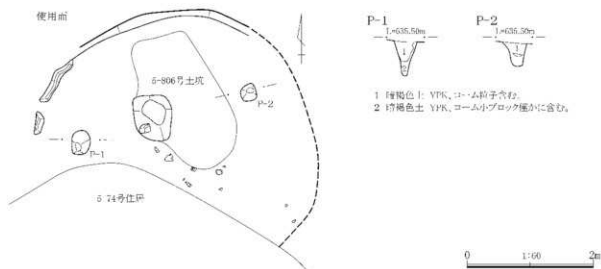
第100図 5-78号住居跡出土遺物(5)



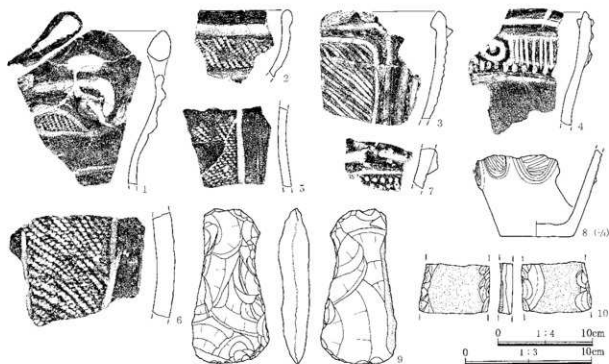
第101図 5-78号住居跡出土遺物(6)

5-79号住居跡 (第102・103図：PL18・132・133)

位置 C・D-14グリッドに位置する。 **重複** 中央部に5-806号土坑が重複し、5-74号住居に南側を切られている。 **形状** 円形を呈すと思われる。 **規模** 450×(450)×15cm。 **方位** -
床面 ほぼ平坦であるが縮まりは見られない、南側については一部削平を受けているものと考えられる。
炉 5-806号土坑によって壊されているものと思われる。 **柱穴** 左右に2本を検出、径30cm程で深さは約40cmである。 **埋壘** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床や土坑等は見られない。
出土遺物 中央部分に小破片が点在して出土している。若干の土器片、および打製石斧が2点出土したのみである。
時期・所見 上部をかなり削平されている。壁は北側の一部が残るのみで南側は5-74号住居跡に切られている。周溝も西側に僅かに見られたのみである。炉も前述したように土坑によって壊されていると思われる。時期は中期後半と見られる。



第102図 5-79号住居跡



第103図 5-79号住居跡出土遺物

5-80号住居跡 (第104~106図: PL19・133)

位置 L・M-22・23グリッドに位置する。重複無し。形状 ほぼ円形を呈す。

規模 345×(300)×25cm。方位 — 床面 比較的平坦で僅かに南に傾斜を持つ、硬く締まった状況は見られない。炉 ほぼ中央に検出された。径60cmで深さ20cm程掘り窪められ、下面は良く焼けている。覆土中に15cm程の角礫が検出されている。

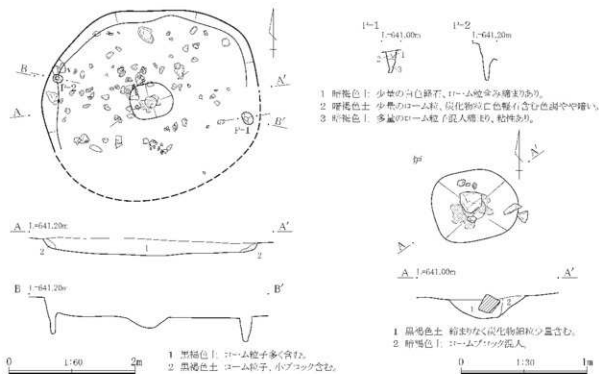
柱穴 東西の壁寄りに2本が検出された、径15~20cmで深さは40cm程である。

第3章 検出された遺構と遺物

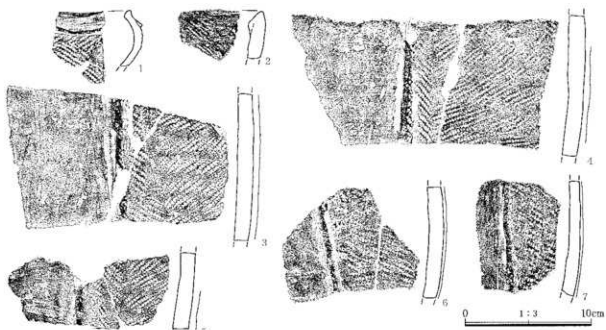
埋藏 検出されなかった。 **掘方** 土坑等は見られなかった。

出土遺物 覆土中には比較的多くの礫と若干の土器片が含まれていたが土器は小片が多かった。石器類は少く石鏃、打製石斧、磨石と石皿19が北壁寄りの床面より出土している。

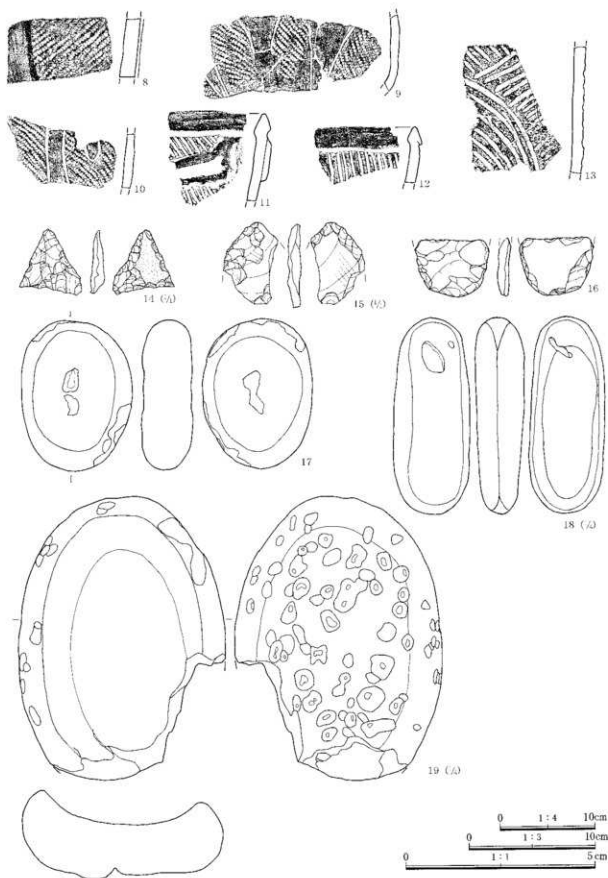
時期・所見 北よりの高い場所にやや離れて検出されている。小型の住居で2本柱穴である、南側はやや削られている。時期は中期後半か。



第104図 5-80号住居跡



第105図 5-80号住居跡出土遺物(1)



第106図 5-80号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

5-81号住居跡 (第107~110図: PL19・133・134)

位置 L・M-18・19グリッドに位置する。**重複** 西側一部に5-95号住居跡が重複し、南側に大きく5-102号住居跡が重複している。**形状** 円形と思われる。北側の壁部分のみ確認された。

規模 470×(470)×10cm。 **方位** —

床面 下位の5-102号住居跡との床面差があまり無く、明確な面として確認できなかった。

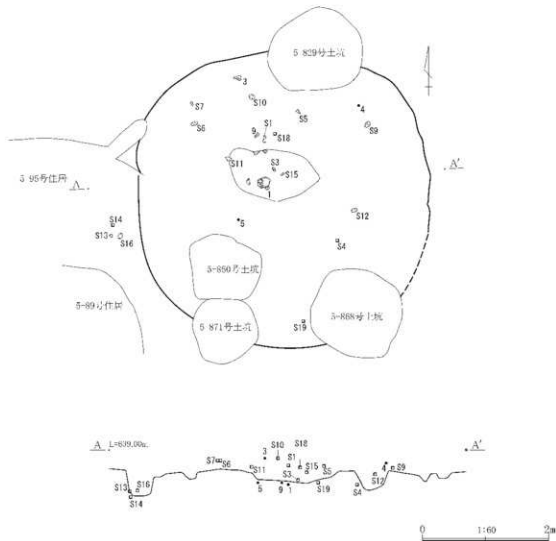
炉 ほぼ中央に検出されたが炉石等は残っておらず、長方形の掘方が検出された。下面には焼土が見られ、やや南に寄った場所に深鉢下部片が埋設土器として出土している。

柱穴 壁際に沿って6本が廻っていたものと思われるが南側2本については、土坑により壊されたものと考えられる。**埋塞** 住居南側の入り口部に検出した。口縁部を欠く深鉢胴部片が埋設されていた。

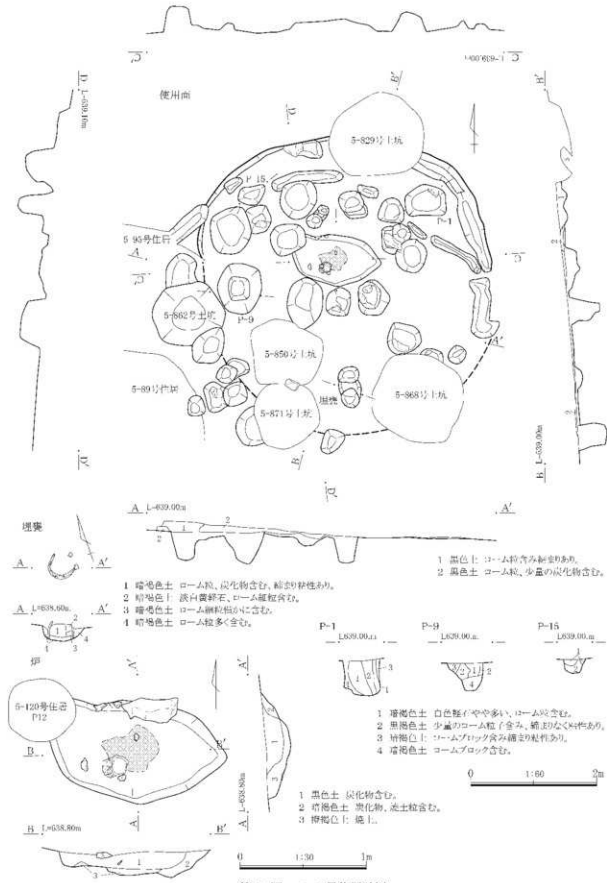
掘方 床面下に5-102号住居跡を確認した。

出土遺物 若干の土器片が出土しているが時期的に混在している。石器は比較的多く出土した。

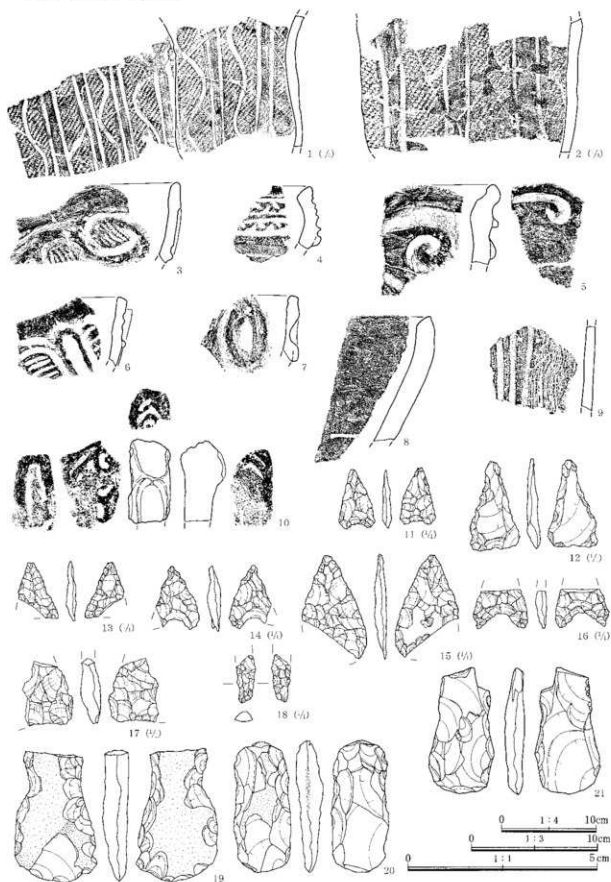
時期・所見 北側については壁の立ち上がり及び周溝を検出したが、その他の部分に付いては5-102号住居跡により削平されており、床面等は明確にできなかった。時期は埋塞、炉体土器から中期後半と見られる。



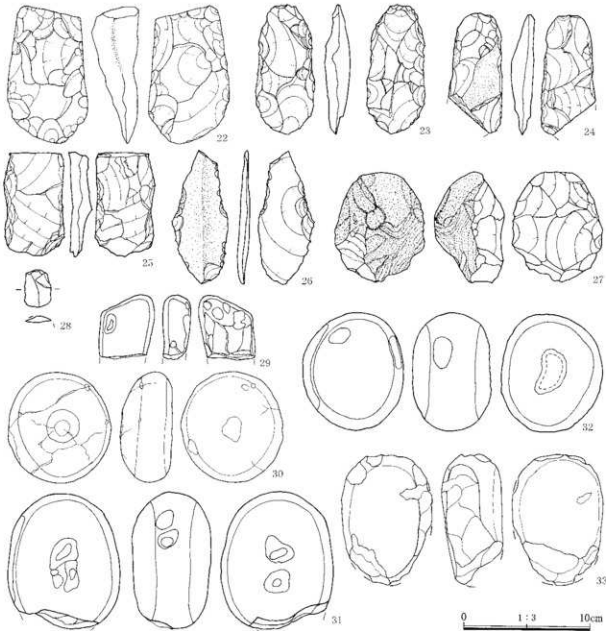
第107図 5-81号住居跡(1)



第108図 5-81号住居跡(2)



第109図 5-81号住居跡出土遺物(1)



第110図 5-81号住居跡出土遺物2)

5-82号住居跡 (第111~114図: PL19・20・134)

位置 N~P-20~22グリッドに位置する。 **重複** 中に5-78号住居跡が重複。

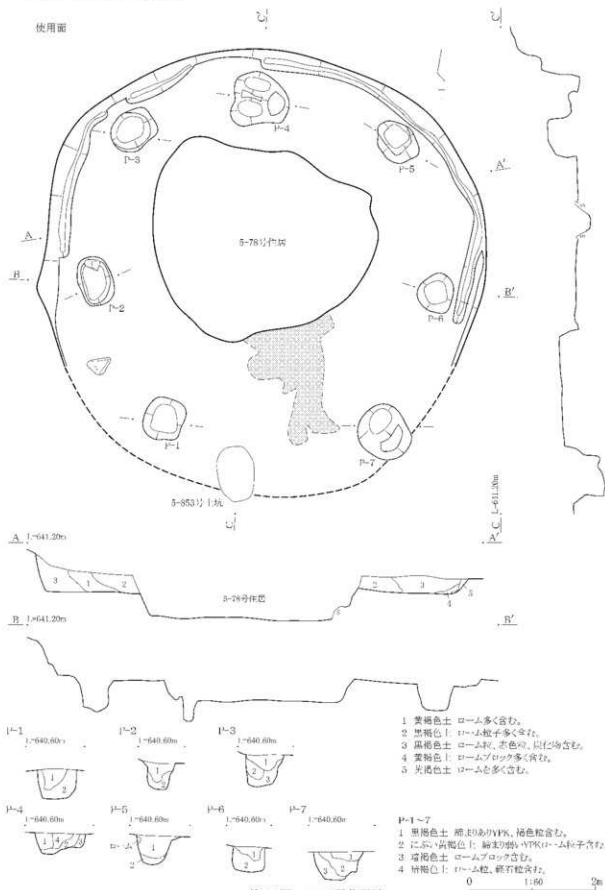
形状 円形を呈す。 **規模** (720)×690×37cm。 **方位** — **床面** 平坦で比較的締まりを持つ。5-78号住居に切られているが中央から南に向かって焼土の広がりが見出されている。北側部分に周溝がほぼ半周する。また一部貼り床が認められた。 **炉** 5-78号住居によって壊されている。

柱穴 壁に沿って7本を検出した。径70cm前後で深さは40~50cmを測る。 **埋壺** 検出されなかった。

掘方 大形の床下土坑等は検出されなかったが、住居の南側で小さな落ち込みが複数認められた。

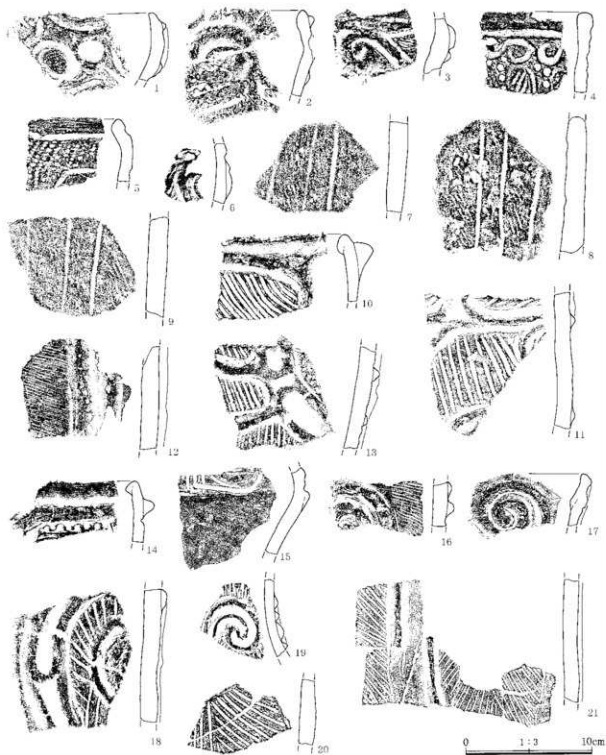
出土遺物 礫および土器片が覆土中より出土している。石器は石鏃類は見られず、打製石斧および凹石、磨石が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物



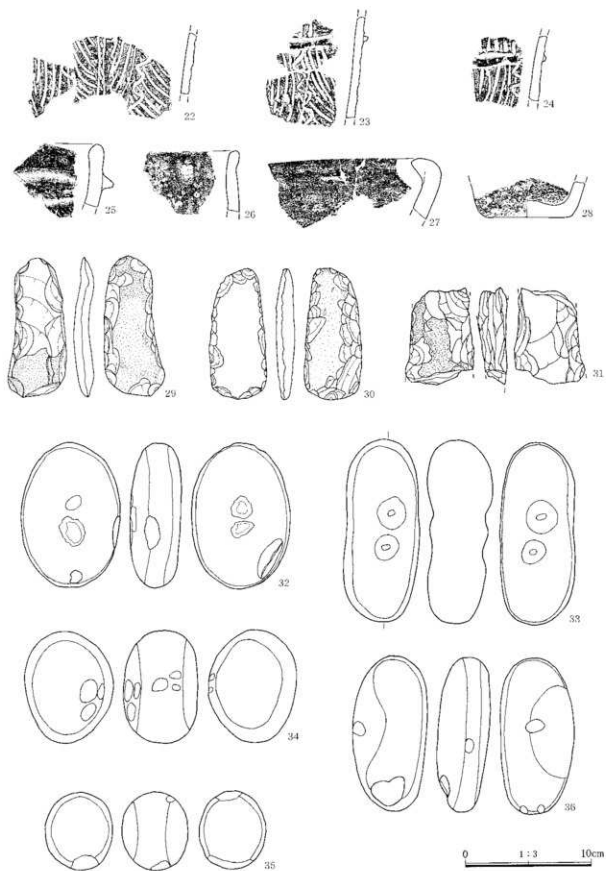
第111図 5-82号住居跡

時期・所見 入れ子状態に重複する5-78号住居跡によって、炉を含む中央部分を掘削されている。このため炉を含む中央部分は失われている。規模は比較的大型であるが、南側の壁は削平されている。出土遺物は少ない。時期は中期後半である。

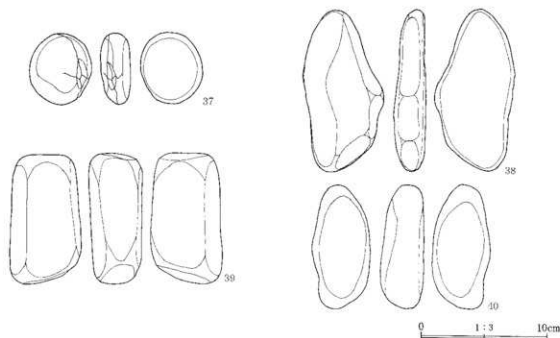


第112図 5-82号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第113図 5-82号住居跡出土遺物(2)



第114図 5-82号住居跡出土遺物③

5-83号住居跡 (第115~130図: PL20・21・134~139)

位置 M・N-14~16グリッドに位置する。 **重複** 北側の一部を水道管敷設溝によって壊されている。

形状 柄杓型を呈し、部分的に敷石が見られる。 **規模** 760×(900)×55cm。

方位 N-16°-W。 **床面** 板状の礫が壁際に沿うように点在して検出されている。中央部分は比較的平坦であるが、あまり踏みしめられた状況ではない。

炉 ほぼ中央に作られている。やや大形の礫が円形の落ち込みの周囲に置かれており、掘り下げた際に、手前側に礫が据えられた状態で検出されている。掘り鉢状の掘り込みの下部には焼土が見られた。また覆土上層から土器片が多く出土している。

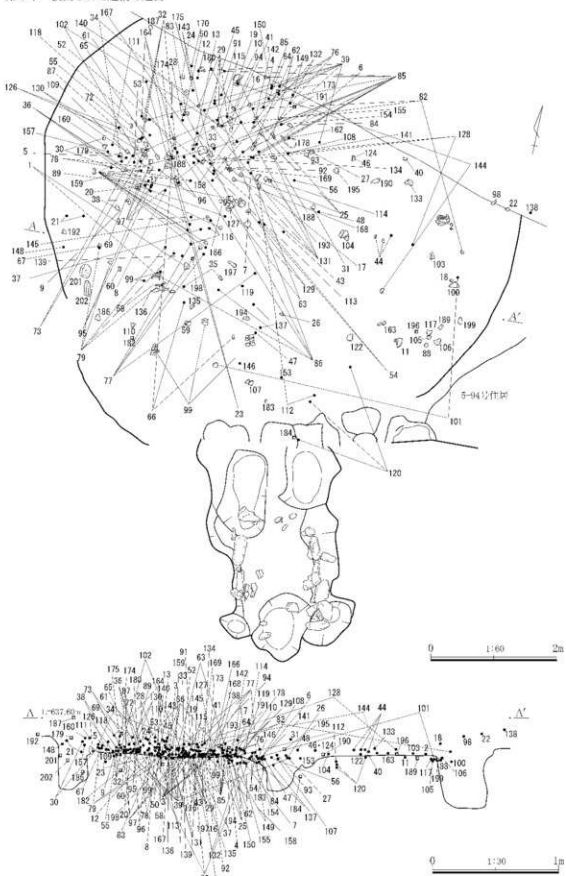
柱穴 壁下に沿って10本程確認されたが入り口部に位置するものは明確な対応関係は掴めなかった。また、壁下に検出された柱穴の中には、径が大きく、深く掘り込まれたものが2本おきに見られ主柱穴的なものと見られる。さらに炉を中心に4本の小柱穴が方形に配されており、奥にも深さ70cmの柱穴と思われる穴が検出されており、横木を支えるための柱穴と思われる。

埋藏 検出されない。 **掘方** 貼り床等は認められず、床下土坑なども検出されなかった。

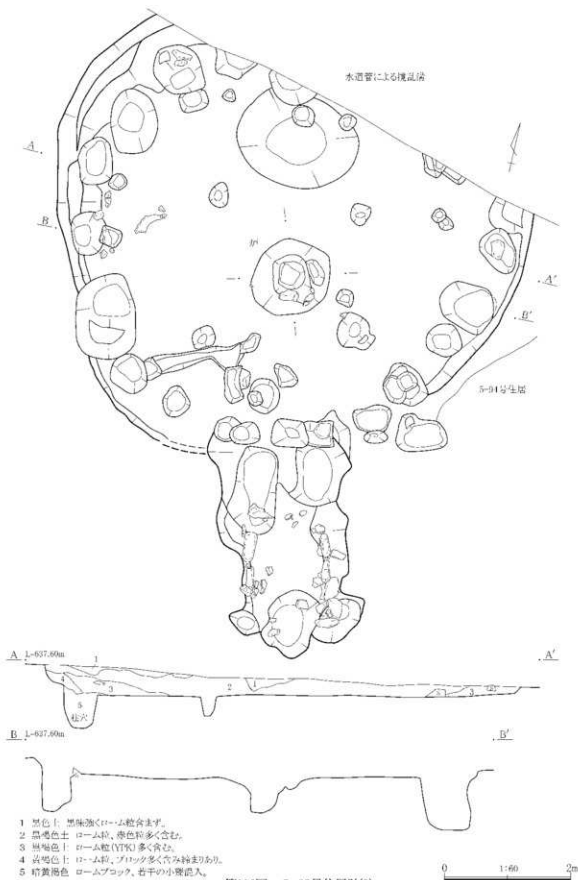
出土遺物 覆土上層から下層に掛けて多く見られた。特に住居の西側から北西部に集中して出土している。土器、石器共に多く出土した。3は蓋型土器である。沈線で対照にJ字状文書き刺突文を付している。172は土製の垂飾品で赤彩されている。石器は磨石類が多く見られ、他に石皿、多孔石さらには石冠203などが出土している。

時期・所見 柄杓型の敷石住居である。南側の張り出し部は平成8年度に5-383号配石として調査し、長野原一本松遺跡(1)(2002)において報告されているが、本住居の張り出し部として再報告した。時期は堀之内1式期と見られる。

第3章 検出された遺構と遺物

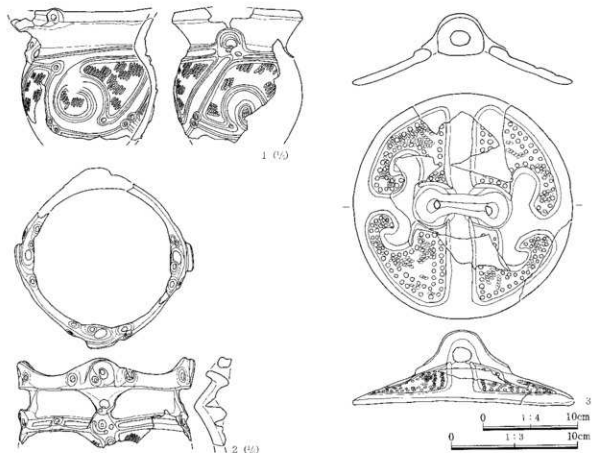
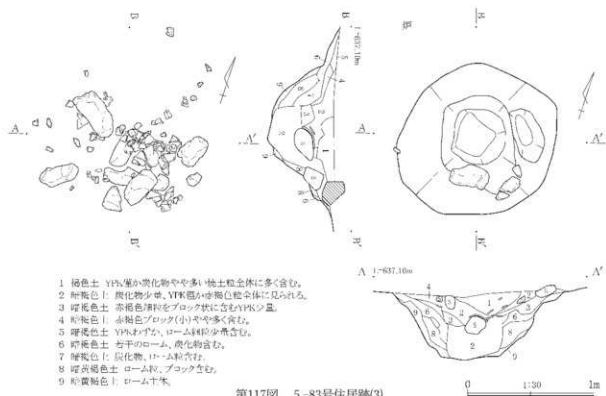


第115図 5-83号住居跡(1)



第116図 5-83号住居跡(2)

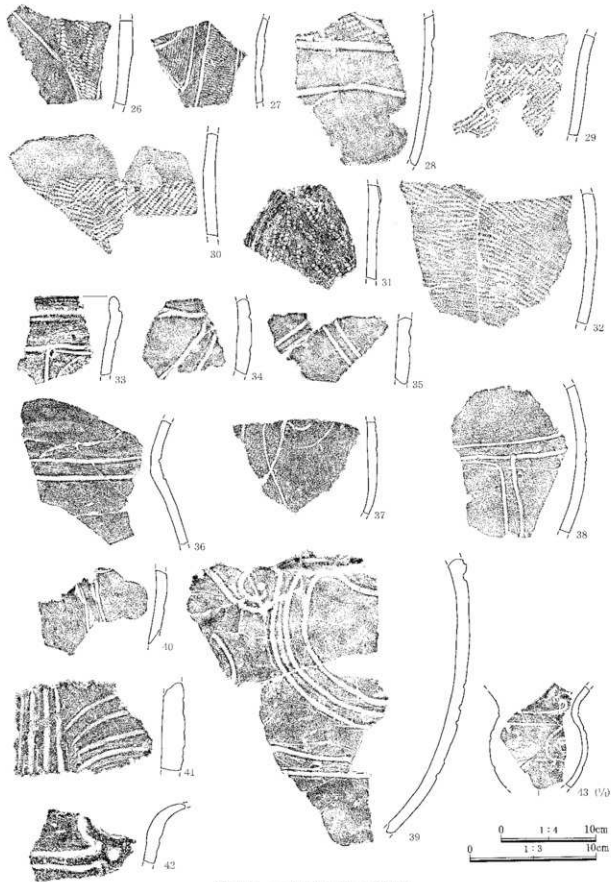
第3章 検出された遺構と遺物



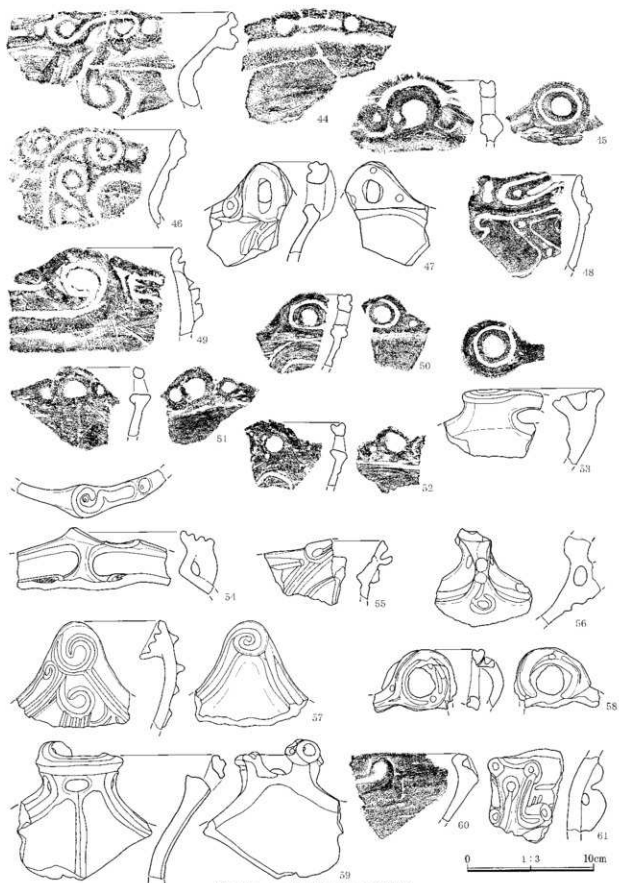


第119図 5-83号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

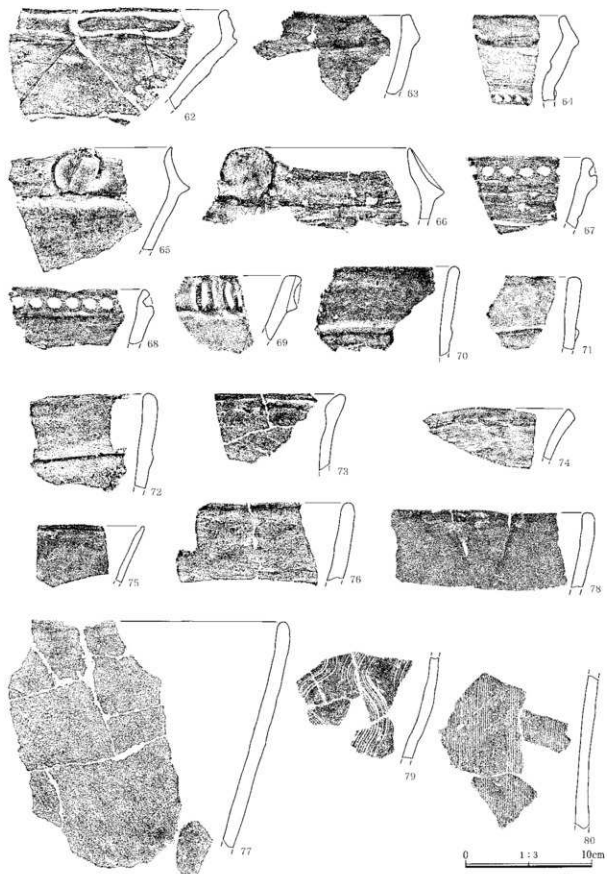


第120図 5-83号住居跡出土遺物(3)

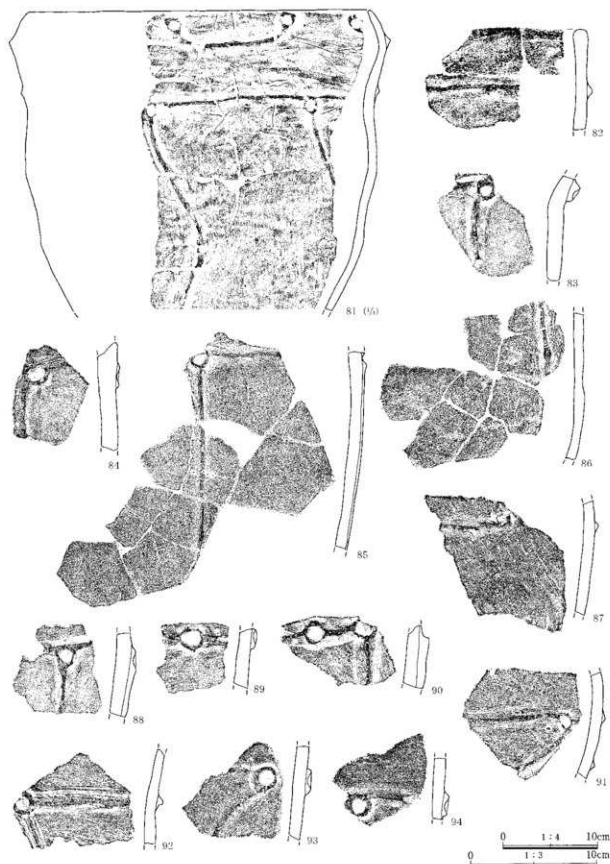


第121図 5-83号住居跡出土遺物(4)

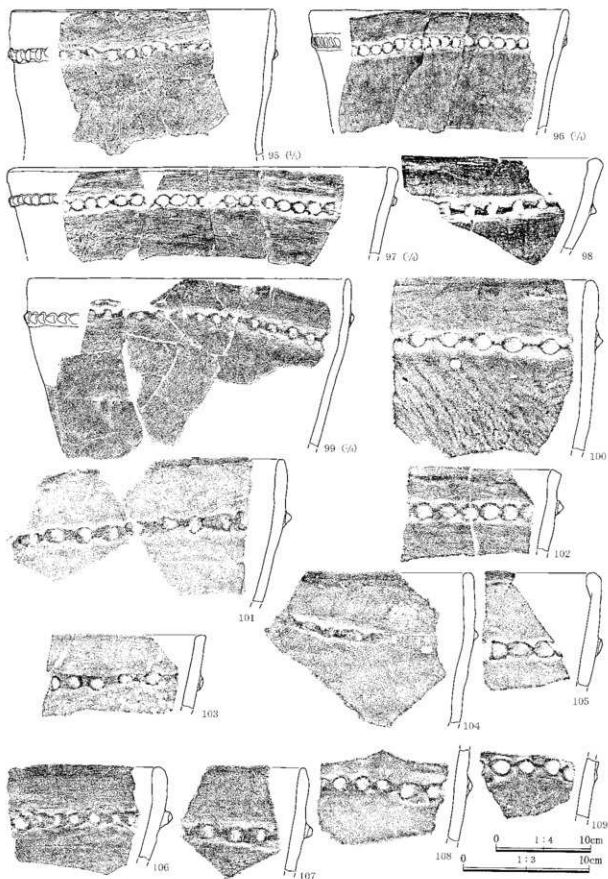
第3章 検出された遺構と遺物



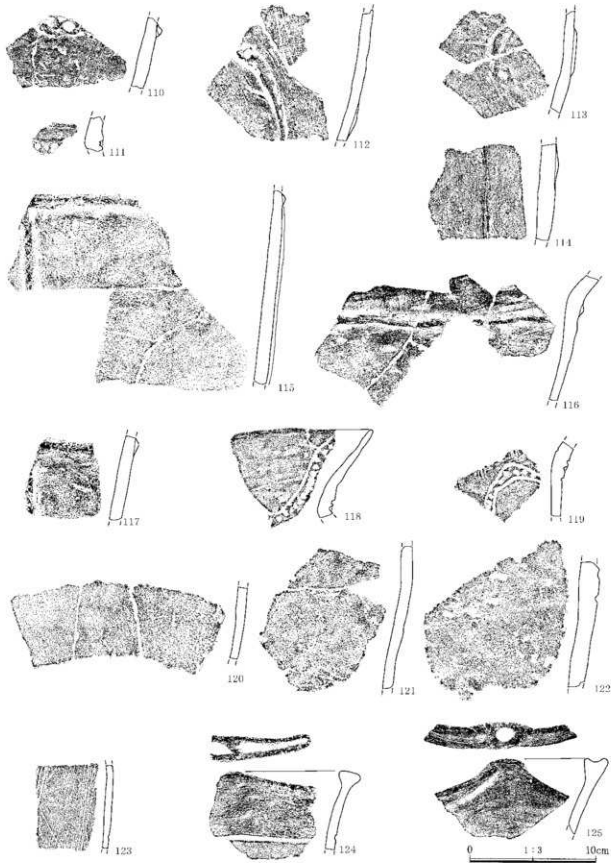
第122図 5-83号住居跡出土遺物(5)



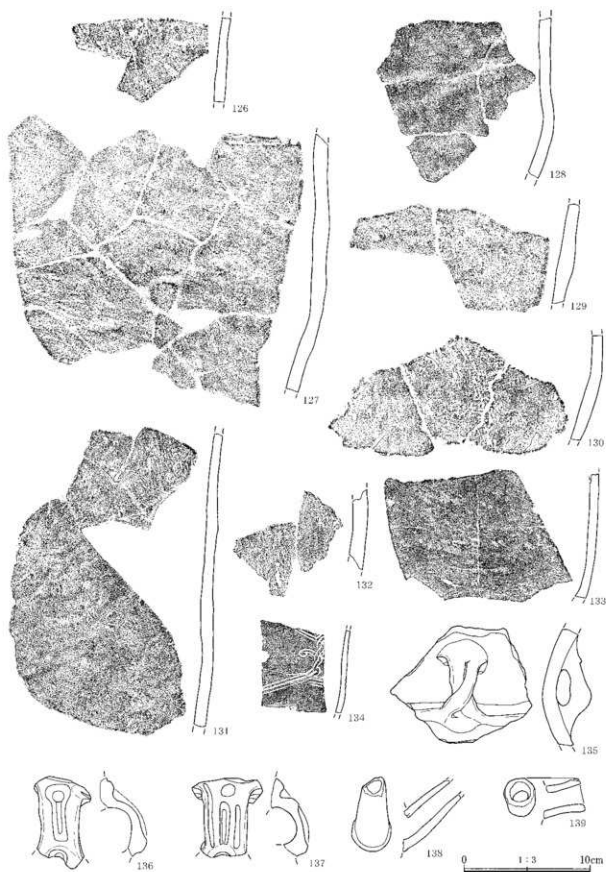
第123図 5-83号住居跡出土遺物(6)



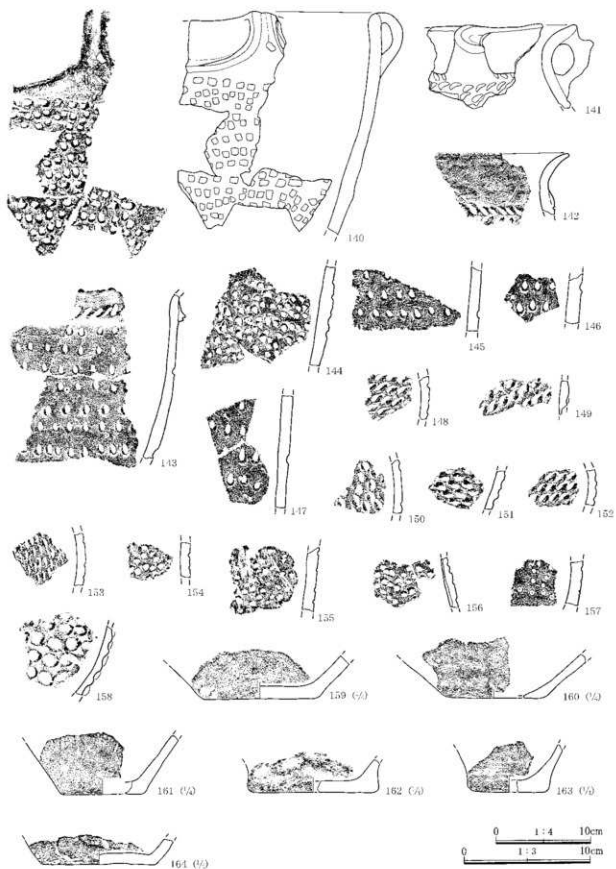
第124図 5-83号住居跡出土遺物(7)



第125図 5-83号住居跡出土遺物(8)

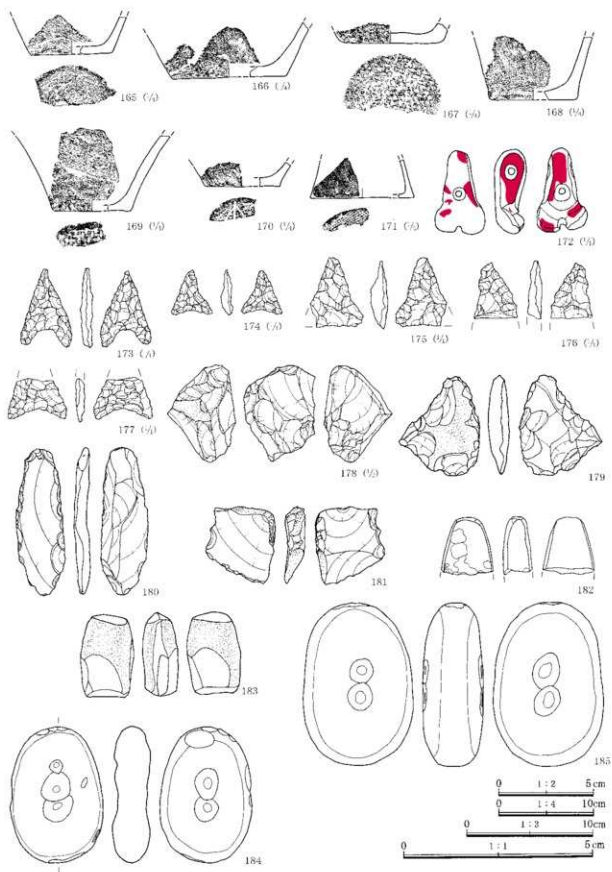


第126図 5-83号住居跡出土遺物(9)

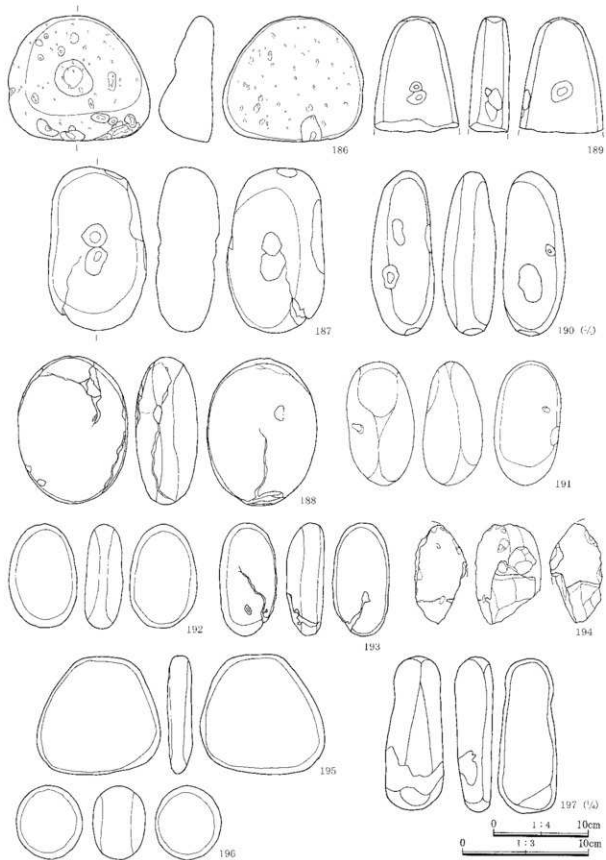


第127図 5-83号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

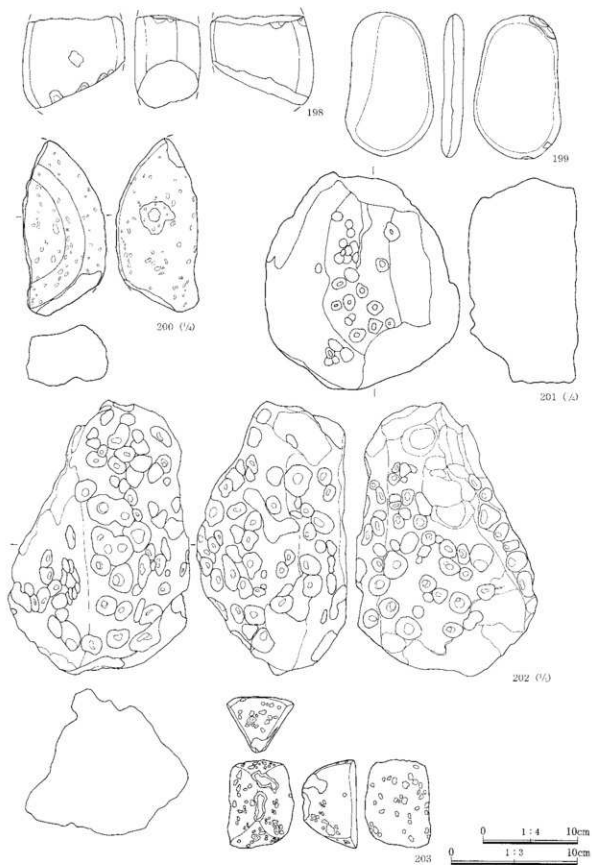


第128図 5-83号住居跡出土遺物(1)



第129図 5-83号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第130図 5-83号住居跡出土遺物図

5-84号住居跡 (第131~136図: PL22・139・140)

位置 N・O-18・19グリッドに位置する。**重複** 南に5-91・95号住居跡が重複し本址を切る。また、住居内には5-833・834・872・878・969号土坑が重複している。**形状** 円形であるがやや東西に長い。**規模** 630×(550)×40cm。**方位** -

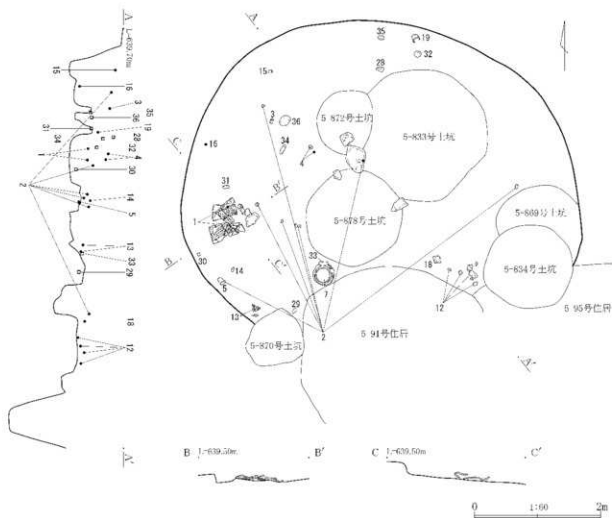
床面 重複により壊されていない部分については比較的平らで締まりも良い。壁に沿って幅約25cmの周溝がほぼ全周する。

炉 ほぼ中央に検出されているが、周囲を土坑により壊され、炉石は部分的にしか見られず、焼土化した炉の下部のみ残存していた。**柱穴** 壁に沿って6ないしは7本と思われる。

埋甕 住居の南西部に深鉢7が逆位に埋設されていた。**掘方** 床下土坑等は見られなかった。

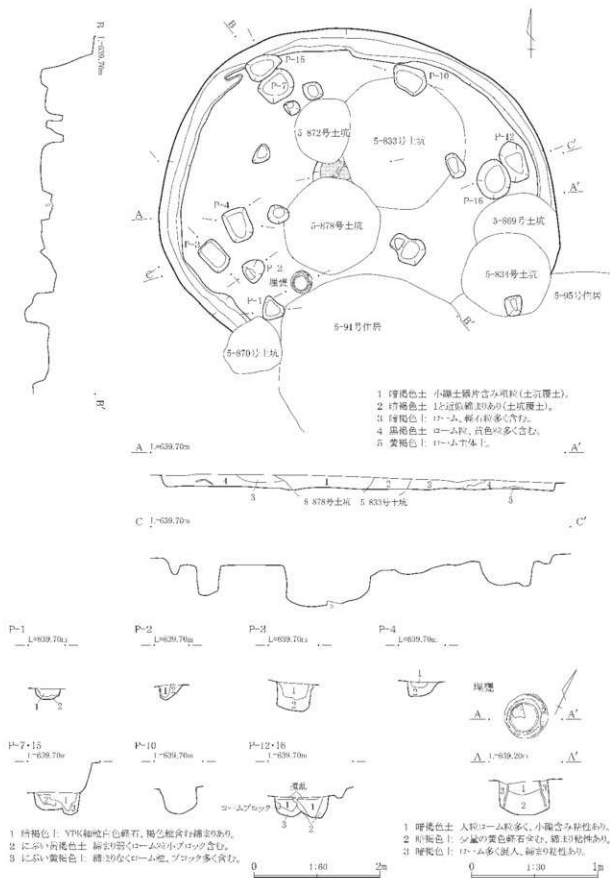
出土遺物 遺物は住居の西半分に集中して見られ、出土した土器の点数はあまり多くはなかったが、ほぼ完形の深鉢1が床面に押しつぶされた状態で住居の西壁寄りに出土。石器類は石鏃、打製石斧、磨石などが見られた。

時期・所見 南側が他の住居により壊され、また土坑5基が住居内に掘り込まれている。南部分を除く壁の立ち上がりは良好で、壁周溝も明瞭に見られる。時期は出土土器から中期後半、加曾利E3式期である。



第131図 5-84号住居跡(1)

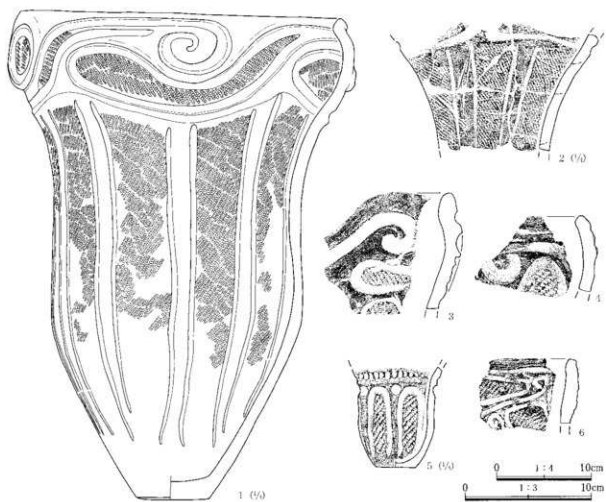
第3章 検出された遺構と遺物



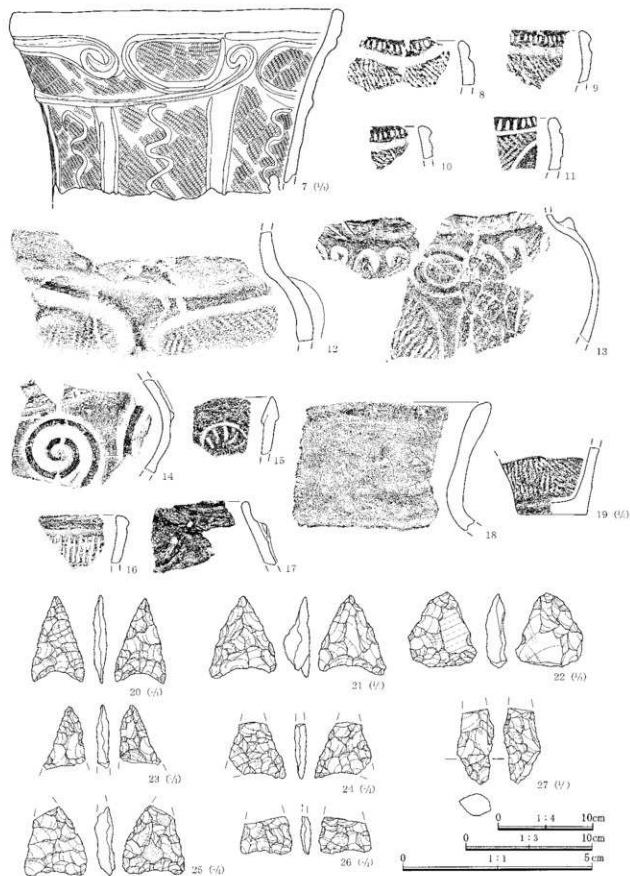
第132図 5-84号住居跡(2)



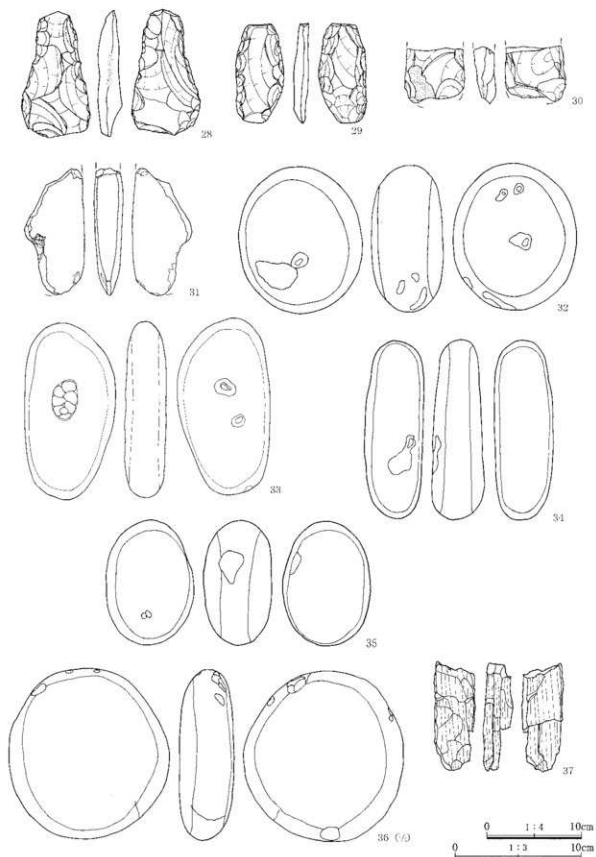
第133図 5-84号住居跡(3)



第134図 5-84号住居跡出土遺物(1)



第135図 5-84号住居跡出土遺物(2)



第136図 5-84号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

5-85号住居跡(第137~140図: PL23・140・141)

位置 O・P-17・18グリッドに位置する。**重複** 5-116号住居跡の南に重複、南壁中央部は5-84号土坑によって壊される。また、西側部分に幅40cmほどの攪乱溝が南北に走る。

形状 やや隅丸方形を呈す。**規模** 470×430×35cm。**方位** N-9°-E

床面 比較的硬く締まったローム地で、やや南が低くなる。周溝がほぼ全周している。

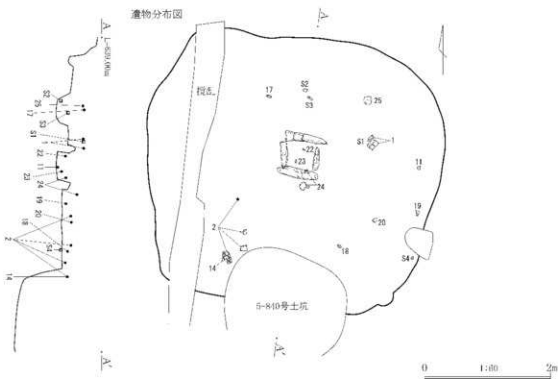
炉 中央やや北に作られている。平石の長辺部を上にし、四角に組んでいる。南北の石がやや長く、一辺約70cmである。

柱穴 ほぼ方形に配置された主柱穴4本を検出した。径約50cm、深さは40~50cmで南側の2本がやや深く掘り込まれている。竈の奥に1本検出したが、掘り込みが浅く補助的なものか。

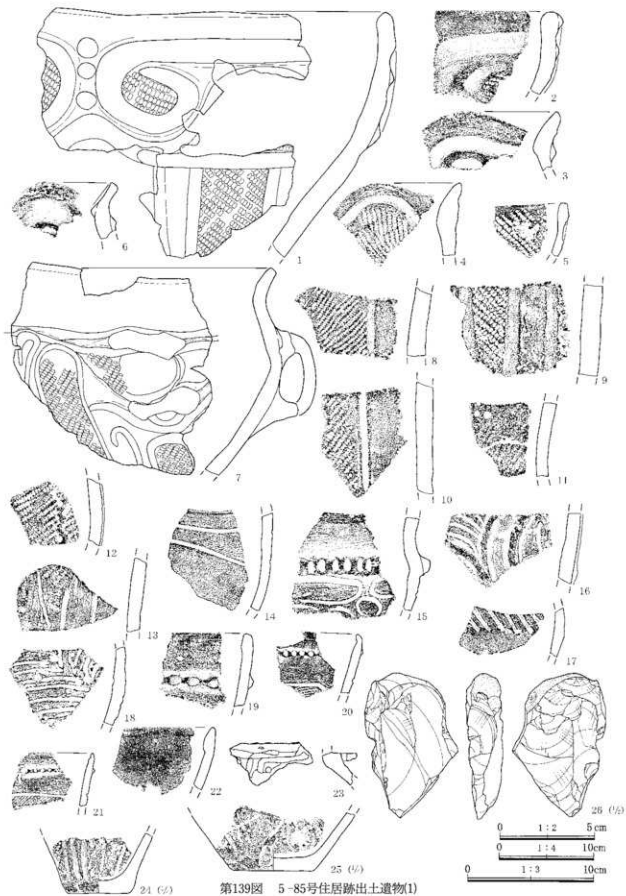
埋塞 検出されなかった。**掘方** 土坑等の落ち込みなどは見られない。

出土遺物 出土点数は少なかった。土器の小破片と石器も石鏃や打製石斧類も見られず僅かにやや大きな黒曜石片と被熱した磨石のみである。

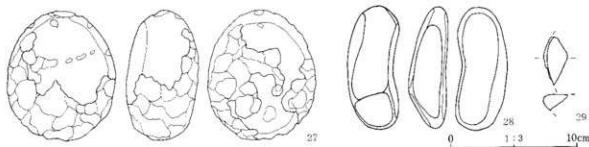
時期・所見 南側に土坑が重複し一部壊されてはいたが、全体に遺存状態は良い。形状がやや隅丸のほぼ方形を呈し、壁の立ち上がりも垂直に近く、しっかりとしていた。5-71号住居跡も本址に近い形状である。時期は出土した土器から中期後半と見られる。また、5-6号掘立柱建物の西側棟持ち柱の推定位置が本址の北東柱穴部に想定される。柱穴の周囲に浅く一回り大きな掘り込みが見られ、掘立柱建物の柱穴と推定された。調査時には鏝などが出土している。



第137図 5-85号住居跡(1)



第139図 5-85号住居跡出土遺物(1)



第140図 5-85号住居跡出土遺物(2)

5-86号住居跡 (第141・142図: PL23・141)

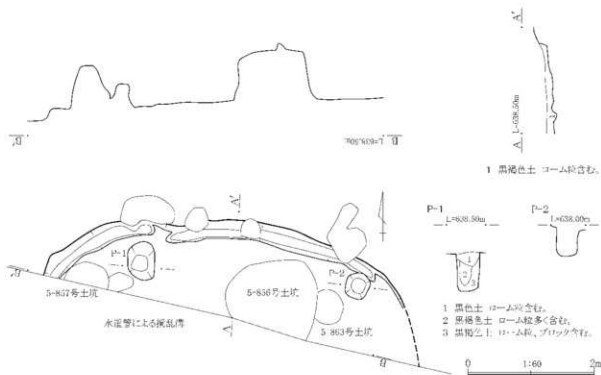
位置 N・O-16・17グリッドに位置する。**重複** 住居の中央部分を東西に横断する水道管敷設溝によって大きく壊されており、南東部は5-83号住居跡によって切られる。敷設溝の南側はかなり削平されており残りは悪い。**形状** 円形を呈すと見られる。**規模** (460)×(460)×20cm。**方位** —

床面 僅かに確認できた北部分において確認されたが、土坑等の重複もあり、凹凸が顕著である。壁周溝が検出されている。**炉** 中央を横断する水道管敷設溝中にあると思われ、確認されなかった。

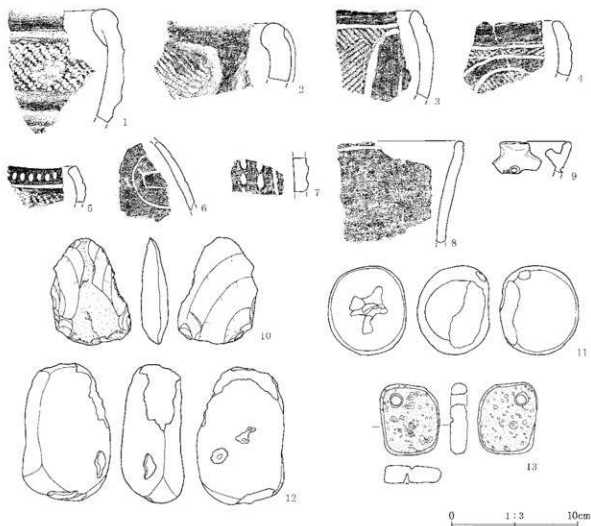
柱穴 北側壁際に2本を確認した。**埋壘** 確認されない。**掘方** 南部分において大小のピットが検出されている。

出土遺物 部分的な調査のため少ない。若干の土器、石器が出土。13は軽石製品である。板状の方形で隅に円孔を有す。

時期・所見 後世の掘り込みや削平によってかなり遺存状態が悪い。5-856・857号土坑が重複する。検出したのは北側の一部分のみである。水道管敷設溝の南側に付いても掘り込みなどは確認できなかった。時期は中期後半か。



第141図 5-86号住居跡



第142図 5-86号住居跡出土遺物

5-87号住居跡 (第143~146図: PL24・141)

位置 K・L-16・17グリッドに位置する。 **重複** 北西部分に5-88号住居跡が重複する。また、南には5-817号土坑があり一部が壊されている。 **形状** 隅丸の矩形を呈す。 **規模** 450×(450)×50cm。

方位 N-23°-W

床面 北側が5-88号住居跡によって削平されているが、他の部分については比較的平坦で、縮まりもある。幅20cm程の周溝がほぼ全周している。

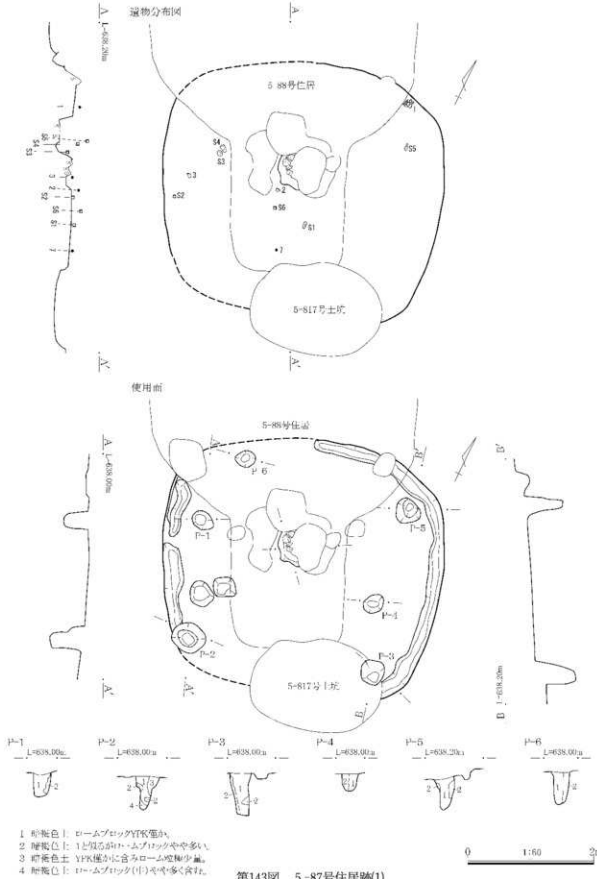
炉 住居の中央に作られているが、5-88号住居跡の入り口部の柱穴により大きく壊されていた。炉石と思われる数点の礫と焼土面が僅かに確認されている。

柱穴 隅に掘り込まれた4本と考えられる。径40~50cmで深さはおよそ60cmである。

埋壙 検出されなかった。 **掘方** 床下土坑等は見られない。

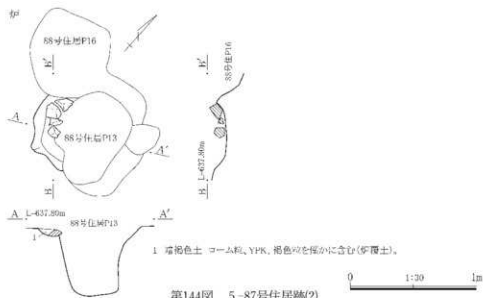
出土遺物 少なかった。若干の土器片と石鏃、磨石類である。

時期・所見 5-88号住居跡が北側から中央部分にかけて重なった状態で、炉もかなり壊れた状況であった。東西の立ち上がり部分は比較的残っており、周溝、壁の立ち上がりが検出されている。時期は中期後半。

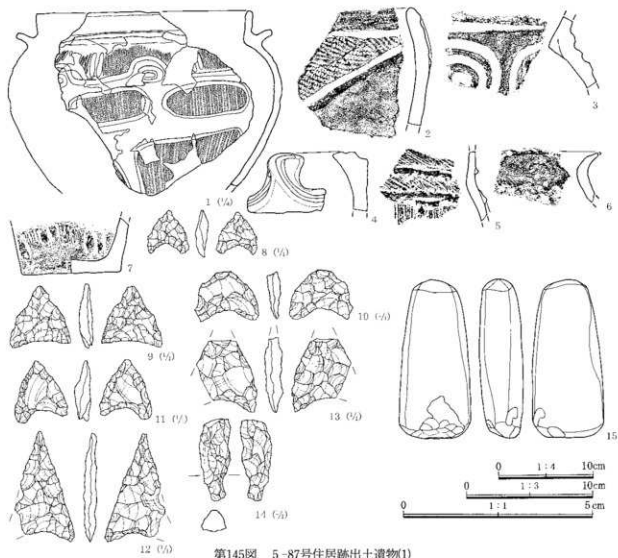


第143図 5-87号住居跡(1)

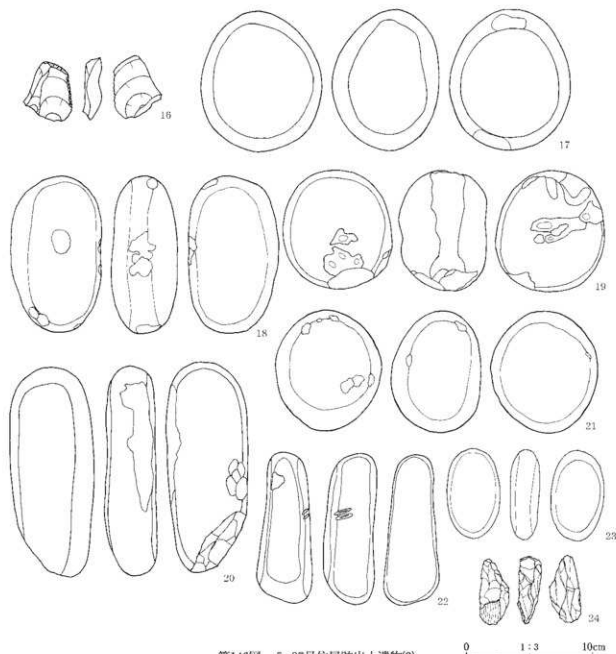
第3章 検出された遺構と遺物



第144図 5-87号住居跡(2)



第145図 5-87号住居跡出土遺物(1)



第146図 5-87号住居跡出土遺物(2)

5-88号住居跡 (第147~153図: PL25・26・141・142)

位置 L・M-17・18グリッドに位置する。 **重複** 北壁部には5-868号土坑が、西壁部分には5-859号土坑が重複する。南側のかなりの部分が5-87号住居跡の上に重複して作られている。

形状 5-87号住居跡と重複していた為に形状は確定できなかったが、柄鏡形の敷石住居と見られる。

規模 (600)×430×53cm。 **方位** N-27°W

床面 主体部、張り出し部ともに明確な敷石はほとんど確認できなかったが、炉の周囲および張り出し部には扁平な礫が点在していた。床面は平坦でしっかりとしていた。

炉 主体部ほぼ中央に作られていた。手前にやや扁平な石を置き、左右に礫を横向きに据えた方形の石囲い炉であるが、北側に重複して土坑が掘り込まれ、炉石を含め一部が壊されていた。南側の炉石には平らな石

第3章 検出された遺構と遺物

が据えられており、南西角には石棒がやや頭を北側に傾けた状態で立てられていた。炉の中には深鉢の胴下部1が炉体土器として据えられていた。炉体土器の周辺および炉内壁には焼土層が確認されている。

柱穴 壁に沿って円く掘り込まれた8本と、接合部両脇の2本の計10本と考えられる。炉の左右に各1本ずつの掘り込みがあるがいずれもやや浅く、補助的なものか。 **埋壘** 検出されなかった。

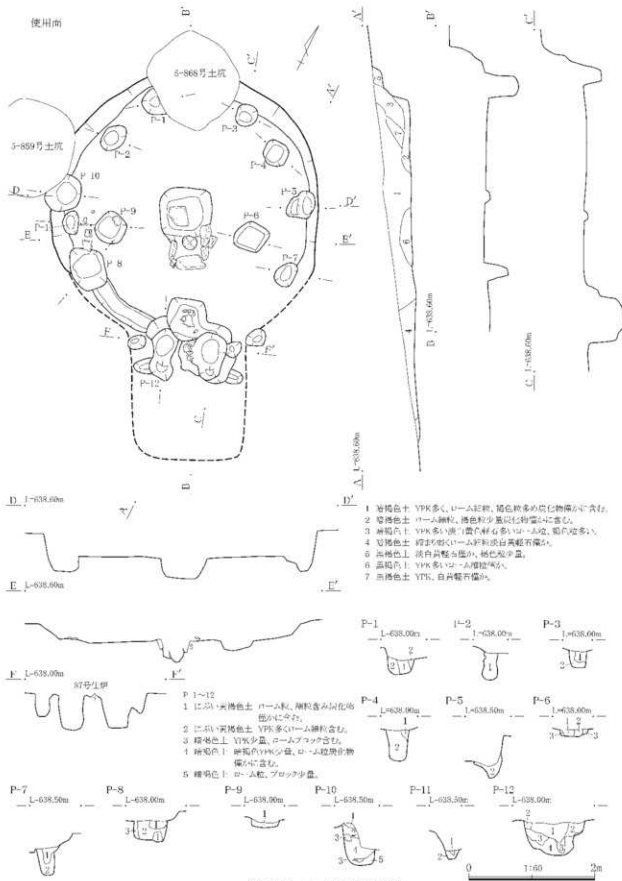
掘方 主体部と張り出し部接合部にいわゆる対ビットが検出されている。これらの北に接するP16については一辺約60cm、深さ約25cmで底に平らな石が敷かれた状態で出土していることからいわゆる箱形石組み遺構と判断される。炉の北側に不定型な掘方を持った土坑が検出され、底には数個の礫が見られた。住居よりは旧いと思われるが性格は不明である。

出土遺物 あまり多くはなかったが、注目される遺物としては蓋型土器がある。石器類は石棒47の他に若干の打製石斧、磨石、多孔石が見られる。磨石類については、ほとんどが被熱しており注目される。

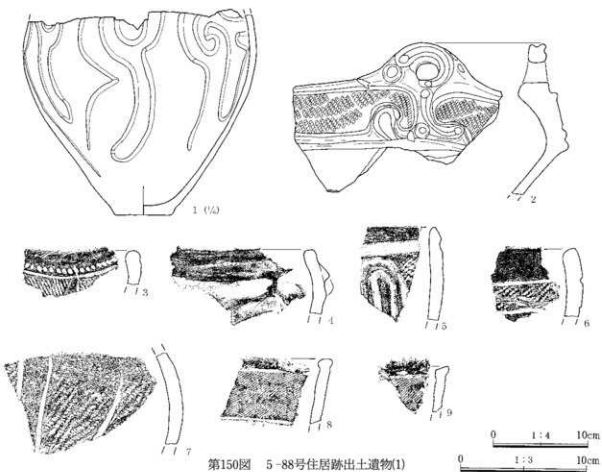
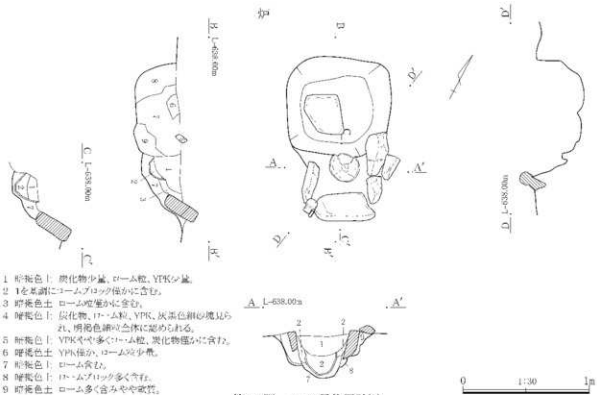
時期・所見 柄鏡形の敷石住居である。張り出し部が他の住居内上に作られていたために、形状については確定できなかった。炉に緑泥片岩製の石棒が据えられる。時期は炉体土器から堀之内1式期と判断される。

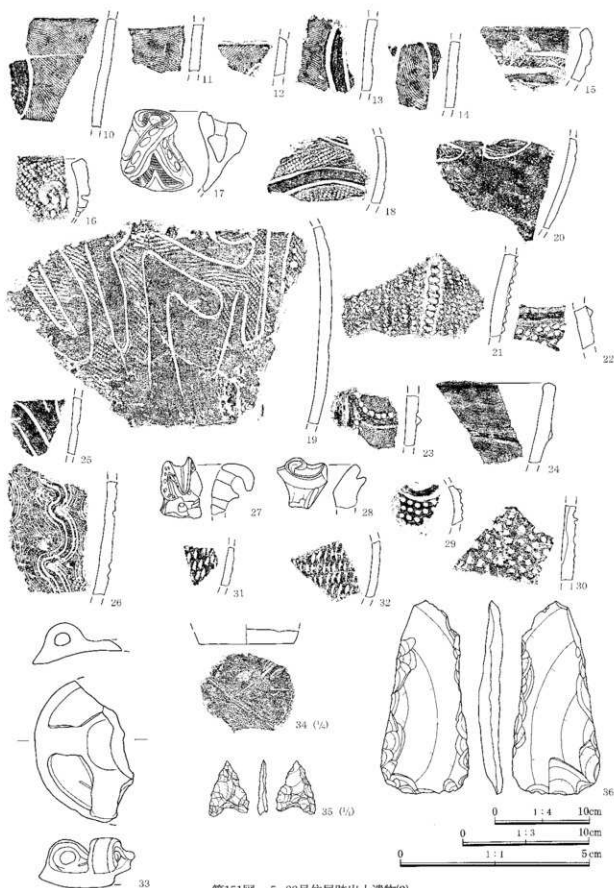


第147図 5-88号住居跡(1)

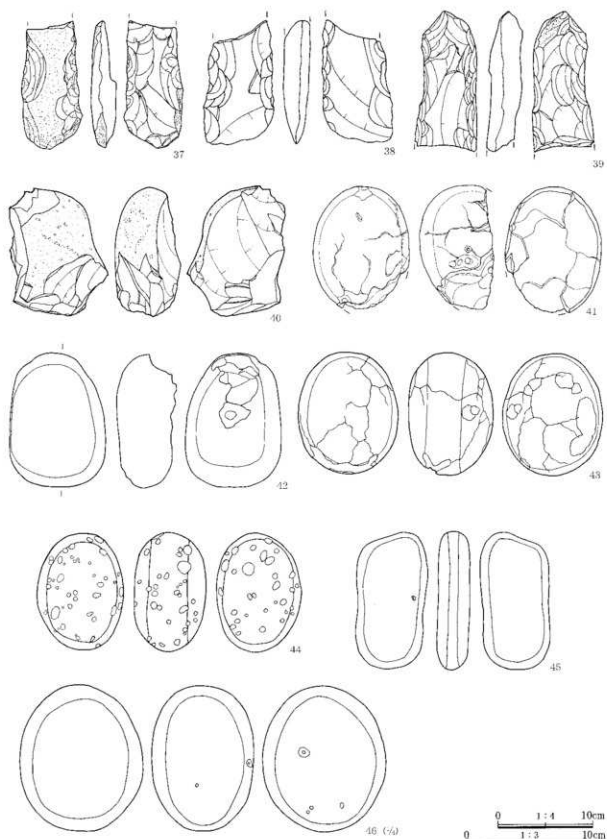


第148図 5-88号住居跡(2)

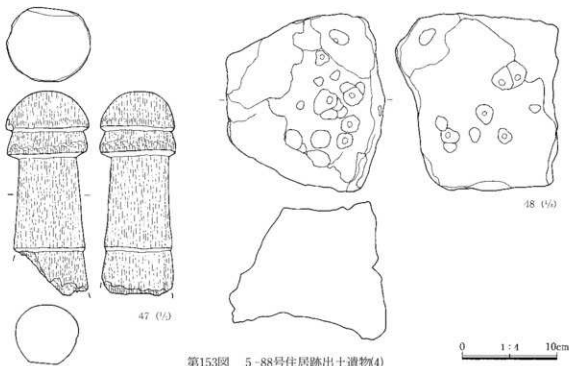




第151図 5-88号住居跡出土遺物(2)



第152図 5-88号住居跡出土遺物(3)



第153図 5-88号住居跡出土遺物(4)

5-89号住居跡 (第154・155図：PL26・142・143)

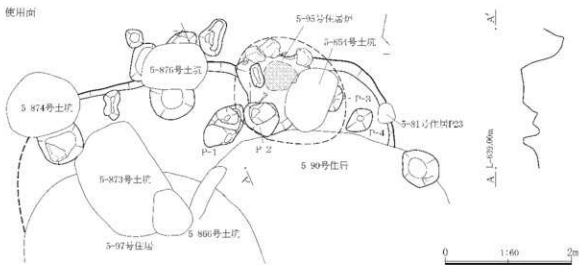
位置 M・N-17・18グリッドに位置する。**重複** 北側部分に重なって5-95号住居跡、南側は5-90・97号住居跡が重複し削平されており、さらに南側は5-86号住居跡によって切られている。

形状 検出した北側の掘り込みラインはやや直線的であるが、おそらく円形を呈すものと考えられる。

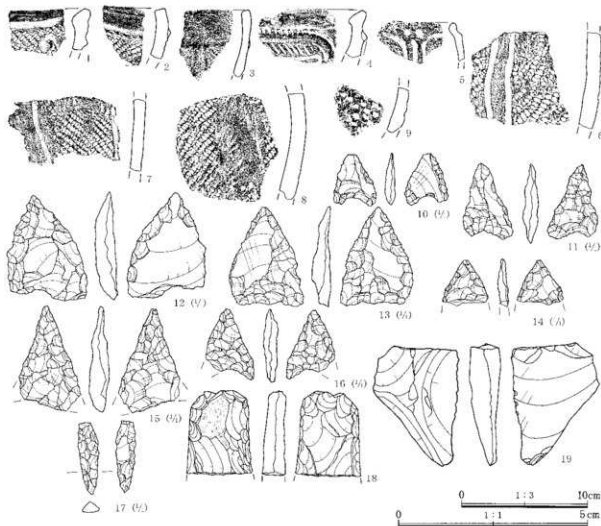
規模 推定径660cm。**方位** — **床面** 大部分は他の住居によって削られている。僅かに残存する北側では比較的平らでやや硬化した部分も認められた。**炉** 検出されなかった。**柱穴** 北壁際に3本を検出、他は推定ラインの内側に沿って3本を認定した。**埋篋** 検出されなかった。

掘方 床面下の土坑等は見られなかった。**出土遺物** 本址に帰属すると判断されたものは少なかった。

時期・所見 複数の住居によって削平された部分が多く、全容は明確にできなかった。時期は中期後半か。



第154図 5-89号住居跡



第155図 5-89号住居跡出土遺物

5-90号住居跡 (第156~159図: PL26・143)

位置 M・N-17グリッドに位置する。 **重複** 西側で5-97号住居跡と重複しこれを切っている。

形状 円形と思われる。 **規模** (430)×(430)×20cm。 **方位** N-10°-E

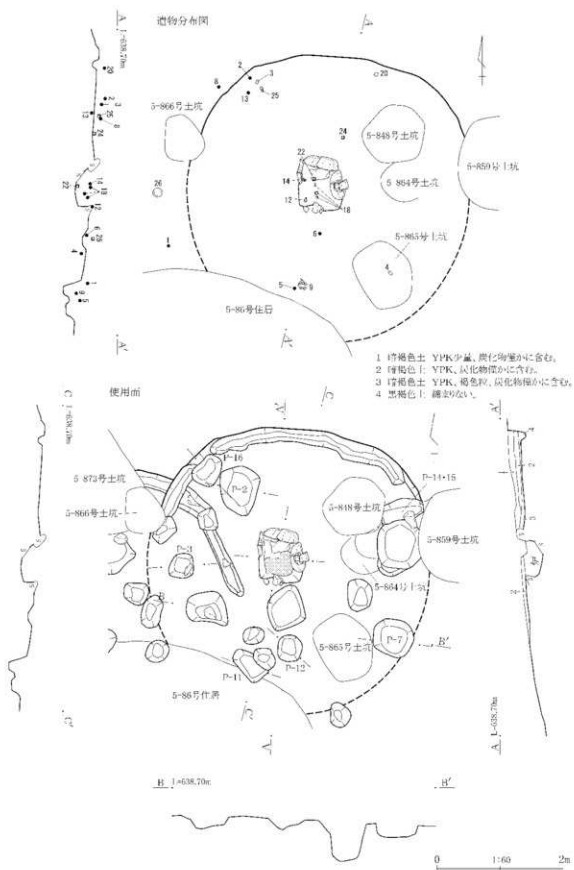
床面 住居内に多くの土坑、重複する住居の柱穴などの掘り込みが多く、遺存部分は少ないが面は平坦で比較的締まりを有す。北壁下に周溝が検出されている。南側については壁及び一部床面も削平を受けている。

炉 ほぼ中央に作られている。四角に石を配した石囲い炉であると見られるが、一部南側の石は上位に構築された5-95号住居跡の柱穴等の掘り込みにより壊されている。残った炉石は被熱によってひび割れが著しく、掘方は方形で下面には焼土を検出。炉体土器は見られない。 **柱穴** 6本か。

埋藏 検出されない。 **掘方** 床下土坑等は見られず。

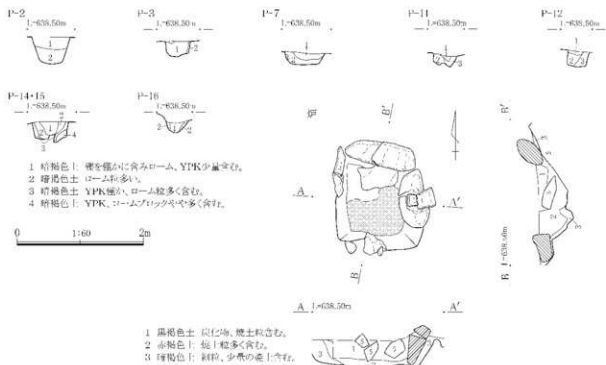
出土遺物 重複もあり全体に出土遺物は少なかったが、柱穴内より比較的大型の土器片が出土している。

時期・所見 調査の初期段階では遺物集中範囲として調査を進め、最終的に本址の確定に至った状況である。このため遺物についてはあらためてその帰属認定を進めた。時期は出土土器から中期後半と考えられる。

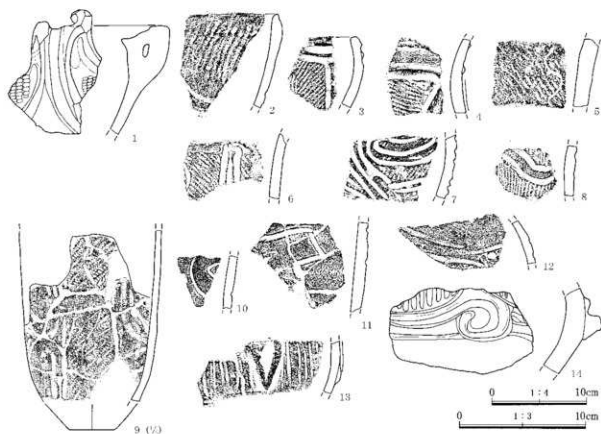


第156図 5-90号住居跡(1)

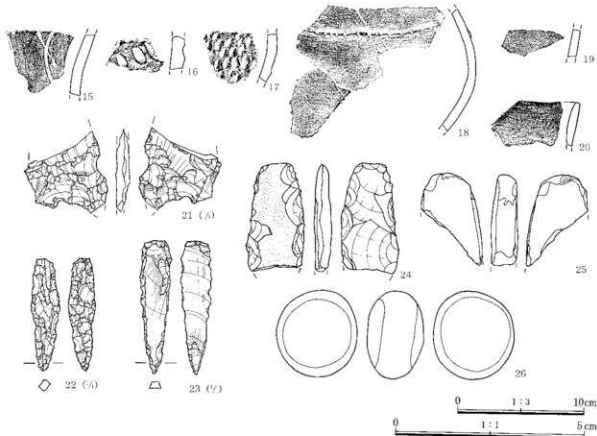
第3章 検出された遺構と遺物



第157図 5-90号住居跡(2)



第158図 5-90号住居跡出土遺物(1)



第159図 5-90号住居跡出土遺物②

5-91号住居跡 (第160・161図: PL27・143)

位置 N・O-18グリッドに位置する。 **重複** 東側上部を5-95号住居跡に切られる。さらに5-874~877号土坑が重複して掘り込まれていた。

形状 やや小型で円形を呈すと思われる。 **規模** (300)×(300)×30cm。 **方位** —

床面 遺存部分については平坦で比較的硬化な面として確認された。北壁下に部分的に途切れる周溝を検出している。

炉 ほぼ中央に作られていたものと考えられるが、5-875号土坑により本体部分をほとんど壊されている。僅かに底部の焼土面を確認したに過ぎない。

柱穴 西壁際に掘り込まれたP-2および東側に検出されたP-7の2を主柱穴と考える。

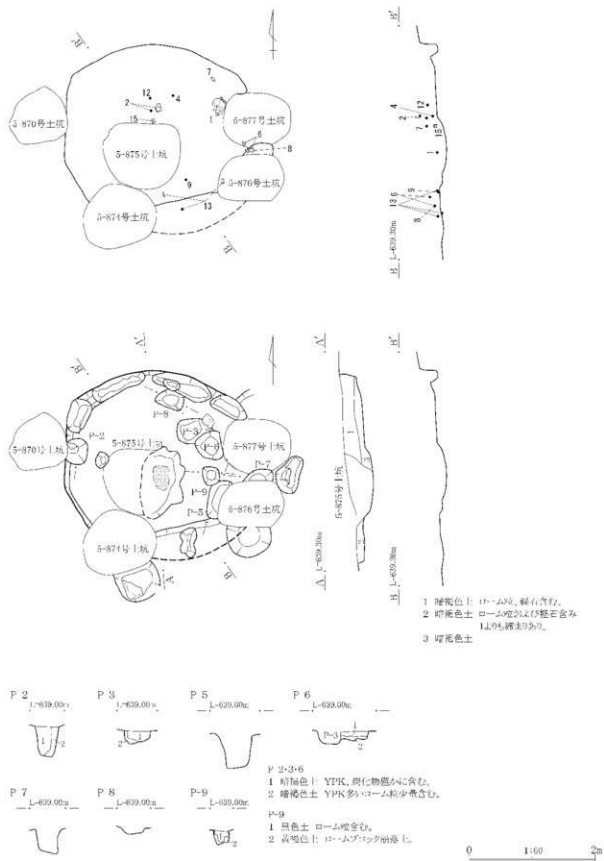
埋壘 検出されない。

掘方 床下の掘り込みはほとんど認められなかった。

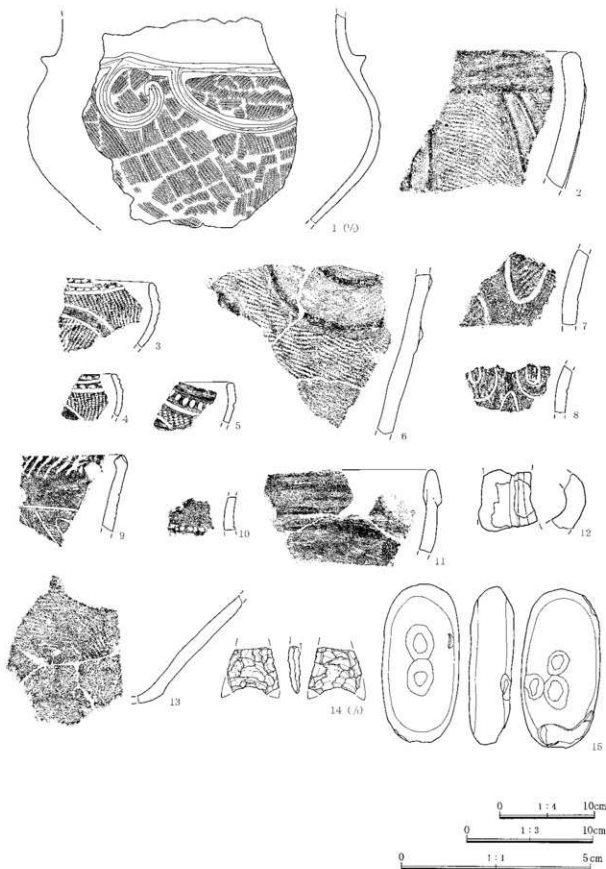
出土遺物 出土土器および石器は少なかった。1は広口の深鉢で住居の東よりの床面上で出土している。石器は石鏃および凹石各1点のみである。

時期・所見 小型の住居である。住居や土坑の重複により、残りはあまり良くなかった。時期は中期後半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第160図 5-91号住居跡



第161図 5-91号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-92号住居跡 (第162~167図: PL27・143~145)

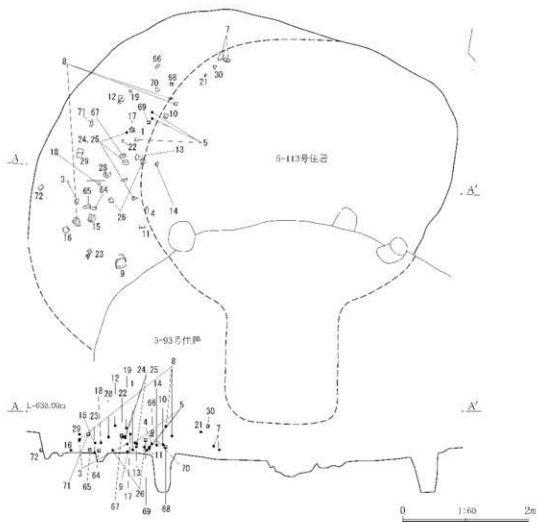
位置 J・K-16・17グリッドに位置する。**重複** 東側を大きく5-113号住居跡に切られ、南側は5-93号住居跡に切られる。**形状** 円形を呈すと思われる。**規模** (600)×(600)×40cm

方位 N-0° **床面** 残存する西側の一部では比較的平坦な面を確認した。周溝が2重一部3重に廻っている。**炉** 位置的にはやや北寄りに作られていた。重複する5-113号住居跡内にあり上部を削平されていた。残存する掘方下部と、落ち込んだ炉石、焼土を検出したが出土遺物は見られなかった。

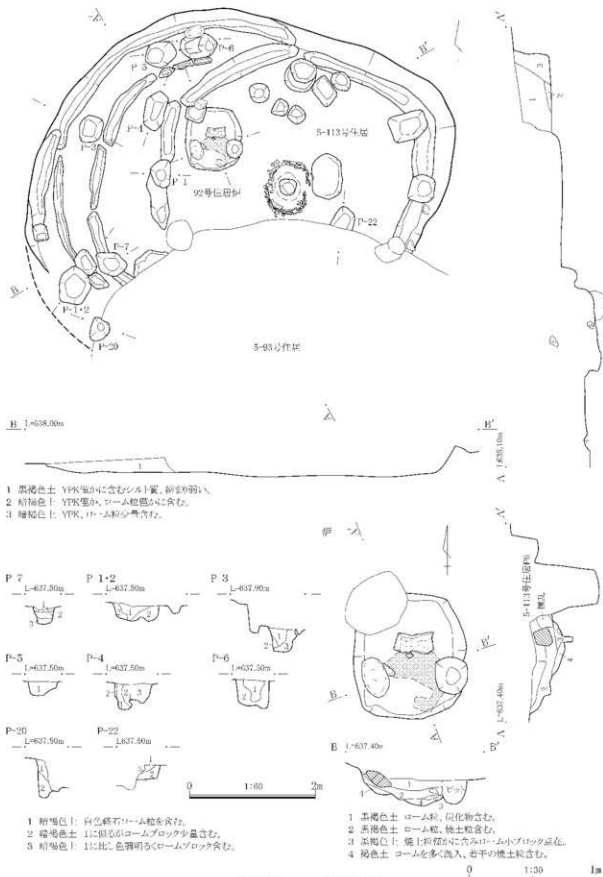
柱穴 拡張された痕跡が認められる。内側周溝内に3本を、外側に5(6)本を検出した。手前側は5-93号住居跡により削平されていた。**埋壘** 検出されなかった。**掘方** 床面下に土坑等は見られなかった。

出土遺物 出土遺物はあまり多くはなかった。石器類は石鏃が多く、石冠72や軽石製品73が見られる。

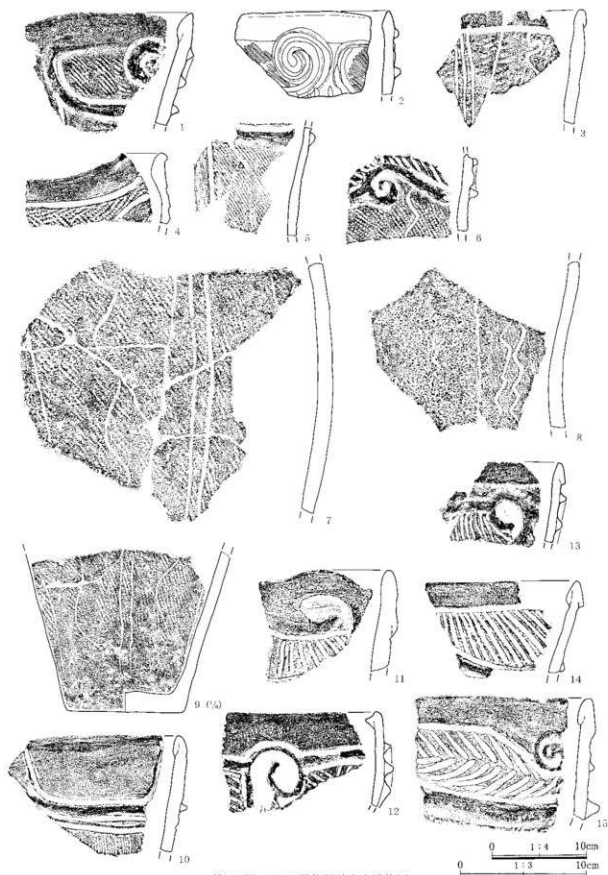
時期・所見 東および南側が重複する住居に切られており、検出されたのは全体の3分の1ほどである。炉は重複する5-113号住居跡の床面下から検出されている。西側壁の形状、炉の位置などから推定して、比較的大型の住居であったと思われる。周溝が2重廻ることから拡張されたものと判断される。時期は出土土器から加曾利E3式期と考えられる。



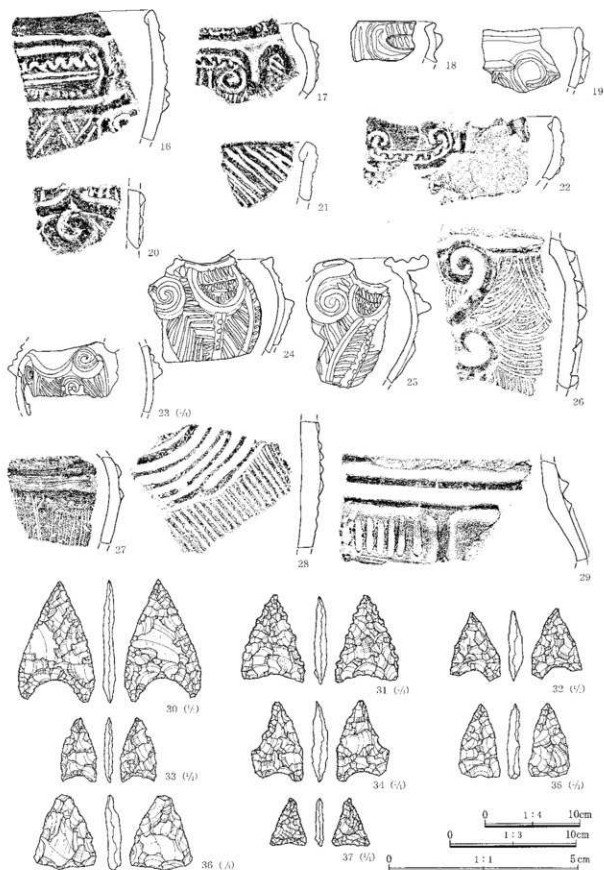
第162図 5-92号住居跡(1)



第163図 5-92号住居跡(2)

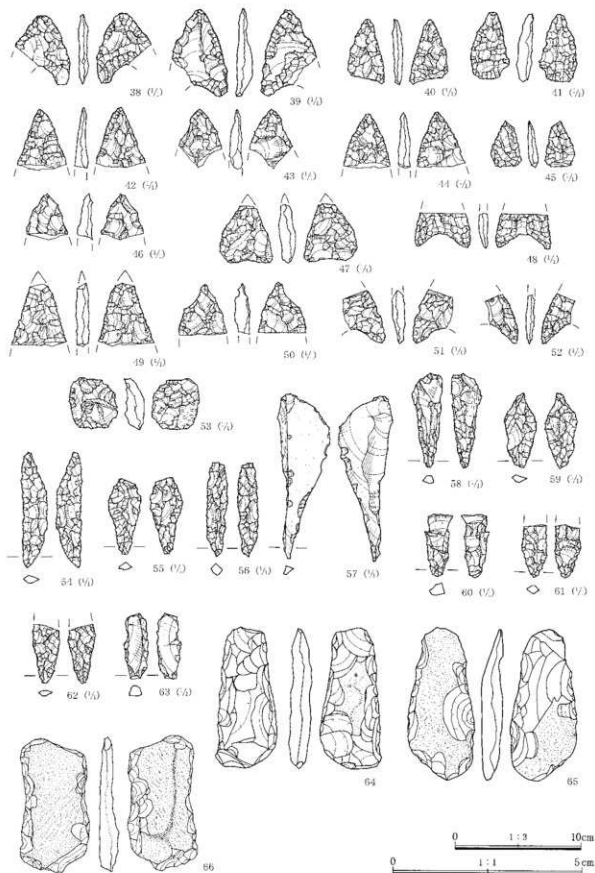


第164図 5-92号住居跡出土遺物(1)

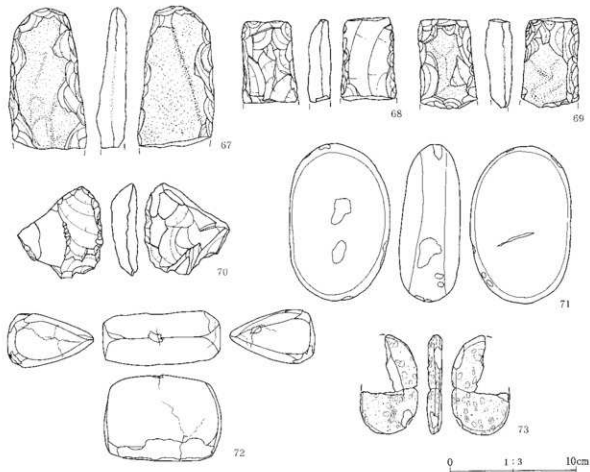


第165図 5-92号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第166図 5-92号住居跡出土遺物(3)



第167図 5-92号住居跡出土遺物(4)

5-93号住居跡 (第168~177図: PL28・29・145~147)

位置 I・J-15・16グリッドに位置する。**重複** 北側部分で5-92号住居跡を切り、5-113号住居跡に一部切られている。さらに両住居の重複部分に土坑が見られる。住居の南部分に幅1.5m程の水道敷設溝が東西に横断している。**形状** ほぼ円形を呈すがやや南北に長くなる。

規模 700×680×40cm。**方位** N-0°

床面 中央部分についてはかなり踏みしめられておりしっかりとしていた。攪乱溝の南側に関してはかなりの凹凸が見られた。炉の周囲はより硬くなっており一部には焼土が出土している。また、周溝が2重に廻っている。

炉 扁平でかなり大きな礫を四角に組んだ石囲い炉である。北と西側の石は無く、中に落ち込んだ状態で検出された。底面は赤褐色に変色し焼土化が著しい。

柱穴 拡張後の柱穴と思われるものが現状では7本検出したが、攪乱溝の部分にも在ったものと思われる。

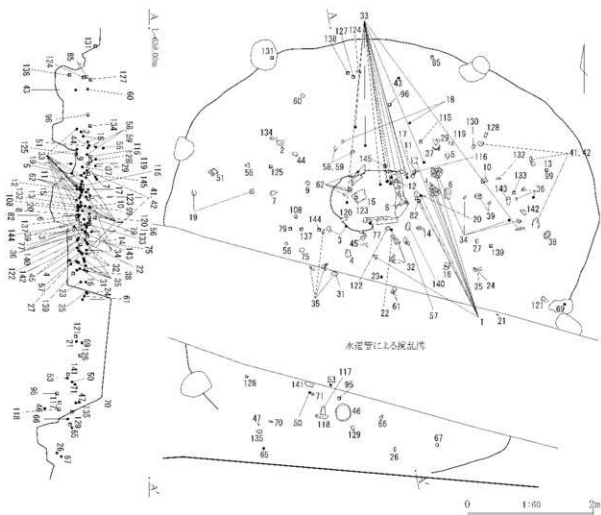
埋塞 入り口部左側に2基が南北に並んで検出されている。北側が正位、南側は逆位に埋められていた。南側の埋塞については平成8年度の調査で検出された。(長野原一本松遺跡2002において5-211号土坑で報告されている)

掘方 床下土坑等は確認されなかった。

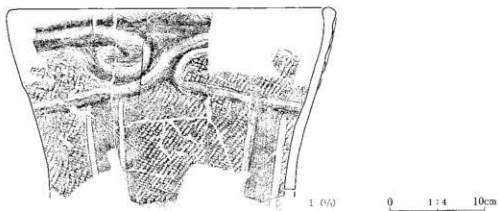
出土遺物 遺構確認時より多くの土器片および石器、石片等が確認されている。石器の出土数は多く特に石鉄類が目立つ。

第3章 検出された遺構と遺物

時期・所見 比較的大型の住居で水道管敷設溝による覆乱を受けてはいるが、遺存状態は比較的良好である。本址は周溝が2重に廻っていることから、拡張されたものと思われる。埋塞等から時期は中期後半、加曾利E3式期と判断される。

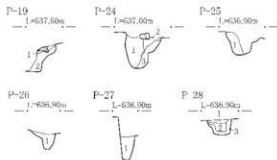


第168図 5-93号住居跡(1)



第169図 5-93号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

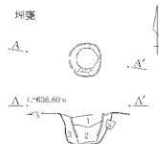


P 1-2-3-5-6-7-8-13-14-15-16-17-18-19-24-25-26-28

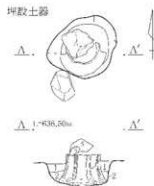
- 1 粘褐色土 少量のローム粒、白色軽石含む。
- 2 暗褐色土 1に同じ色鉄屑含む。
- 3 粘褐色土 多数のロームブロック含む。
- 4 暗褐色土 ローム多く含む。

P-27

- 1 黒色土 瓦人物多い。

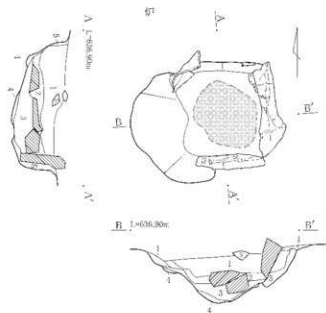


- 1 黒褐色土 ローム粒少量。
- 2 黒褐色土 炭化物を含む、1上のローム多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

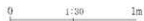


P-211号土坑(2002)

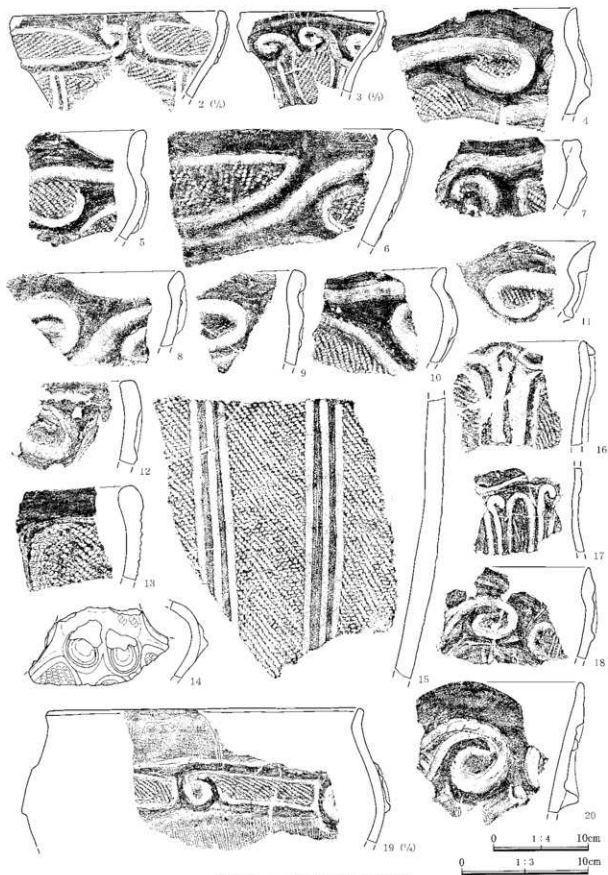
- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 炭化物、ローム粒を少量含む、色深が薄い。



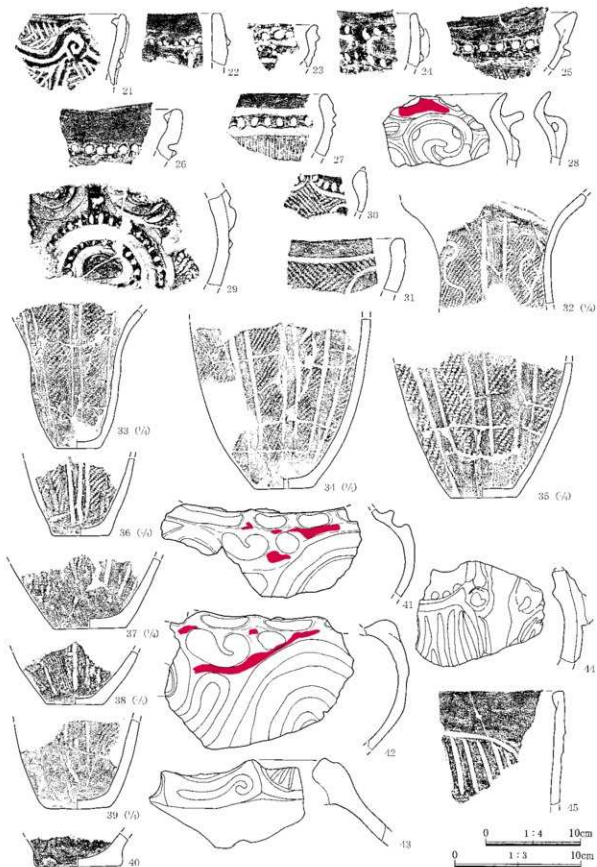
- 1 赤褐色土 炭化物、粘土を含む。
- 2 赤褐色土 焼土小ブロック、炭化物含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロック多く含む。
- 4 赤褐色土 ロームブロック多く含む、若干の焼土瓦片。
- 5 暗褐色土 ロームブロック、黒色土ブロック混入。



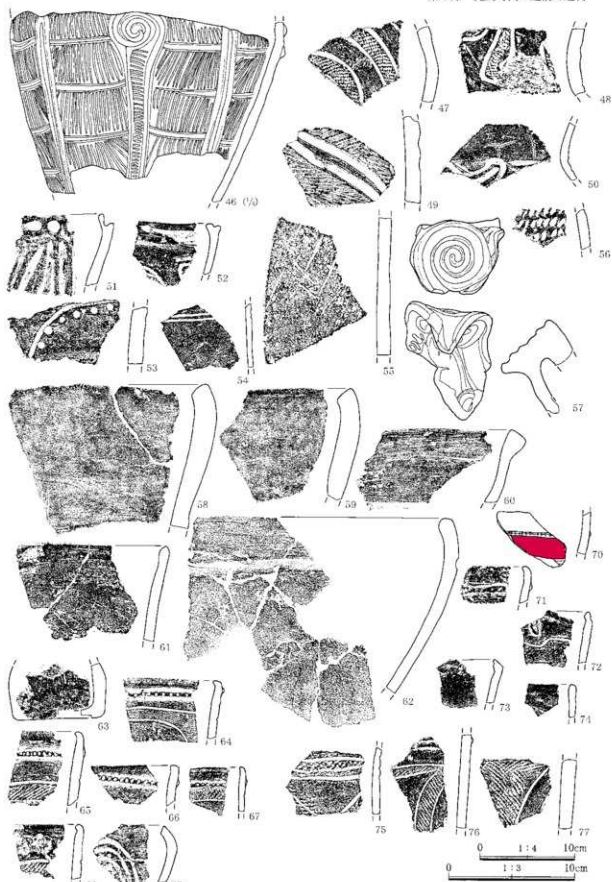
第171図 5-93号住居跡(3)



第172図 5-93号住居跡出土遺物(2)

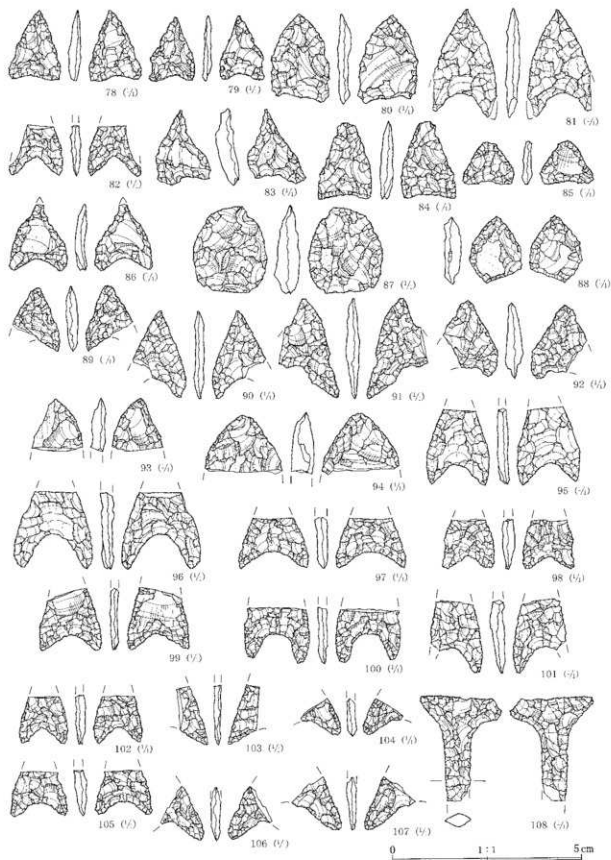


第173図 5-93号住居跡出土遺物(3)

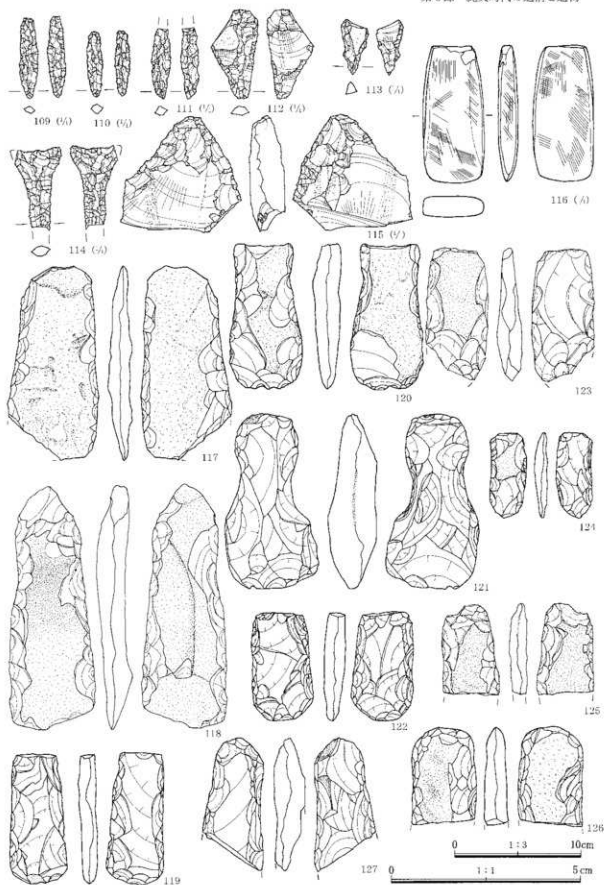


第174図 5-93号住居跡出土遺物(4)

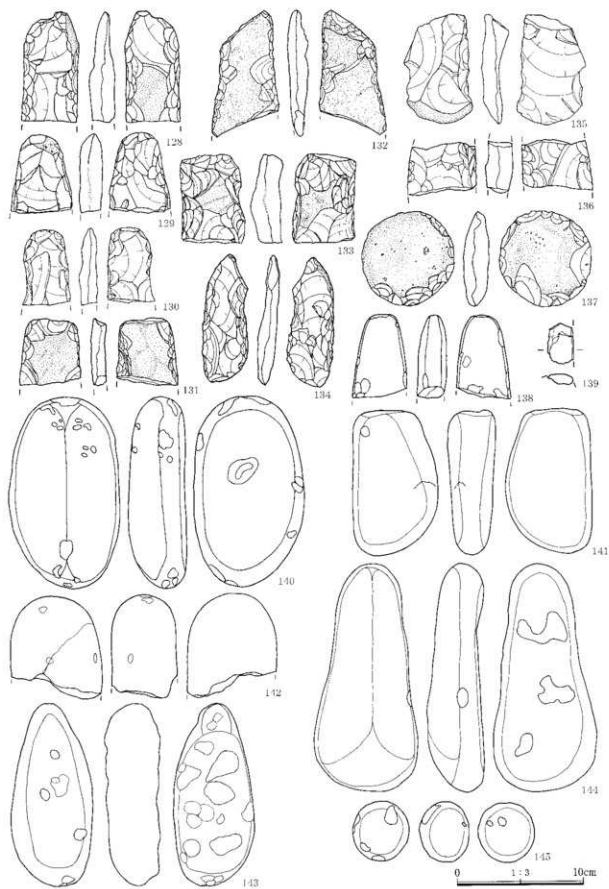
第3章 検出された遺構と遺物



第175図 5-93号住居跡出土遺物(5)



第176図 5-93号住居跡出土遺物(6)



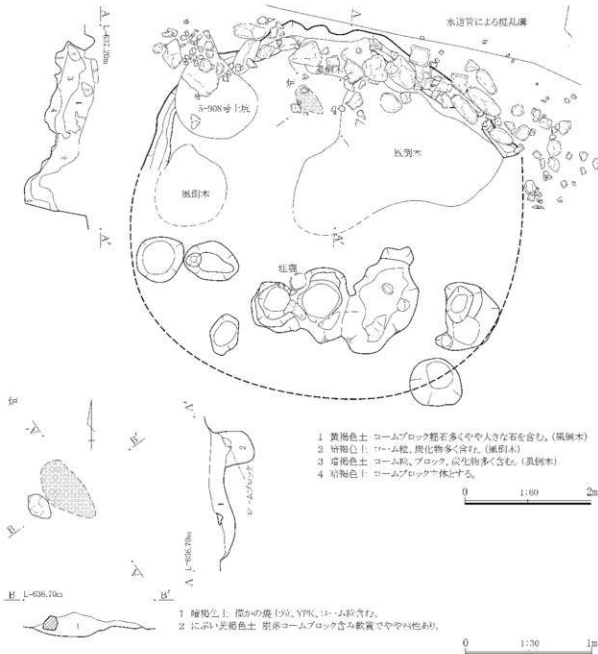
第177図 5-93号住居跡出土遺物(7)

5-94号住居跡 (第178~181図: PL29・148)

位置 K・L-15・16グリッドに位置する。重複 5-836・908号土坑が、さらに北東部分は風倒木による擾乱を受けている。南半分は平成8年度に調査を実施しているが、住居としては未認定である。

形状 円形と思われる。規模 (600)×(600)×— 方位 —

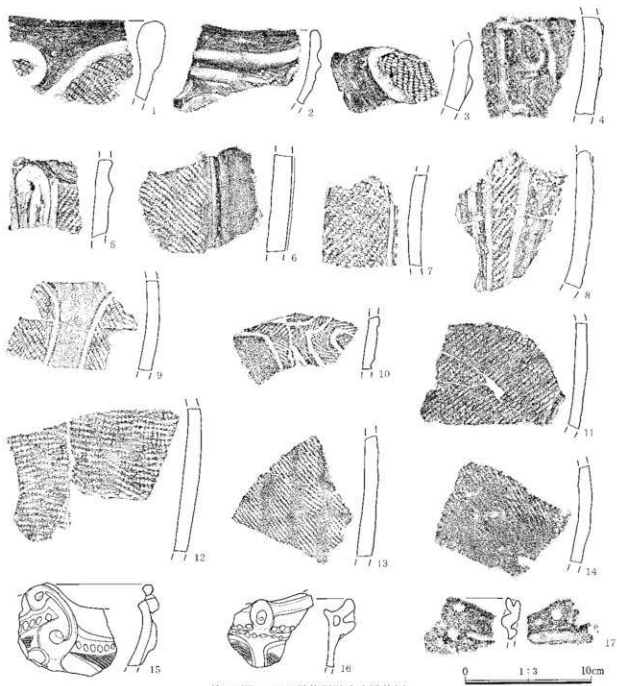
床面 風倒木痕と思われる土坑により床面は極めて荒れており凹凸が顕著であった。壁下に沿って周溝がほぼ半周する。炉 明確なものは検出されなかったが、北壁に寄った場所に竈を伴った焼土の広がり認め、炉の下部構造の様相を呈しているが、位置的にやや北に寄りすぎており未確定要素がある。



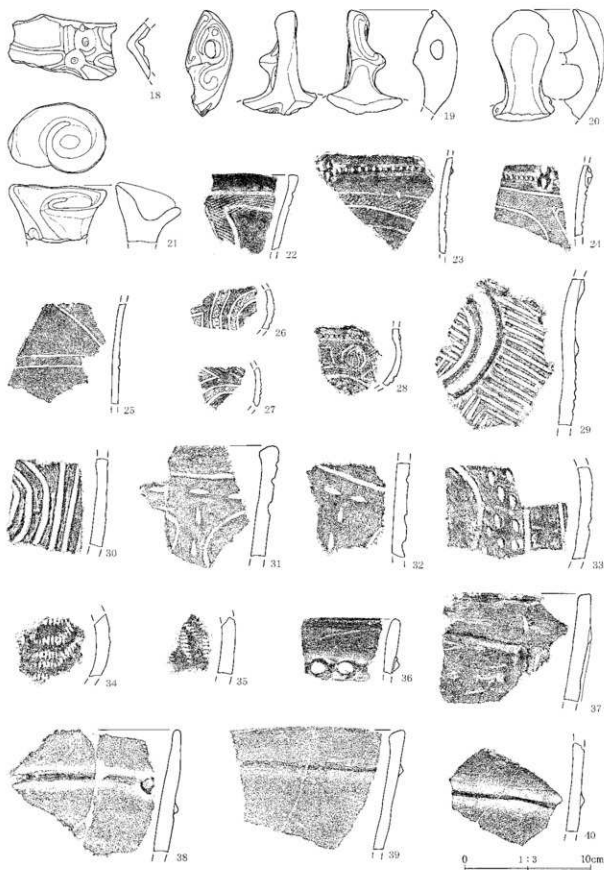
第178図 5-94号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 今次の調査では明確なものは北側に検出した1本のみであるが平成8年度に実施した南側では壁に沿って4基程の柱穴と思われる掘り込みが確認されている。 **埋塞** 入り口部には隣接する土坑に伴って埋塞が検出されている。(平成8年度調査・長野原一本松遺跡2002) **掘方** 最終的に極めて凹凸が著しい面となったが、明確な土坑等は見られない。 **出土遺物** 覆土中より若干の土器片および石鏃等出土。
時期・所見 住居壁に沿って北側に礎が弧状に検出されている。平成8年度に南側部分を調査しており、住居との認定には至っていなかったが、5-310・348・352号土坑(長野原一本松遺跡2002)は本址の柱穴の可能性が高い。また5-309号土坑(長野原一本松遺跡2002)に伴って出土した埋塞は本住居に帰属するものと考えられる。時期は中期後半と見られる。

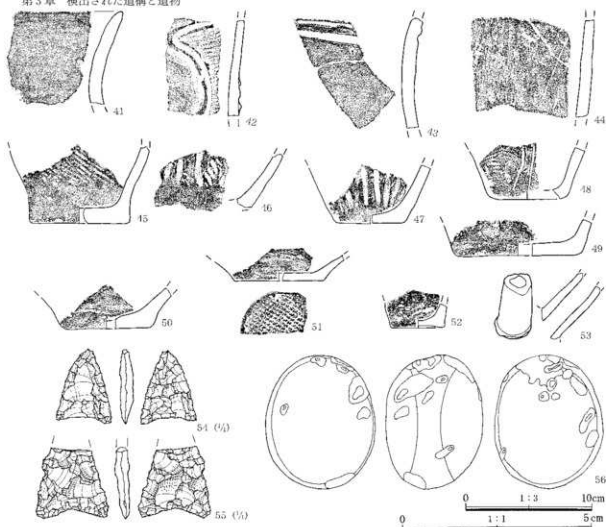


第179図 5-94号住居跡出土遺物(1)



第180図 5-94号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第181図 5-94号住居跡出土遺物(3)

5-95号住居跡 (第182・183図: PL29・149)

位置 M・N-17・18グリッドに位置する。 **重複** 西側で5-84・91号住居跡、東側で81・102号住居跡、南側では5-89・90・97号住居跡の上に重複、これらの上に構築されている。

形状 調査時には重複する住居と同時に掘り下げてしまい、南側はほとんど失われているが、柄鏡形敷石住居である可能性が高い。 **規模** 主体部の推定径580cmを測る。 **方位** N-20°-W

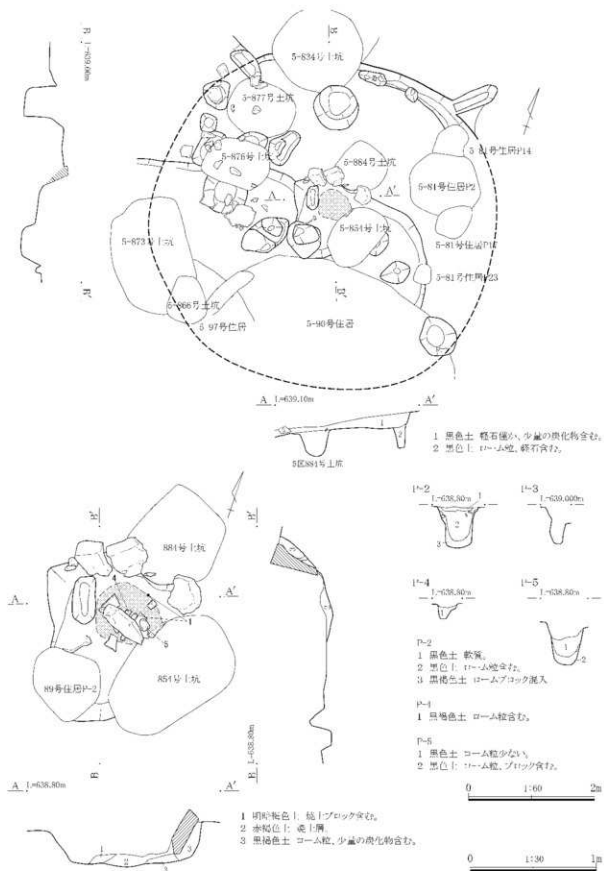
床面 部分的に残った部分については凹凸が顕著で、平坦面はほとんど見られなかった。

炉 推定範囲のほぼ中央に検出された。中に礫が詰まった状態で検出された。比較的大きな角礫を据えた石囲い炉であるが、北側の石以外は抜かれていた。

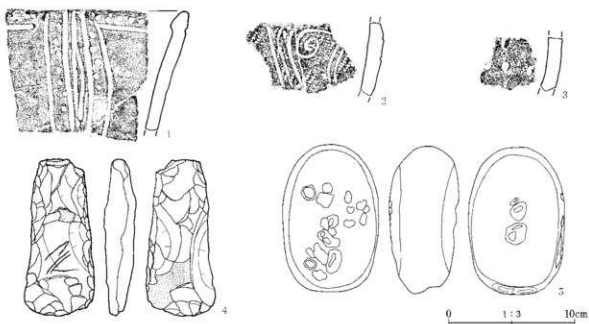
柱穴 推定される外形内側に沿って5本を検出した、それ以外については住居、土坑等により削平されたものと思われる。 **埋壘** 検出されなかった。 **掘方** 土坑等は検出されなかった。

出土遺物 北側において若干の土器、石器類が出土しているものの点数は少ない。南側は下位に重複する住居出土の遺物と混乱が認められる。

時期・所見 住居内に比較的大型の扁平な礫が散在して出土しており、柄鏡形敷石住居である可能性が高い。炉内出土の土器から時期は堀之内1式期か。なお、本址を含めた5-86・89・90・91・97号住居跡の位置には5-6・7号掘立柱建物が構築されている。



第182図 5-95号住居跡



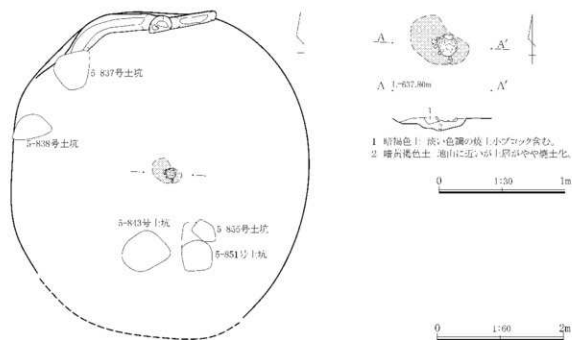
第183図 5-95号住居跡出土遺物

5-96号住居跡 (第184・185図: PL29・30・149)

位置 O・P-15・16グリッドに位置する。重複 東側に5-83号住居と僅かに重複か。全体に大きく削平されている。形状 円形と思われる。規模 (600)×(600)×- 方位 -

床面 削平されており、明確な使用面は確認されなかった。

炉 ほぼ中央に炉体土器と見られる深鉢の底部片が焼土を伴って検出された。炉石等は検出されなかった。



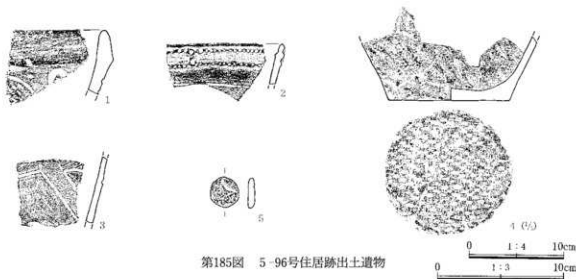
第184図 5-96号住居跡

柱穴 炉を中心に多数のピットが検出されているが、明らかに柱穴と判断されたものは無い。

埋甕 検出されなかった。**掘方** 凹凸が顕著である。

出土遺物 炉体土器の他は若干の破片類が出土したのみである。4は炉体土器、5は土製円盤である。石器の出土は見られなかった。

時期・所見 壁を含め床面もほとんど削平された状態であった。僅かに北側の周溝の下部と炉の痕跡および炉体土器を確認したのみである。特に南側は30cm以上下がっている。時期は後期前半か。



第185図 5-96号住居跡出土遺物

5-97号住居跡 (第186・187図; PL30・149)

位置 N・O-17グリッドに位置する。**重複** 東側を5-90号に南を5-86号住居跡に切られている。さらに、北側には5-842・866・867・873号土坑が重複し大きく本址を壊している。

形状 円形を呈すと思われる。**規模** (360)×(360)×10cm。**方位** —

床面 中央部分は比較的状态は良好であるが、北側は複数の土坑によりかなり壊されている。周溝が東西に検出されている。

炉 ほぼ中央に検出された。炉石は1石検出された他には見られなかった。径70cmで深さ10cm程の掘方を検出、下面には焼土が認められた。

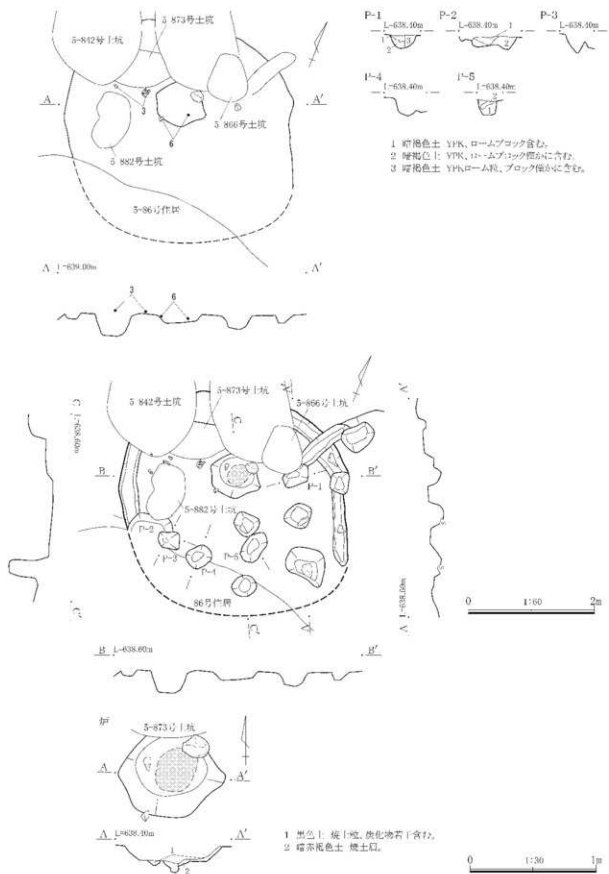
柱穴 南部分に6本を確認したが、対応関係ははっきりと掴めなかった。また北側については重複により検出できなかった。**埋甕** 検出されなかった。

掘方 土坑等は見られなかった。

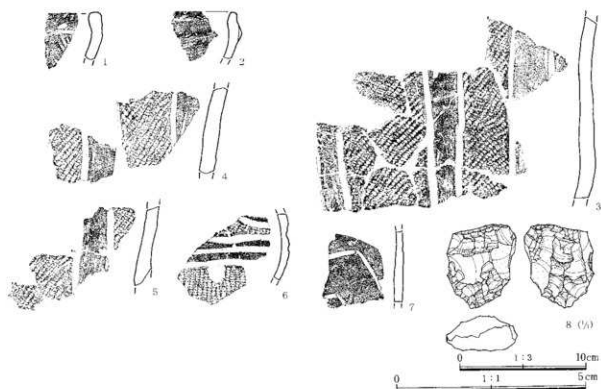
出土遺物 少なかった。僅かに土器小片が見られたものである。

時期・所見 北側部分には複数の土坑が重複しており、立ち上がりは明瞭ではないが、床面についてはかなり硬質な状態で、比較的良好と言える。かなり小型の住居である。時期は出土土器からおそらく中期後半と判断される。

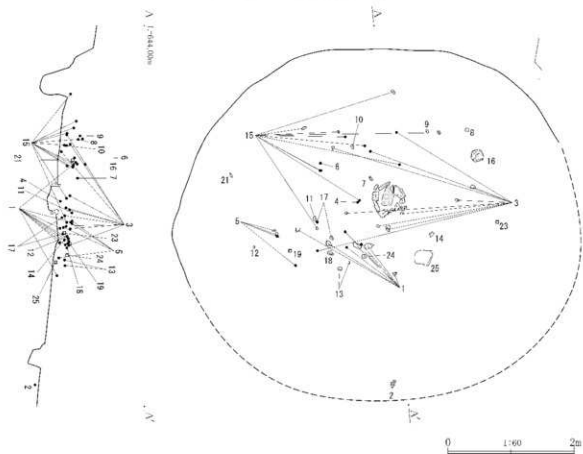
第3章 検出された遺構と遺物



第186図 5-97号住居跡

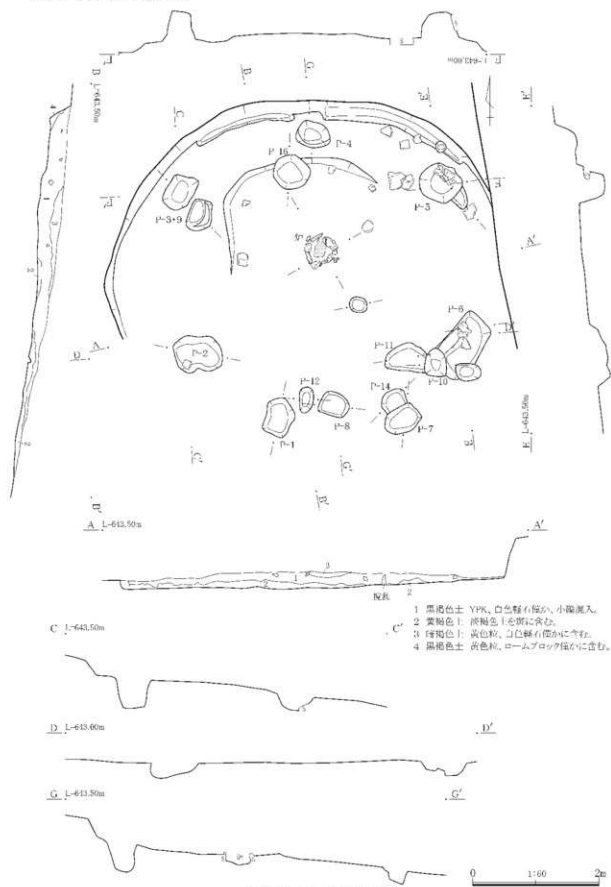


第187図 5-97号住居跡出土遺物

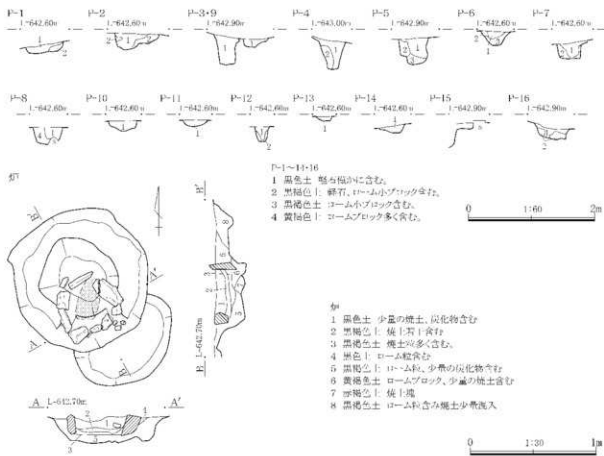


第188図 5-98号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第189図 5-98号住居跡(2)



第190図 5-98号住居跡(3)

5-98号住居跡 (第188~192図: PL30・149・150)

位置 Q・R-24・25 重複 東端が僅かに調査区外に入る。

形状 円形を呈すと思われる。南側の壁は削られている。 規模 (550)×600×25cm。

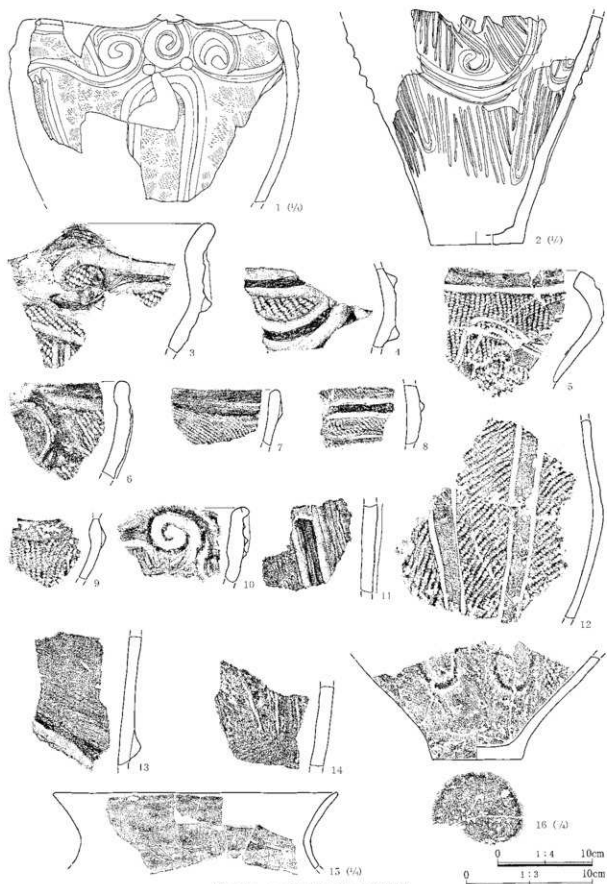
方位 N-29°-W 床面 北側がやや高くなっており、炉と北壁間に約10cm程の弧状に段差が見られ、全体に南に緩く傾斜を持つ。炉の周囲は平坦で、貼り床等は見られなかった。

炉 ほぼ中央に検出された。自然の角礫10個程で方形に組まれた石皿い炉である。規模は一辺が約60cmである。 柱穴 壁内に沿って7本を検出した。長径50cm程の長円形を呈し、深さは約50~20cmである。南側に位置する柱穴が浅くなっているが、上位部分が削平されたものと考えられる。

埋蔵 検出されなかった。 掘方 特に床下土坑等は検出されなかった。

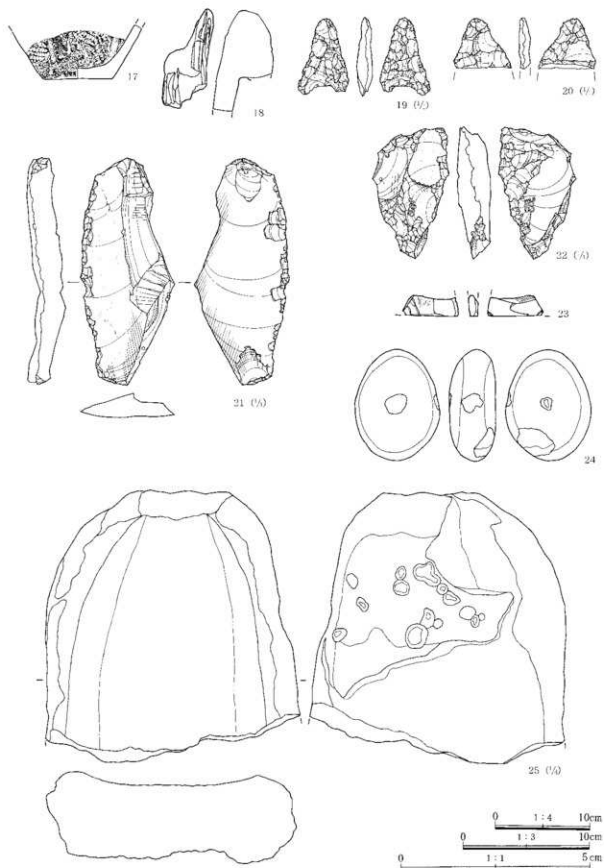
出土遺物 点数はあまり多くはない。遺物は炉の周囲に集中して出土している。1は炉の前面に破片が点在、石器は石鏃の他に黒曜石製スクレイパー21が見られる。また石皿25は炉の手前に置かれた状態で出土している。

時期・所見 5-99号住居跡と並んで調査区内の最も高い場所に作られた住居である。比較的大型の住居であるが全体に上部を削平されている。特に南側が顕著である。住居規模に比して炉が小さく、住居内に段差を持つことや柱穴の配置などから拡張された可能性もある。



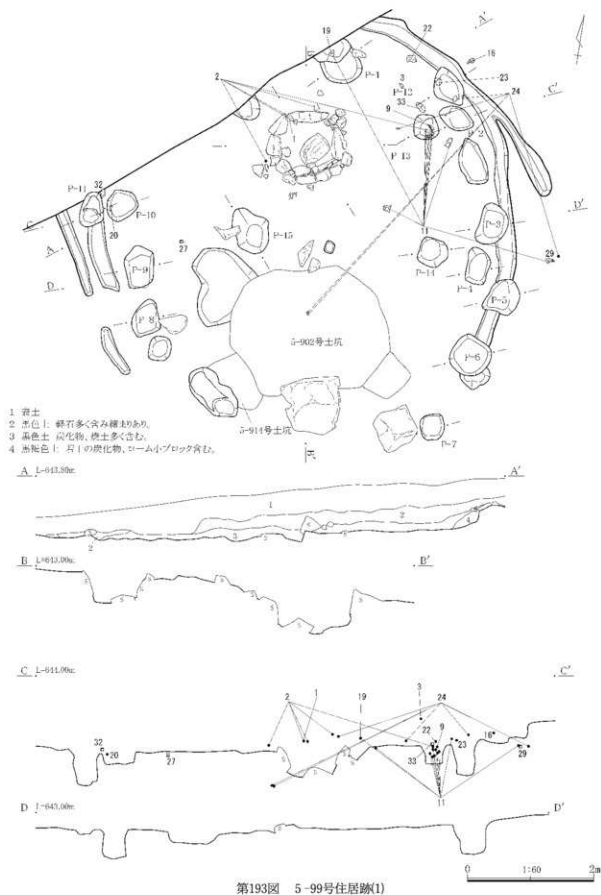
第191図 5-98号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



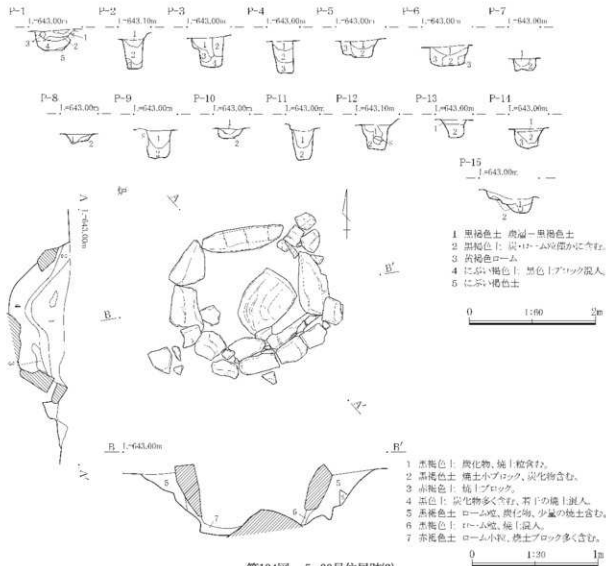
第192図 5-98号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



第193図 5-99号住居跡(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第194図 5-99号住居跡(2)

5-99号住居跡 (第193~197図: PL31・150・151)

位置 S・T-23~25, U-23・24グリッドに位置する。**重複** 南部分に5-902・913~915・917号土坑が重複する。北西部分の一部は調査区外に在り未調査である。

形状 円形ないしは楕円形か。**規模** 725×700×72cm。**方位** N-8°-W

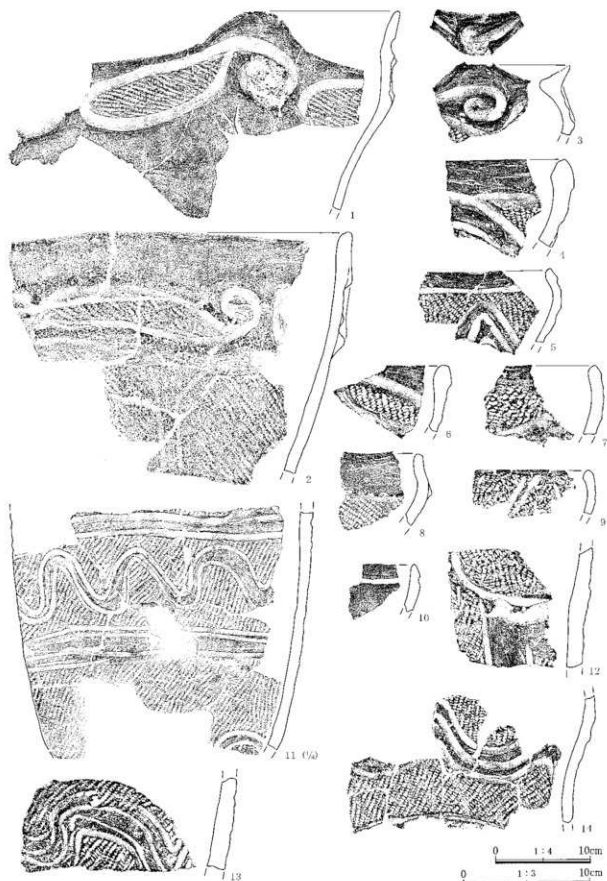
床面 凹凸が目立つ。特に南側は土坑等の重複もあり、やや荒れている。また南側を除き周溝が廻る。地山に含まれる大型の礫が所々露出している。**炉** 中央やや北寄りに作られている。検出時には中に礫が投げ込まれた状況であった。炉石は大形の自然礫を、ほぼ方形に組んだ石囲い炉である。一辺およそ130cmとかなり大きく掘り込みも深い。また底面には地山の大きな礫の頭が露出していた。

柱穴 周溝に沿って12本を検出した。**埋壘** 検出されなかった。

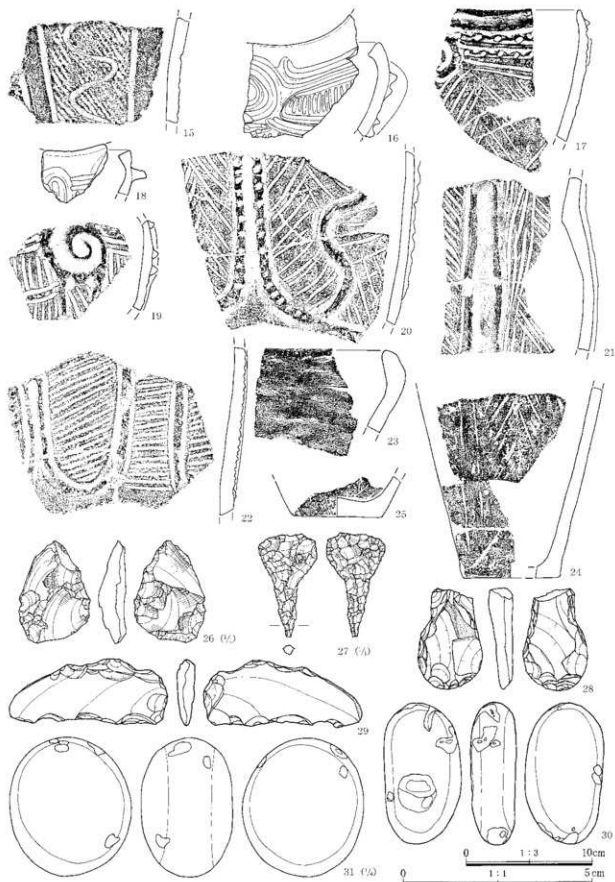
掘方 掘り込みはほとんど見られなかった。

出土遺物 炉の周辺および東寄りに集中して出土が見られたが、点数は少ない。

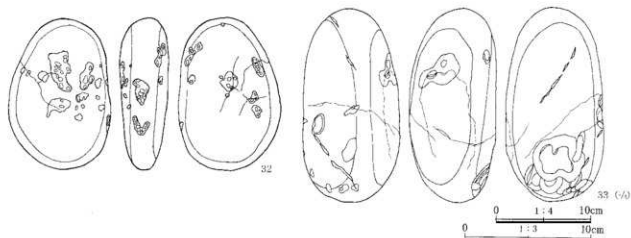
時期・所見 北西部分が一部未調査である。比較的大型の住居で調査区内では最も高い場所に作られている。炉は大きく、掘り込みも深く作られている。時期は加曾利E3式期と思われる。



第195図 5-99号住居跡出土遺物(1)



第196図 5-99号住居跡出土遺物(2)



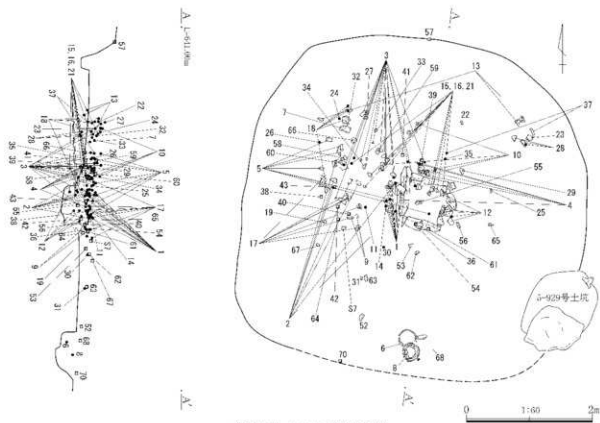
第197図 5-99号住居跡出土遺物(3)

5-100号住居跡 (第198~206図: PL.32・33・151~153)

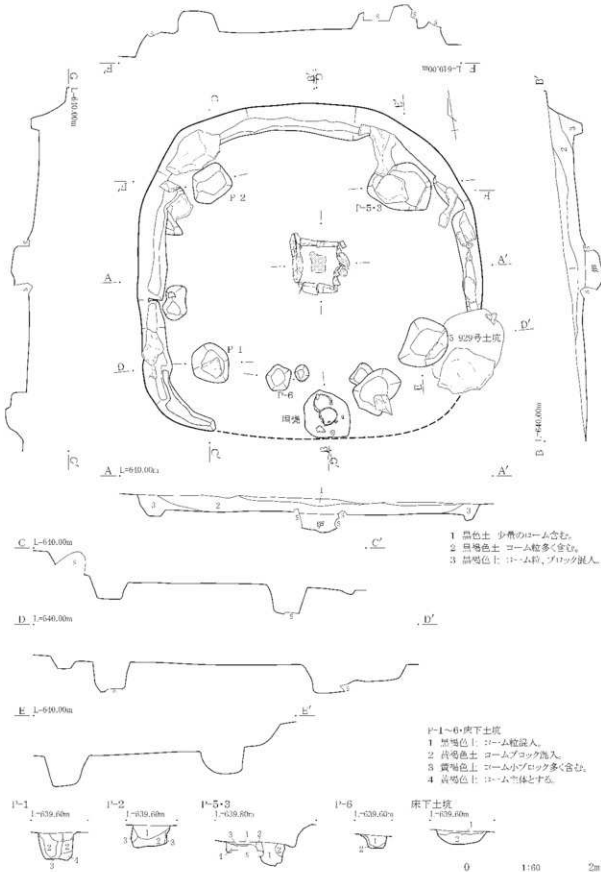
位置 T~V-18・19グリッドに位置する。重複 南東部に5-929号土坑が重複する。

形状 やや丸みを呈す隅丸方形。規模 550×(540)×30cm。方位 N-11°-E

床面 掘り込まれた地山に大型の礫が含まれており、壁際に露出した状態で残されている。炉の周辺は平坦で良く踏みしめられている。炉 ほぼ中央に位置している。地山に含まれる大型角礫を四角に組んでいる。炉石は火を受け、ひび割れが顕著である。柱穴 4本柱穴と思われる、径は50~60cmで深さは約50cmである。埋甕 炉の南側、入り口に南北に2個体が一部重なるように並んで検出された。いずれ

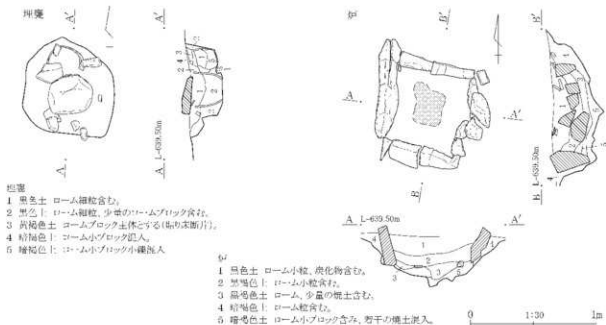


第198図 5-100号住居跡(1)



第199図 5-100号住居跡(2)

第3章 検出された遺構と遺物

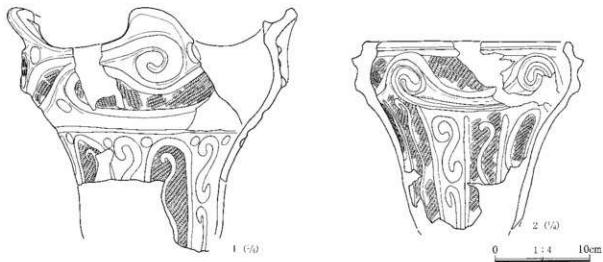


第200図 5-100号住居跡(3)

も口縁、底部を欠いた深鉢の胴部で、正位に埋められていた。南側の埋塞には蓋石として平らな石が上に置かれていた。 **掘方** 住居南側の埋塞を扶んで、浅い小ピットが検出された他には見られない。

出土遺物 土器片等が多く見られた、特に炉の北西部分に集中して出土。また、クルミと見られる炭化種実が出土している。石器類は石鏃、石鎌などの他に打製石斧が多く見られる。さらに軽石製品69や垂飾品の未製70と思われるものが出土している。

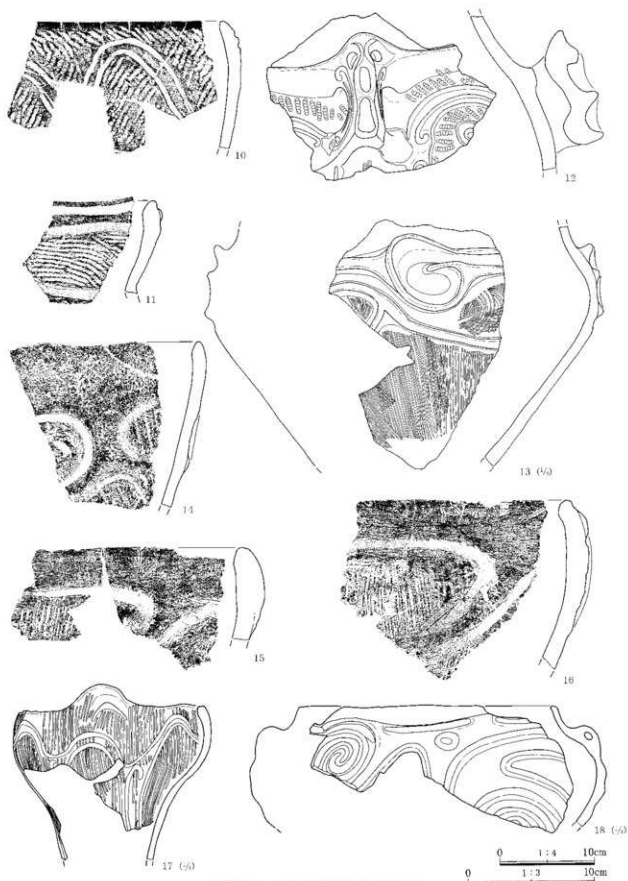
時期・所見 遺存状態は比較的良好であった。南側の入り口部に2個の埋塞が接した状態で検出されている。上に蓋石と思われる平らな石が出土している。時期は加曾利E3式期である。



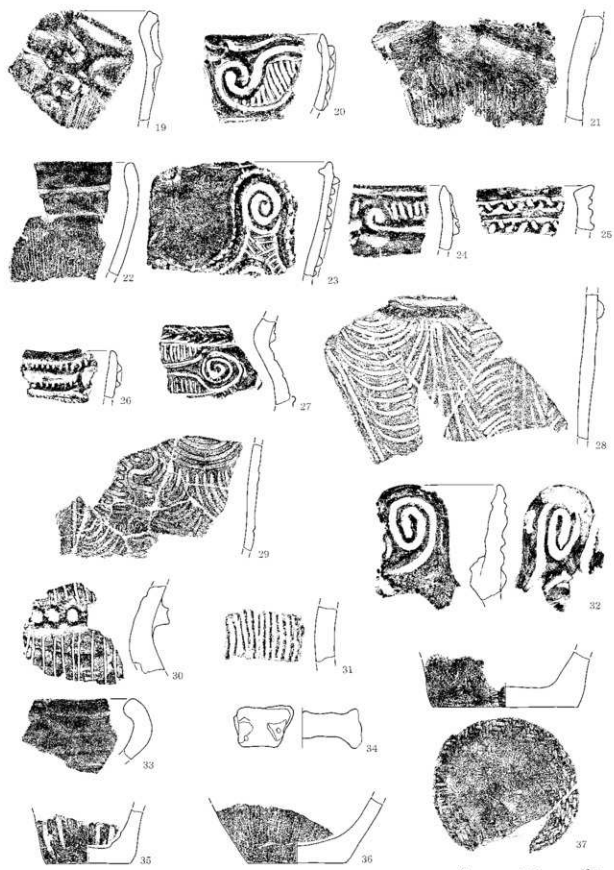
第201図 5-100号住居跡出土遺物(1)



第202図 5-100号住居跡出土遺物(2)

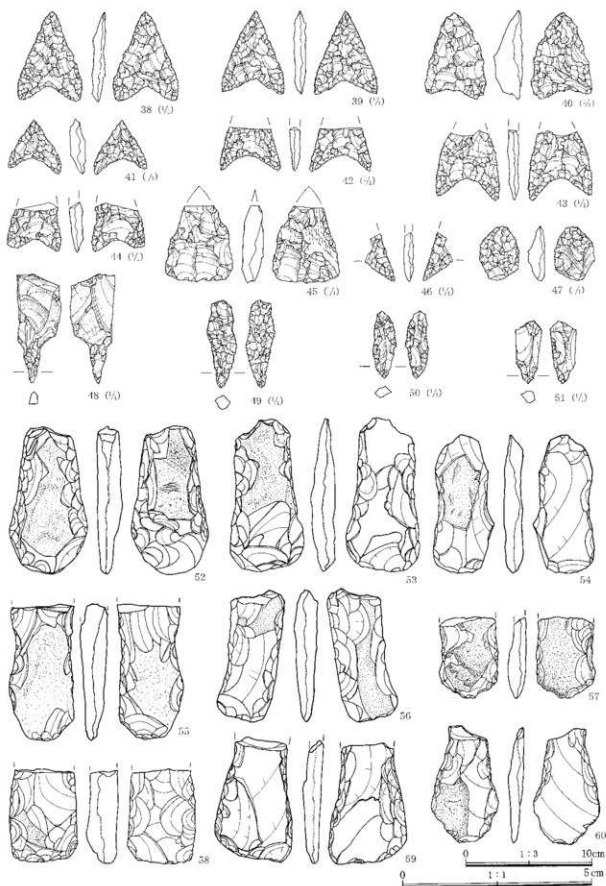


第203図 5-100号住居跡出土遺物(3)

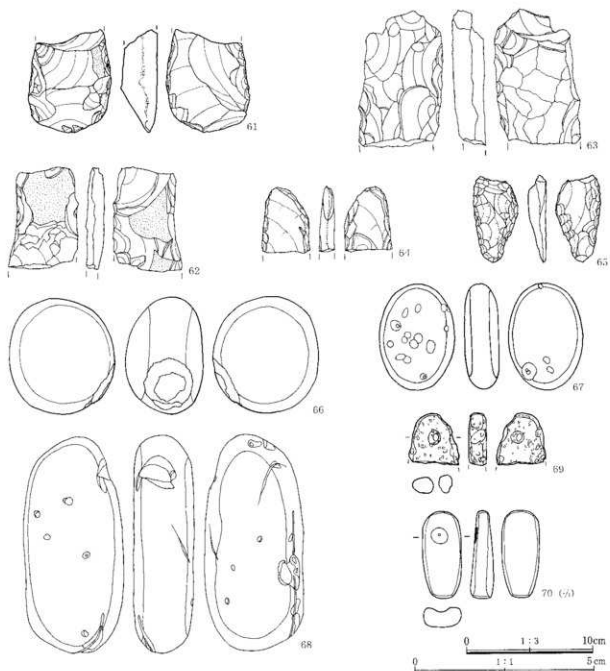


第204図 5-100号住居跡出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



第205図 5-100号住居跡出土遺物(5)



第206図 5-100号住居跡出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物

5-101号住居跡 (第207~212図: PL33・34・153・154)

位置 5区の西端、V・W-18・19グリッドに位置する。 **重複** 住居内にすっぽりと取まる形で小型の5-107号住居跡が本址を切って作られている。さらに南側には水道敷設溝が東西に走っている。

形状 円形と思われる。 **規模** 700×(700)×40cm。 **方位** N-0°。

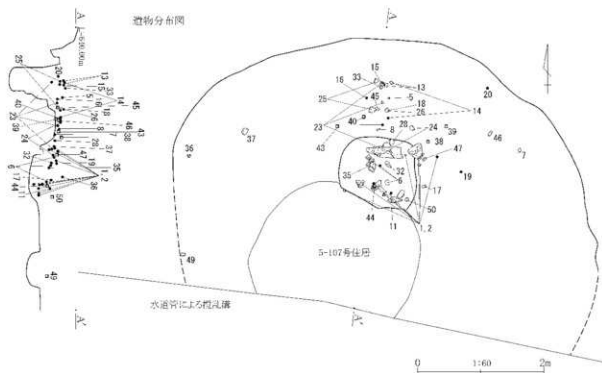
床面 比較的平坦で締まりを持つ。やや南に傾斜を持つ。また、住居の北東隅に焼土の広がりを見た。

炉 中央やや北寄りに作られている。一辺ほぼ1mの方形を呈す掘方と、北側に炉石が検出されている、他の石は抜き取られたものと思われる。底部中央には炉体土器として、口縁部および底部を欠いた小形の深鉢10が据えられており、周囲には焼土が検出されている。炉の南側一部は、5-107号住居跡により壊されている。

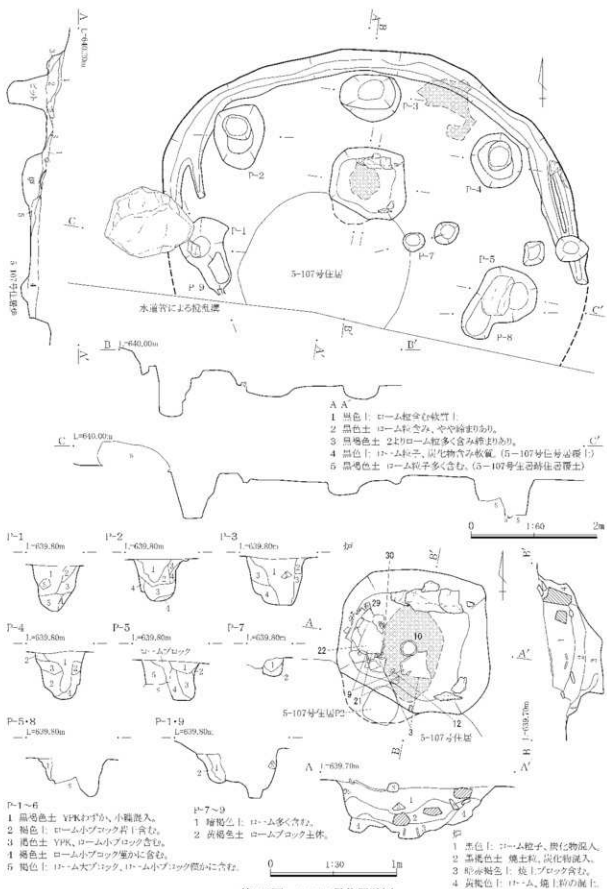
柱穴 北半の壁に沿って径80cm、深さ60~70cmの長円形を呈す柱穴5本が検出された。南側については不明である。 **埋塞** 検出されなかった。 **掘方** 貼り床や、床下土坑などは見られない。

出土遺物 炉を中心に土器片、石器が集中して出土している。1は炉内および周辺に破片が点在していた。9は大型の鉢形土器である。炉内より出土している。石器類は石鏃、石錐、打製石斧等が出土しているが磨石類は見られない。

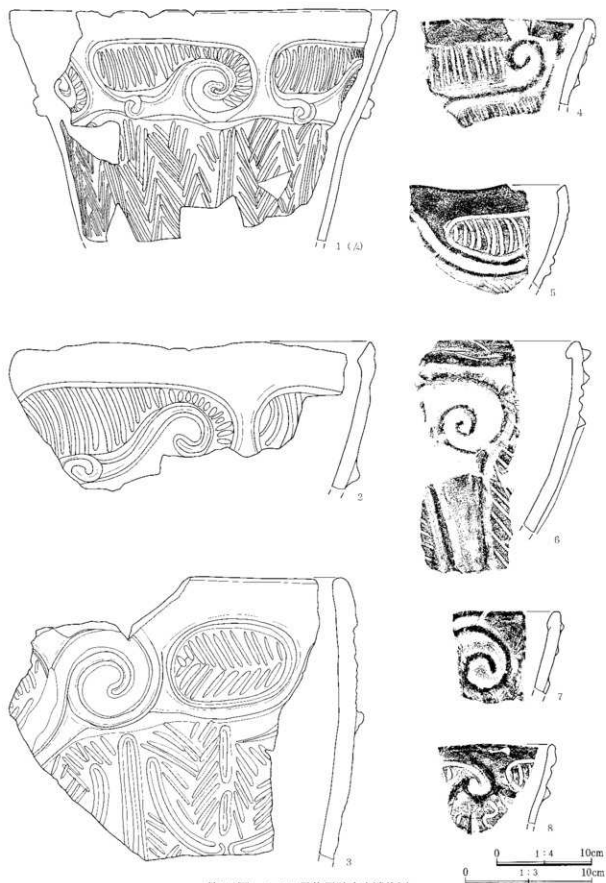
時期・所見 径7mを測る比較的大型の住居であるが、南側については他の住居や水道管敷設溝により詳細は不明である。西壁に掛かって地山の大型礫が住居内に露出している。前述したように、ほぼ中央に小型の5-107号住居跡が入れ子状態で作られており、5-78・82号住居跡と同様である。出土した土器のほとんどが信州系であるという特徴が見られる。時期は曽利3式期。



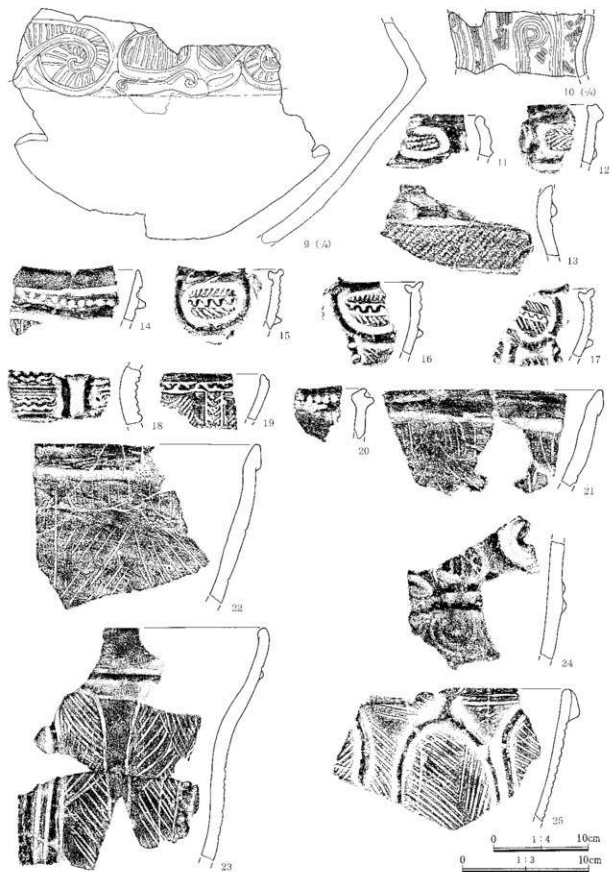
第207図 5-101号住居跡(1)



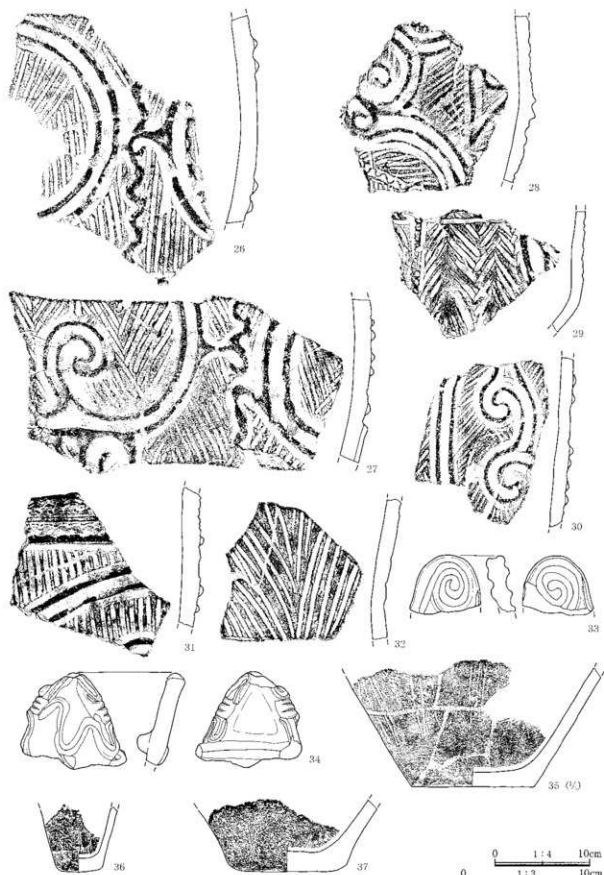
第208図 5-101号住居跡(2)



第209図 5-101号住居跡出土遺物(1)

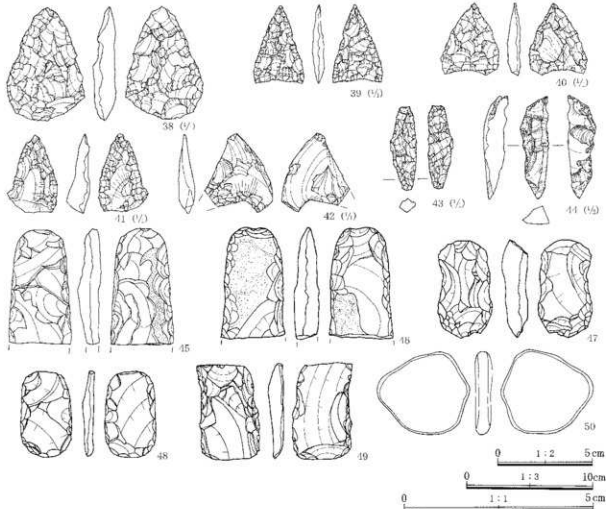


第210図 5-101号住居跡出土遺物(2)



第211図 5-101号住居跡出土遺物(3)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第212図 5-101号住居跡出土遺物(4)

5-102号住居跡 (第213・214図：PL.34・154・155)

位置 L・M-18・19グリッドに位置する。重複 5-81号住居跡にほぼ重なるように作られている。さらに、西側については5-95号住居跡と一部重複する。形状 円形と見られる。

規模 (560)×(550)×— 方位 不明。

床面 使用面としての床は確認できなかった。かなり凹凸が著しい。北壁側の周溝が途切れ途切れにはあるが確認されている。炉 ほぼ中央の下面に焼土を伴った、長径80cm、短径60cmの落ち込みが検出されており、炉と考えられる。炉石、炉体土器などは見られない。上部をかなり削平された状況であった。

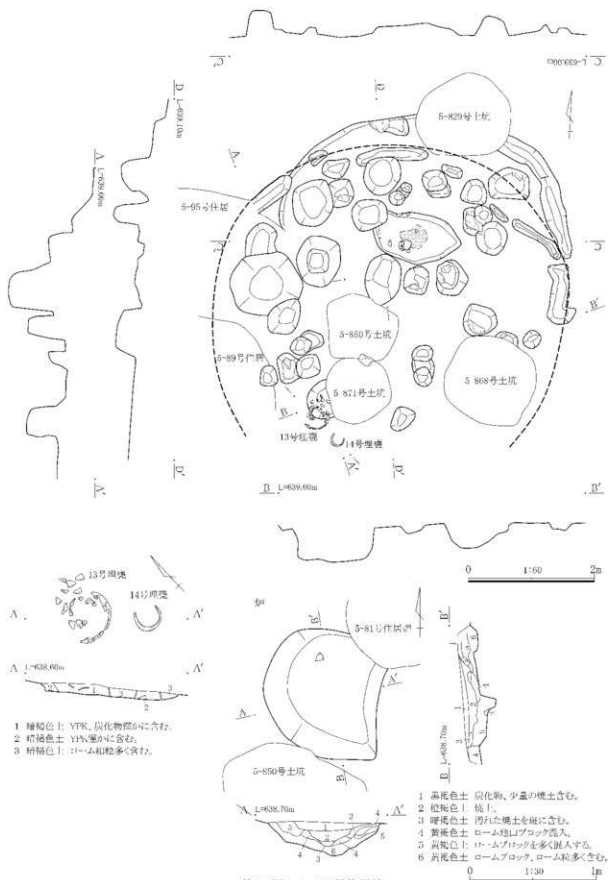
柱穴 6ないしは7本と考えられるが、南側について失われているものもあるため確定は難しい。

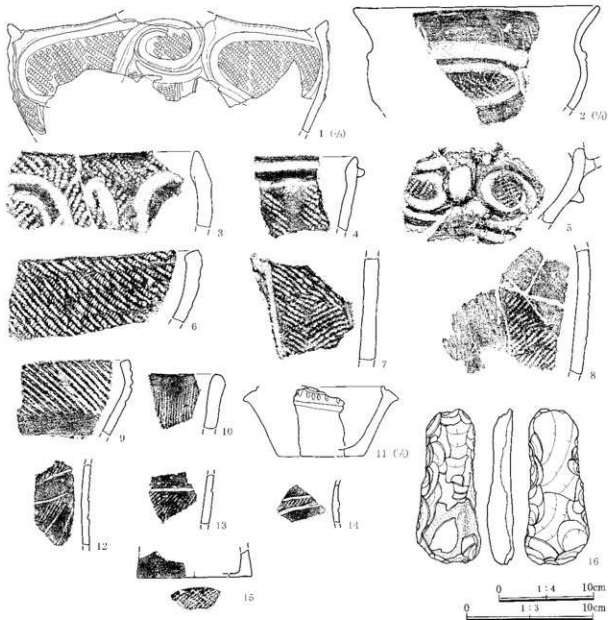
埋壙 中央や南寄りに1基、南西部に並んで大小2基(5-13・14号埋壙)の計3基が検出された。いずれも深鉢の胴部である。掘方 いくつかのピット等が検出されているが重複する住居の柱穴に相当するものも含まれていると考えられた。

出土遺物 重複により著しく削平を受けていたため、本址に帰属すると考えられる遺物は少なかった。超した中で1は入り口部に検出された埋壙である。

時期・所見 重複する5-81号住居跡により床面部分を含む上部をかなり削平された状況である。炉についても掘方の下部が確認された状況である。時期は中期後半と見られる。

第3章 検出された遺構と遺物





第214図 5-102号住居跡出土遺物

5-103号住居跡 (第215・216図: PL.34・155)

位置 P・Q-21・22グリッドに位置する。重複 入り口部に5-905号土坑が重複する。

形状 やや丸みを呈す隅丸方形。規模 410×(400)×15cm。方位 N-5°-W

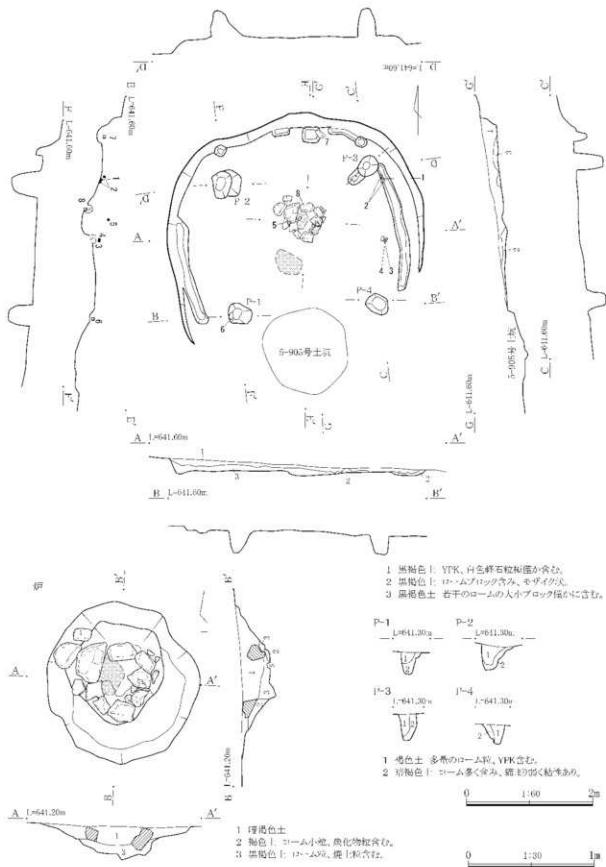
床面 僅かに凹凸が見られ、緩やかな南傾斜を持つ。炉の手前左に焼土が検出されている。

炉 ほぼ中央に作られている、やや乱雑に自然角礫を三角形に配す。炉の前面に小範囲に焼土が検出されている。

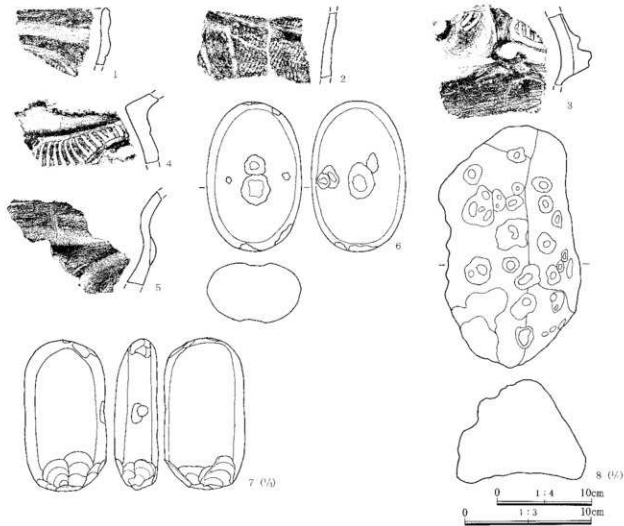
柱穴 4本の主柱穴を四隅に持つ。また、北壁際の柱穴延長上に小ピットが検出されている。周溝は東西の壁際に部分的に見られる。埋壺 検出されなかった。掘方 貼り床、床下土坑等は見られない。

出土遺物 数点の土器片および磨石、多孔石8が出土している。多孔石は炉石に転用されていた。

時期・所見 小形の住居である。南側は削平を受ける。東側、西側壁下に周溝が見られる。時期は中期後半。



第215図 5-103号住居跡



第216図 5-103号住居跡出土遺物

5-104号住居跡 (第217・218図：PL.34・35・155)

位置 Q・R-21グリッドに位置する。重複 南西部に5-887号土坑が重複する。

形状 丸みを持った隅丸方形。規模 340×340×25cm。方位 N-0°

床面 比較的平坦で、やや南に傾斜を持つ。周溝は確認されなかった。

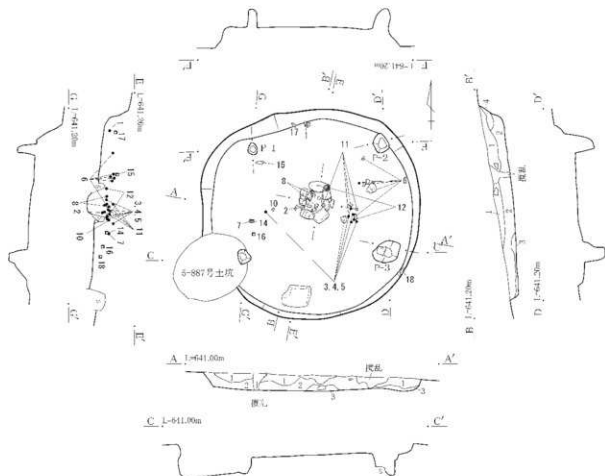
炉 ほぼ中央に作られる。自然角礫5個を方形に配し、炉石は火を受けひび割れが見られる。

柱穴 4本を検出。径20～40cmで、深さはいずれも30cm前後である。埋壘 検出されなかった。

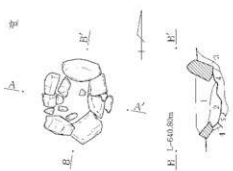
掘方 貼り床、床下土坑等は検出されなかった。

出土遺物 土器は小破片のみである。炉を中心に出土しているが床面よりやや浮いて出土したものが多かった。石器も少なく石鏃、打製石斧、磨石が見られた。

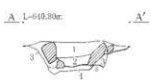
時期・所見 小形の住居である。南側入り口部分に地山中の大型礫が床面上に露出した状態で検出されている。時期は中期後半である。



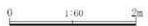
- 1 黒褐色土 白色砂、褐色粒、炭化物の塊を含む。
- 2 黒褐色土 白色砂、褐色粒、炭化物の塊、褐色土ブロック状に含み残る。
- 3 黒褐色土 褐色土の塊に含む。
- 4 黒褐色土 褐色土小ブロック含む、やや砂質。



- 1 黒褐色土 多数のロームを含みやや粘りあり。
- 2 黒褐色土 ロームブロック多く含み粘り、粘りあり。

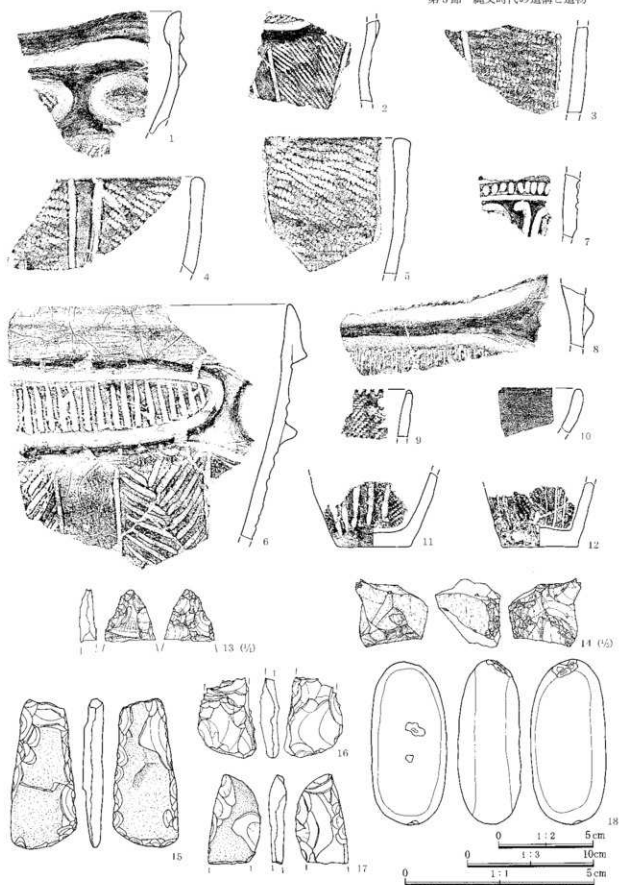


- 1 黒褐色土 褐色の塊土多量に含む、粘り粘りあり。
- 2 黒褐色土 1に似るがローム多く含む。
- 3 褐色土 少量のローム含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、若干のロームブロック含む。



第217図 5-104号住居跡

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第218図 5-104号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-105号住居跡 (第219~223図: PL.35・36・156)

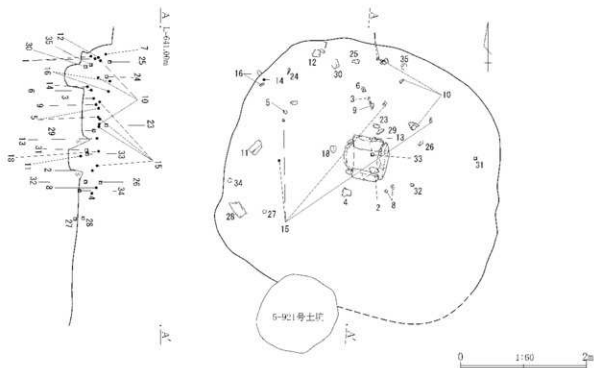
位置 P・Q-19・20グリッドに位置する。**重複** 西側に5-890号土坑が、南には5-921号土坑が重複する。**形状** 隅丸方形を呈すが南側がやや広がる。**規模** 430×420×38cm。**方位** N-9°-E
床面 平坦で炉の手前を中心に比較的締まっていた。周溝がほぼ全周して見られたが、部分的に途切れている。**炉** 中央やや北側に検出された。大形の礎4個を四角に組んで作られる。規模は一辺約45cmである。

柱穴 柱穴は5(6)本を検出した、径40~50cmの円形または長円形で深さは30cm前後である。

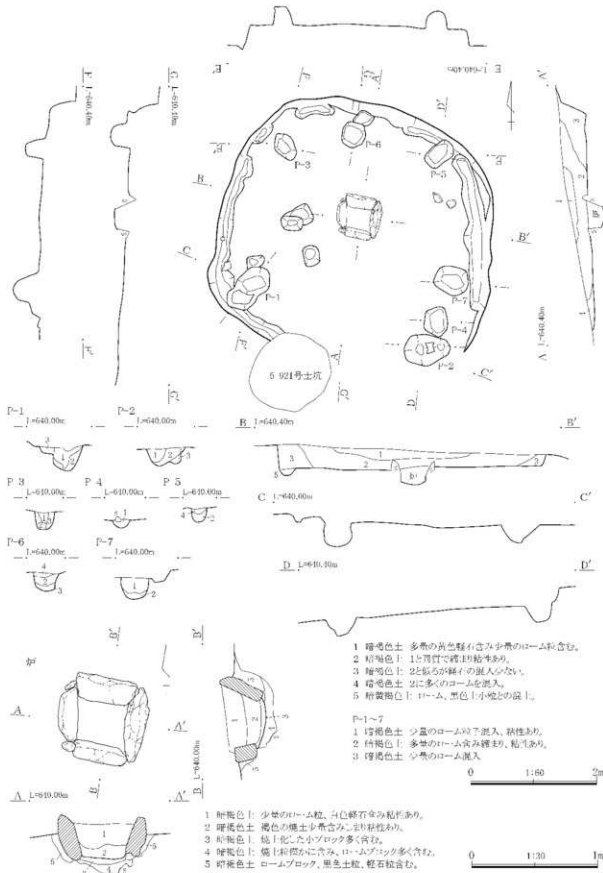
埋塵 検出されなかった。**掘方** 貼り床、床下土坑等は見られなかった。

出土遺物 遺物は住居の北側に比較的多く出土している、南側は削平されたためと思われる。あまり大きな破片は見られなかった。石器は石鏃3点、石錐1点、打製石斧4点、磨製石斧2点、スクレイパー1点、磨石類5点である。このうち磨製石斧27・28は刃部の破損品であるが、周辺部を敲打、さらに研磨し二次的用途に供したものであると思われる。

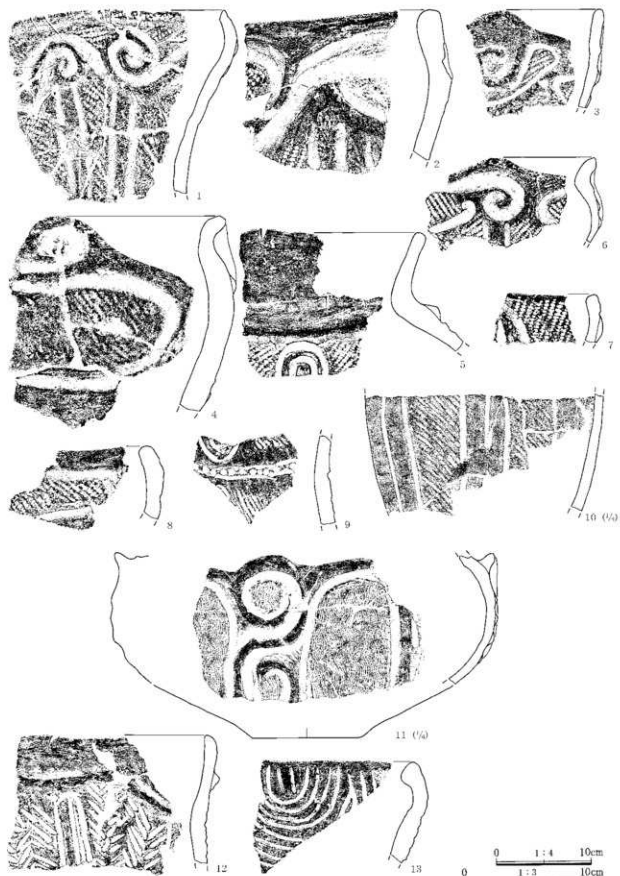
時期・所見 比較的遺存状態は良好である。土器の出土は少ないが、石器については組成的にまとまっている。時期は中期後半である。



第219図 5-105号住居跡(I)

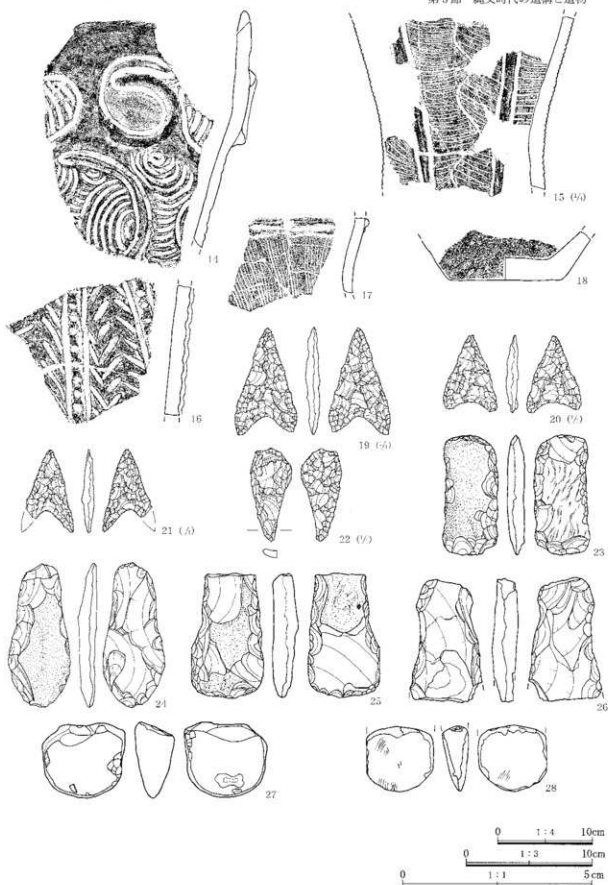


第220図 5-105号住居跡(2)

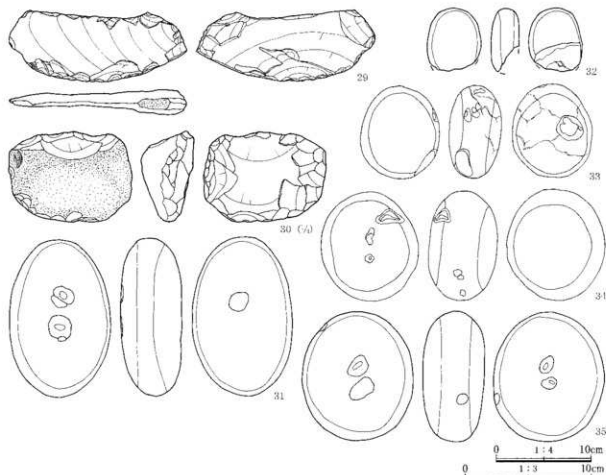


第221図 5-105号住居跡出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第222図 5-105号住居跡出土遺物(2)



第223図 5-105号住居跡出土遺物(3)

5-106号住居跡 (第224図: PL.36・157)

位置 D・E-13・14グリッドに位置する。 **重複** 上に5-74号敷石住居跡が作られている。また南西部分は5-39号住居跡と重複する。 **形状** 検出されたコーナー部分の形状から、隅丸方形を呈すと思われる。 **規模** 推定(4.6)×(4.6)×30cm。 **方位** 不明

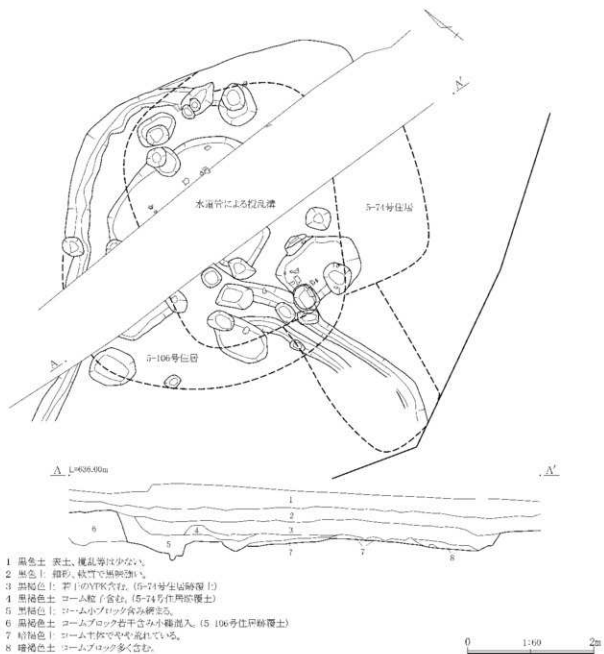
床面 明確な生活面は認められなかった。 **炉** 推定範囲のほぼ中央に、若干の焼土を混入した径1m程の土坑が検出されており炉と推定されるが、北側の半分以上を水道管敷設溝に壊されていた。

柱穴 5-74号住居跡の下位より検出されたものを含め5本と考えられる。 **埋壘** 検出されなかった。

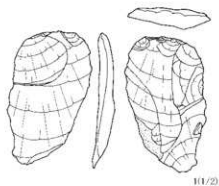
掘方 内側に段を有し、一段低くなった部分が確認された。

出土遺物 確認された部分が極わずかであったため、本址に帰属すると思われる遺物はほとんど見られなかった。掘方時に中期後半の土器片が見られたが図示し得なかった。石器についてもほとんど見られず僅かにスクレイパー1点のみである。

時期・所見 重複により壊された部分が多く、全容は不明である。5-74号住居跡の北西に張り出した住居の立ち上がりおよび周溝が検出されたことから存在を確認した。東側には5-74号住、南は5-38・39号住が重複し、さらに中央部分は水道管敷設溝により壊されているために全容は不明である。時期は出土土器から中期後半と見られる。



- 1 黒色土 赤土、塊乱等少ない。
- 2 黄色土 細砂、板状で塊状あり。
- 3 黒褐色土 茅の屑状存在。(5-74号住居跡層上)
- 4 黒褐色土 コム粒 (含む。(5-74号住居跡層土)
- 5 黒褐色土 コム小ブロックのみ網目。
- 6 黒褐色土 コムブロック若干含む小粒混入。(5-106号住居跡層土)
- 7 黄色土 コム土粒でやや混れている。
- 8 暗褐色土 コムブロック多く含む。



第224図 5-106号住居跡・出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-107号住居跡 (第225・226図: PL.36・157)

位置 V・W-18・19グリッドに位置する。 **重複** 5-101号住居跡内にすっぽりと取まる形で重複している。また、南側は水道管敷設溝によって壊されている。 **形状** 円形を呈す。 **規模** 270×(270)×15cm。 **方位** N-12°-E

床面 平坦で比較的締まりがあり、壁際に周溝がほぼ全周している。

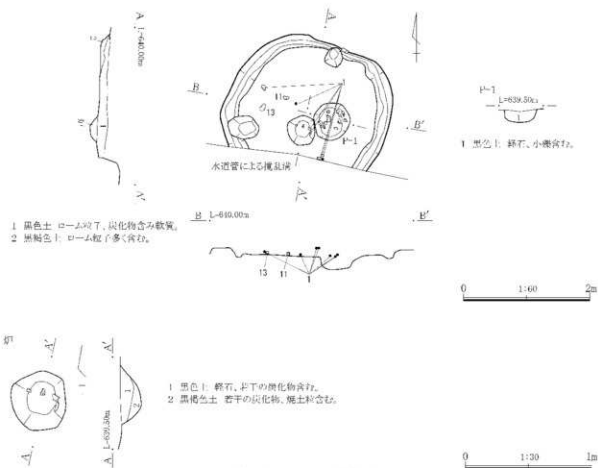
炉 中央からやや南に寄った場所に作られている。径約40cm、深さ20cmの掘り鉢状の掘り込みが検出され、炉と判断された。底の部分に若干の焼土、炭化物を含む層を認めた。直ぐ横にP-1が検出されているが本址に伴うものかどうかは確定できなかった。

柱穴 炉以外に3カ所の掘り込みが検出されているが、炉の右脇の落ち込みは位置および形態から柱穴とは判断できず、西壁および北壁に検出された2本が想定される。 **埋壺** 検出されなかった。

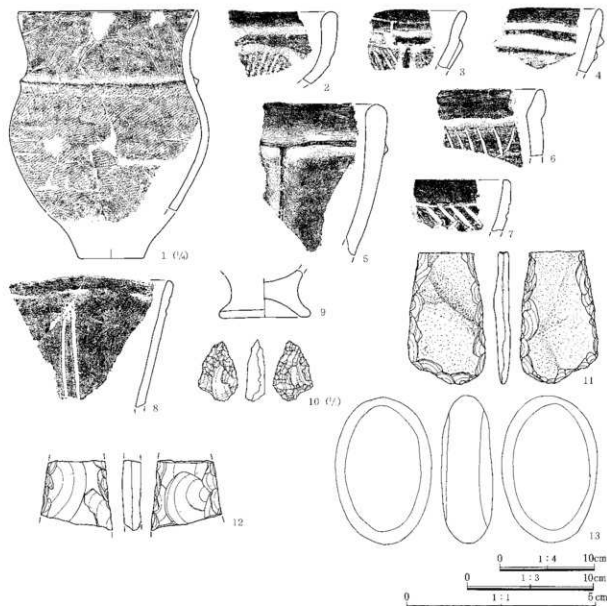
掘方 特に土坑等は検出されなかった。

出土遺物 若干の土器および石器が出土している。1は床面に点在していた破片が接合したものである。石器類は少なかった、石鏃、打製石斧および磨石である。

時期・所見 5-101号住居のほぼ中央に重複した小型の住居である。周溝もほぼ全周し、床面も比較的踏みしめられた状態であった。時期は後期初頭か。



第225図 5-107号住居跡



第226図 5-107号住居跡出土遺物

5-108号住居跡 (第227・228図: PL37・157)

位置 P-18・19グリッドに位置する。 **重複** 5-109号住居跡に西側を、5-116号住居跡が南に重複する。さらに東側には5-888号土坑が重複している。 **形状** ほぼ円形と思われる。

規模 400×(400)×30cm。 **方位** N-26°-W **床面** 平坦であるが縮まりはあまりない。

炉 川原石を方形に配した石組み炉であるが北側の炉石は石皿の転用である。

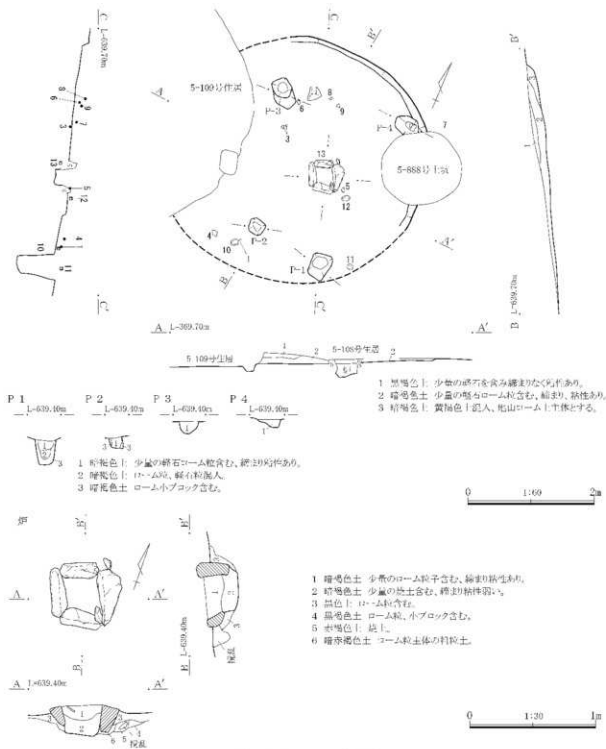
柱穴 5本を検出。径は30cm前後であるが、深さにばらつきが見られた。 **埋甕** 検出されなかった。

掘方 特に掘り込みは無かった。

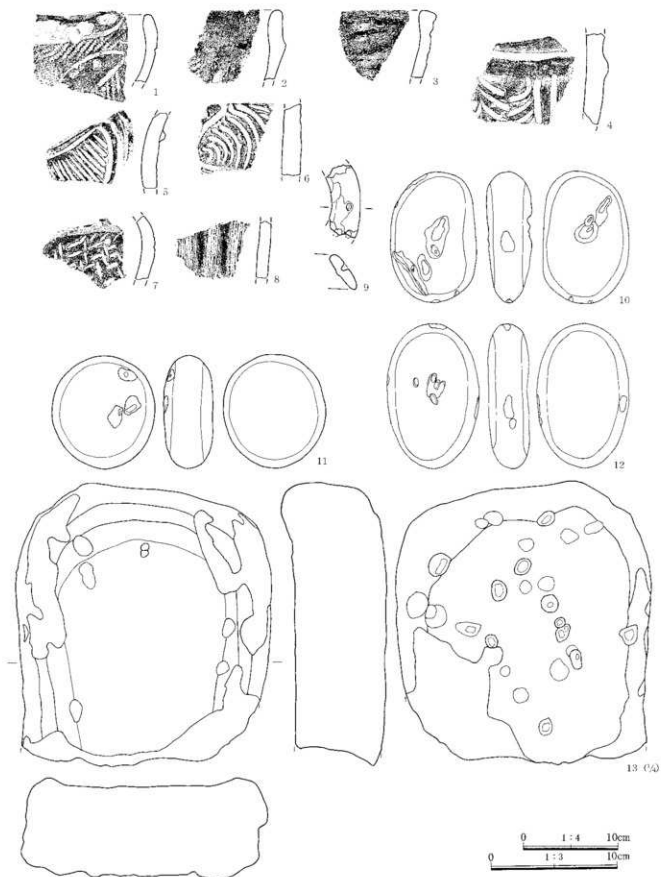
出土遺物 炉の周辺に若干の小破片類が出土。注目されるものに、白色顔料が塗彩された貝輪状土製品9の破片が出土している。石器類は、石鏃や打製石斧は見られず、磨石3点および炉石に転用されていた石皿が1点である。

時期・所見 上面を削平されており確認した掘り込みは浅い、周溝なども見られなかった。検出した床面も南に向かって傾斜が見られることから、かなり削られていると考えられる。時期は出土土器から中期後半と考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第227図 5-108号住居跡



第228図 5-108号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-109号住居跡 (第229~232図: PL.37・38・158)

位置 P・Q-18・19グリッドに位置する。**重複** 南側に5-110号住居跡が東側に5-108号住居跡が重複する。**形状** 円形を呈すものと考えられる。**規模** 450×(450)×30cm。

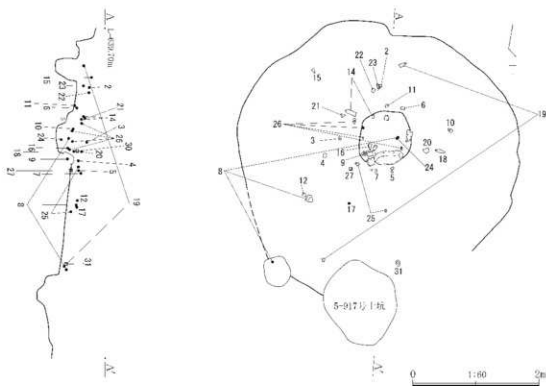
方位 N-3°-W **床面** ほぼ平坦であるが、やや南に傾斜を持つ。全体にあまり硬くはないが、炉の周辺部については比較的締まりは良い。また、幅約20cm、深さ10~15cmの周溝が北側の壁に沿って半周程掘られている。

炉 住居の中央やや北に位置する。おそらく方形に組まれた石組み炉であったと考えられるが、南側の長さ45cm程の石のみ検出された。他の石は抜かれたものと判断される。

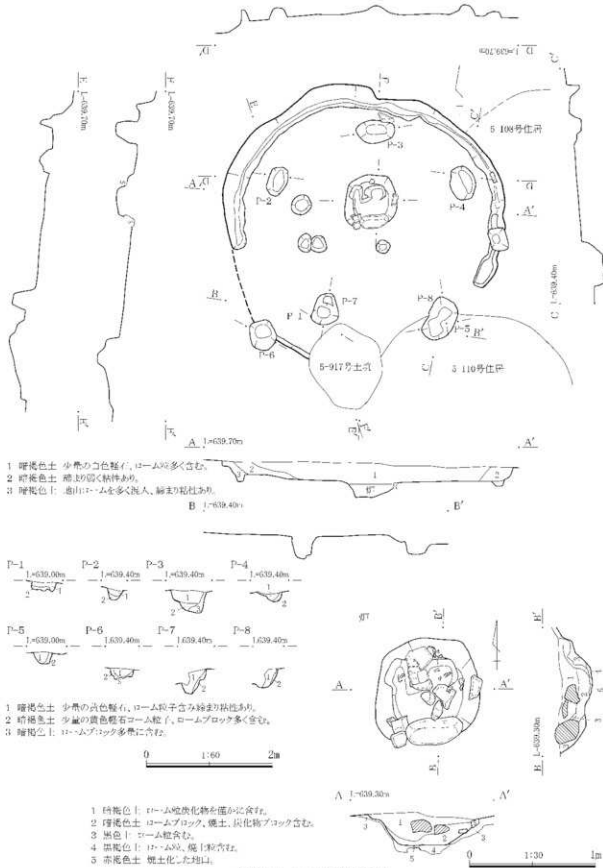
柱穴 壁に沿って5本が検出された。手前の2本がやや内側に配された五角形である。いずれも平面形は長円形で、深さは20~30cmである。**埋壘** 検出されなかった。**掘方** 貼り床、床下の土坑等は検出されなかった。

出土遺物 遺物は住居中央部に比較的集中して見られた。小破片のみで大きなものは見られなかった。石器も数点のみの出土であった。黒曜石製の石鏃、石錐および打製石斧、磨石である。

時期・所見 遺構が重複している南側を除けばかなり遺存状態は良好と言える。掘り込みはさほど深くはないが、北側にはほぼ半周の周溝や、配置が確認される柱穴の存在は住居の構造を示していると考えられる。炉に関しても、炉石などは原位置を留めてはいないが焼土の状況などから構造を復元可能である。時期は中期後半と判断される。



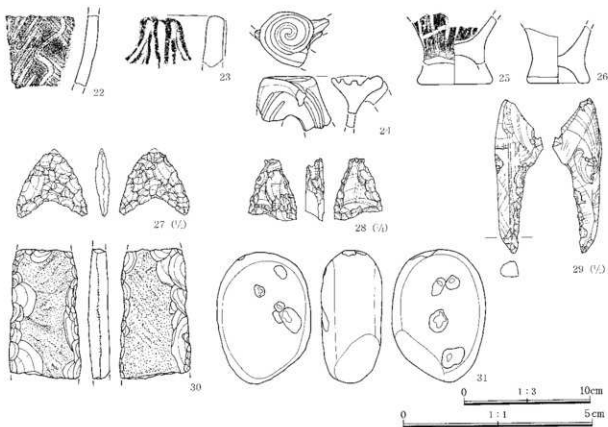
第229図 5-109号住居跡(1)



第230図 5-109号住居跡(2)



第231図 5-109号住居跡出土遺物(1)



第232図 5-109号住居跡出土遺物(2)

5-110号住居跡 (第233・234図：PL.38・158)

位置 P・Q-18グリッドに位置する。**重複** 北側には5-109号、東側には5-85号、5-116号住居跡が重複する。また、中央には5-897号土坑が重複している。

形状 円形を呈すと思われる。**規模** 350×(350)×15cm。**方位** -

床面 比較的平坦であるが硬さはあまり無い。

炉 ほぼ中央に構築されているが、後世の5-897号土坑により大部分は壊され、掘方の北側が僅かに確認されたのみである。炉石等も検出されていない。

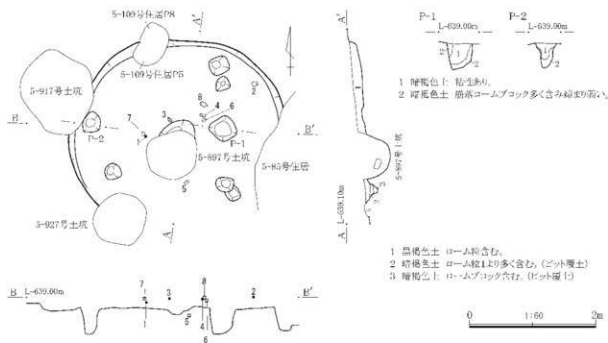
柱穴 生活面において、炉を挟み2本が検出されているが、東側の柱穴はかなり炉に近い位置にある。さらに、掘方方面では数本のビットを検出したが、明確な対応関係は掴めなかった。2本柱穴と判断されるが3ないしは4本の可能性もある。**埋塵** 検出されない。

掘方 前述したビット5本の他には土坑等は見られなかった。

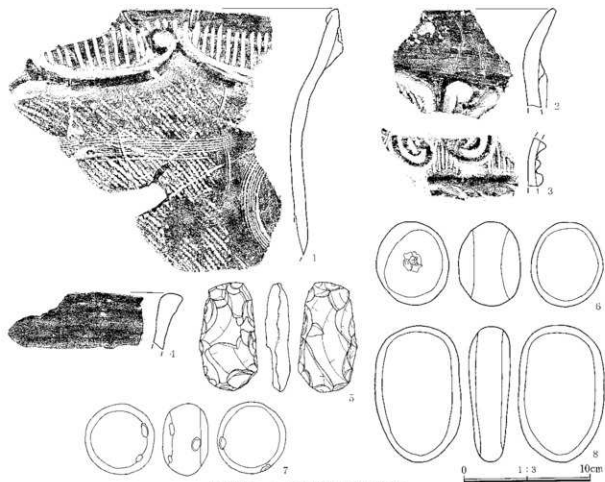
出土遺物 出土状態はほぼ全域から土器等が出土しているが、量的には少ない。石器は打製石斧および磨石が出土している。

時期・所見 掘り込みは浅く、重複もあり遺存状況は良くない。炉は浅い掘り込みの地床炉と見られるが、重複により大部分を失っている。時期は中期後半と判断される。

第3章 検出された遺構と遺物



第233図 5-110号住居跡



第234図 5-110号住居跡出土遺物

5-111号住居跡 (第235~238図: PL38・39・158・159)

位置 P-R-15グリッドに位置する。 **重複** 中央に5-442号配石と、配石下に検出された5-1106号土坑、さらに北西部分には5-443号配石、5-952号土坑であった可能性がある。

形状 やや隅丸な凹形を呈すと思われ、敷石住居であった可能性がある。 **規模** (600)×(600)×
方位 — **床面** 前述したように配石や土坑により壊された部分が多く、凹凸も著しく、生活面の確認はできなかった。北東および北西にわずかに壁の立ち上がり認める。

炉 ほぼ中央に2基を検出、西側の炉は一石の炉石を伴うがいずれも後世の土坑によってかなり壊されている状況であった。

柱穴 多くのピットが確認され明確な対応関係は掴めなかったが、8~10本が壁に沿って廻るものと推定される。 **埋塞** 検出されない。 **掘方** 不明である。

出土遺物 住居の範囲内において比較的多くの土器片等が出土しているが、本址に帰属するかは不明な点が多い、重複する住居や土坑の遺物も多く混入しているものと考えられる。1は大型の深鉢で2分の1ほど残存する。他は後期前半期の小片である。石器に関しても同様で、帰属認定が難しい。石鏃、磨製石斧、磨石等が見られる。

時期・所見 重複が著しく状態は良くない。床に扁平な石が部分的に敷かれており、敷石住居である可能性が高い。なお南に並んで検出されている5-974・988号土坑は対ピットと考えられる。出土遺物は炉の周囲に点在する。炉が2基検出されている事から、建て替えないしは拡張が想定される。時期は後期前半と考えられる。

5-112号住居跡 (第235・236・239・240図: PL39・159・160)

位置 Q-R-16グリッドに位置する。 **重複** 南側部分に5-111号住居跡が重複、さらに北西部分には5-135号住居跡が重複する。その他住居内には10基以上の土坑が存在する。

形状 北側の周溝の形状から隅丸方形を呈すものと思われる。 **規模** (450)×(450)×

方位 — **床面** 北側に一部、弧状に走る周溝を検出した。床面は多くの土坑によって削られており、ほとんど状況を観察できない。 **炉** 土坑によって壊されてしまったものと考えられる。

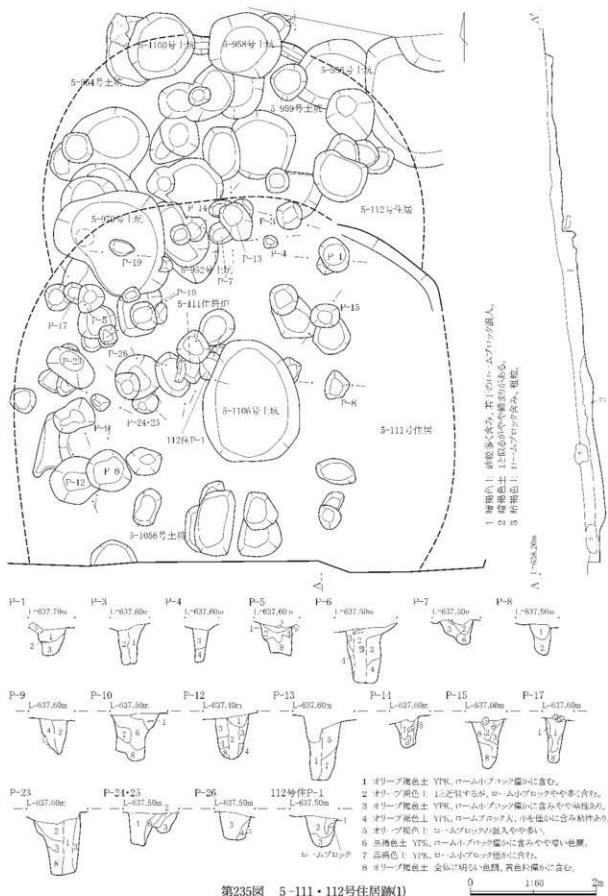
柱穴 多くの土坑が重複しており、判断は難しいがコーナーに位置する4本か。

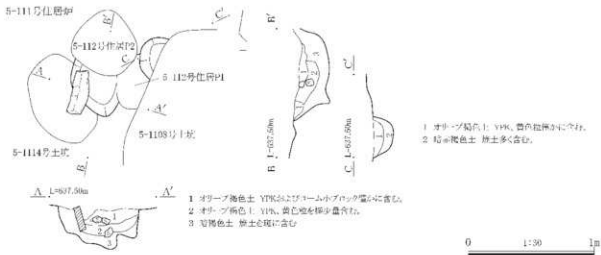
埋塞 検出されない。 **掘方** 不明。

出土遺物 本址に帰属すると判断されるものは極めて少ない。想定範囲内において出土したものを図示しておくが、明確な帰属認定はできなかった。石器は少なくとも石鏃1点、大型石簿の破片1点および多孔石が1点のみであった。

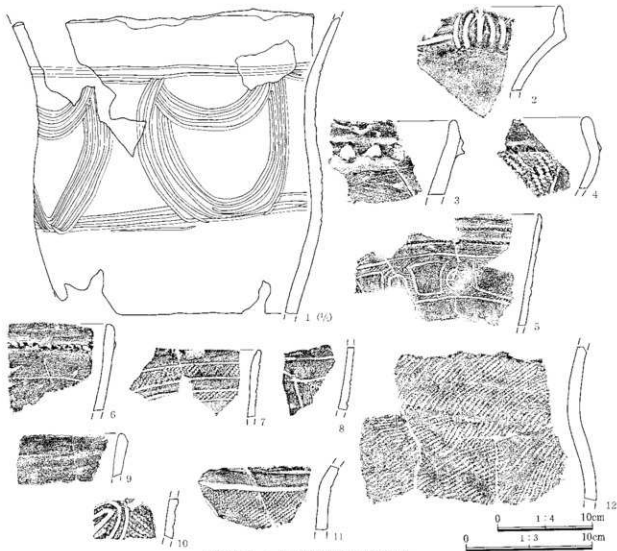
時期・所見 多くの土坑が重複しており、極めて残りの悪い住居である。わずかに確認された周溝から住居と判断した。5-111号住居跡に南側を切られていると考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



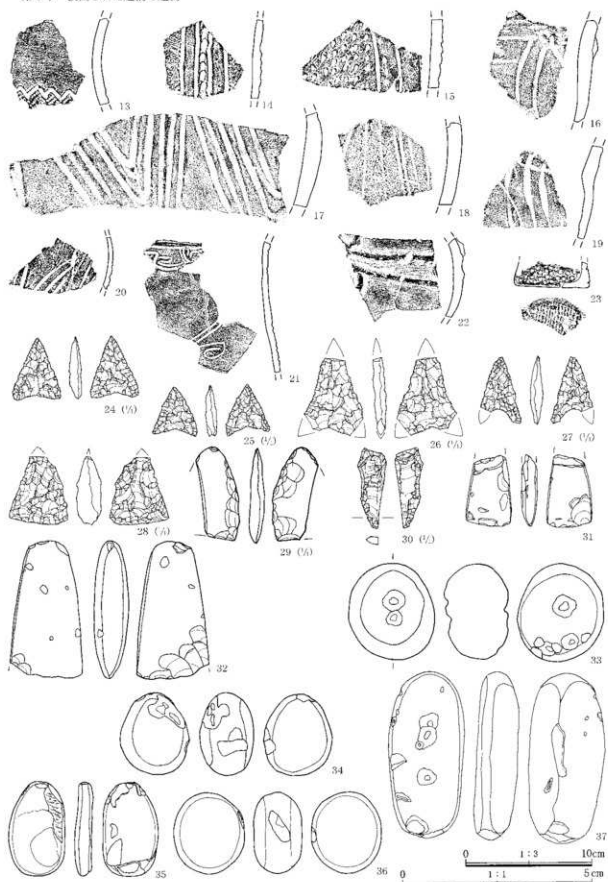


第236図 5-111・112号住居跡(2)

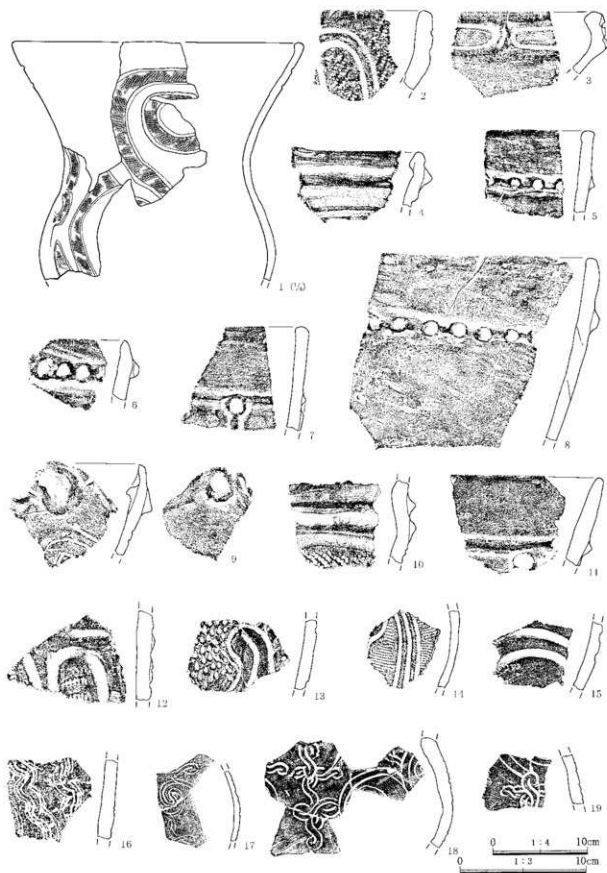


第237図 5-111号住居跡出土遺物(1)

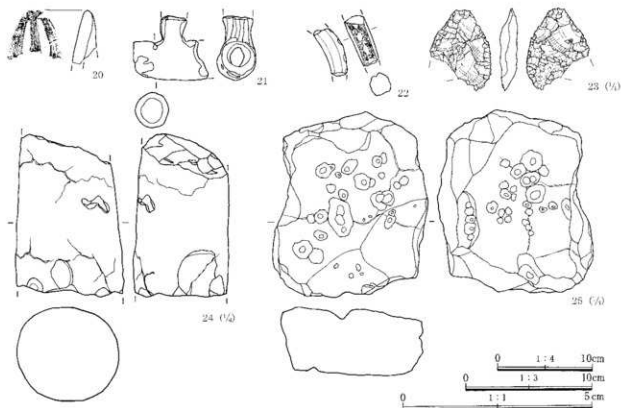
第3章 検出された遺構と遺物



第238図 5-111号住居跡出土遺物(2)



第239図 5-112号住居跡出土遺物(1)



第240図 5-112号住居跡出土遺物2)

5-113号住居跡 (第241~251図: PL.39・40・160~163)

位置 K・L-16・17グリッドに位置する。**重複** 5-92号住居跡の東側および5-93号住居跡を切って構築される。**形状** 柄杓型を呈すものと思われるが、張り出し部の形状については不明である。検出した周溝が部分的に途切れ、やや直線的に掘られていることから、床面の形状は六角形を呈していたことも考えられる。**規模** 500×(300)×50cm。**方位** N-5°-E

床面 地山ルーム面を固めて床としている。全体的に良く締まり、炉の周囲がやや落ち込んでいる。前述したように、壁際に幅20~30cmの周溝が部分的に途切れているがほぼ全周している。

炉 新旧2基を検出、新しい炉(1号炉)は一部に石を用いるものの、他は土器の口縁部片を楕円形に2・3重に立て並べた土器囲い炉である。長径80cm、短径60cmを測る。火床面は良く焼けており中央にはビット状の掘り込みが見られた。古い炉(2号炉)は1号炉の東側に一部重なって検出された。75cm×65cmの隅丸方形の土坑として検出された。覆土中に多量の焼土粒、ルームブロックが含まれており人為的に埋められたものと判断される。

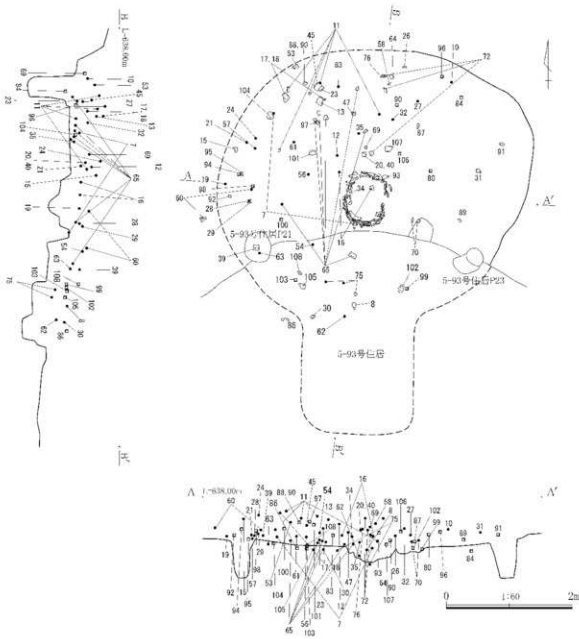
柱穴 壁溝に沿って9本を検出した。5-93住P8、5-93住P21、P1、P6、P4、P2、P3、5-93住P23、5-93住P3である。周溝の途切れた部分に掘り込まれていることも注目される。なお、入り口部および張り出し部については、5-93号住居の覆土中であつたことから確認できなかった。

埋藏 検出されなかった。**掘方** 本住居の西側に重複する5-92号住居跡の炉が主体部の西寄りにおい

て検出されている、断面の観察から人為的に埋めているものと判断された。

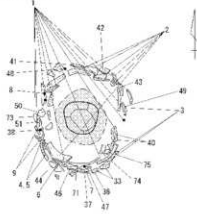
出土遺物 比較的多くの遺物が見られ、分布を見ると住居の西側寄りに集中する傾向が窺える。特に炉材として用いられた土器片は時期認定の上でも注目される。石器は石鏃、打製石斧、磨石類が多く見られるが、本遺跡ではあまり出土例のない石匙や卵形の軽石製品が注目される。また北西に位置する柱穴脇に、高さ25cm程の川原石の立石が据えられていた。

時期・所見 本址は新旧2基の炉が検出されたことから西側に拡張されたものと見られる。拡張後の炉は古い炉の左側に構築されており、土器片を楕円形に立て並べた土器囲い炉で、本遺跡では初出のものである。時期は炉に使用された土器などから加曾利E4式期と判断される。



第241図 5-113号住居跡(1)

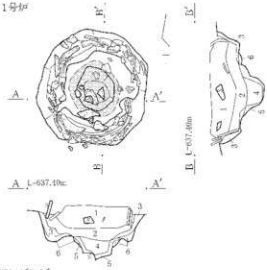
遺物分布図



2号研



1号研



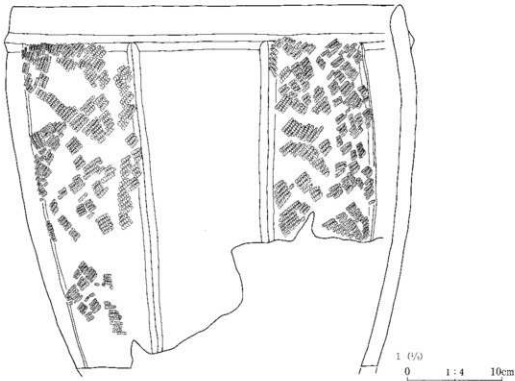
- 1号研A-A' B-B'
- 1 暗褐色土 多量の白色ハシタケみ、粘り汚泥あり。
 - 2 暗褐色土 炭土多量に含み礫、砂粒あり。
 - 3 暗褐色土 多量の泥土粘り付いた、礫及び砂粒あり。
 - 4 暗褐色土 多量の泥土粘り付いた、粘り強く粘りあり。
 - 5 暗褐色土 粘り付いた、粘り強く粘りあり。
 - 6 暗褐色土 炭土粒、黒色土小ブロックの混入。

2号研A-A'

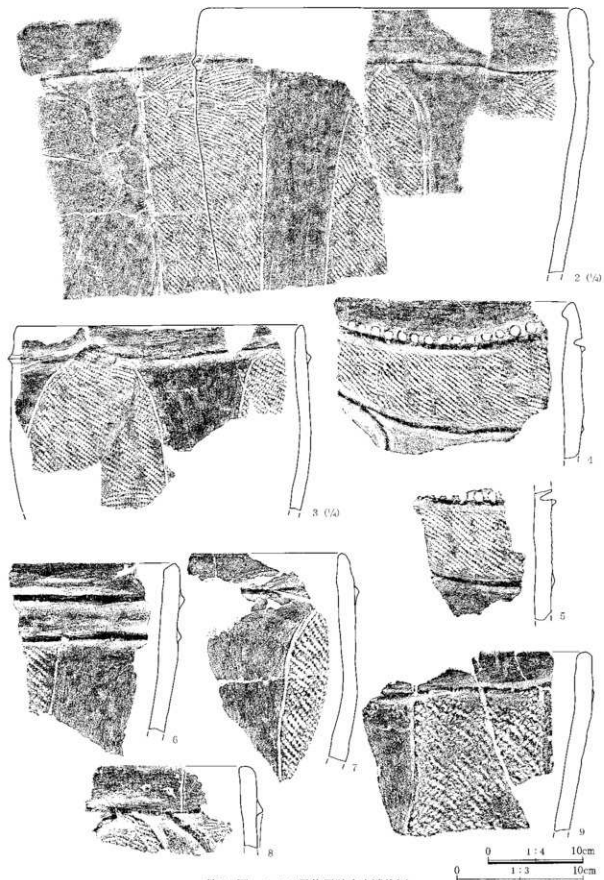
- 1 暗褐色土 多量の泥土粘り付いた、粘り強く粘りあり。
- 2 暗褐色土 1とほぼ同とするがハシタケみ多く混入。

0 1:30 1m

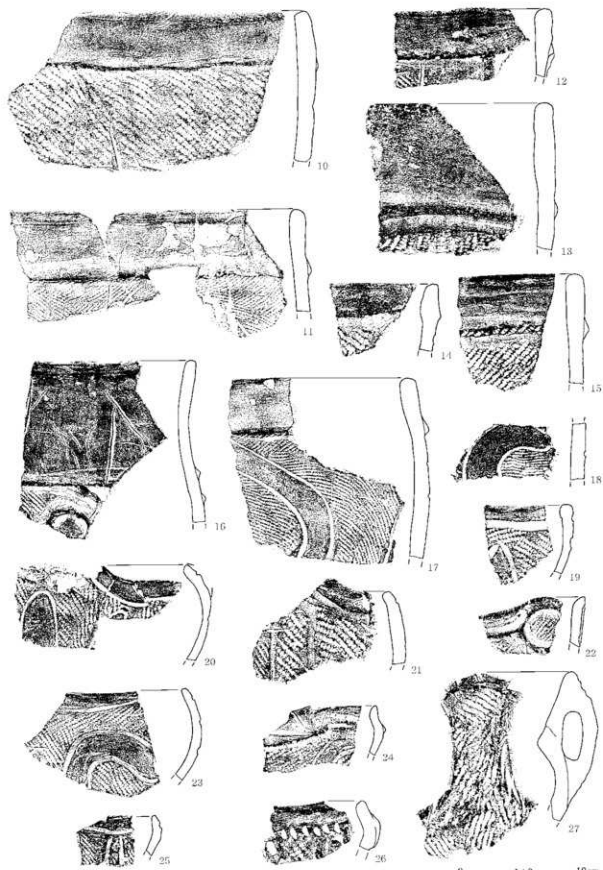
第243図 5-113号住居跡(3)



第244図 5-113号住居跡出土遺物(1)

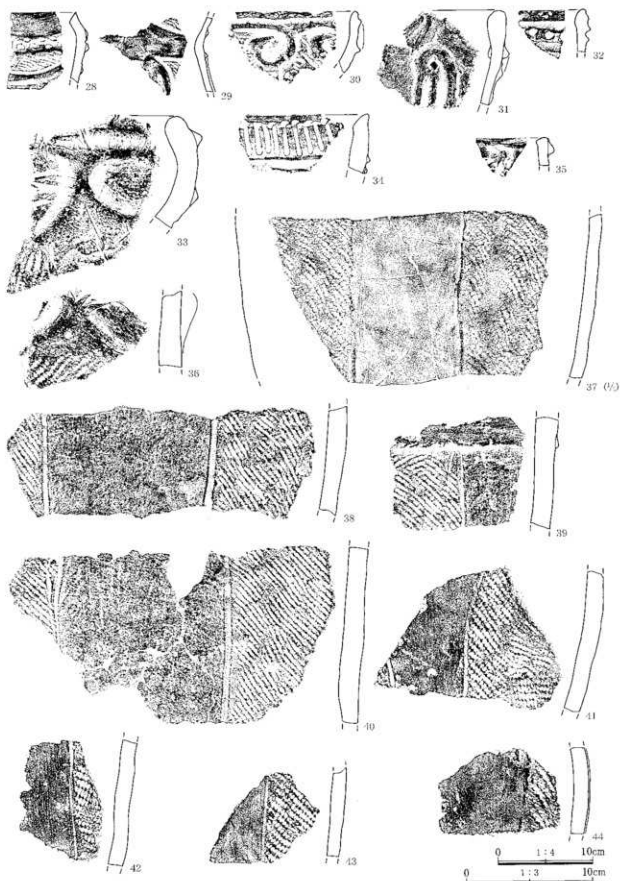


第245図 5-113号住居跡出土遺物(2)



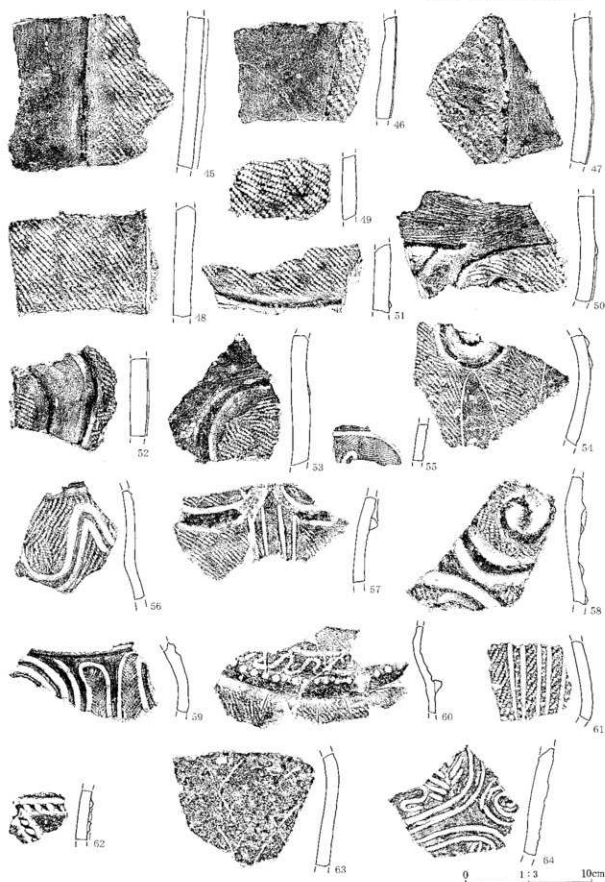
第246図 5-113号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

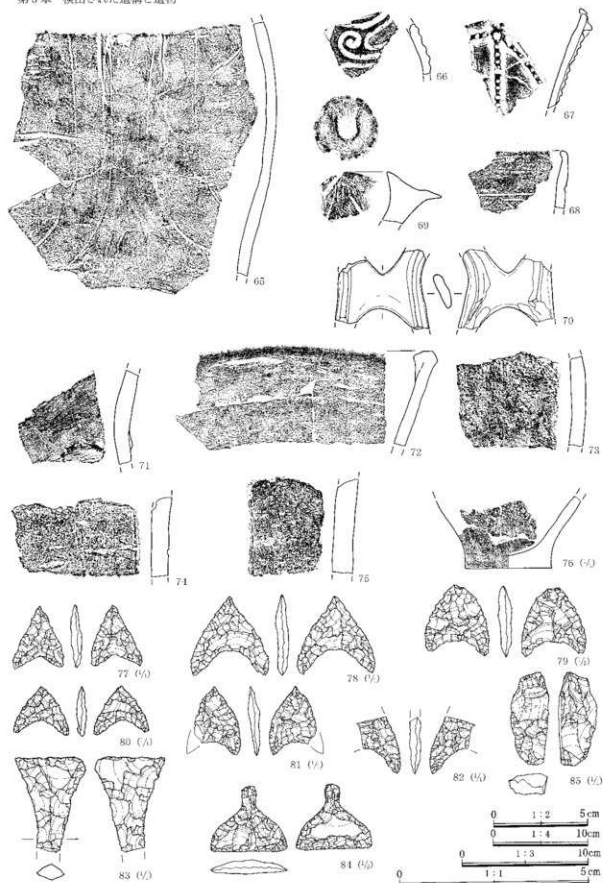


第247図 5-113号住居跡出土遺物(4)

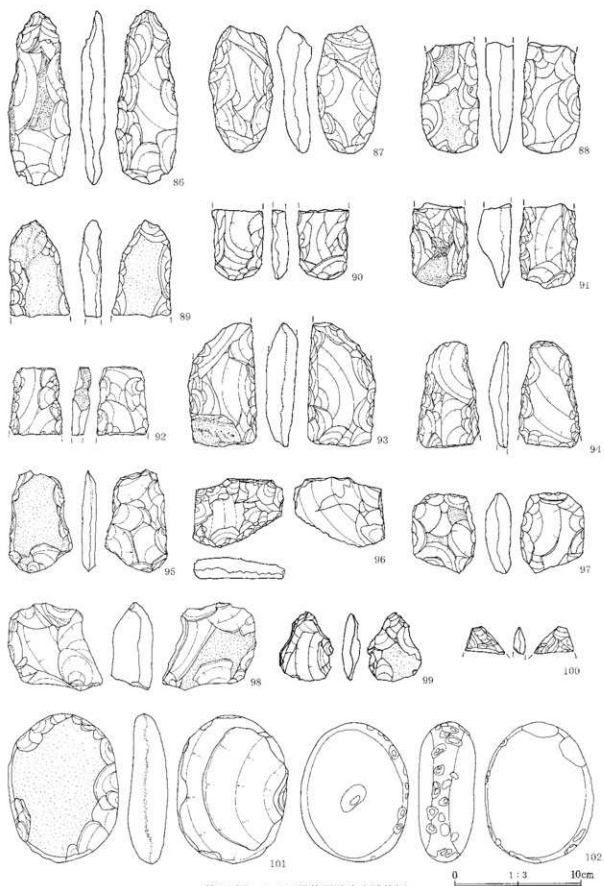
第3節 縄文時代の遺構と遺物



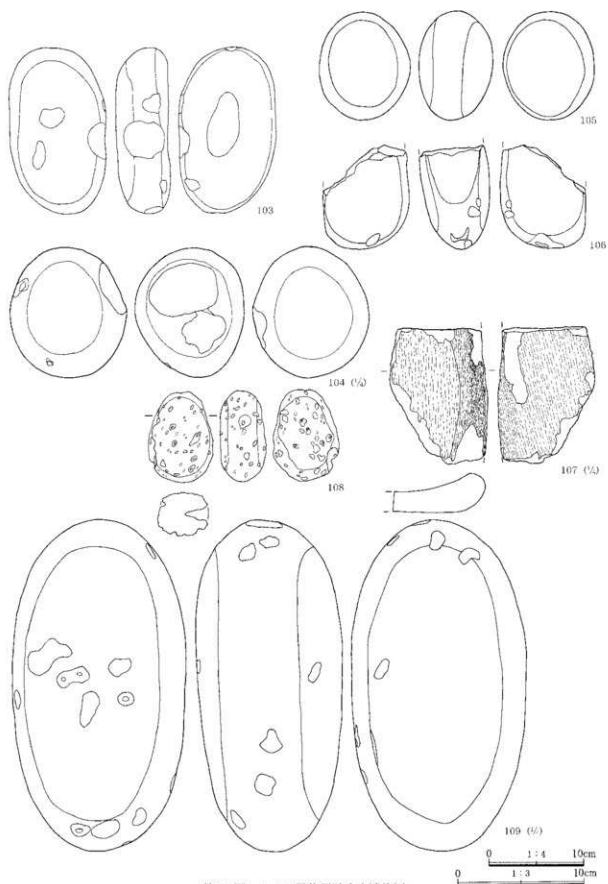
第248図 5-113号住居跡出土遺物(5)



第249図 5-113号住居跡出土遺物(6)



第250図 5-113号住居跡出土遺物(7)



第251図 5-113号住居跡出土遺物(8)

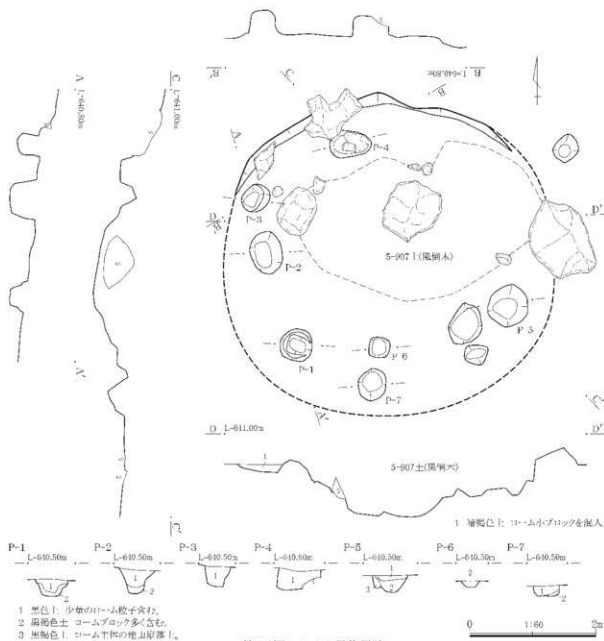
5-114号住居跡 (第252・253図: PL40・163)

位置 S・T-20・21グリッドに位置する。重複 中央部分は5-907号土坑(風倒木)により壊されている。形状 円形か。規模 推定径5.2m。方位 -

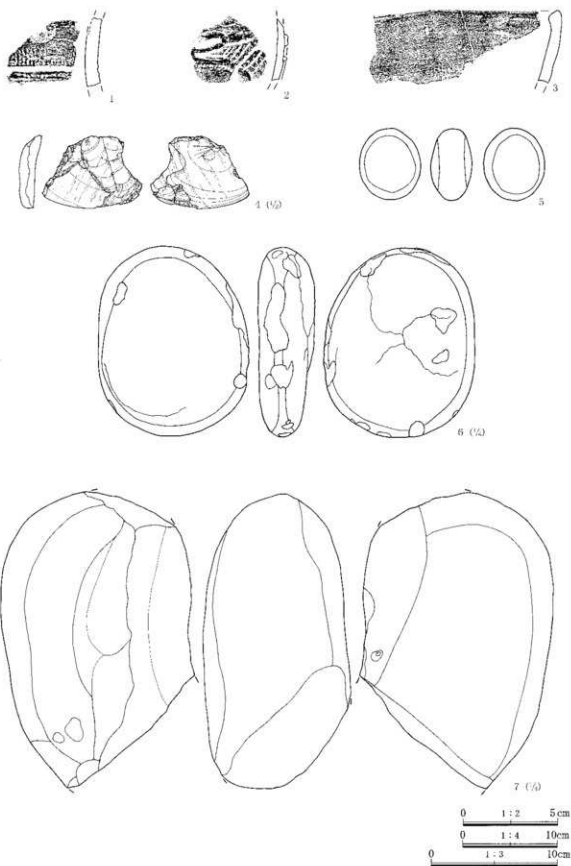
床面 土坑(風倒木)に大きく壊されており状態は極めて悪く、残った部分についても凹凸が顕著で、南側についても削平が著しい。炉 5-907号土坑(風倒木)によって壊されている。柱穴 風倒木を取り囲むように検出された、壊されたものを含め、5本から7本と推定される。埋壘 検出されない。掘方 不明である。

出土遺物 風倒木覆土中よりわずかに出土。少数の土器片、石器はスクレイパーおよび磨石等である。

時期・所見 弧状に残る北壁部分を除き、中央部分は風倒木により大きく壊されさらに南側は削平されている。時期は中期後半か。



第3章 検出された遺構と遺物



第253図 5-114号住居跡出土遺物

5-115号住居跡 (第254・255図: PL40・163)

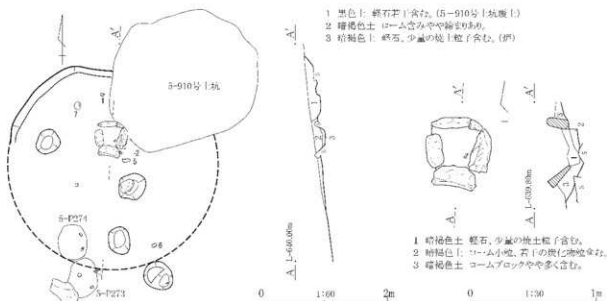
位置 S・T-18・19グリッドに位置する。重複 北東部を5-910号土坑(風倒木)により壊されている

形状 円形か。規模 推定径3.0m。方位 N-5°-E

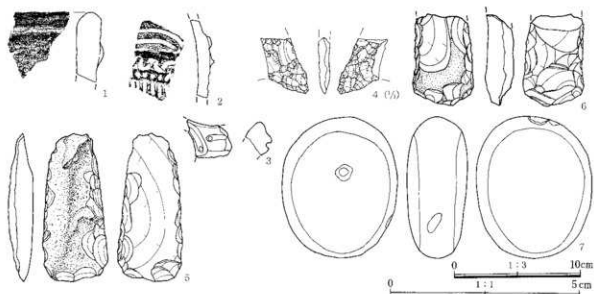
床面 残存部分については比較的平坦であるが、硬さは乏しい。炉 板状の礫を四角に組んだ石囲い炉である。55×50cmのほぼ方形を呈す。内部に若干の焼土を認める。柱穴 炉の左および手前部分に5本のピットが検出されたが、明確な対応関係は認めなかった。風倒木により1本が壊されているものと考えられることから、2ないしは3本の可能性がある。埋壘 検出されない。掘方 不明。

出土遺物 炉の前面にわずかに土器片等が見られた。石器も少なく石鏃1点、打製石斧2点、磨石1点である。

時期・所見 小型の住居である。炉を検出したが、大部分風倒木や削平により遺存状態は悪い。



第254図 5-115号住居跡



第255図 5-115号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-116号住居跡 (第256・257図: PL40・163)

位置 P-18グリッドに位置する。 **重複** 南側に5-85・110号住居跡が重複しており南側のおよそ半分

は壊されている。 **形状** 円形か。 **規模** (350)×(350)×15cm。 **方位** —

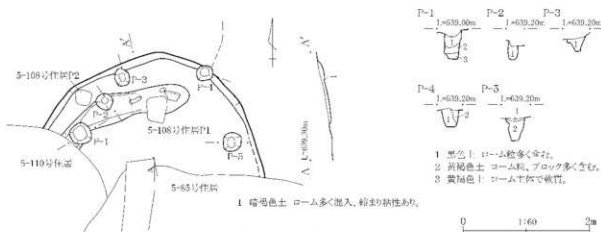
床面 やや凹凸が見られるものの比較的締まりがよい。北側部分に幅広い周溝状の溝が検出されている。

炉 検出されなかった。 **柱穴** 壁に沿って径約20cm深さ30~40cmの柱穴5本が廻る。

埋裏 検出されなかった。 **掘方** 不明。

出土遺物 わずかに土器片が出土しているのみである。

時期・所見 小型の住居で、南側が大きく失われ、削平も受けており遺存状態が悪い。時期は出土した土器から中期後半か。



第256図 5-116号住居跡



第257図 5-116号住居跡出土遺物

5-117号住居跡 (第258・259図: PL40・41・163)

位置 W・X-17グリッドに位置する。 **重複** 無し。

形状 不明(平地式か)。 **規模** 不明。 **方位** N-0°

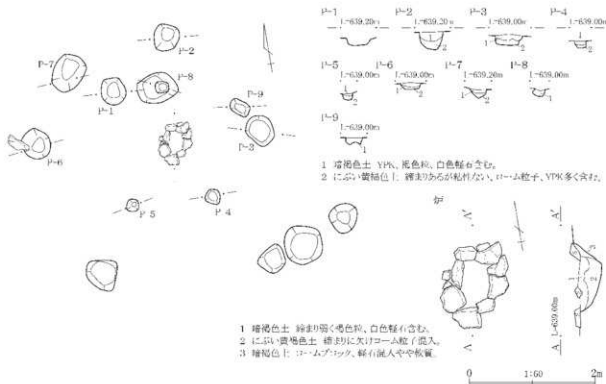
床面 平坦で、炉の周囲はやや硬く締まった部分が見られる。 **炉** 自然産をほぼ楕円形に組む。内部はかなり深く掘りこまれる。内部に焼土はほとんど見られず。 **柱穴** 炉の周囲に9本が見られるが、企画性に乏しくいずれも比較的掘り込みが浅い。外側に位置する6本か。

埋裏 検出されない。 **掘方** 貼り床等は見られない。

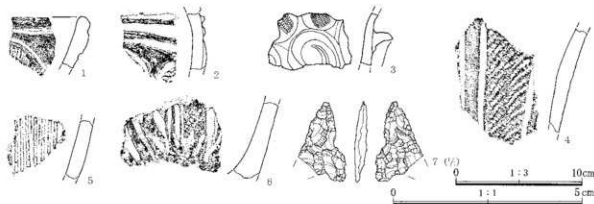
出土遺物 若干の土器小片が出土している。石器は黒曜石製の石鏃が1点のみである。

時期・所見 掘り込みは確認されなかった、また周溝なども見られない。炉の周囲はかなり踏み締められた様子が伺えた。平地式住居の可能性がある。時期は中期後半か。

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第258図 5-117号住居跡



第259図 5-117号住居跡出土遺物

5-118号住居跡 (第260~262図: PL41・164)

位置 W・X-15・16グリッドに位置する。重複 東側に5-119号、南側は5-128・129号住居跡に切

られる。形状 円形か。規模 380×(360)×12cm。方位 N-29°-W

床面 細かな凹凸が在るが比較的平坦、中央より南はわずかに下がる。全体に締まりがある。

炉 ほぼ中央に作られ、細長い石を四角に組んだ石囲い炉である。南および西側は石がほぼ原位置を留めるが、他の石は割れて内側に崩落した状態で出土している。残存する石も熱を受けひび割れが顕著である。

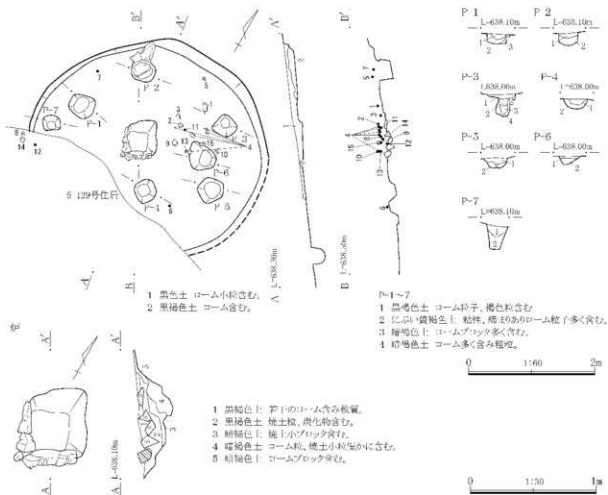
柱穴 7本の柱穴を確認しているが、外側に廻る5ないしは6本が本来の柱穴と判断される。南側は5-129号住居跡により削られている。

第3章 検出された遺構と遺物

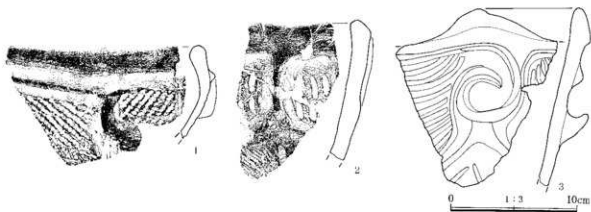
埋藏 検出されない。 **掘方** 特に土坑等の検出は無かった。

出土遺物 若干の土器片及び石器、石片が炉の周辺において出土。石器は打製石斧が1点のみである。

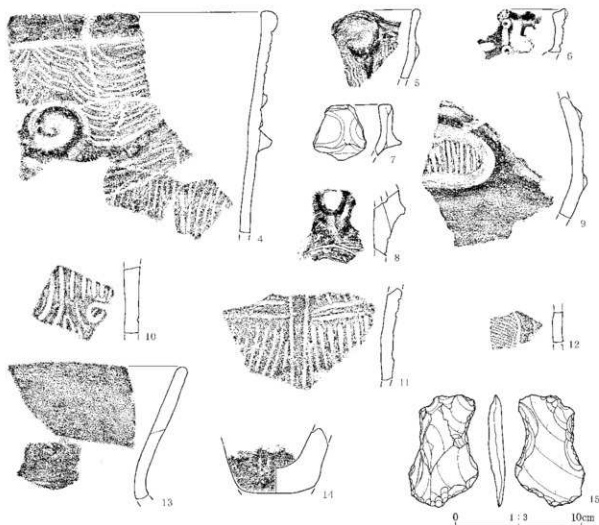
時期・所見 南側が他の住居により削られ、上面も削平された状態で遺存状態はあまり良くない。時期は出土土器から中期後半と見られる。



第260図 5-118号住居跡



第261図 5-118号住居跡出土遺物(1)



第262図 5-118号住居跡出土遺物(2)

5-119号住居跡 (第263～265図：PL41・164)

位置 W-15・16グリッドに位置する。**重複** 東側に5-119号住居跡が、西側には5-118号住居跡が重複する。

形状 ほぼ円形を呈すものと思われる。**規模** 320×(320)×12cm。**方位** 不明。**床面** 全体に凹凸が見られるが締まりは良い。**炉** ほぼ中央に南北に長い掘り込みを有す地床炉である。中央に深鉢の下部を炉体土器として埋める。

柱穴 入り口部に並んで2穴と壁に沿って配された3本の計5本が主柱穴と思われる。

埋壺 入り口部左側に検出されている。5-977号土坑内に位置する、深鉢の胴下半部を正位に埋める、破片類が中に落ち込んだ状態で確認された。東側に2個の礫が見られる。

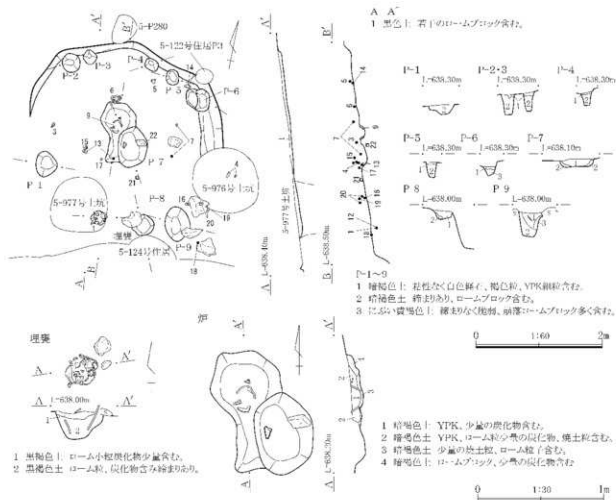
掘方 本址よりも古い5-977号土坑が南西部に検出されているが伴うものかは不明である。

出土遺物 土器片類は点在した状態で出土、1は埋壺。石器は僅かにスクレイパーと石皿片の2点である。

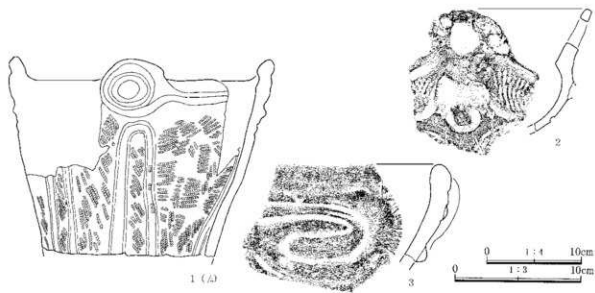
時期・所見 比較的小型の住居である。南側は5-118号住居と重複することもあり削平状況にある。時期は

炉体土器、埋壺から中期後半加曽利E3式期と思われる。

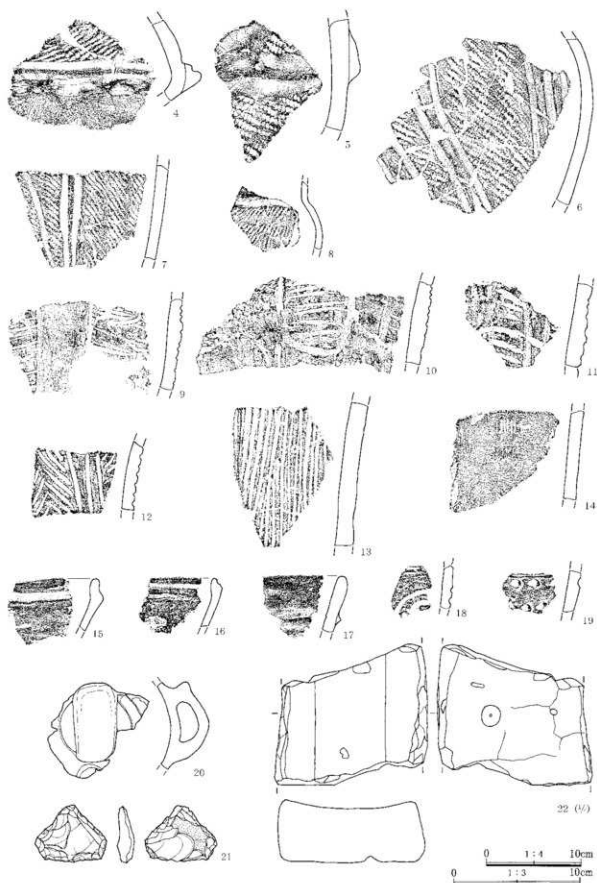
第3章 検出された遺構と遺物



第263図 5-119号住居跡



第264図 5-119号住居跡出土遺物(1)



第265図 5-119号住居跡出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物

5-120号住居跡 (第267~271図: PL.42・43・164~166)

位置 V-16グリッドに位置する。**重複** 5-122号住居跡内に構築されている、南部分に5-1000・1035号土坑が重複する。

形状 円形を呈す。**規模** 290×270×25cm。**方位** N-6°-W

床面 壁の立ち上がりは緩やかで、床面はやや凹凸を持つ。炉の周囲を中心に跡まりが見られる。西側には重複する5-122号住居跡の炉の残骸が検出されている。

炉 ほぼ中央に作られている。礫をコ状に配した石囲い炉である。本来は四角で在った可能性が高い。規模は約50cm四方形である。

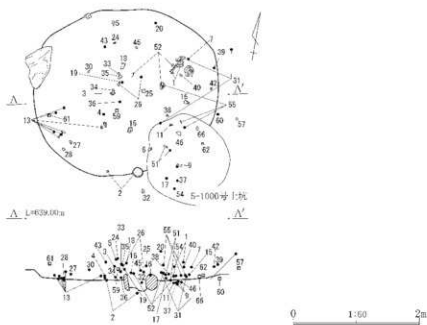
柱穴 北よりの壁際に2本を検出した。南側、土坑により壊されたと思われる1本を含め3本柱穴か。

埋塞 入り口部にあり5-1035号土坑内に検出された。蓋状の扁平な石の下に小型深鉢が正位状態で埋められる。

掘方 埋塞が覆土中に構築された5-1035号土坑および炉の西には5-122号住居跡の炉が検出された。

出土遺物 覆土上層から下層にかけて多くの土器、石器が出土している。1は床面2は入り口部に埋設されていた埋塞である。石器類はそれ程多くはなかった。鎌2点、打製石斧、磨製石斧が各1点、その他磨石類である。

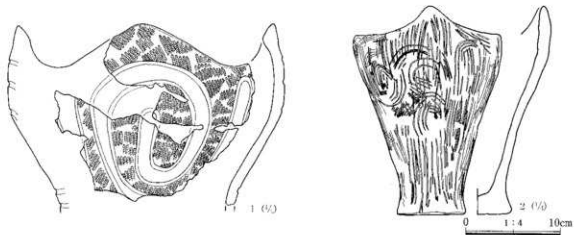
時期・所見 極めて小型の住居跡で、5-122号住居跡の中に収まる形で作られていた。入り口部に検出された5-1035号土坑は上面に厚さ3cmほどのローム貼り床層が見られることから本址に伴うものと考えられる。埋塞はこの土坑の南端部に埋められていた。出土遺物は1および2以外は破片類が多かった。埋塞から時期は中期末葉と考えられる。



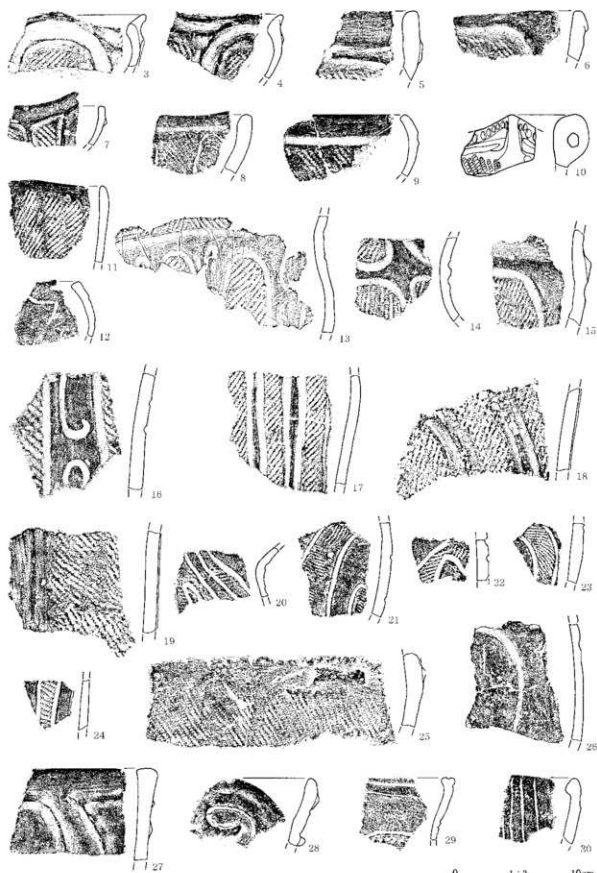
第266図 5-120号住居跡(1)



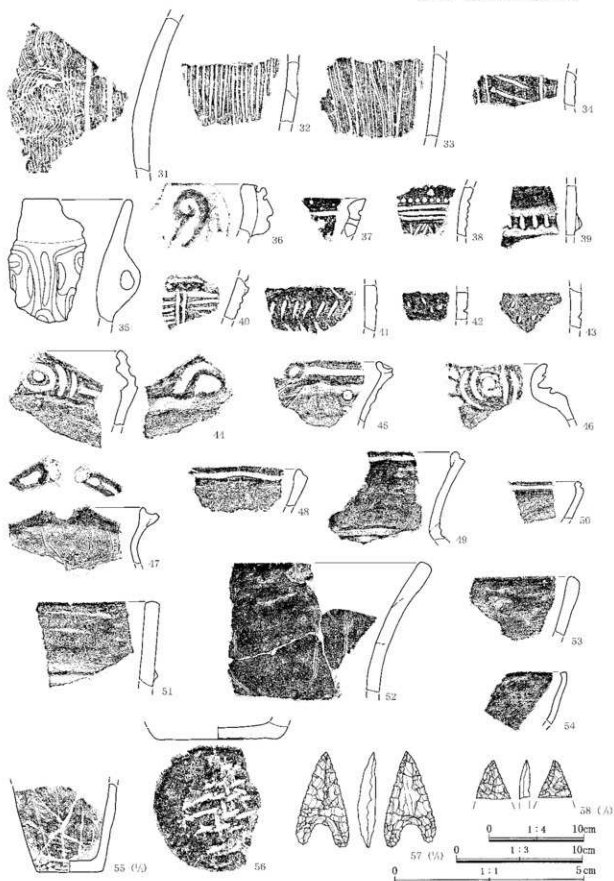
第267図 5-120号住居跡(2)



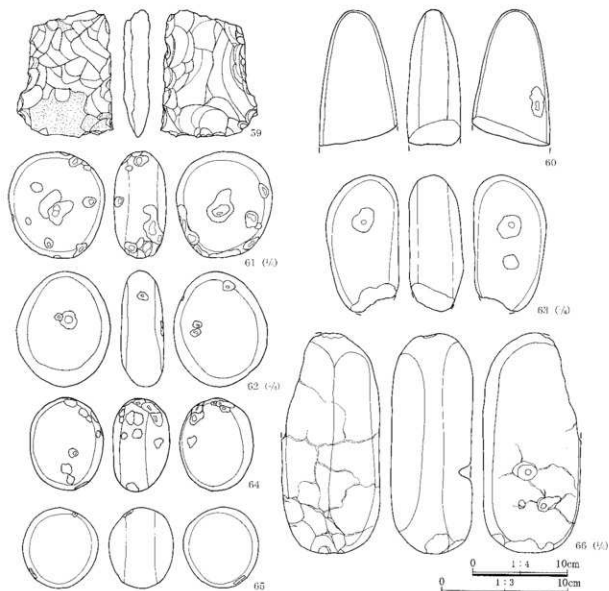
第268図 5-120号住居跡出土遺物(1)



第269図 5-120号住居跡出土遺物(2)



第270図 5-120号住居跡出土遺物(3)



第271図 5-120号住居跡出土遺物(4)

5-121号住居跡 (第272・273図：PL43・166)

位置 Q・R-15・16グリッドに位置する。**重複** 東側は5-111・112号住居が、西側には5-131・139号住居が重複する。また5-443号配石がある他10基以上の土坑が重複する。

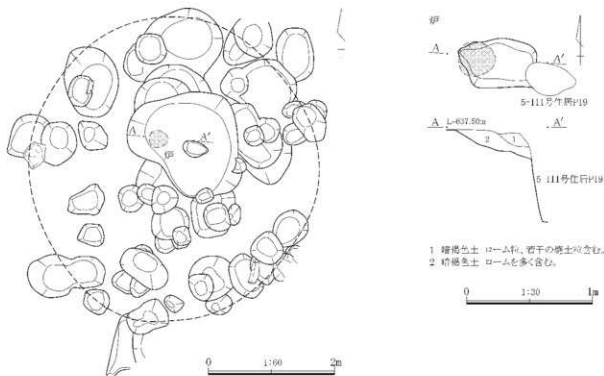
形状 円形と思われる。**規模** 推定径4.7m。**方位** -

床面 床面は確認できず。**炉** ほぼ中央に位置、5-952号土坑に大きく壊されていた。炉石は無く、下部の焼土痕と掘方の一部を検出した。**柱穴** 明確なもの確認できなかったが、推定規模内に円形に位置する土坑が対応する可能性がある。**埋壘** 検出されなかった。**掘方** 不明。

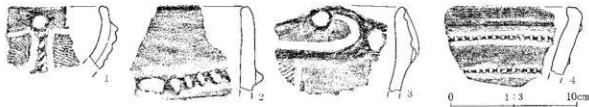
出土遺物 本址に帰属すると判断されるものは極めて少ない。

時期・所見 炉としたものは当初5-5号焼土として調査を行ったが、検討後炉の掘方を検出したことや、円形に配置する土坑が柱穴に相当するものとして住居とした。いずれにしろ極めて残りが悪く詳細は不明である。

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第272図 5-121号住居跡



第273図 5-121号住居跡出土遺物

5-122号住居跡 (第274・275図: PL43・166)

位置 V・W-15・16グリッドに位置する。**重複** 住居内に収まる形で北東部分に5-120号住居跡が、西には5-119号、東には137号住居跡が重複する。**形状** 円形を呈すと思われる。

規模 (560)×(560)×10cm。**方位** N-0°

床面 他の遺構によりほとんどの部分が壊されており、残存部は極僅かであるがしっかりと締まっている。

炉 中央やや北に寄った位置に構築されていた、5-120号住居内に位置し、上面は削られ、炉石も北側の1つを残して抜かれたものと考えらる。本来は四角の石組み炉であったと想定される。セクションの観察から人為的な埋戻しは見られない。

柱穴 南側部分については重複により検出できなかったが、北および西側部分については4本を検出した。

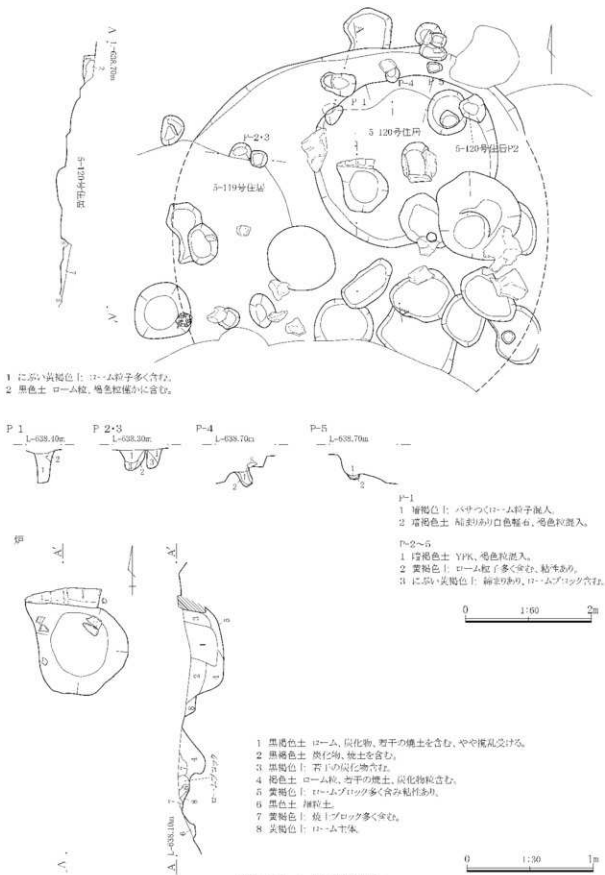
埋戻 検出されなかった。**掘方** 明確な遺構は認められない。

出土遺物 重複を免れたわずかな範囲、および炉内より若干の土器、石器が出土している。土器は小片のみで、石器も石鏃、打製石斧、磨製石斧が各1点である。

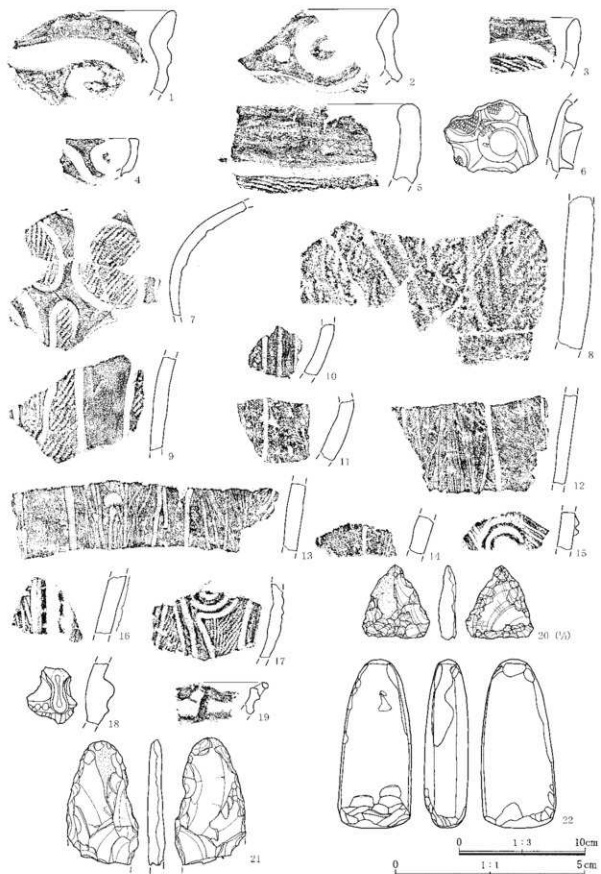
時期・所見 重複が著しく遺存状態は悪い。特に南側については床面もほとんど残っていない状況である。

炉に関しても上部が5-120号住居跡に削られていた。時期は中期後半、加曽利E3式期と思われる。

第3章 検出された遺構と遺物



第274図 5-122号住居跡

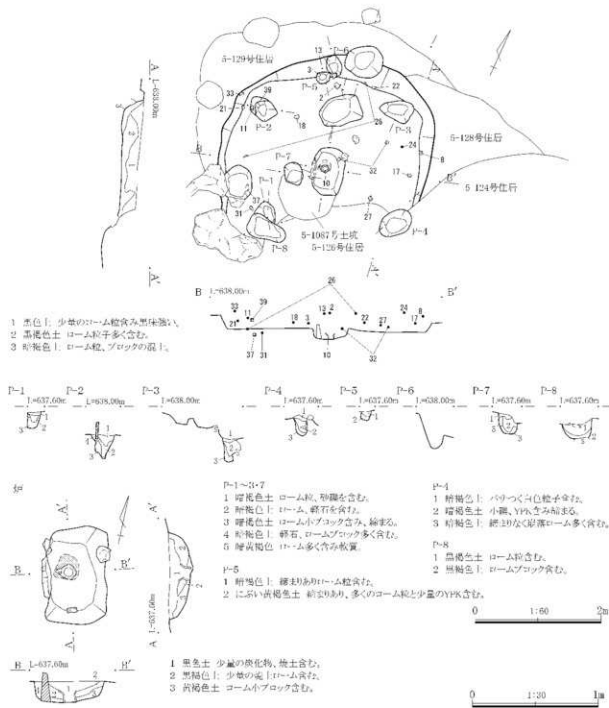


第275図 5-122号住居跡出土遺物

5-123号住居跡 (第276~279図: PL.43・44・47・167)

位置 X-14・15グリッドに位置する。重複 5-128・129号住居跡を切って構築されており、南側は一部5-126号住居跡掛かる。形状 ほぼ円形。規模 340×(340)×30cm。方位 N-15°-W
床面 平坦で比較的締まりがある。浅い周溝がほぼ全周する。

炉 ほぼ中央に作られる。長方形の掘方を持ち扁平な石を炉石としているが、西側の1枚のみが残る他北東隅には円礫が据えられている。火床面には炉体土器が埋められている。



第276図 5-123号住居跡

柱穴 壁に沿って6本を検出、径は40～60cmの長円形で深さは25～30cmである。北西の柱穴P-2には扁平な石を2枚差し込んで柱の押さえとしている。

埋塞 検出されない。 **掘方** 貼り床や床下土坑などは見られない。

出土遺物 あまり多くはないが破片類を中心にほぼ全面より出土している。10は炉体土器である。石器は石鏃、打製石斧、磨石類が出土している。

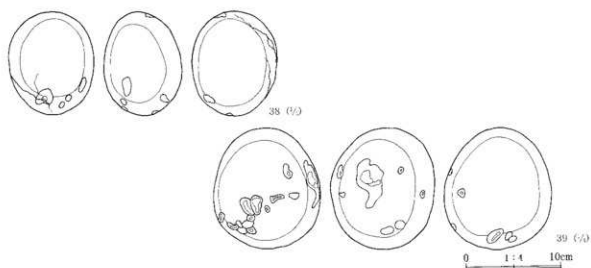
時期・所見 小型の住居である。時期は炉体土器から加曾利E3式期新と思われる。



第277図 5-123号住居跡出土遺物(1)



第278図 5-123号住居跡出土遺物(2)



第279図 5-123号住居跡出土遺物(3)

5-124号住居跡 (第280~300図: PL44~46・168~176)

位置 V~X-13~15グリッドに位置する。**重複** 西側は5-126・128・144号住居跡、北側は5-120・142号住居跡と重複、これらを切って構築されている。**形状** 柄鏡形の大型敷石住居跡である。

規模 860×(900)×60cm。**方位** N-0°**床面** 部分的に平石が敷かれている。おもに奥壁寄りの部分に沿って点在する。さらにその外周には大型の礫が列石状に検出された。

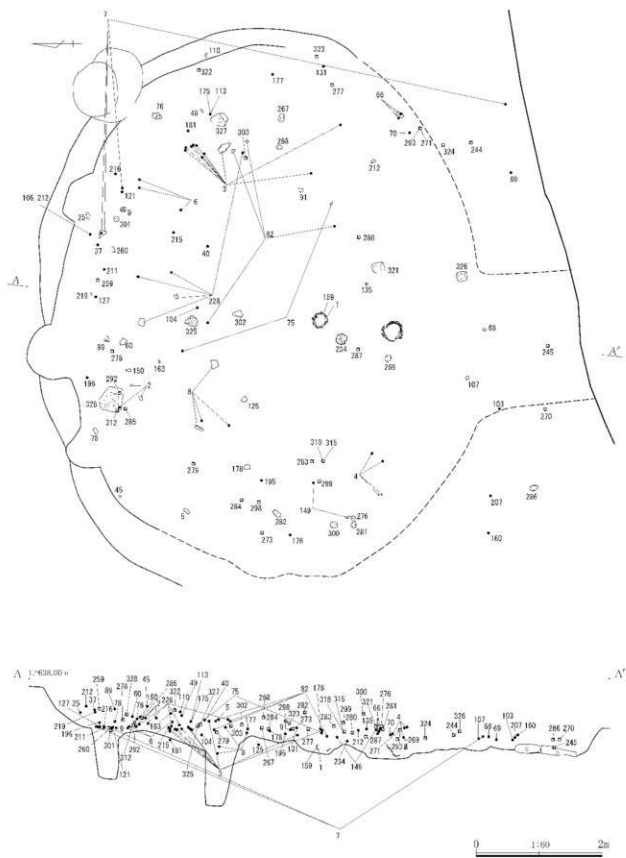
炉 地床炉である。3カ所の浅い凹みを有す地床炉が接して確認された。このうち本址の炉と思われるのは北に並んで検出された2基のが体土器を持つものと考えられる。手前の埋設土器は一部上に敷石が載っていることから、拡張前の5-145号住居跡のものと思われる。**柱穴** 壁の内側に沿って配列されている。径50~80cmで深さは60~1mを測る。さらに平成8年度に調査を行った南側で検出されている配石に関して、5-144・145・116号配石などは掘り込みも深く本址の柱穴である可能性が高い。

埋壺 検出されなかった。**掘方** 入れ子状に5-144号住居跡が確認された。またその下部には5-143号住居も検出されている。

出土遺物 覆土上層から下層にかけて極めて多くの土器、石器が出土している。1は炉体土器である。石器類は石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石類が見られるが、磨石の数が極めて多い。その他には石皿、石冠、軽石製品があり、重さ40kgを越える多孔石なども出土している。

時期・所見 今回の調査で検出された最も大型の住居である。柄鏡形を呈す敷石住居と考えられる。緩い南傾斜地に作られ、主軸方向を北にとり、入り口部分の南端は平成6年度調査区域に入る。平成6年度に調査された5-4号列石の西端は本住居の主体部と張り出し部の接合部に繋がるものと思われる。中に取まっている5-145号住居は拡張前の住居と考えられる。張り出し部をほぼ共有する形で、主体部が大きく拡張されている。また、掘方調査時に、張り出し部下部に5-1113号土坑が検出されている。長軸を住居と一にした大型の長円形を呈す土坑である。下部より長さ1mを越える大型の礫が出土しており、土層もほぼ水平に堆積していることから、人為的に礫を埋めたものと考えられる。西側にさらに古い5-144号住居跡も本址の掘方時に確認されている。

第3章 検出された遺構と遺物



第280図 5-124号住居跡(1)



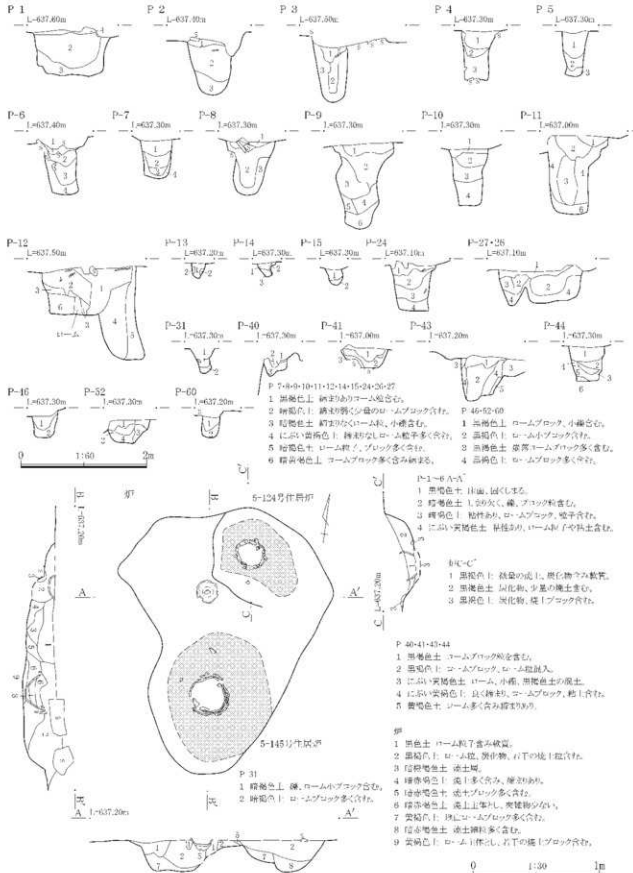
- 1 暗褐色土 小礫、ローム粒、ブロックの混入。
- 2 暗褐色土 1に似るがローム分多く含まれや縮まりがある。



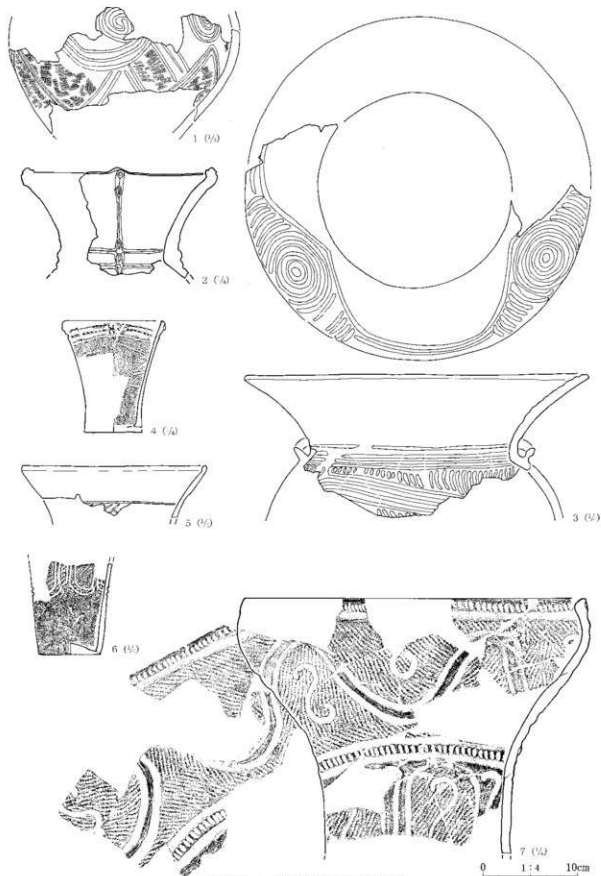
0 1:60 2m

第281図 5-124号住居跡(2)

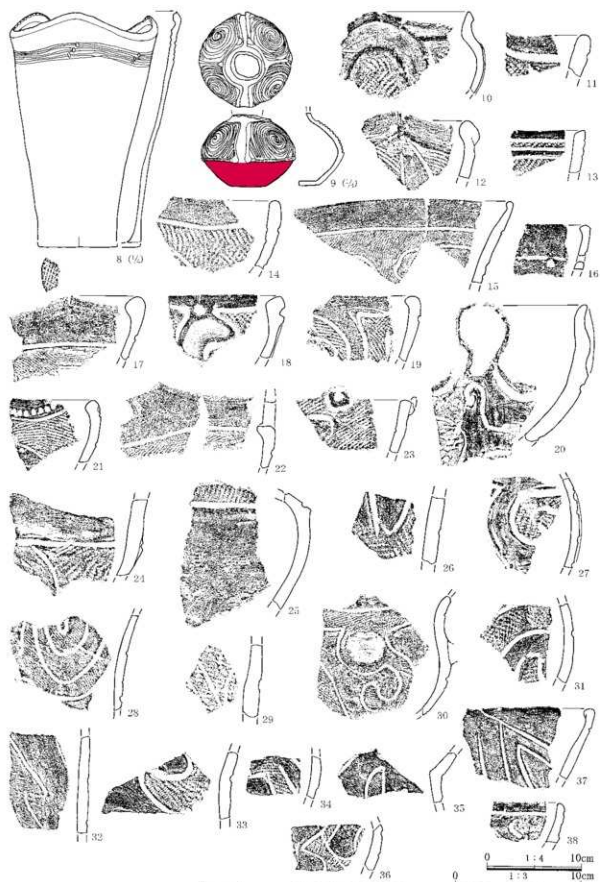
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第282図 5-124号住居跡(3)



第283図 5-124号住居跡出土遺物(1)



第284図 5-124号住居跡出土遺物(2)

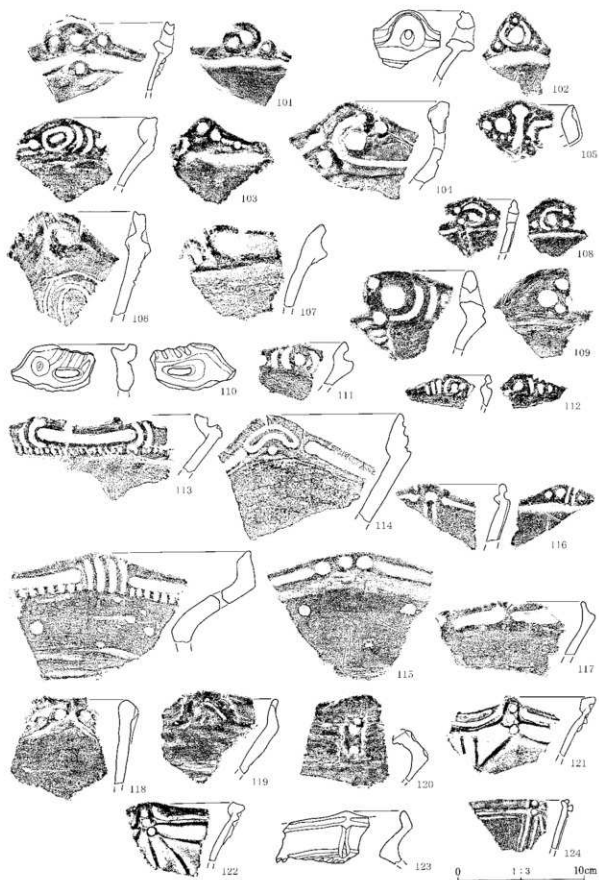
第3章 検出された遺構と遺物



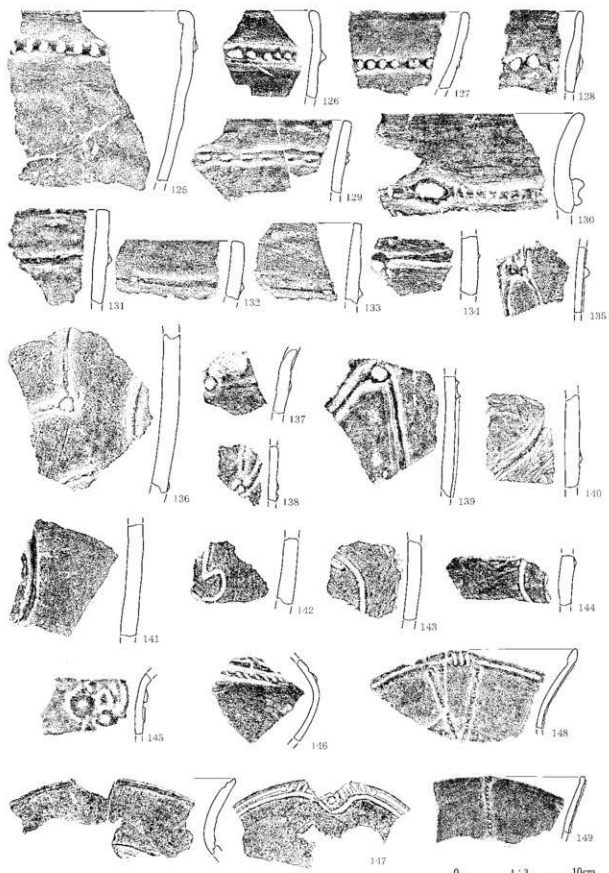
第285図 5-124号住居跡出土遺物(3)



第286図 5-124号住居跡出土遺物(4)

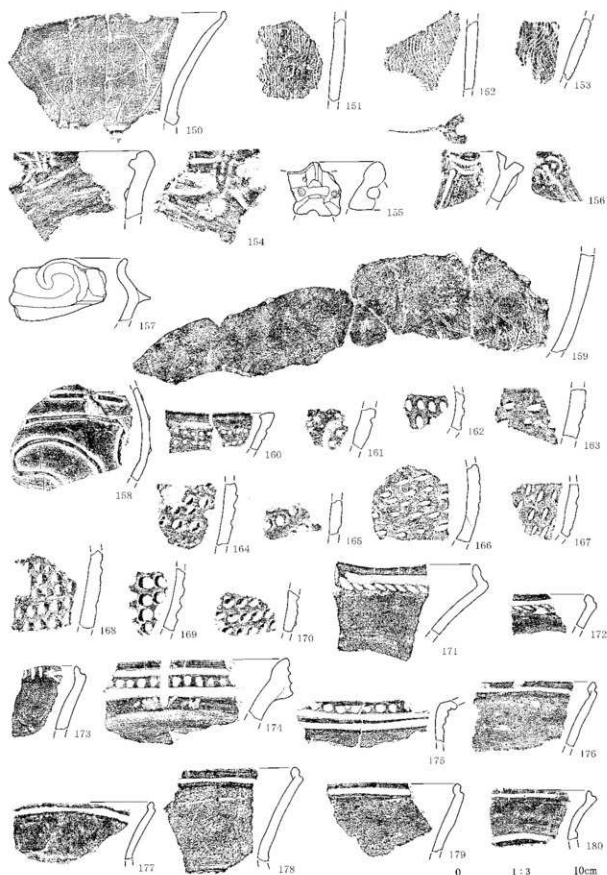


第287図 5-124号住居跡出土遺物(5)



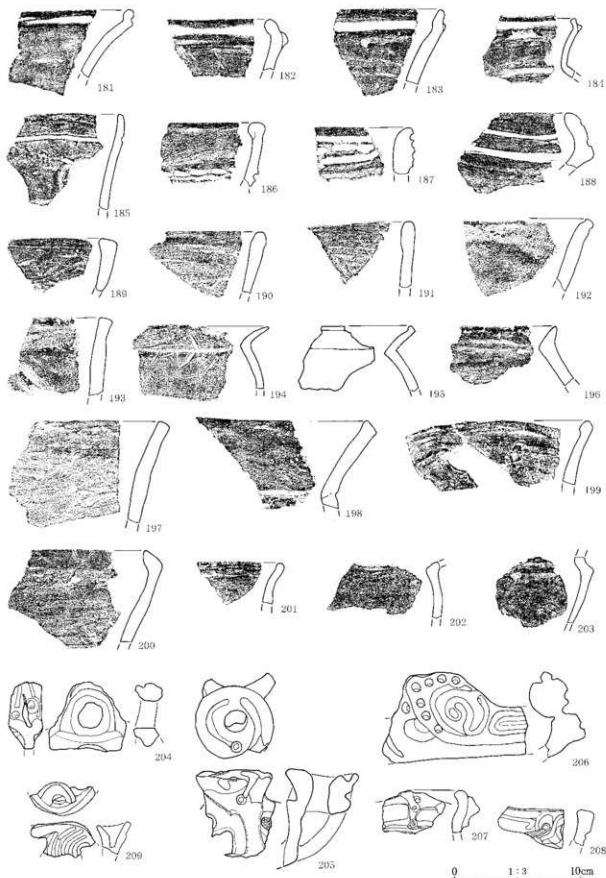
第288図 5-124号住居跡出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物



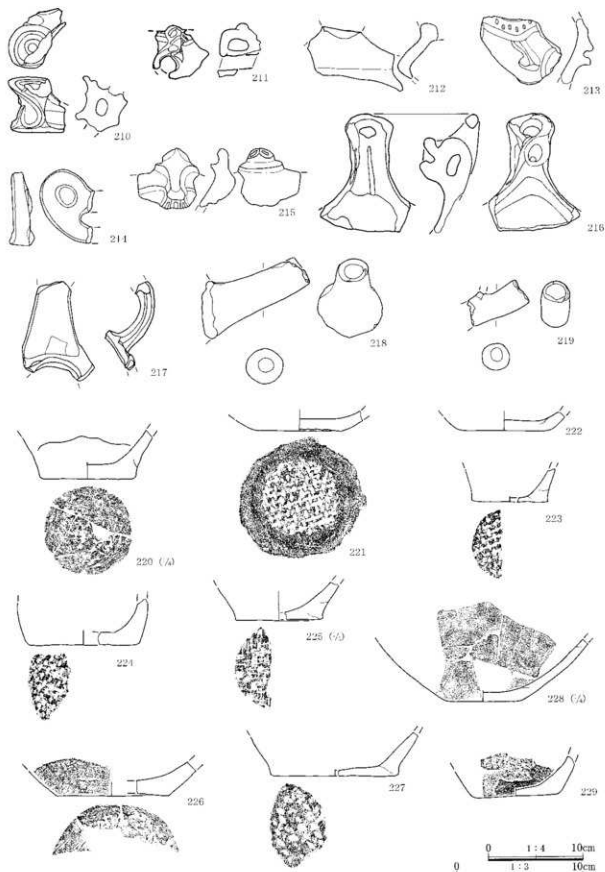
第289図 5-124号住居跡出土遺物(7)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

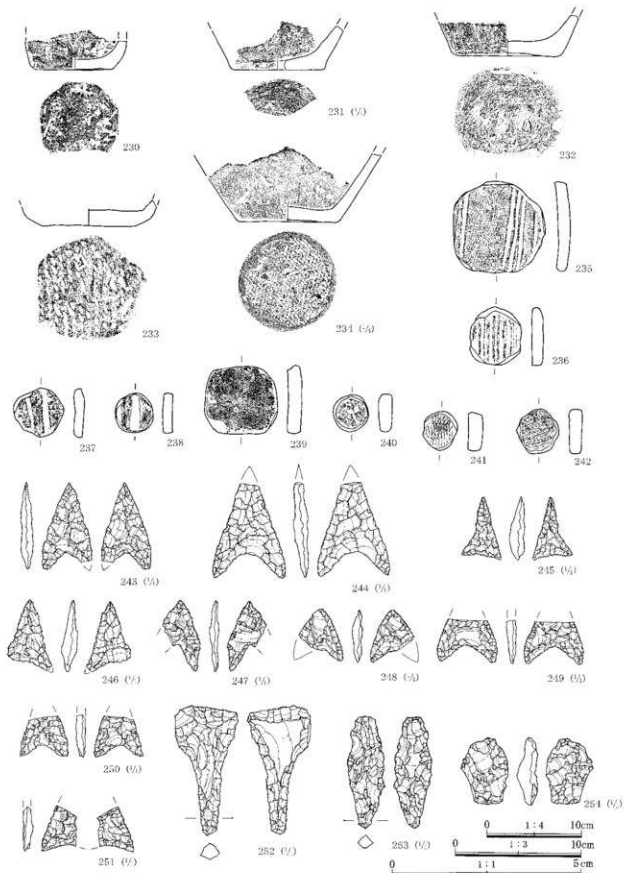


第290図 5-124号住居跡出土遺物(8)

第3章 検出された遺構と遺物

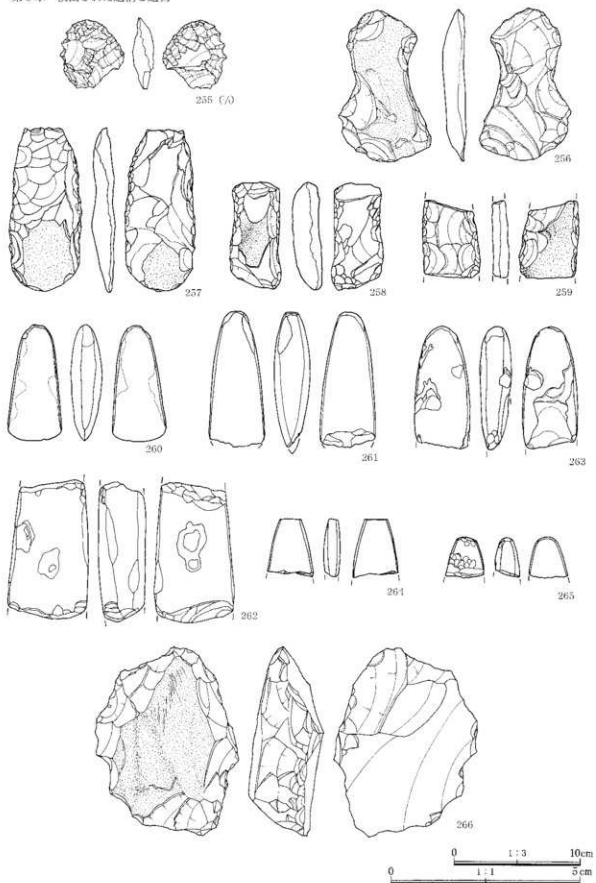


第291図 5-124号住居跡出土遺物(9)

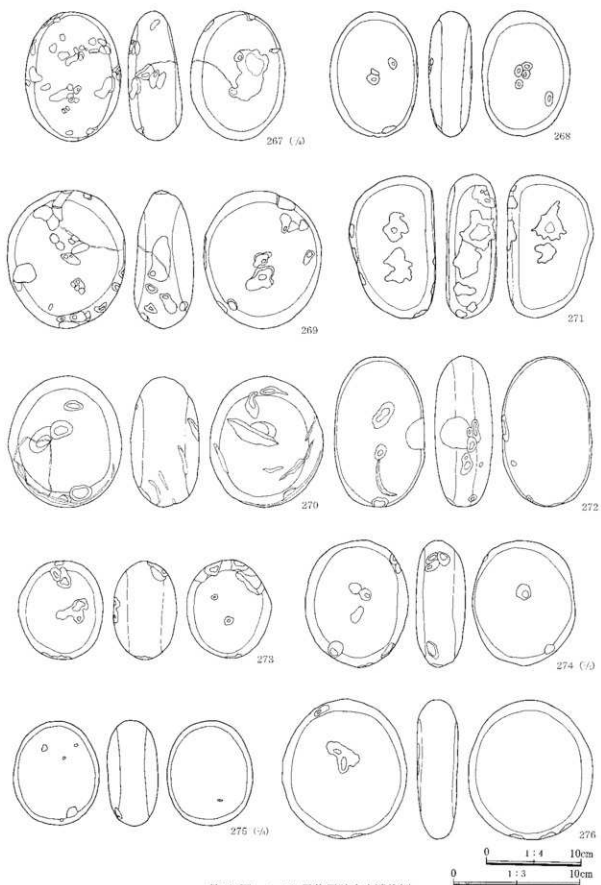


第292図 5-124号住居跡出土遺物(1)

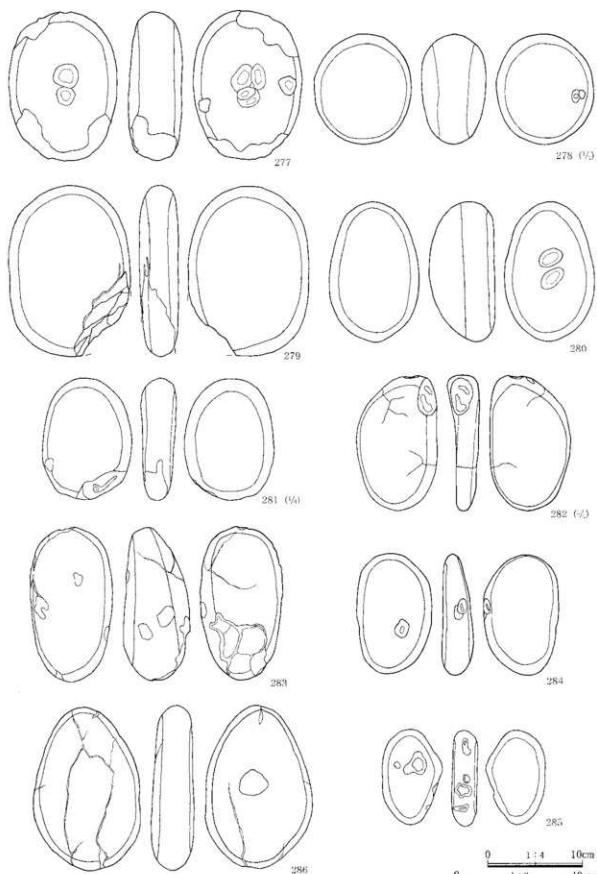
第3章 検出された遺構と遺物



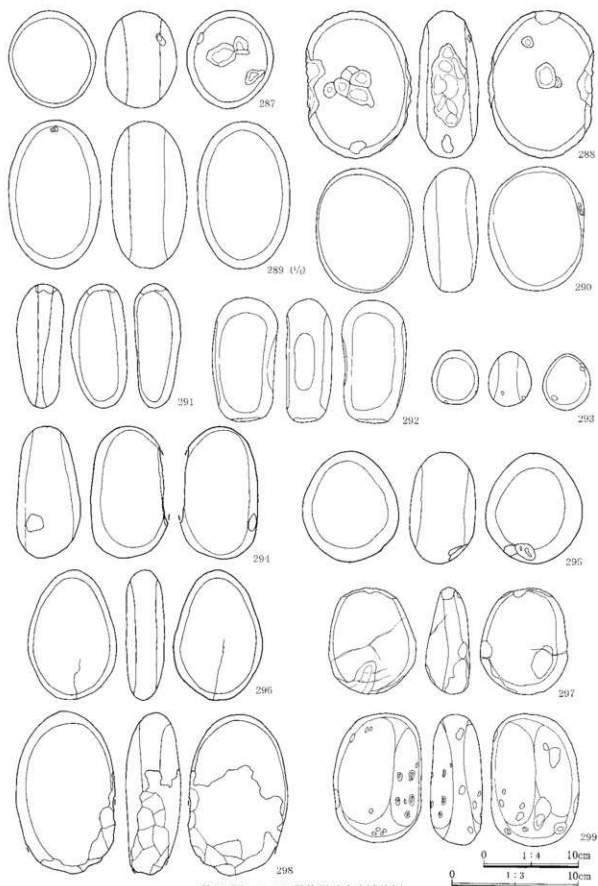
第293図 5-124号住居跡出土遺物(1)



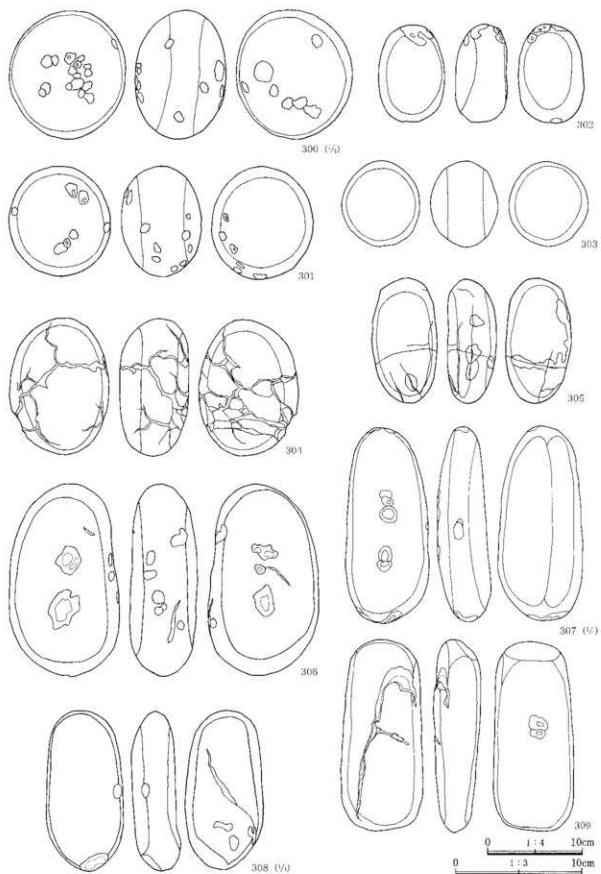
第294図 5-124号住居跡出土遺物(2)



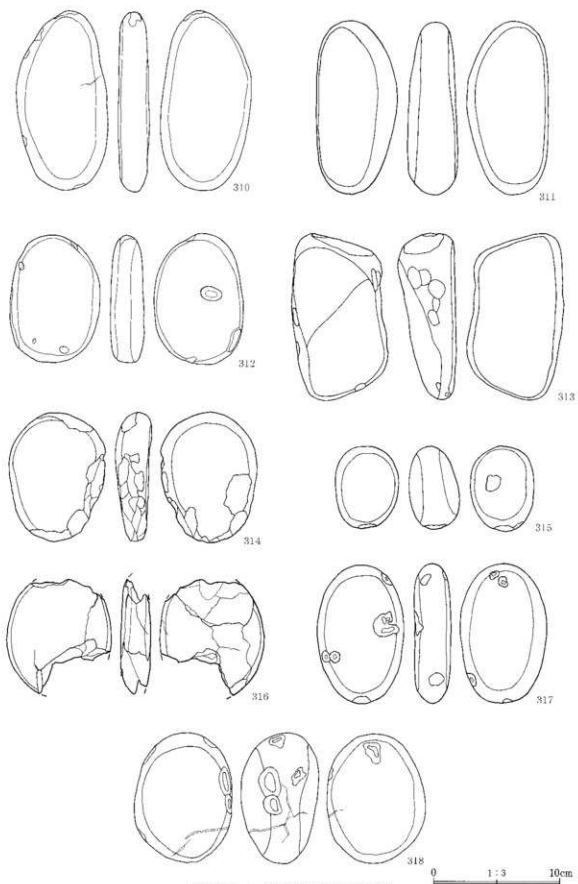
第295図 5-124号住居跡出土遺物(1)



第296図 5-124号住居跡出土遺物④

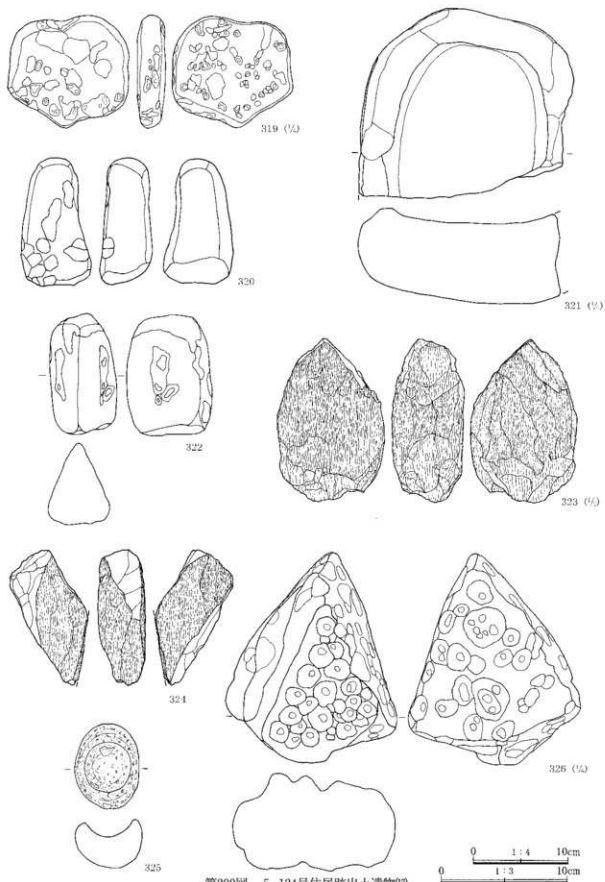


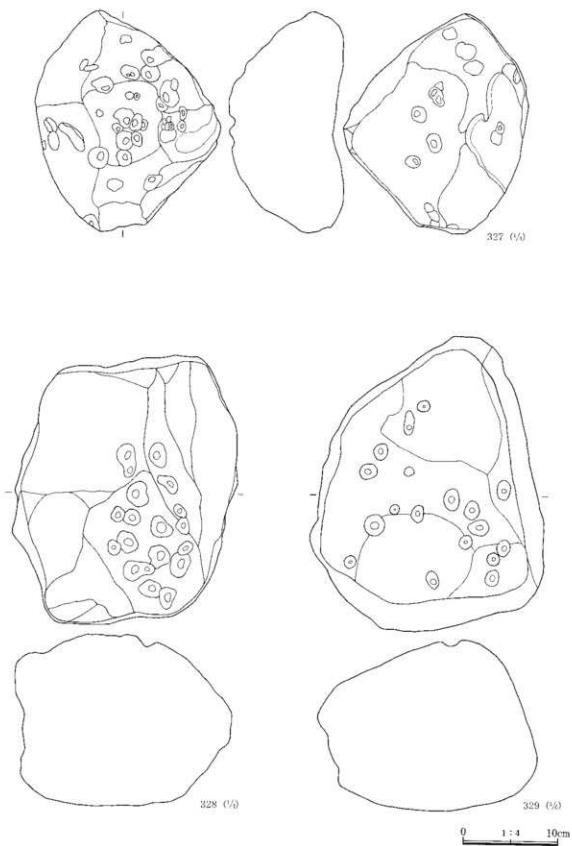
第297図 5-124号住居跡出土遺物(㊦)



第298図 5-124号住居跡出土遺物(陶)

第3章 検出された遺構と遺物





第300図 5-124号住居跡出土遺物⑧

第3章 検出された遺構と遺物

5-125号住居跡 (第301~307図: PL46・47・176・177)

位置 U-15・16グリッドに位置する。 **重複** 北西に位置する5-127・137号住居跡を切って作られている。また、住居内の西側部分には5-1075・1083号土坑が重複する。

形状 およそ円形であるが南と西側がやや直線的となる。 **規模** 310×290×45cm。

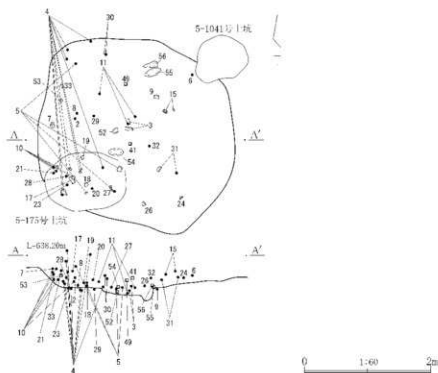
方位 N-5°-E **床面** やや南に傾斜を有し、炉を中心にやや凹み、炉の周囲は比較的しっかりと締まっている状況が窺えた。

炉 住居のほぼ中央に作られていた。円形の掘り込み内に炉石と思われる石が落ち込んだ状態で点在していた。底部は平らで焼土は少ない。 **柱穴** 壁に沿って8本が検出されている。

埋塞 検出されない。 **掘方** 床下土坑等は見られない。

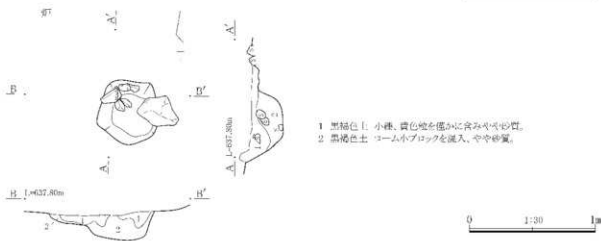
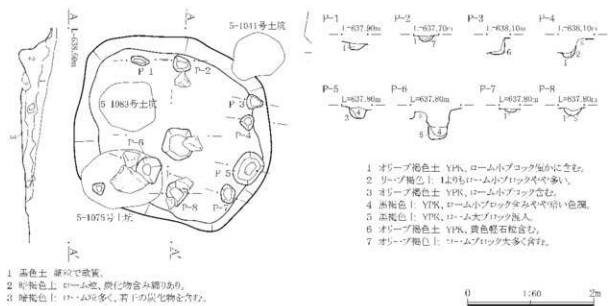
出土遺物 覆土中よりかなり多くの土器片石器等が見られた。他時代の遺構との重複もあり、出土した土器の時期にはばらつきが見られる。器形を復元できるようなものはほとんどなく、破片が中心である。石器は石鏃、石錐を初めとし、打製石斧、磨石が出土している。

時期・所見 径が3m程のかなり小型の住居跡である。北側については壁の立ち上がりもかなり明瞭に検出されたが、南側は削平されておりやや不明瞭である。時期は出土した土器から中期末から後期初頭と考えられる。

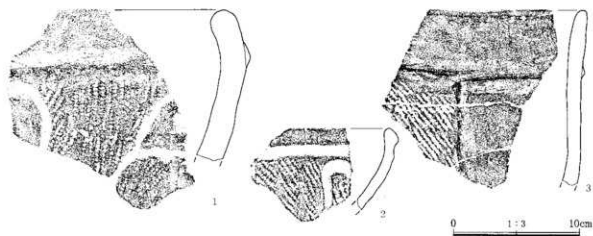


第301図 5-125号住居跡(1)

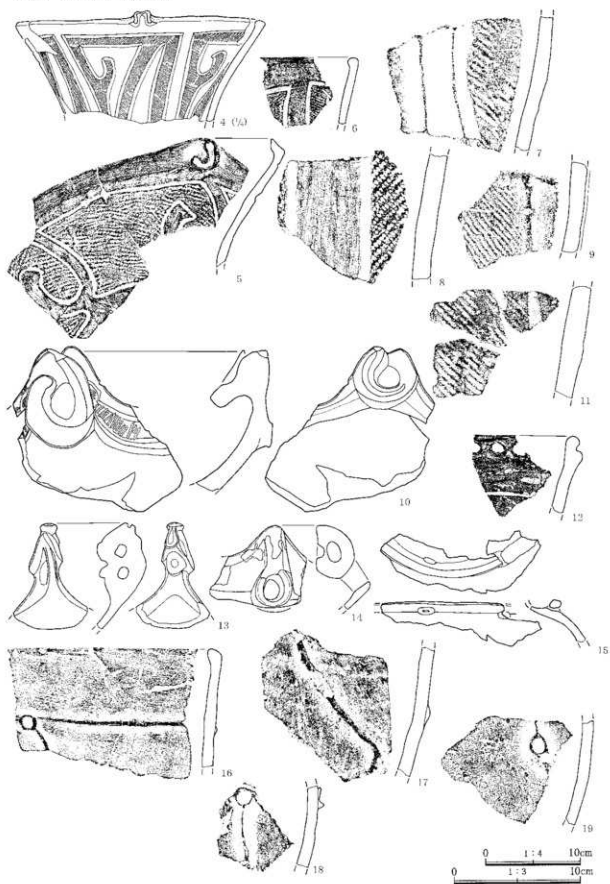
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第302図 5-125号住居跡(2)



第303図 5-125号住居跡出土遺物(1)



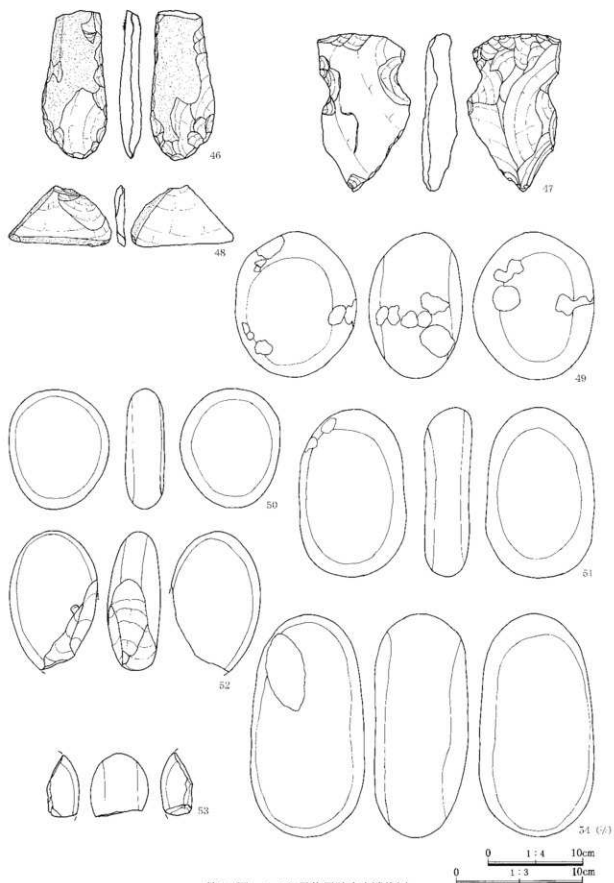
第304図 5-125号住居跡出土遺物(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

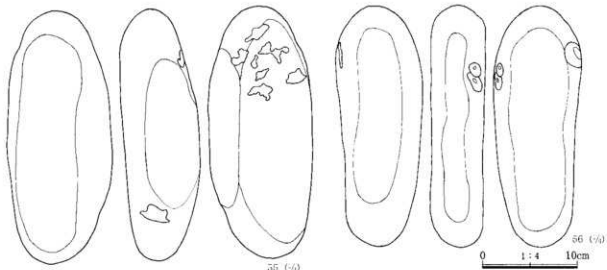


第305図 5-125号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物



第306図 5-125号住居跡出土遺物(4)



第307図 5-125号住居跡出土遺物(5)

5-126号住居跡 (第308・309図: PL47・178)

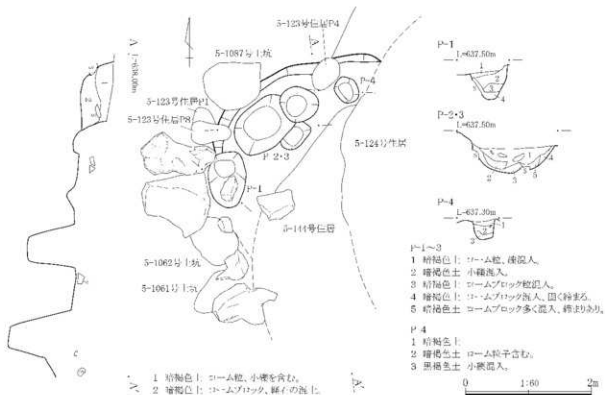
位置 X-14・15グリッドに位置する。重複 東側は5-124・144号住居跡に大きく切られる。

形状 円形を呈すと思われる。規模 推定径4.0m。方位 不明。

床面 明確な面は確認できなかった。炉 検出されなかった。

柱穴 西壁下に沿ってピットが計5本ほど検出されている。P-1およびP-4は柱穴の可能性がある。

埋塞 検出されなかった。掘方 不明。

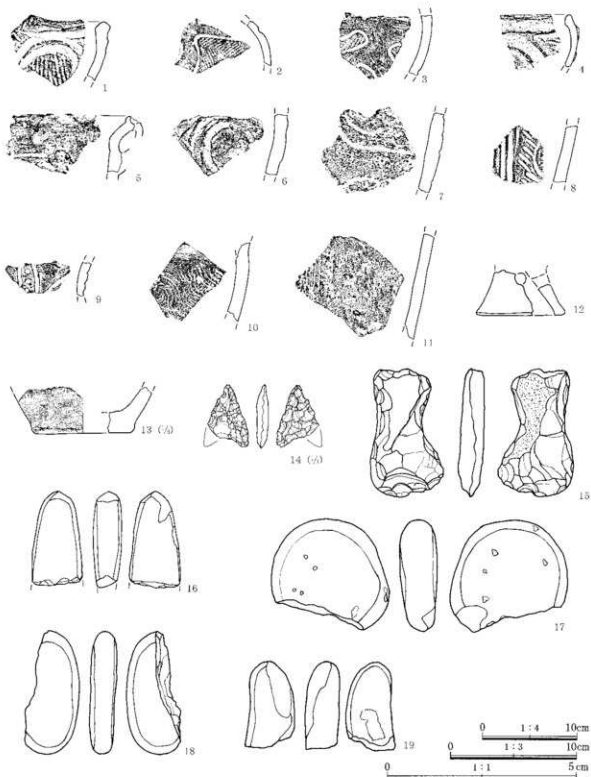


第308図 5-126号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 確認された範囲が僅かであったこともあり少なかった。土器は小破片のみ、石器も石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石など数は少ない。

時期・所見 西側の弧状に残ったわずかな部分のみの検出である。時期は中期後半か。



第309図 5-126号住居跡出土遺物

5-127号住居跡 (第310~312図: PL47・178)

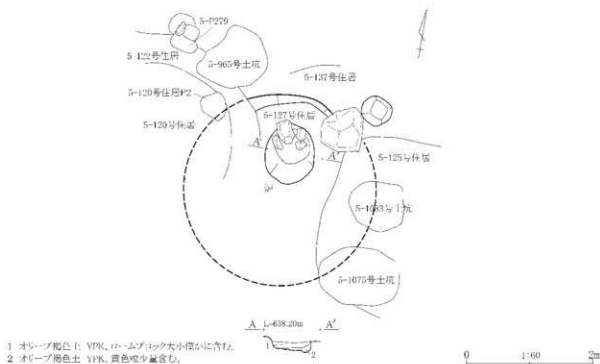
位置 U・V-16グリッドに位置する。**重複** 東を5-125号、西を5-122号住居跡に切られ南側には5-142号住居跡が重複しており残りは極めて悪い。

形状 円形か。**規模** 推定径3.0m。**方位** 不明。**床面** わずかに残った範囲では地山の礫が露出した部分もあり凹凸が見られる。**炉** 5-1086号土坑が本址の炉である可能性がある。大型の礫が落ち込んだ状況で掘り込みは浅く焼土もほとんど見られなかった。**柱穴** 検出されない。

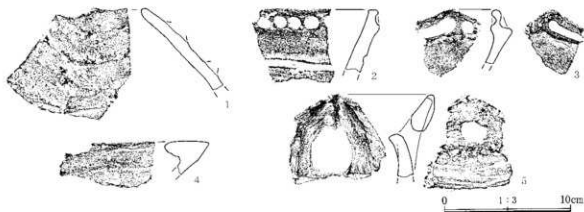
埋塞 検出されない。**掘方** 床面下に遺構は見られず。

出土遺物 わずかに土器の小片が見られたのみである。石器については検出されなかった。

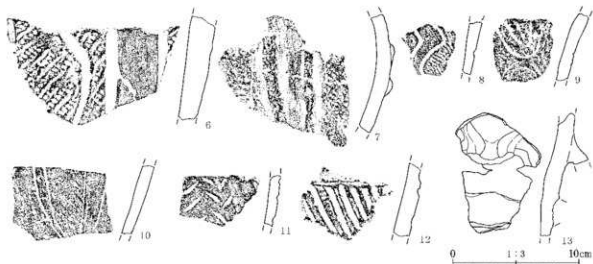
時期・所見 前述したように、そのほとんどが他の遺構によって壊されており、検出されたのは北側壁のわずかな立ち上がり部分と炉と思われる掘り込みのみである。遺存状態が極めて悪い。時期は中期後半か。



第310図 5-127号住居跡



第311図 5-127号住居跡出土遺物1)



第312図 5-127号住居跡出土遺物②

5-128号住居跡 (第313・314図: PL47・178)

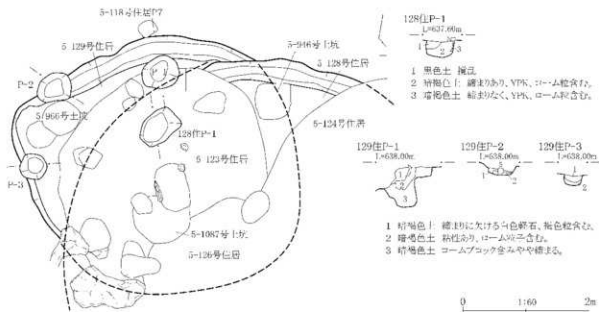
位置 W・X-15グリッドに位置する。重複 5-123号と124号住居跡に挟まれた扇状の部分をおわずかに検出した。形状 円形か。規模 不明。方位 不明。

床面 比較的平坦である。炉 検出されない。柱穴 検出されない。

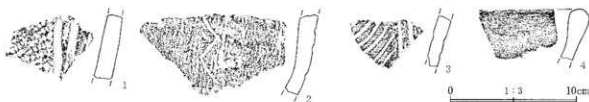
埋壺 検出されない。掘方 床下の遺構は見られない。

出土遺物 わずかに土器片が見られるがいずれも小片である。石器については見られなかった。

時期・所見 僅かに検出した部分に位置する5-946号土坑は本址の柱穴の可能性がある。また周溝は比較的しっかりと掘り込まれている。弧状に残る部分から規模を推定すると径は6mを越える大型住居であった可能性がある。いずれにしても全容はほとんど不明である。時期は中期後半か。



第313図 5-128・129号住居跡



第314図 5-128号住居跡出土遺物

5-129号住居跡 (第313・315図: PL47・178)

位置 X・Y-15グリッドに位置する。 **重複** 中に5-123号住居跡がすっぽりと取る形に重複しており、遺存状態は悪い。 **形状** 円形あるいは隅丸方形か。 **規模** 径約4m。 **方位** 不明。

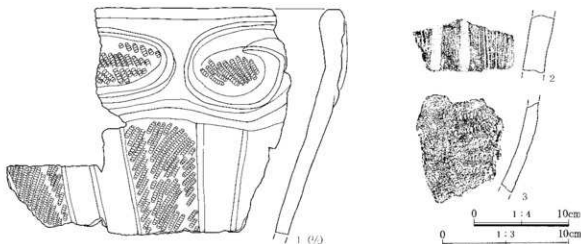
床面 大部分を5-123号住居跡により削られているために不明である。北側の壁下に周溝が廻る。

炉 検出されなかった。 **柱穴** 北西隅および北側に2本を確認したのみである。

埋塞 検出されなかった。 **掘方** 不明。

出土遺物 覆土中にわずかに土器片と、P-1の覆土に土器片が落ち込んだ状態で出土している。石器は見られなかった。

時期・所見 北側の外辺部分のみを確認した、ほとんど壊されており全容は不明である。時期は出土土器から中期後半加曾利E3式期と思われる。



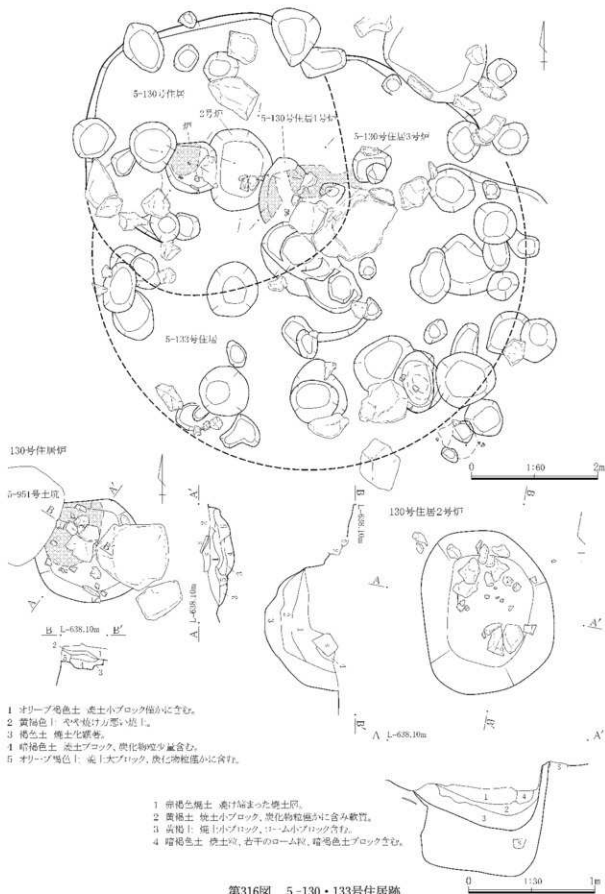
第315図 5-129号住居跡出土遺物

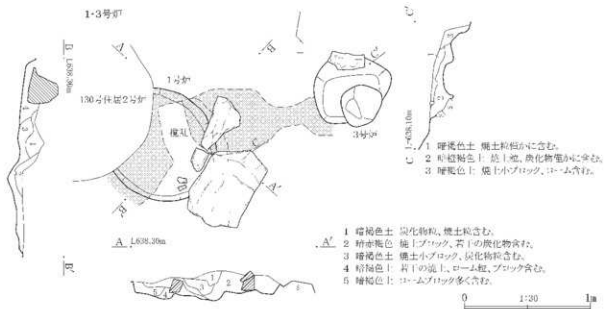
5-130号住居跡 (第316・318図: PL48・178)

位置 S・T-16・17グリッドに位置する。 **重複** 北東部分に5-133号住居跡が重複し、さらに10基程の土坑が重複しており遺存状態は極めて悪い。

形状 円形か。 **規模** 不明。 **方位** 不明。 **床面** 全体に削平を受け、凹凸が著しい。

炉 中央やや西に寄った位置に検出、礫の集まりと焼土層が確認された。炉は5-1097号土坑の覆土上層部に作られている。また東に近接して検出された5-133号住居跡2号炉は、その位置から本住居の炉になる可能性がある。この2号炉も5-1111号土坑の上に構築されていた。2基の炉が確認されていることから、住居の建て替えあるいは拡張が想定される。 **柱穴** 壁に沿って検出された6ないしは7本か。



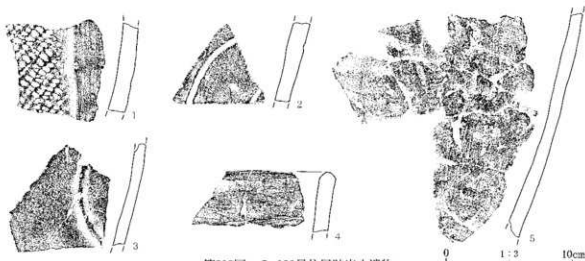


第317図 5-133号住居跡

埋藏 検出されなかった。 掘方 不明。

出土遺物 覆土、グリッドより多くの土器片が出土しているが本址に帰属するものは少ないと思われる。

時期・所見 重複が著しく遺存状態は極めて悪い。5-133号住居と大きく重複しており、切り合い関係も不確定である。時期は中期後半か。



第318図 5-130号住居跡出土遺物

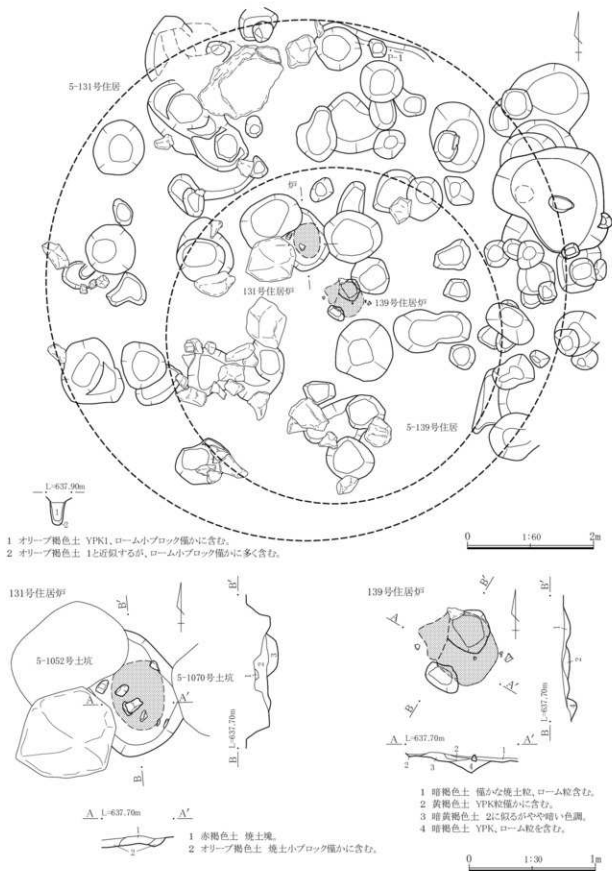
5-131号住居跡 (第319~321図：PL48・179)

位置 R・S-15・16グリッドに位置する。 重複 北側に5-133号が、西には5-138号が、さらにほぼ重なる状態で5-139号住居跡が重複している。壁の立ち上がりは僅かに北側においてその一部分を確認したに過ぎなかった。 形状 円形と考えられる。 規模 (800)×(800)×— 方位 不明。

床面 土坑等の重複もあり生活面としての床面の確認はできなかった。

炉 土坑により部分的に壊されていたが、南北方向の長円形で浅い落ち込みと焼土が検出されている。

柱穴 推定範囲に沿った円形に廻る11本程の柱穴(土坑)が検出されている。

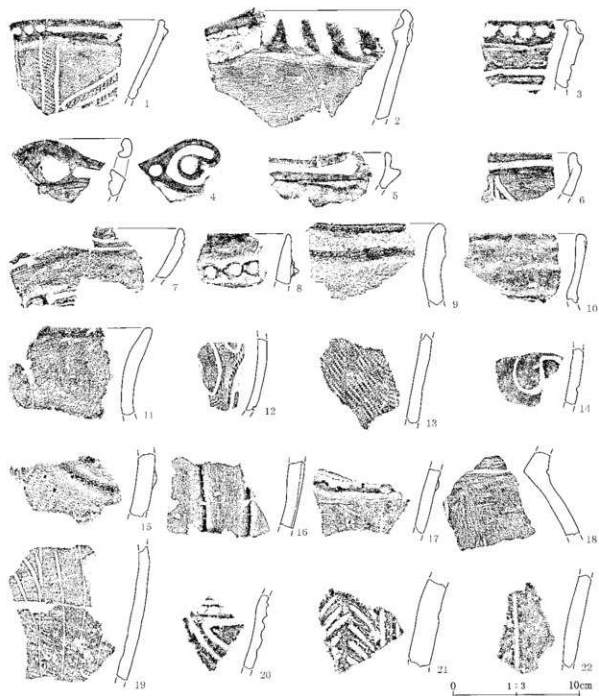


第319図 5-131・139号住居跡

埋藏 検出されなかった。 掘方 不明。

出土遺物 覆土中より土器片等多く出土しているが本址に帰属するものは少ないと考えられる。

時期・所見 重複が多く残りは極めて悪い、炉の存在とほぼ全周する柱穴の位置から範囲を推定、柱穴と思われる土坑の規模や配列から、かなり大型の住居が想定される。時期は後期前半か。



第320図 5-131号住居跡出土遺物(1)

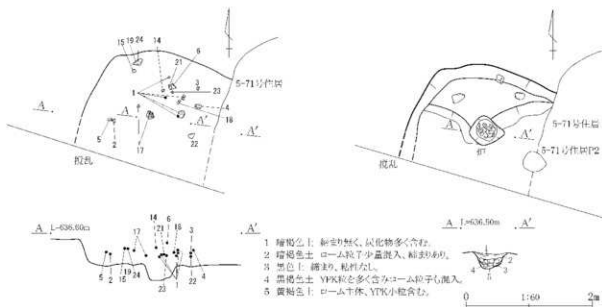
第3章 検出された遺構と遺物



第321図 5-131号住居跡出土遺物(2)

5-132号住居跡 (第322~324図: PL48・179・180)

位置 G-15グリッドに位置する。**重複** 5-70号住居跡の南端部に重複しこれを切って構築されている。また東側は5-71号住居跡によって切られる。さらに、南側については壁の立ち上がり等は明確にできなかったが、水道管敷設時の工事によって一部壊されているものと思われる。**形状** やや小型の円形を呈すものと思われる。**規模** 径およそ2.5m、壁高は最大で25cmを測る。**方位** 不明。



第322図 5-132号住居跡

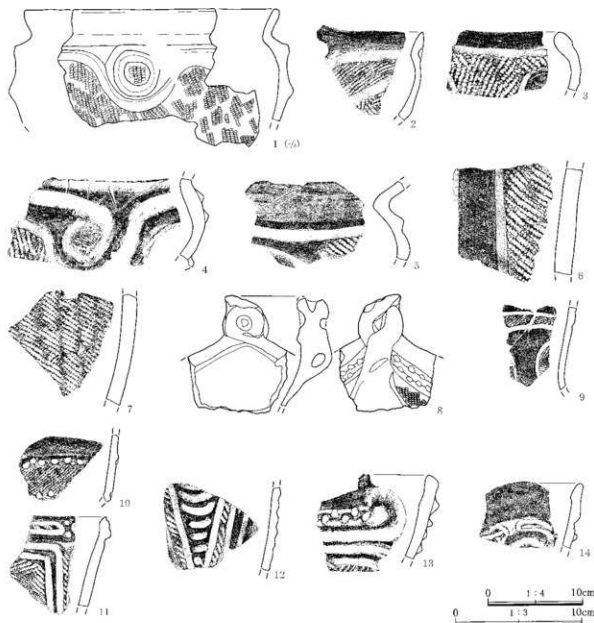
床面 北側からやや南に緩く傾斜を持つが、攪乱によるものか、南側が一段低くなっている。また炉の周辺部から炭化材が出土している。 炉 ほぼ中央に径50cm程の落ち込みが検出されており、炉と判断された。中にはこぶし大の礫が10個ほど詰まった状態で検出されている。下層に若干の焼土が見られた。

柱穴 南東部に1本検出されているが、付随するものかは不明である。

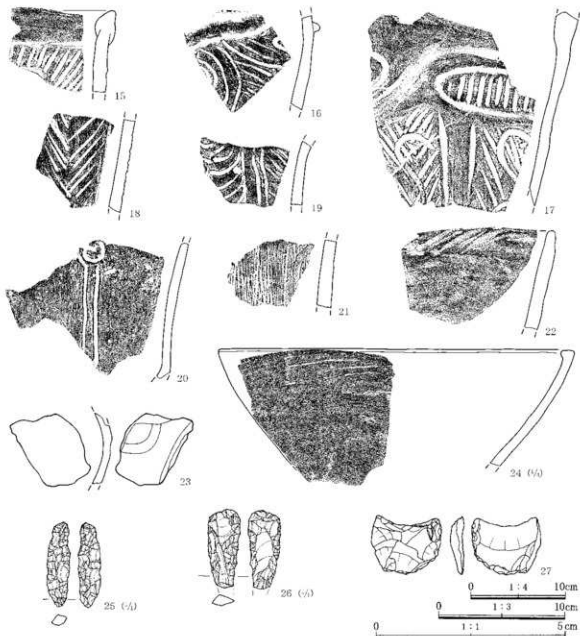
埋藏 検出されない。 掘方 特に土坑等は見られなかった。

出土遺物 比較的覆土上層から土器片、石器等が出土しているが、器形を復元できるようなものは見られない。石器は石錐2点、スクレイパーが1点である。

時期・所見 遺存状態はあまり良くなく、炉以外の施設も認められなかった。覆土上層中より炭化材片が出土している。時期は出土遺物から中期後半と判断される。



第323図 5-132号住居跡出土遺物(1)



第324図 5-132号住居跡出土遺物(2)

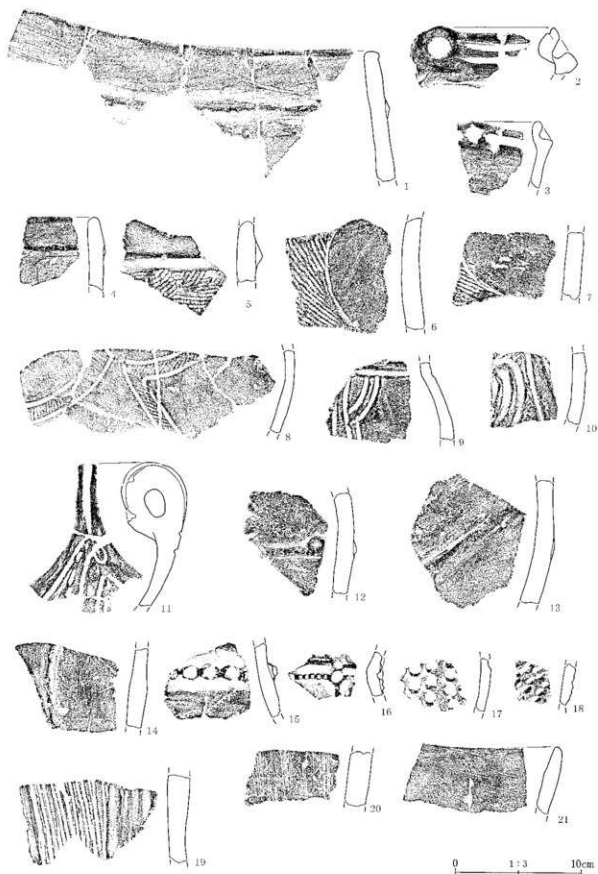
5-133号住居跡 (第316・325・326図：PL.49・50・180)

位置 R～T-15～17グリッドに位置する。**重複** 5-130号とほぼ重なり、南側は5-138-139号住居跡と重複する。**形状** 円形か。**規模** 推定径8m。**方位** 不明。

床面 重複が著しく生活面は確認できなかった。**炉** ほぼ中央に浅い落ち込みに伴う焼土の広がりや一部の炉石を認め1～3号炉とした。このうち2号炉については5-130号住居跡に帰属する可能性が高い。いずれも炉の下位部分であろう。**柱穴** 推定外周にほぼ沿った形で10基程を確認、径60～80cm、深さは50cm以上を測る。**埋壔** 検出されなかった。**掘方** 不明。

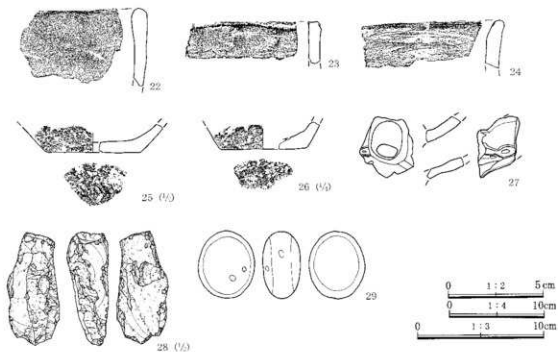
出土遺物 土器片等見られるが本址に帰属するものは少ない。石器は黒曜石の石核と小形磨石のみである。

時期・所見 複数の住居および土坑による重複が顕著で遺存状態は極めて悪い。炉の残骸が2カ所確認されていることから建て替えが想定されるが詳細は不明である。



第325図 5-133号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第326図 5-133号住居跡出土遺物(2)

5-134号住居跡 (第327~331図: PL50・51・181)

位置 U-14グリッドに位置する。**重複** 東側に5-140号住居跡が接し、西壁部分には5-996・1005号土坑が重複する。また本址の北側部分には5-9号列石の西端部が掛かる。南側の一部は平成6年度に調査を行った範囲に入るが、その時点では張り出し部と判断されるような遺構は検出されていない。

形状 北および東側はやや直線的で西壁の南が折れて内側に入る形から矩形を呈するものと思われる。柄鏡型の可能性がある。**規模** 300×(300)×40cm。**方位** N-0°

床面 平坦で締まりがある。壁に沿って幅20~30cmの周溝がほぼ全周する。床の外縁部に平石が点在していた。

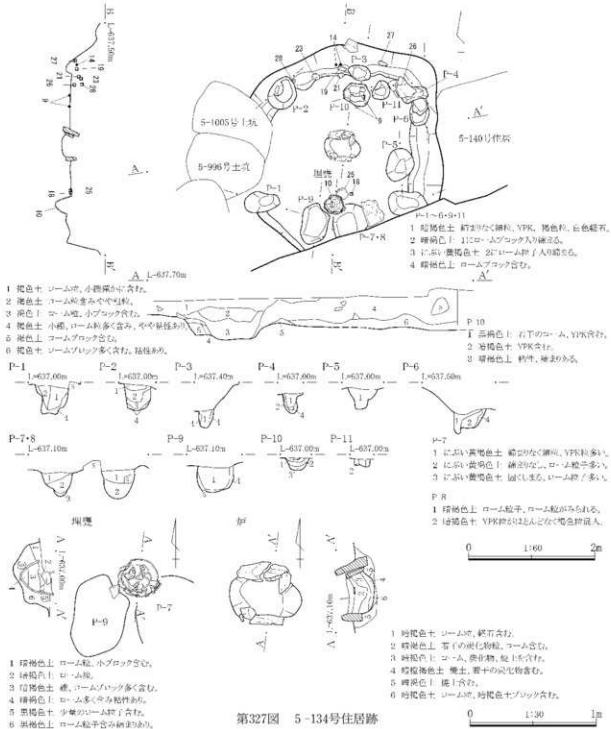
炉 ほぼ中央に石囲い炉が検出された。炉石は北および南側は残るが、東側の一部、西側は検出されなかった。大きさは一辺約50cmである。

柱穴 壁に沿って8本を検出、入り口部に近接する2本はいわゆる対ビットと考えられる。

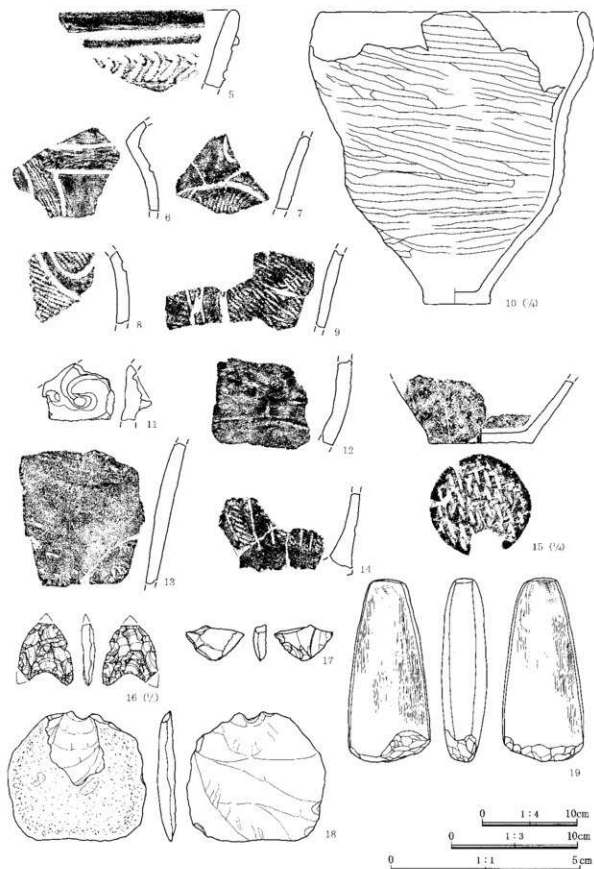
埋藏 炉の南、対ビットの北に検出された。口縁部分を欠いた深鉢を正位に埋めている。中には数個の礫が入っていた。**掘方** 床下の土坑等は見られなかった。

出土遺物 5-9号列石が載っていたこともあり、覆土には比較的大きな礫が含まれていた。その他土器の出土点数はあまり多くはない。石器は石鏃、磨製石斧、磨石の他に板状の台石が見られる。また円盤形の軽石製品が出土している。

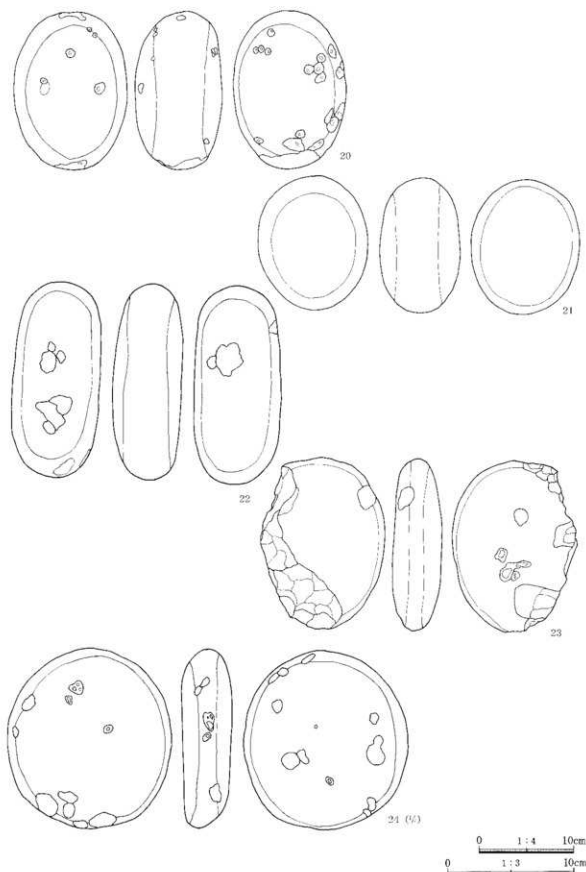
時期・所見 若干の平石が見られることや、入り口部には対ビットが検出されていることから、柄鏡形の敷石住居跡と考えられる。調査区外となる張り出し部については平成8年度に調査が行われているが、関連するような遺構は認められなかった。



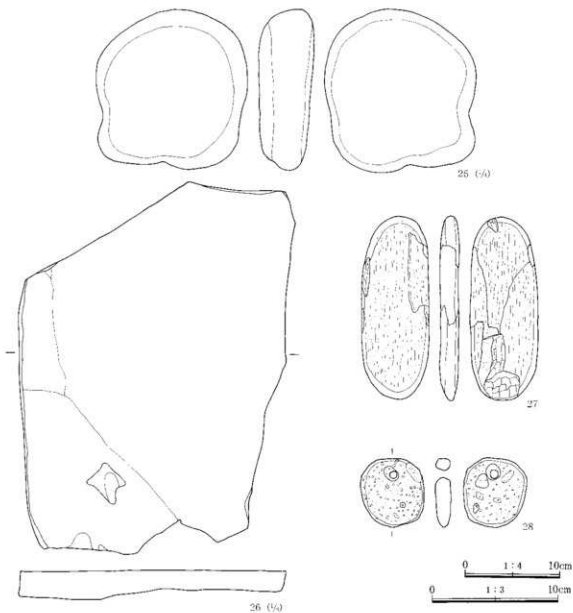
第328図 5-134号住居跡出土遺物(1)



第329図 5-134号住居跡出土遺物(2)



第330図 5-134号住居跡出土遺物(3)



第331図 5-134号住居跡出土遺物(4)

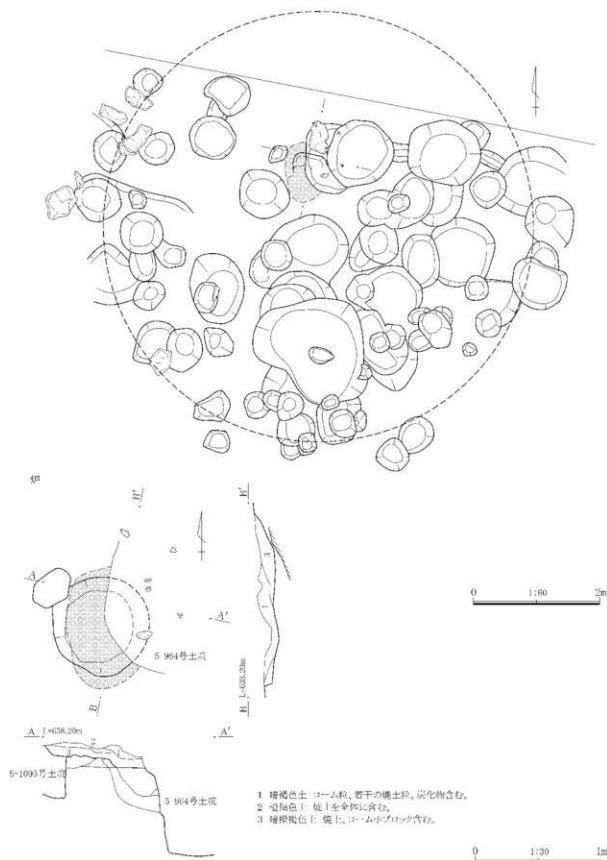
5-135号住居跡 (第332・333図：PL51・182)

位置 Q・R-16グリッドに位置する。**重複** 東側に大きく5-112・133号住居跡さらには10基程度の土坑が重複。**形状** 円形か。**規模** 推定径6.7m。**方位** 不明。

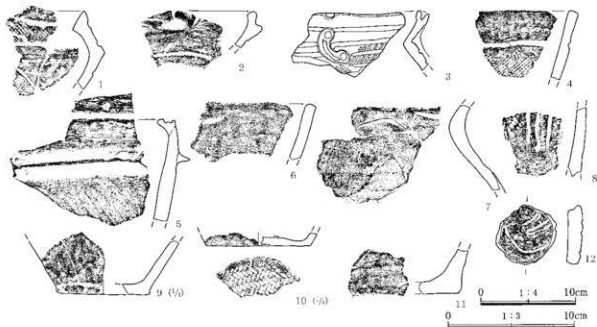
床面 生活面は確認されなかった。**炉** 5-112号住居跡、5-964号土坑により部分的に壊されていた。やや不定形な焼土層の広がりが見出されている。5-964号土坑上層に出土した扁平な礫が炉石であった可能性もある。**柱穴** 炉を取り巻いて多くの土坑やピットが存在するが、明確なものも確定できなかった。

埋壺 検出されなかった。**掘方** 不明。**出土遺物** 土器の小破片のみである。

時期・所見 重複が著しく極めて残りが悪い。炉と思われる焼土を確認したことから住居と判断した。遺存状態の極めて悪い住居である。時期は後期前半か。



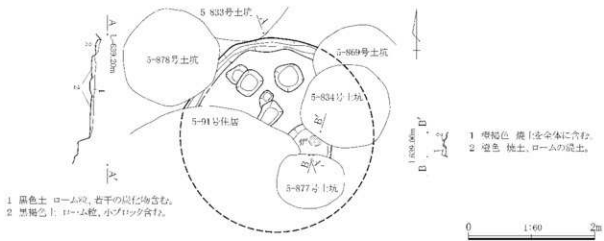
第332図 5-135号住居跡



第333図 5-135号住居跡出土遺物

5-136号住居跡 (第334・335図：PL52・182)

位置 N-18グリッドに位置する。**重複** 南側を5-91・95号住居跡に切られ、5-84号住居跡が上に作られる。**形状** 円形か。**規模** 推定径(3.5)m。**方位** —
床面 一部分のみ検出、北西部分に周溝を検出、床はやや凹凸を持つ。**炉** 僅かに残骸が中央やや南東寄りに検出された、炉石等は見られず落ち込みと下面に若干の焼土が残る。**柱穴** 1本のみ検出。**埋壘** 検出されない。**掘方** 貼り床等は見られず。**出土遺物** 土器片が僅かに3点のみである。
時期・所見 小型の住居である。後世の住居および土坑により大部分を壊されていた。遺構上部も削られており、北西側の約4分の1程が確認されたのみである。時期は中期後半か。



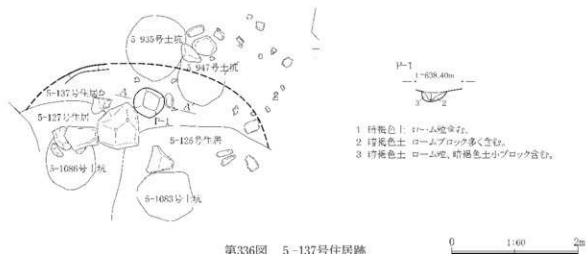
第334図 5-136号住居跡



第335図 5-136号住居跡出土遺物

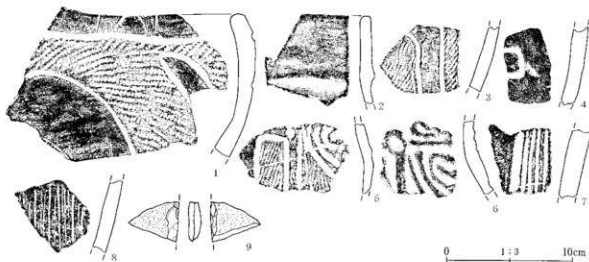
5-137号住居跡 (第336・337図：PL52・182)

位置 U・V-16グリッドに位置する。**重複** 南側ほとんどを5-125・127号住居跡に壊されている。
形状 円形か。**規模** 不明。**方位** 不明。**床面** 検出された範囲ではあまり締まりは見られず。
炉 検出されない。**柱穴** 1本が検出されている。**埋壘** 検出されない。**掘方** 不明。
出土遺物 若干の土器片、石片が出土している。
時期・所見 部分的に残る住居で全容は不明である。残った扇形部分のみ調査した。時期は出土土器から後期初頭か。



第336図 5-137号住居跡

- 1 褐色土 シーム地文。
 2 褐色土 ロームブロック多く含む。
 3 褐色土 ローム地、暗褐色土小ブロック含む。



第337図 5-137号住居跡出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

5-138号住居跡 (第338・339図: PL52・182)

位置 S・T-15・16グリッドに位置する。**重複** 東側で5-133・139号土坑とさらに数基の土坑が重複する。

形状 円形と思われる。**規模** 推定径5.6m。**方位** 不明。

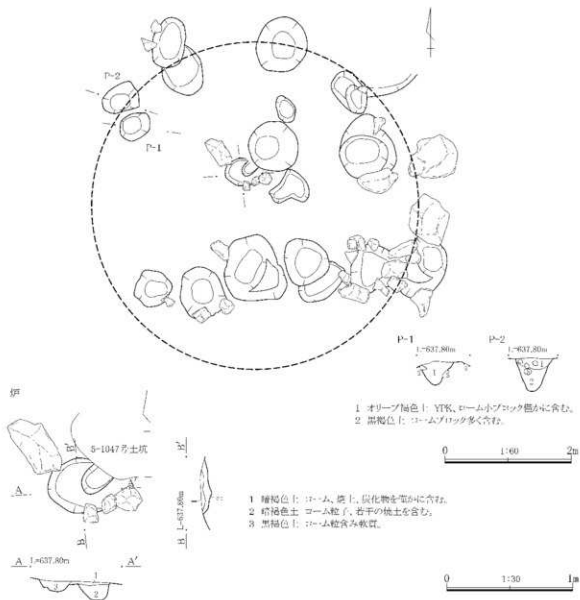
床面 重複による攪乱が顕著で、生活面は確認できなかった。

炉 ほぼ中央に作られているものと考えられる。脇に鏝を伴った径60cmほどの落ち込みと焼土が検出されている。**柱穴** 推定円内に廻る6本または7本と思われる。

埋塞 検出されない。**掘方** 不明。

出土遺物 土器の小片および石器類が見られたがあまり多くはない。

時期・所見 壁の立ち上がりは確認できず、柱穴の位置および炉が確認されたことから住居跡と判断。時期は後期前半か。



第338図 5-138号住居跡



第339図 5-138号住居跡出土遺物

5-139号住居跡 (第319・340・341図：PL52・182・183)

位置 R・S-15・16グリッドに位置する。**重複** 北側に5-133号住居跡、西側には5-138号住居跡が重複する。5-131号住居跡にほぼ重なっている。また多くの土坑が住居内に掘り込まれている。

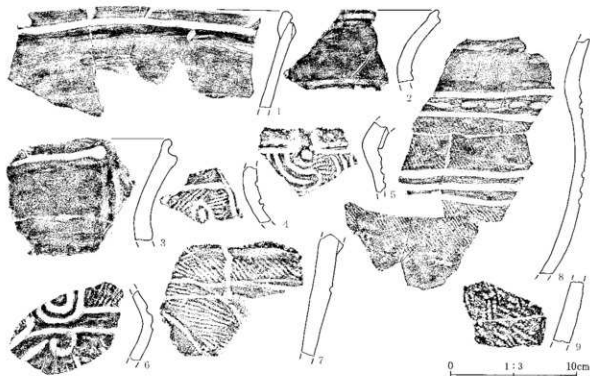
形状 円形と思われる。**規模** 推定径5.0m。**方位** 不明。**床面** 重複により全く検出できなかった。**炉** ほぼ中央と推定される位置に検出されたがほとんど壊されている状況で全容は不明である。

柱穴 6～8本と思われるが明確な対応関係は掴めなかった。

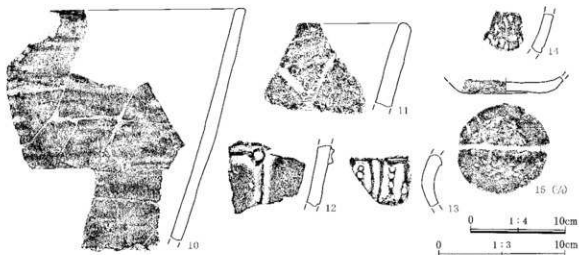
埋壺 検出されなかった。**掘方** 不明。

出土遺物 あまり多くはない。全域で若干の土器片が出土しているが破片のみである。石器は見られなかった。

時期・所見 他の住居や土坑によりかなり壊れた状況であった。炉の検出および柱穴と想定されるピットの配置から住居跡と判断した。時期は後期前半か。



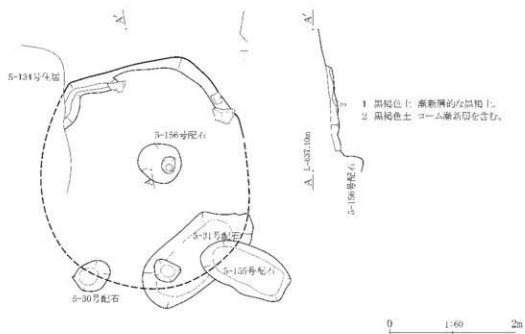
第340図 5-139号住居跡出土遺物(1)



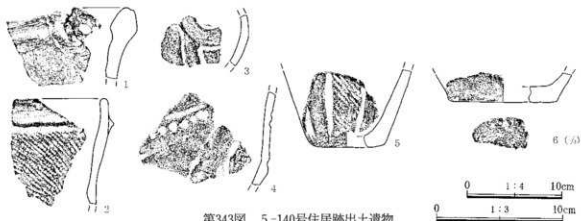
第341図 5-139号住居跡出土遺物(2)

5-140号住居跡 (第342・343図：PL52・183)

位置 T-14グリッドに位置する。重複 西側に5-134号住居跡が接している。形状 やや矩形を呈すか。規模 260×(180)×10cm。方位 不明。床面 比較的平坦だが踏みしめは弱い。
炉 検出されなかった。柱穴 検出されなかった。埋甕 検出されなかった。
掘方 貼り床、床下土坑などは検出されない。出土遺物 わずかに土器、石器が出土している。
時期・所見 調査区南端部において弧状の落ち込みを確認したことから住居と判断した。柱穴は見られなかったが床面様の平坦面が存在することから住居跡とした。南側は平成6年度の調査区内で、5-156号配石(長野原一本松遺跡(12002))としたものが位置的には炉になる可能性があるが、判断としない。時期は後期か。



第342図 5-140号住居跡



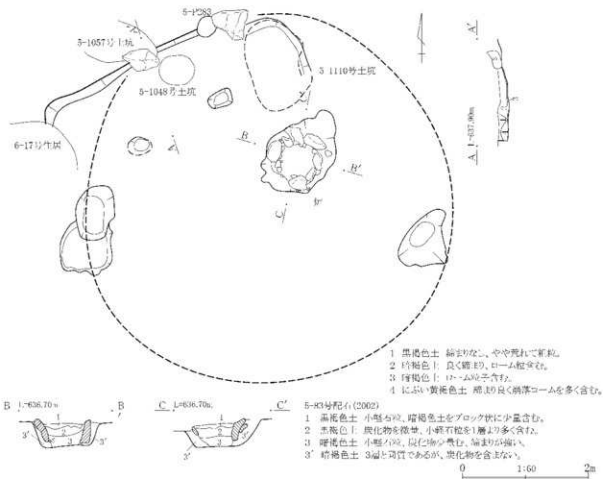
第343図 5-140号住居跡出土遺物

5-141号住居跡 (第344・345図：PL52・183)

位置 Y・X-12・13グリッドに位置する。重複 調査区の南端に検出。西側が6-17号住居跡と接し、東部分に本址を切って5-1110号土坑が重複する。

形状 円形か。規模 推定径6.0m。方位 -

床面 検出した部分については平坦で、比較的締まりがある。



第344図 5-141号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

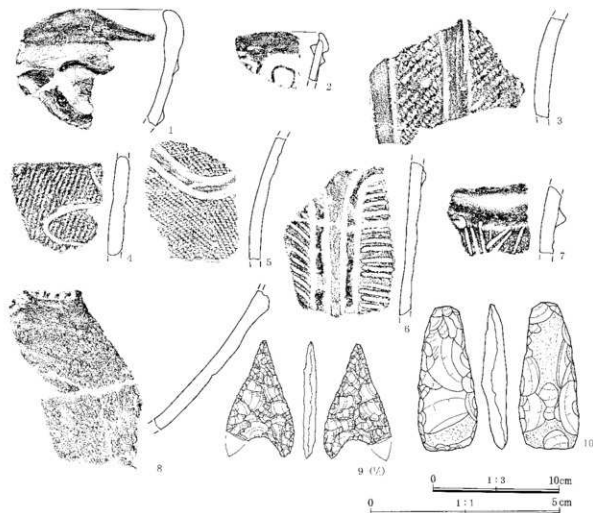
炉 今回の調査区の南側、平成6・7年度調査で検出されている円形に竈を配した5-83号配石（長野原一本松遺跡（1）2002）が炉になる可能性が高い。

柱穴 奥壁に1本、西に5-1049号土坑とした1本を検出。さらに南側の平成6・7年度の調査区において検出された5-71号配石の掘り込みが相当するものと見られる。

埋壘 検出されない。 **掘方** 無し。

出土遺物 若干の土器片と石器が出土している。石器は石鏃と打製石斧の2点のみである。

時期・所見 検出したのは北側の僅かな弧状部分のみである。時期は中期後半か。



第345図 5-141号住居跡出土遺物

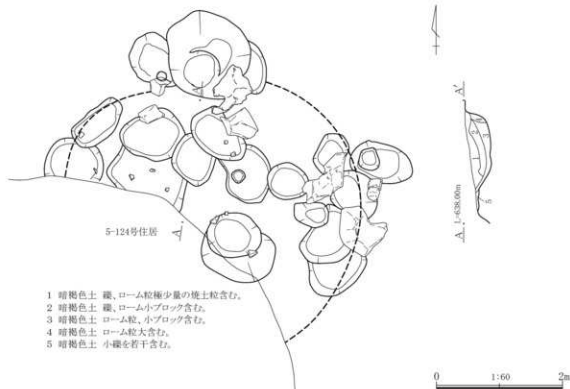
5-142号住居跡（第346・347図：PL53・183）

位置 V-15グリッドに位置する。 **重複** 南側を5-124号住居跡に切られている。さらに数基の土坑が重複しており極めて状態が悪い。 **形状** 円形を呈すものと思われる。 **規模** 推定径4.6m。 **方位** 不明。 **床面** 大部分が削平されており、生活面は確認できなかった。 **炉** 検出されなかったが炉が推定される位置に検出された5-1080号土坑とした掘り込み埋土中に若干の焼土を認めた。

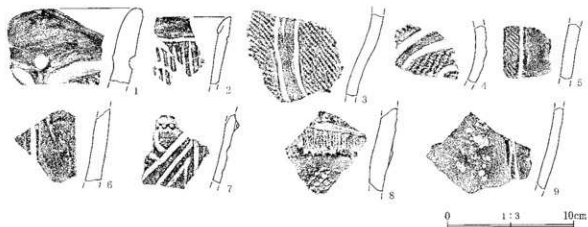
柱穴 明確なものは検出されなかった。 **埋壘** 検出されなかった。 **掘方** 不明。

出土遺物 ごく少量の土器片が出土。石器は見られなかった。

時期・所見 半円形に落ち込んだ部分と若干の遺物を認めたことから住居としたが、明確な炉も見られなかったことからやや疑問も残る。時期は中期後半か。



第346図 5-142号住居跡

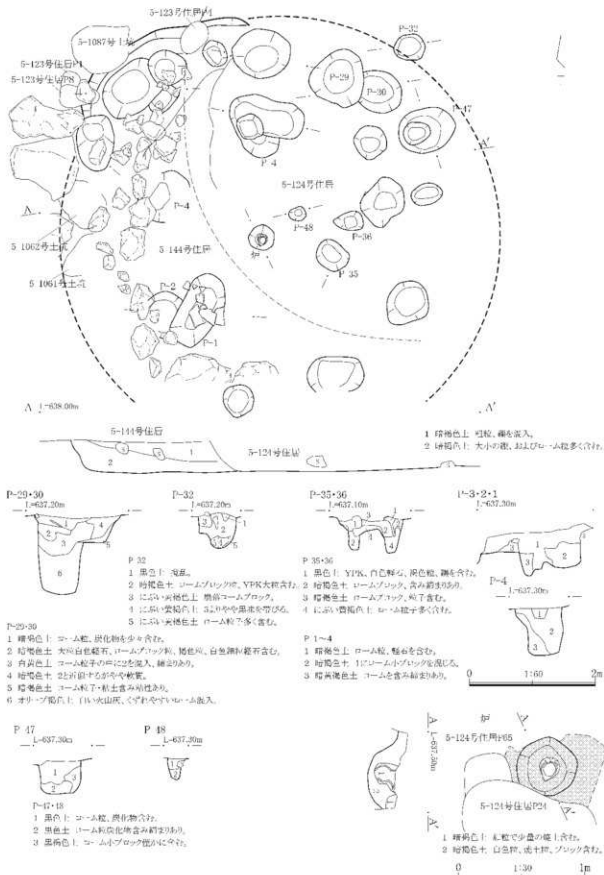


第347図 5-142号住居跡出土遺物

5-144号住居跡 (第348～352図：PL53・184・185)

位置 W・X-13・14グリッドに位置する。 **重複** 東側を5-124号住居跡に大きく壊されている。また、5-126号住居跡を大きく切っている。 **形状** 柄鏡形の散石住居か。 **規模** 推定径6.0m。 **方位** 不明。 **床面** 部分的に平坦な石が敷かれている。その他部分的には平坦面を検出したが踏みしめられた様

第3章 検出された遺構と遺物



第348図 5-144号住居跡

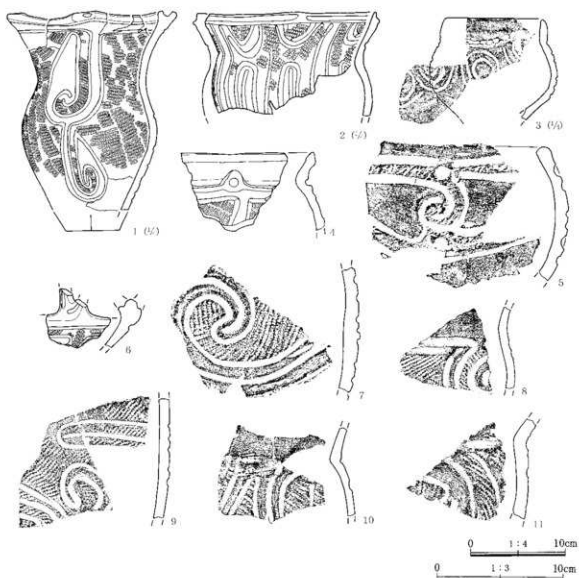
子は見られない。 炉 推定される住居範囲のほぼ中央部から焼土を伴う埋設土器を検出、炉と考えられる。5-124号住居構築時に上部を削られたものと思われる。

柱穴 西側壁に沿って4本を確認、東側は5-124号住居内に位置する5基ほどが本址の柱穴と判断される。

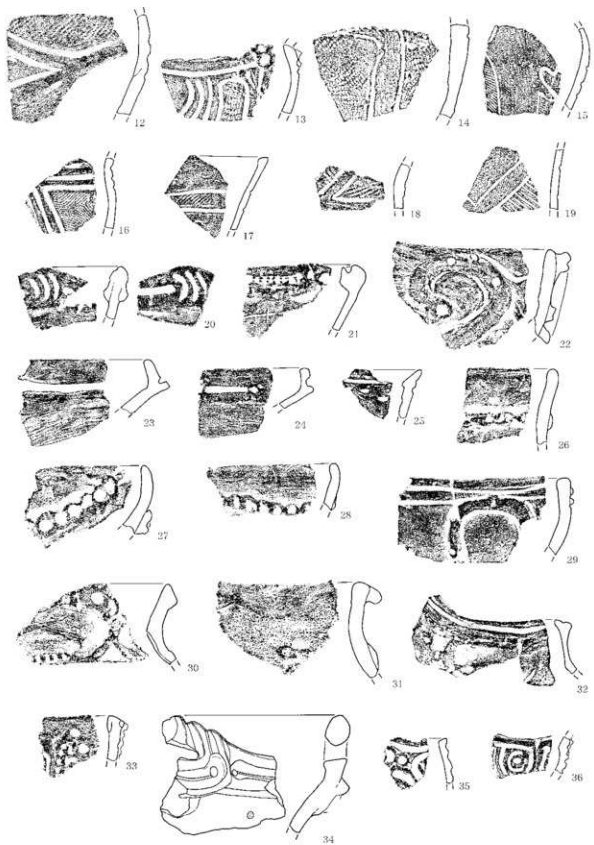
埋甕 検出されなかった。 掘方 入り口部に比較的大型の土坑が検出されているが本址に帰属するものかどうかは不明。

出土遺物 1は炉の埋設土器である。あまり大きな土器片は見られなかった。注目されるものとしては、白色顔料を塗彩された土製腕輪片54がある。石器に関しては磨石類が出土しているが点数は少ない。

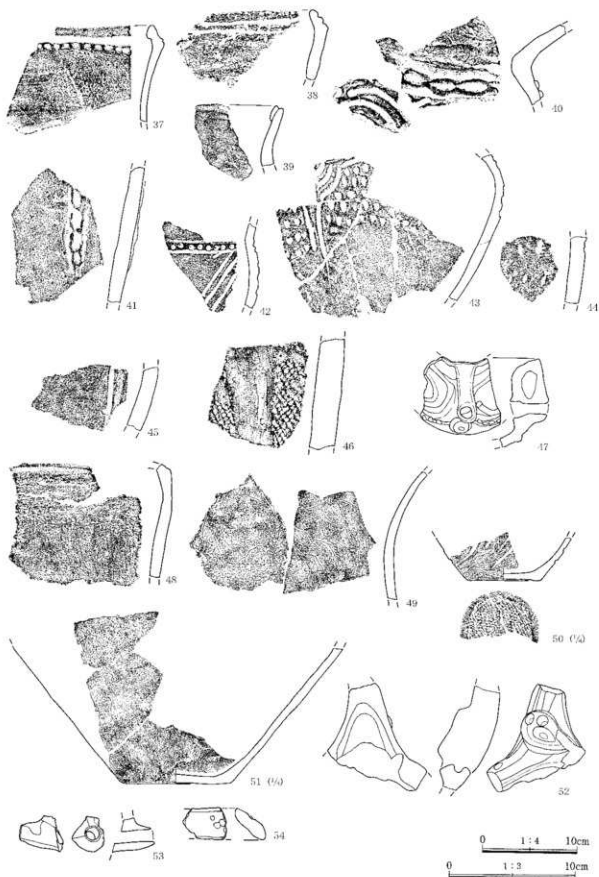
時期・所見 壁に沿って比較的大型の礎が弧状に配列されている。東側は5-124号住居跡に大きく切られているため遺存状態は悪い。検出された範囲は西側の極僅かであるが、5-124号住居の前出として極めて似た構造であったと推定される。西壁に沿って弧状に礎が廻る。時期は炉体土器から後期初頭である。



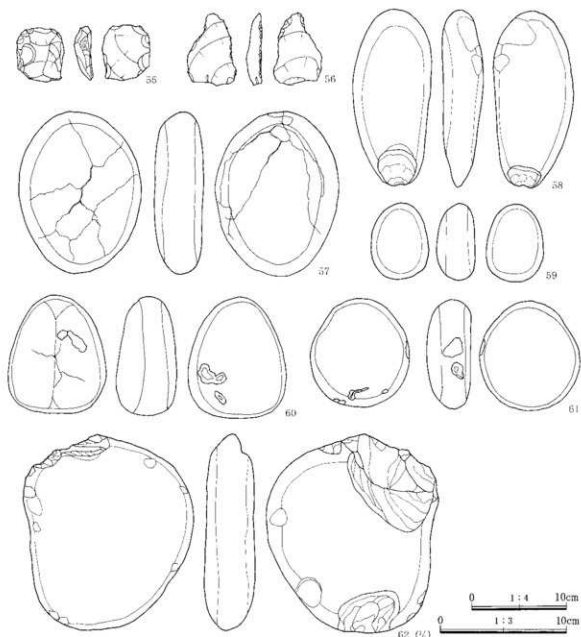
第349図 5-144号住居跡出土遺物1)



第350図 5-144号住居跡出土遺物(2)



第351図 5-144号住居跡出土遺物(3)



第352図 5-144号住居跡出土遺物(4)

5-145号住居跡 (第353・354図：PL53・185)

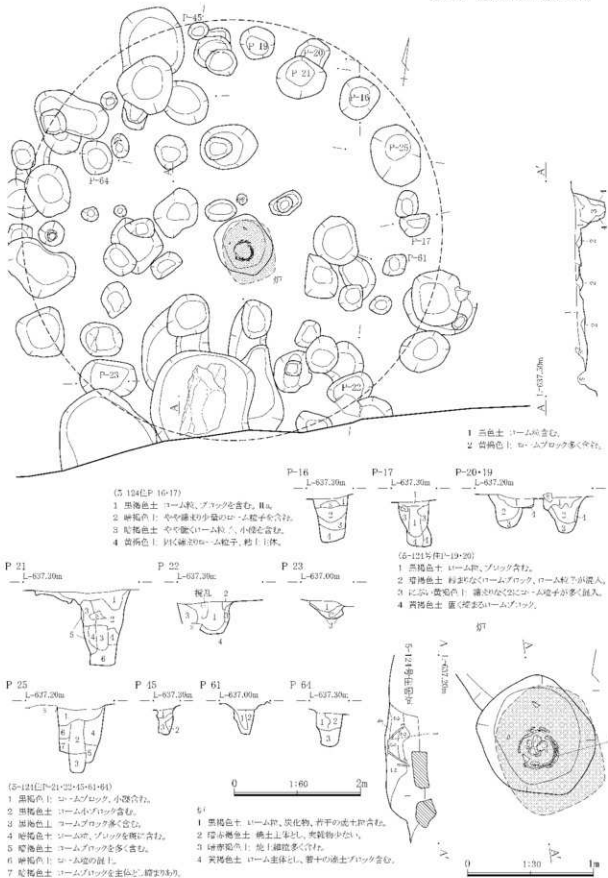
位置 V・W-13・14グリッドに位置する。重複 5-124号住居跡の中に取りまる形で検出された。5-124号住居跡の拡張前の住居と考えられる。形状 柄杓形と思われる。

規模 600×(650)×-cm。方位 N-0° 床面 敷石等は確認されず、凹凸があり、明確な面としては確認できなかった。

炉 5-124号住居の炉を調査している時点で、手前に古い埋設土器を伴う炉が検出されたことから、本址の確認に至った。炉は浅い落ち込みと焼土、深鉢の胴部を利用した埋設土器を検出した。

柱穴 外縁に沿って掘り込まれた10数基を確認した。埋塞 検出されなかった。

掘方 張り出し部分に1mを越える巨礫が落ち込んだ土坑が検出されている。

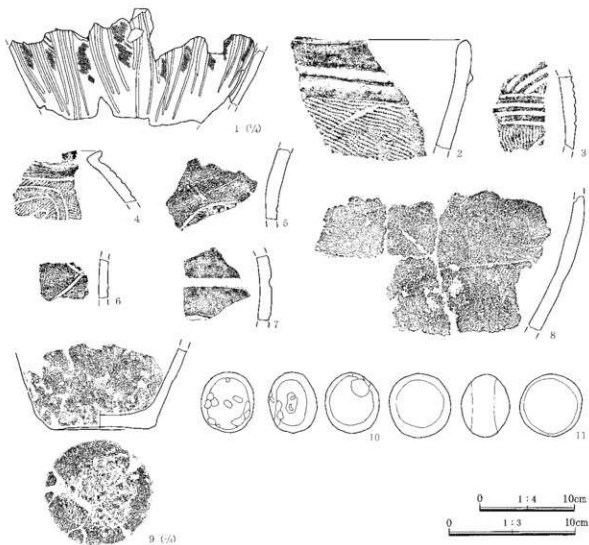


第353図 5-145号住居跡

第3章 検出された遺構と遺物

出土遺物 5-124号住居の低位にありほとんどを削平された状況であった。このため本址に帰属すると判断された遺物は少ない。炉の埋設土器1の他は小片である。石器も小型の磨石2点のみである。

時期・所見 5-124号住居跡の中に入れ子状態で確認されており、拡張前の住居と判断される。炉は主体部中央やや南寄りに検出された。掘り込みに伴った埋設土器と周囲に焼土が見られる。形状は5-124号住居跡に近似していたものと思われるが、規模はやや小さかったと判断される。重複というよりは拡張と捉えることができる。時期は埋設土器から後期前半、堀之内1式期と判断される。



第354図 5-145号住居跡出土遺物

6-10号住居跡 (第355~358図: PL54・186)

位置 B・C-12・13グリッド、6区調査区の南西隅に位置する。**重複** 無し。**形状** 柄杓形住居規模 (380)×335×15cm。**方位** N-17-W **床面** 部分的な敷石住居である。炉から張り出し部に向かって平石が敷かれている。張り出し部には両側に大振りの礫が据えられており、南側は一部壊されているものと思われる。**炉** 主体部のほぼ中央に作られている。確認時、周辺及び内部に寄せ集められた状態でやや大型の礫が検出されており、住居廃棄時に炉を埋めるような行為が行われた可能性を示唆している。**柱穴** 北側の壁際に3本、南側の張り出し部との境に横に並んで5本を検出した。深さは20~30cmでP-3を除き深さは30~40cmである。**埋壘** 検出されなかった。**掘方** 炉の右脇に径約90cm、深さ15cm程の土坑が検出されたが用途等は不明である。

出土遺物 小破片のみである。石器は打製石斧および礫器である。

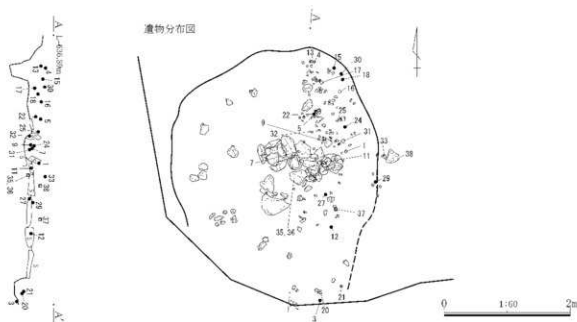
時期・所見 平成12年度に西側の半分を調査しており今次の調査で全容が明らかとなった。敷石は炉から張り出し部に向かって1列に敷かれており、主体部との境に置かれた両側の礫が目目される。

6-15号住居跡 (第359・360図: PL55・186)

位置 A・B-17・18グリッドに位置する。**重複** 西側は平成12年度に調査を実施、炉の右脇に近世と思われる長方形の土坑が重複する。**形状** 小型円形を呈す。**規模** (350)×(350)×20cm。

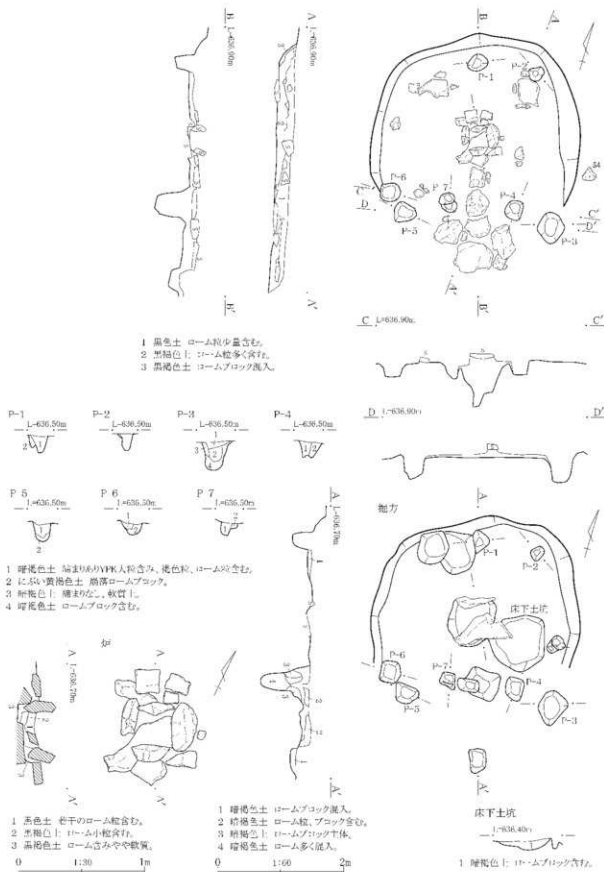
方位 — **床面** やや凹凸があり僅かに南に傾斜を持つ、比較的締まりが見られる。**炉** ほぼ中央に径50cmで深さ20cm程に掘り下げた地床炉である。北西部分が後世の掘り込みにより、一部壊されている。**柱穴** 壁際に径15~20cmの小ピットが数基検出される。**埋壘** 検出されなかった。**掘方** 貼り床や土坑等は見られない。**出土遺物** 数片の土器と打製石斧が1点である。

時期・所見 西側半分は平成12年度に土坑として調査。今次の調査で炉が検出されたことから住居とした。壁は北側が残るが、南に関しては削平されている。小型の住居で出土遺物は少ない、時期は中期後半か。

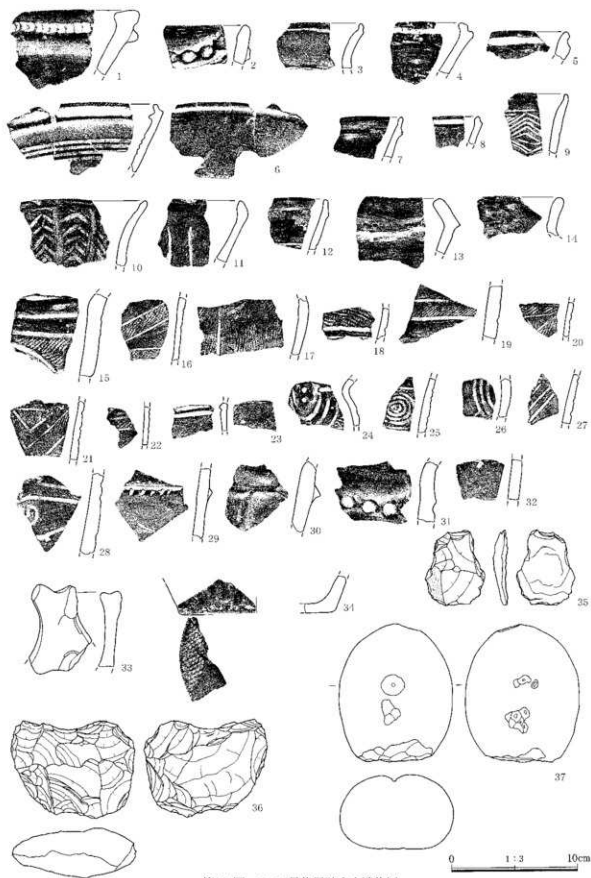


第355図 6-10号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

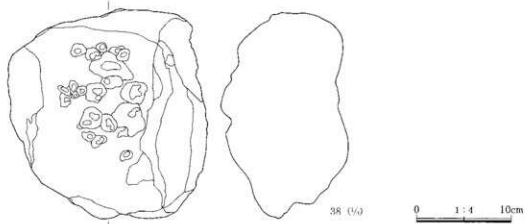


第356図 6-10号住居跡(2)

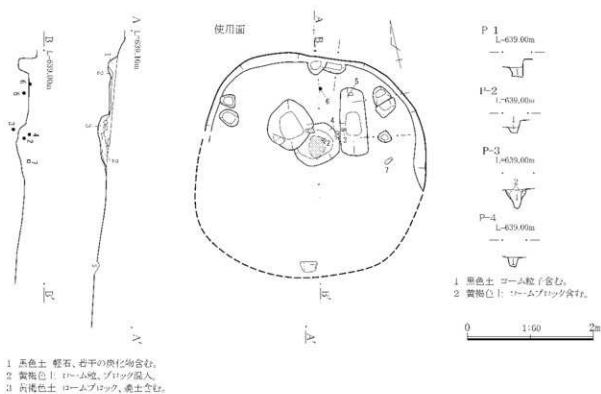


第357図 6-10号住居跡出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物

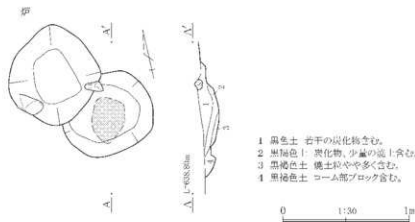


第358図 6-10号住居跡出土遺物(2)



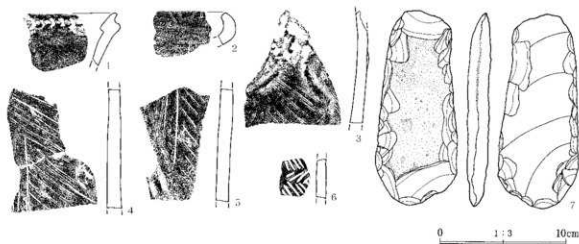
- 1 黒色土 軽石、若干の炭化物含む。
- 2 黄褐色土 コーム塊、ブロック混入。
- 3 灰褐色土 コームブロック、炭土含む。

- 1 黒色土 コーム粒を含む。
- 2 黄褐色土 コームブロック含む。



- 1 黒色土 若干の炭化物含む。
- 2 黒褐色土 炭化物、少量の炭土を含む。
- 3 黄褐色土 炭土がやや多く含む。
- 4 黒褐色土 コーム層ブロック含む。

第359図 6-15号住居跡



第360図 6-15号住居跡出土遺物

6-16号住居跡 (第361～367図：PL56・186～188)

位置 A・B-12～14グリッドに位置する。**重複** 住居の南寄りに6-211・212号土坑が、西側には6-207・209号土坑が一部重複。**形状** 円形。**規模** 径約5m。

方位 — **床面** 土坑の重複により残る部分は少ないが、残存部分は比較的平らで締まりもある。

炉 中央やや北寄りに作られている、隅丸方形の掘り込みと西側に炉石片と思われる礫が見られる。炉体土器と見られる深鉢がやや南寄りに出土している。**柱穴** 主柱穴は4本か、南西に位置すると思われる柱穴は、6-211号土坑内に位置していたものと思われる。**埋藏** 検出されなかった。

掘方 やや凹凸が見られたが土坑等は検出されなかった。

出土遺物 比較的多くの土器や石器が出土。1は炉に埋設されていたものである。石器は石鏃、打製石斧、磨石の他、石棒、多孔石が見られる。

時期・所見 6区の東端に検出された、住居南側の覆土上層に大型の礫が散在しており、平成6年度の調査時に確認された5-1号列石の西側の延長かとも考えられる。また住居覆土中に2カ所の炭化物を含む焼土範囲が検出されているが性格は不明、住居よりも後出の所産と考えられる。遺物は中央にやや集中して出土している。時期は炉体土器から中期後半と考えられる。

6-17号住居跡 (第368・369図：PL56・188)

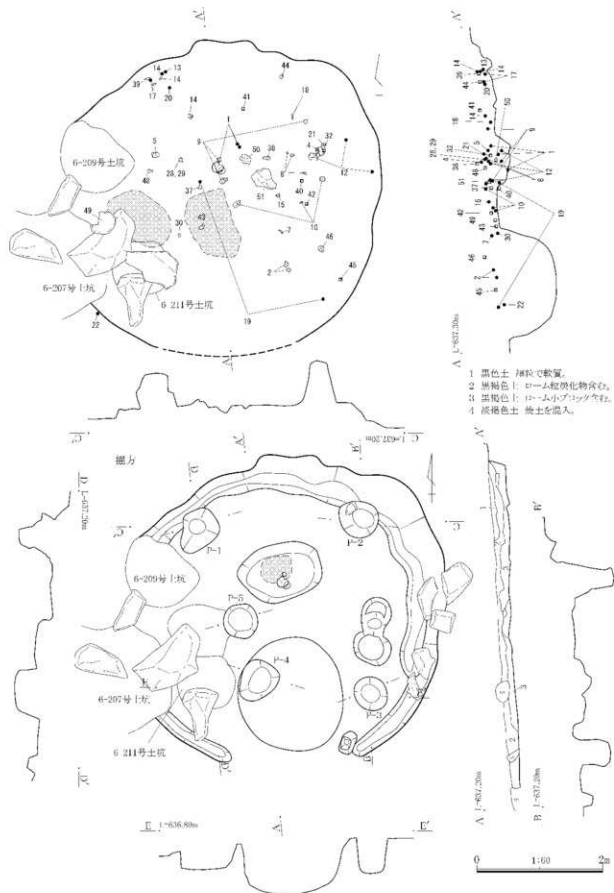
位置 A-12グリッドに位置する。**重複** 北側一部分のみの検出である。調査区の南端に弧状の落ち込みを検出。**形状** 円形か。**規模** 径不明、深さ15cm。**方位** — **床面** ほぼ平坦である。周溝等は見られない。

炉 検出されない。**柱穴** 北壁に1基を検出。

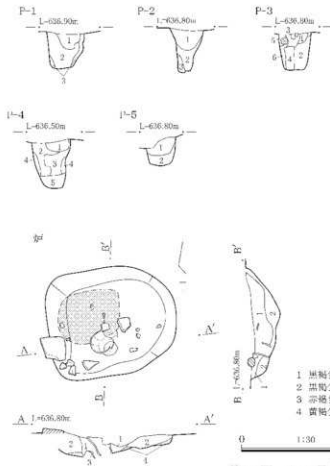
埋藏 検出されない。**掘方** 特に掘り込みは見られない。

出土遺物 土器、石器ともに少ない。

時期・所見 北側のごく一部分を検出したのみである。南側に付いては平成6・7年度調査時において明確な遺構は検出されていない。但し5-14号配石(長野原一本松遺跡(1)2002)としたものが炉の痕跡である可能性がある。



第3節 縄文時代の遺構と遺物



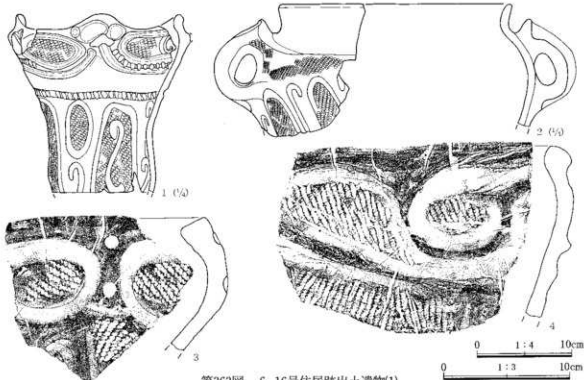
- P-1・2・5
 1 暗褐色土 VPK, 褐色粒, 白色鮮石を含み跡あり。
 2 暗褐色土 中にコム粒を含む。
 3 暗褐色土 コムブロック, 黏土上塗り。

- P-3
 1 暗褐色土 VPK, 褐色粒, 白色粒。
 2 暗褐色土 中にコム粒を含む。
 3 暗褐色土 コム粒, 褐色粒を含む。
 4 暗褐色土 白色, 褐色粒, 小眼, VPK粒(粘り強い)。
 5 暗褐色土 コム粒, 粒上(粘り強い)。
 6 暗褐色土 コムブロックを含み跡ある。

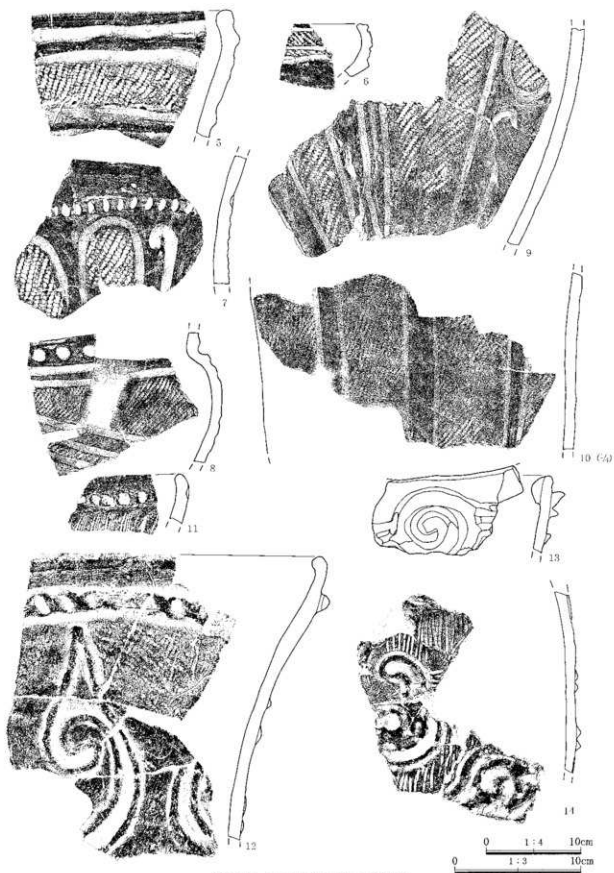
- P-4
 1 暗褐色土 土土を含み跡粒で隔い, 粘り強い。
 2 暗褐色土 コム粒を含む粘り強い。
 3 暗褐色土 2より黒毛あり。
 4 暗褐色土 全粒に粘り。
 5 コムブロックを含む粘り強い。

- Fig. 362
 1 暗褐色土 コム粒, 炭化物粒中の流しを含む。
 2 暗褐色土 1と粒のみ粘り強い。
 3 暗褐色土 粘土。
 4 暗褐色土 粘り強い。

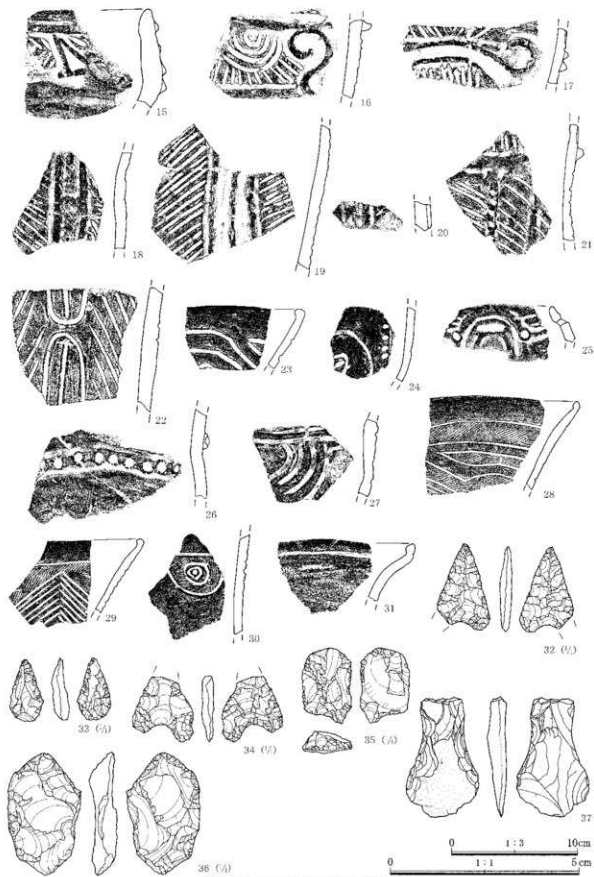
第362図 6-16号住居跡(2)



第363図 6-16号住居跡出土遺物(1)

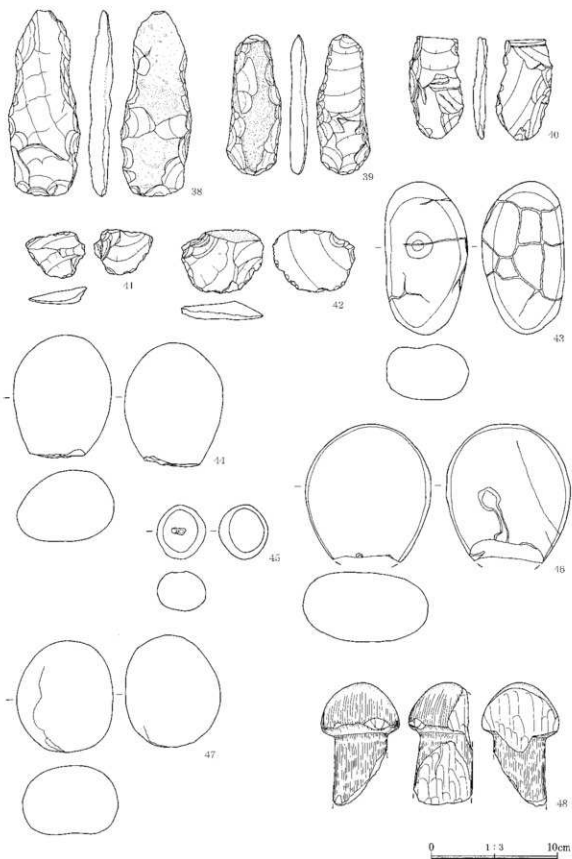


第364図 6-16号住居跡出土遺物(2)

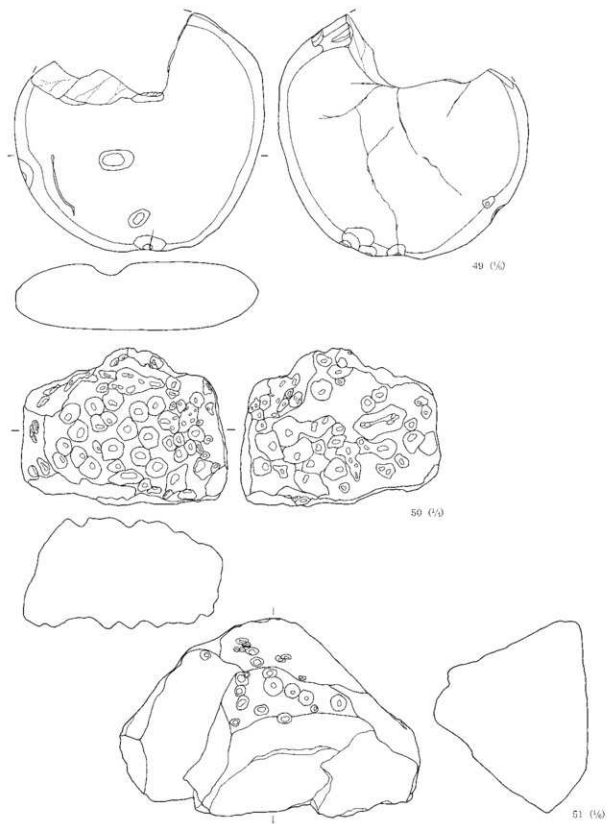


第365図 6-16号住居跡出土遺物(3)

第3章 検出された遺構と遺物

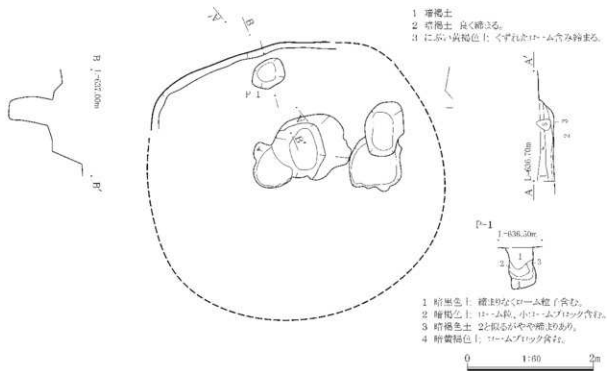


第366図 6-16号住居跡出土遺物(4)

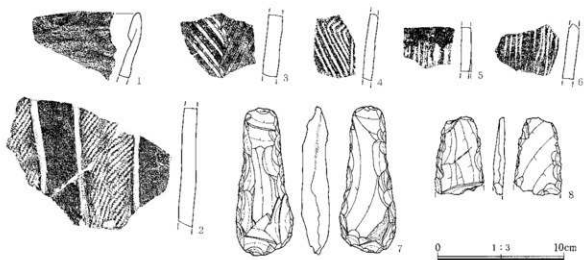


第367図 6-16号住居跡出土遺物(5)

0 1:4 10cm



第368図 6-17号住居跡



第369図 6-17号住居跡出土遺物

2. 掘立柱建物跡

5区において検出した掘立柱建物跡は2棟である、これらは調査時点では掘立柱建物と認定できず、遺構整理時に掘立柱建物と確定されたものである。いずれも径1m程で、深さは0.8~1m以上の掘り込みを持つ柱穴が矩形、ないしは円形に並ぶ。これらの掘立柱建物跡の柱穴は、当初は、個々に番号を付した土坑として調査を行っている。以下に土坑番号と柱穴番号の対照表および計測値の一覧表を上げておく。

5-6号掘立柱建物跡 (第370図: PL 2)

位置 M-O-17・18グリッドに位置する。 **重複** 5-89・90・91・95・97号住居跡と重複。これらを切って構築される。 **形状** 亀甲形か、西側に張り出す棟持ち柱は5-85号住居跡の覆土中に掘り込まれていたものと思われるが、確認できなかった。 **規模** 東西(9.8)m、南北3.5mである。

床面 不明。 **炉** 不明。 **埋燬** 無し。 **出土遺物** 各土坑の項を参照。

時期・所見 径約1mの柱穴6本が長方形に並び東側に張り出す棟持ち柱と思われる土坑が検出されており、西側にも在ったものと考えられるが、5-85号住居の覆土中であったために調査時には確認できなかった。柱穴P1は上層より大型の礫が出土している。なお、柱穴P5は円形柱穴列の柱穴とほぼ同位置に重複して掘り込まれていたが、円形柱穴列のほうが新しいことが断面により確認されている。

5-6号掘立柱建物跡柱穴計測表

土坑番号	5-870土	5-877土	5-862土	5-871土	5-848土	5-866土	5-852土	位置推定
柱穴番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
径	94cm	106cm	110cm	105cm	95cm	73cm	90cm	5-85住
深さ	80cm	87cm	98cm	55cm	82cm	76cm	55cm	内北東部

5-7号掘立柱建物跡 (第371・372図: PL 2・58・189)

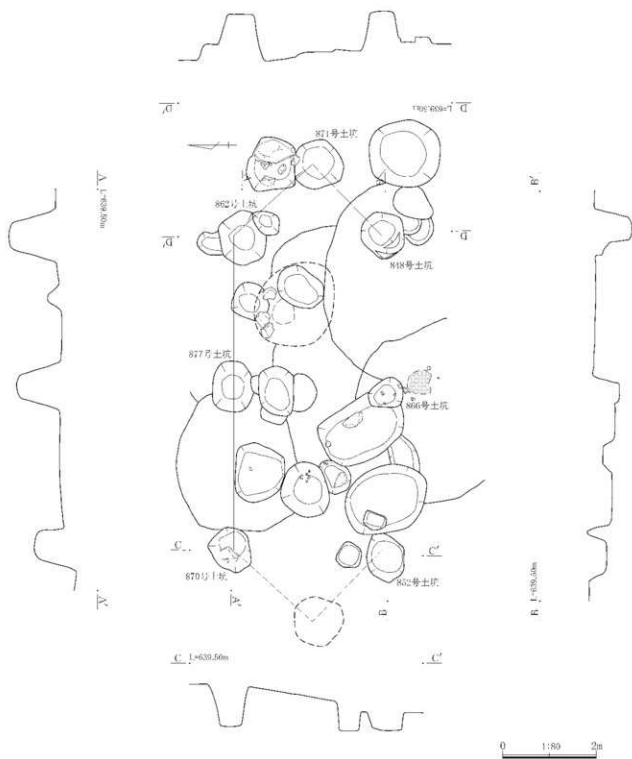
位置 M-O-16~18グリッドに位置する。 **重複** 5-86・89・90・91・95・97号住居跡と重複。

形状 8角形か。 **規模** 柱穴の中心部径で約6.5mの円形(8角形)。 **床面** 不明。 **炉** ほぼ中央に位置する5-1号焼土が可能性あり。炉の下部部分と思われる。深鉢の胴部が入り子状態で見出されている。焼土はレンズ状に見られ厚いところでは10cmを測る。 **埋燬** 無し。 **出土遺物** それぞれの柱穴より礫および土器片が出土している。柱穴P3とP4から出土した土器が接合。

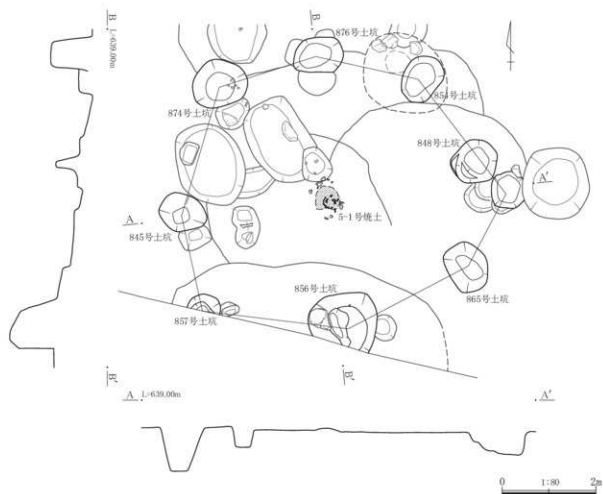
時期・所見 柱穴は径1~1.5mで深さは現状で70~100cmである。数軒の住居跡が重なって検出された場所に確認されたため、調査時には認定できなかった。柱痕の確認されたものは少なかったが柱穴P4は根巻き石を思わせるようにドーナツ状に石が出土している。ほぼ中央に位置する5-1号焼土が本址に関連する可能性がある。同焼土からは炉体土器として掘えられていたと思われる土器が出土している。本址から南東へ約20m程の位置に検出されている5-1号円形柱穴列(平成8・11年度調査、長野原一本松遺跡(2)2007にて報告)とほぼ同規模である。なお、柱穴P8は重複土坑の可能性がある。5-1号焼土出土の炉体土器の時期は堀之内1式である。

5-7号掘立柱建物跡柱穴計測表

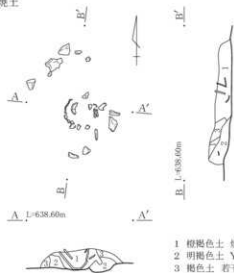
土坑番号	5-857土	5-845土	5-874土	5-876土	5-854土	5-90住	5-865土	5-856土
柱穴番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
径	(71) cm	85cm	116cm	104cm	104cm	95cm	105cm	145cm
深さ	(65) cm	97cm	92cm	77cm	70cm	82cm	78cm	105cm



第370図 5-6号掘立柱建物跡



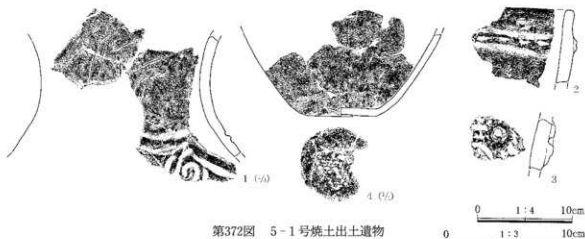
1号焼土



- 1 暗褐色土 焼土粒、YPK僅か、暗褐色土少量含む。
- 2 明褐色土 YPK僅か、暗褐色土よりやや多く含む。
- 3 褐色土 若干の焼土、YPK僅かに含む。

0 1:30 1m

第371図 5-7号掘立柱建物跡



第372図 5-1号焼土出土遺物

3. 埋塞

5区において6基を検出、この内5-13および14号埋塞は共に5-102号住居跡に帰属するものとした。

5-9号埋塞 (第373・374図：PL57・189)

5-69号住居跡の北壁に接して検出されており、同住居との関連が想定されたが、土層や高さなどの点から別遺構として掲載する。径60cm、深さ50cm程の掘方を持ち、底からやや浮いた状態で置かれていた。礫などは見られなかった。時期は中期後半。

5-10号埋塞 (第373・374図：PL57・189)

5-821号土坑内に検出、全周せず残りもあまり良くない。埋塞としたが土坑内出土の土器か。

5-11号埋塞 (第373・374図：PL57・189)

調査区の北側C-20グリッドに位置する。遺構集中部から離れて検出されている。逆位状態で、口縁、底部を欠くが全周している。

5-12号埋塞 (第373・375図：PL57・189)

5-72号住居跡の南壁に接して検出された。住居に伴う可能性が高いが、5-9号埋塞同様断面の状況、出土高などの点から別遺構として記載した。口縁部を下に埋められている。時期は中期後半。

4. 炉

住居などに伴わず、単独のいわゆる屋外炉で周辺に出土遺物もほとんど見られず、また柱穴なども検出されない。調査では5-11～13号の3基を検出したがこのうち5-13号炉に関しては5-75号住居跡の炉と判断された。なお、検出された2基はいずれも住居の埋没後、あるいは埋没途中の覆土中に作られている。

5-11号炉 (第373・375図：PL58・189)

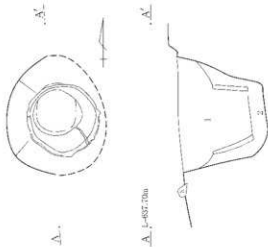
F-15グリッド、5-69号住居跡の入り口部に位置する。住居の埋没後に作られたものと判断される。やや扁平な礫をやや乱雑ではあるが、炉状に組んでいる。埋土中にはほとんど焼土は認められなかった。土器口縁部1および石礫2が出土している。

5-12号炉 (第373図：PL58)

G-16グリッドに位置する。5-70号住居跡の北東部覆土中に作られる。住居埋没途中に屋外炉として構築か。炉石に煤の付着は見られたが、焼土がほとんど観察されない事などから長期の使用は認められない。

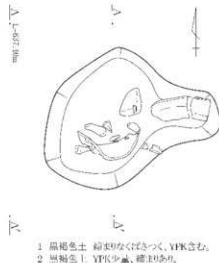
第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-9号埋壙



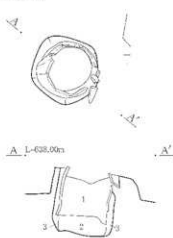
- 1 黒褐色土 YPK含み総土あり。
- 2 黒褐色土 少量のYPK含み総土に欠け区。

5-10号埋壙



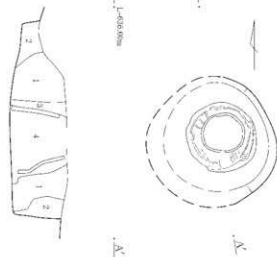
- 1 黒褐色土 締まりなくばさつく、YPK含む。
- 2 黒褐色土 YPK少量、締まりあり。
- 3 黒褐色土 少量のYPK含む粘性あり。

5-11号埋壙



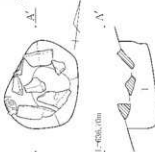
- 1 黒褐色土 ローム質、粘含む。
- 2 黒褐色土 1よりローム粘多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粘多く含む粘粒。

5-12号埋壙



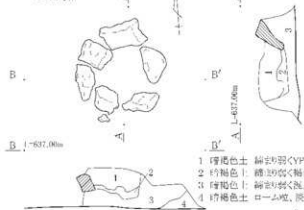
- 1 暗褐色土 YPK全分締まりあり。
- 2 暗褐色土 白色粘土、YPK含み粘土に欠ける。
- 3 暗褐色土 締まりない。
- 4 暗褐色土 締まりなくばさつ、YPK、白色粘を含む。

5-11号炉



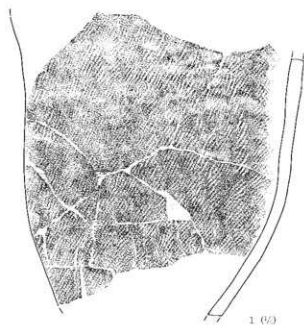
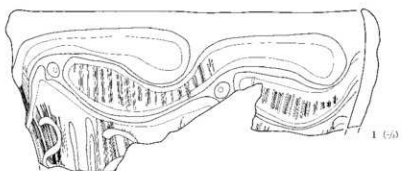
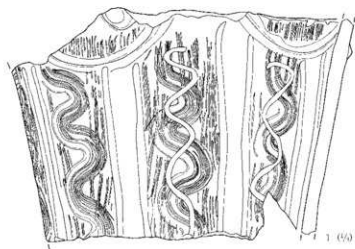
- 1 暗褐色土 ローム粘含むやや軟質。

5-12号炉



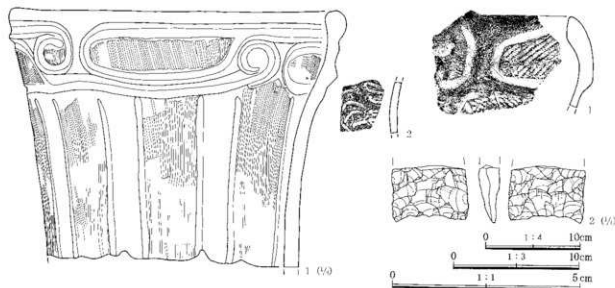
- 1 暗褐色土 締まり弱くYPK粘色粘多く含む。
- 2 暗褐色土 締まり弱く粘色粘粒のみ、灰質粘石含む。
- 3 暗褐色土 締まり弱く灰人物ほとんど含まず。
- 4 暗褐色土 ローム粘、灰質粘石やや含む。

第373図 5-9～12号埋壙・5-11・12号炉



0 1:4 10cm

第374図 5-9~11号埋塞出土遺物



第375図 5-12号埋塞・5-11号炉出土遺物

5. 列石・配石

5-9号列石 (第376図: PL59)

R-9-14グリッドに位置、列石下には5-1・134・140号住居がある。長さは約10mを検出。70~90cmもの大型の垂角礫が東西に延びる。平成6年度の調査時に南側の一部を5-5号列石として確認している。

5-441号配石 (第377図: PL58・59)

位置 P・Q-14グリッドに位置する。不定形で規模は100×90cm、長さ60cm程の大型礫を囲んで10数個の礫が廻る。配石下に土坑等は検出されなかった。

5-442号配石 (第377・378図: PL59・189)

Q-15グリッドに位置する。5-111号住居内に検出。2基の重複か。楕円形で規模は200×100cm。

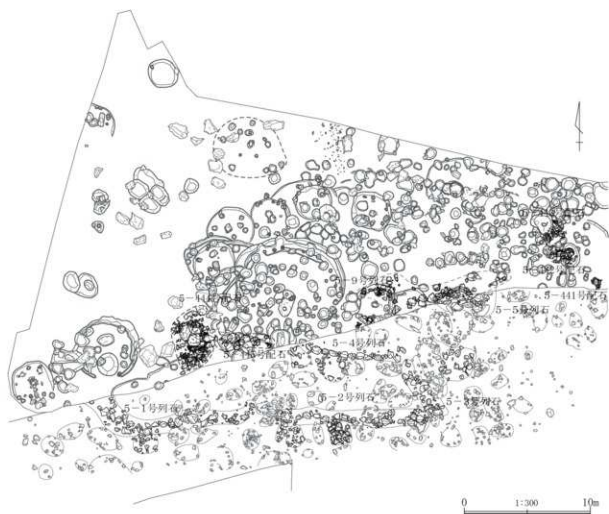
東半分は5-1106号土坑に重なり、立て並べられた礫は土坑の内側に沿っている事から、一体の遺構と判断される。また西側にも同様な形状のものが看取される。土坑は東側の配石の下に掘り込まれたものと考えられ、ローム混土層が上位に見られることから、人為的に埋められた事が窺われる。土坑のほぼ中央に倒れていた長さ80cm程の大型棒状礫は、おそらく墓標の意味を持つ立石であろう。配石の構造は、中央に立てた立石の廻りに平らな石を配し、囲むように礫を楕円形に立て並べている。時期は後期前半と思われる。

5-443号配石 (第377・378図: PL59・189)

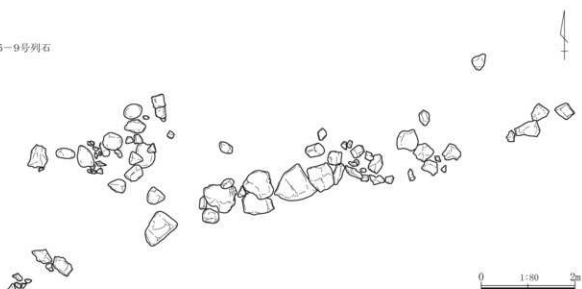
Q-15グリッドに位置する。5-111号住居跡内の北西部に検出された。比較的大型の礫がやや不規則に並び、規模は長さ1.7m、幅は1m程である。出土遺物は石の間から土器片等が出土している。5-9号列石の東側延長上に位置しており、列石端部の可能性あり。

5-444号配石 (第377・378図: PL59・189)

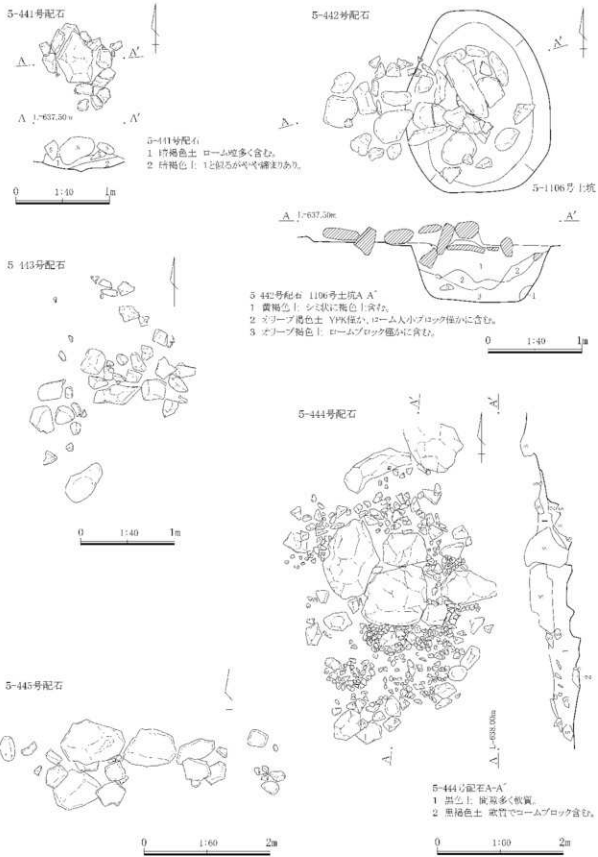
X・Y-13・14グリッドに位置する。1mを超える数個の大型礫の周囲に小振りの礫が集積、東側に5-445号配石が接する。長円形で規模は500×300cmを測る。南側の一部は5-141号住居跡の上に乗る。



5-9号列石



第376図 配石・列石全体図・5-9号列石



第377図 5-441～445号配石

第3章 検出された遺構と遺物

5-445号配石 (第377・378図: PL59・189)

W・X-13グリッドに位置する。1mもの大型礎を含み列状を呈す。配石としたが、5-124号住居跡の接合部分から西に延び、平成6年度に検出されている5-4号列石(長野原一本松遺跡(1)2002)と対になる。



第378図 5-442~445号配石出土遺物

6. 土坑 (第379~488図: PL60~104・190~216)

検出した土坑は総数392基(欠番含む)で、その内訳は4区46基、5区312基、6区34基である。

4区

調査区の北側に比較的集中して検出されている。等高線に沿って数基が横並びに検出されているものも見られる。また、土層の観察から明らかに風倒木と判断されたものも見られる(4-71・72・73号土坑)。また時期については、埋土の状況から近世以降に比定されるものと判断されたものもある。明らかに縄文時代の土坑とされたものは比較的少なく、また遺物も極めて少なかったが、4-110号土坑は押しつぶされた深鉢の上に礫が載った状態で出土している。

区の南西部は低くなり、南に開く谷地となっており、この谷頭部分に検出された4-102・105号土坑は平面長円形で底面の形状が長方形となり、深さが1m以上あり、本遺跡で多く確認されているいわゆる陥し穴である。平成13年度に本区の南側を調査した際にもこの谷地部分において数基が検出されている。

5区

本区における土坑は調査区の南西部に特に集中して検出されている。その分布集中範囲は幅およそ10mで長さが50mの帯状を呈す。この部分は土坑のみならず住居の重複も極めて顕著である。

調査時には確認できなかったが、深さが1m近い柱穴も多く見られ、整理時に掘立柱建物と認定された遺構も多い(5-6・7号掘立柱建物跡)。また径1.2~1.5mで掘り込みのしっかりした土坑が規則的に配されており、類似した用途のものに掘り込まれた可能性が指摘される。5-976・977・1000・1013号土坑等断面に柱痕が確認されたものも数多く見受けられ、建物跡の存在が想定される。

また、5区の住居集中部北側でも多くの土坑が検出されているが、形状が円形で径は1m前後、比較的掘り込みが浅く、底がやや丸みを呈するものが多く見られる。これらは礫や土器片を多く混入することが特徴的で、時期はいずれも住居よりも後出のものが大部分である。

いわゆる陥し穴は5-804・807号土坑が相当する。いずれも4区との境谷地に面した場所に検出された。

検出された土坑は規模や形状は様々で、出土遺物も皆無のものもあれば多いものもある。また5-899・900号土坑のように比較的大きく底が平坦で、炉は確認されないものの形状的には住居と見られるものがあり、出土遺物も比較的多い。5-891号土坑は南北に軸を持つ長円形の土坑で大型の土器片が礫を伴って出土している。

主な出土遺物では5-813号土坑は住居(5-69号住居跡)の中央に深さ1.8mもの深さに掘り込まれており、全体の半分ほどの大型深鉢が出土している。また5-909号土坑からは大型の黒曜石が2点出土しており注目される。区の南西部の最も遺構集中部では多くの土坑を確認したが、いずれも掘り込み面や平面形状の不明なものも多く、土坑として掲載してはいるものの、住居の柱穴である可能性のものも少なく無いと考える。

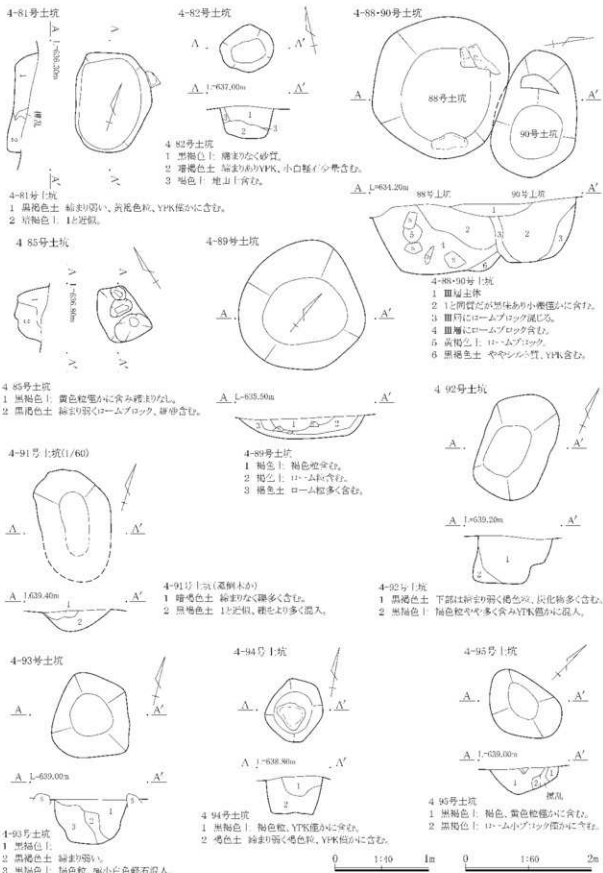
6区

調査区内に地山の大きな礫が至る所で露出し、遺構の状況は良くなかった。掘り込まれた土坑に関しても礫と接していたりして形状も不定型であった。人為的に判断されたものは少なく、浅いものが多い。

15区

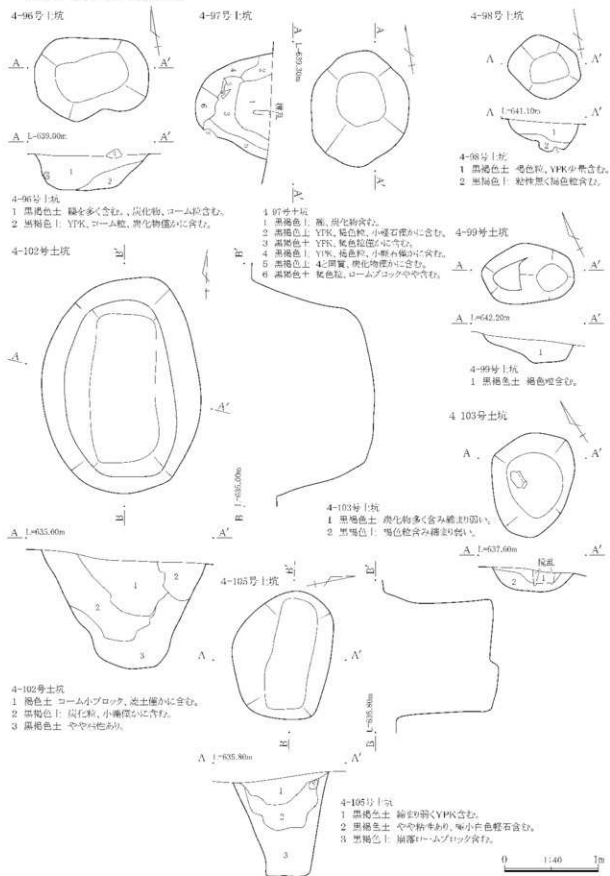
1基のみ検出、径は3mを測る。多くの礫が出土しているが土器の出土は見られない。立ち上がりも不明で時期的にやや下る可能性がある。

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第380図 4-81・82・85・88~95号土坑

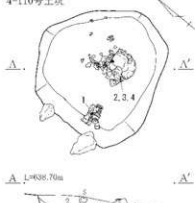
第3章 検出された遺構と遺物



第381図 4-96~99・102・103・105号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

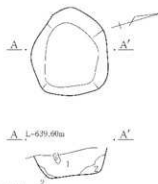
4-110号土坑



4-110号土坑

- 1 黒褐色土 褐色地、淡白黄緑石含む。
- 2 黒褐色土 褐色の層中に含む。
- 3 黒褐色土 褐色地多く、淡白黄緑石少量含む。

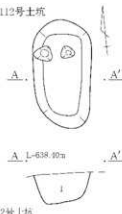
4-111号土坑



4-111号土坑

- 1 黒褐色土 粗粒のC/FK含む。
- 2 黒褐色土 粗小白色軽石(含みやや軽石あり)。

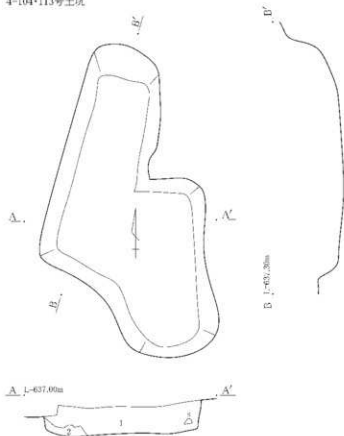
4-112号土坑



4-112号土坑

- 1 黒色土 軽粒で粘り少なく、硬多く含む。

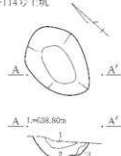
4-104・113号土坑



4-104号土坑 (4-113号土坑と重複)

- 1 黒褐色土 粘り強く軽石混入。
- 2 黒褐色土内、複層構造。

4-114号土坑



4-114号土坑

- 1 黒褐色土 粘り少ない。
- 2 黒褐色土 褐色粒を含む。
- 3 黒褐色土 褐色と層状に含む。

4-115号土坑



4-116号土坑

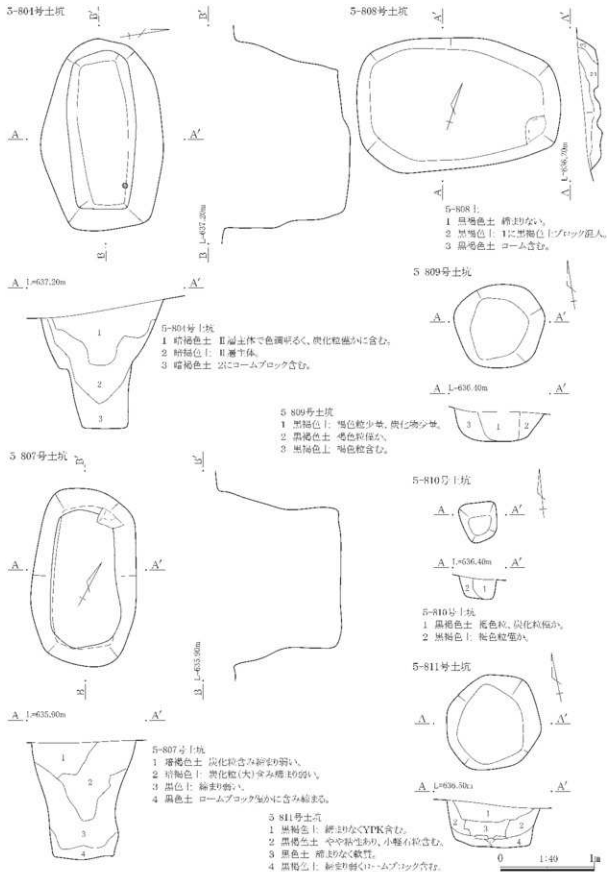


4-116号土坑

- 1 黒褐色土 粘りに欠ける。
- 2 黒褐色土 褐色粒、硬多く含む。

第383図 4-104・110~116号土坑

0 1:40 1m



第384図 5-804・807~811号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

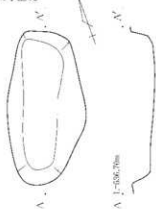
5-812号土坑



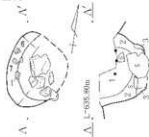
5-812号土坑

1 黒褐色土 YPK, 褐色砂, 小軽石層が含む。

5-814号土坑



5-815号土坑



5-815号土坑

1 粘褐色土 淡白黄色砂や礫が、引け色粒、炭化物少量含む。
2 雑褐色土 藍色砂、明赤褐色粒層が含む。
3 粘褐色土 ロームブロック多く含む。

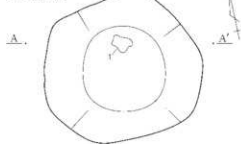
5-821号土坑



5-821号土坑

1 黒褐色土 少量のローム砂子含む。
2 粘褐色土 ローム粒が多く含む。
3 黄褐色土 ローム土や砂多く含む。

5-813号土坑



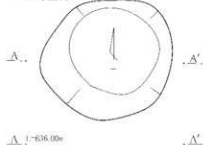
A 1:637.10m



5-813号土坑

1 黒褐色土 YPK, 礫も多く含む。
2 黒褐色土 礫も多く含む。
3 黒褐色土 YPK粒が含む。
4 黄褐色土 ローム小ブロック多く含む。
5 雑褐色土 ローム小ブロック含む。
6 黒褐色土 ローム粒多く含む。
7 黒褐色土 黄色粒層が、粘付な。
8 オリーブ褐色土 黄色粒層が含む。
9 オリーブ褐色土 ロームブロック大含む。
10 雑褐色土 ローム土体、中層含む。
11 黄褐色土 ローム土体で黒色土ブロック少量含む。

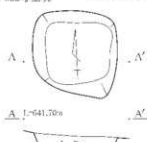
5-816号土坑



5-816号土坑

1 に近い褐色土 YPK, ロームブロック含む。
2 に近い褐色土 1とほぼ、ロームブロックや砂少ない。
3 黒褐色土 個人物は2とほぼ。
4 黒褐色土 ロームブロックや砂少ない。

5-822号土坑



5-822号土坑

1 黒褐色土 シルト質粘粒なし。

0 1:40 1m

第385図 5-812~816・821・822号土坑

5-823号土坑



A. 1=0.50m

5-823号土坑

1 黒色土 軟質土、コムブロック散在。(黒刺木込)

5-824号土坑



A. 1=0.50m

5-824号土坑

1 黒褐色土 コム粒と子食み跡あり
2 赤褐色土 土より軟質で表層あり
3 黒褐色土 コム粒、小ブロック含む。

5-825号土坑

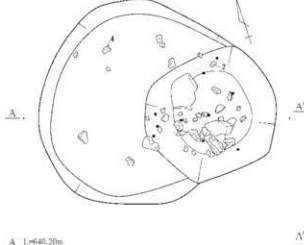


A. 1=0.50m

5-825号土坑

1 黒色土 コム粒、赤褐色の子食み。
2 黒褐色土 コム粒が多量含む。

5-826号土坑

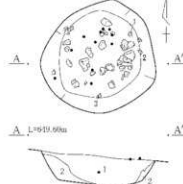


A. 1=0.50m

5-826号土坑

1 黒色土 コム粒、赤色粒を含む。
2 黒色土 1と似たがやや軟質。
3 黒褐色土 コム粒、若干のコムブロック含む。
4 黒色土 コム粒と赤色粒を含む跡あり。

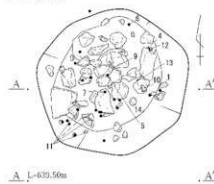
5-827号土坑



5-827号土坑

1 黒褐色土 コム粒と子食み跡多量。
2 黒褐色土 コム粒と(YPS)若干含む。

5-828号土坑



A. 1=0.50m

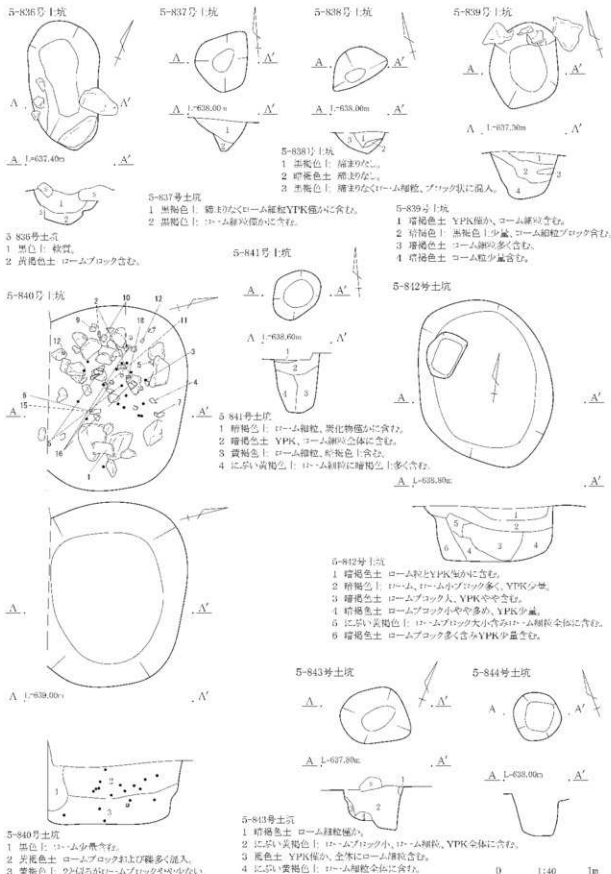
5-828号土坑

1 黒色土 コム粒を含む。
2 黒色土 土より軟質。
3 黒褐色土 コム小ブロック含む。



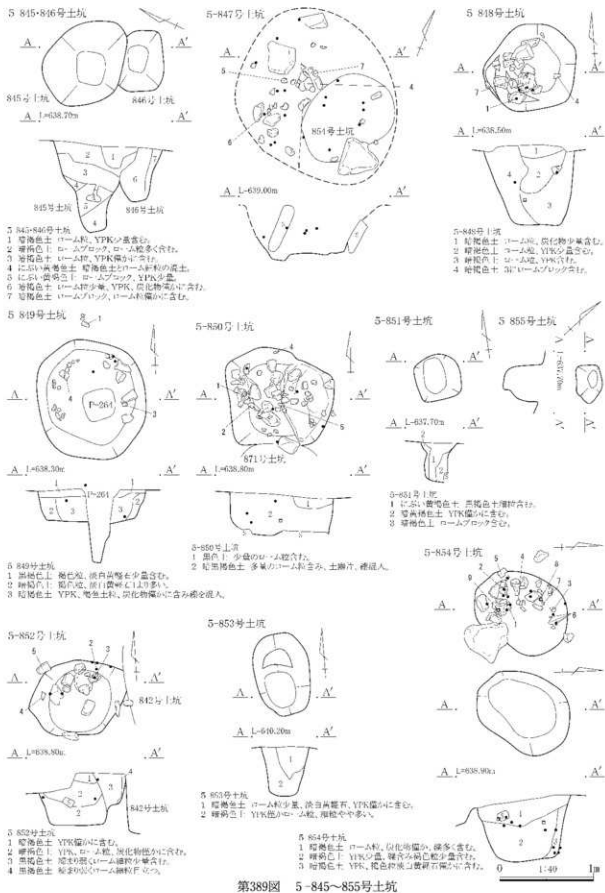
第386図 5-823～828号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第388図 5-836~844号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第389図 5-845~855号土坑



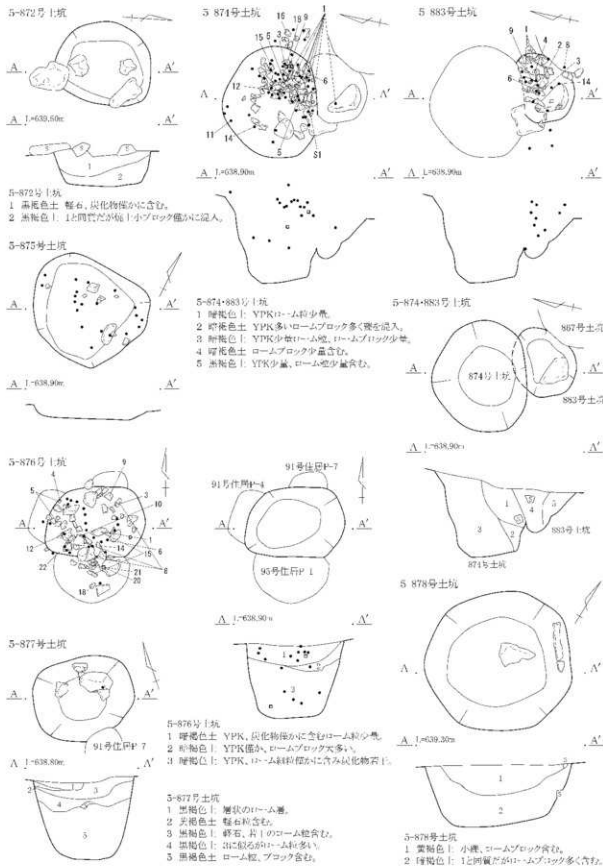
第390図 5-856～863号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第391図 5-864～871・873号土坑

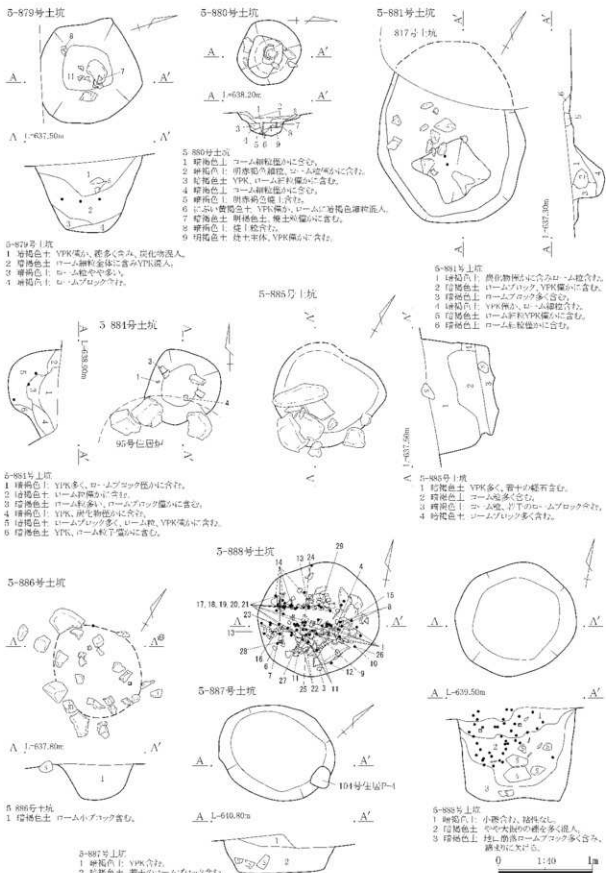
第3節 縄文時代の遺構と遺物



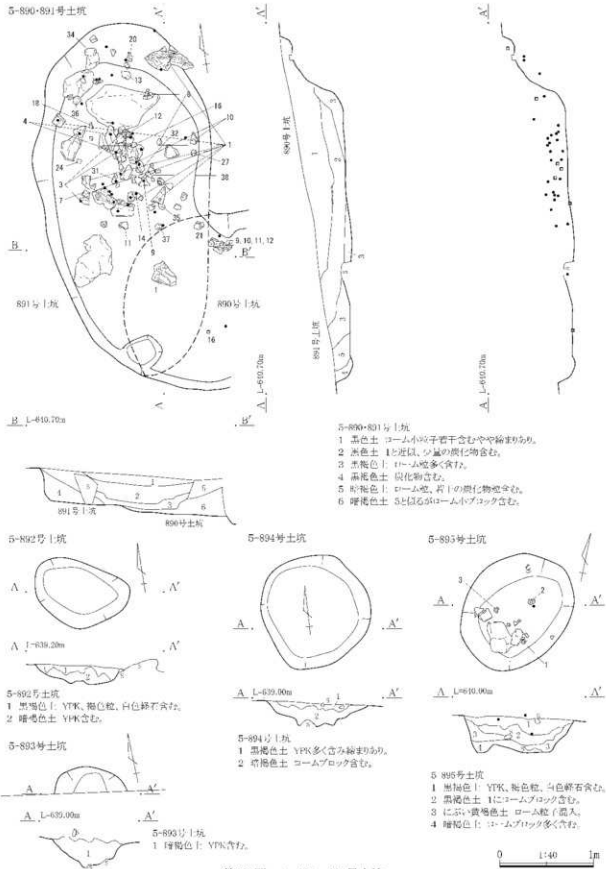
第392図 5-872・874・878・883号土坑

0 1 2m

第3章 検出された遺構と遺物



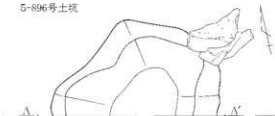
第393図 5-879～881・884～888号土坑



第394図 5-890~895号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5-896号土坑



A 1-629.30m A'



- 5-896号土坑
 1 暗褐色土 灰色粒含む。
 2 に広い黄褐色土 ローム粒含む。
 3 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-897号土坑



A 1-639.10m A'



- 5-897号土坑
 1 黒色土
 2 黒褐色土 ローム含む。
 3 黄褐色土 ロームブロック含む。

5-899号土坑



A 1-639.30m A'

5-889号土坑



A 1-639.50m A'



- 5-889号土坑
 1 暗褐色土 V形多く含む粘まり、片石あり。
 2 暗褐色土 土相なのが褐色土含む。

5-900号土坑



899号土坑

899号土坑

5-898号土坑



A 1-640.70m A'



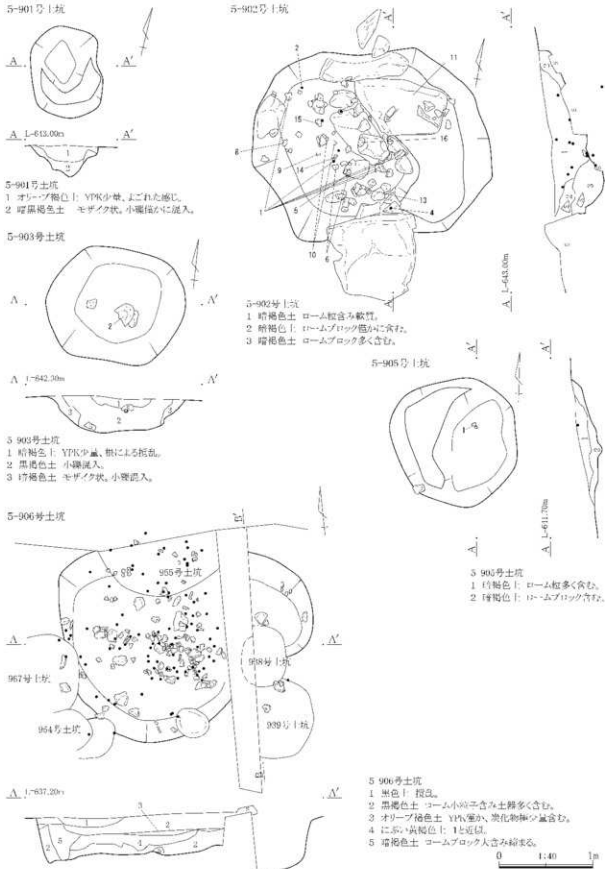
- 5-898号土坑
 1 黒色土 鉄質で黒味強い。
 2 暗褐色土 ローム粒が少量含む。
 3 黒褐色土 ローム小ブロック含む。
 4 暗褐色土 ローム粒了、ブロック含む。

5-900号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、軽石がみ盛れあり。

A 1-639.80m A' 0 1:40 1m

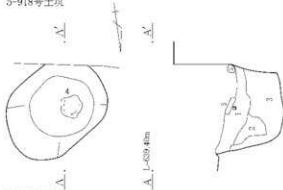
第395図 5-889・896~900号土坑



第396図 5-901~903・905・906号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

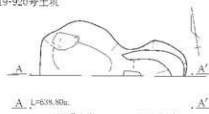
5-918号土坑



5-918号土坑

- 1 黒色土 ローム粒子含む。
- 2 暗褐色土 1と同質だがロームが少し小さい。
- 3 黒褐色土 ローム粒子多く含む。

5-919-920号土坑



5-919-920号土坑

- 1 黒褐色土 雑草含む。柱穴か。
- 2 黒褐色土 灰色粒粒か、小骨片かを含む。
- 3 黒褐色土 YPK層か、ロームブロック大塊かを含む。
- 4 黒褐色土 YPK含む黒灰強い。

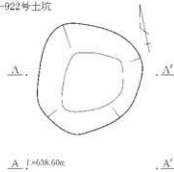
5-921号土坑



5-921号土坑

- 1 暗褐色土 ローム塊多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム小ブロック層かを含む。

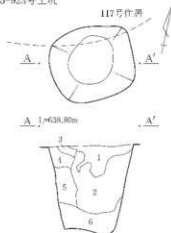
5-922号土坑



5-922号土坑

- 1 暗褐色土 ローム小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く、硬を含む。

5-923号土坑



5-923号土坑

- 1 黒褐色土 灰色粒粒か、雜草かを含む。
- 2 黒褐色土 白色塊、ロームブロック大塊かを含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック小塊かを含む。
- 4 黒褐色土 3に小骨を混入。
- 5 黒褐色土 ロームブロック大、YPK層かを含む。
- 6 黒褐色土 付れた感じのローム土。

5-924号土坑



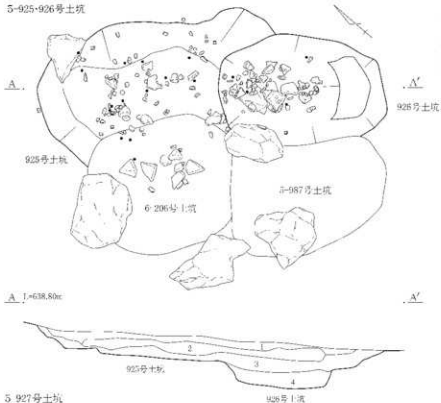
5-924号土坑

- 1 黒褐色土 紫色・白色粒粒かを含む。
- 2 黒褐色土 1と近似、YPK、炭化粒層かを含む。
- 3 褐色土 ロームブロック大含む。

第398図 5-918～924号土坑

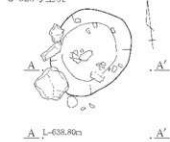
第3章 検出された遺構と遺物

5-925~926号土坑



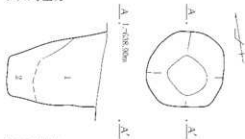
- 5-925~926号土坑
 1 黒褐色土 コーム粒含む。
 2 暗褐色土 コームブロック含む。
 3 暗褐色土 2に近似、明い色試。
 4 黒褐色土 YPK含む。(5-926号土坑)

5-928号土坑



- 5-928号土坑
 1 暗褐色土 コーム粒多く含む。
 2 暗褐色土 コームブロック、産地含む。
 3 暗褐色土 小礫含む傾斜。

5-927号土坑



- 5-927号土坑
 1 黒褐色土 コームブロック小含む。
 2 オリーブ褐色土 人形竈壁入し、粘りあり。

5-929号土坑



- 5-929号土坑
 1 黒褐色土 概ね、コーム含む。
 2 暗褐色土 上部はコームや砂が多い。
 3 黒褐色土 コームブロック多く含む。

5-931号土坑

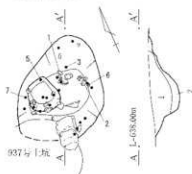


- 5-931号土坑
 1 黒褐色土 YPK、コーム少量含む。
 2 暗褐色土 コーム含む。
 3 暗褐色土 コームブロック多く含む。

第399図 5-925~929・931号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-932号土坑



5-932号土坑

- 1 黒褐色土 白色埋藏物の含む。
- 2 黒褐色土 コームブロック大粒ザイタクスに含む。

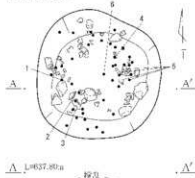
5-933号土坑



5-933号土坑

- 1 黒褐色土 コーム粒、ブロック含む。
- 2 黒褐色土 コーム粒、ブロック、礫を混入。

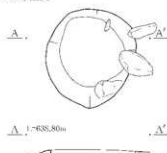
5-934号土坑



5-934号土坑

- 1 黒褐色土 さび込んでおゆ分層。
- 2 褐色土 YPK層から落ち、土層はにびり。
- 3 にびり黄褐色土 褐色土をシラに含む。

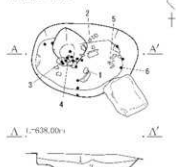
5-935号土坑



5-935号土坑

- 1 黒褐色土 コーム粒混入。
- 2 黒褐色土 コーム粒多く含む層あり。
- 3 黒褐色土 コーム粒、小ブロック含む。
- 4 粘褐色土 コームブロック多く含む。
- 5 粘褐色土 コームの混入目立つ。
- 6 粘褐色土 コーム、礫含む。
- 7 粘褐色土 コームブロックを多く含む、相形。

5-936号土坑



5-936号土坑

- 1 粘褐色土 コーム含む。
- 2 粘褐色土 コームブロック含む。

5-937号土坑



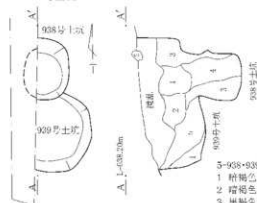
5-937号土坑

- 1 粘褐色土 礫よりなく粘褐色土、白色砂石を含む。
- 2 粘褐色土 粘土ありコーム粒、ブロック、YPK少量含む。
- 3 にびり黄褐色土 礫よりありYPK、コーム粒多く含む。

第400図 5-932~937号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

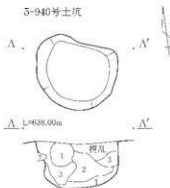
5-938-939号土坑



5-938-939号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック散入。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームを中に含む砂土あり。
- 4 黒褐色土 ロームブロック含むやや硬い砂。
- 5 黒褐色土 ロームブロック土を散入。

5-940号土坑



5-940号土坑

- 1 黒色土 ローム塊、小ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む軟質。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを平床とする。

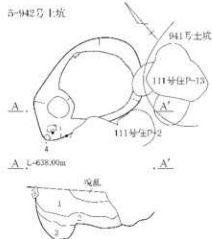
5-941号土坑



5-941号土坑

- 1 暗褐色土 ローム塊多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム塊、ブロック含む。

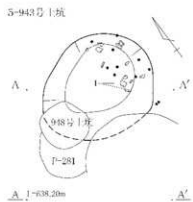
5-942号土坑



5-942号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 2 コームブロックを多く含む。
- 3 暗褐色土 1とほぼ同様のロームブロックや砂が多い。

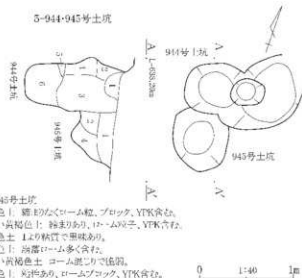
5-943号土坑



5-943号土坑

- 1 黒褐色土 砂土にローム塊、ブロック、YPK含む。
- 2 にぶい灰色土 砂土にローム塊、YPK含む。
- 3 黒褐色土 1より軟質で黒味あり。
- 4 暗褐色土 腐葉ローム土に砂土YPK含む。
- 5 にぶい灰色土 ローム塊のYPK土を平床とする。
- 6 黒褐色土 粘性あり、ロームブロック、YPK含む。

5-944-945号土坑



5-944-945号土坑

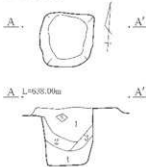
- 1 黒褐色土 羅いなくローム塊、ブロック、YPK含む。
- 2 にぶい灰色土 砂土にローム塊、YPK含む。
- 3 黒褐色土 1より軟質で黒味あり。
- 4 暗褐色土 腐葉ローム土多く含む。
- 5 にぶい灰色土 コーム塊のYPK土を平床とする。
- 6 黒褐色土 粘性あり、ロームブロック、YPK含む。

0 1:40 1m

第401図 5-938～945号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

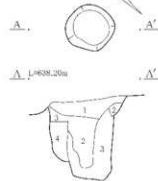
5-916号土坑



5-916号土坑

- 1 黒色土 少量のローム、炭化物を含む。
- 2 暗褐色土: ローム粒、炭化物多く含む。
- 3 暗褐色土 2と近似するが粘りあり。
- 4 暗褐色土: ローム粒、小ブロック、小炭多く含む。

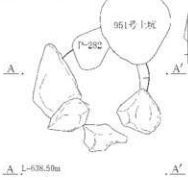
5-948号土坑



5-948号土坑

- 1 黒褐色土: YPK、ローム粒等が含む。
- 2 黒褐色土 若干のロームブロック含む。
- 3 黒褐色土: ロームブロックのみが散在。
- 4 暗褐色土: YPK、ローム小ブロック含む。

5-950号土坑



5-950号土坑

- 1 黒褐色土: YPK等が含む。
- 2 暗褐色土: YPK、ローム粒が含む。
- 3 暗褐色土: ロームブロックを含む。

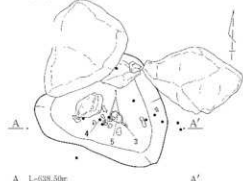
5-917号土坑



5-947号土坑

- 1 黒褐色土: YPK等が含む。
- 2 暗褐色土: ロームブロックが含む。
- 3 暗褐色土: ローム粒、ブロックを含む。

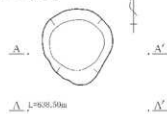
5-919号土坑



5-919号土坑

- 1 黒褐色土 均質、粘りによる層乱れ。
- 2 オリーブ褐色土: 均質YPK極少量含む。

5-951号土坑



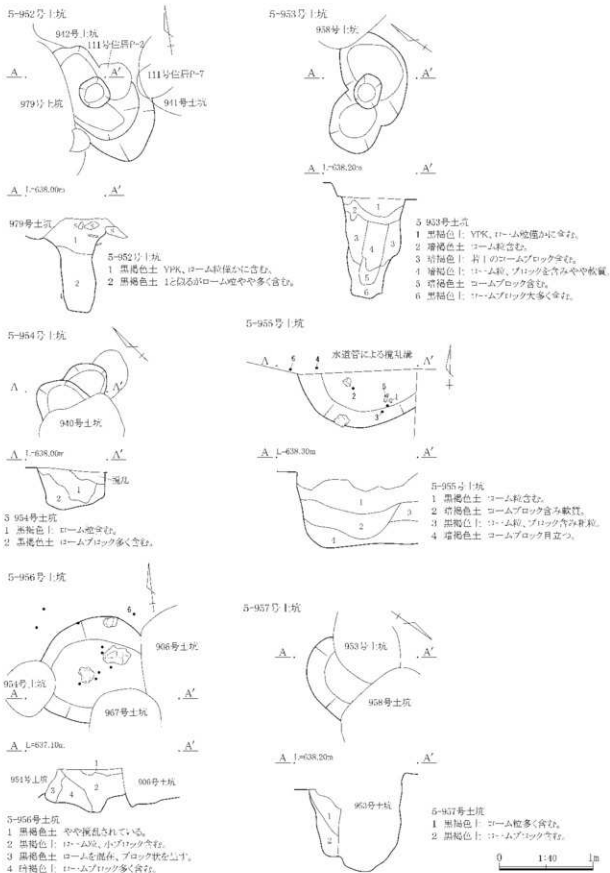
5-951号土坑

5-951号土坑 A-A'

- 1 オリーブ褐色土: YPK、ローム小ブロック少量含む。
- 2 黒褐色土: YPK、ローム粒僅かに含む。
- 3 暗褐色土: 若干のロームブロック含む。
- 4 黒褐色土: ロームブロックのみが散在。
- 5 暗褐色土: YPK、ローム小ブロック含む。
- 6 暗褐色土: ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土: 粘りがある粘り土あり。

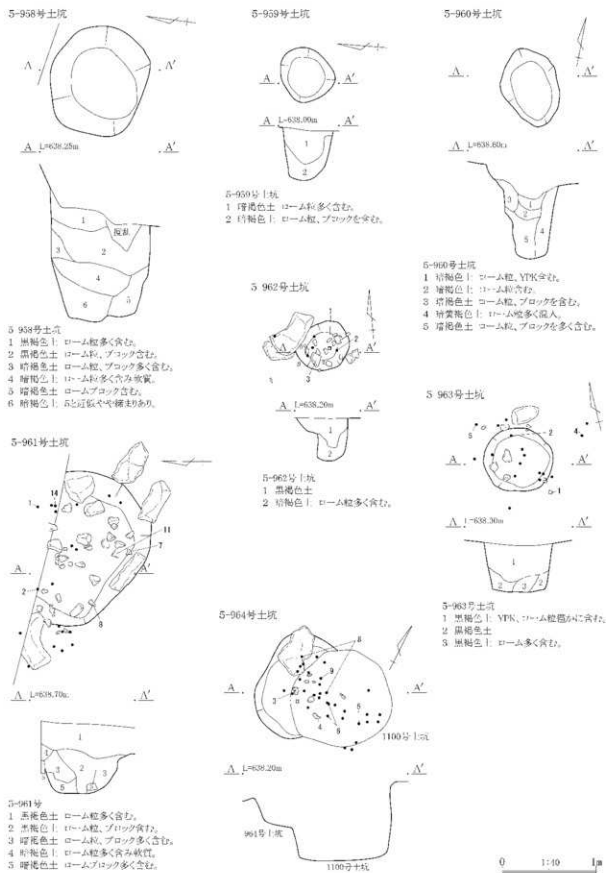
第402図 5-946~951号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第403図 5-952～957号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物



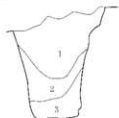
第404図 5-958~964号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5-965号土坑



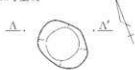
A 1-638.60a



5-965号土坑

- 1 赤褐色土：腐葉土・ローム粒、ブロック、VPR含む。
- 2 に赤い粘褐色土。輪郭不明、ローム粒を含む。
- 3 黒褐色土：腐葉・ロームブロック、VPR含む。

5-968号土坑



A 1-637.65m



5-968号土坑

- 1 オリーブ褐色土：VPR少量、ロームブロック少量。
- 2 黄褐色土：ロームブロック主体層部分なし。
- 3 暗褐色土：ロームブロック多く含む。

5-972号土坑



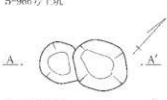
A 1-638.13m



5-972号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土：ロームブロック含む。

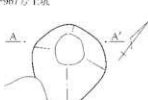
5-966号土坑



A 1-638.00m



5-967号土坑



A 1-638.00m



5-967号土坑

- 1 黒褐色土：ローム粒含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒、黒色土ブロック混入。
- 3 暗褐色土：ロームブロック多く含む。
- 4 暗褐色土：3と同質だが種目あり。

5-969号土坑



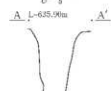
A 1-638.30m



5-970号土坑



A 1-635.96m



5-973号土坑



A 1-638.25m



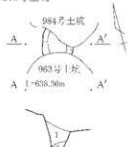
5-973号土坑

- 1 暗褐色土：ローム粒含む。
- 2 暗褐色土：ローム粒、若干のブロック含む。
- 3 暗褐色土：ロームブロック混入。
- 4 暗褐色土：3よりもロームを多く含む。

0 1:10 1m

第405図 5-965～970・972・973号土坑

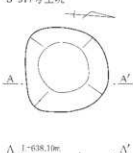
5-975号土坑



5-975号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。

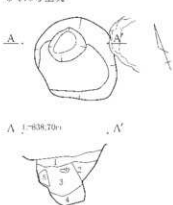
5-977号土坑



5-977号土坑

- 1 暗褐色土 灰化土とYPK混色粒、白色砂を含む。
- 2 暗褐色土 1より砂粒あり、ローム粒、YPK、炭化物を含む。(柱状あり)
- 3 無彩色 中々粘質あり、ロームブロック混色粒、白色砂を含む。
- 4 灰色土 灰化土に 強く粘着、ロームブロック多く含む。
- 5 暗褐色土 粘質あり、YPK、少量のローム粒を含む。
- 6 暗褐色土 灰化土あり、ロームブロックを含む。

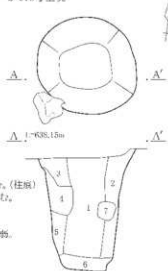
5-978号土坑



5-978号土坑

- 1 暗褐色土 YPK、ローム粒多くを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 灰化土とYPK混色粒を含む。

5-976号土坑



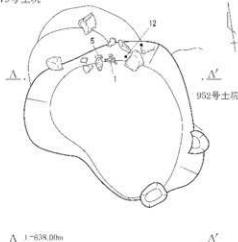
5-976号土坑

- 1 暗褐色土 粘質ありローム粒、ブロック、YPK含む。(柱状)
- 2 灰色土 黄褐色土に 粘質あり、ローム粒、YPK含む。
- 3 暗褐色土 1より粘質で混色あり。
- 4 暗褐色土 1より粘質で混色あり。
- 5 灰色土 粘質あり、ローム粒のYPK主体上で粘着。
- 6 暗褐色土 粘質あり、ロームブロック、YPK含む。
- 7 黄褐色土 YPK混色のロームブロック。

5-977号土坑

- 1 暗褐色土 灰化土とYPK混色粒、白色砂を含む。
- 2 暗褐色土 1より砂粒あり、ローム粒、YPK、炭化物を含む。(柱状あり)
- 3 無彩色 中々粘質あり、ロームブロック混色粒、白色砂を含む。
- 4 灰色土 灰化土に 強く粘着、ロームブロック多く含む。
- 5 暗褐色土 粘質あり、YPK、少量のローム粒を含む。
- 6 暗褐色土 灰化土あり、ロームブロックを含む。

5-979号土坑



5-979号土坑

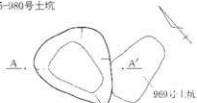
- 1 暗褐色土 YPK、ローム粒多くを含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土 灰化土とYPK混色粒を含む。

第406図 5-975~979号土坑

0 1:40 1m

第3章 検出された遺構と遺物

5-980号土坑



A 1-638.45m A'



5-980号土坑

- 1 暗褐色土 コーラム粒含む。
- 2 暗褐色土 コーラム粒、ブロック含む。
- 3 暗褐色土 コーラム粒が多く含む。
- 4 暗褐色土 3と近似するがコーラムブロック多い。

5-981号土坑



A 1-638.35m A' B 1-638.50m B'



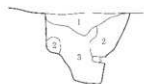
5-981号土坑

- 1 暗褐色土 コーラム粒多く含む。
- 2 オリーブ褐色土 YPK、石・ム和少量含む。
- 3 暗褐色土 コーラムブロック含む。
- 4 暗褐色土 コーラムブロックの混入。
- 5 黄褐色土 汚れた感じのローラム主体。

5-986号土坑



A 1-635.90m A'



5-986号土坑

- 1 暗褐色土 YPK、ローラム粒含む。
- 2 暗褐色土 石・ム和、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 コーラムブロック多く含む。

5-985号土坑



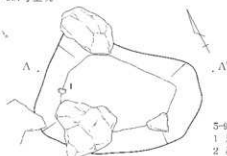
A 1-637.70m A'



5-985号土坑

- 1 暗褐色土 YPK、ローラム粒含む。
- 2 暗褐色土 コーラム粒、小ブロック含む。
- 3 暗褐色土 2と近似するがややローラムブロック多い。
- 4 黄褐色土 コーラムブロック多く含む状態。

5-987号土坑



A 1-638.50m A'



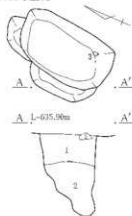
5-987号土坑(原測尺)

- 1 黄褐色土 コーラム粒含む。
- 2 黄褐色土 コーラム粒下小ブロック含む。
- 3 黄褐色土 コーラムブロック含むが味あり。

0 1:40 1m

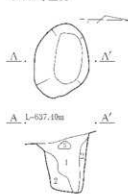
第407図 5-980・984～987号土坑

5-988号土坑



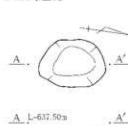
- A L-635.90m A'
- 5-988号土坑
1 黒褐色土 ローム粒混入。
2 オリーブ褐色土 少量のYPR, ローム粒含む。

5-989号土坑



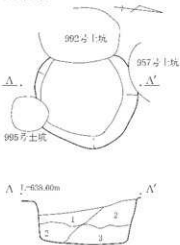
- A L-637.10m A'
- 5-989号土坑
1 黒褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。

5-990号土坑



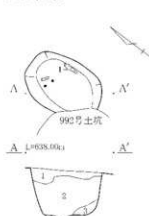
- A L-637.50m A'
- 5-990号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 黒褐色土 ロームブロック含む。

5-991号土坑



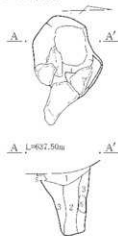
- A L-638.60m A'
- 5-991号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。
3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

5-992号土坑



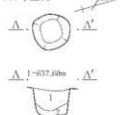
- A L-638.00m A'
- 5-992号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 YPR, ローム粒少量含む。
3 黒褐色土 若干のロームブロック含む。

5-993号土坑



- A L-637.50m A'
- 5-993号土坑
1 オリーブ褐色土 YPR, ローム粒少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。(柱状)
3 黒褐色土 ローム粒含むや型味を帯ず。

5-995号土坑

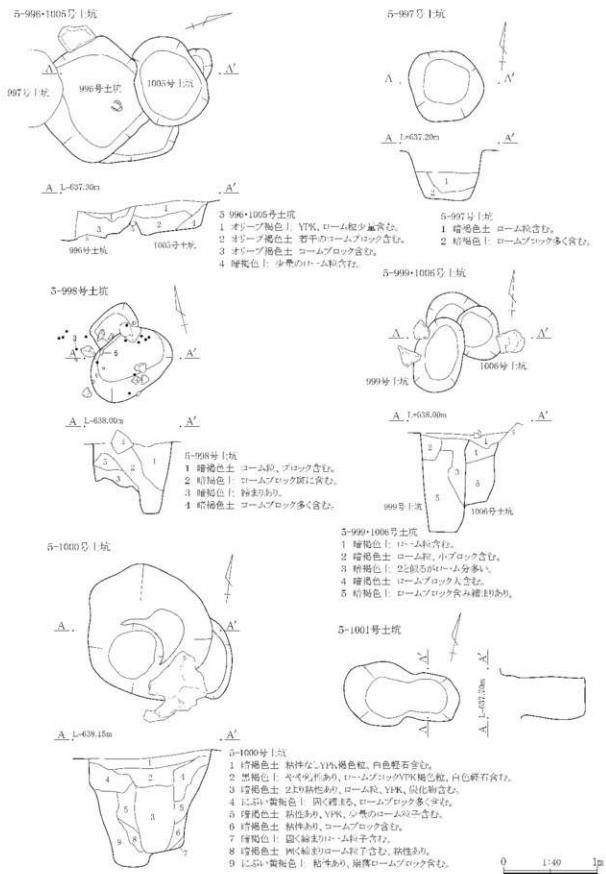


- A L-637.60m A'
- 5-995号土坑
1 暗褐色土 ローム粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒、ブロック含む。

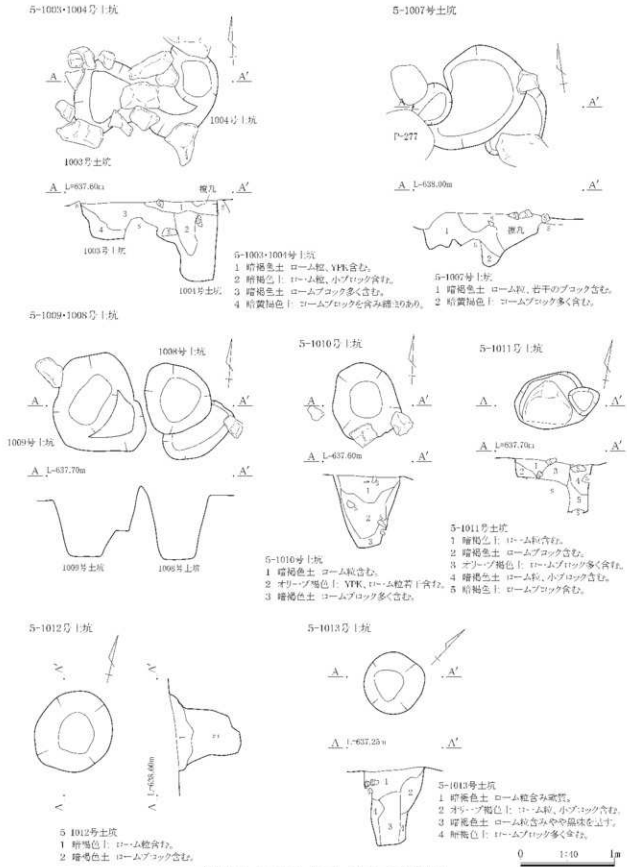
第408図 5-988~993・995号土坑

0 1:10 1m

第3章 検出された遺構と遺物



第409図 5-996~1001・1005・1006号土坑



第410図 5-1003・1004・1007～1013号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

5-1014号土坑



A. L=637.83ca



5-1014号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、若干のブリック含む。
2 暗褐色土 ロームブロック含む。
3 褐色土 ロームブリックのみを含む土調。

5-1015号土坑



1016号土坑

A. L=638.00ca



5-1015号土坑

- 1 暗褐色土 YPK、若干のローム粒含む。

5-1017号土坑



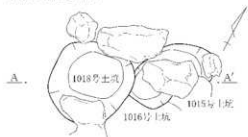
A. L=638.75ca



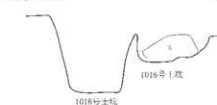
5-1017号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
2 暗褐色土 ロームブロック土体とする。

5-1016・1018号土坑



A. L=638.20ca



5-1020号土坑



A. L=638.30ca



5-1020号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒のみを含む。
2 暗褐色土 ローム粒、小ブロック含む。

5-1021号土坑



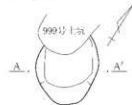
A. L=637.20ca



5-1021号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒を含む。
2 暗褐色土 ローム粒およびブロックを含む。

5-1022号土坑



A. L=638.00ca

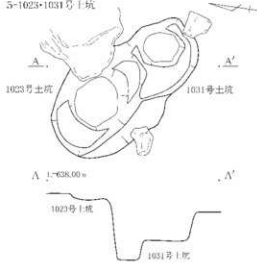


0 1:40 1m

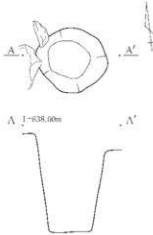
第411図 5-1014～1022号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

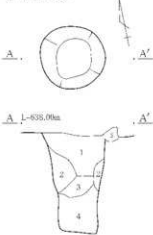
5-1023・1031号土坑



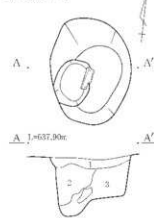
5-1021号土坑



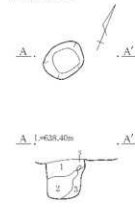
5-1025号土坑



5-1026号土坑



5-1027号土坑



5-1025号土坑

- 1 暗褐色土 コーム粒を含む。
- 2 暗褐色土 コーム小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 コームブロック多く含む細粒を混じり。
- 4 暗褐色土 コームブロック多く含む細粒あり。

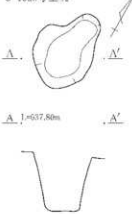
5-1026号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 コーム粒多く含む。
- 3 暗褐色土 コーム粒ブロックを含む。

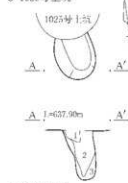
5-1027号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 コーム粒多く含む。

5-1028号土坑



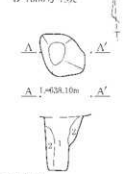
5-1029号土坑



5-1029号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土 コーム小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 コーム多く含む。

5-1030号土坑



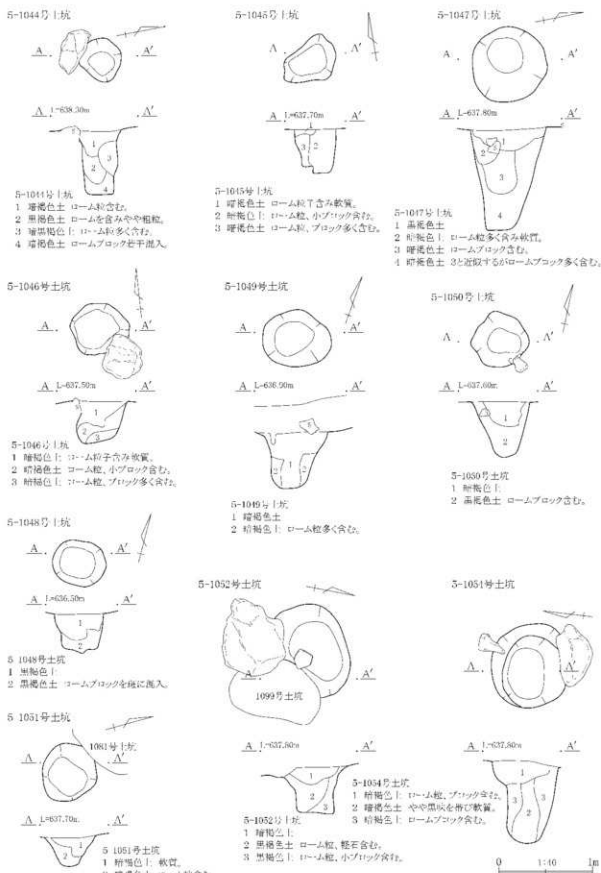
5-1030号土坑

- 1 暗褐色土 コーム粒多く含む。
- 2 暗褐色土 コームブロックを含む。

0 1:40 1m

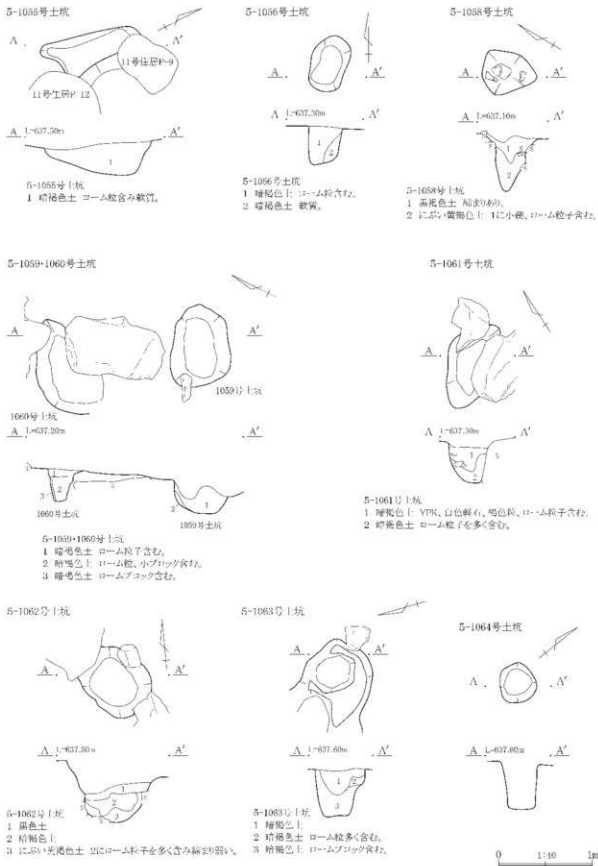
第412図 5-1023～1031号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

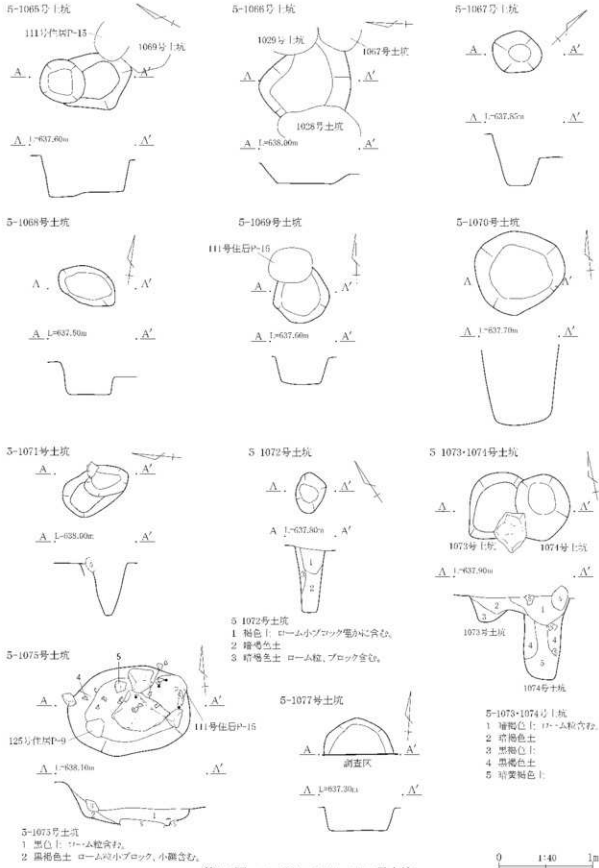


第414図 5-1044～1052・1054号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

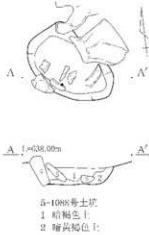


第415図 5-1055・1056・1058~1064号土坑

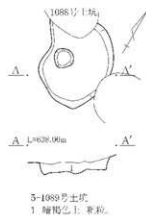


第416図 5-1065～1075・1077号土坑

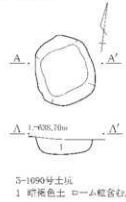
5-1088号土坑



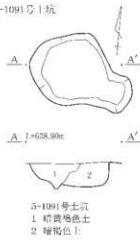
5-1089号土坑



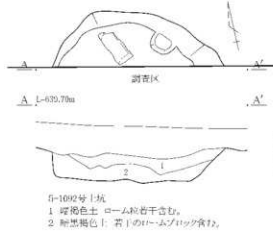
5-1090号土坑



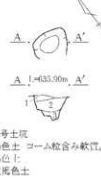
5-1091号土坑



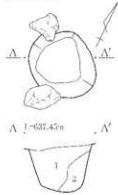
5-1092号土坑



5-1093号土坑



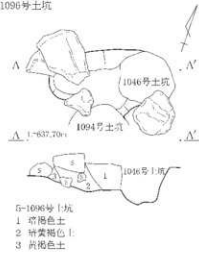
5-1094号土坑



5-1095号土坑



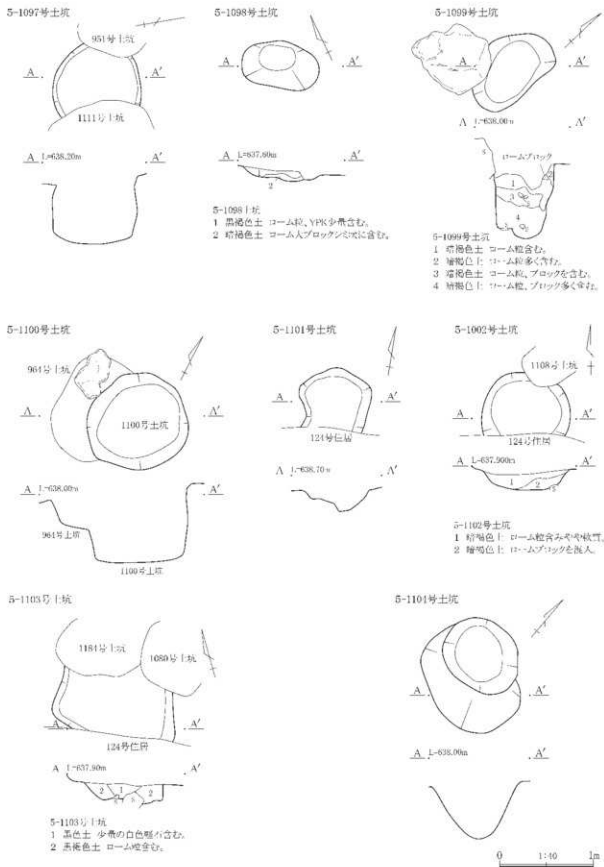
5-1096号土坑



0 1:40 1m

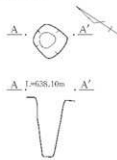
第418図 5-1088～1096号土坑

第3章 検出された遺構と遺物

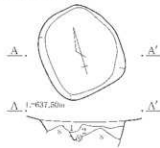


第419図 5-1097～1104号土坑

5-1105号土坑

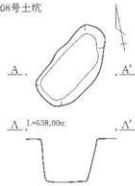


5-1107号土坑

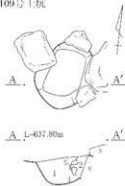


5-1107号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 2 暗褐色土 やや付れたローム含む。

5-1108号土坑



5-1109号土坑

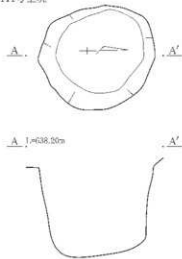


5-1109号土坑
 1 暗褐色土 礫を含む。
 2 暗褐色土 YPR, 入り礫含む。

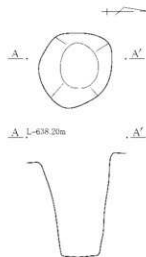
5-1110号土坑



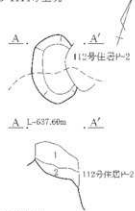
5-1111号土坑



5-1112号土坑



5-1114号土坑

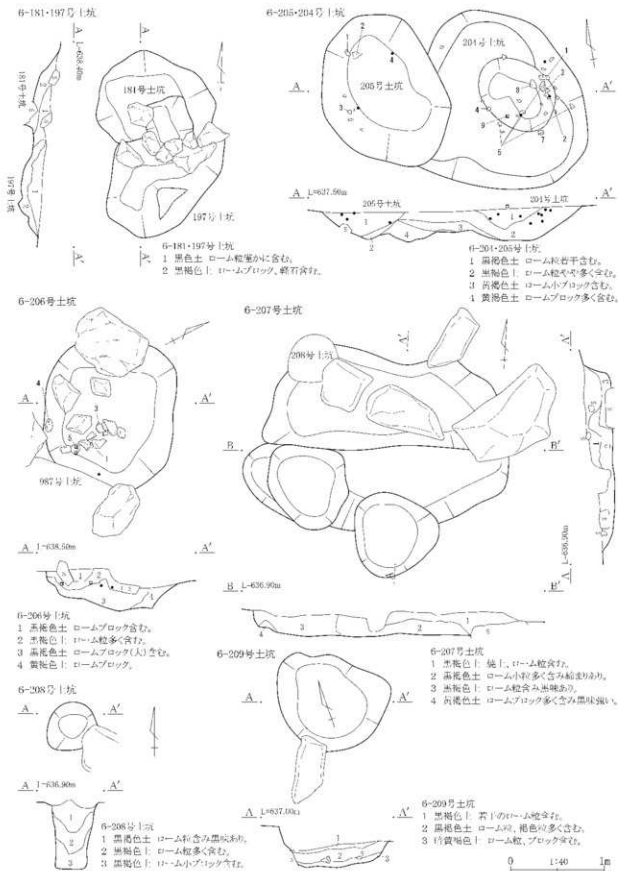


5-1114号土坑
 1 暗褐色土 ローム粒主体で結実あり。
 2 暗褐色土 黒色コンクリート含む。

第420図 5-1105・1107～1112・1114号土坑

0 1:40 3m

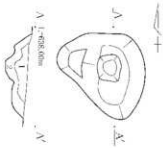
第3章 検出された遺構と遺物



第421図 6-181・197・204～209号土坑

第3節 縄文時代の遺構と遺物

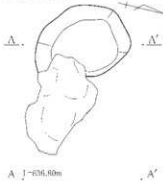
6-210号土坑



6-210号土坑

- 1 黒色土 ローム粒極小を含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック、砂を含む。

6-213号土坑

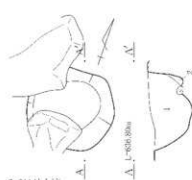


A 1=636.50mm

6-213号土坑

- 1 黒色土
- 2 灰褐色土 ローム粒子、ブロック含む。

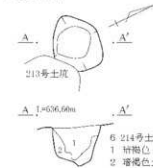
6-211号土坑



6-211号土坑

- 1 黒褐色土 砂多量あり、YPM、褐色粒含む。
- 2 暗褐色土 細粒で粘りあり、崩落ローム含む。

6-214号土坑

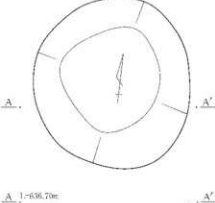


A 1=636.50mm

6-214号土坑

- 1 暗褐色土 硬直り強く、ローム粒子若干含む。
- 2 暗褐色土 粘り強く、ローム粒子多く含む。

6-212号土坑

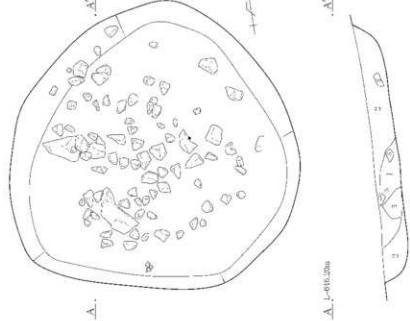


A 1=636.70mm

6-215号土坑

- 1 黒色土
- 2 暗褐色土 YPM、白色粒6、褐色粒、小礫、炭粒を含む。
- 3 暗褐色土 2にローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土 1と近似的、粘りあり。
- 5 付着褐色土 良く粘る。

15-1号土坑



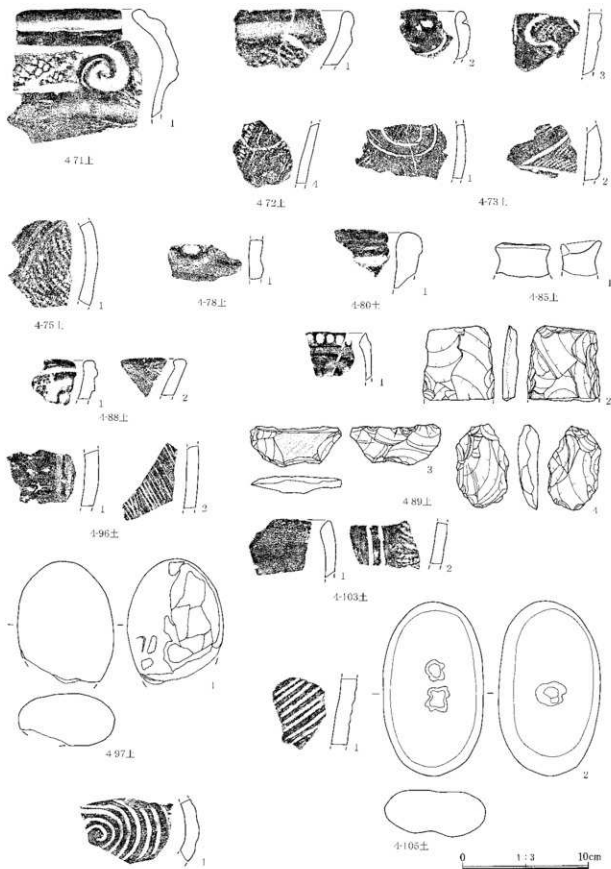
15-1号土坑

- 1 黒色土 YPM、白色粒極小、炭粒(少)含む。
- 2 黒色土 褐色土をミイイ状に含むみや粘まる。

0 1:40 1m

第422図 6-210~214・15-1号土坑

第3章 検出された遺構と遺物



第423図 土坑出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



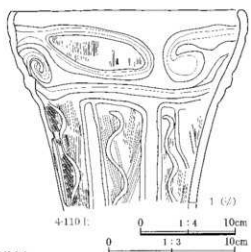
4-108上



4-108L

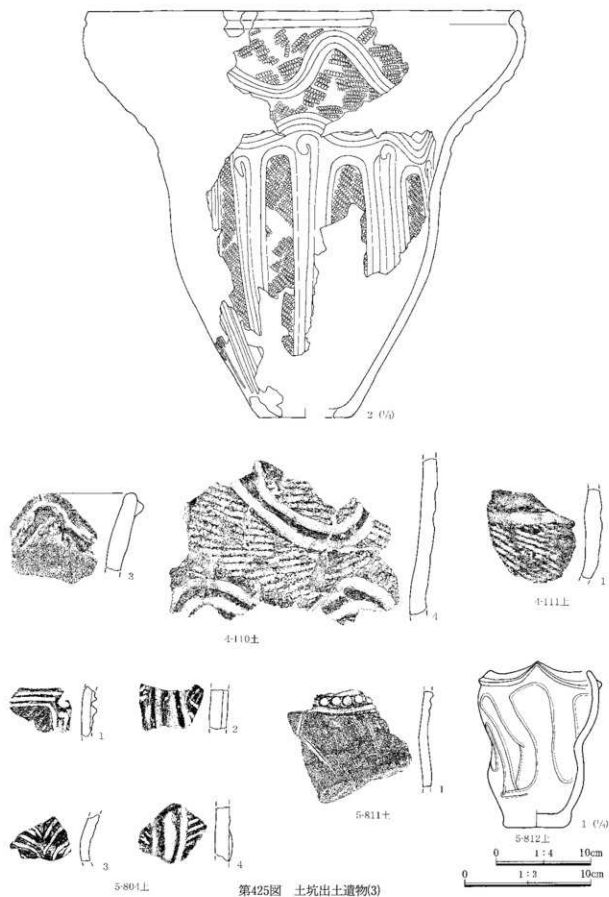


4-109上

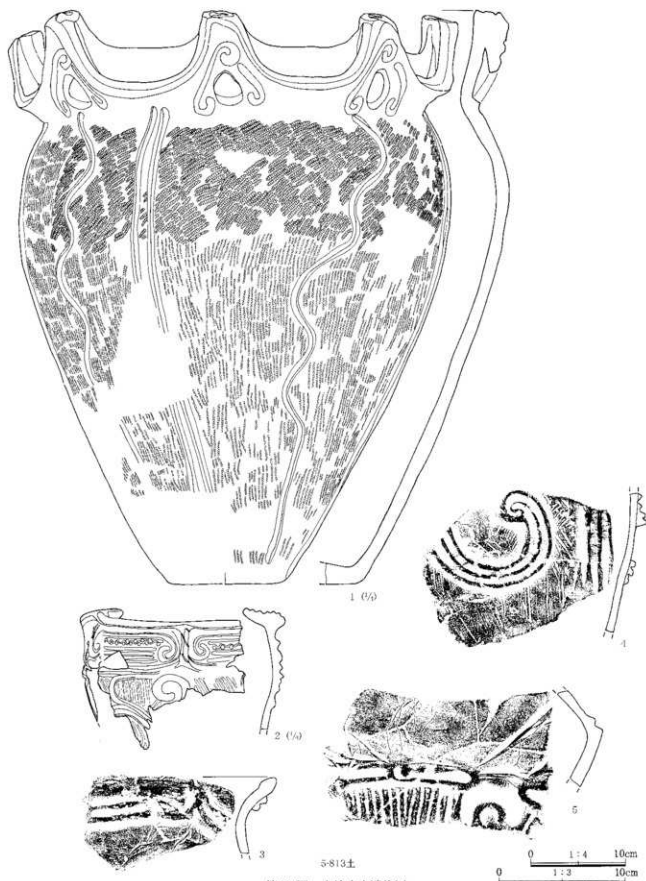


4-110上

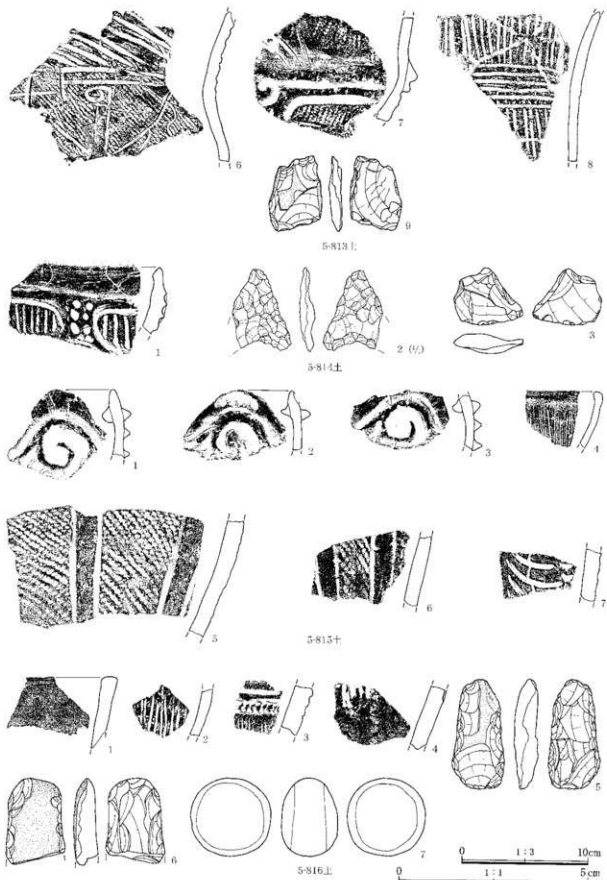
第424図 土坑出土遺物(2)



第425図 土坑出土遺物(3)

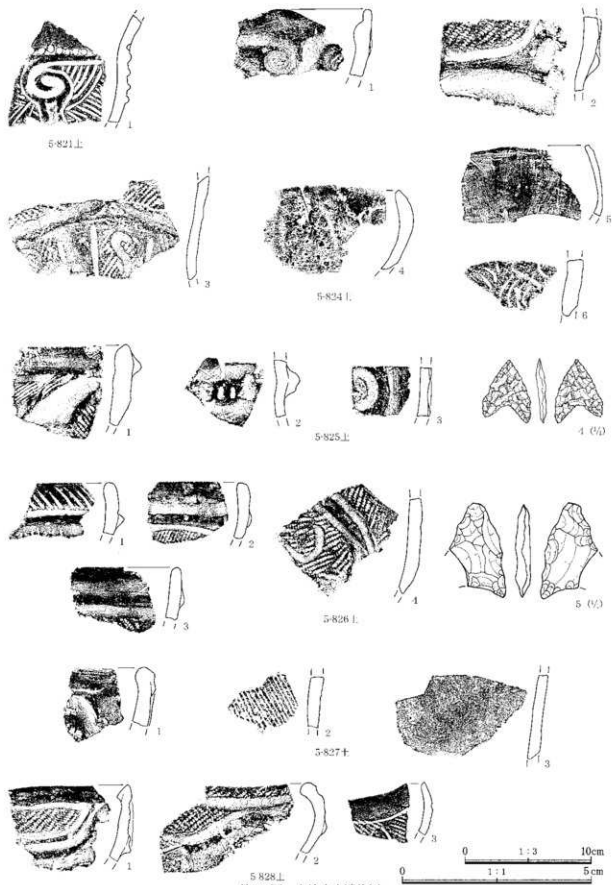


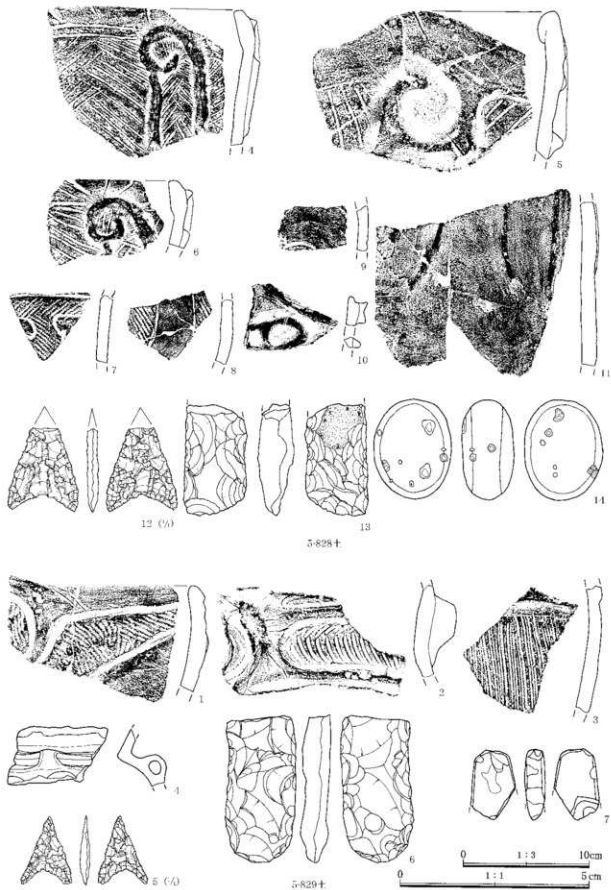
第426図 土坑出土遺物(4)



第427図 土坑出土遺物(5)

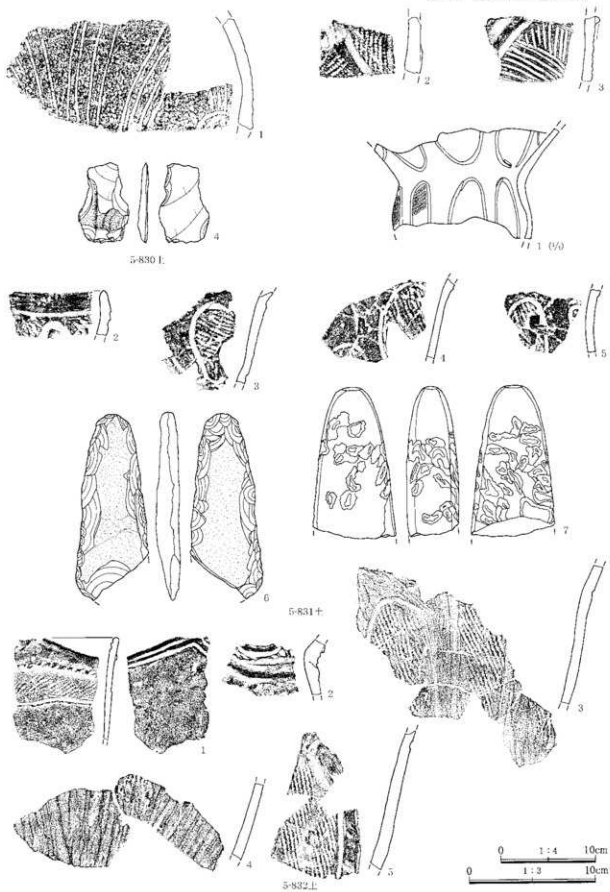
第3節 縄文時代の遺構と遺物



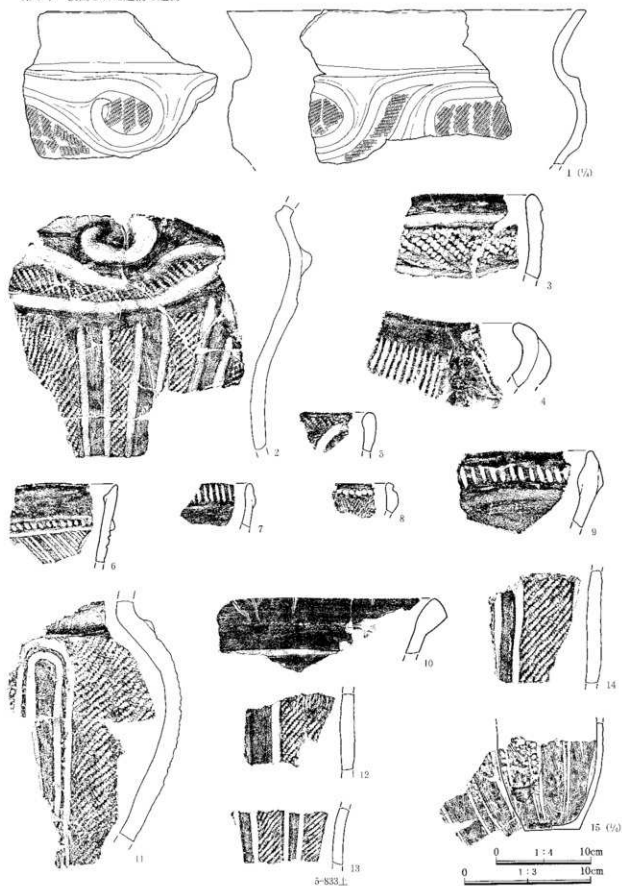


第429図 土坑出土遺物(7)

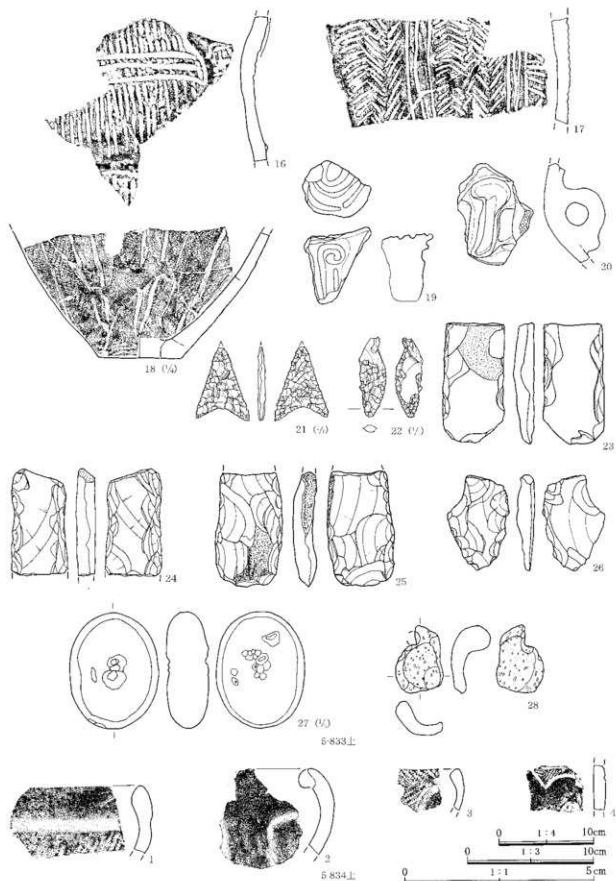
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第430図 土坑出土遺物(8)

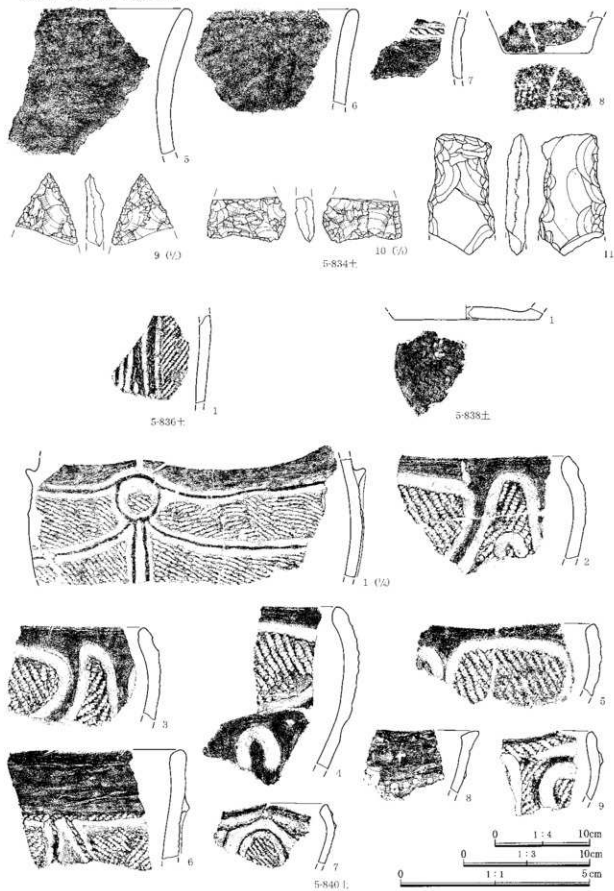


第431図 土坑出土遺物(9)



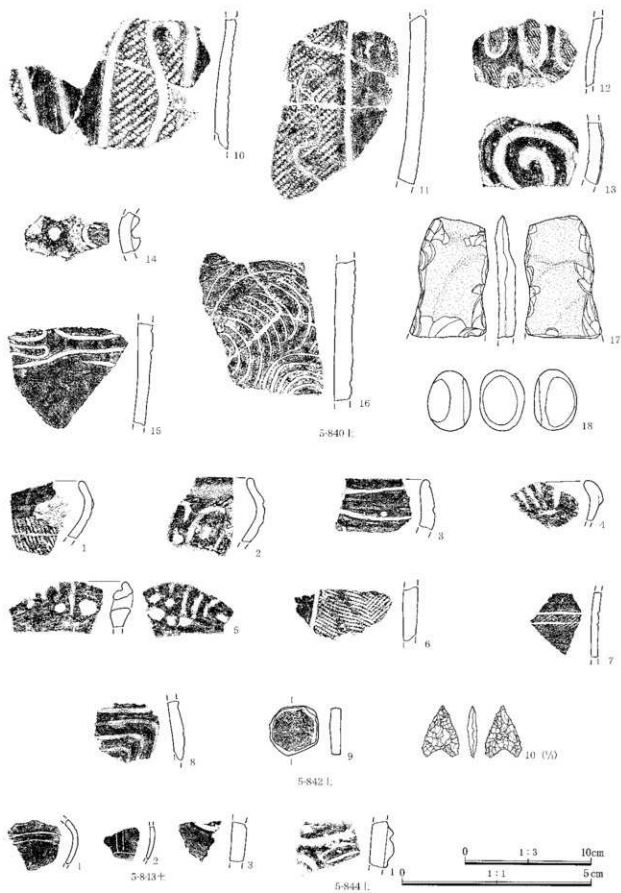
第432図 土坑出土遺物(1)

第3章 検出された遺構と遺物



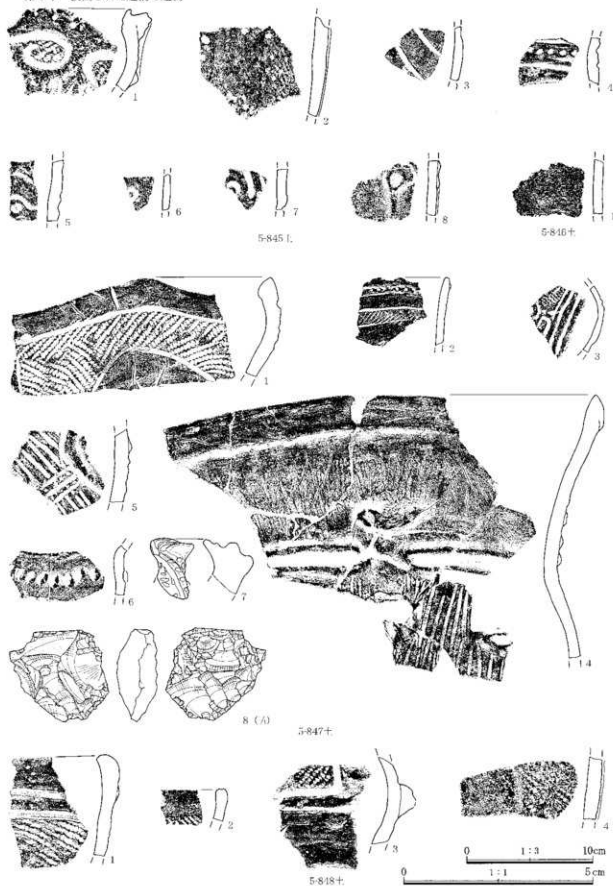
第433図 土坑出土遺物00

第3節 縄文時代の遺構と遺物



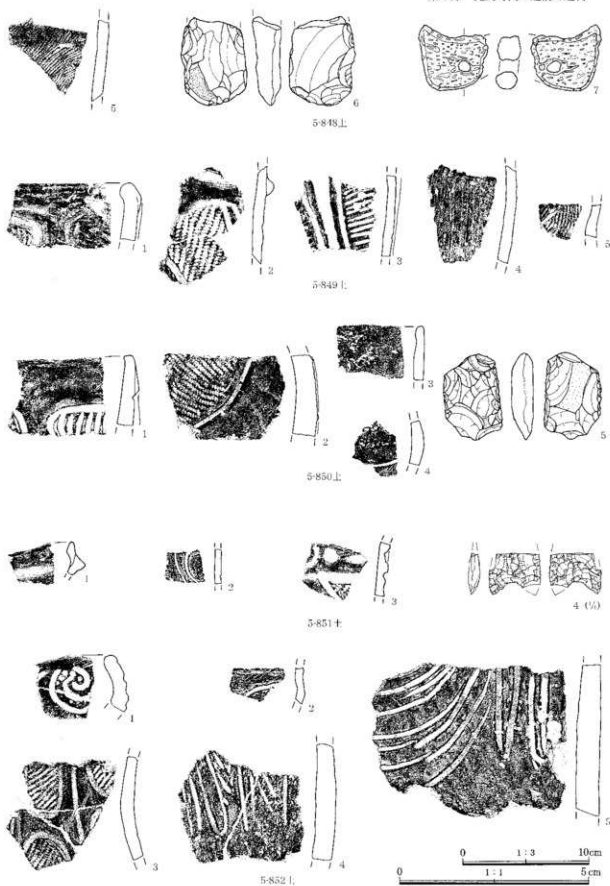
第434図 土坑出土遺物(2)

第3章 検出された遺構と遺物



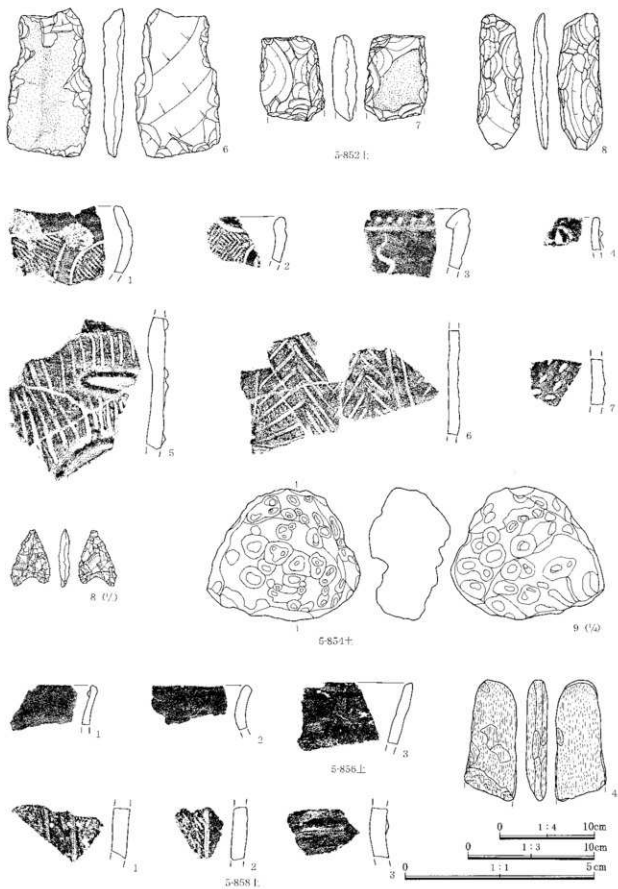
第435図 土坑出土遺物(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



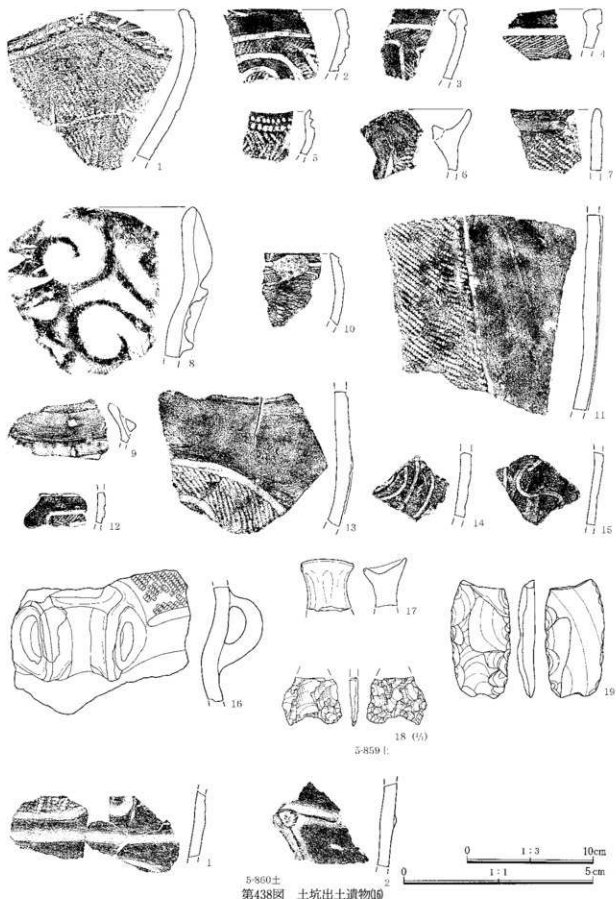
第436図 土坑出土遺物00

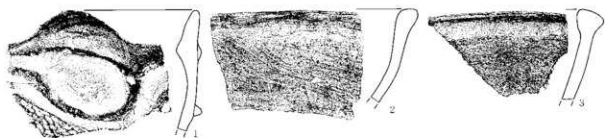
第3章 検出された遺構と遺物



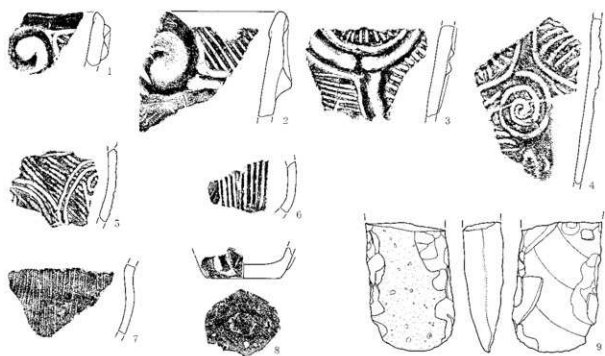
第437図 土坑出土遺物図

第3節 縄文時代の遺構と遺物

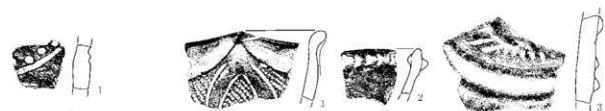




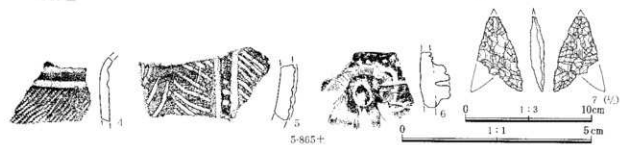
5-861上



5-862上



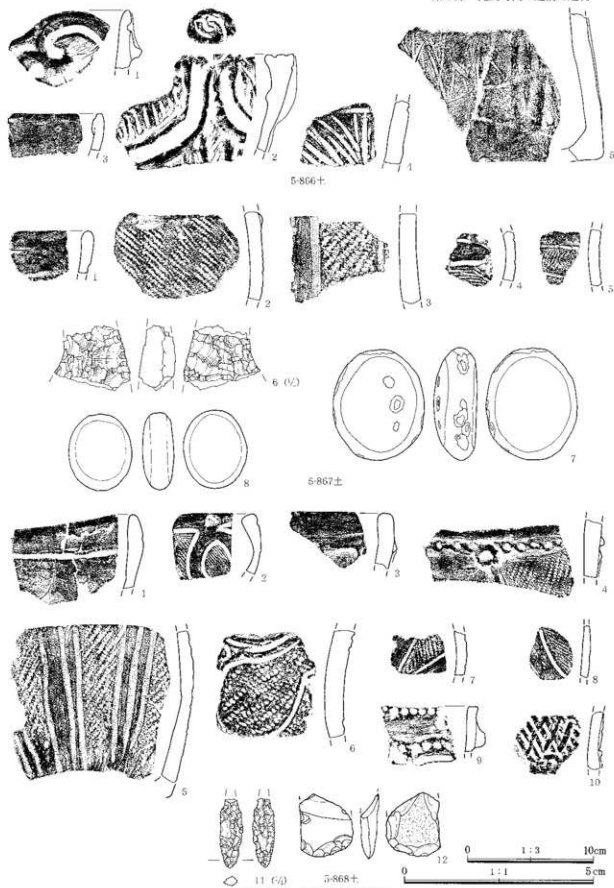
5-864上



5-865上

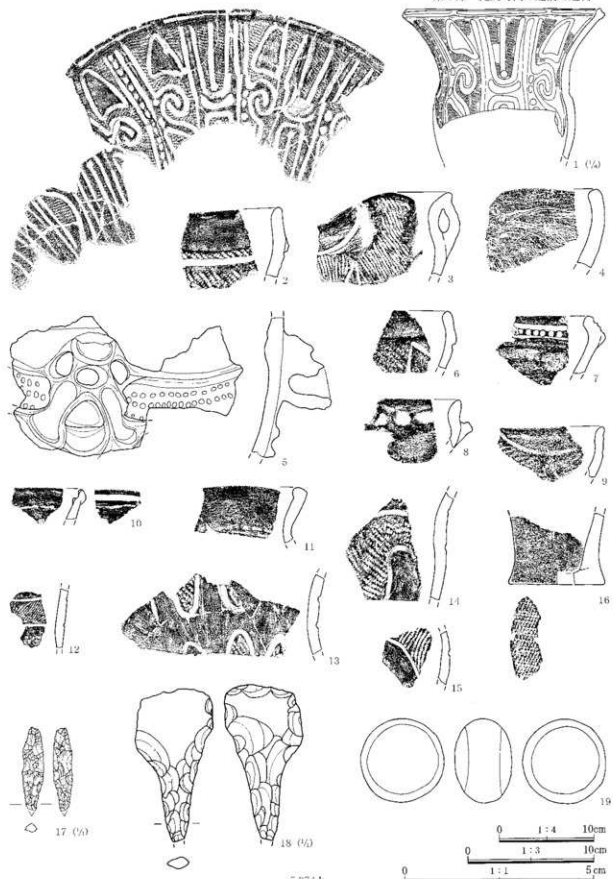
第439図 土坑出土遺物切

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第440図 土坑出土遺物(8)

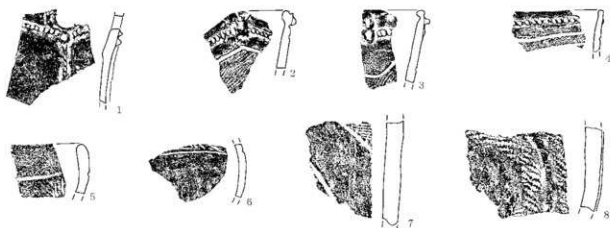
第3節 縄文時代の遺構と遺物



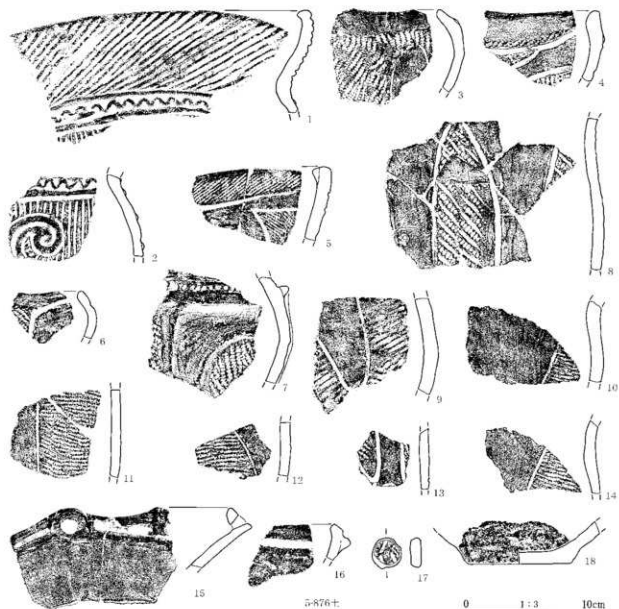
5-8741.

第442図 土坑出土遺物(四)

第3章 検出された遺構と遺物



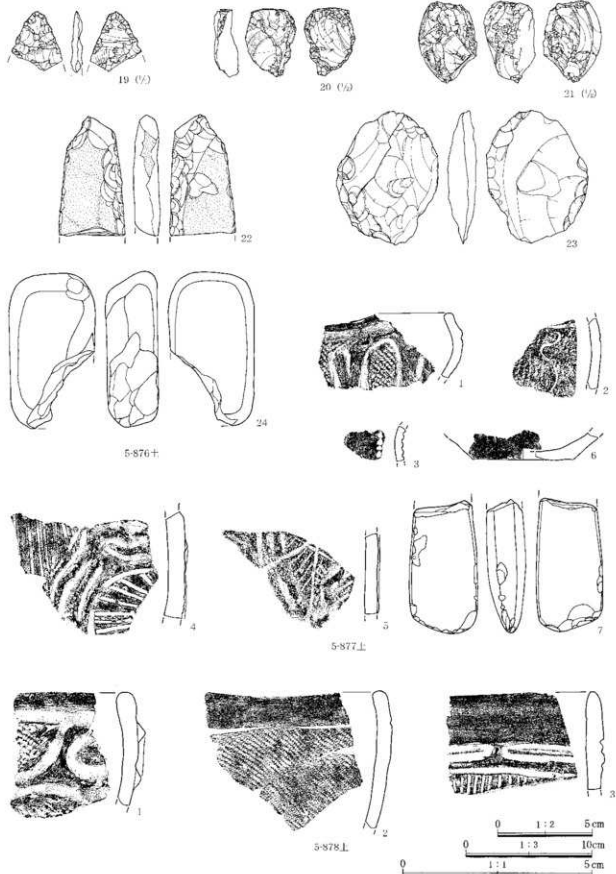
5-875.L



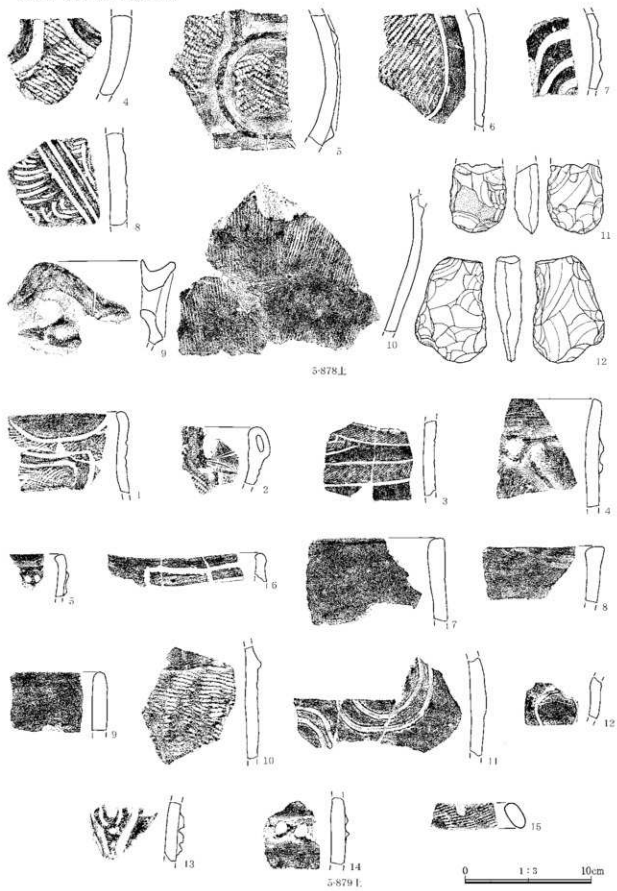
5-876+

第443図 土坑出土遺物20

第3節 縄文時代の遺構と遺物

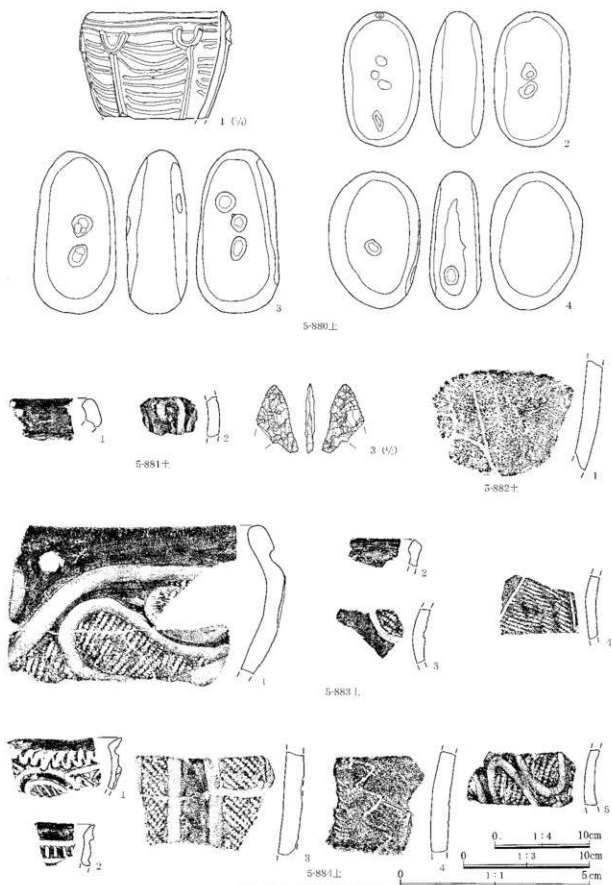


第444図 土坑出土遺物(2)

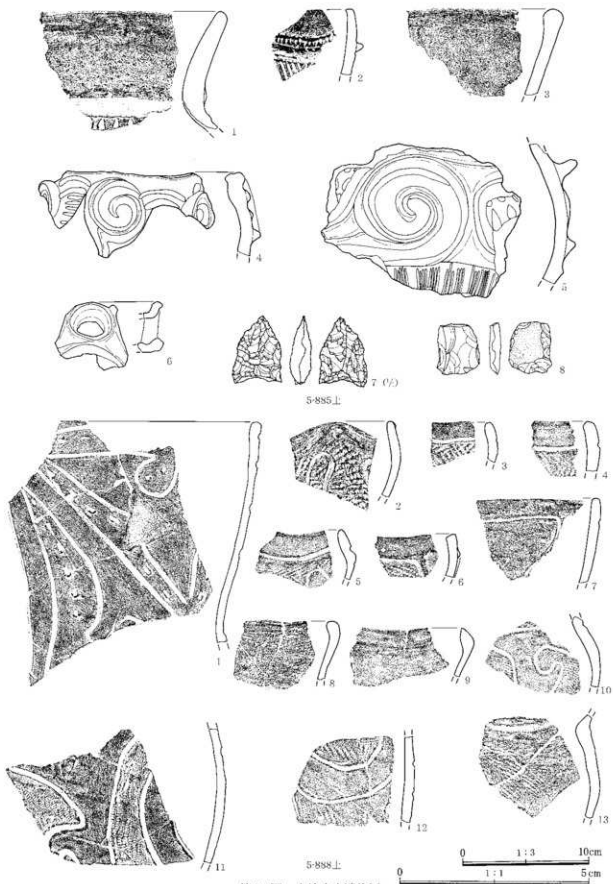


第445図 土坑出土遺物図

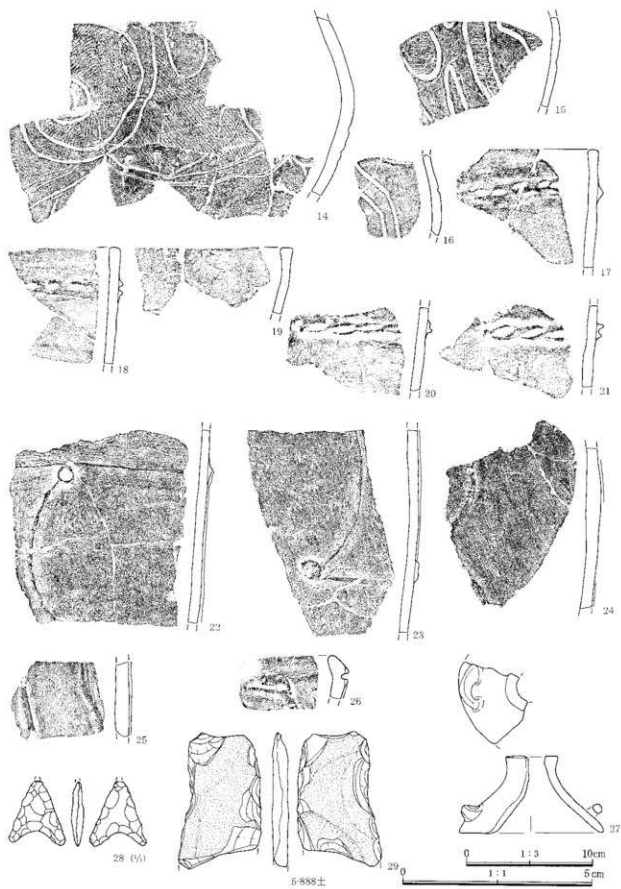
第3節 縄文時代の遺構と遺物



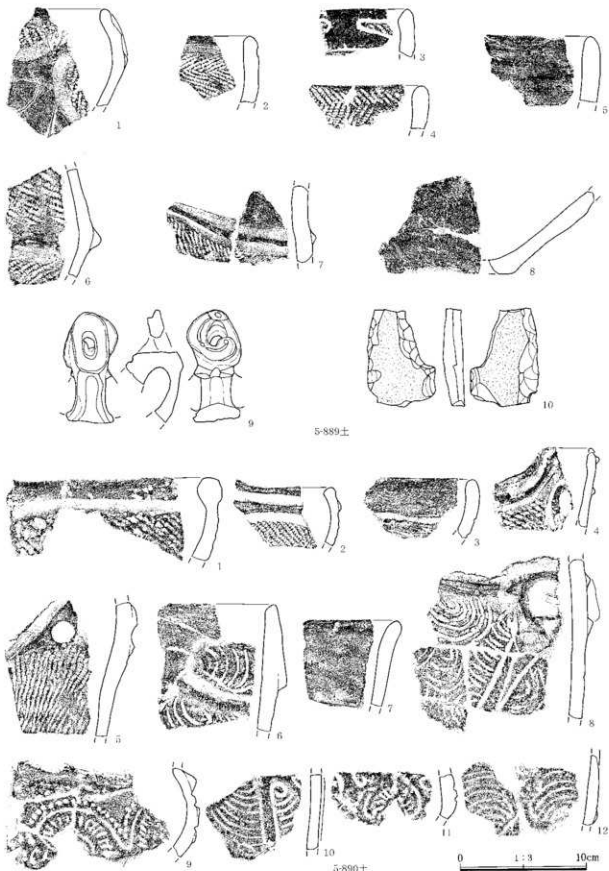
第446図 土坑出土遺物20



第447図 土坑出土遺物図

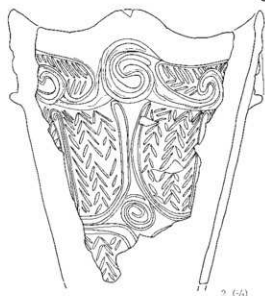
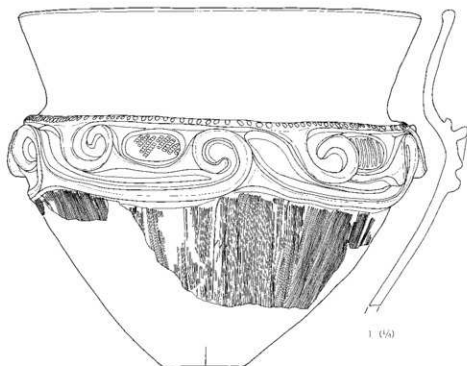
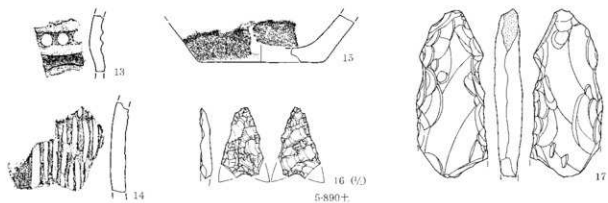


第448図 土坑出土遺物図



第449図 土坑出土遺物切

第3節 縄文時代の遺構と遺物



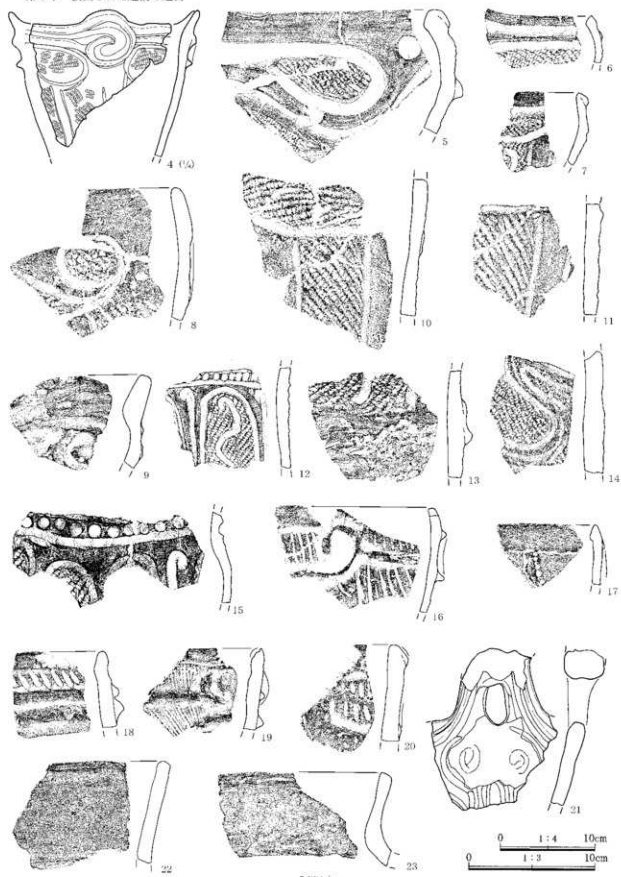
2 (1/2)

5-891.L

第450図 土坑出土遺物(2)

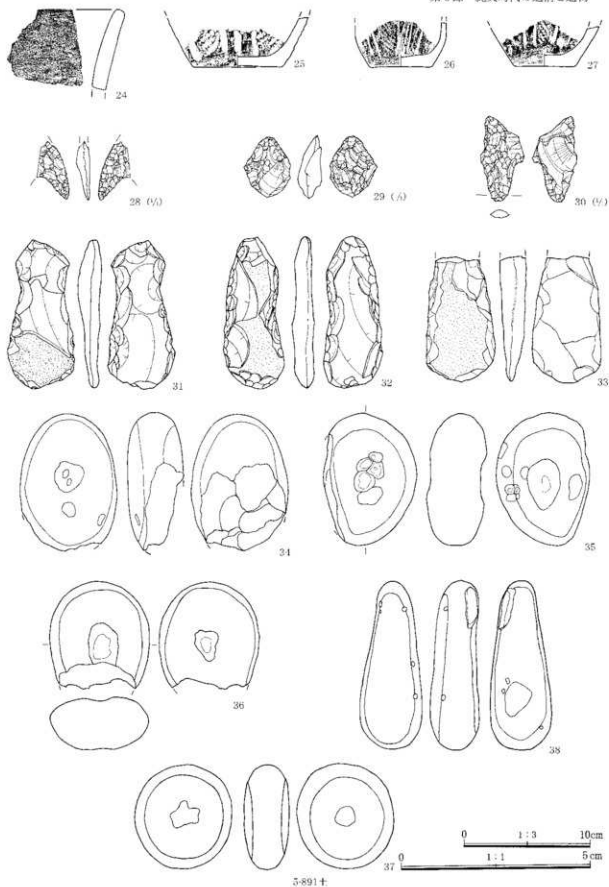


第3章 検出された遺構と遺物



第451図 土坑出土遺物(2)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

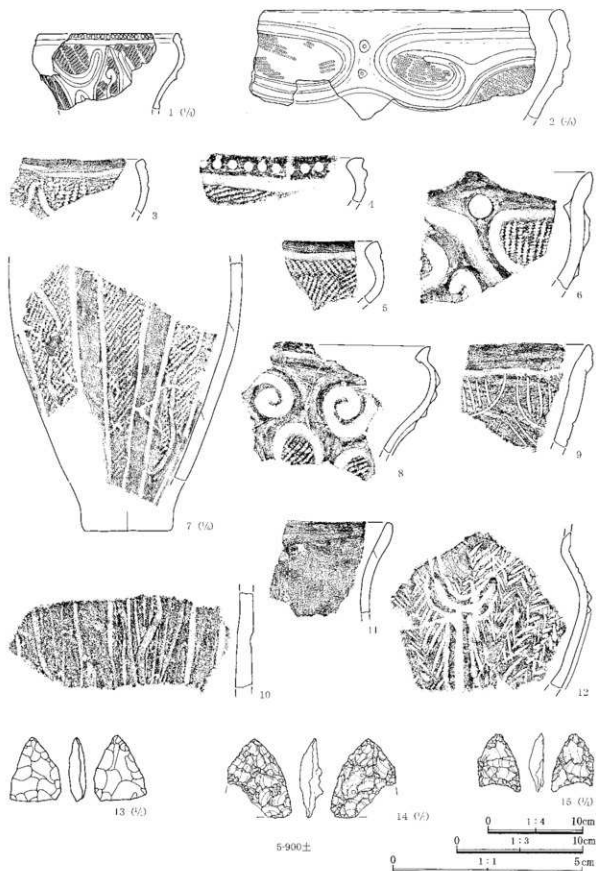


第452図 土坑出土遺物(7)

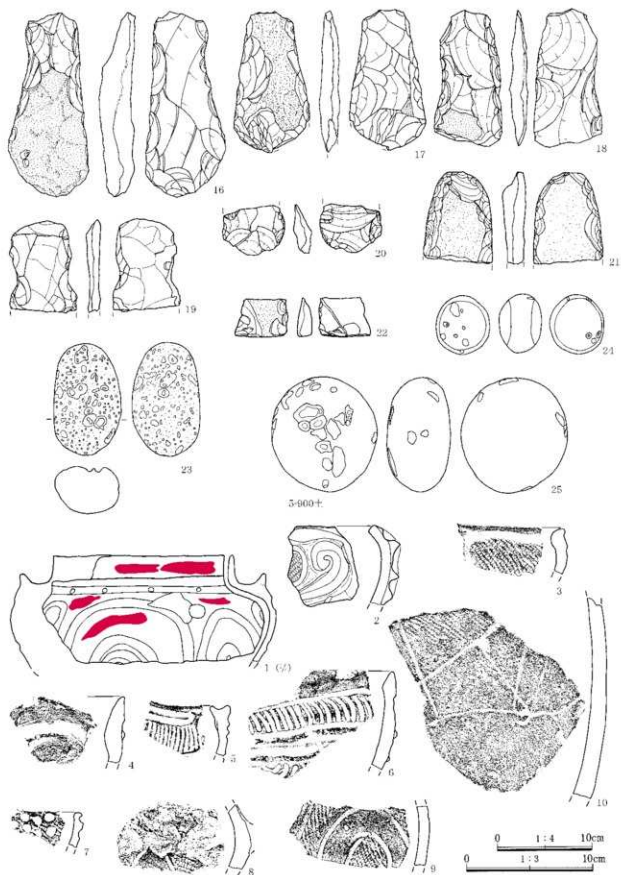
第3章 検出された遺構と遺物



第453図 土坑出土遺物⑩

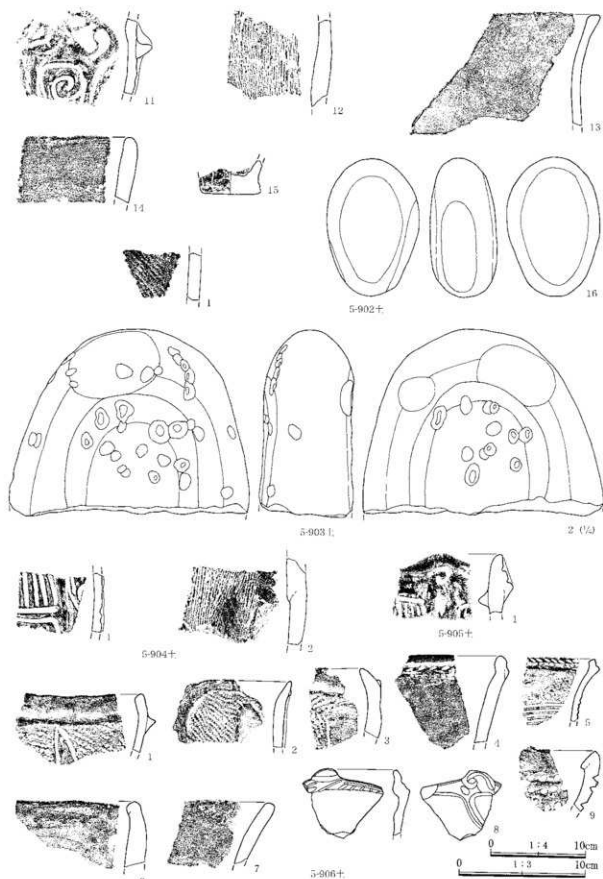


第454図 土坑出土遺物(2)

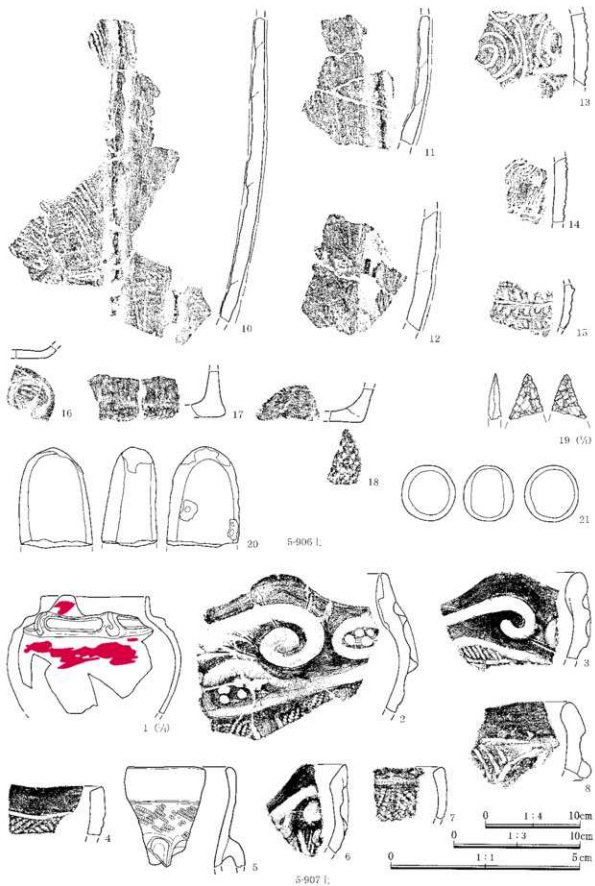


第455図 土坑出土遺物(3)

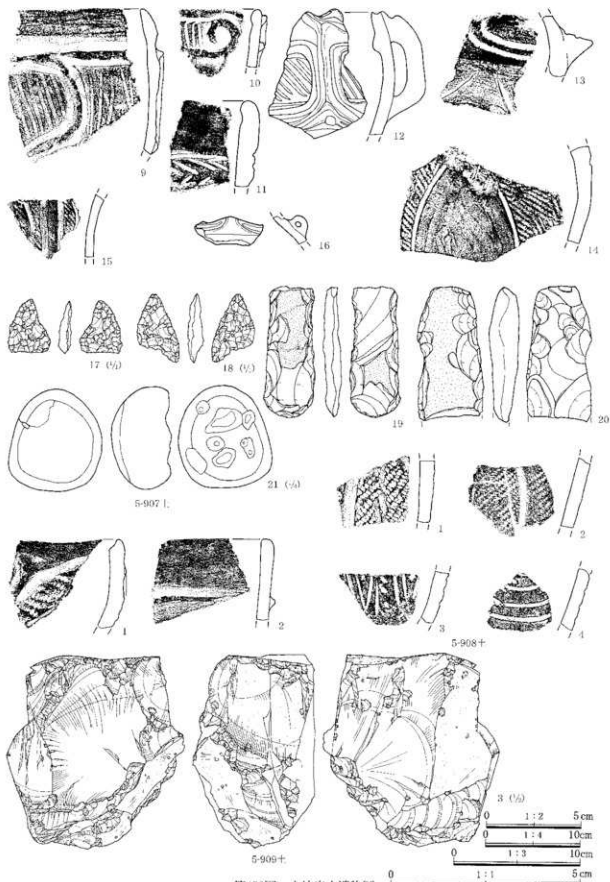
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第456図 土坑出土遺物(9)

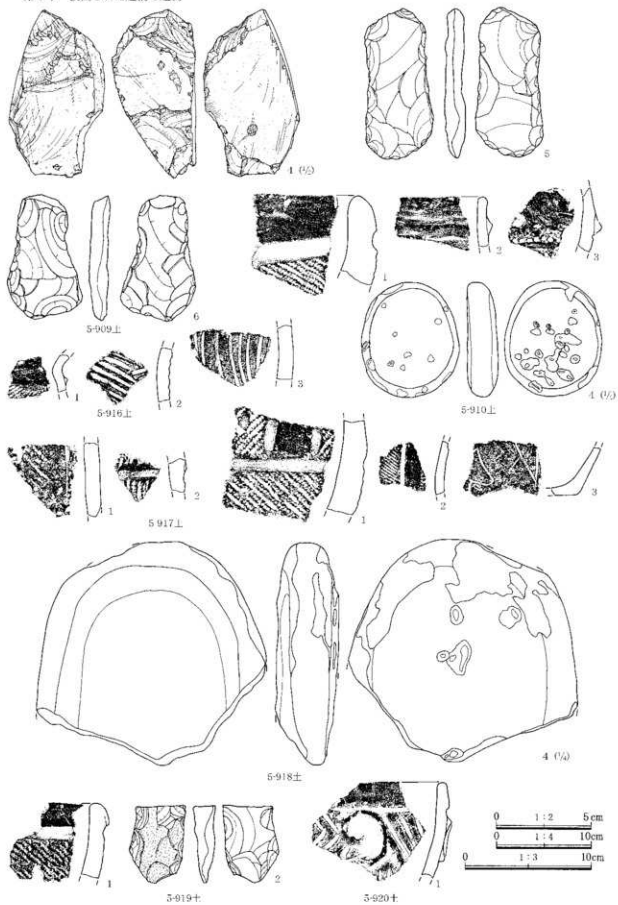


第457図 土坑出土遺物(5)



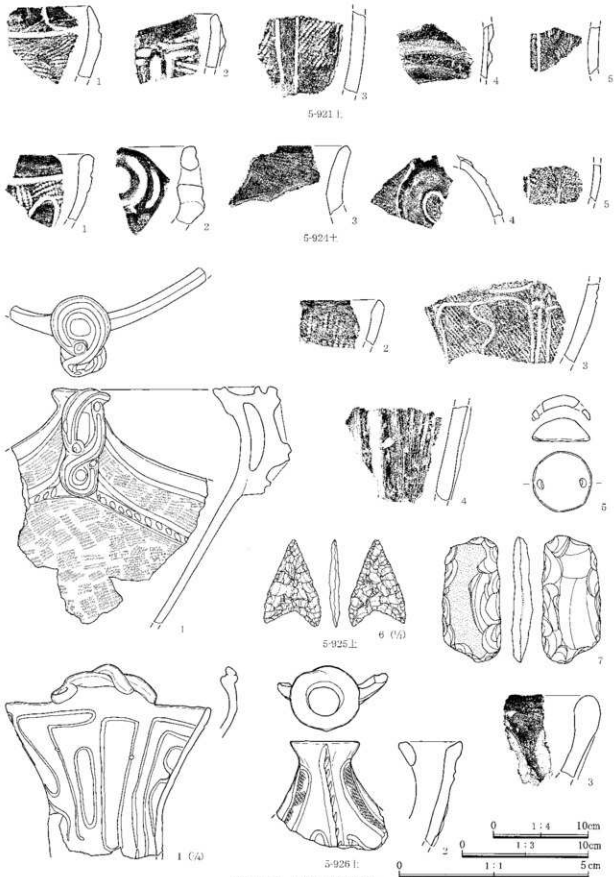
第458図 土坑出土遺物(6)

第3章 検出された遺構と遺物

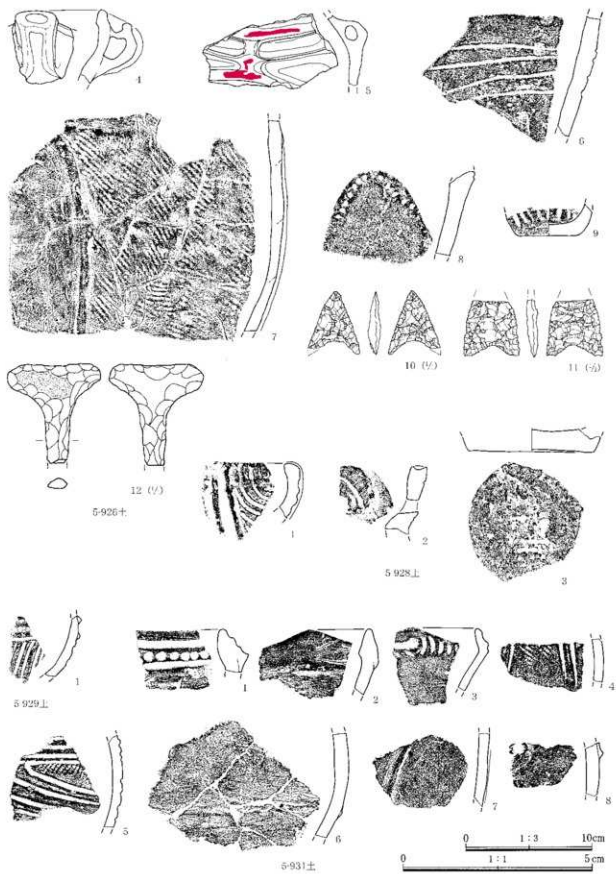


第459図 土坑出土遺物類

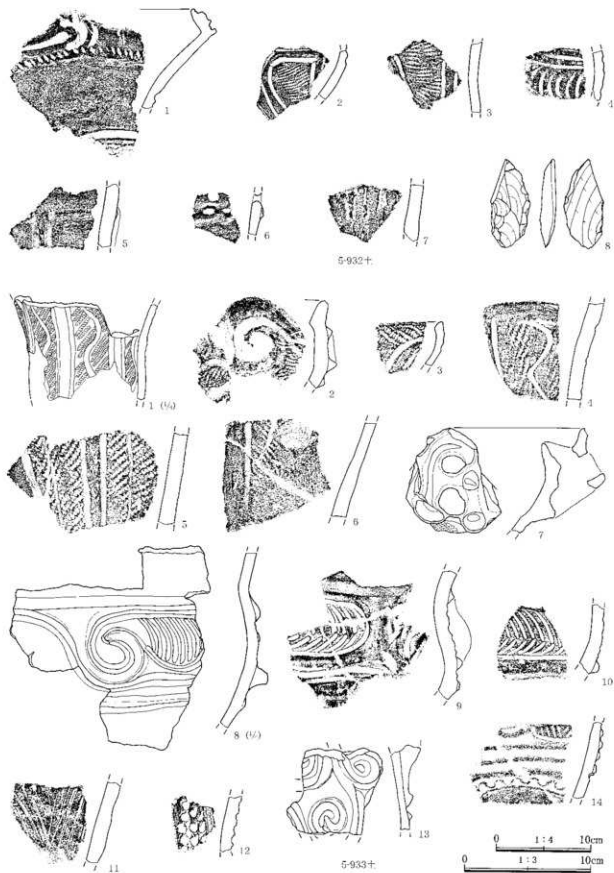
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第460図 土坑出土遺物図

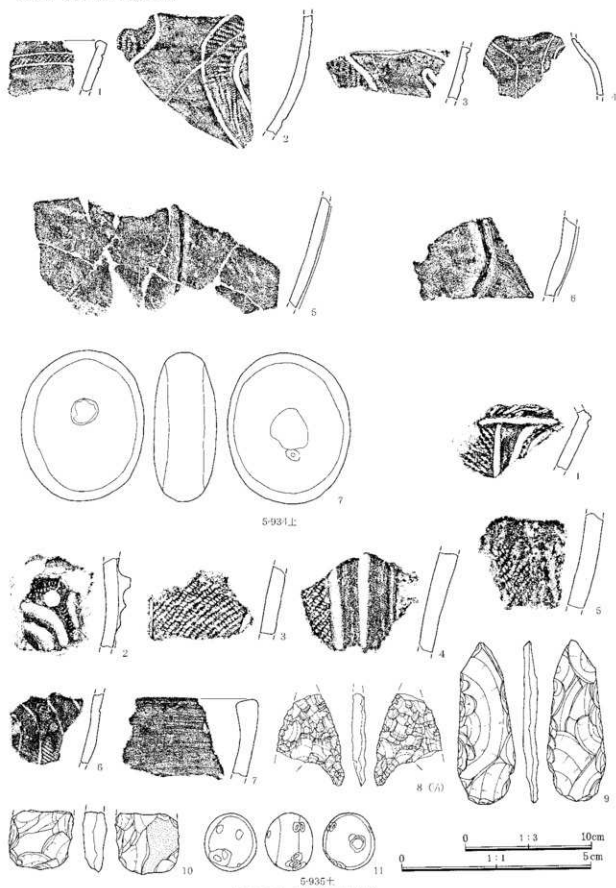


第461図 土坑出土遺物(3)

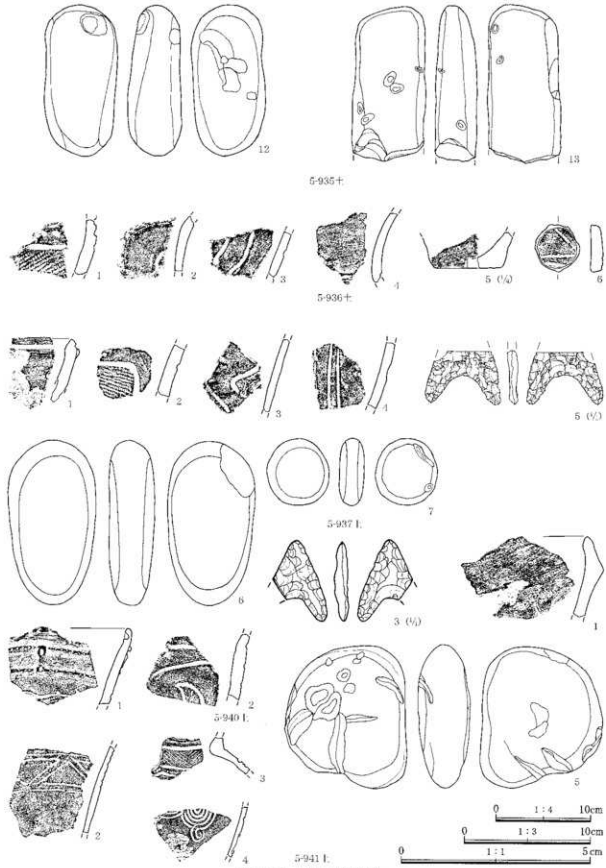


第462図 土坑出土遺物(續)

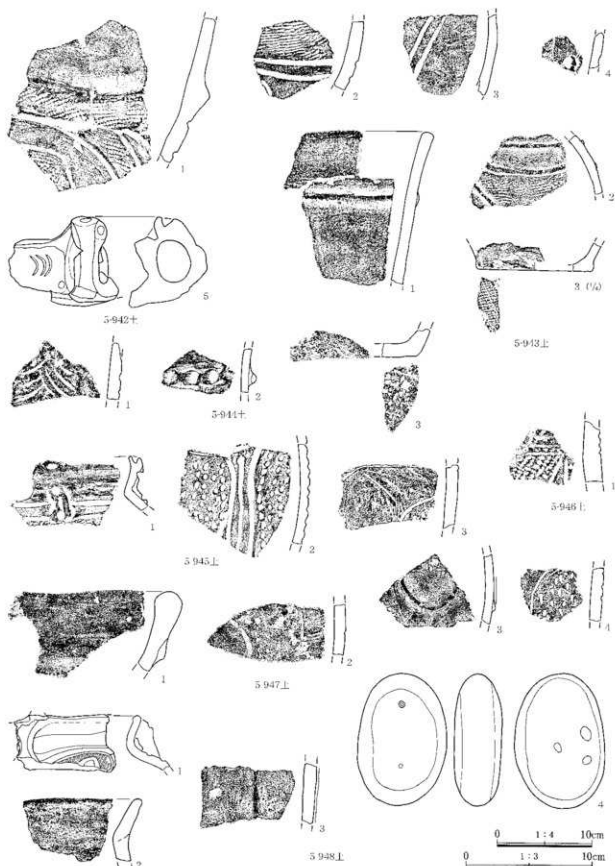
第3章 検出された遺構と遺物



第463図 土坑出土遺物(4)

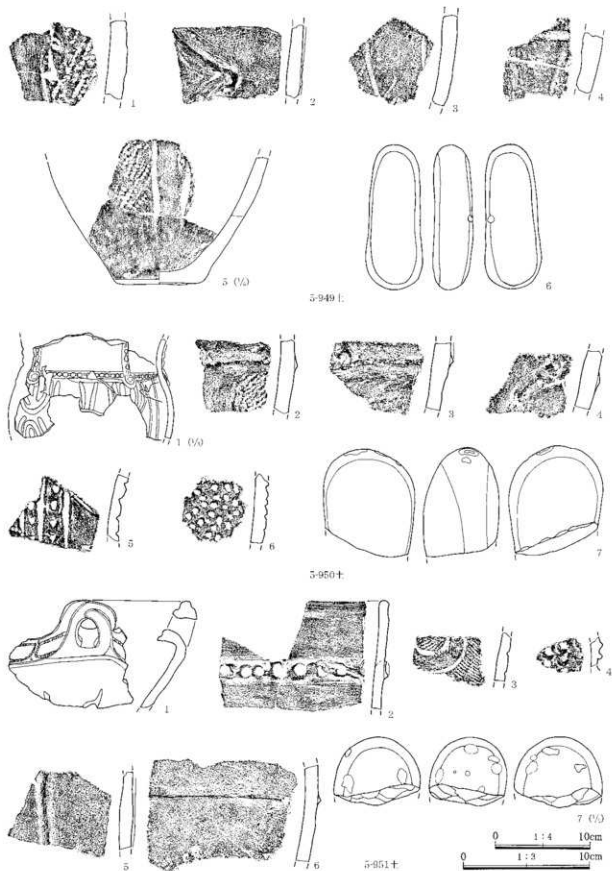


第464図 土坑出土遺物(切)



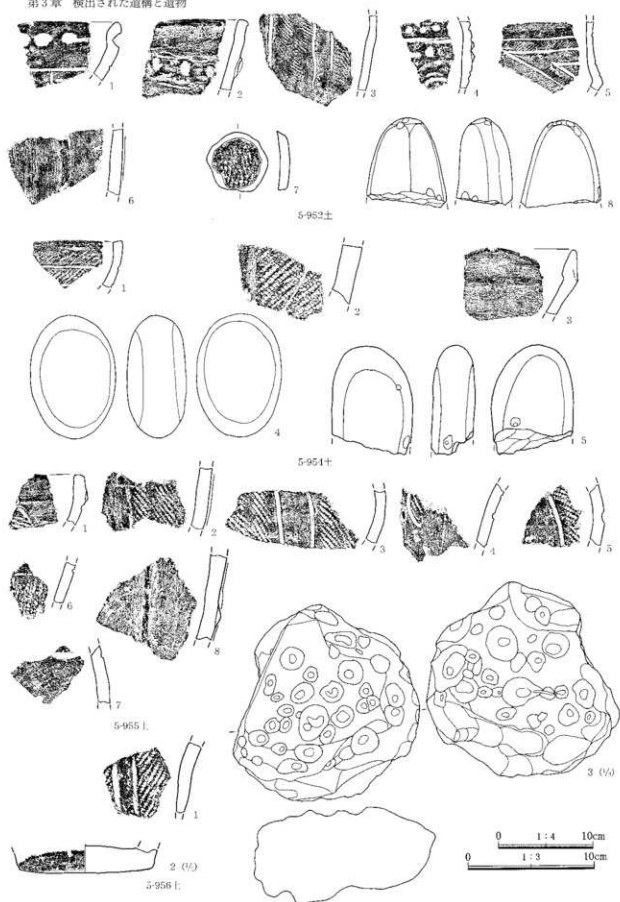
第465図 土坑出土遺物(4)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



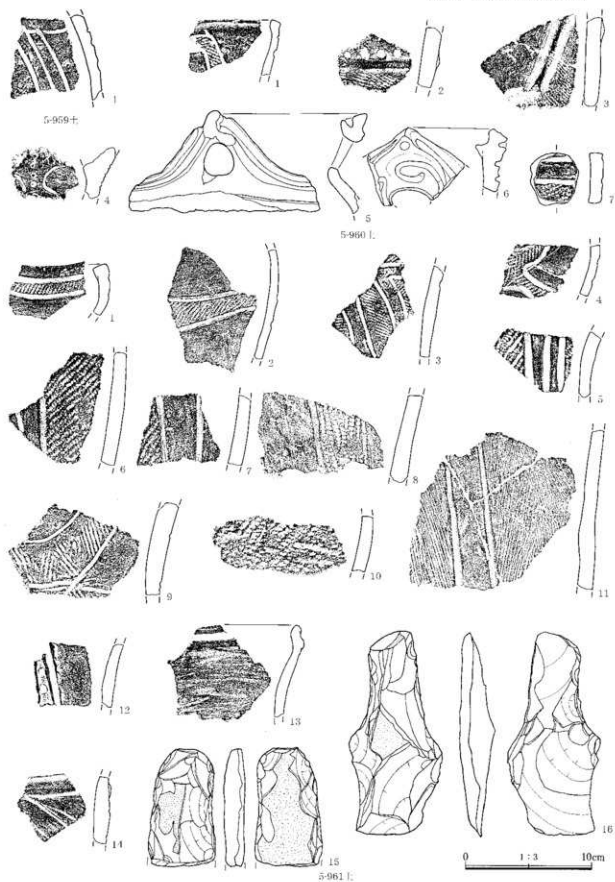
第466図 土坑出土遺物(4)

第3章 検出された遺構と遺物



第467図 土坑出土遺物(6)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



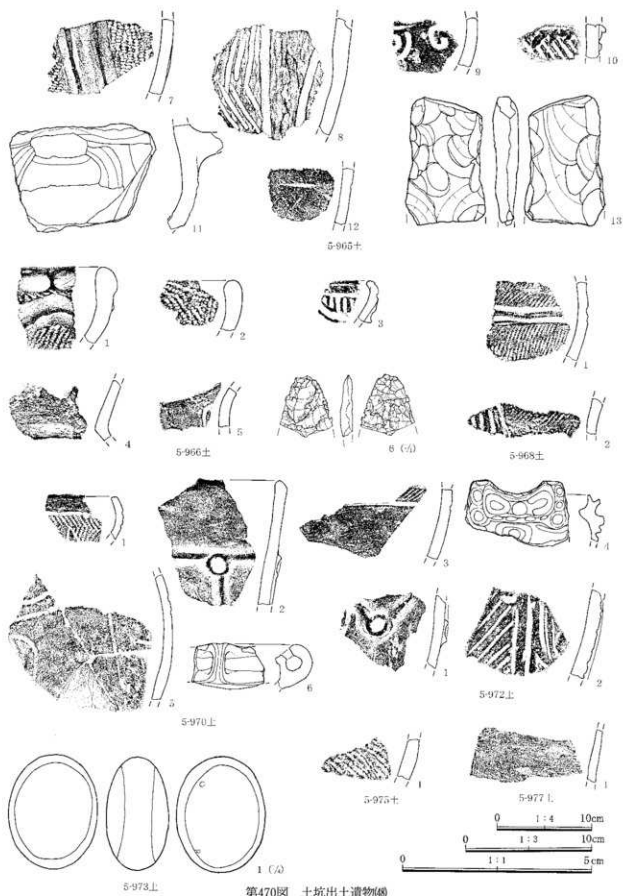
第468図 土坑出土遺物編

第3章 検出された遺構と遺物

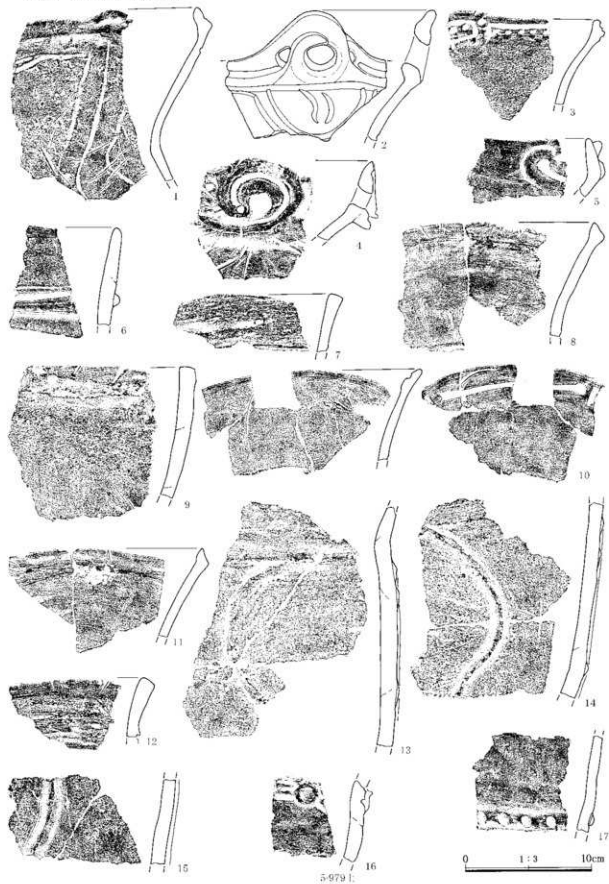


第469図 土坑出土遺物(切)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

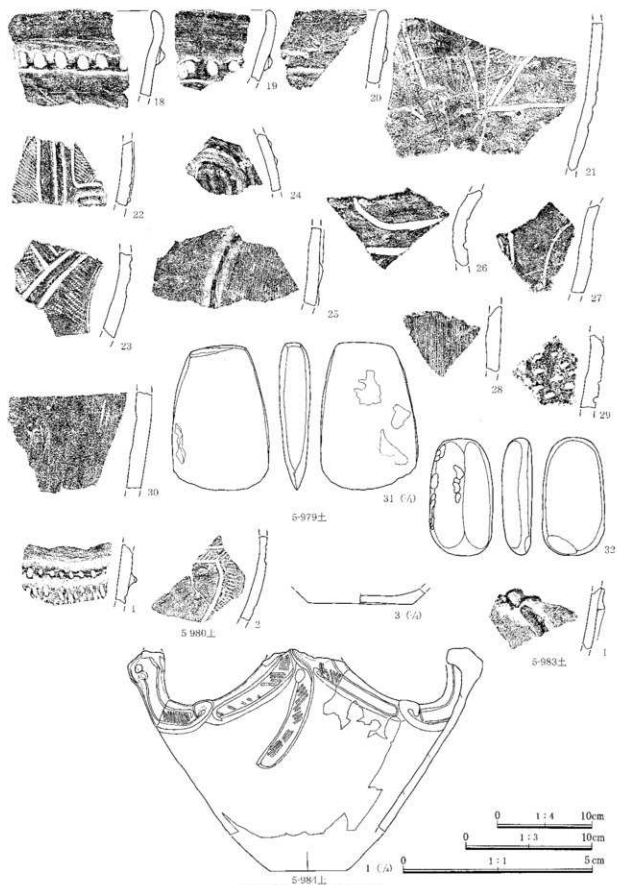


第470図 土坑出土遺物(6)



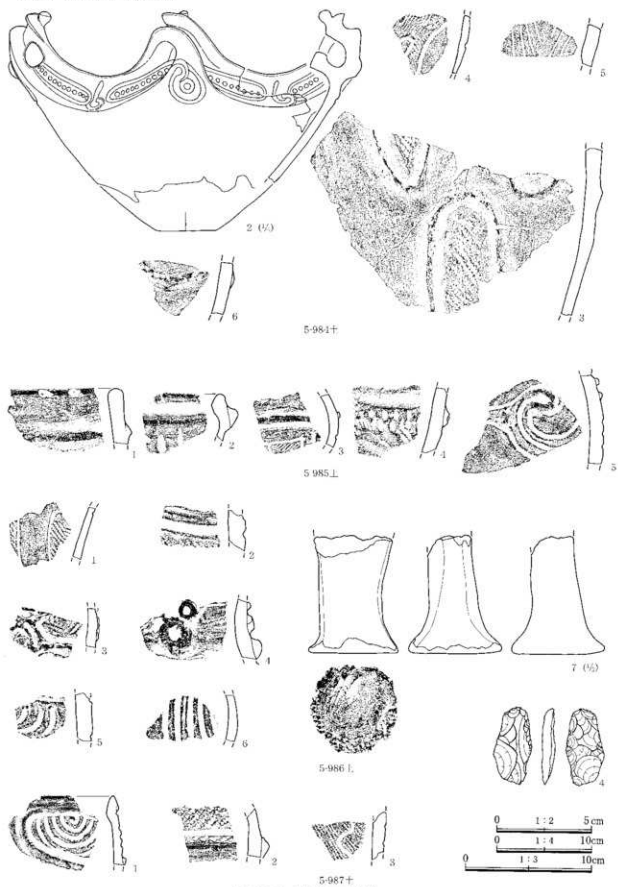
第471図 土坑出土遺物(壺)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



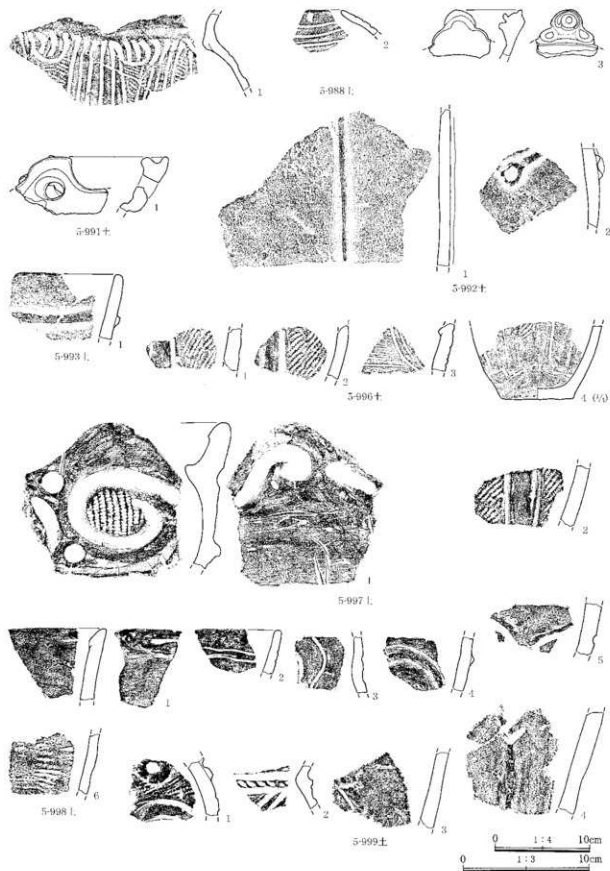
第472図 土坑出土遺物(5)

第3章 検出された遺構と遺物



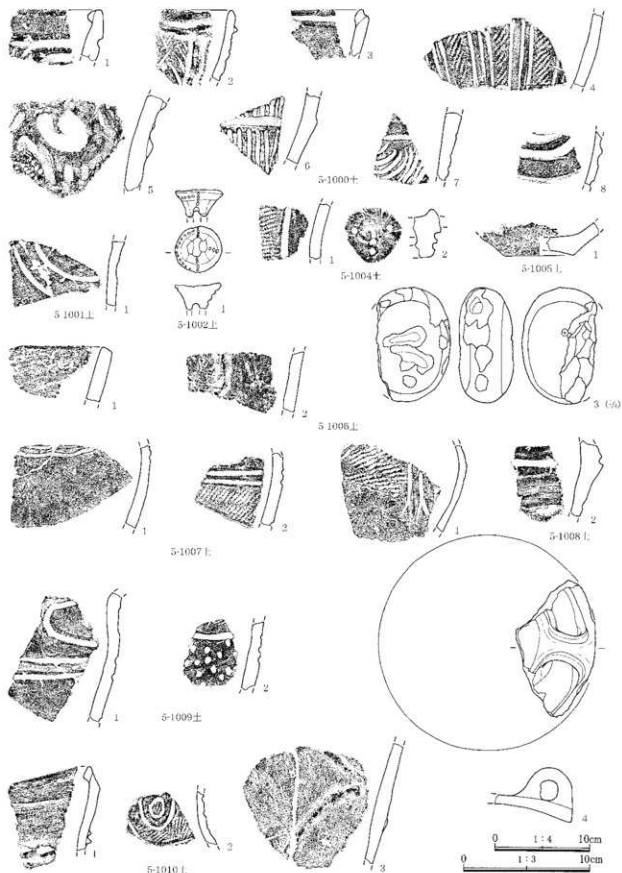
第473图 土坑出土遺物50

第3節 縄文時代の遺構と遺物

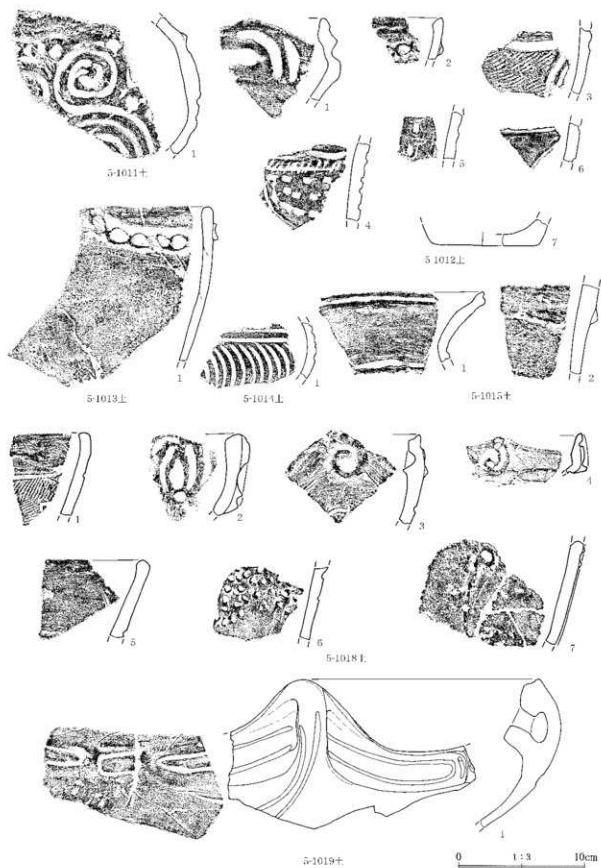


第474図 土坑出土遺物(2)

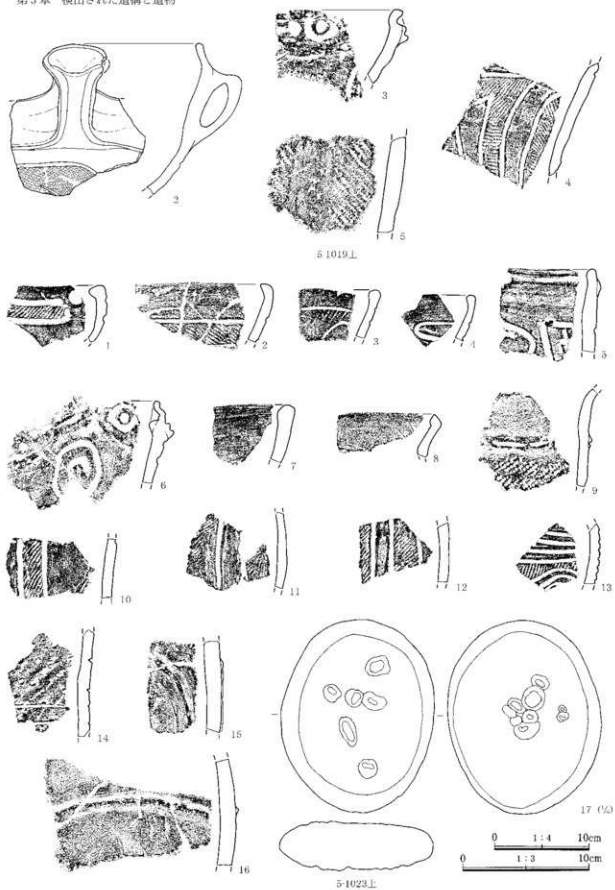
第3章 検出された遺構と遺物



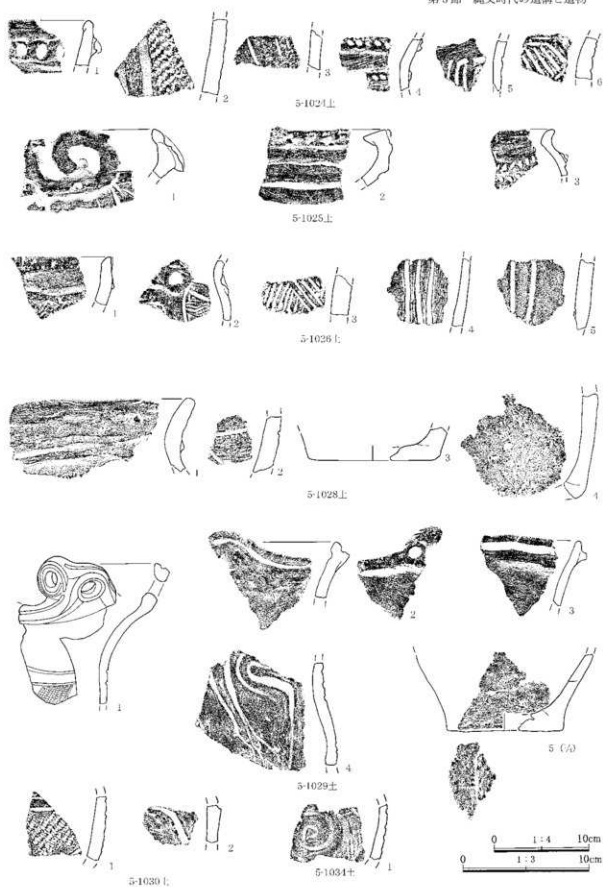
第475図 土坑出土遺物(5)



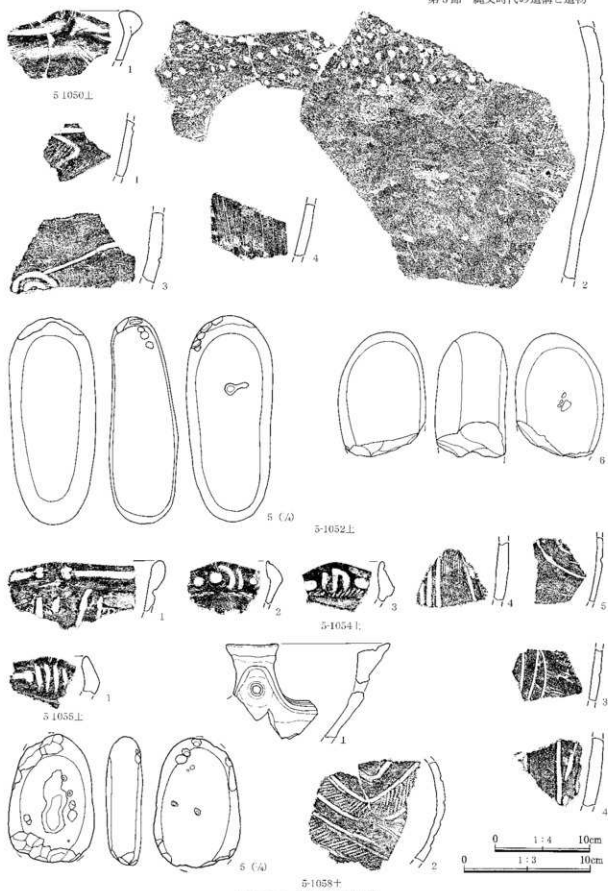
第476図 土坑出土遺物50



第477図 土坑出土遺物図

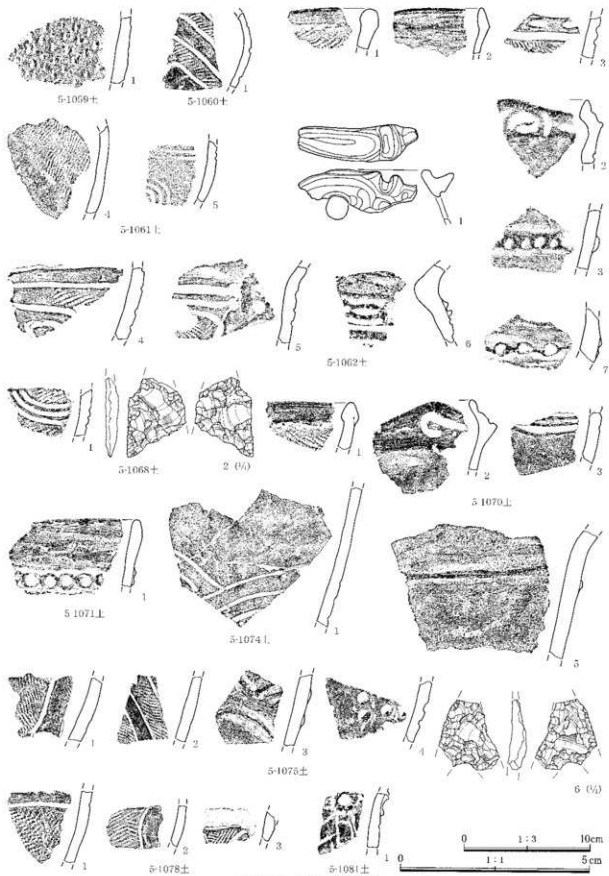


第478図 土坑出土遺物⑤



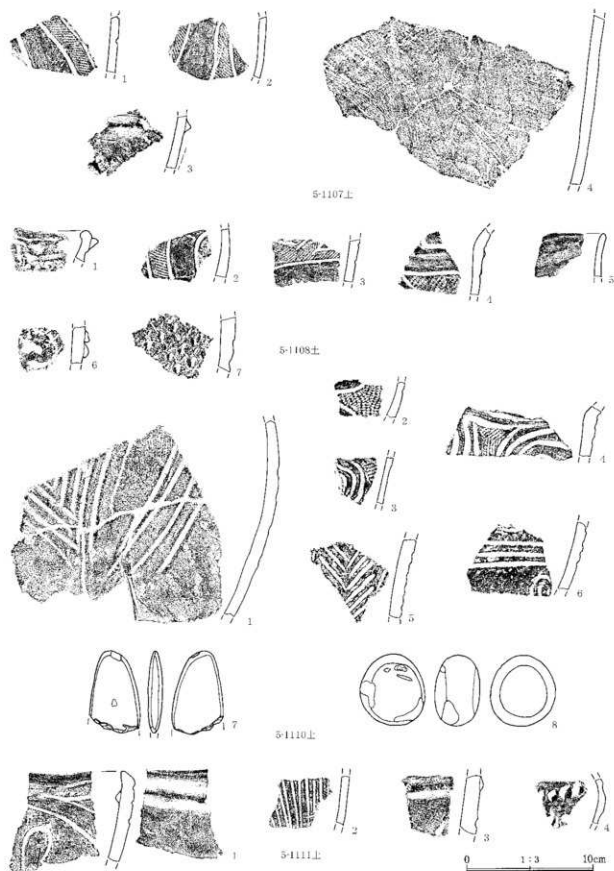
第480図 土坑出土遺物⑤

第3章 検出された遺構と遺物



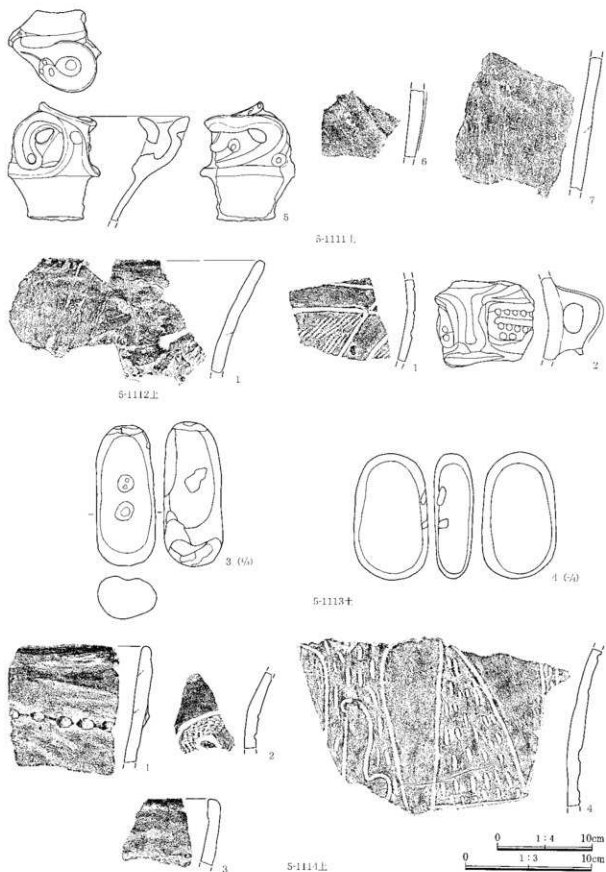
第481図 土坑出土遺物図

第3節 縄文時代の遺構と遺物



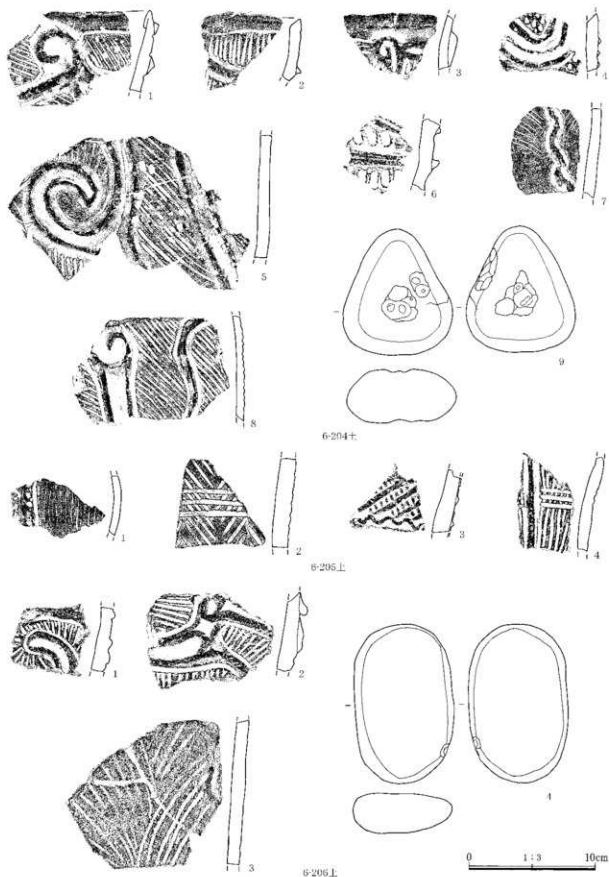
第484図 土坑出土遺物図

第3章 検出された遺構と遺物

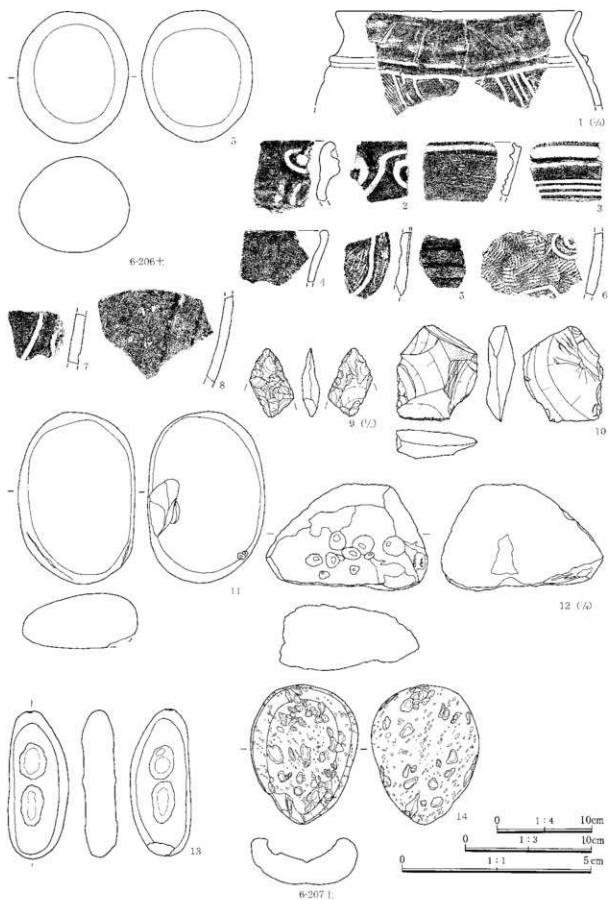


第485図 土坑出土遺物(座)

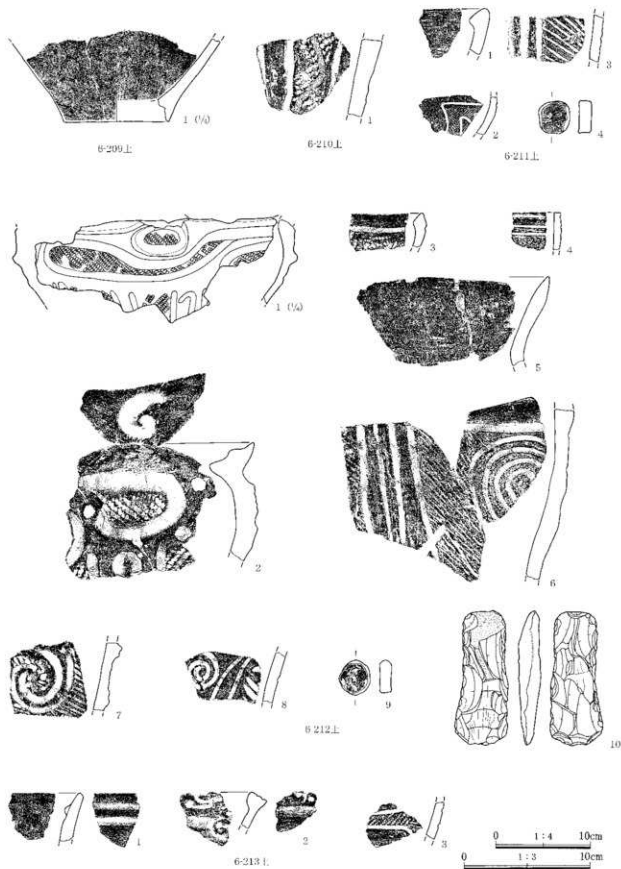
第3節 縄文時代の遺構と遺物



第486図 土坑出土遺物(6)



第3節 縄文時代の遺構と遺物



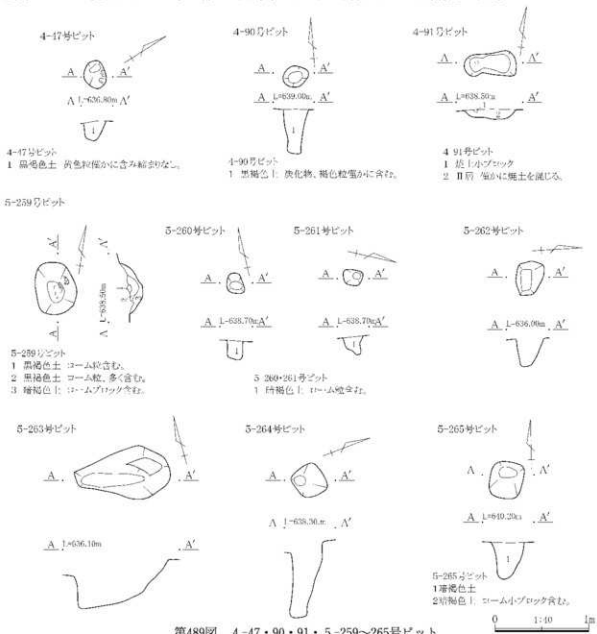
第488図 土坑出土遺物類

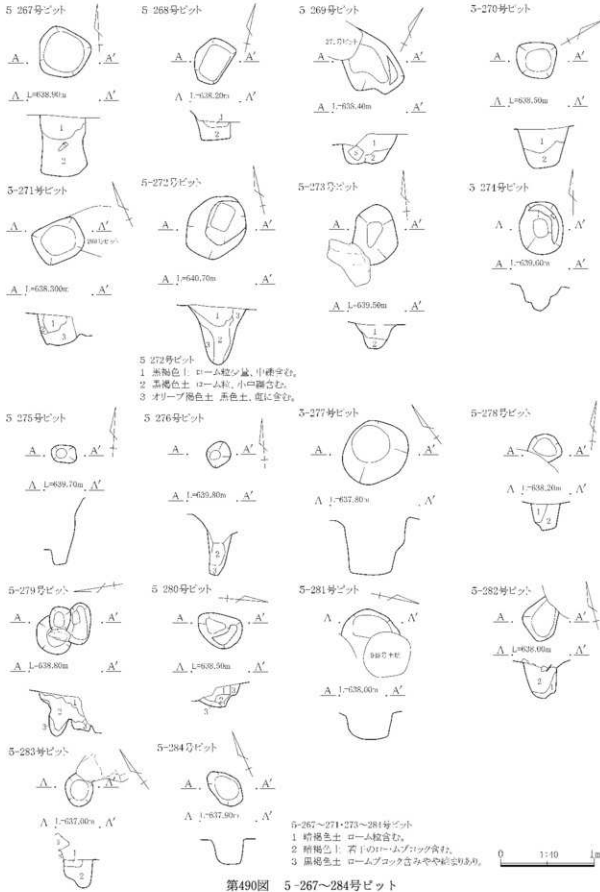
7. ビット (第489・490図: PL105)

土坑のうち規模の小さなものをビットとして調査した。およそ径50cm以下のものをビットとしたが、中にはこれを越えるものもある。時期は近世から縄文まで全時代を通してのものと思われるが、出土遺物もほとんど見られず、ここでは一括して報告する。

4区ではN～Pグリッドに位置する多くのビットを検出、これらは東西あるいは南北方向にほぼ直線的に並んでいるものが多く検出され、これらビットの配置から4-1号掘立柱建物および4-2号掘立柱建物の検出に至っており、これらの周囲に検出されたビットを除き記載する。時期的には中世あるいは近世と判断される。

5区については調査区に点在する状態で、25基を検出、時期は縄文時代と考えられるものが多いが、出土遺物はほとんど見られなかった。一部には人為的でないものも含まれている可能性がある。





第490図 5-267～284号ピット

8. 遺構外出土遺物

(1) 土器・土製品 (第491図～505図：PL217～223)

平成15年度における遺構外出土の土器点数2万点を数える。本項では各区毎に分け、細別、記載を行う。今回の調査では遺構の重複が顕著で遺物についても、遺構外出土として扱わざるを得ない状況が多く見られた。また各区の比較では出土点数に時期的あるいは時期的な差異も見られた。

図示した遺物は各時期の比較的特徴を備えたものを取り上げた。また他地域からの搬入品と考えられるものなどできる限り示すよう努めた。しかしながら紙面的にも量的にも全体の遺物量に比較すればごく一部に過ぎない。今後、残った調査部分の整理を進めてゆく中で詳細な検討を行って行きたい。本書では下記の分類に従って概述したい。

出土した土器は、中期後半から後期前半がほとんどを占めている。当然のことながら遺構に関しても、この時期と判断されるものが中心である。検出した住居の時期は、中期後半加曾利E3(曾利IV)式期に集中し、後期初頭から前半の称名寺式期から堀之内2式期に比定されるものが検出された。

最も出土量の多かった時期である加曾利E3式の土器は、各調査区において見られる。中期末の加曾利E4式期の土器も比較的出土しているものの、前代に比べると減少している。

後期に入ると初頭の称名寺式期の遺構も散見され、次第にその出土量を増しているように見える。前半の堀之内式期の土器は増加傾向がさらに強くなっている。特に遺構の集中している5区南西側調査区では極めて多く見られる。この調査区内では西端に堀之内2式期の敷石住居跡があり、その東に連続して検出された中期後半の住居群跡を切って、多くの土坑が掘り込まれている。

6区は調査面積も少なかったが、遺構に関して居住域の西端にあたり、遺構外の出土物も少量である。時期は中期は少なく大部分が後期に比定されるものである。

出土した土器は中期後半から後期前半に位置付けられるもので、中期中葉以前のもの、また後期後半以降のものはほとんど検出されなかった。

土器に関しては、いわゆる曾利・唐草文系土器が多く含まれ、地理的に近接する甲信地域との関連を強く窺わせている。さらに新潟、北陸系の土器も見ることができ、極めて活発な交流があったものと考えられる。以下、各区毎に下記の大別分類に沿って概観しておきたい。

第I群 中期中葉・後半

1類 焼町	2類 加曾利E1(曾利I)
3類 加曾利E2(曾利II)	4類 加曾利E3(曾利III・IV・唐草文系)
5類 加曾利E4(曾利V・唐草文系)	6類 無文
7類 底部	8類 土製円盤・土製品

第II群 後期初頭～中葉

1類 称名寺1	2類 称名寺2
3類 堀之内1	4類 堀之内2
5類 無文	6類 底部

7類 注口土器

8類 把手

9類 土製円盤・その他

第III群 後期中葉～後半

1類 加曾利B1

第IV群 晩期

4区 (第491～495図：PL217～219)

第491図は第1群の土器である。1・2は1類いわゆる焼町土器、同一個体と思われる。本例のみの出土である。沈線による重弧状文を上下から描き、中には刺突文を配す。3～10は4類、加曾利E3式に位置づけられる一群で最も出土点数が多いものである。口縁部に隆帯による楕円文、渦巻き文を基調とする文様帯を持つ。胴部には縦位区画の磨り消し文様。9は文様を構成する隆帯が強く肥厚し器形も内湾する。古く位置づけられる。7・8は口縁部に波状小突起を有すもので、類例は多い。突起上面に鈎状の凹線を有す。11～13は口縁部に横位沈線廻り楕円を画す文様構成か。14は口縁部に刺突を有す。15は口縁部に幅広い無文部を持ち以下沈線文様。16は口縁部の隆帯渦巻き文下に縦位の磨り消し縄文帯。第492図17～32は5類に分類される。口縁部に横位沈線あるいは隆帯等が見られ以下縄文地に凹状の沈線文様描く。41も同様に位置づけられるが、縦位の矩形1文様描く。18・21は横位区画の沈線等は見られず、凹文描き縄文充填する。19は口縁部に横位刺突文が見られる。23はほぼ器形を復元できたもので、台付き土器である。口縁部は4単位の波状を呈し、口縁部に横位刺突文付し沈線で画す、胴部は上下に方向の凹縄文を沈線で描き縄文を施文。34は口縁部片短沈線文が見られる。45・36は同一個体片である。縦位平行沈線文間に櫛歯状の刺突文見られる。42～48も4類とされる一群である。46は両耳壺取手部である。38～40、44～48は4類の胴部片であるが、38・39・44・45はやや古く位置づけられようか。37は無文土器で横位沈線廻る。

49は5類の胴部片沈線で描かれた凹状文が上下対に描かれる。区画内には縄文LRが施文される。

第493図50～54は曾利・唐草文系、50は下2本ずつの平行隆帯で口縁部文様帯を構成、上下の隆帯を繋ぐ様に付された隆帯は下端が渦巻きとなる。間には斜位の集合沈線が見られる。51・52は胴部片、51は上端部が渦巻きとなる2本の垂下隆帯、地文にはハの字状の沈線文。52は2本の隆帯を横位、縦位に貼り付け矩形区画文を構成、横位隆帯間には刺突文を付し、垂下隆帯の上端が渦巻き文を描く。地文には羽状の沈線文。53は2本単位の垂下隆帯で器面を6分割し、各区画内に上位には左下がり、下位には右下がり方向を変えた集合斜沈線を施文。曾利4か。54は縦方向の沈線で器面を12に分割後、間を斜位の集合沈線で埋め、矢羽根状の文様を表出。54は上端欠け口面の面取りが施されている。55は疋痕隆帯文。

第494図は曾利・唐草文系であるが、57は無文で時期不明である。56は隆帯により横楕円文による区画文を描く。以下胴部は縦位の集合条線を地文とし、併行沈線による幅狭の垂下無文帯。胴下位は無文である。

42・47・48・56は4区の北側部分から南西方向に走る落ち込み黒色土中に礫と共にまとまって出土している。58・59は広口の壺型土器である。58は隆帯による横楕円区画文、区画内に円形文を充填する。また隆帯の交差部にも円形押圧文を付す。以下胴部には縦位の条線文。

59は頸部締めり口縁部無文で外傾して立ち上がる。隆帯による横楕円文基調の文様帯、区画内は集合線による弧状文、刺突文、以下縦位集合条線。

60は2本単位の沈線により連結した文様を横位に描き中を櫛状の工具による列点状の刺突文で埋めてい

第3章 検出された遺構と遺物

る。61～63は隆帯による渦巻き文様で飾り、地文に集合沈線を持つものである。63は口縁部波状に渦巻き文が付けられる。

第495図64～68・72・73は唐草文土器、沈線による渦巻き文、重弧状文で器面を埋める。

70・77はII群3類に位置づけられる70は凹庄横位隆帯、77は口縁部に環状突起、円形文有す。75・76はI群4類曾利系土器、横位沈線および縦位の渦巻き文、波状文描き地には斜位の集合沈線見える。78は4類、口縁下に2条の刻み隆帯廻る。79は注口土器注口部。80はIV群、晩期末か。口縁部緩やかな波状を呈し、口縁部は直立頸部に沈線が廻り以下胴部には斜めの集合条線。

5区 (第496～504図：PL219～223)

第496図1～3・7および第497図23～25はI群4類の口縁部、第496図10・15・17および第497図33は胴部片。1は隆帯による楕円文を描き縄文充填。4～6・8～13は5類に比定される。横位の隆帯または沈線下位に縄文施文、凹状の磨り消し文様持つものも見られる。14・16・20は沈線による胴部磨り消し文様描く。22は口縁部に刻みを有す。

24は口縁部から肥厚沈線による縄文帯垂下。25は太い沈線による縦S字文描き、縦位の沈線。26から30は口縁部片、26・27は5類か。29は凹状文内に縄文充填される。30は口縁下に刺突文見られる。31・32は胴部片。33は4類の胴下半部である。縦位の磨り消し縄文。34は4類曾利系、口縁部文様は隆帯による渦巻き文構成か。胴部にも沈線による渦巻き文描き、矢羽根状に集合短沈線文付す。

第498図35～39はII群1類に比定される一群である。磨り消し縄文による区画文様描く。

40は4類で楕円文様描く。

42・43はII群2類、同一個体片と見られる。曲線文様内に刺突文付す。第498図44～499図はI群曾利、唐草文系土器である。45～49は口縁部に隆帯による渦巻き楕円文様描き縄文以外の施文を行う。50は2本隆帯で文様を描き斜位の沈線文を地文とする。55・56は隆帯による渦巻き文。58は口縁部に斜めに集合沈線配し胴部は隆帯文様か。60～63は唐草文系、隆帯による渦巻き文、斜位縦位の沈線で地文を埋める。63～73は縦位の隆帯と矢羽根状の集合沈線文。74～76は粘土紐状の隆帯、76は横位2本単位の隆帯、斜位の集合沈線の上に斜格子状に粘土紐を貼付。77～79は口縁部突起。渦巻きを基調とする文様描く。第500図～504図はII群3・4類である。

80～111は沈線による区画文様描き間隙を縄文で埋めている。112～124は三十幅筒式である。112・113は口縁部、渦巻き隆帯に刺突文。他は刺突文施文がされる122・123等は刺突文の片側が瘤状に盛り上がる。124は細かい刺突文が施文。125～177は口縁部をまとめた。126～146は口縁部が内屈し横位沈線、肥厚部には円形文対向するC状文が見られる。第502図147～162は口縁部に刻みを持つ隆帯が貼り付けられている一群である。147・148の様には1条のものや149・151・162のように2条以上廻らしこれらを縦に繋ぐ隆帯が付けられたものが見られる。隆帯下は磨り消しの矩形文様を持つものと無文がある。器形による差異と見られ155・157・162は口縁が大きく開く器形を呈すものと見られる。

163や164は隆帯は見られず横位の沈線文が多段施文されている。164は口縁部に突起状の円形文。165～172は口縁部に横位凹庄隆帯が見られる一群であるが169・170・173は隆帯の交点に円形文が付けられる。また172は刻みを付す。第503図174～179は4類の口縁部片である。174・175は横位矢羽根状文、177～179は無文で口縁部に沈線が廻る。180・184は内外面に文様有す。181～183は複数単位の沈線による文様描くが縄文の見られないものである。185～190は矩形磨り消し文様。191～196は渦巻き文斜格子文等が描かれる。194は黒色土

器。

199はI群土器である、短頸の壺型土器。

504図202は小形の土器である。沈線による渦巻き基調の文様描く、II群か。203は取手部片。205は脚台部片。206は注口土器の注口部である。207～221は土製円盤をまとめた。時期は文様等からI群およびII群にわたるものと思われる。大きさは最大径4.5cm、最小2.5cmである。222は鼓型の耳栓である。両面に刺突文、沈線による渦巻き文描く。223は土製の腕輪である。断面は上端部やや細く内側に傾斜を持つ。224は土偶である。胴から腰にかけての部分と見られる。厚さは1.8cmでやや反りを有す。文様は腰の部分は2本の横位沈線間に格子状、裏は異方向斜めに沈線が廻り、胴部には鱗の表現、背面は紐をかがったような表現が見られる。

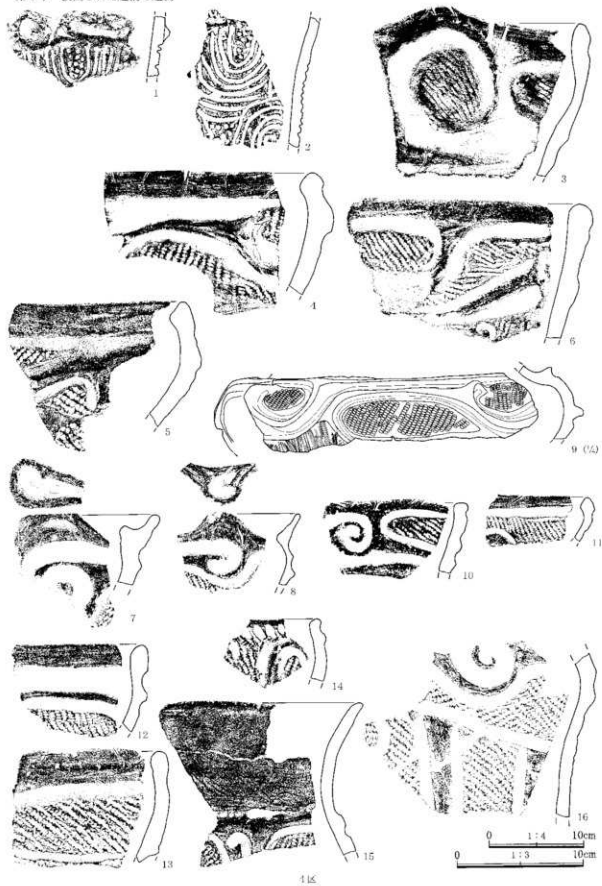
6区 (第505図：PL223)

9・10は加曾利E3式期か、21はI群曾利式、20・21も該期に相当か。他は総てII群に位置づけられる。1は口縁部内屈し、口縁に沿って沈線が付され、沈線下位に列点状文、口縁がやや波状に高まる部分に弧状の短沈線文。2は口唇部に刻み有し、口縁部内面には隆帯。内面、外面に横位の沈線廻る。外面下位には横位縄文帯。炭化物の付着あり。3は口唇部内傾、口縁下部に横位の隆帯。4は口縁部に横位隆帯で面す無文帯。6は内面に円形文、重弧状文描く。7は口縁下に横位沈線、以下縄文施文。8は沈線により円形文および垂下文様の磨り消し縄文。11は縦位横位の沈線文様。12は口縁突起部片、上端部8字状文、内面に刺突文列文。13は縄文地に沈線による斜行文。14は沈線による重変形文、外側に縄文帯。15は口縁部表裏に2本の刻み隆帯が廻る。外面には8字貼付文。以下は沈線により三角形基調の磨り消し縄文施文。22は三十稲場か、刺突文。23は横位沈線間に刺突文。24は注口土器の胴部か、薄手で器面平滑。25は弧状の棒状部に渦巻き状の隆帯が付く。渦巻き内、棒状部に連続刺突文。口縁部に付く環状の突起文か。26は土製円盤である。

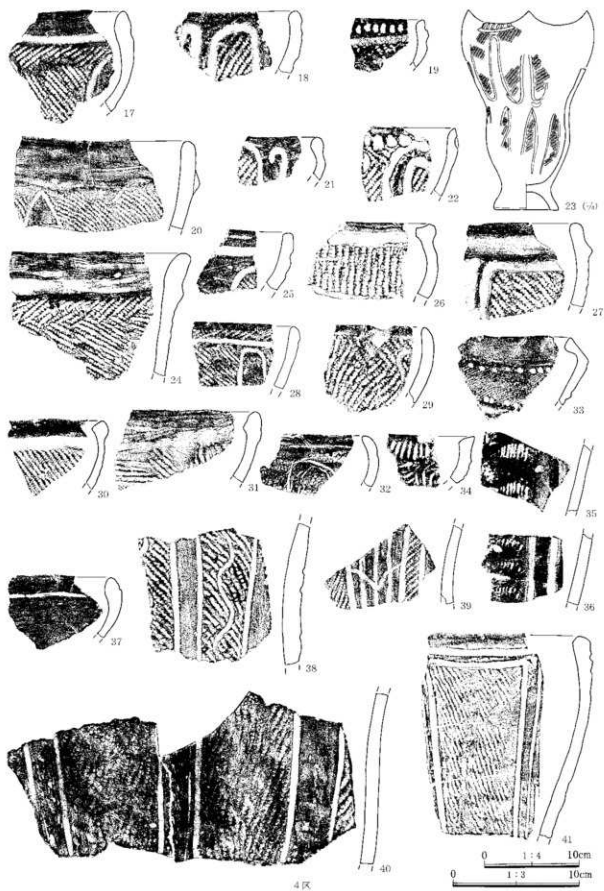
以上、遺構外出土の土器、土製品について概述したが、時期的な広がりはありません、時期は中期後半および後期前半が主体で全体の9割以上を占めている。加曾利E3～加曾利E4式、および称名寺1・2式～堀之内1・2式である。また、搬入されたと思われる北陸、新潟地域の土器も散見されており交流を窺い知る資料である。

今回報告した資料は、長野原一本松遺跡における遺構外出土土器のほんの一部であり、今後、最終的なまとめを行ってゆく予定であり、より詳細な分類をふまえながら遺跡の性格等を明らかにしたいと考えている。

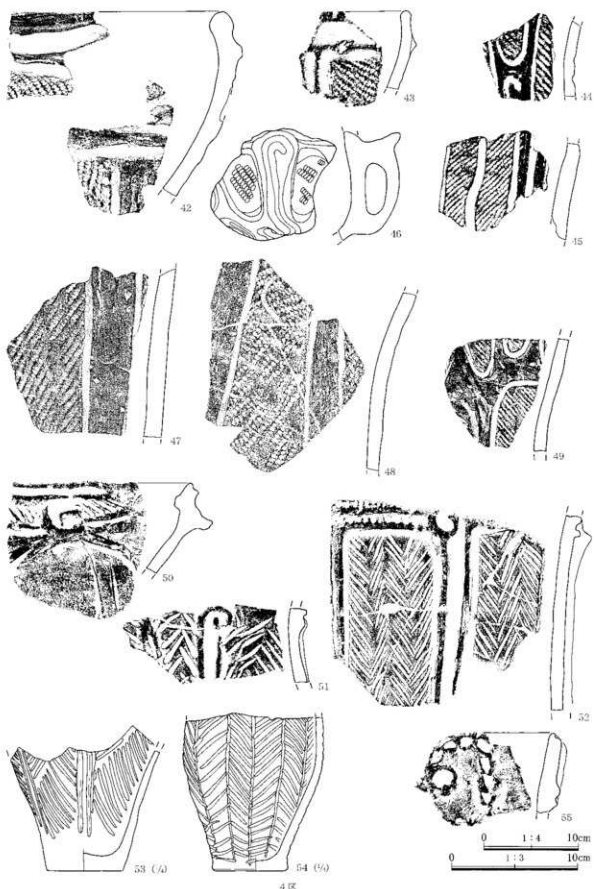
第3章 検出された遺構と遺物



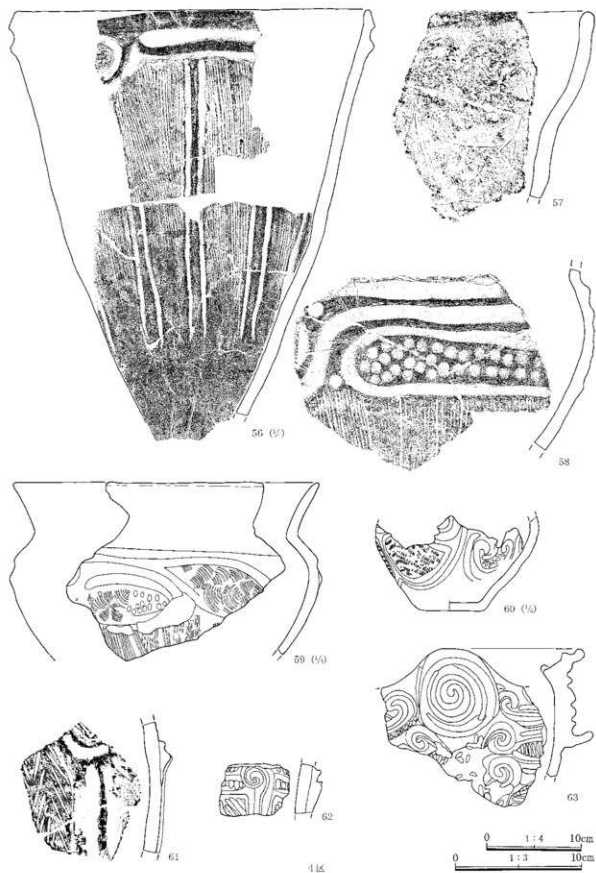
第491図 遺構外出土器(1)



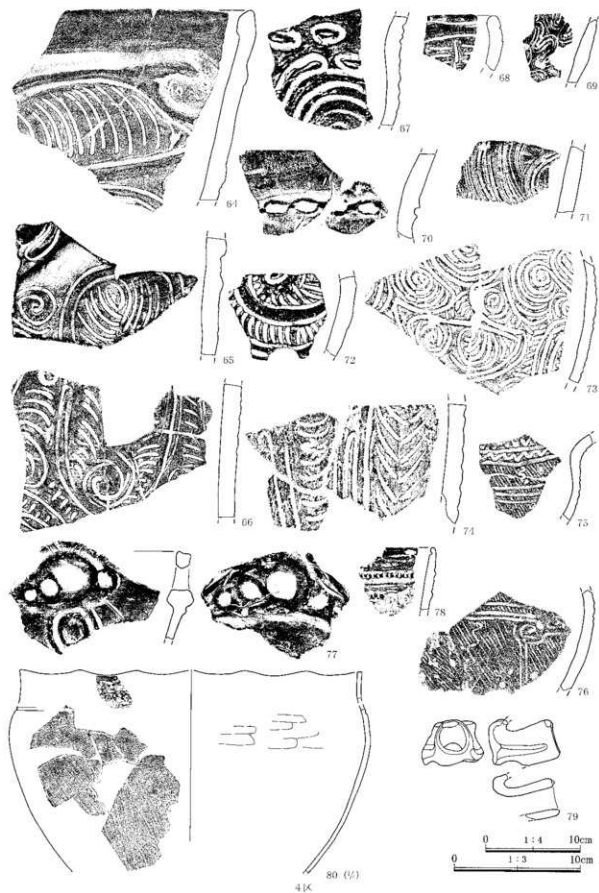
第492図 遺構外出土器(2)



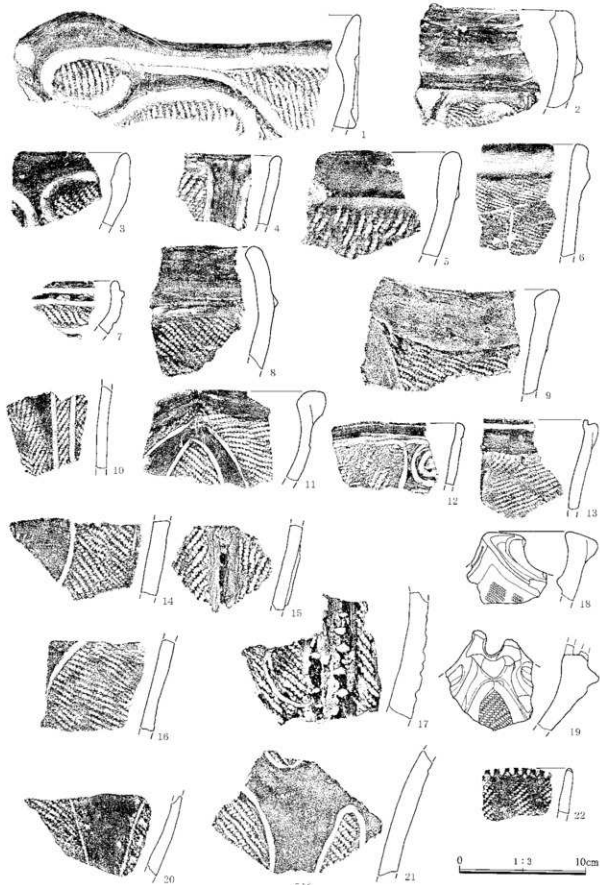
4区
第493図 遺構外出土土器(3)



第494図 遺構外出土土器(4)

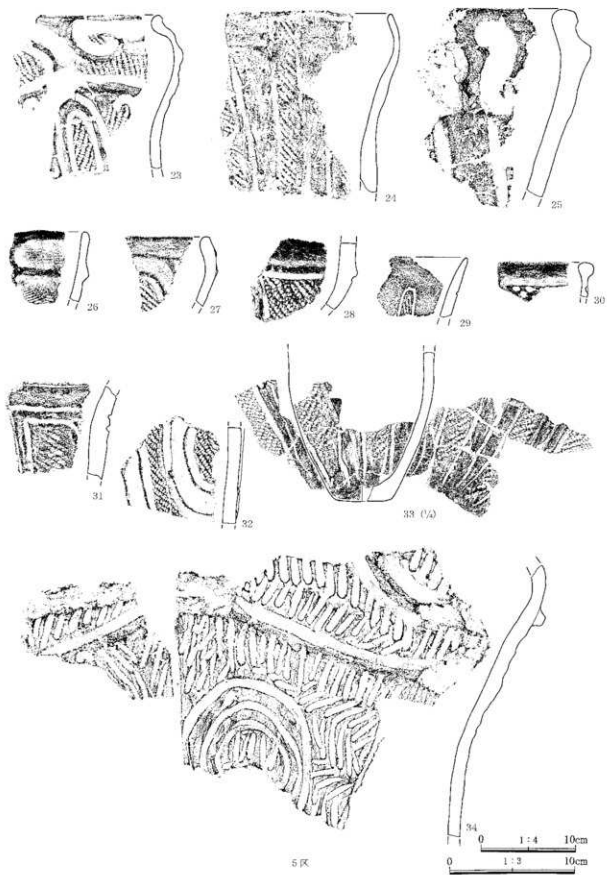


第495図 遺構外出土土器(5)

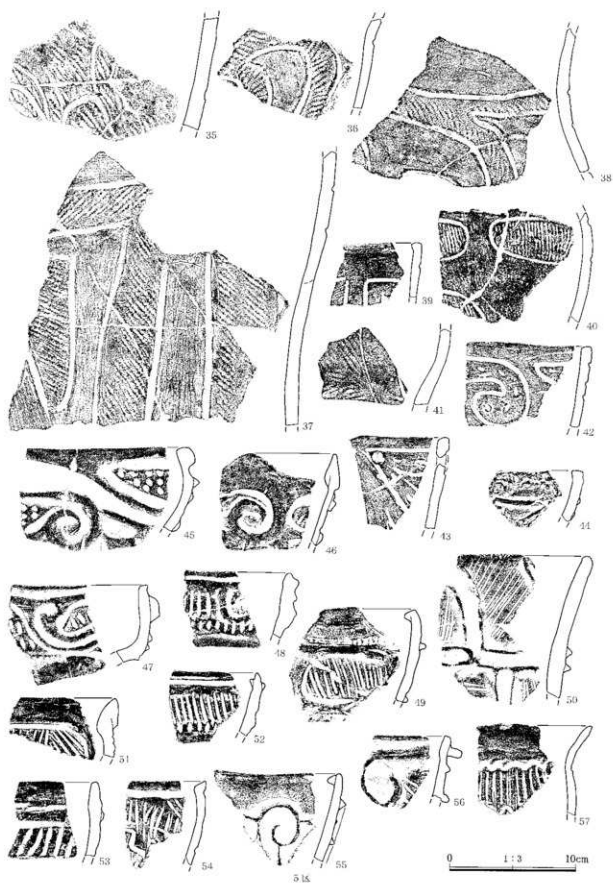


第496図 遺構外出土器(6)

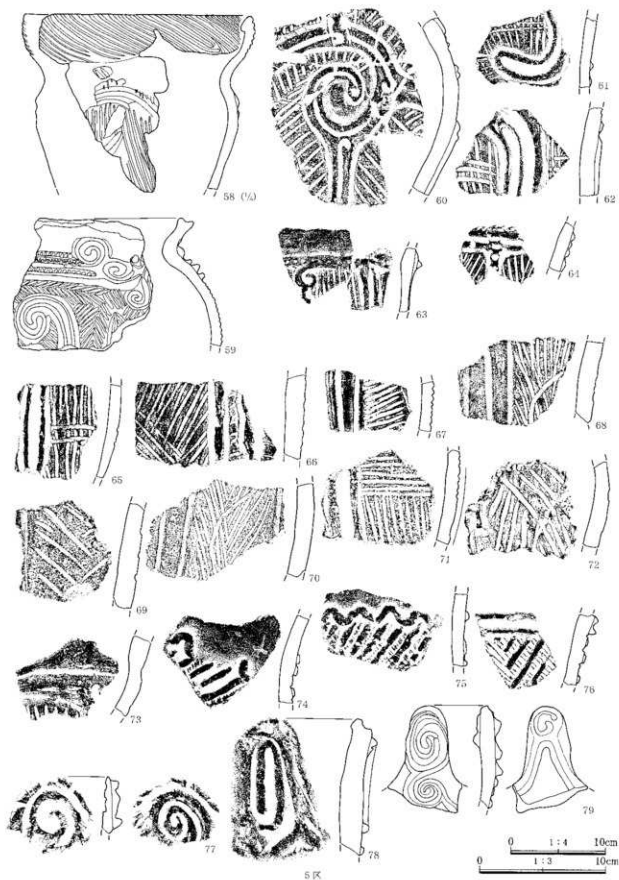
第3章 検出された遺構と遺物



第497図 遺構外出土土器(7)



第498図 遺構外出土土器(8)



第499図 遺構外出土土器(9)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



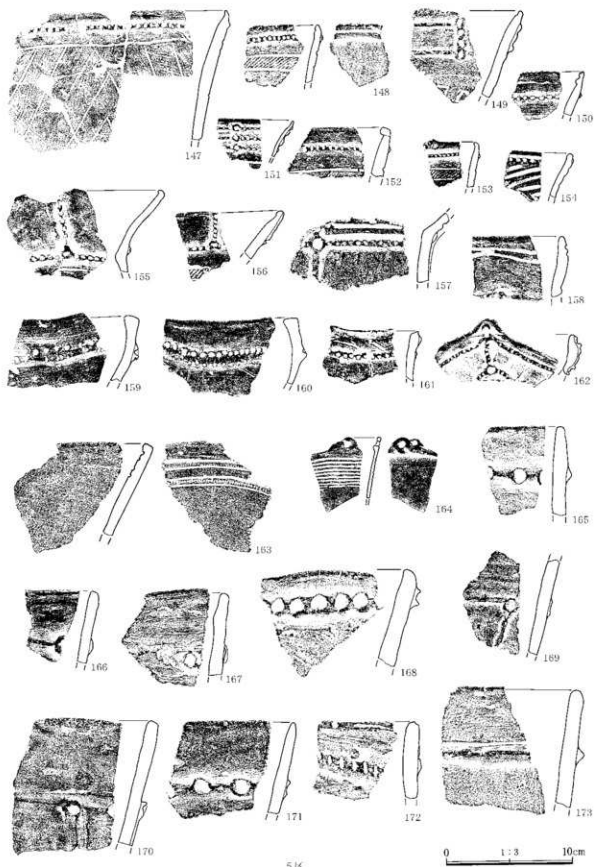
第500図 遺構外出土土器00

第3章 検出された遺構と遺物



51K

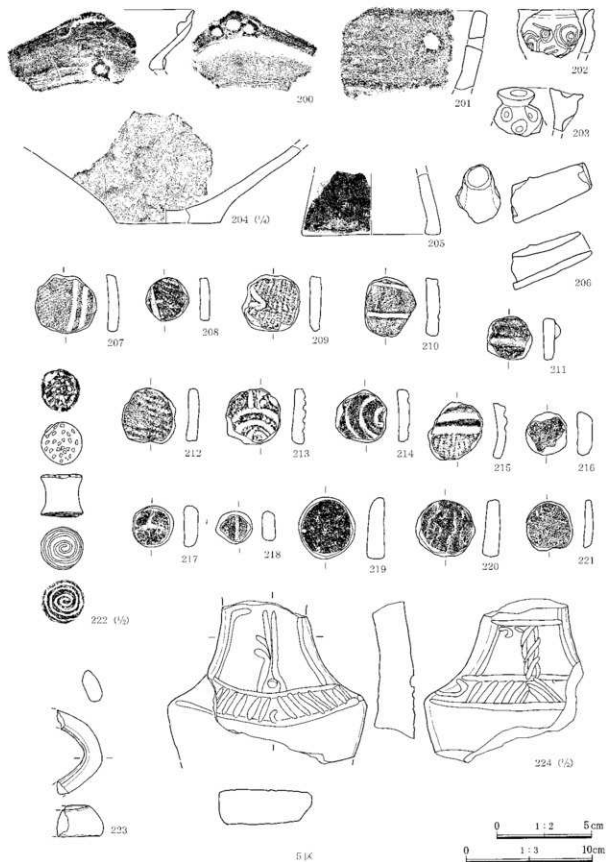
第501図 遺構外出土土器00



第502図 遺構外出土土器②

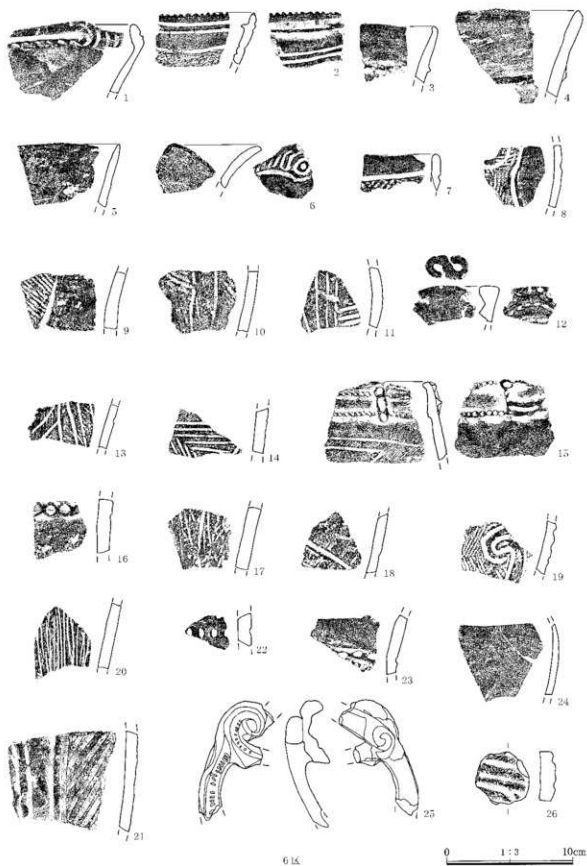


第503図 遺構外出土土器⑬



第504図 遺構外出土土器等

第3章 検出された遺構と遺物



第505図 遺構外出土土器05

(2) 石器・石製品 (第506～513図：PL224～227)

平成15年度の調査により出土した石器は、住居、土坑等の遺構より出土したものは1188点(住居1003点、土坑その他の遺構が185点)である。さらに遺構外出土212点を含めると1,400点となる。

器種別の点数内訳を見ると石鏃が最も多く、続いて打製石斧、磨石、石錐の順となる。

石鏃408、石錐86、磨製石斧50、打製石斧300、石棒14、多孔石30、磨石338、スクレイパー78、凹石14、鉋石製品17、石皿17、石匙2点、その他46点である。

住居出土の石器に関しては、出土量に差が見られるこれは当然なことながら遺構の残存状況によるところが大きいのであるが、こうした点を考慮した上でも出土量や組成に違いが窺える。

中期後半期の住居では石鏃および打製石斧が比較的多く磨石類はやや少ない傾向に対し、後期では石鏃・打製石斧の減少があり逆に磨石が増加するようである。この傾向は時期が下ると強まるようで、後期前半期の住居では特に磨石の出土量が目立つようになる。

また石皿は各時期において見られるが完形品は少ない。いずれも半分ないしは4分の1以下に割れているものが中心である。裏面に凹み穴を有するものや、炉石に転用されたものもある。多孔石に関しても時期的に偏った出土状況は窺取されなかった。その多くが不定型な自然礫のほぼ全面に大小の凹み穴を穿っている。石材は総て粗粒輝石安山岩である。石棒に関しては14点が出土、極めて小破片もあるが石材は緑泥片岩がほとんどであり、搬入されていることがわかる。多くは火を受けている。4-17号住居跡や5-88号住居跡のように炉や壁際に立てられた状況で出土しているものもある。

打製石斧も出土点数が多い、前述したように中期後半期の住居では目立つ存在である。形状はいわゆる楔形や短冊形がほとんどで、分銅形のもの極めて少ない。石材は圧倒的に粗粒輝石安山岩が多く用いられている。また刃部あるいは基部片のみの欠損品も多く見られる。

磨製石斧に関しては中期から後期にかけて見られ、出土量傾向に違いはあまり差は見られない。欠損品が多く、刃部の欠けたものを敲打して角を落としたものが散見される。敲石として再利用したものか。

磨製石斧については長さ5cm以下の小形磨製石斧も見られる。石材は蛇紋岩で全体に丁寧な仕上げがなされている。

石材は石鏃、石錐は黒曜石製のものが多く、今回出土した石鏃に関しては408点中黒曜石製は約3分の1の133点に止まっている。これに対し石錐は全体の93%以上が黒曜石製である。

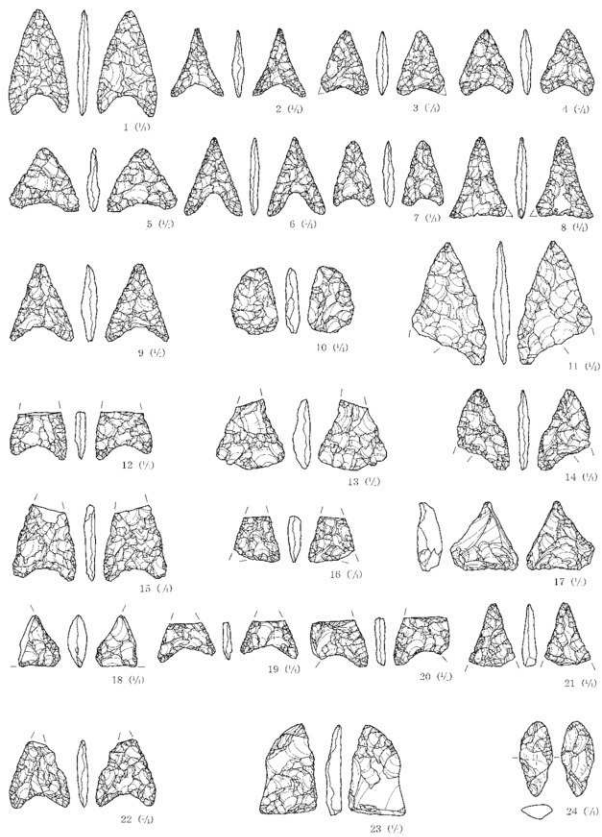
器種別の組成グラフを見ると石鏃は全体のほぼ30%、打製石斧は21%、磨石は24%でこれらの器種で総数の3分の2を占めている。また、磨石も全体の約4分の1を占めている点も注目される。さらに、石錐は6%であるが同時代の他の遺跡と比較しても比較的多い点も注目される。

長野原一本松遺跡組成比率表

器種	石鏃	石錐	打斧	磨石	石鏃	スクレイパー	磨斧	石棒	石皿	多孔石	その他	計
点数	408	338	300	50	86	78	50	14	17	30	29	1400
%	29.1	24.1	21.4	3.6	6.1	5.6	3.6	1	1.2	2.1	2.0	100

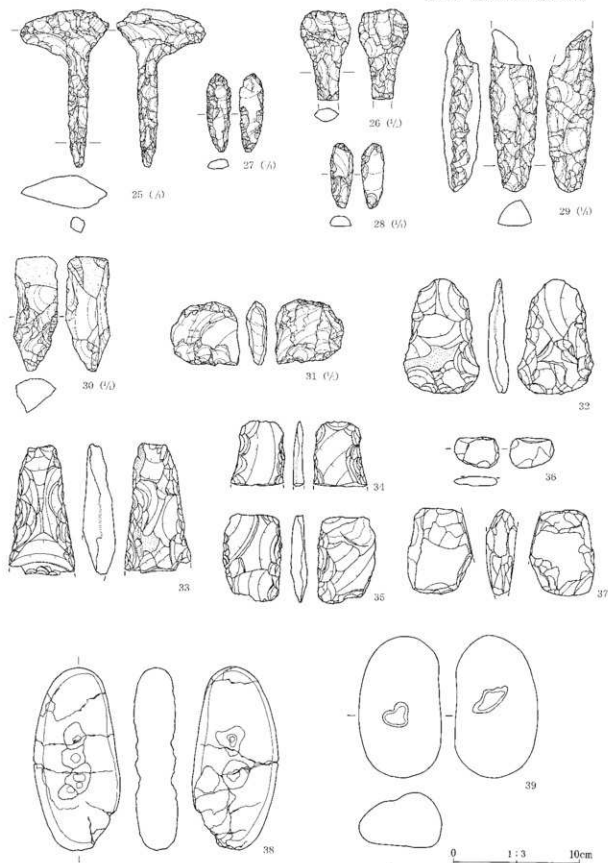
遺構外出土の石器については、以下に実測図・一覧表を挙げるが、実測図については石鏃、石錐類を中心に極力実測図の掲載に努めたが、総てについて掲載することができなかった。実測図未掲載の石器については、一覧表による観察および写真図版による記載となることを了承願いたい。

第3章 検出された遺構と遺物



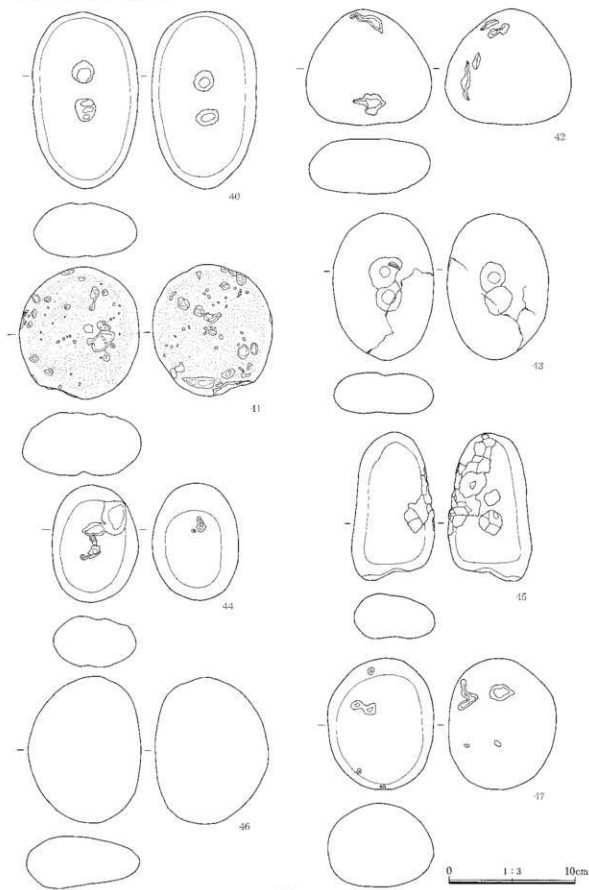
4区 0 1:1 5cm
 第506図 遺構外出土石器(1)

第3節 縄文時代の遺構と遺物

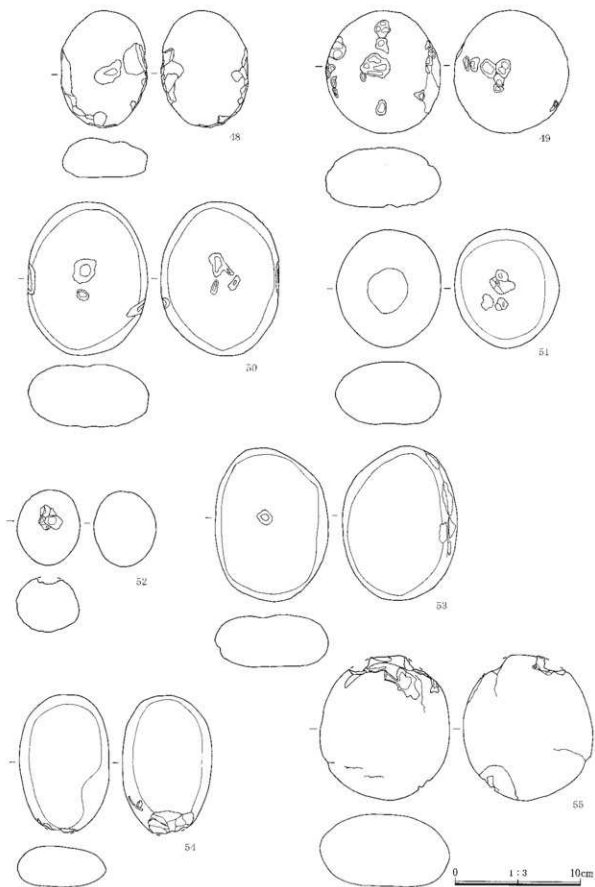


4尺
第507図 遺構外出土石器(2)

第3章 検出された遺構と遺物

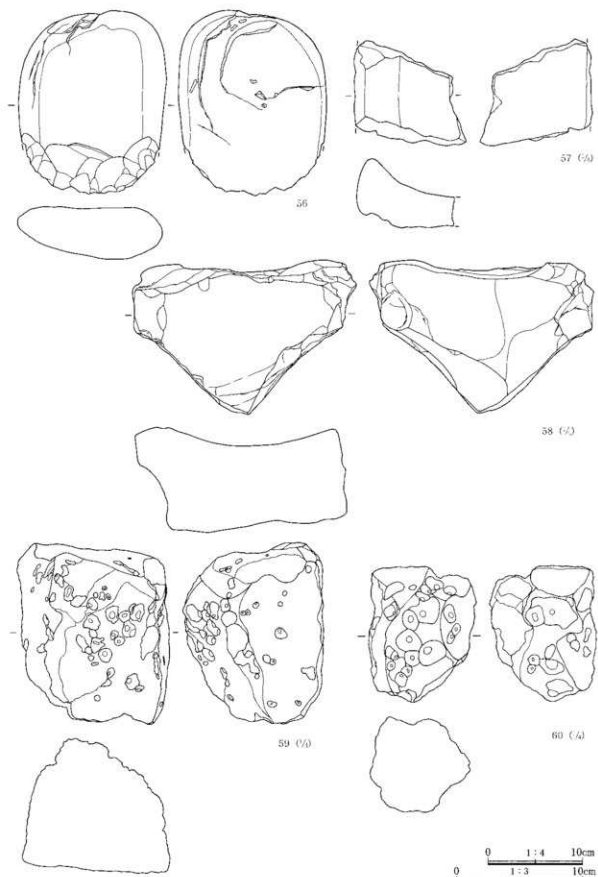


4区
第508図 遺構外出土石器(3)

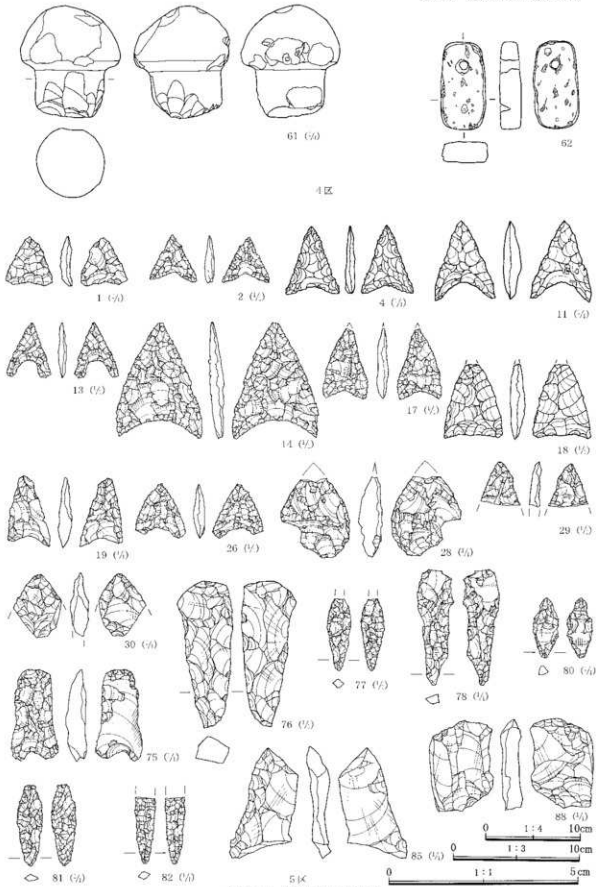


4尺

第509図 遺構外出土石器(4)

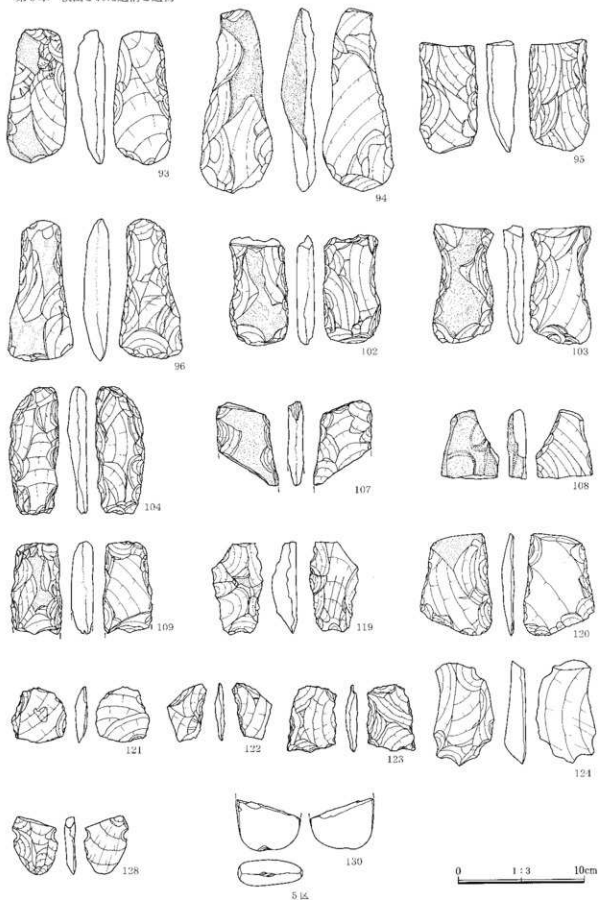


第510図 遺構外出土石器(5)



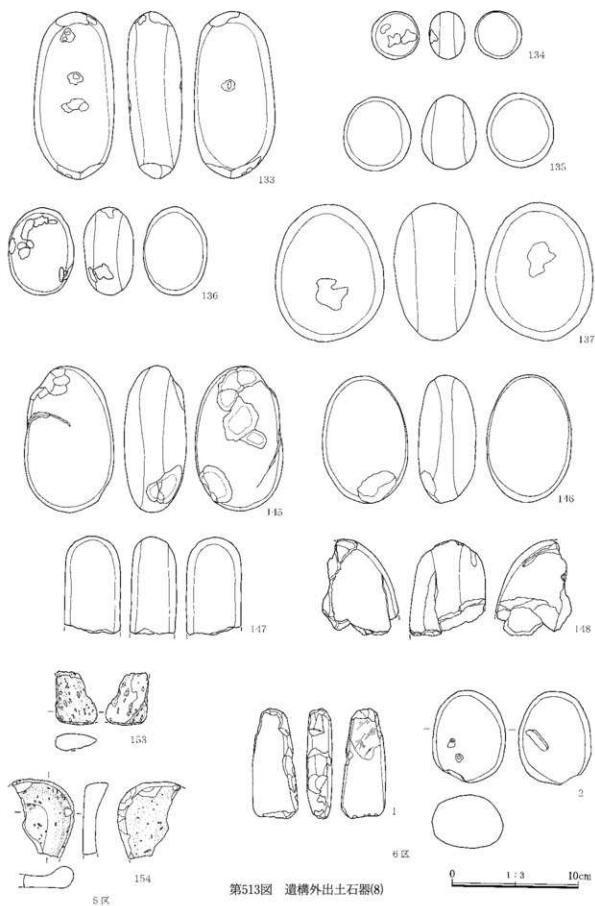
第511図 遺構外出土石器(6)

第3章 検出された遺構と遺物



第512図 遺構外出土石器(7)

第3節 縄文時代の遺構と遺物



第3章 検出された遺構と遺物

9. 出土遺物観察表

表2 土器観察表

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4-16号住居跡 (第8回・P.112)							
1	深鉢	口縁把手	缸方	暗褐色	微砂粒	鼓腹部に付く楕状把手片、上部内側に凹みそこから沈線状に垂下、把手内面側に凹孔、内側に沈線による槽内区画、縄文施文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	微砂粒	幅広い口縁部無文帯、以下沈線による曲線文様を描き区画内々に縄文施文。	称名寺
3	深鉢	口縁部	缸方	暗茶褐色	砂粒	口縁に沿って沈線、以下縄文施文、器面準托線画。	加曾利E4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	無文土器。	不明
5	深鉢	胴部	缸方	明茶褐色	砂粒	縦位の併行沈線。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	缸方	茶褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文、附加条縄文。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	精製	縦位磨り消し文。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による区画文様を描き区画内には細縄文を充塞施文。	後期前期
9	深鉢	胴部	床面	暗褐色	微砂粒	磨り消し曲線文。	称名寺
10	深鉢	胴部	床面	黒褐色	微砂粒	磨り消し曲線文。	称名寺
11	深鉢	胴部	床面	茶褐色	微砂粒	沈線による区画文様を描き区画内には細縄文を充塞施文。	称名寺
12	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	沈線による曲線文様、縄文施文。	称名寺
13	深鉢	胴部	覆土	灰黄色	石灰粒	縄文施文後沈線による曲線文様を描く。	
14	深鉢	胴部	缸方	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合条縄文。	加曾利E3
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	縦位の集合条縄文。	
4-17号住居跡 (第11・12回・P.119)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	微砂粒	やや内湾する器形、口縁に無文帯を持ち以下沈線により縄文充塞した連続状文を施す。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は沈線で無文帯を画す、以下縄文地に沈線による凹状文を配す。	加曾利E4
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に沿って沈線磨り、以下縄文地に凹状の沈線文。	加曾利E4
4	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	厚手で口縁部は丸く肥厚する、横位の幅広い沈線下に縄文施文。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	やや内湾し、横位の沈線見られ、縄文施文地に凹状の沈線を施す。	加曾利E4
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	小波状口縁部片、沈線による三角形曲線文を左右に描き、その中に沈線による凹状磨り消し文。	加曾利E4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	微砂粒	口縁部は丸みを持って肥厚し、沈線による槽内文を構成、区画内は縄文文を充塞施文。	加曾利E3
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微石灰粒	口縁部に沈線が磨り、以下縄文地に沈線による曲線文。	加曾利E3
9	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	微砂粒	口縁下に縦位沈線、以下凹状の沈線文を描く、地文は見られず。沈線は浅い。	加曾利E4
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	石灰粒	沈線による縦手文か。	加曾利E3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁部、沈線による曲線文。	加曾利E3
12	深鉢	口縁部	覆土	外黒色	精製	小波状口縁部片、浅い沈線による曲線文。	加曾利E3
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁は隆起で画され無文、口唇部はやや窪くなる。以下沈線による文様を描くと思われる。	
14	鉢形土器	口縁部	覆土	淡褐色	微石灰粒	やや内湾する無文土器。	
15	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文、やや内湾した感じである。	
16	深鉢	胴部	覆土	褐色	微砂粒	太めの沈線により器隆帯を描出。	加曾利E3
17	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	太めの沈線による曲線文。	加曾利E3
18	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し凹状文、1と同一個体。	加曾利E4
19	両耳壺	把手部片	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部は無文帯、楕状把手は欠損している、把手右側に隆帯による区画文を構成。	加曾利E3
20	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	楕状器具による縦位の集合条縄文。	加曾利E3
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位隆帯下に刺突による刻み文。	
22	浅形土器	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁はやや内湾し無文、胴部は割落。	
23	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	精製	底部がやや外に歪出す器形を呈す、器面は無文で磨きが見られる。	
24	深鉢	底部	覆土	褐色	石灰質母粒	隆帯直下か、器内は磨い。	
4-18号住居跡 (第16・17回・P.113)							
1	深鉢	口～胴下部	床面(倒臥)	黄褐色	砂粒	隆帯による槽内区画文、隆帯部上下に凹形文、槽内文は縦位の集合沈線、胴部は垂下沈線により無文帯と施文部を交互に、集合波状沈線	加曾利E3
2	深鉢	口～胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	4単位の小波状を呈し、鼓腹下に凹形文を描き横に隆帯が走り凹形文を繋ぐ、2段文様構成となる。縦位磨り消し曲線文、外面に灰化物	加曾利E3
3	深鉢	口～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁部、口縁に沿って器面2本の隆帯が磨り削られ、三角形の区画が構成される。区画内には無縄文土器4単位充塞施文。	加曾利E4

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	口~胴部	床面	淡褐色	砂粒	小波状口縁、肩部から口縁にかけて左右に沈線が伸びる。以下沈線による連続状文が上下方向に並ぶ。文様には縄文LR文が主。	加群料 E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微石英粒	口縁部肩部、直下に沈線による渦巻き文、横には縄文LR文の断片。	加群料 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁は無文帯でやや内傾する。以下縄文が充填され沈線による口状文を呈し中は無文。	加群料 E 4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	微黒色粒	帯状口縁部内、隆縁に口縁を繞り沈線で円形文が、縄文施文される。	
8	深鉢	胴部	床面	暗褐色	砂粒	上下に沈線による紡錘状文を対に配す。文様内はLR縄文を充満。	加群料 E 4
9	深鉢	口~胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆縁による矩形区画、口縁部に無文帯、胴部は縄文、無文区画を交互に構成。口縁部は無文帯で両手無文帯、胴部は縦位平行沈線で無文、縄文帯を交互に構成。縄文はLRを縦位施文。	加群料 E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微石英粒	口縁部は隆帯で両手無文帯、胴部は縦位平行沈線で無文、縄文帯を交互に構成。縄文はLRを縦位施文。	加群料 E 4
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	石英粒	内湾し口唇部は内湾ぎ伏である。断面は無文で磨かれている。	
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁部内、隆縁で横内、渦巻き文を繞り、隆帯上および口縁部に斜交文を呈す。文様下には縄文施文。	
13	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部は幅広い無文帯、併行する縦位帯区画内に縄文LR文を充満する。	
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微長石粒	沈線による口状文を繞り中に無節Lの縄文を充満施文。	加群料 E 4
15	深鉢	胴部	覆土	明褐色	微砂粒	垂下隆帯による縦位区画で縄文、無文帯。	加群料 E 3
16	深鉢	胴~底部	埋壁	淡褐色	少量石英粒	垂下隆帯により縄文帯と無文帯を隔す。縄文帯には縦位のLR文が施文される。	加群料 E 3
17	深鉢	胴~底部	覆土	暗褐色	石英帯母粒	肩部の隆帯状に肥厚し、口縁部は幅広い無文帯となる。胴部は無節LのL文を充満施文。	
18	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	長石粒	隆帯より口縁部文様を区画、文様区画内には集合条線文。	加群料 E 3
19	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	石英・長石粒	沈線による縦位区画、帯状工具による縦位波状条線文と無文帯。	加群料 E 3
20	深鉢	胴下部	覆土	淡褐色	微量金部母	隆帯より口状文を連続して置く。内部に縄文施文。	
4-19号住居跡 (第20図：PL14)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微石英粒	口縁部下に沈線が廻り、以下縄文施文。	
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	隆帯より口縁部に無文帯、以下沈線により左右に曲線文様の磨り消し施文。	終名寺
3	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	口縁に約2段に廻らされた隆縁上に、連続する斜交文が見られ、以下縄文が施文。	終名寺
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に隆帯が廻る。下位には曲線文様の磨り消し縄文。	終名寺
5	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯より口縁部に無文帯、以下沈線による曲線文様の磨り消し縄文。	終名寺
6	両子壺	把手部	覆土	茶褐色	微砂粒	幅広い帯状把手、把手部以下全面に縄文施文。	加群料 E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微石英粒	口縁下に隆帯が廻る無文土胎。	終名寺
8	深鉢	口~胴部	覆土	茶褐色	精製	微波状口縁下に廻りさらに2本の弧状垂下文を置く。極めて薄手の作りで、内外面良く磨かれている。	後期か
9	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加群料 E 3
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯による磨り消し縄文帯。縄文は縦位LRを充満。	加群料 E 3
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	幅広い縦位磨り消し縄文。	加群料 E 3
12	深鉢	胴~底部	埋壁	黄褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯。縄文主体はやや太め。極めて断前で風化が著しい。	加群料 E 3
13	深鉢	胴~底部	埋壁	黄褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯。縄文主体はやや太め。極めて断前で風化が著しい。	加群料 E 3
14	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	精製	沈線による口状文が施される。無文施文。	
15	深鉢	胴~底部	埋壁	黄褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯。縄文主体はやや太め。極めて断前で風化が著しい。	加群料 E 3
16	深鉢	胴部	覆土	褐色	微砂粒	瓜形斜交文。	三十稲堀
4-20号住居跡 (第21図：PL15)							
1	深鉢	口~胴下部	覆土	淡褐色	砂粒多	小波状口縁、隆帯により横内、渦巻き文で文様帯を構成。区画内は縄文を充満施文。胴部は3本単位の垂下沈線が見られる無文帯。	加群料 E 2
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に縄文帯有り。口唇部破断面三角を呈す。	
3	深鉢	胴部	床面	淡青褐色	微砂粒	縦位の無文帯に3本の沈線。左右は縦位縄文LRが施文。	加群料 E 3
4	深鉢	胴部	床面	淡褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯。縄文LRを縦位施文。	加群料 E 3
5	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	幅広い垂下無文帯、両側に縦位縄文施文帯。	加群料 E 3
6	深鉢	胴部	床面	灰青褐色	微砂粒	垂下沈線による無文帯。縄文LRを縦位施文。	加群料 E 3
7	深鉢	胴部	覆土	淡青褐色	微砂粒	併行垂下隆帯による縦位区画。縦位の縄文施文。	加群料 E 3
8	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微石英粒	沈線による曲線区内に縄文施文。	加群料 E 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による紡錘状文か、文様内に縄文施文。	加群料 E 4
10	深鉢	口縁~胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	無文。	時期不明
11	白行き深鉢	胴台部	床面	淡褐色	微砂粒	内湾気味に開く台部。4カ所の円形透かし孔。	加群料 E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
12	深鉢	底面	覆土	淡褐色	微砂粒	併行垂下沈線状。	加曾利E3
4-22号住居跡 (第24回I:PL115)							
1	深鉢	口～胴部	砂体土層	灰黄褐色	砂粒	大形土層、口縁部には隆帯より横柄溝書きを構成し、胴部は垂下沈線より縦文帯、横文帯を画し、横文帯には横柄溝書き下書きする。縦文はL形。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	精製	口縁下に縦位隆帯、隆帯による曲線文が、横文RL。	加曾利E3
4-23号住居跡 (第28～31回I:PL115・116)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部は幅広い無文、隆帯により横柄、溝書きによる文様帯を構成、横柄内文にはL形縦文を文様。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	砂	淡褐色	微砂粒	沈線より大きく溝書き文を描く、最も外側の溝書き帯の一部に無紋上の曲線文が施されている。	加曾利E4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯より横柄内文様を構成、横柄内文は縦文を充塞施文、また隆帯の交わる二文様帯には横柄内文が施される。	
4	深鉢	底面を欠く	覆土	淡褐色	砂粒多	L単位の小波状口縁を見す、口縁部文様帯は隆帯による4単位横柄溝書き文を描く。以下胴部には2本単位の沈線が垂下し、沈線間には羽状沈線文。	曾利3
5	深鉢	口～胴部	覆土	暗褐色	長石散在	L単位の肥手が付くとと思われるが欠損している。口縁2段の交互研削を有す隆帯、溝書き文から垂下する隆帯文、沈線の彫形文と縦位集積帯。	曾利3
6	深鉢	口～胴下部	覆土	淡褐色	微砂粒散在	口縁部は無文で隆帯帯で画される。隆帯帯には沈線と隆帯による内文を構成、縦文と並列な沈線文を並列し、以下は縦位の集合文。	加曾利E3
7	深鉢	口～胴部	覆土	明褐色	長石散在	沈線による横柄内文より隆帯による溝書き文を構成、口縁は4単位の小波状口。横柄内文、胴部に縦位の集合沈線および羽状文。	中期後半
8	両耳壺	口～胴部	覆土	淡褐色	精製	口縁にはほぼ直立、胴部に大きく溝書き文を隆帯で画く。胴部には横柄の小波状口付き、胴部には彫形が凸凹が散在。	加曾利E3
9	深鉢	胴～底面	覆土	明褐色	微砂粒散在	羽状文より横柄隆帯の対面に垂下、隆帯間には2本単位の沈線が口状文を描き内側、外側は斜沈線文で埋めている。	中期後半
10	深鉢	口～胴部	覆土	茶褐色	密母粒	小波状口縁、隆帯で口縁下に横柄内文を構成が、隆帯の交点に横柄内文、胴部は横柄内文に垂下無文帯が散在し、横文帯は羽状文。	
11	深鉢	口～胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	横柄溝書き文による区画文、以下胴部には上層部が縦字状となる沈線により画された無文帯を構成。	加曾利E3
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	沈線による横柄文、横文RLが充塞施される。	加曾利E3
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯で無文帯を画し以下縦文。	加曾利E3
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による口状文を描き、その間に縦字垂下文を配す。縦文Lを縦位施文。	加曾利E3
15	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	縦文短文、横位沈線を多段に廻らし、下位には口状文、縦字文を沈線で画す。	
16	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	文様帯を描く隆帯下に沈線で無文帯と縦文帯を画す。	加曾利E3
17	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	無文帯部に3本単位の垂下沈線が付けられる。	加曾利E2
18	両耳壺	胴側部	覆土	暗赤褐色	精製	口縁部は内凹し、胴部は立ち突縁となる。肥手部の内側に灰状の沈線文様を描き横文が半周される。肥手部はL形のみ下に垂下するの垂下。大形の横柄肥手で両端がかなり高まりを持ち、そのまま胴部へ高まりを持って縦位文様帯を区画、中には横柄、横3字文、肥手下にもL形縦文。	加曾利E3
19	深鉢	肥手部	覆土	淡褐色	微砂粒		加曾利E3
20	深鉢	底面	覆土	明褐色	微砂粒	縦文短文、垂下沈線。	加曾利E3
21	深鉢	口縁部	覆土	褐色	微砂粒	口縁に沿って沈線、下部に朝東文列。	
22	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に沿って隆帯が廻り、以下斜めの沈線文。口縁部内側に肥厚。	
23	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁は沈線で画されやや肥厚する。以下縦方向の沈線が施される。	
24	深鉢	口縁部肥手	覆土	灰黄褐色	精製	縦長円形の透かし孔を持つ。肥手隆帯は隆帯状を呈しそのま下下部に及びて文様構成、区画内には縦位の沈線文。上部部に隆帯による溝書き文。	
25	深鉢	口～胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部内面に縦直し口状隆帯は三角を見す、口縁上部から斜めの集合沈線の彫りまで施文される。肥り付の隆帯による縦位、縦位の沈線文。	曾利2
26	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	微砂粒	口縁部に隆帯帯よりそこから2本の隆帯が溝書きに垂下、中には縦位の集合沈線文、中央に波状垂下文が施文される。	曾利3
27	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯を縦位、斜位方向に貼り付け、間隙に斜めの集合沈線を配す。	曾利4
28	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆帯を縦位、斜位方向に貼り付け、間隙に斜めの集合沈線を配す。	曾利4
29	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の集合条線上に波状沈線が垂下。	
30	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	長石散在	隆帯の隆帯で区画、間には連続のハの字状沈線を描く。	曾利4
31	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	精製	横文には斜めの集合沈線を施し、その上に貼り付け横柄により斜位方向の横柄文付から縦位の波状文を付す。	曾利3
32	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯を縦位、斜位方向に貼り付け、間隙に斜めの集合沈線を配す。	曾利4
33	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による縦位縦杉文。	曾利4
34	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	簾状工具により溝書き文と波状状の沈線文様を描く。	草草文系
35	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位の波状集合沈線と無文帯	加曾利E3
36	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による溝書き文。	草草文系
37	浅鉢	底面	覆土	淡褐色	微砂粒	3本単位の垂下沈線がかなり密接して施文される。	加曾利E3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-1 町住居跡 (第34回：PL117)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	上下2段に沈線により対向する紡錘状文を描き、文様内を縄文LRを縦位に並列施文。	加曾利 E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に無文帯を描く横位隆帯、以下隆帯で両す厚直線の無文帯で曲線文を構成。縄文はL施文。	加曾利 E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯、さらに微隆帯による渦巻き文。	加曾利 E 3
4	浅鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文で内外面研磨、縄跡孔あり。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曾利 E 3
6	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位に平行沈線。	後期
7	赤型土器	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁に短く立ち上がる、肩部には横位の横状つ手が連続して付されたものと思われるが剥離。形は薄く、表面は研磨。	加曾利 E 3
8	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に「角形」の平面帯を持つ突起を有す。帯面には2つの同形文、下位には円孔を有す。その下位には角形を待つ横位の隆帯が(2)条走りこれを8字文で繋いでいる。また突起部上面には沈線による垂形文を施す。	期之内2
9	両耳土器	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯回り横状つ手がつくものと思われるが取り手部は剥離。	加曾利 E 3
10	白付土器	脚台部	覆土	淡茶褐色	砂粒	ハの字に開く脚台部口、高さはあまりない。器内底面に灰化付着。	中期後半
11	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	胴部片利用、やや楕円を呈す。縄文あり。	中期後半
12	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	円形の小型品。	中期後半
13	土製円盤	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	円形の小型品。	中期後半
5-29 町住居跡 (第3・38回：PL117・118)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部やや内傾。隆帯による渦巻き文、楕円文構成。渦巻き文は厚形。	加曾利 E 2
2	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	波状口縁、口縁部には横内区画文並列渦文を並列施文、口縁部には三角の短文が並列する。帯面口と磨かれている。	加曾利 E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	隆帯による渦巻き文、楕円文か、楕円区画内には縄文施文。	加曾利 E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	口縁部に楕円文、以下沈線による円状文か。	加曾利 E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	やや内湾し口縁下に波状沈線が廻り、胴部には沈線による円状文。	加曾利 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	やや内湾し口縁下に横位沈線、以下細縄文LRを横位施文。	加曾利 E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に沈線による横楕円文か、縄文LRを横位施文。	加曾利 E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文施文。	加曾利 E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に沈線による横楕円文か、縄文LRを横位施文。	加曾利 E 3
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による無文帯、縄文帯を区画。縄文帯には波状垂線文。	加曾利 E 3
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による無文帯、縄文帯を区画。縄文帯には波状垂線文。	加曾利 E 4
12	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯に垂下隆帯が付くか、隆帯下には斜位の沈線。	曾利 3
13	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	微砂粒	縦位の集合沈線内に一条の刺突文列が見られる。	曾利 3
14	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の平行沈線、斜位の集合沈線文。	曾利 3
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位の平行隆帯、および縦位集合沈線施文、沈線下に横位沈線を描く。	曾利 3
16	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の平行沈線、横状工具による波状集合沈線を縦位、縦位方向に施文。	曾利 3
5-69 町住居跡 (第2-4回：PL119・120)							
1	深鉢	口・底部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁がやや内傾した無文帯、以下縦位の縦位縄文LRを密接施文。胴下部の帯面施文により見られている。	
2	深鉢	口・底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	4単位位の波状を呈す。帯面部に渦巻き文並列、壁のように長円文が見られる渦巻き文からも長円文沈線。胴部は柳形貝による集合状沈線文。	曾利 3
3	穿孔罎付土器	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁にはほぼ直立し、胴部分はやや上向きに張り出し円孔を有す。やや丸みを持つ胴部には沈線による垂下文、渦巻き文を施す。胴部には無筋LRを施文。	
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯で囲まれた無文帯、隆帯から2本単位の隆帯が垂下し胴部を縦位に区画。区画内には縦位の集合沈線文を施文する。	曾利 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部隆帯による楕円文様、さらに楕円に2本の波状垂線、以下波手文を有す厚下隆帯文による区画を構成し、区画内には縄文LRを縦位施文。	加曾利 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒多	口縁下に2本の隆帯を廻らす。口縁部には沈線による横位平行隆帯を描く。帯内波状を施文。	
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位隆帯文により口縁部文様帯を区画。中には隆帯による弧状文を描き、帯位の沈線で埋める。胴部には垂下沈線および波状沈線、地文は縦位L施文。	
8	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	帯位に有す2本の垂下隆帯による無文帯、縄文帯を構成。縄文帯には波状の垂下沈線文。	加曾利 E 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	縄文施文とし、沈線による楕円文、下位に複数の垂下沈線文。	加曾利 E 3
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	沈線による楕円文、縦位の円状文を描く。円文内に縦位の沈線が見られる。縄文帯縦位LR。帯面はかなり風化している。	加曾利 E 3
11	深鉢	胴部	床面	暗褐色	微砂粒	全面に縄文LRが縦位密接施文されている。	

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	形 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
12	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	隆帯による溝書き文を2段に施す。	唐草文系
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部内面に肥厚し断面三角を呈す。口縁下に交互斜突文を持つ隆帯溝書き文。その下には2本の横位隆帯。	
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に隆帯が廻り、以下縦位の集合沈線。	
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	横位隆帯下に溝書き文廻りには放射状に沈線。	唐草文系
16	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	2本の隆帯による溝書き文と下に繋がる併行溝下文。溝書き文には放射状の沈線文が付けられる。	唐草文系
17	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	放射する隆帯の交点部から垂下隆帯による約状文。沈線を放射状に施す。	唐草文系
18	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	2本の隆帯によるJ字状文。地文には斜位の集合沈線。	唐草文系
19	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯下に両手の垂下隆帯。周りに弧状沈線文。	資料3
20	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部に垂下溝文を施し縦位の隆帯が見られる。	資料3
21	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に斜位の集合沈線。端部内側が肥厚する。	資料3
22	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に斜位の集合沈線。	資料3
23	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	併行し下部が広がる隆帯間に格子状沈線文。地文には弧状の集合沈線。	資料3
24	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による弧状文。以下集合沈線を多方向に描く。	資料3
25	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位2本隆帯。地文には斜位集合沈線。	
26	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	地文に縦位の垂線文。沈線による溝書き文。平行溝下文。	資料3
27	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	微砂粒	隆帯による横位区画文様を描く縦位の沈線で埋める。横位文下位には2本の横位沈線が廻る。	
28	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	沈線による横位文。溝書き文を描くものと思われる。横位内には弧状の垂線文。断面よく見られる。	
29	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	碧石片混入	口縁部やや丸みを有し、幅広い縦文。下位に2本の横位隆帯を廻らし、縦に1本の隆帯が垂下する。隆帯下には縦位の集合沈線が施される。	資料3
30	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による同心円文。	
31	土製円盤	胴部	覆土	灰茶褐色	金雲母	縦位の沈線。	
32	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部端部が内側に折り返されて肥厚。幅広い口縁下に横位の隆帯。断面に炭化物付着。	
33	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金雲母	折り返し口縁。口縁部から隆帯が垂下か、断面には沈線文。	
34	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位隆帯。地文には斜位集合沈線。	
35	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位文を有す横位隆帯。縦下には交互斜突文が見られ、さらに沈線による垂線文。放射状文。	
36	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁上面。直下に隆帯による溝書き文。さらに口縁から垂下する。隆帯間には弧状沈線文。斜突文が見られる。	唐草文系
37	深鉢	肥子片	覆土	灰茶褐色	微砂粒	隆帯より一方向に溝書き文。中央部分が突起し横位肥子片となる。溝書き文から左右及び下方に隆帯が廻り、区画された集合沈線が施される。	唐草文系
38	深鉢	肥子片	覆土	茶褐色	白色微砂粒	平行溝状で中央、内面に円窓を有し、両面に沈線による三叉文が見られる。表面には粗みを有す隆帯で縦長沈線文、縦位文。	
39	深鉢	肥子片	覆土	暗茶褐色	金雲母粒	中央に横位の溝かし窓を持つ大形の肥子片。手前が横状になり両側の隆帯が下って溝書き文を作る。縦線には沈線。交互斜突文が見られる。	唐草文系
40	深鉢	肥子片	覆土	灰褐色	微砂粒	本體状の口縁部肥子片。3方向に長円形の窓を有す。側面には隆帯。沈線より端部溝書き文を施す。下位には集合沈線施される。	唐草文系
41	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	平行溝下文隆帯による横文帯。縦文帯。縦文は縦位のL状。断面で見られる。	加資料E3
42	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下隆帯文間に縦位の沈線が粗く施される。	資料3
43	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による平行、弧状および末端が溝書きとなる垂下文。器内の溝い小形胎。	唐草文系
44	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の沈線。	
45	深鉢	底部	床面	茶褐色	微砂粒	縦位の極めて細い垂線文。一部に横位の沈線が覗きされる。	資料3
46	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	
47	浅鉢	口縁部	床面	赤褐色	微砂粒	口縁部や肥厚し断面三角を呈す。無文で外面は良く磨かれている。内外面に垂折が見られる。	加資料E3
48	土製円盤	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	底部片を利用。	

5-20号住居跡 (遺50-52回: PL121・122)

1	吊り手土皿	ほぼ正形	床面	灰褐色	砂粒多	胴部は無文。口縁部が細く文様帯を有す。口縁に一對の縦位隆帯が付き、吊り手部には断面溝状に付く。4本の横位隆帯が付き、口縁部から吊り手部横状突帯側面には沈線による溝書き文が、さらに互角文様などが見られ、端部隆帯帯が上より手前部分にかけて施文が付けられる。底部中央には横位後の穿孔有り。吊り手中央部を欠いている。	中期後半
2	深鉢	口・胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に2本の隆帯が廻り4本の溝書き文帯を提出し、2本の隆帯が垂下し逆向きの溝書き文、透線するJ字状文を施す。地文は斜位集合沈線。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部に垂下溝状隆帯が廻る。隆帯に沿って平行斜突文帯。断面から見ると溝書き溝下文。黄灰部からは灰状垂下。地文には重なり弧状沈線文。	唐草文系

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	口-胴下部	覆土	茶褐色	金雲母	口縁部に肥厚した無文帯を持ち、縁帯により連続したU字状文を2つ1組に並べ、それぞれ単位を高さ階帯で繋ぎ、U字内には交互に集合状縁線。 口縁部に無文帯、横位に2本縁帯が廻り一部は褐色き文を構成、縁帯下には上部は褐色き文なる帯下縁帯文、地文には交互に集合状縁線。 口縁部内側、帯状の縁帯が上向きに付き、下部に円形断文を施す。 以下胴部には縁帯による褐色き帯下文を縦向きに放射状の状に施す。	資料 3
5	深鉢	口-胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に無文帯、横位に2本縁帯が廻り一部は褐色き文を構成、縁帯下には上部は褐色き文なる帯下縁帯文、地文には交互に集合状縁線。 口縁部内側、帯状の縁帯が上向きに付き、下部に円形断文を施す。 以下胴部には縁帯による褐色き帯下文を縦向きに放射状の状に施す。	縄文系
6	浅鉢	口-胴部	砂土上面	黄褐色	砂粒多	縁帯による横間褐色き文構成、区画内には縦位交線施文を帯、褐色き部分放射状に施文、胴部帯下交線による縦帯施文、縄文帯区画、縄文L帯施文。	加群利 E 3
7	深鉢	口-胴部	床面	灰白色	微砂粒	口縁下に円形断文を持つ縁帯が廻る。胴部には縦位に3本縁帯の帯下上縁文と縄文帯を施し、胴中に縁帯褐色き文を持つ。縄文は縦位R施文、口縁部施文。	加群利 E 3
8	深鉢	口-底部	床面	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に円形断文を持つ縁帯が廻る。胴部には縦位に3本縁帯の帯下上縁文と縄文帯を施し、胴中に縁帯褐色き文を持つ。縄文は縦位R施文、口縁部施文。	加群利 E 3
9	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	砂粒多	小穴状口縁を見す。口縁文縁帯は縁帯による横間褐色き文を構成、中には斜位の交線施文。胴部には受遺の交線による無文、縄文帯、帯面風化。	加群利 E 3
10	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	口縁部に2本の横位縁帯が廻り突起状有す。縁帯間に横位の帯のみ文、以下縄文L帯を縦位施文。	加群利 E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	口縁部に肥厚した無文帯、横位の交線下には縄文L帯が全面に施される。突起した胴部に縦の交線が一部垂直される。	
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	口縁部肥厚した無文、横位の交線下には縄文L帯が全面に施される。	
13	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	交線で口縁部に無文帯を施す。以下縄文施文、焼物痕あり。	加群利 E 4
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	縄文L帯全面施文後、波状帯下縁線文が描かれる。	
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消した縄文帯。縄文帯に波状帯下縁線。	加群利 E 3
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	縁帯により両端内側に褐色き文を持つ横間文、中には斜位集合状縁線。胴部には放射状下文、帯文の放射状縁線。口縁部に3本の帯状縁線文。	縄文系
17	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位の交線、2本の縁帯で帯状縁文を施す、つぎ部分に褐色き文。長穴内には縦位の集合状縁線、文様付帯下には縁線による褐色き、帯状の交線。	資料 3
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に2本縁帯の縁帯が廻り、下位の縁帯には褐色き文が描出される。縁帯間には縦位の交線施文。縁帯下には斜位の交線施文。	縄文系
19	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	金雲母	口縁部に肥厚した無文帯、そこからやや広がるとして2本の縁帯が廻り下す。帯文は縦位の集合状縁線。	資料 3
20	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口縁部帯を欠いている。縁帯による横間文区画、縦位の交線施文を施す。以下く字に折れた胴部となる。	縄文系
21	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	縁帯により両端内側に褐色き文を持つ横間文、中には交互放射状文を有す帯状の併行交線をはきみ放射状縁線。胴部にU字状、帯文縦位の状縁線。	縄文系
22	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縁帯による横間褐色き文構成、褐色き部分は褐色き文で高まり縁帯が先行に伸びる。地文には交互放射状有す併行交線、上下に斜位の集合状縁線。	
23	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	把手部分を欠損、肥厚する縁帯で縦線状の褐色き文。上下左右に縁帯が廻り下位には褐色き文。胴部には斜位交線を持つ交線斜位集合状縁線を施し。	縄文系
24	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	横位の低縁帯下に褐色き帯部帯下。地文には縦位の交線施文。	縄文系
25	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒多	2本縁帯を持つ褐色き帯部文。褐色き文から2本の帯下縁帯。地文には上帯には縦位、横位に、以下斜位の交線施文。	縄文系
26	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	2本縁帯の縁帯による青文様を施す。地文には斜位の集合状縁線施文。	縄文系
27	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縁帯による横間文構成、褐色き部分には褐色き文で高まり縁帯が先行に伸びる。地文には交互放射状有す併行交線、上下に斜位の集合状縁線。	資料 3
28	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	縦位の併行縁帯。地文には縦位交線施文後横位の交線施文を3本施文。	縄文系
29	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位に波状粘土部を貼り付ける。地文には縦位の斜位の条線施文。	縄文系
30	深鉢	把手片	覆土	褐色	微砂粒	上面部が丸く肥厚する口縁把手片、帯面には縁帯による縦S字文を施す。側縁部には円形断文を施す。	縄文系
31	深鉢	胴下部-底	覆土	灰褐色	微砂粒	全面に縄文L帯を縦位に施文。	加群利 E 3
32	浅鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	白色砂粒	口縁部帯肥厚、内外面共に研磨されている。赤彩痕あり。	加群利 E 3
33	有孔群付土器	口縁部	覆土	褐色	砂粒	口縁部直立、帯はやや上向きで突起する。穴は帯の付け根にやや斜めに開けられている。	時期
34	深鉢	胴部	砂土上面	灰褐色	微砂粒	口縁部、胴下部を欠く。無文で外面に研磨痕あり。	
35	浅鉢か	胴部	覆土	灰褐色	精製	全面に円形断文。赤彩痕見られる。	後期
5-1号石刀図録 (第99-61図: PL.123・124)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に突起部を有す。突起上部部は凹みを持ち片側口縁部に繋がる。突起下には褐色き文、横間文が描かれる。以下白文状、縦手曲り文、縄文帯等。	加群利 E 3
2	両耳杵	口-底部	床面	黒褐色	砂粒	上面部が丸く肥厚する口縁把手を持つ。口縁下に斜位交線を持つ縁帯が廻り、胴部には交線による白文状と縄文帯を交互に配す。縄文は縦位の縦位施文。	加群利 E 3
3	深鉢	胴-底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	縄文を充てるU字状文、縦手文を対した2段様構成。	加群利 E 3
4	彩形土器	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁は短く直立し、胴部には縁帯が廻り横間把手を持つ。以下褐色き文、円形断文が見られる。	加群利 E 3
5	深鉢	胴-底部	床面	黄褐色	砂粒多	交線による白文状、縁帯文、縦文帯を縦位に配す。白穴内には縄文帯施文。欠け口は平頭で磨られて丸みを持つ。再利用品か、両耳直の可成り性あり。	加群利 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	縁帯による横間文施く、横間文内には縄文が施される。	加群利 E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による欄干文構成、縄文を充塞施文。胴部は縦位沈線による無文。縄文は反。	加判料 E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に突起部を有す。突起上端部は湾曲き棒に凹みを持つ。突起上には湾曲文が描かれ、縄文が施文される。下位には横位の沈線。	加判料 E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に沈線で両す横門文か、縦文RLが施文される。	加判料 E 3
10	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁に太い凹線および横位隆帯。以下縄文施文。	加判料 E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に無文帯、横位および縦位の隆帯により胴部縦位区画を構成。	加判料 E 4
12	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に無文帯、以下白伏の隆帯文。	
13	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	砂粒	口縁に横位隆帯。	
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線で両す縦位無文帯、縄文帯。	
15	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部は2本の縦位隆帯で輪状の文様帯を構成。口縁下には縦位の短沈線。	加判料 E 3
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	2本の隆帯による短沈文を連続させる。つなぎ部は凹状となる。短沈文には沈線で両す横文が描かれ、縦位の沈線が施文される。	資料 3
17	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による白伏文を細き縦位の集合条線で埋める。	加判料 E 4
18	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯による欄干文、および沈線による湾曲き文が見られる。欄干文内には斜位の集合沈線。	資料 3
19	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部無文で横位の隆帯、下位には白伏の隆帯で両された無文帯、縦文RL。	加判料 E 4
20	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	口縁部無文で横位の隆帯、縦位の併行隆帯が付く。器面の荒れが著しい。	加判料 E 4
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位に隆帯、上位は縦位の沈線、下位には沈線による縄文、波状隆帯および短沈線が施文される。	資料系 4
22	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	精製	口縁部内面および肥厚。無文。	
23	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	精製	口縁下に浅い沈線跡。以下は無文。	
24	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	微砂粒	無文。器面は良く研磨されている。	
25	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文。	
26	深鉢	把手片	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に山形に突起、先端部は丸く平らである。内外面、および側面に沈線が行き渡る。	
27	深鉢	把手	覆土	暗褐色	砂粒多	白伏の突起片。表面に隆帯による湾曲き文。	
28	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	磨り削し縄文帯。	加判料 E 3
29	深鉢	底部	床面	灰褐色	砂粒	無文。	

5-7号住居跡 (3666-6801: PL124・125)							
1	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	砂粒	4単位の波状口縁、器面下に湾曲き文を配した隆帯による欄干湾曲き文様。以下胴部は第3平行沈線による無文、縄文帯を両す。縄文は反。	加判料 E 3
2	深鉢	口-胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	4単位の波状口縁、隆帯による欄干文様を重畳させる。以下器面は第3平行沈線による無文、縄文帯を両し。縄文帯には斜状条下文、縦文RL縦位。	加判料 E 3
3	深鉢	口-底部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	小器か、口縁部に隆帯による横S字文を描く。以下LR縄文を全面に縦位文施文。	加判料 E 3
4	深鉢	口-胴上部	覆土	灰褐色	砂粒	大形上器。口縁部は無文で大きく外反。文様帯は隆帯により湾曲き器の隆帯が太く肥厚する欄干湾曲き文を重畳して描く。胴部は縦位集合条下文施文。	加判料 E 3
5	深鉢	口-胴下部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に2本単位の沈線による連続文を6単位置き、胴部にも2本の縦位沈線を6単位隔下させその間に波状の条下文を描く。全面に縦列点状文施文。	資料 3
6	深鉢	胴-底部	床面	暗灰褐色	砂粒	4単位の短沈線帯を重畳させ、条下文内には太めの沈線による横位の平行線を充塞する。地文は無く、底部は僅かに丸みを持つ。	
7	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	白色粒	平行の横位隆帯、器面に湾曲き文が付されるが、上端は凹みを持つ。下位に反り状となる。平行帯間に横位LR、胴部には重下無文帯。	加判料 E 3
8	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	2本の沈線が付された縦位の隆帯。上端部が短沈に肥厚。地文にはLR縄文を縦位施文。	
9	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	第3平行沈線の磨り削し無文帯を両す。縄文帯には波状条下文を描く。縄文は縦位RL。	加判料 E 3
10	両耳壺	把手片	覆土	灰黄褐色	砂粒	大きく凹み、縁下部が両まる大形の環状把手片。内面には隆帯による欄干文を構成。区画内には斜沈線。	加判料 E 3
11	両耳壺	把手片	覆土	灰黒褐色	微砂粒	横S字文が付された環状把手片。隆帯による欄干文が見られる縄文が充塞施文されている。	加判料 E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による欄干湾曲き文、欄干内には横位波状沈線。以下胴部には縄文施文。	加判料 E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に突起文、隆帯による湾曲き文が描かれる。下位には隆帯による欄干文を構成。区画内には斜沈線。	資料 3
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部が5字状の隆帯文帯下。上部が口縁部突起状となる。地文には斜位集合沈線。	資料系 4
15	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に横位の隆帯による区画文帯。中に隆帯による横S字文を配し、上下に短沈文。	
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による欄干文を構成か。	加判料 E 3
17	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に2本の縦位隆帯が廻り、横位の把手が付くものと見られる。把手は土文帯。	加判料 E 3
18	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	隆帯による湾曲き文、横位隆帯。	
19	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による曲線文、地文には斜位、羽状の沈線跡。	資料 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
20	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	胴部に隆帯により横門文、渦巻き文の文様帯。横門文内には縦位の沈線文、口縁部は縦文で外反する。文様帯は以下の子に折れた横文胴帯になる。	加曾利E 3
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による白文文、横文文を交互に垂下す。	加曾利E 3
22	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	縦位、縦長の横文隆帯。地には縦位羽状沈線文。	曾利3
23	深鉢	胴部	床面	明黄褐色	砂粒	縦位の幅広隆帯。間には縦位の串線文。	
24	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文。内外面研磨。	
25	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は直立尖突、胴部に頸状に延びた平行隆帯が廻りこれらを繋ぐ楕円状の手。器面には赤彩。	加曾利E 3
26	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に頸状の小把手が付き、横位の隆帯が延びる。	
27	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	先端の山形に尖った角棒状具による刷突文隆帯。	三十軒場
28	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁に唇凸。2本単位の横位隆帯を2段施す。横文帯上には縦横刷突文隆帯LR、他の部分は無文。内面に1本の横位沈線。勝手に内外面研磨。	加曾利D 1

5-73号住居跡 (第1・72号：PL126)

1	深鉢	口～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横門渦巻き文様を連続させる。区画内文は縦位の集合沈線。胴部は2本の隆帯と弧状隆下文、肩に沈線。弧状隆下文を施す。	書草文系
2	深鉢	口～胴部	床面	茶褐色	砂粒多	口縁部に隆帯による横門渦巻き文様を連続させる。区画内文は縦位の集合沈線。胴部は2本の隆帯と弧状隆下文、地文には弧状の集合沈線を充満。	書草文系
3	深鉢	口～胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁4単位の隆帯による渦巻き状刷突文が付く。これを繋ぐ下向き弧状文。渦巻き文からは弧状、弧状文からは直線の垂下文。地には斜交集合沈線。	書草文系
4	深鉢	胴～底部	覆土	明茶褐色	白色砂粒	併行沈線で縦位区画し、胴は胴の集合沈線で埋める。さらに波状隆下文。縦位区画の沈線文が彫られている。	書草文系
5	深鉢	口～胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横門渦巻き文。渦巻き文上位は波状口縁部。横門文内には縦文LRを方向を変えて施す。胴部は垂下無文帯。縦文帯。	加曾利E 4
6	深鉢	口～胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横門渦巻き文。渦巻き文上位は波状口縁部。横門文内には縦文LRを方向を変えて施す。胴部は垂下無文帯。縦文帯。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横門渦巻き文を施す。渦巻きは不明瞭。胴部は平行沈線を垂下させた無文帯構成。横門内、胴部縦文帯ともにLRを縦位施す文。	加曾利E 3
8	深鉢	口縁部	床面	褐色	砂粒	口縁下に横位太沈線廻る。縦位の平行沈線および無文帯。横文は縦位LR施文。	加曾利E 4
9	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による横門、渦巻き文か、横門文内に凹形刷突文。胴部は垂下無文帯。縦文帯。	
10	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による併行垂下文、横門文、横門文内は波線と縦位施文が見られる。縦文は縦位の集合沈線文である。	加曾利E 2
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	赤色砂粒	平行沈線による縦位帯の肩文。縦文はLRを縦位に施文、下地に施された縦位集合赤線帯が覗きされる。	加曾利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	明茶褐色	微砂粒	渦巻き文が丸く縦状となり2本の垂下隆帯が繋がる。この隆帯を繋いで2本の隆帯を繋ぎ付けている。渦巻き文左右に沈線文。地には縦文LR縦位。	
13	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による横門渦巻き区画文。中には弧状沈線。胴部は垂下隆帯、赤状沈線か。	書草文系
14	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁、口縁に沿って沈線。波頭部から垂下波状沈線施す、縦位の沈線文。	書草文系
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部付された渦巻き文から続く太い隆帯が垂下する。	曾利3
16	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き文施す。内側は頸状の沈線文、外側には弧状、肩位の集合沈線を施文。	書草文系
17	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文、併行文、下位には縦位の集合沈線。	曾利3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位。縦位の横門隆帯文。縦位の集合沈線。	曾利3
19	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	貼り付け粘土層による横位波状文。地には平行沈線文。	曾利3
20	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	貼り付け粘土層による波状垂下文。地には羽状の縦位沈線文。	曾利3
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯文、沈線文。	曾利3
22	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	屈曲部に横位の平行沈線。以下隆帯による渦巻き文、縦位沈線文。	曾利3
23	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	隆帯による曲線文、地文には横位集合沈線。	
24	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	多角横位沈線間に連続赤彩文。器面風化。	
25	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	右形を呈す波状口縁部文。右側に4ヶ所の足を持った把手が付されるものが見られるが形が不明部分付文。	
26	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	頸状の隆帯が廻り、隆帯に沿って円形竹管文列。	
27	片口	口縁部	床面	茶褐色	砂粒多	器面に浅く作られた片口が付く。器面風化。	
28	小型深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	小型の土器。口縁部やや外反。	
29	浅鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	大形品。内外面研磨されている。外側に炭化物付着。縦に帯で2線の楕円形を持つ。一つは未塗装。	
30	浅鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁部胴部の肥厚しやや外傾する。無文。内面磨かずに赤彩。	
31	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	石灰粒	無文。	
32	深鉢	底部	床面	灰褐色	砂粒多	垂下沈線の端部が窪かに観察される。	加曾利E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
33	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	基下沈積の底部が僅かに観察される。内面研削。	加群E 3
34	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒・粘り	厚手の底部。	
5-74号住居跡 (第76・75号：PL127)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による横円溝巻き文、横円文内には縄文光腹施文。	加群E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位3本の沈積による無文帯、縄文帯にはR1縦位施文。	加群E 2
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位沈積による無文帯、縄文帯には波状基下沈積。縄文はR1縦位施文。	加群E 3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文や縦位基下隆帯で無文帯を両す。縄文帯には縦位の横位LR。	中期
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に横位沈積、以下縄文施文。器面風化。	中期
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	幅広い微隆帯で曲線文を描き、支様内に縄文光腹施文。	群名寺
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈積による横円文を左右に振り分ける様に描き、縄文光腹。中央に円形文。一部に撫でつけた様な押印文が観察される。	加群E 3
8	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯で屈曲して外反。粘土層を斜方向に陥り付。刺突を持った層状文から2本の陥り付けた土層が基下。地文には縦位2本単位の平行沈積文。	群名寺
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による縦長のU状文、地文には縦位の階台状波状施文後、横位平行線。	群名寺
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈積によるU状文、縄文LR縦位を光腹施文。両耳付か。	加群E 3
11	深鉢	胴部	覆土	灰色	微砂粒	浅い縦位の波状文、垂直細条線文。	
12	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	基下隆帯により無文帯、縄文帯を区画。縄文は縦位に無筋及を部分的に施文。底部がやや平れる。	加群E 3
13	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部近くの字に内陥。器面部は肥厚。微隆帯による曲線文を描き、縄文施文。	群名寺
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部短く内陥。沈積による磨り消し縄文文様。	群名寺 1
15	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	縄文施文後沈積による溝巻き文様細く。	後期
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯、平行沈積による矩形文、中には細縄文施文。	堀之内 2
17	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	口縁部に刺突文を伴う横位3本の沈積文。	後期
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微重母粒	小型土器。口縁に沈積による横位真横円文、波状基下文層。以下縄文LRを縦位施文。	加群E 3
19	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に横位沈積。以下刺突文を持つ磨り消し縄文。	群名寺 2
20	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微石灰粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	群名寺 2
21	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微石灰粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	群名寺 2
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微石灰粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	群名寺 2
23	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微石灰粒	刺突縄文帯を持つ磨り消し文様。	群名寺 2
24	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	刺突文を伴う沈積文様。	群名寺 2
25	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し、縄文帯。縄文は縦位の細縄文LR。	加群E 3
26	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	細縄文LR横位施文した縄文帯、以下は無文。	堀之内 2
27	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位の磨り消し縄文。	堀之内 2
28	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	磨り消し縄文帯。内面横位に4本の沈積。沈積文間には縄文施文。	堀之内 2
29	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	斜めに隆帯。器面風化。	堀之内 1
30	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁はくの字に折れて外傾。器内は厚手。	後期
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	器面風化しており文様不明瞭。	中期
32	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	大柄の刺突文。	三十船場
33	土製円盤	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文施文の刺部片利用。	中期
5-75号住居跡 (第81・82号：PL128)							
1	深鉢	口→胴部	床面	橙黄褐色	砂粒	幅広い無文口縁を有す。横位隆帯の磨り4か所から2本単位の基下隆帯が打付。隆帯間は無文。隆帯部分は横位の縄文を縦位施文している。	中期後半
2	深鉢	口縁部	伊	茶褐色	微砂粒	4角形の浅状。口縁部、隆帯による横円溝巻き文と縄文LRを縦位施文。胴部は基下沈積で無文。縄文帯区画。縄文帯内には縦位基下文文。	加群E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁下に横位沈積。以下沈積による連続状文様。縄文LRを光腹施文。	加群E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁下に横位隆帯を形成し、さらに隆帯を基下させ無文帯。無文帯を構成。縄文は縦位LR施文。	加群E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状部片、肥厚する隆帯が波状部に沿って磨り上部に刺突文配す。	
6	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁部や内陥し、刺突文が打付られる。以下縄文が横位。縦位に無文。口縁部は波状で巻き文帯が観察される。	加群E 4
7	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に突起文。上部部に向い、沈積により矩形文を描き、突起下には無文帯を有す。区画内には縄文LR縦位施文。	群名寺 1
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	石灰重母	沈積による文様。	群名寺 1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁下に縦位沈線。	
10	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁下から縦位集合沈線文。	加曾利E 4
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文地に縦位の隆部、縄文はLR縦位施文。	加曾利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文、縄文はRL縦位。	加曾利E 4
13	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による無文字帯構成、中には縦位長横間文を描く。縄文は縦位のRL。	加曾利E 3
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	微隆部による磨り消し縄文。	称名寺 1
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文LRを縦位に施文、横位の隆部、沈線文。	中期後半
16	深鉢	胴部片	砂	淡黄褐色	微砂粒	間に縦位斜交間文を持つ隆部文および縄文帯。	中期後半
17	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	精製	沈線による縦位結線状文描き、縄文LRを縦位施文。	加曾利E 4
18	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	微砂粒	沈線による口状文描き、縦位LR縄文を充填施文。	加曾利E 3
19	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	上下対し口状・口状文を沈線で描く。	加曾利E 4
20	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦沈線区画による磨り消し曲線文を描く。	称名寺 1
21	深鉢	口縁部片	砂	淡黄褐色	精製	横位押入隆部帯が2帯、以下沈線文。	堀之内2
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	石英粒	沈線で渦巻き無文字帯、地文に羽状の縦位集合条線文。	
23	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	無文。	
24	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	厚手の底部片、無文。	
5-76号住居跡 (3085・8682; PL.120)							
1	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	砂粒多	隆部による横間、渦巻き文。文様内は縄文施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁に沈線。以下縄文施文後沈線による曲線文を描く。	称名寺 1
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁本単位の沈線による横間文を縦位に描き、胴部にも2本単位の沈線より文様を描く。横間内は無文。縄文は口縁にRL施文、下部は縦位施文。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒多	隆部により口縁部に横間文帯構成、以下縦位沈線による縦位無文字帯を画す。横間内には縦位、胴部には縦位の縄文及び曲線文、帯高隆部。	加曾利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に縦位沈線、以下LR縄文を施文するが、施文がまばらである。	称名寺 1
6	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位平行沈線による無文字帯、縄文帯、縄文LR単部を胴上半部には縦位に、下半部には縦位文とする。施文は消し。	加曾利E 3
7	深鉢	胴部片	覆土	淡褐色	砂粒多	横位沈線下に縦位沈線で無文字帯、縄文はLR縦位施文。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位平行沈線で幅状の磨り消し無文字帯、縄文帯には縦位RL施文。	加曾利E 3
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による縦位無文字帯、縄文帯。縄文はRL縦位施文。帯面風化。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微石英粒	横位隆部下に沈線による縦位無文字帯を画す。縄文はLR縦位施文。	加曾利E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部外側に折り返されて肥厚、隆部による縦位長横間文を付し、地文には縦位の沈線文。	曾利 3
12	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	胴部で磨り消した縦位隆部から渦巻隆部文が重なり、さらに沈線による同心円の整地文が描かれている。文様内は縦位の集合沈線文で埋める。	草草文系
13	深鉢	口～胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒多	口縁に隆部による渦巻き文、口縁部文様部には縦位の集合沈線施文。渦巻き文下に2本の垂下隆部、さらにS字状垂下。地文は斜位集合沈線文。	草草文系
14	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位平行沈線、地文には斜位の集合沈線。	曾利 3
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位集合条線文。	
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文。	
17	両耳壺	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒多	口縁部はやや外傾して立ち上がる。胴部には隆部による横間文様、円形文。	加曾利E 3
18	両耳壺	把手片	覆土	灰褐色	微砂粒	突起状の把手片、4ヶ所に円孔を有す。先端部および下面にS字状の凹みがある。内面、把手上面に赤斑。	加曾利E 3
19	両耳壺	把手片	覆土	淡褐色	砂粒多	3本の隆部を合わせた形の環状把手。片側の外面には円形文、左右には渦巻き文を描く。	加曾利E 3
20	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し無文字帯、縄文は縦位RL施文。器内面研磨良。	加曾利E 3
21	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下平行沈線、曲線文、斜位沈線の下部帯が写取られる。	曾利 3
5-77号住居跡 (3091・9204; PL.120・130)							
1	深鉢	口～胴部	床面遺位	淡黄褐色	砂粒	口縁部沈線、4ヶ所の小突起に2個の円孔文あり。下部に垂袋状横間文。胴部に縦位の平行沈線。以下胴部は2個位の沈線により下向き2つの凹みの区画を7単位描き、3本単位の沈線による曲線、直線の垂下文を描く。	堀之内 1
2	深鉢	口～胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	口縁部隆部、胴部に2本の横位隆部隆部文を重なり8字文を4ヶ所画付するがその位置は不均等。このうち3ヶ所の凹み文を交互に口縁部の縦間の下がる3字文を挿入隆部文で描く。隆部文の凹み見えない3字文からは短間状の縄文帯が下がり斜位状に曲線文、直線文様を描く。他の3ヶ所には縦位の渦巻き文が描かれ、その間文は垂下曲線文、曲線文が描かれる。	堀之内 2

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
3	深鉢	胴部	伊休土器	灰青褐色	微砂粒	胴部に8字刷付文、これを中心に弧状の沈線文、渦巻き文を対称に施す。対称にも同様の文様を施す。口縁は凹縁下部が直線、脚状文、左右には3本単位の垂下文を施す。文様間には弧文を施す。器面磨蝕により荒面。	堀之内2
4	深鉢	口縁・胴部	床面	黒褐色	白色砂粒多量	口縁部を飾りし、以下沈線による3本、菱形の磨り消し文。弧文は単線L。	堀之内2
5	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁に大きく開く、器部僅かに内屈。口縁から押圧帯帯を下し、器部横位の押圧帯帯を繋ぎ、中央に刷付文・器面に刷付物多く付着。	堀之内2
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部内屈、沈線による横位弧文帯弧文は細線L&R。横位沈線文、器内外面研削。	堀之内2
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部内屈、沈線による横位弧文帯。	堀之内2
8	浅鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁下に2本の横位帯、口縁部内側僅かに肥厚。灰化物付着。	堀之内2
9	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	精製	縦位沈線、弧文帯、弧文重縦位L&R施文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	刻みを付す波状垂下隆帯。弧文には羽状の縦位集合帯弧文。	資料3
11	深鉢	胴下部	伊内	灰青褐色	微砂粒	沈線による弧文帯。	堀之内1
12	深鉢	底部	床面	灰褐色	微砂粒	器下沈線が無文帯。弧文帯を飾す。弧文は縦位L。器内は磨き作られた。	後期
13	深鉢	底部	床面	暗茶褐色	精製	弧文施文後縦位の平行沈線。	後期
14	小型土器	底部	床面	灰褐色	微砂粒	縦位平行沈線下部が着せられる。器面研削。	後期
15	小型土器	ほぼ穹形	床面	暗黒褐色	微砂粒	樽形を呈す無文土器。口縁部は突起状のものが付く可能性がある。器面研削され部分的に赤化が見られる。沈線し、部分的に器面磨蝕あり。	堀之内2
16	口土器	胴上半部	H-16-1	茶褐色	微砂粒	注口部を欠き、注口部対面側に輪状把手が付く。注口部から左右に横位の筋が、もう一方の把手下部で環状となり把手に繋がる。弧文で器面平滑。	堀之内1
17	皿	3分1次皿	H-16-5	茶褐色	微砂粒	蓋の形は薄いつば状で、中央に凹弧状のつまみが付く。16に組むもの。	後期
18	小型土器	ほぼ穹形	床面	灰褐色	微砂粒	小型で樽状を呈す。口縁部は小さく作られ、胴部は丸腹。器面に弧状の集合沈線文で埋め、口状の隆帯を対称に施す。以下下部は弧文で埋め付着、全体に磨蝕している。	堀之内2
5-29号住居跡(9996~9998)・Pl.131・132							
1	深鉢	口縁・胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横位弧文、中央に凹形文、凹文内にはL&R横位の弧文を施す。胴部は弧文施文後、器下2本沈線による無文帯および蛇行沈線文。	加資料E3
2	深鉢	口縁・胴部	覆土	灰褐色	砂粒	4単位の小波状を呈す。隆帯による横位渦巻き文を縦向きに施す。文様内には弧文を穿通施文。胴部は縦位輪状の磨り消し帯、および横位のL&Rに沈線による器下隆帯が施される。	加資料E3
3	深鉢	口縁・胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に隆帯に波線を飾り、胴部は沈線により横位連続波状文様施す。さらに内面に沿うように口状文様を組み合わせる。波状文下には手摺が施される。地文の弧文はL&Rに縦向きに施す。	加資料E4
4	壺形土器	口縁・胴部	覆土	灰青褐色	微砂粒	胴部に押行する隆帯が横り、等間隔に肥厚部が見られ縦方向の貫通孔。胴部は沈線による連続渦巻き文が配され、文様間に凹形文、赤点L施す。	加資料E3
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文と段歩が縦く走る横位弧文を施す。横位内には縦位の集合帯弧文。胴部は縦位磨り消し弧文、弧文はL&R施文。	加資料E3
6	鉢	口縁・胴部	覆土	灰青褐色	砂粒	口縁下に凹縁が走る無文土器。	加資料E3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	微砂粒	口縁に4単位の波状口縁、隆帯による横位渦巻き文を構成、区内内には無文帯。	加資料E3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒	隆帯による横位渦巻き文様。弧文施文。胴部は縦位の磨り消し弧文帯。	加資料E3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に隆帯による連続弧文を施し、弧状文内、および胴部には弧文文。	加資料E3
10	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	微砂粒	沈線による磨り消し文様か。	加資料E4
11	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線磨り、沈線文様。弧文はL。	加資料E4
12	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線磨り、以下併行沈線による凹状磨り消し文様か。弧文は口縁下は無文。以下は縦位施文、無筋。	加資料E4
13	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	横位弧文による横位平行沈線で上下を飾り、それぞれに沈線による凹状波状垂下文を施す。	加資料E3
14	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部は無文で、横位帯帯で飾られる。以下横位L&R縦位施文。器面に赤点が見られる。	加資料E4
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位弧文による横位平行沈線で上下を飾り、および弧文帯。弧文帯には沈線による器下隆帯が施される。	加資料E3
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	押圧文を有す隆帯を挟み沈線文様が見られる。	加資料E3
17	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	押圧文を有す隆帯文様と弧文が見られる。	加資料E3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	押圧文を有す隆帯を挟み沈線文様が見られる。	加資料E3
19	深鉢	底部	覆土	灰青褐色	砂粒	器下無文帯、弧文帯。弧文はL&R縦位施文。	加資料E3
20	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	ほぼ等間隔に器下沈線による無文帯。弧文帯を飾す。	加資料E3
21	深鉢	底部	覆土	黒褐色	精製	小型土器の底部部。やや太めの器下沈線。間には弧文が施される。器面は研削されている。	加資料E3
22	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多量	器全面に弧文L&Rを縦位施文する。	加資料E3
23	三角壺形土器	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	杯の胴部片と思われる。凹縁による組合せ渦巻き文を施す。	加資料E3
24	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波状を呈す口縁は内側に肥厚、隆帯による横位渦巻き文を構成。	資料3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
25	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	白色砂粒	口縁部文様は隆帯による横間文、区画内には横矢羽状の沈線文、胴部には縦位の矢羽状沈線文。	資料3
26	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線を有する隆帯で濃灰状文様、沈線による直線状文配。	加曾利E3
27	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横間渦巻き文、文様内は直線状の沈線文、胴部は縦位の沈線文。	資料3
28	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による横間渦巻き文を垂帯施文、文様内は縦位の集合沈線文、胴部には斜行沈線、渦巻き文が見られる。	資料3
29	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による大型横間文様と、沈線による直線状文配を有する。	加曾利E3
30	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による方形区画文を構成し、中には縦位の集合沈線を施文。	加曾利E3
31	両耳壺	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は無文で幅広に立ち上がる。口縁部文様は沈線による横長の横間文様が部分的に看取される。取手の鈎脚状が見られる。器面は良く研削。	加曾利E2
32	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に、2本単位の隆帯による濃灰状文、以下胴部は縦位の集合沈線文。	資料3
33	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	金雲母	口縁部近辺に外面直下には突帯状に隆帯が廻り、その上には縦位濃灰彫形文が施文される。	中期後半北陸系
34	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による横間文を鈎脚状に配す。	加曾利E3
35	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	併行する浅い沈線文様と複数単位の刺交文。	中期後半
36	深鉢	口縁～胴部	床面	暗黒褐色	白色砂粒多	大型土器、口縁直下より簷状工具による深い平行集合沈線を垂下させる。	加曾利E3
37	深鉢	口縁～胴部	床面	暗黒褐色	白色砂粒多	36と同一個体片。	加曾利E3
38	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に小さな機状取手。	加曾利E3
39	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に小さな機状取手。38と同一個体。	加曾利E3
40	広口香炉土器	口縁～胴部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁は直立し、併行する隆帯を帯びた機状部を有する。胴部は渦巻き文を基調とする文様を描く。器面はやや研削。	加曾利E3
41	有孔貯土器	胴部	覆土	黒褐色	精製	口縁部直立し、胴はやや上向きに付きほぼ等間隔に円孔が穿けられる。器面が磨られ、一部に赤塗。	加曾利E3
42	有孔貯土器	口縁部	覆土	黒褐色	精製	41と同一個体片、内面に赤彩。	加曾利E3
43	有孔貯土器	口縁部	覆土	黒褐色	精製	41・42と同一。	加曾利E3
44	両耳壺	取手	覆土	灰褐色	微砂粒	横状取手部分、太く作り出された取手部、文様は沈線による渦巻き文。	加曾利E3
45	深鉢	曲り取手	覆土	暗褐色	砂粒	鈎脚状に突起する。沈線により渦巻き文横間文様を描く。	中期後半
46	深鉢	胴部～底部	覆土	茶褐色	砂粒	底部片、取手の作り、ほぼ等間隔に垂下沈線、無文による成形跡あり。	中期後半
47	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文、底部に木葉痕あり。	後期前
48	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	内面の胴部部分に作成時の指面による押印文が見られる。	不明
49	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微小石夾炭	器面無文で研削見られる。底部中心に器面の割落痕が見られる。	中期後半
5～9号住居跡 (第103区：PL132・133)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	横間の透かし孔を有する三角形の口縁取手が付く。取手片縁部に凹線、下位には隆帯による横間渦巻き文を描く。以下無文部、横位沈線が伸びる。	加曾利E2
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に横位区画文、縦文Lを横位施文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	金雲母	胴部は隆帯による縦位彫形区画、区画間には縦位無文部、区画内には斜位の集合沈線を垂帯施文。	資料3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位隆帯による口縁部文様部、隆帯による渦巻き文、縦位の集合沈線文を付す。下位の隆帯には明み文。以下胴部は無文。	
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線で垂下縦位無文部、縦文部。	
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線で垂下縦位無文部、縦文部。	
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位隆帯状に隆起状文、以下刺交文。	
8	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯によるU状文を描き、中は斜位の集合沈線文。	資料3
5～9号住居跡 (第105・106区：PL133)							
1	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	精製	口縁部は内側に、隆帯で垂下渦巻き文を構成、以下縦文Lを隆帯直下には横位、帯は縦位方向に施文する。1～3は沈線による鈎脚状文。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	内側に凹線、縦・横文Lを横位施文。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縦文部を構成、縦文は隆帯部は縦位に内側は横位にLを施文。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縦文部を構成、縦文は隆帯部は縦位に内側は横位にLを施文。	加曾利E4
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縦文部を構成、縦文は隆帯部は縦位に内側は横位にLを施文。	加曾利E4
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縦文部を構成、縦文は隆帯部は縦位に内側は横位にLを施文。	加曾利E4
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縦文部を構成、縦文Lを縦位施文。	加曾利E4
8	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画、無文、縦文部を構成、縦文は隆帯部は縦位に内側は横位にLを施文。	加曾利E4
9	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	1の胴部片、縦位文様の磨り消し縦文。	加曾利E4
10	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	1の胴部片か、沈線による両対文様の磨り消し縦文。	加曾利E4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部は肥厚。隆帯による渦巻き文並び2本の隆帯がこれに繋がる。縦位置の流線を施文。	曹利3
12	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁は外側に折り返され肥厚。以下縦位の集合沈線文。	曹利3
13	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	2本の沈線により弧状文並び、斜位の集合沈線文を充果施文。	曹利3
5-81号住居跡 (第109図：P.133)							
1	深鉢	胴部	砂土層	淡黄褐色	砂粒	縦位併行沈線による扇状の飾り筋の下部で胴部縦位置区画。縦文帯は口縁部縦位置の流線状文帯とつながる。	加曹利E3
2	深鉢	胴部	埋埋	暗褐色	砂粒多	縦位併行沈線による扇状の飾り筋下部で胴部縦位置区画。縦文帯は口縁部縦位置の流線状文帯とつながる。	加曹利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	小湾状口縁部を呈す。隆帯による横門渦巻き文並び区画内には縦文帯を施す。	加曹利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁には内縁、隆帯で横位置された口縁部には2段の交互斜交文様施文。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	淡灰色	微砂粒	湾状口縁部。隆帯による渦巻き文が見られ、湾状部の口縁内側に沈線による縦文帯が見られる。	加曹利E3
6	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	砂粒	口縁は平湾状を呈す。隆帯による縦位口状文、左右には横位の集合曹利3	
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線部分、幅広い隆帯による縦横門文。	中期後半
8	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	微砂粒	僅かに内湾する無文口縁部。	中期後半
9	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	3本の縦位沈線、扇状工具による縦位の湾状集合沈線を施文。	加曹利E3
10	深鉢	取手片	覆土	黒色	砂粒	取手片と思われる。隆帯による渦巻き文、唐文文帯が取寄せられ、穴を受けたものと見られ黒色に着色している。	不明
5-82号住居跡 (第112・113図：P.134)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に隆帯による円形文、渦巻き文を描く。	大木系
2	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部は隆帯による横門渦巻き文様。隆帯に沿って一部交互斜交文。胴部には併行隆帯が施す。	曹利3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による横門渦巻き文が描かれ渦巻き部又は肥厚する。区画内には横位置の流線を施文。	加曹利E3
4	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部はほぼ直立し小湾形が付くものと思われる。口縁下に横位沈線、横位置の流線を施す。区画内には交互文、交互文が付ききれ。	加曹利E3
5	深鉢	口縁部	床面	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に横位の沈線。以下縦文帯施文による曲線文を描く。	加曹利E4
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯帯回り、隆帯下部には連続的斜交文が配される。	曹利3
7	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	併行する垂下沈線。沈線間には交互に縦文施文か、8×9は同一個体。	加曹利E3
8	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	併行する垂下沈線。沈線間には交互に縦文施文か。	加曹利E3
9	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	併行する垂下沈線。沈線間には交互に縦文施文か。	加曹利E3
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯帯回りそこからさらに隆帯が垂下、以下斜位の集合沈線。	曹利2
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横門文、曲線文様を描く。間隙には縦位の集合沈線。	曹利2
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位隆帯、地文に繋ぎ集合沈線文。	曹利3
13	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横門文、曲線文様を描く。間隙には縦位の集合沈線。	曹利2
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位の隆帯帯回り、下位に交互斜交文。	曹利3
15	浅鉢	胴部	床面	灰黄色	精製	口縁部文様は渦巻き文、縦位の沈線文か。内外面研削痕。	加曹利E3
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文か。、地文に繋ぎ集合沈線文。	曹利3
17	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	小湾状口縁部片、隆帯による渦巻き文。	加曹利E3
18	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	併行隆帯により渦巻きを基調とする曲線文並び、隆帯間には縦位沈線充果施文。	曹利2
19	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文並び、下位には集合沈線。	曹利3
20	深鉢	胴部	床面	暗灰茶褐色	石英粒	間を飾り筋す2本の併行隆帯を垂下、隆帯間には横斜状の沈線文。	曹利3
21	深鉢	床面	暗灰茶褐色	石英粒		縦位、斜位の集合沈線。	曹利3
22	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯帯回り、沈線による垂下文、斜位の集合沈線、表状文が描かれる。2×2は同一個体。	曹利3
23	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯帯回り、沈線による垂下文、斜位の集合沈線、表状文が描かれる。	曹利3
24	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯帯回り、沈線による垂下文、斜位の集合沈線、表状文が描かれる。	曹利3
25	深鉢	口縁部	覆土	黒茶褐色	金雲母細粒	口縁部横位、胴部には2本の垂下隆帯が付けられ、隆帯間には縦位の集合沈線文を施文。	曹利3
26	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部はほぼ直立か、無文で内外面に研削痕。	中期後半
27	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部中や肥厚し内湾する。無文。	中期後半
28	深鉢	底面	覆土	暗褐色	金雲母細粒	無文底面片、内面に灰化付着	中期後半

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	品 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-43号住居跡 (住118~120号; PL134~136)							
1	小型深鉢	口縁~胴部	床面	淡褐色	微砂粒	腹部は凹凸や線彫の彫製、口縁部は屈くたまりや内折する。口縁部には正面部を必ず面に凹形文および磨り取りが付し、裏面下には8字状貼付文が見られ、対面にも沈線を得る凹形凹付文が付く。腹部には本底彫製で刻まれた無文帯と渦巻文、曲線文帯を施す縄文式を充満施す。また文帯の交点、屈曲部には凹形文が行き渡る。口縁内面に反転物付着。	縄之内1
2	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	精製	4帯位の凹線状を呈す。底面部は磨り取るとなり内面に凹形刺突文を伴う。底面下には8字文を基調とした幾何学文帯が付く。以下部には沈線、陰帯による区画文様が見られるものと思われる。	縄之内1
3	蓋	ほぼ完全	床面	黒褐色	微砂粒	円筒型で平らな。中央に縁状の取手が付く。断面には凹形付けられている。前面には刺突文が充満された左右対称の沈線文様が見られる。	三十鈴橋
4	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁下に沈線による横円文線と縦文LRLを横位施文。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線で画した縄文文様帯で矩形文様施す。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	床面	黄白色	精製	微陰彫による垂下J字文、曲線文の組合せ文、J字文内には縄文LRLが充満施文されている。	称名寺1
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部わずかに肥厚し内傾、縦の併行沈線による縦区画内に縄文施文。	縄之内1
8	深鉢	口縁部取手	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部外側、楕状の取手が付きその上部部には帯状となるものと思われるが欠損している。前面には沈線による横円文線と縦文LRLが充満施文。	縄之内1
9	深鉢	取手	覆土	灰黒色	精製	円孔文有す突起文、胴部には縦位の沈線と区画内に縄文が施文される。	縄之内1
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状を呈し、底面部に肥厚した突起部が2重構成となる。凹形刺突文有す。以下部部には沈線による三角文線、曲線文施文。	縄之内1
11	浅鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	口縁部波状を呈し渦巻き上部部が突起した凹形取手、取手下が突起した形となり円孔を有す。口縁部には沈線で画された無文帯が見られる。	称名寺1
12	注口土器	口縁部注口	覆土	灰褐色	精製	注口部分、注口上部から口縁部に至る帯状突起が見られる。前面には沈線による曲線文と渦巻文充満する。	縄之内1
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	陰帯による渦巻文構成、区画内には縄文を充満施文。	加曾利E3
14	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	幅広い縦位磨り消し縄文帯。	加曾利E3
15	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	3本の沈線による縦位磨り消し帯。縄文は縦位のLRL施文。	加曾利E3
16	深鉢	胴部	床面	灰黒褐色	微砂粒	磨り消しJ字文を描く。	称名寺1
17	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	沈線による磨り消し曲線文様。	称名寺1
18	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁部に突起を有すか、平行沈線による磨り消し縄文文様、刺突文有す。	称名寺1
19	小型深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	微陰彫で画された無文帯で二角形、曲線文を描き、底面部には刺突文帯の凹形文が付される。無文帯内には縄文が充満施文される。	縄之内1
20	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	刺突文を有す貼付文から構成。縦位に3本単位の沈線が走り幾何学文様を画す。地文には縄文LRLを施文。	縄之内1
21	小型深鉢	胴部	覆土	茶褐色	精製	併行陰帯による無文帯で幾何学文様を画す。区画内は縄文施文と無文のものが見られる。	縄之内1
22	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	2本単位の陰帯で曲線文を描く。地文は縄文LRLを施文。	縄之内1
23	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	渦巻き磨り消し文様施す。	縄之内1
24	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	複数の平行沈線文様、区画内に縄文施文。	縄之内1
25	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位、縦位に2本沈線文、縄文LRLが施文される。	縄之内1
26	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	沈線で画した磨り消し縄文。	加曾利E4
27	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	沈線による彫形磨り消し文様。縄文はLRLの細線縄文施文。	縄之内2
28	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	沈線で区画文様を描き縄文施文。	縄之内1
29	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文と無文帯を横位連続した山形沈線文で画す。縄文は横位LRL。	後期
30	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	LRL縄文横位施文および縦位の磨り消し無文帯。	後期
31	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	紡錘状に垂下した陰帯の中を縄文で埋める。	縄之内1
32	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	全面に縄文LRLを斜位方向施文。	後期
33	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	砂粒	口縁に沈線施す。以下無文帯下に横位、縦位に沈線で矩形文様を描く。	縄之内2
34	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	平行沈線による曲線文様。	縄之内1
35	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	平行沈線による丁字文。	縄之内1
36	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	微砂粒	頸部に横位の平行沈線。	縄之内1
37	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	沈線による曲線文様施す。	縄之内1
38	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	T字状に走る平行沈線	縄之内1
39	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	頸部に横位磨り消し、渦巻き文にこれに接して3本単位の縦位帯状文様、さらに2本単位の沈線が併行、縦位に画される。	縄之内1
40	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位平行沈線文。	縄之内1
41	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	4本の垂下沈線、横には複数の横位平行沈線文。	縄之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
42	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	2本の沈線が横位に廻り内彫文から上に隆帯の対置状に見られるものと思われる。	堀之内1
43	小笠形土器	胴部	床面	暗赤褐色	微砂粒	胴部に横位沈線が見られ上下に溝巻き文が聞かれる。	堀之内1
44	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	口縁部は肥厚し、隆帯による溝巻き文、刺突文で飾られる。さらにS字文の下位にも溝巻き隆帯文が見られる。	堀之内1
45	深鉢	取手	灰褐色	微砂粒	円形取手、刺突文、内面には円形沈線文。	堀之内1	
46	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁部は肥厚し、隆帯による溝巻き文、刺突文で飾られる。さらにS字文の下位にも溝巻き隆帯文が見られる。	堀之内1
47	深鉢	口縁部突起	床面	黄白色	微砂粒	口縁部の隆帯突起、2本の隆帯隆帯を貼り合わせる。円形文、垂下隆帯が見られる。	堀之内1
48	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部隆帯で囲った文様帯を持ち、沈線による横文、刺突文を配す。以下は沈線による縦位の曲線文、刺突文を配す。意面研磨。	称名寺1
49	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線を伴う隆帯で横位溝巻き文を描く。溝巻き部分は口縁部突起状に高くなる。	後期
50	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	隆帯突起、突起内外面には沈線による円形文、以下胴部は2本単位の沈線による曲線文。	称名寺1
51	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	微砂粒	口縁部隆帯した隆帯突起、内外面両面に刺突文。	堀之内1
52	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁に付された隆帯突起、下位には沈線による白文文見える。	堀之内1
53	浅鉢	口縁取手	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に付された筒形取手、上面は円形で円孔とそれを囲む円形文、さらに突起部から横位に広がる隆帯は隆帯突起を構成か。	堀之内1
54	深鉢	口縁部取手	床面	黒褐色	微砂粒	口縁部隆帯厚し、沈線による溝巻き文を描く。筒状取手付胴部には沈線で囲った無文帯文。	堀之内1
55	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	隆帯による曲線文、円形文を描く。隆帯上端は口縁部に突起する。	堀之内1
56	浅鉢	取手部	床面	灰褐色	微砂粒	波状口縁部の突起部分、先端部が円状に延び内側に沈線を有し表面隆帯は筒状となり下部に沈線による溝巻き文。	堀之内1
57	深鉢	口縁部	覆土	暗灰色	微砂粒	波面部分、隆帯による溝巻き文を基調とした曲線文様を外内面に描く。中期後半	
58	筒形取手	取手片	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部に上部で交差させ2重となる筒状取手。沈線、刺突文を伴う。	後期
59	深鉢	口縁部突起	床面	灰褐色	砂粒	波状口縁部の波面部分が柱となり、横には三方向からの円孔が穿たれる。それ以外の円孔は隆帯に描き上げ彫刻に施される。	堀之内1
60	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	微砂粒	口縁部には沈線と併った隆帯の隆帯に円形刺突文。	称名寺1
61	深鉢	体部取手	覆土	暗茶褐色	微砂粒	胴部にS状に付く横位の取手、沈線および先端部に円形の刺突文が付される。	堀之内1
62	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	口縁部内側、沈線による横位円文を描く。胴部に横位沈線。	堀之内1
63	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁外面がやや肥厚する。	後期
64	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯はくの字に内傾する。胴部に横位押江文。	堀之内1
65	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯で囲まれた口縁部は内傾し、隆帯から繋がる溝巻き文を描き口縁部がやや高まる。以下無文。	堀之内1
66	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	白色砂粒	口縁部は内傾し、口縁上に円形の耳状突起文が付される。	
67	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部肥厚し、円形刺突文が見られる。下位に横位沈線。	堀之内1
68	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部に横位連続円孔文。	堀之内1
69	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	肥厚する口縁部に縦位沈線を持つ付文。	堀之内1
70	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯で無文部を囲す。	中期後半
71	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部に横位隆帯。	後期
72	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に隆帯廻りし無文部を囲す。	堀之内1
73	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部内側に肥厚、無文。	後期
74	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部隆帯肥厚、無文。	堀之内1
75	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文、口縁部内側に沈線廻る。	堀之内2
76	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文、表面研磨。	後期
77	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	無文、研磨が見られる。大型粗製土器。	後期
78	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	白色砂粒	無文の口縁部、表面研磨	後期
79	深鉢	胴部片	覆土	灰褐色	砂粒	横位付具による縦位波状文。	後期
80	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
81	深鉢	口縁～胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁部に内側に円形取手付有す波状文を4単位付す。以下横位に廻る隆帯に付した円形取手付文からは波状の垂下隆帯。	後期初頭
82	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯廻りし無文部を囲す。	後期初頭
83	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯の交点に円形の押江付文。	後期初頭
84	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒	隆帯の交点に円形の押江文。	後期初頭
85	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	T字状に付された隆帯の交点に円形文。	後期初頭
86	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位に隆帯。	後期初頭

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
87	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯文。	後期初葉
88	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	微砂粒	T字状に付された隆帯の交点に押正文。	後期初葉
89	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	断面三角の隆帯に深い押正文。904は同一個体。	後期初葉
90	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	T字状に付された隆帯。隆帯は断面三角で深い押正文有す。	後期初葉
91	深鉢	胴部	床面	灰黑色	砂粒	横位、斜位の隆帯が見られる。	後期初葉
92	深鉢	胴部	床面	暗褐色	微砂粒	横位隆帯に付された円形文から下位に隆帯が重下。	後期初葉
93	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯の接点に円形貼付文。	後期初葉
94	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位隆帯に円形の貼付文を付す。	後期初葉
95	深鉢	口縁部	床面	灰黑色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯を廻らす。押正文はやや乱雑に施文される。	堀之内1
96	深鉢	口縁部	床面	橙褐色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯を廻らす。	堀之内1
97	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口縁部に押圧隆帯を廻らす。隆帯、押正文とももしっかりとしている。	堀之内1
98	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	精製	口縁部押圧隆帯、内外面研磨。	堀之内1
99	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	口縁下に押圧隆帯が廻る。101は同一個体。	堀之内1
100	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯を廻る。押正文はやや間隔を空けて押される。	堀之内1
101	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	砂粒	口縁下に押圧隆帯が廻る。	堀之内1
102	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯を廻る。	堀之内1
103	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	押圧隆帯を廻る。	堀之内1
104	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	押圧隆帯。隆帯は細く押圧も不揃い。	堀之内1
105	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	低い押圧隆帯。口縁部はやや内屈。	堀之内1
106	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	精製	押圧隆帯。押正文や小さく押し方もやや乱雑。	堀之内1
107	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯を廻る。	堀之内1
108	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	押圧隆帯を廻る。口縁部を欠く。	堀之内1
109	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯。口縁部を欠く。	堀之内1
110	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	押圧隆帯。口縁部欠く。	堀之内1
111	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯に刺突文。	後期
112	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	弧状に付された隆帯。	後期
113	深鉢	胴部片	床面	灰黄褐色	砂粒	曲線的に付された隆帯の一部押正文。	堀之内1
114	深鉢	胴部	床面	灰黑色	微砂粒	縦位の隆帯、炭化物の付着顯著。	後期
115	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	隆帯が丁状に付される。117・121は同一個体。	後期
116	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒	頸部に隆帯が廻らされる。	後期
117	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒	T字状に付された隆帯。	後期
118	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に刺突文を配した併行沈線で大きく横波状文を描く。	後期初葉
119	深鉢	体部	床面	黄褐色	砂粒	刺突文を有した平行沈線で黄状文様。下位に縦位の短波線文が見られる。	後期初葉
120	深鉢	胴部	床面	橙褐色	赤褐色砂粒	無文製部片で内面良く研磨。	後期
121	浅鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒多	無文。器面荒れる。	後期
122	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	やや厚手の無文製部片。	後期
123	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	薄手で縦帯、縦位の集合細波線文施文。	後期
124	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁上部肥厚しやや高まり、左右に沈線が延びる。以下無文で横位隆帯が廻る。	堀之内1
125	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	微砂粒	上縁が凹む波状口縁を呈す。無文。	後期
126	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	砂粒	集合細波線による縦位の弧状文様。	後期
127	深鉢	胴部	床面	灰黄褐色	砂粒	無文製部片。器面やや荒れており、内外面に時の輪積み痕見られる。	後期
128	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	金粟母粒	無文製部片。	後期
129	深鉢	胴部	床面	橙褐色	微砂粒	無文の製部片。	後期
130	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	無文の製部片。	後期
131	深鉢	胴部	覆土	黒茶褐色	微砂粒	大型土器の無文製部	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
132	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
133	浅鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文の胴下部片。	後期
134	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	薄手で硬質、沈線による平行線文、隠り文、端部溝巻き文様見られる。胴之内2	
135	深鉢	体部取手	床面	灰褐色	砂粒	胴部に廻る横位の隆帯から2本の隆帯をX状に絡めた横状取手部分。	後期
136	両耳壺	取手片	床面	淡黄褐色	精製	幅広い横状取手、凹線の両端に円形押正文。	中期後半
137	両耳壺	取手片	床面	淡黄褐色	精製	幅広い横状取手3本の沈線と両端に円形押正文。	中期後半
138	注口土器	注口部	覆土	灰黒褐色	精製	注口部分、先端に向かってやや細くなる。先端部を欠く。断面は研磨。	後期
139	注口土器	注口部	床面	暗茶褐色	微砂粒	注口部片、短く先端部が僅かに欠くなる。	後期
140	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	胴部より口縁部を狭くし、横状取手を持つ。胴部には方向を変えた刺突文が施文される。	三十稲場
141	壺形土器	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁部外反、横状取手を有し、爪形の連続刺突文を横位施文。	三十稲場
142	壺形土器	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁部外反、胴部に横位矢羽状の連続刺突文。	三十稲場
143	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	連続列みを有す横位隆帯、以下胴部には本國形の刺突文。	三十稲場
144	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
145	深鉢	胴部	床面	灰黒色	精製	水調状の刺突文。	三十稲場
146	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
147	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	水調状の刺突文。	三十稲場
148	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
149	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
150	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	刺突文。	三十稲場
151	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
152	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
153	深鉢	胴部	床面	淡黄色	微砂粒	爪形の刺突文。	三十稲場
154	深鉢	胴部	床面	淡茶褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
155	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	刺突文および縦位の縦沈線。	三十稲場
156	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	刺突文。	三十稲場
157	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	円形の刺突文。	三十稲場
158	深鉢	胴部	床面	黒色	微砂粒	瘤状の盛り上がりを持つ刺突文。	三十稲場
159	浅鉢	底部	床面	淡黄褐色	砂粒多	厚手の底部片、砂粒目立ち断面は黒化。	後期
160	浅鉢	底部	覆土	暗褐色	微砂粒	無文、胴部は大きく開いて立ち上がる。	後期
161	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文で断面は研磨。	後期
162	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文底部片。	後期
163	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒	無文底部片。	後期
164	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	大形土器の無文底部片。	後期
165	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文底部片。やや器内溝い。	後期
166	深鉢	底部	床面	暗褐色	砂粒	無文、底面含め研磨されている。	後期
167	深鉢	底部	床面	黒褐色	砂粒	底面に銅代痕み。	後期
168	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文底部片。	後期
169	深鉢	底部	床面	暗褐色	砂粒	無文底部片、底面に銅代痕。	後期
170	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文底部片、底面に本葉肌。	後期
171	深鉢	底部	覆土	黒褐色	精製	無文、研磨されている。底面に銅代痕(細)。	胴之内2
172	梨身具	完形	覆土	暗赤褐色	精製	小型磨器品である。足形を呈し、端部は二つに割れ、内層は底面には直交方向に2か所の組通し穴が穿けられている。赤彩あり。	後期
5-84号住居跡(第134・135図：PL139・140)							
1	深鉢	ほけ完形	床面	茶褐色	砂粒	口縁部文様は隆帯による溝巻き指文、胴部は縦位押行沈線による磨り消し文。縄文は縦位押し施文。	加曾科E3
2	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒多	口縁部を欠く、胴部には2本の垂下沈線による磨り消し帯。縄文はLR縦位施文。	加曾科E3
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	沈伏口縁部片、溝巻き横円文。	加曾科E3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線により楕円渦巻き文様。	加群E 3
5	深鉢	胴・底部	床面	灰青褐色	微砂粒	小型部、胴部に押印文や土帯が認められ、以下沈線による口状文を8単位置き、中に縄文状を縦位置文。文様間に円形押印文。	加群E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線により曲線文様と文様内を縄文で埋める。	加群E 3
7	深鉢	口縁・胴部	埋没	灰褐色	砂粒	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文様と縄文で埋める。以下胴部は2本の垂下沈線による無文帯で縦位置文、間には縄文帯を縦位置文で後方に並列する。	加群E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位連続刺突文、その下に緩やかな波状沈線が廻り以下縄文無文。	加群E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位連続刺突文、その下に緩やかな波状沈線が廻り以下縄文無文。	加群E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位連続刺突文、その下に緩やかな波状沈線が廻り以下縄文無文。	加群E 5
11	深鉢	口縁部	覆土	明灰褐色	微砂粒	口縁に連続の刻み、以下横位沈線で面し沈線による磨り消し縄文。	加群E 3
12	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	隆帯による横楕円状無文、口縁部は無文でやや外反気味に立ち上がる。器面風化。	加群E 3
13	深鉢	口縁・胴部	床面	淡茶褐色	砂粒	口縁部はやや外反気味に直立、胴部は磨り消し。胴部には沈線により円形文、口状文、縦字文様、文様内を縄文で埋める。	加群E 3
14	深鉢	胴部	床面	淡茶褐色	砂粒	やや内湾する。隆帯による渦巻き文有す。	加群E 3
15	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	波頭部片、円形文内に放射状の沈線。	資料 4
16	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の集合沈線文。	資料 4
17	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部無文でやや内傾して立ち上がる。隆帯による曲線文様を描くものと見られる。隆帯の交点にやや斜めの細い貫通孔あり。内外両わずかに並列する。	加群E 3
18	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	幅広い無文口縁部片。	中期後半
19	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無筋し方を方向を定めて施文。欠け口部磨耗してより再利用品か。	加群E 3
5-55号住居跡 (第129回・P.140)							
1	深鉢	口縁・胴部	床面	暗褐色	砂粒	隆帯で楕円渦巻き文様と、縄文を並列無文、区画文には間に3個の並列押印文、胴部沈線により狭い縦位置磨り消し帯、間には縄文状を縦位置文で施文。	加群E 3
2	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文。	加群E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁部、隆帯による渦巻き文か。	加群E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波状口縁部に沿って沈線が見られ縄文施文される。	加群E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	全面に縄文状を縦位置文。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	波状口縁部、隆帯による渦巻き文か。	加群E 3
7	筒状甕	口縁・胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部無文でやや外反、沈線による口状文、縦字文、区画内には縄文が施文される。取手部分を欠く。	加群E 3
8	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位置磨り消し縄文帯。	加群E 3
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	幅広い沈線による縦位置磨り消し文。	加群E 3
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位置磨り消し縄文帯。	加群E 3
11	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	刺突文か、器面風化。	後期か
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縄文地文とし、縦位置波状無文文様。	大木系
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による縦文、沈線間磨り消し。	加群E 3
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	沈線により横長の三角文様、縦縄文を並列無文。	後期
15	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	精製	口縁部無文でやや外反、磨り消し横位隆帯帯。以下沈線による横楕円文、円形文様。	中期後半
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	隆帯による曲線文、および縦位の集合沈線文。	資料 3
17	深鉢	胴部	砂内	暗茶褐色	微砂粒	やや凹の空いた斜位の集合沈線文。	資料 3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	弧状沈線による線杉文。	資料 3
19	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	微砂粒	口縁部に押印隆帯。	堀之内 1
20	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	口縁部短く内傾、口縁下に横位押印隆帯帯。以下沈線で面した5本縦文文様。	堀之内 2
21	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁下に押印隆帯、以下横位の沈線文様。	堀之内 2
22	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の口縁部片、口縁内面に折り返されて肥厚する。	中期後半
23	経路付土器	胴部	砂内	淡茶褐色	微砂粒	ほぼ水平に張りだした筒に円孔有す。胴下より2本の隆帯が下がる。	加群E 3
24	深鉢	底部	砂内	茶褐色	砂粒	縦位沈線による磨り消しおよび縄文帯。	加群E 3
25	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位沈線による磨り消しおよび縄文帯か、器面の風化が著しい。	加群E 3
5-66号住居跡 (第142回・P.141)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部隆帯による区画文様を描き充填する。	加群E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部隆帯による区画文様と縄文光輝する。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に横位沈線越し沈線による磨り消し曲線。縄文・縄文は口縁部隆帯以下部位の取土施文。	中期末
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位沈線以下沈線による磨り消し曲線文。	加曾利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色土	微砂粒	口縁下に横位沈線廻り帯には列点状凹正文が見られる。以下縄文取土施文。	加曾利E 4
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	精製	沈線による曲線文様と縄文施文。器内外面研磨。	称名寺1
7	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	沈線と横位に列点文。	称名寺2
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁直下に横位沈線。以下無文。	後期
9	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	口縁上部に隆帯による8文字が突起状に付される。	堀之内2
5-87号住居跡 (第145図・PL141)							
1	有孔押付き土器	口縁-胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	胴部凡み有り。肩部に最大径を持つ。口縁はほぼ直立。胴はわずかに上向きに付き8字帯の凹帯が認められている。胴部隆帯は沈線より直下には縦の2本沈線および溝き文が、以下横位凹文、凹文揃き縁位の標本しが先施文されている。	中期後半
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁に横位沈線以下沈線による区画文様と縄文施文。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	砂粒	胴部片、口縁部は外反する。溝き文沈線文様。	中期後半
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波頭部突起片、口縁部から続く隆帯が上立ち上がり溝き文様を呈す。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	地文に斜位、縦位の集合沈線文、縦位隆帯による縦位、縦位の磨り消し文。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	外反する無文の口縁部片。	後期
7	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒	垂下隆帯による縦位区画。間には縦位の沈線文。	中期後半
5-88号住居跡 (第150・151図・PL141・142)							
1	深鉢	胴-底部	砂体土層	灰褐色	砂粒	沈線による溝き文を基調とする垂下文を施文。口縁部を欠く。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	砂内	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に凹形突起が付され沈線、凹形刺突文が見られる。口縁部隆帯は端部が凹状となる積門文様を画し縄文取土施文している。以下刺突文文。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線で画した部分に連続的刺突文。以下縄文施文。	称名寺
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に隆帯廻り、肥厚部分で繋がる凹形垂下隆帯か。	加曾利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	太沈線による垂凸文様続く。	加曾利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に縄文施文された横位沈線文様。	称名寺
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し縄文。縄文は縦位取土。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺1
9	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺
10	深鉢	胴部	床面	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺1
11	深鉢	胴部	床面	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺1
12	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺1
14	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口唇部平らに成形され両端に肥厚。縞密縄文施文後沈線による磨り消し文様続く。	称名寺1
15	深鉢	口縁部	砂内	淡茶褐色	微砂粒	口縁に横位の沈線文様。	中期後半
16	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	縄文地に沈線による縦手垂下文、穂髭孔あり。	称名寺
17	深鉢	取手	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に付された環状数本。沈線、刺突文が行われ、下位は縄文光輝された沈線文様続く。器内部に小型の鉢形土間か。	称名寺
18	深鉢	胴部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	縄文地に沈線による磨り消し曲線文様続く。	称名寺1
19	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による縦区画の磨り消し曲線文様続く。地文縄文施文。	堀之内1
20	深鉢	胴部	砂内	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文内に縄文光輝。	加曾利E 4
21	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	縦位隆帯に横方向に連続的凹文。地文には縄文施文。	後期
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯および刺突文。	三十船場
23	深鉢	胴部	砂内	淡褐色	微砂粒	刺突文を伴う隆帯文様。	称名寺
24	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	精製	口縁部隆帯で無文帯を画す。	称名寺
25	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	精製	沈線による平行線文様。	称名寺
26	深鉢	胴部	砂内	黒褐色	砂粒	集合沈線による縦位波状垂下文。	後期
27	深鉢	取手	覆土	灰褐色	精製	磨り取手、凹形で端部が縦く環状となる。側面には沈線文、刺突文有り。凹孔も見られる。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
28	深鉢	飾り取手	覆土	淡黄褐色	精製	飾り取手片、平内帯り状の端部曲書き沈線文様。	加曾利E 4
29	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	隆帯より凸凹形刺突文。	三十船場
30	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	角面刺突文を充塞。	三十船場
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
32	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	爪形状の刺突文充塞施文。	三十船場
33	蓋形土器	2分の1	覆土	暗褐色	砂粒	円形で浅い椀形を呈す、やや幅広い縁状突起が(4)カ所に行き渡る。	後期
34	深鉢	底部	覆土	淡灰褐色	砂粒	底面に基状の圧痕文。	後期
5-89号住居跡 (第155図：PL142)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に沿って横位沈線廻らし、以下縄文地に沈線による縦手曲下文か。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	Pt 1	黒褐色	砂粒	口縁部に無文帯を画し、以下縄文文、一部に沈線文。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部無文で横位の隆帯廻りそこから2本位の隆帯が垂下。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による横位文様構成か、隆帯に沿って短沈線文。	資料2
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による曲線文様とする間には垂下文。さらに上層には一対の円形刺突文。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	2本単位の垂下無文帯、縄文は縦位RL施文。	加曾利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	2本単位の垂下無文帯、縄文は縦位RL施文。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	全面に縄文RLを縦位施文、部分的に無文部分が見られる。	中期後半
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	斜交施文文。	三十船場
5-90号住居跡 (第158・159図：PL143)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部付近となり環状より凸凹状突起を形成する。横取取手から左右に隆帯が展開し、区画文様を構成し、以下縄文を施す。	称名寺
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁下に沈線による長尺状文様か、縄文施文、断面顕化。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による短尺状文様施文充塞施文。	後期
4	深鉢	胴部	床面	黄褐色	微砂粒	隆帯による無文帯画し、短尺文様構成か、文様内には縄文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	Pt11内	灰黑色	砂粒	縄文地に垂下波状沈線文。	加曾利E 2
6	深鉢	胴部	床面	黒褐色	砂粒	幅状の凸状垂下、地には縄文LRを縦位。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による重横位文様。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	2本単位の磨り消し波状沈線、地文には縦位の集合線文。	資料3
9	深鉢	胴部	Pt13内	黄褐色	砂粒	垂下沈線で画し、沈線による目状文、縦手文が垂下、縄文地文とする。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	微砂粒	磨り消し曲線文様。	称名寺
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による短尺文様。	後期
12	深鉢	胴部	伊内	灰黑色	精製	沈線文、刺突文見られる。断面研磨。	後期
13	深鉢	胴部	床面	灰黑色	砂粒	隆帯による斜交文、地文には縦位の集合沈線。	資料2
14	深鉢	胴部	伊内	淡黄褐色	砂粒	隆帯による横位、渦巻き文、横位文内には縦位の集合沈線。	加曾利E 2
15	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文。	称名寺
16	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	押正文。	後期
17	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形状の刺突文。	三十船場
18	鉢形土器	胴部	伊内	灰黑色	精製	刻み有す細い隆帯を横位に廻らす。内外面丁寧な研磨。	堀之内2
19	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	精製	無文、18の胴部片。	後期
20	深鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	精製	無文口縁部片、赤彩。	後期
5-91号住居跡 (第161図：PL143)							
1	鉢形土器	口縁-胴部	覆土	暗茶褐色	赤褐色粒	口縁部無文で、隆帯により画され、隆帯の一部が突起しそこから隆帯による起伏態無文。さらに突状文が描かれる。地には縦位LRが充塞施文される。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁-胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	口縁部隆帯で無文帯を画し、2本単位の磨り消し隆帯が垂下。地文にはLR施文施文。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に2本単位の横位沈線廻らし間には横位連続押正文付す。以下縄文地に2本単位の沈線による磨り消し曲線文様を施す。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	3と同一個体。	加曾利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	沈線で画された口縁部に列点状の押正文。以下縄文地に沈線による曲線文様を施す。	加曾利E 4
6	鉢形土器	胴部	覆土	茶褐色	赤褐色粒	幅広の磨り消し態を微隆帯で描く。地文にはLR施文。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による対向する目状文を2段に描き、区画内には縄文を充塞施文。	加曾利E 4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	2本の沈線によるU状文を上に、下段はU状文のみ。	加曾判E 4
9	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口唇に彫みを有す、沈線による磨り消し重三角文。	集之内2
10	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	刺突文やう模状隆部。	中期後半
11	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内側に折り返され内外面肥厚、以下無文。	中期後半
12	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒	楕状取手片か。	不明
13	鉢形土器	胴~底部	床面	暗茶褐色	赤褐色粒	小腹の底部から胴部は大きく開く。縦文LR施文。	加曾判E 3
5-99号住居跡 (第164・165号; PL143・144)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	金雲母	隆部による楕円渦巻き文、楕円文内には縦位LR施文を施文。	唐草文系
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	金雲母	隆部による楕円渦巻き文、楕円文内には縦位LR施文を施文。	唐草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	口縁下に横位沈線が彫る。以下3本単位の沈線および波状沈線文が磨り消す。	曾判3
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部波状を呈す、沈線で口縁無文部を画し、以下磨り消し縦文による文様を構成す。	加曾判E 4
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位波状隆部から約状の懸垂文、上位には斜位の集合沈線、下位には縦文LR施文を施文。	加曾判E 2
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位波状隆部から約状の懸垂文、上位には斜位の集合沈線、下位には縦文LR施文を施文。	加曾判E 3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	2本単位の重下沈線で縦位に画し、さらに波状重下沈線。地文には縦位LR施文を施文。	加曾判E 3
8	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒多	沈線による山脈状沈文を重下するが、1本単位の2本単位のが見られ、2本単位のは対称し渦巻状文様を呈す。	加曾判E 3
9	深鉢	胴~底部	床面	暗茶褐色	砂粒多	2本単位の重下沈線や縦位に画し、さらに波状重下沈線。地文には縦位LR施文を施文。7と同一体。	加曾判E 3
10	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	隆部による弧状文、隆部に沿って沈線が付けられる。以下胴部は縦位の集合沈線。	曾判3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	小波状を呈す、楕円渦巻き文を構成、中には斜位の集合沈線文。	唐草文系
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部内側に断面三角に突起、隆部による渦巻き重下文から左右に隆部が延びる。矢羽根状の集合沈線。	唐草文系
13	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部肥厚、隆部による渦巻き文から左右に隆部が延びる。前打集沈線文。	唐草文系
14	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁に楕円区画文、中には斜位の集合沈線を施文。	曾判3
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆部による楕円渦巻き文を構成、中には矢羽根状の模状集合沈線を施文。	曾判3
16	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	微砂粒	隆部による楕円区画文、中には横位波状および沈線によるコンパス文、刺突文が見られる。胴部は矢羽根状沈線文。	唐草文系
17	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆部による蛇行文様に沿って交互刺突文や渦巻き文を置く。	中期後半
18	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆部による重楕円文か、縦位の刻み文。	曾判3
19	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に隆部による重下沈線、底から左右に隆部が延びる。以下胴部には縦位沈線文。	曾判2
20	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆部による連環状から懸垂状文。弧状文内には縦位の集合沈線。	唐草文系
21	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部内側に肥厚、斜位の集合沈線文。	曾判2
22	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部波状を呈し突起文が付けられる。隆部により弧状沈線文、内側には交互刺突文や渦巻状文を施す。胴部の割断面。	唐草文系
23	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	微砂粒	4単位の突起を有し、口縁部には隆部により、波下に渦巻き文やS字状渦巻き文の懸垂文が重下す。地文には斜位の集合沈線を施文。	唐草文系
24	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	隆部によるS状渦巻き文が口縁部突起状に付けられ、さらに口縁からS字状渦巻き文の懸垂文が重下す。地文には斜位の集合沈線を施文。	唐草文系
25	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	隆部によるS状渦巻き文が口縁部突起状に付けられ、地には横位に集合沈線文。24と同一体。	唐草文系
26	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	横位の隆部からS字状懸垂文、地文には斜位、弧状の集合沈線文。	唐草文系
27	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	横位の隆部、下位には縦位の集合沈線。	曾判3
28	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆部による重弧状文、以下縦位の集合沈線。	曾判3
29	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	隆部による彫形の区画文構成か、以下横位に2本の隆部が彫る。区画文内には縦位の沈線文。	中期後半
5-99号住居跡 (第169・172~174号; PL145・146)							
1	深鉢	口縁~胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部文様は、隆部による楕円、渦巻き文置き、胴部は重下沈線で画した無文による縦位区画。縦文は楕円文内、胴部ともにRLを縦位施文。	加曾判E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	金雲母粒	隆部による楕円渦巻き文、楕円文内には縦文施文。胴部は2本の重下沈線により画される。縦文LRを縦位施文。	加曾判E 3古
3	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位渦巻き文の懸垂文、胴部は3本単位の重下沈線による磨り消し文様を施文。縦文はRLを縦位施文する。	加曾判E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	小波状口縁、隆部による楕円渦巻き文を構成、縦文LR施文。	加曾判E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	小波状口縁呈す、波面下に楕円文、中には縦文施文。	加曾判E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒多	隆部による楕円渦巻き文、楕円文内には縦文施文。	加曾判E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆部による楕円、渦巻き文構成か、口縁上側に凹線が彫る。	加曾判E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	小波状口縁呈す、波面下に渦巻き文を置く。	加曾判E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
9	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	小波状を呈す。渦巻き隆帯文様	加曾利E3
10	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	小波状口縁部。隆帯による楕円渦巻き文を構成。縄文施文。	加曾利E3
11	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	金雲母	小波状口縁呈す。波面下に楕円文。中には縄文施文。	加曾利E3
12	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による楕円文か。	加曾利E3
13	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯による矩形楕円文構成か。縄文Lを施文。	加曾利E3
14	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	波状口縁の波面帯で内湾する。隆帯による円形を基調とする文様を出す。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縄文Lを縦位施文後、3本単位の沈線による磨り消し文面下。	加曾利E3古
16	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	突起状の小波状口縁。波面下には隆帯による垂下兼手文施し。左右には縄文Lを施す。	曾利3
17	小型深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部を欠く。胴部には沈線による兼手文、口状文を交互に染下させる。	加曾利E3
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁の波頂部。隆帯により楕円渦巻き文面く。楕円文内には縦位の集合沈線。	草葦文系
19	深鉢	口縁～胴部	床面	暗褐色	砂粒	幅広い無文口縁で隆帯による楕円渦巻き文を構成するが、やや矩形を示す。内面には縄文施文。以下胴部には縦位本線文。	加曾利E3
20	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	波状口縁。波面下に隆帯による渦巻き文。	草葦文系
21	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に2本単位の隆帯による渦巻き弧状文配し。地文には矢羽根状沈線。	草葦文系
22	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に閉じ文有す隆帯が廻る。以下沈線文様か。	加曾利E3
23	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に斜突文。横位の沈線か。器面の荒れが著しい。	不明
24	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	押圧文を有す隆帯による横位連結楕円文。	加曾利E2
25	深鉢	口縁部	覆土	色調	胎土	横位隆帯に沿って斜突文。	称名寺1
26	深鉢	口縁部	床面	灰青褐色	微砂粒	横位隆帯に沿って斜突文。	称名寺1
27	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位2本の沈線間の隆帯状を呈し、斜突文が行される。以下胴部は縦位の集合沈線。	加曾利E3
28	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は短く外反。隆帯による渦巻き文から2本の隆帯が両側に繋がる。外反部は赤褐色。	加曾利E3
29	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	砂粒	刻みを有す隆帯で渦巻き文を描く。さらに下に繋がる垂下隆帯が認められる。	曾利2
30	深鉢	口縁部	砂内	淡茶褐色	微砂粒	小波状を呈す。口縁部。沈線より連続刻み文。以下胴文に曲線文様施す。	称名寺1
31	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線有り。沈線による口状文を縦向きに磨り消す。縄文Lは短くおよび縦位にLを施す。	称名寺1
32	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	石灰粒	口縁部欠。沈線で縦位無文帯を画す。無文帯間には縄文Lを縦位充塞施文し、L線による波状無文帯。	加曾利E3
33	深鉢	胴～底部	床面	茶褐色	砂粒	縄文Lを縦位施文後、2本の沈線による8単位の横線磨り消し帯。	加曾利E3
34	深鉢	胴～底部	覆土	淡青褐色	微砂粒	沈線で幅状な縦位無文帯を画す。無文帯間には縄文Lを縦位充塞施文。	加曾利E3古
35	深鉢	胴～底部	床面	黄褐色	砂粒	沈線で幅状な縦位無文帯を画す。無文帯間には縄文Lを縦位充塞施文。	加曾利E3古
36	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	3本単位の沈線による無文帯。地文にはLを縦位施文。	加曾利E3古
37	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線で縦位無文帯を画す。無文帯間には縄文Lを縦位充塞施文。二次的に欠を受けている。	加曾利E3古
38	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線で縦位無文帯を画す。無文帯間には縦位の波状集合沈線。	加曾利E3
39	深鉢	胴～底部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線で縦位無文帯を画す。無文帯間には縄文Lを縦位充塞施文。器面わずかに丸みを有す。	加曾利E3
40	深鉢	底部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の底部片。下端部がやや張り出す。底部。胴部に研削痕。	中期後半
41	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は短く立ち上がり。胴部に廻る2本の隆帯に等間隔に横位取手が見られる。胴部には幅広い沈線による渦巻きを基調とする文様を描く。赤色。	加曾利E3
42	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は短く立ち上がり。胴部に廻る3本の隆帯に等間隔に横位取手が見られる。胴部には幅広い沈線による渦巻きを基調とする文様を描く。赤色。	加曾利E3
43	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	口縁部文様帯を両す隆帯が肥厚。端部渦巻き沈線施文。	加曾利E3古
44	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	弧状に付された隆帯からY字状の隆帯が垂下。地文には太い縦位L線。さらに隆帯に沿って斜突文が見られる。	曾利2
45	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による楕円文を構成。中には縦位の沈線文。	曾利3
46	深鉢	胴部	埋塵	黒褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文と口状文を交互に4単位下りさせ、これらを整った平行線文が身付施文。地文は渦巻き器下下りには縦位の集合沈線文。	曾利3
47	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し縄文により曲線文。	称名寺1
48	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文を描く縦位充塞。	称名寺1
49	深鉢	胴部	Fit3	淡青褐色	砂粒	2本沈線で無文帯を描く。地文には極めて細い帯位の縄文Lを充塞施文。	後期
50	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	刻みに折れる頸部片。胴部に沈線による曲線文様。	瓶之内1
51	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に円形文。以下縦位。斜位方向に沈線文。	瓶之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
52	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部に沈線、刺突文施す。以下沈線による曲線文か。	堀之内2
53	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による曲線文によって刺突文が見られる。	称名寺1
54	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	精製	無文地に横位に2本沈線。内外面研磨。	堀之内2
55	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による斜格子文が施かれる。器面割落。70と同一個体。	後期
56	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横からの刺突文充果。	三十稲場
57	深鉢	取手	覆土	灰黒色	砂粒	大きく突起した上部部分には彫形を呈し、隆帯による渦巻き文が施される。隆帯は折り高され横状を呈すと見られ、両側には渦巻き文様が見られる。	曾利2
58	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文、内外面赤彩。59は同一個体片。	加曾利E3
59	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文、内外面赤彩。	加曾利E3
60	浅鉢	口縁部	覆土	赤褐色	微砂粒	口縁部厚し内外面研磨。	加曾利E3
61	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文の口縁部片、内外面研磨。	後期
62	浅鉢	口縁-胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁部に横位の沈線認め。内外面研磨。	加曾利E3
63	深鉢	底部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文或部片。内面に厚く炭化物付着。	不明
64	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	刻みを有す横位隆線。以下磨り消し縄文による曲線文様施す。	堀之内2
65	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	刻みを有す横位隆線認め。横位の磨り消し縄文帯。	堀之内2
66	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	刻みを有す横位隆線認め。	堀之内2
67	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁下に刺突文有す横位隆線。横位の磨り消し縄文帯。	堀之内2
68	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位磨り消し縄文。横位隆線が付されていたものと見られるが割落している。	堀之内2
69	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	3本単位の沈線による横位波状文様施す。	加曾利E4
70	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	精製	横位隆線線上に連続刻み。隆帯間を赤彩。	後期
71	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に刻みを有す横位隆線認め。	堀之内2
72	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	小波状口縁。波状部に刺突文有す部付文。沈線による横位隆線文を施す。	堀之内2
73	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	波状部は内側に屈曲。無文。	堀之内2
74	小型深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	精製	口縁部片、内外面赤彩。	後期
75	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線で画した縄文帯による三角文様施す。	堀之内2
76	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯認めら以下磨り消し縄文による彫形文。	堀之内2
77	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	堀之内2
5-94号住居跡 (第179-181回：PL148)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による横位。渦巻き文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による横位渦巻き文か。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆帯による横位内に縄文施す。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	平行する縦位の隆帯間に隆帯による横位文。地文に一部縄文が見られる。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による縦手文頭部。縄文帯。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯で画される縦位磨り消し縄文。縄文は縦位LR施す。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	縦位縄文帯。磨り消し無文部。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	砂粒	垂下沈線による無文帯および縄文帯。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線によるハ状文様施すLRが充果施文されている。	加曾利E4
10	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	沈線による曲線文様。縄文施す。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	縄文施文。一部に隆帯文が見られる。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縄文施文。	中期後半
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文LRは縦位帯状施文。	中期後半
14	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	約半面に縄文が施文されている。	後期
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文。刺突文を伴う突起状の波頭部片。波頭下には帯から縦位磨り消し縄文。	称名寺1
16	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部は外反し受け口縁を呈し、刺突文有す横位の取手が付く。取手下方からは上下に刺突文を伴う隆帯が横に施される。以下沈線による磨り消し文様を施す。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	波頭部片。刺突文。沈線が見られる。表面の風化著しい。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
18	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	屈曲する底部片、円形の貼付文を縦列に配しそこから縦、横方向に線が伸びる。	堀之内1
19	深鉢	取手	覆土	黒褐色	砂粒	結核形の取手取手、断面、内面に沈線による5文字が認められる。	稻名寺
20	深鉢	取手	覆土	淡黄褐色	精製	腰状に延びた腰状取手片、表面研磨面。取手下部左右に刺突文が見られる。	後期
21	深鉢	取手	覆土	淡褐色	微砂粒	上向きに開く筒巻き状を呈す。	後期
22	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	磨り消し縄文による形文。	稻名寺1
23	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	斜みを有す横位の隆帯と8字貼付文。以下沈線による横位の縄文充満文。	堀之内2
24	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位の斜め隆帯、8字文付され以下、沈線による磨り消し縄文による文様を描く。	堀之内2
25	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	精製	沈線で画した縄文充満文で三角文を描く。	堀之内2
26	壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による渦巻き文、形形文描き縄文施文後刺突文付す。断面研磨。	堀之内1
27	壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による渦巻き文、形形文描き縄文施文後刺突文付す。	堀之内1
28	小型深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	押圧文有す横位の隆帯、以下縄文地に沈線で四角文、同心円文を描きさらに横位の沈線で底帯を画す。	堀之内1
29	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	2本単位の隆帯による曲線文、地文には斜めの集合沈線を充満。	草草文系
30	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による縦位、曲線文を描く。	堀之内1
31	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線、曲線文描き、文様間には刺突文が丁字状に付される。立は同一個体片。	稻名寺2
32	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	横位沈線、丁字状に付された刺突文。	稻名寺2
33	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線文による曲線文様描き、刺突文施文。	稻名寺2
34	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	白色砂粒	刺突文列。	中期後半
35	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	白色砂粒	刺突文列。	中期後半
36	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	横位の押圧隆帯。	後期初頭
37	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	低い隆帯が丁字状に付される。	後期初頭
38	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位の隆帯に円形貼付文。	後期初頭
39	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆帯。以下無文。	後期初頭
40	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆帯。	後期初頭
41	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	無文の口縁部片。	中期後半
42	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線を伴う隆帯による曲線文で磨り消し文様を描く。	後期
43	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文地に横位の沈線。	中期後半
44	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	無文、縦位方向の磨き。	後期
45	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の縄文および無文帯。	加曾利E3
46	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加曾利E3
47	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位の沈線文。	加曾利E3
48	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	縦沈線による縦位無文帯、および縄文帯が見られる。	加曾利E3
49	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	無文の底部片。	後期か
50	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
51	浅鉢	底部	覆土	淡黄褐色	精製	内外面研磨、底面に刺代痕。	後期
52	小型深鉢	底部	覆土	橙褐色	砂粒	小型品の底部、器底の風化が著しい。	後期か
53	注口土器	注口部	覆土	淡褐色	精製	円筒状の注口部片、膨らみは弱く、先端部欠損している。	後期
5-95号住居跡 (第18区画: P149)							
1	深鉢	口縁~胴部	伊内	茶褐色	砂粒	沈線による形形文様描き刺突文を配す。口縁部内側に凹溝。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き文様描き、地文には縄文施文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	刺突文有す。	三十船場
5-96号住居跡 (第18区画: P149)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による無文帯を画し、以下縄文施文された縄文による口状文。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に横位刺突文有す横位平行隆帯。これら帯で8字地文が見られ、以下磨り消し縄文による形形文を描く。口縁部内側にも横位隆帯が認められる。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	精製	沈線による形形文、縄文施文。	堀之内2
4	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	熱熱による器底の風化著しい、底面に刺代痕。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	小型の円盤状、沈積も見られる。	後期
5-97号住居跡 (第187回・PL149)							
1	深鉢	口縁部	Fr 5	暗茶褐色	砂粒	横位沈積下に縄文施文。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	くの字に内周し、横位に肥厚隆帯廻り無文口縁部。	称名寺 2
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位併行沈積で無文帯を有す。縄文RLを縦位施文。4・5は同一個体。	加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位併行沈積で無文帯を有す。縄文RLを縦位施文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位併行沈積で無文帯を有す。縄文RLを縦位施文。	加曾利E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	3本単位の沈積により平行線文、曲線文を、地文には縄文RLを併位に施文。	堀之内 1
7	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈積による彫形文を、薄手の作りで復元。	称名寺 2
5-98号住居跡 (第191・192回・PL149・150)							
1	深鉢	口縁・胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	4個体の小波状口縁を呈すとと思われる。波頂下に隆帯による渦巻き文。内には横長の楕円渦巻き文を呈す。胴部には口文、幾手文を太い沈積で施す。それぞれの文様内は縄文RLを多方向施文する。	中期後半
2	深鉢	胴・底部	床面	明褐色	微石灰粒	6本の隆帯による輪状の凹状文を、これを幾度かように起伏文を行し、その上には縦文字文、地文には斜位縦位の集合沈積が施文される。小波状口縁を呈す。波頂下に隆帯による渦巻き文を呈す。舌状の波状部分にはやや反らす。	草草文系
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微石灰粒		加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯による起伏楕円文、縄文施文される。	加曾利E 2
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に横位、胴部には波状の沈積文を呈す。縄文RL、口縁部内周。	加曾利E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による楕円文を有す。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部肥厚隆帯廻り無文帯を有し、以下縄文施文。	称名寺 1
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による楕円文、縄文RL縦位施文。	加曾利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に肥厚隆帯。断面荒れている。	後期
10	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金粟文	やや肥厚する口縁下に隆帯による渦巻き文を描く。	曾利 2
11	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	太い隆帯が垂下し、両側には無で状の沈積。斜交文が見られる。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下する2本の沈積により輪状の無文帯を有す。縄文RLを縦位施文する。	加曾利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	やや斜めに走る隆帯を有す。	
14	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	3本の垂下沈積。	加曾利E 3
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	やや反らす無文口縁部。	後期
16	深鉢	胴・底部	覆土	茶褐色	微砂粒	胴部には大きく開く彫形を呈す。隆帯によるU状文が彫かれ、内には縄文が施文される。	加曾利E 4
17	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位2本の沈積による無文帯。	加曾利E 3
18	深鉢	突起部	覆土	茶褐色	砂粒	大きく立ち上がる突起部状。沈積による渦巻きを基調とした文様が描かれる。	曾利 2
5-99号住居跡 (第195・196回・PL150・151)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	波状を呈す。沈積による渦巻き文、楕円文を描く。楕円文内には縄文丸渦文。胴部は無文でやや薄手の作りである。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁・胴部	覆土	黄褐色	砂粒	大型は、隆帯によるくの字状の楕円渦巻き文を呈す。胴部には2本の沈積による輪状の磨り消し帯が見られる。断面はかなり腐化。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	小波状口縁を呈す。波頂部分には外側にほぼ水平に突き出た上面には浅い沈積文を呈す。波頂下に渦巻き文を描く。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による楕円、渦巻き文を構成。	加曾利E 3
5	深鉢	口縁・胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に横位沈積を有す。以下3本単位の沈積により磨り消し縦位波状文を呈す。縄文RLを縦位施文。	加曾利E 3 新
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	楕円文を構成。縄文RLを縦位施文。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁に沿って浅い沈積および波状文を構成。地文には縄文丸渦文RL施文。	加曾利E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部はくの字に内周し無文。以下縄文RLを縦位施文。	称名寺
9	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	全面に縄文RLを縦位施文後、沈積による筋線文を描く。	後期か
10	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に横位沈積文。	
11	深鉢	胴部	Fr13内	暗茶褐色	砂粒	2本単位の横位沈積で多段に周し、区内内には縦位縄文RL、縄文施文後に3本単位の沈積による横位波状文が描かれる。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈積による楕円文構成。以下磨り消し縄文帯。	加曾利E 3
13	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	4本単位の沈積により曲線文を描く。区画された文様内には縄文RL。	加曾利E 3
14	深鉢	口縁・胴部	覆土	黒褐色	砂粒	3本単位の沈積による横位波状文。地文にはRL、縄文施文。5の胴部か。	加曾利E 3
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈積による輪状の無文帯。縄文帯には垂下波状沈積文を描く。	加曾利E 3
16	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による楕円文、渦巻き文を構成。楕円文内には縦位の集合沈積が施文。区画線帯下には交互斜交文。	曾利 2
17	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部下に横位の隆帯を呈し、以下2段に交互斜交文。また隆帯の渦巻き文を配す。以下波状の沈積文。	曾利 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
18	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆部による口状文、これに繋がる2本単位の横位流線。	資料2
19	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆部による渦巻き文様。下方には2本の隆部が重なり、横位には横位に2本単位の流線、間に縦位の流線が走る。	資料2
20	深鉢	胴部	床	黄褐色	砂粒	刻み文を有する隆部による口状文を配し、中には隆部による重なり状文、文様内には斜位の集合流線文。	資料2
21	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金箔目	2本の重なり隆部で幅状の無文帯を画し、斜位、縦位の集合流線を施す。	資料3
22	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	金箔目	隆部による口状文を施し、文様内および隆部と横位の集合流線で埋める。	資料2
23	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁の内側する無文土帯。	中期後半
24	深鉢	胴～底部	床面	茶褐色	砂粒	縦位、斜位に浅い流線配す。	資料3
25	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	小砂粒粒	無文、底面研磨。	
5-100号住居跡(第201～204区; PL151・152)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	4単位の渦巻き突起で、口縁部には隆部による横位、渦巻き文様も横位を充填する。文様部には口状文、無文帯が見え、以下隆部には流線による口状文、縦S字文が交互に縦位区間で描かれ口内には縦位が充填無文である。	加群料E 3
2	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部には隆部による横位渦巻き文が描かれ、渦巻き文帯の弧状部分には縦文が充填される。胴部には流線による縦文、無文帯の縦位区画が交わり、無文帯には縦位無文が縦列に描かれ、縦文部には縦文より下には縦列が描かれる。	加群料E 3
3	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部には隆部による横位渦巻き文様を構成、胴部には流線により口状文を施し流線した磨り出し文様を構成する。文様内は流線による口状、縦位に画される縦位無文文様。さらに流線による縦位のラウラウ文様を施す。	加群料E 3古
4	深鉢	口縁～胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	口縁に流線廻り、以下無文地に3本の流線によるやや不規則な波状文様。以下、胴部には縦位縦文を縦位充填し、やはり不規則な縦位流線流線文。	加群料E 3
5	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆部による横位渦巻き文を配す。胴部には2本の重なり隆部で幅状の無文帯を画し、間に縦位の流線文を施す。	加群料E 3
6	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	砂粒	隆部による横位文構成、横位内には縦位流線を多方向流文、連結部には3本の縦列内形文を付す。以下胴部には2本の重なり隆部による磨り出し文様を施す。区画内には縦位と横位の集合流線文を施す。	加群料E 3古
7	深鉢	口縁～胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆部による組合せ横位文様を構成、以下胴部には2本単位の重なり隆部で画した無文帯で縦位区画、間には縦位流線を縦位充填し、流線下流線文。	加群料E 3
8	深鉢	胴部	床面	淡褐色	砂粒	口縁部文様部を欠く、胴部には2本の重なり隆部による磨り出し帯で縦位区画、間に縦位流線を縦位充填し上端が渦巻き文の波状無文帯を施す。	加群料E 3古
9	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁に2本の波状部を欠損、波状下に流線による円形並行縦文を施す。以下流線による流線文口状文、縦文文。文様内縦位は縦位無文文。	加群料E 3
10	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	全面に縦位流線、口縁部は横位、以下縦位流線文。2本の流線で波状文を構成、区画間を磨り出し。	加群料E 3末
11	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁に沿って流線が走る。以下縦位流線を斜位に施文。	
12	深鉢	胴部	砂内	淡黄褐色	微砂粒	口縁部は無文で半輪で空くところ、前面二角の大きく磨り出した磨り出し帯はやや上向きに付けられ、隅状取手が付される。取手は半部が磨り出しとなり、流線文刺突文等で埋められ、上段には縦位の円形が見られるが、胴部隆部による渦巻き文様が描かれ、間隔に縦位が見られるが、回転せずに前面を押しつけて施文しており、流線を意識か。	資料2
13	鉢形土器	胴部	床面	灰黑色	砂粒	口縁部は無文、胴部に隆部が肥厚する渦巻き文と横位文を配す。以下胴部には縦位の集合流線文。	加群料E 3
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	無文の肥厚口縁部、横位区画文、面黄褐色面塗。	群草文系
15	深鉢	口縁～胴部	砂内	茶褐色	小砂粒粒	口縁部に横位文、中には縦位の縦線文。16は同一個体か。	加群料E 3
16	深鉢	口縁～胴部	砂内	茶褐色	小砂粒粒	口縁部に横位文、中には縦位の縦線文。	加群料E 3
17	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に口状の突起を有し、突起下口状文に横位印線状中央が肥厚、胴部は縦位流線と縦位流線による横位波状文、口状文も間には縦位流線が走る。	加群料E 3
18	浅鉢	口縁～胴部	床面	暗灰褐色	精粒	口縁部は、縦位、斜位に隆部が磨り出し帯を構成し流線状取手設けられ、隆部から突起が磨り出し、渦巻き文を施す。胴部は半部が磨り出しとなり、流線文刺突文等で埋められ、上段には縦位の円形が見られるが、胴部隆部による渦巻き文様が描かれ、間隔に縦位が見られるが、回転せずに前面を押しつけて施文しており、流線を意識か。	加群料E 3
19	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	小波口縁、隆部による円形文、横位文を構成か、以下縦位の縦線文、文帯の下を受ける。	加群料E 3
20	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆部による横位渦巻き文様を施す。区画内には縦位の集合流線文。	資料2
21	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部縦位の隆部部か、以下縦位の縦線文。15・16は同一個体か。	加群料E 3
22	浅鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁下に横位流線廻り、以下縦位の集合流線、赤帯流線。	加群料E 4
23	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁内側に隆部が磨り出し、隆部による縦位文、渦巻き文が磨り出し帯に半部が磨り出しされる。また曲文帯内には磨り出しの流線文。	資料2
24	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位の隆部区画内に横位渦巻き文様。区画内には縦位の集合流線。	資料2
25	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部無文は平らに作られる。横位の流線区画内に交互刺突文。	資料3
26	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	横位に2本の隆部で円形文に繋がる。隆部の間に刻み流線文。	群草文系
27	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	S状に屈曲する肩帯、矢羽状の刻みを有する隆部隆部、以下流線による渦巻き文様も、縦位の流線文。	群草文系
28	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒多	横位隆部下に流線による縦位、波状文。	群草文系
29	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	流線による渦巻き文刺突文、縦位は縦文が見られる。	群草文系
30	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	押江文を有する横位肥厚隆部、上下には縦位の併行流線文。	中期後半

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の集合平縁起線文。	資料 2
32	深鉢	取手	覆土	暗褐色	微砂粒	耳状の突起片。表面に沈線による渦巻き文有す。	後期
33	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	内湾する無文の口縁部片。口唇部は内面状を呈す。	後期
34	台付き土器	台面	覆土	茶褐色	砂粒	唇台部片。胴部に沈線、刺突文見られる。	中期後半
35	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	2本単位の縦位沈線文。6単位か。	加資料 E 3
36	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
37	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒多	厚手の底部片。無文。底面に白色の付着物。	中期後半
5-101号住居跡 (第209~211区画：PL153・154)							
1	深鉢	口縁～胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	口縁部や平縁起の無文部有す。隆帯により横円渦巻き文を描く。文様内は縦位。放射状に沈線文が施される。胴部には垂下沈線、縦杉状沈線文。	古墳文系
2	深鉢	口縁～胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	1の口縁部分。	古墳文系
3	深鉢	口縁～胴部	砂	黄褐色	微砂粒	隆帯で横円文。渦巻き文様有す。横円文内には横矢羽状の沈線文。胴部には沈線による垂下文。雲状文様縁起間隙を縦位矢羽状沈線文有す。	資料 3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による横円渦巻き文。縦位の集合沈線を充順施文。	資料 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯で横円文様画し区画内は弧状の集合沈線を充順施文。	資料 3
6	深鉢	口縁～胴部	床面	茶褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文とこれに繋がる2本の垂下文。垂下文間は無文で、両側には斜位の集合沈線が見られる。	資料 3
7	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文とこれに繋がる垂下文。地文には短い斜位の集合沈線が見られる。	資料 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部隆帯部による横円渦巻き文。横円文内は縦位集合沈線。以下胴部には縦位沈線文。	古墳文系
9	浅鉢	口縁～胴部	砂	淡黄褐色	砂粒	口縁部や内湾部。隆帯により渦巻き文を基調とした文様を描く。文様内は縦位。放射状に沈線文が施される。	古墳文系
10	深鉢	胴部	砂	黄褐色	砂粒	2本単位の垂下隆帯文。4か所に渦巻き文が見られる隆帯間には縦位文が付けられている箇所。方向も不規則。	資料 2
11	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒金部混	横円文区画。縦位充順施文。	加資料 E 2
12	深鉢	口縁部	砂	淡黄褐色	砂粒	隆帯による横円文区画。縦位充順施文される。	加資料 E 2
13	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒多	横位の隆帯および沈線が廻る。間は縦位充順施文。	中期後半
14	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金部混	口縁部外側に肥厚。横に隆帯が付けられ隆帯上位に沿って刺突文。	中期後半
15	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯により横円文様縁起区画内は横矢羽状の沈線及び中央には交互刺突文。口縁内側にも隆帯が廻る。	資料 2
16	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯により横円文様縁起区画内は横矢羽状の沈線及び中央には交互刺突文。口縁内側にも隆帯が廻る。横円文から垂下隆帯。	資料 2
17	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯により横円文様縁起区画内は横矢羽状の沈線及び中央には交互刺突文。口縁内側にも隆帯が廻る。横円文から垂下隆帯。	資料 2
18	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による横円文構成か。縦位沈線文。交互沈線文見られる。	資料 2
19	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁に交互刺突文有す。さらに2本の沈線を垂下させ間には矢羽状の刺突文有す。地文は縦位の縦位刺が施される。	中期後半
20	深鉢	口縁部	床面	淡茶褐色	微砂粒	口縁部外側に肥厚し連続刺突文有す。	中期後半
21	深鉢	口縁部	砂	黄褐色	砂粒	口縁部より高き肥厚。以下胴部には縦位線による曲線文様を描く。	中期後半
22	深鉢	口縁部	砂	灰褐色	微砂粒	口縁部や肥厚。以下胴部には縦位線による連弧状文。垂下文を描き、縦位。斜位の沈線を描く施す。	資料 3
23	深鉢	口縁～胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	横位を基調とする隆帯および斜位の集合沈線文。以下2本の垂下隆帯および沈線による凸状文様。斜位の交互集合沈線文。	資料 3
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による渦巻き曲線文を描く。	古墳文系
25	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	凸状の隆帯文。先端部から隆帯が延びる。地文には矢羽状沈線文。	資料 3
26	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯で大きく円を描き、その間に垂下刺突文が見られ、円刺文から飛び出した刺突文が廻る。地文には縦位、斜位の集合沈線が見られる。	古墳文系
27	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き。曲線文を描き地文には斜位の集合沈線文。	古墳文系
28	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	隆帯による渦巻き曲線文を描き、地文は斜位の集合沈線文、および交互刺突文見られる。	古墳文系
29	深鉢	胴部	砂	茶褐色	微砂粒	横位を基調とする隆帯および斜位の集合沈線文。以下2本の垂下隆帯および沈線による凸状文様。斜位の交互集合沈線文。	資料 3
30	深鉢	胴部	砂	黄褐色	砂粒	隆帯による刺突文。2本単位の垂下文。地文には斜位の集合沈線。	古墳文系
31	深鉢	胴部	Pr 7	淡褐色	砂粒	横位を基調とする隆帯および2本単位の隆帯で渦巻き文様構成。横位、縦位の集合沈線文。交互は縦位文見られる。	古墳文系
32	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	斜位の集合沈線文。	古墳文系
33	深鉢	取手	覆土	灰黄褐色	微砂粒	半円状の口縁部突起。両面に渦巻き文。	資料 3
34	深鉢	取手	Pr 3	淡褐色	微砂粒	三角形の口縁部突起。貼り付け隆帯による波状文、フイル状文を描く。	資料 2
35	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	2本単位の垂下沈線が間隙を空けて見られる。	中期後半
36	ミニチュア?	底部	覆土	灰褐色	砂粒	小型土器の底部片。無文。	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
37	深鉢	底部	灰黄褐色	淡黄褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
5-10号住居跡 (第214回: PL154・155)							
1	深鉢	口縁部	埋没	黒褐色	微砂粒	口縁部4単位の小波状を呈す。口縁文様は隆帯による横間口渦巻き文・文帯には粗い縄文を施文。胴部には巻下沈線。	加群期E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁は無文で外反す。隆帯による横間口文を縦文に縦位置施文。	加群期E 3
3	深鉢	口縁部	埋没	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に沈線による口伏文、縦手裏下文、地文には口縁部隆帯、以下縦位の丸縄文を施文。	加群期E 3
4	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯を施す。以下縦文L&Rが縦位帯状に施文される。	加群期E 3
5	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	波状を呈す。隆帯により肥厚する円形文を連続して描く。文帯内には縄文を充塞する。	加群期E 3古
6	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部直下より縄文L&Rを横位全面に施文。	加群期E 2
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄色	砂粒多	縦位の磨り消し縄文。	加群期E 3
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦線による縦位結線文様を描く。縄文が充塞施文される。	加群期E 4
9	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	やや内湾する口縁直下から斜めの集合沈線文。	資料2
10	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	砂粒	口縁直下より縦位の集合沈線施文。	中期後半
11	器形不明	口縁～底部	床面	黒色	砂粒	胴部は外側して立ち上がり口縁部はく字に折れ、外面に張り出しを有す。上面には沈線による三角形の磨り消し文様を施されている。	中期後半
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による三角形の磨り消し文様を描く。	堀之内2
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文。	堀之内2
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	横位の磨り消し縄文。	堀之内2
15	深鉢	底部	伊内	灰黒色	精製	無文の底部片。底面に銅代瓦。	堀之内2
5-103号住居跡 (第216回: PL155)							
1	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯による横間口文を構成か。二次的に加熱。2は同一個体片。	加群期E 3
2	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	隆帯による横間口文。以下胴部は縦位磨り消し帯。縄文は丸縄文を縦位置施文。	加群期E 3
3	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	口縁部文様は隆帯による横間口渦巻き文。4は同一個体片。	加群期E 3
4	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	微砂粒	口縁部文様は隆帯による横間口渦巻き文。	加群期E 3
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部は無文で隆帯による横間口文を描くか。	加群期E 3
5-104号住居跡 (第218回: PL155)							
1	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	波状口縁。隆帯による横間口曲文を構成。縄文充塞。	加群期E 3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部には隆帯による横間口文か。以下縦位沈線に2磨り消し帯。縄文は丸縄文を縦位置施文。	加群期E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位沈線。4・5は同一個体。	中期後半
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部文様を帯を持たない。口縁直下より1本の沈線で磨り消し帯が描かれる。縄文はL&R縦位を充塞施文。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部文様を帯を持たない。口縁直下より2本の沈線で磨り消し帯が描かれる。縄文はL&R縦位を充塞施文。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による横間口曲文。区画内には縦位沈線。以下胴部は沈線による無施文帯を帯し。胴には縦位矢羽状沈線文。	資料3
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の平行沈線間に刺突文が配される。以下沈線による口伏文、縦手裏文。	加群期E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による横間口曲文を構成か。区画内には縦位の集合沈線。	加群期E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口唇部山形波状に刻み、器面には丸縄文の縦位全面施文。	中期後半
10	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	精製	無文の口縁部片。やや内湾する。	中期後半
11	深鉢	底部	伊内	淡赤褐色	砂粒	4本単位の横下沈線で縦区画。地文には丸縄文を縦位置施文。	加群期E 3
12	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	3から4本の横下沈線。沈線間には粗く縄文L&Rが縦位施文される。	加群期E 3
5-105号住居跡 (第221・222回: PL156)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	小砂礫多	口縁部に浅い沈線跡あり。以下隆帯による横文5字文様。胴部は2本下沈線による無施文で縦位区画。胴には縦文L&Rを縦位置施文。器面充塞。	加群期E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	大型土器。隆帯による横間口曲文文様。以下胴部は2本下沈線による無施文で縦位区画を為す。	加群期E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁。隆帯による横間口渦巻き文様で文様帯を構成。区画内は縄文を施文。	加群期E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	大型土器。隆帯が渦巻きを帯り小波状を呈す。下位は横間口曲文が認められる。器面には横位を充塞施文。器面充塞。	加群期E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒(白色)	口縁部外反し。隆帯で囲まれ無文となる。隆帯下位には縄文L&Rを縦位置施文。横間口渦巻き文様。	加群期E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	小波状口縁。器面部は波状を呈し内湾する。隆帯による横間口渦巻き文で文様帯を構成。区画内は縄文を施文。以下2本単位の横下沈線で縦位区画。	加群期E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯文。口縁部直下より縄文L&Rを縦位に施文。	加群期E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部沈線で横間口文。縄文充塞。	加群期E 3
9	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	横位に2本沈線跡し胴に連続円形刺突文配す。これを挟み上下別に2本沈線による口伏文を描くか。地文には無施文の縦位。	加群期E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	3本の垂下沈線による縦位磨り消し帯で縦位区画。間は無彫L織文。縦位織文。	加曾科E3
11	深鉢	胴部	伊	黒褐色	砂粒	口縁下に隆帯による縦向き文様と同様に沈線による白文織り。それ以外の文様区画内には縦位の集合沈線文光織。	加曾科E3
12	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒(白色)	口縁下に隆帯の隆帯部。以下沈線により縦位の集合沈線文光織。白文織り。隆帯は縦位の集合沈線文光織。	曾科3
13	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内側に彫り肥厚。口縁直下に重畳状沈線文。	曾科2
14	深鉢	口縁-胴部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部隆帯による横間書き文様胴部には沈線による曲線文様を描く。地文は無彫状沈線文を光織する。	草草文系
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	2本垂下沈線による輪状の磨り消し帯で縦位区画。さらに被状帯下文光織。	曾科3
16	深鉢	胴部	伊	茶褐色	砂粒(白色)	内面に沈線を伴った縦位押込隆帯で胴部を区画。区画内には縦位の矢羽状沈線文。	曾科3
17	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒(金雲母)	横位隆帯下に縦位集合条線文。	中期後半
18	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文底部分。	中期後半
5-107号住居跡 (第226図: PL157)							
1	深鉢	口縁-胴部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部は輪状の無文。胴部に彫られた横位隆帯で画し。以下隆帯の直下には縦文L&Rを横位。さらに下位は斜位方向に全面織文。	加曾科E4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁や内溝、浅い沈線による白文文様織文を光織施文。	加曾科E4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	T状の隆帯付され、地には織文施文。	中期後半
4	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部内面に折り返され肥厚。2本の横位隆帯。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	T状の隆帯付される。	加曾科E4
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部肥厚し以下斜位の沈線。	中期後半
7	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	やや肥厚した口縁部。以下横矢羽状の沈線。	曾科3
8	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	直線的に開く彫形で、口縁部折り返しを持つ。沈線による縦い白文光織かれ、地は織文である。	中期後半
9	台付き土器	胴台部	覆土	橙黄色	砂粒	胴台部分は低く、外側に開く。	中期後半
5-104号住居跡 (第228図: PL157)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に沈線。以下沈線による磨り消し曲線文を描く。織文はL&R。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	併行する縦位の帯線隆帯。	中期後半
3	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	微砂粒	口縁部肥厚。無文であるが凹凸が見られる。	中期後半
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位沈線。隆帯、併行垂下沈線で画し。間には重畳状沈線文。	曾科3
5	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒	2本隆帯で描く曲線文、斜位の集合沈線文。	曾科3
6	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位沈線下に重畳状文。	曾科3
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	重畳するへの字状沈線文。	中期後半
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位集合条線。	中期後半
9	新輪形土製 欠皿品	土製 (白色胎土)	覆土	茶褐色	砂粒	5孔が見られる。上下に並ぶ2孔のうち下側の孔が通しているが、他は未穿孔である。表面に磨かれたような白色胎土が厚く残っている。	中期後半か
5-109号住居跡 (第231・232図: PL156)							
1	深鉢	口縁-胴部	覆土	黄褐色	砂粒	大型土器片口縁部に隆帯による横間書き文様。胴部には2本単位の磨り消し垂下文帯および織文帯で縦位区画。口縁部、胴部には縦文L&Rを光織施文。	加曾科E3
2	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	砂粒多	隆帯による横書き横間書き。横間区画内には縦位沈線。	加曾科E2
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	被状口縁を呈す。口縁部に無文部画し2本微隆帯による曲線文描き、区画内文には織文施文。	加曾科E4
4	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による区画文、区画内には沈線による横間文、狭い白文文が縦位帯付。横間文は白文文が部周縁文が部周縁文とされている。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位隆帯上に織文施文。	加曾科E1
6	深鉢	口縁部	床面	茶褐色	微砂粒	隆帯による横間書き横間書き。区画内には斜位状の単位刻み文。	加曾科E3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部小直状を呈す。隆帯による横間区画文構成し渡頭部より肥厚し隆帯が平がる。横間区画内には縦位の集合沈線。	曾科2
8	深鉢	口縁-胴部	伊	暗褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯で無文帯を画す。以下隆帯による曲線文描く。地文は無彫状沈線文。	草草文系
9	深鉢	口縁部	伊	明褐色	砂粒	口縁部が広く肥厚。隆帯による横書き文様左右にも隆帯が延びる。地には斜位の沈線文。	草草文系
10	深鉢	口縁部	床面	暗灰褐色	砂粒(白色)	口縁部に横位隆帯を連続させる。連結部には彫り隆帯文。隆帯区画文内には縦位の沈線文。	曾科2
11	深鉢	口縁部	床面	黄褐色	微砂粒	横位沈線で無文帯画す。沈線以下縦位の集合沈線。	加曾科E4
12	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	隆帯による横間書き横間書き。縦位の集合沈線文。	加曾科E3
13	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	隆帯による横書き文様。地には斜位の沈線文。	曾科2
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	胴部は横間書き横間書きが通り、間にC状文画した横間区画を構成。中に斜位状の帯を描く。織文。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒(金雲母)	無文口縁部片、口唇部研磨。	曾科2
16	深鉢	口縁部	伊	茶褐色	砂粒(白色)	無文口縁部片、内外面研磨。	曾科2

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
17	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文口縁部片、内側に肥厚。	資料 2
18	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	沈澱による横溝巻き文間に刻み有す耳状の隆帯が見られる。	中期後半
19	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦位の十字状隆帯、地文に縦位の沈澱施文、その上に横位梳状文。	資料 3
20	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	2本隆帯による曲線文、地には斜位の集合沈澱。	資料 3
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位隆帯、粗い斜位沈澱地に波状垂下沈澱文。	資料 3
22	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	伊粒(金部砂)	地文に縦線杉文縞き、その上に波状垂下沈澱文。	資料 3
23	深鉢	突起部片	覆土	黄褐色	砂粒	台形状の突起部、縦位の隆帯を集合させている。	中期後半
24	深鉢	突起部片	伊	暗茶褐色	砂粒	口縁部に付く環状突起である、上端は平らに広がりが隆帯による溝巻き文。	資料 2
25	台付き土器	胴台部分	覆土	茶褐色	微砂粒	胴台部は上部を欠損、欠け口は厚縁、断面には縦位の沈澱文が見られる。断面方向に溝きが見られる。	中期後半
26	台付き土器	底部	伊	淡黄褐色	砂粒	胴台部は小さく作られ、胴部も扁平である。ミニユア品か、火を受けている。	中期後半
5-10号住居跡 (第234図；PL158)							
1	深鉢	口縁-胴部	覆土	暗褐色	金部砂	口縁部隆帯による溝巻き型文、区画内には縦位沈澱を縦線文、以下胴部は横位工具による帯状集合沈澱で横位、溝巻き文縞、地文は横位梳状文。	加資料 E 3 併行 I 類
2	深鉢	口縁	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部や平幅状の無文帯、以下隆帯による横位文か、間には縦子沈澱文。	加資料 E 3
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位隆帯を帯りし、下位には隆帯で揃った溝巻き垂下文、地文には縦位の集合沈澱。	中期後半
4	浅鉢	口縁	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部片、口縁部段や口厚や肥厚、内外面研削。	中期後半
5-11号住居跡 (第237・238図；PL156・159)							
1	深鉢	口縁-胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	胴上位に3本の横位沈澱で文様帯を画す、中には4から6本単位の沈澱で重梳状文を連続して横位に配す。	堀之内 1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部内面しや高まった部分に列状沈澱文縞左右に沈澱が延びる。以下無文。	堀之内 1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁に刻み状の押印文を横位隆帯が帯る。	堀之内 1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部には沈澱で無文帯を画し、以下縦文LRを縦位施文し沈澱による無文帯が帯られる。	堀之内 1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	精製	口縁下に平行する2本の縦線文を帯りし8字状の帯付文で繋ぐ、以下沈澱による方形、円形文様細く帯りし無文帯。	堀之内 2
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位の交互突角文有す隆帯、さらに沈澱が帯る。	堀之内 2
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	硬質で薄く作られる。横位の沈澱で無文帯と縦文帯を交互に画す、口縁内面に沈澱を帯りす。	堀之内 2
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦沈澱による帯形の帯り消し文様。	堀之内 2
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
10	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈澱による重梳門文様縞き、地文は縦文か施文される。	堀之内 1
11	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位沈澱で無文帯を画し、以下縦線文LRを横位施文。	堀之内 2
12	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	全面にLR具束縞文を横位施文。	後期
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦文と無文帯を横位連続した山形沈澱文で画す。縞文は横位LR。	後期
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位の平行沈澱で帯りし縦文帯、無文帯間には縦位の連続押印文がある。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	帯り消し文様画す、区画内には斜交文が配される。	堀之内 1
16	深鉢	胴部	覆土	赤茶褐色	砂粒	横位沈澱に斜交帯付文を付しそこから筋縞状に2本単位の沈澱文が帯り下。	堀之内 1
17	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	5本単位の沈澱が斜位に横位連続施文される。	堀之内 1
18	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位の併行沈澱。断面や欠れている。	堀之内 1
19	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	3本単位の沈澱による曲線文。	堀之内 1
20	帯形土器	胴部	覆土	黄褐色	精製	断面は極めて薄く硬質、横位、斜位の沈澱文、小型の帯形土器と思われ。	堀之内 1
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	精製	硬質で薄く作られる。断面は内外面よく研削されている。2本単位の沈澱により曲線文様を帯る。	堀之内 2
22	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	併行する2本の隆帯と円形帯付文か、断面はよく研削される。	堀之内 1
23	深鉢	底部	覆土	灰黒色	微砂粒	小型土器の底部片、断面には斜交文が施文され、底面には網代文が見られる。	後期
5-12号住居跡 (第239・240図；PL159・160)							
1	深鉢	口縁-胴部	覆土	明茶褐色	砂粒	溝巻き文基調の帯り消し縞文。縞文はLR。	堀之内 1
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁下に口状の併行沈澱文、地文に縞文が施文される。	加資料 E 4
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部隆帯で画された横位横位文が帯られ、間には両面に斜交文有す耳状沈澱が見られる。	堀之内 1
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部直下に新三角の肥厚隆帯が帯り、さらに横位の沈澱が見られる。口縁部内面に無文帯。	堀之内 1
5	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に刻み状の押印文有す隆帯が帯る。	堀之内 1
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位押印隆帯が帯る。	堀之内 1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
7	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	T状に付された隆帯の突点に円形文。	前期
8	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に横位押圧隆帯が廻る。一部に灰化物の付着。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位T線を見ず。波道部に隆帯により曲線文、内側には円形文を楕く。以下沈線による磨り消し文。	称名寺1
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の併行する隆帯と縄文が見られる。	中期後半
11	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部は横位の隆帯で無文帯を直し、隆帯下には凹形押し刷付文が見られる。	堀之内1
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	底へ隆帯により順円文様を構成。区画内には横帯状の刷文が認められる。	中期後半
13	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し曲線文楕く。地文には刷文。	称名寺1
14	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	微砂粒	磨り消しで硬質。3本単位の沈線より磨り消し曲線文楕。地文は細縄文LRを施文。	堀之内1
15	浅鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	併行する沈線による調書き文。	中期後半
16	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位波状沈線文。	後期
17	注口土器	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	薄手で硬質。断面磨きされ、2本単位の沈線による磨き文様楕く。	堀之内2
18	注口土器	胴部	覆土	淡茶褐色	精製	断面磨きされ、2本単位の沈線による調書き文やS字文を基状に連続した文様を楕く。	堀之内2
19	注口土器	胴部	覆土	淡茶褐色	精製	18と同一個体片。	堀之内2
20	深鉢	取手片	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部に付された舌状に延びた取手片、2本の縦位沈線が見られる。	後期
21	注口土器	注口部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	円筒形の注口上部に横位の取手部が付くものと思われる。	堀之内1
22	土鍋か	胴	覆土	黄褐色	砂粒	土鍋の胴部分か、表面黄や平らに整形され、上面に刷文。	後期

5-113号住居跡 (図344-2)図説: PL160-162)

1	深鉢	口縁-胴部	♀	灰褐色	砂粒	口縁下を超える横位隆帯からT字状に隆帯が重なり胴部を8分間に囲み無文帯、縄文帯を交互に楕出。漆油風化。	加賀判E 4
2	深鉢	口縁-胴部	♀	灰褐色	砂粒	横位の縦位で口縁部に無文帯を直し、以下胴部には縦位沈線による横位の磨り消し刷文状を交互に施し、縄文LRを左端施文する。	加賀判E 4
3	深鉢	口縁-胴部	♀	灰黒褐色	微砂粒	口縁部に横位隆帯からT字状には沈線による白伏文楕く縄文LRを左端施文。白伏文と楕する隆帯部分には舌状に中央突起。	加賀判E 4
4	深鉢	口縁-胴部	♀	淡黄褐色	微砂粒	口縁部の中や実地の隆帯を楕らす。隆帯に沿って刷文が見られる。以下隆帯で直した縦位の縄文帯を構成。縄文はLR縦位。	加賀判E 4
5	深鉢	口縁-胴部	♀	淡黄褐色	微砂粒	4と同一個体。	加賀判E 4
6	深鉢	口縁部	♀	淡黄褐色	砂粒	口縁部に2本の横位隆帯廻る。胴部は沈線による縦位縄文帯構成。	加賀判E 4
7	深鉢	口縁-胴部	♀	黒褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯を廻らし無文帯構成。沈線による白伏文楕く縄文LRを左端施文。	加賀判E 4
8	深鉢	口縁部	♀	灰褐色	砂粒	口縁部横位隆帯、以下隆帯による曲線文を構成し縄文施文。	加賀判E 4
9	深鉢	口縁-胴部	♀	淡褐色	砂粒	口縁部横位隆帯、胴部は縦位区画の縄文帯、縄文は縦位のLRであるが磨り消し。	加賀判E 4
10	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁部は横位隆帯により無文帯を直し、以下縦位LRを縦位全面施文。	加賀判E 4
11	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は横位隆帯による無文帯を直し、以下全面に細縄文LRを横位、縦位方向に施文し、沈線による白伏文を楕く。	加賀判E 4
12	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁部は隆帯直され無文。隆帯からはT字状に重下隆帯を付し胴部を縦位に楕らす。区画内には縄文が施文される。	加賀判E 4
13	深鉢	口縁部	覆土	赤茶褐色	砂粒多	口縁部は横位隆帯により無文帯を楕らす。隆帯下には縄文LRを縦位施文。	加賀判E 4
14	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒多	口縁部中や厚く無文帯、以下縄文施文。	加賀判E 4
15	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部は横位隆帯により無文帯を楕らす。隆帯上及び以下胴部には縄文LRの横位施文。	加賀判E 4
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の無文口縁。胴部は2本の隆帯による調書き文様楕き、縄文先施文。	加賀判E 4
17	深鉢	口縁-胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	口縁部は横位隆帯で無文区画とし、以下平行沈線による磨り消し曲線文楕く。縄文はLR。	称名寺1
18	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	曲線磨り消し文様。17と同一個体。	称名寺1
19	深鉢	口縁部	床面	暗灰褐色	微砂粒	口縁下に横位沈線。沈線による紡錘文楕きは無文、縄文LR施文。	加賀判E 4
20	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁に沈線廻る。波道部に突起状取手片の剥落痕あり。白伏に沈線を楕く。周囲に縄文で埋められている。	加賀判E 4
21	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁。口縁下に沈線が廻り、以下胴部は縄文地文に沈線による円文。	加賀判E 4
22	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	波状口縁。口縁下に隆帯による円形文、文様内には縄文を先施文。	加賀判E 4
23	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁に沈線廻る。曲線文様の磨り消し縄文。	加賀判E 4
24	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部に小舌状を見ず。口縁部に無文帯が見られる。以下沈線による曲線文様の磨り消し縄文。	加賀判E 4
25	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に沈線。以下沈線による白伏の磨り消し文。	加賀判E 4
26	深鉢	口縁部	覆土	淡黄茶褐色	砂粒	口縁下に横位連続刷付を付し、隆帯による刷付磨き文。	加賀判E 3
27	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒多	波状面に付けた凹形取手片、外面には全面に縄文が施文される。	加賀判E 4
28	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部中や内側へ先施文楕くする。横位の平行隆帯間に刷文施文。下位にも隆帯による曲線文。	加賀判E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
29	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	隆帯による弧状、紡錘文様。	加賀川E3
30	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に隆帯の沈みおよび隆帯が回り、隆帯から渦巻き垂下文。	加賀川E3
31	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部小波状を呈し、波頂下には隆帯による音状文が垂下。	豊草文系
32	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に平行沈線と縦線には刺突文。	後期
33	深鉢	口縁部	伊 ¹	橙黄色	砂粒	隆帯による横円区画文、区内面、胴部には縄文施文、器面風化。	加賀川E3
34	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯により横位区画、中には縦位の集合沈線。	管科3
35	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	微砂粒	口縁下に突起文。	中期後半
36	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	砂粒	隆帯による口縁部横円区画を構成。器面風化。	加賀川E3
37	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	微砂粒	微隆帯により無文帯、縄文帯を面す。縄文はLR縦位施文。	加賀川E4
38	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	砂粒	沈線で幅広い無文帯、縄文帯を面す。	加賀川E4
39	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯、下位には縄文LRを縦位施文する縄文帯を沈線で縦位区画。	加賀川E4
40	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	砂粒	沈線で幅広い無文帯、縄文帯を面す。	加賀川E4
41	深鉢	胴部	伊 ¹	淡茶褐色	砂粒	縦位沈線（紡錘状）区画された磨り消し縄文帯。縄文は単周LRを縦位施文。	加賀川E4
42	深鉢	胴部	伊 ¹	淡茶褐色	砂粒	縦位沈線区画された磨り消し縄文帯。	加賀川E4
43	深鉢	胴部	伊 ¹	淡茶褐色	砂粒	縦位沈線区画された磨り消し縄文帯。	加賀川E4
44	深鉢	胴部	伊 ¹	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加賀川E4
45	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縄文及び無文帯を縦位隆帯で面す。縄文は縦位のLR。	加賀川E4
46	深鉢	胴部	伊 ¹	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加賀川E4
47	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	砂粒	隆帯で縦位区画された磨り消し縄文。	加賀川E4
48	深鉢	胴部	伊 ¹	淡褐色	砂粒	縦位沈線区画された磨り消し縄文帯。縄文は無筋LRを縦位施文。	加賀川E4
49	深鉢	胴部	伊 ¹	淡黄褐色	砂粒	縦位の縄文LR施文。	加賀川E4
50	深鉢	胴部	伊 ¹	灰黄褐色	砂粒	口縁部は無文構成、隆帯による曲線文様描き縄文施文。	加賀川E4
51	深鉢	胴部	伊 ¹	灰黄褐色	砂粒	横位隆帯、下位には縄文LRを縦位施文。	加賀川E4
52	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	2本の平行隆帯で磨り消し曲線文様。	加賀川E4
53	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き文、隆帯の両側の幅広く無筋状あり縄文施文される。	加賀川E4
54	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による円形文、さらには沈線による紡錘文様の磨り消し縄文。	加賀川E4
55	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文様描き細縄文を充順施文する。	称名寺1
56	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	縄文地に2本単位の沈線による磨り消し波状文様描く。	加賀川E3
57	深鉢	胴部	床面	黒褐色	金雲母	隆帯による音状文、胴部は4本の垂下沈線で縦位区画し、縦位文内および胴部縄文帯にはLRを縦位施文。	加賀川E3古
58	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯で渦巻きを基調とした文様を多段構成。	大木系
59	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	やや深い沈線による渦巻き文、凸状文を縦く、凸状文内には縦沈線による羽状文様が充順される。	中期後半
60	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	円部に隆帯が回り、隆帯上に連続刺突文が配される。口縁部は無文で、隆帯下は縄文施文。	加賀川E4
61	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	2本単位の垂下沈線間に刺突文、間には縄文施文。	加賀川E3
62	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯に対して斜め方向の刺突文を有す隆帯が回り口縁直下に付された8文字の隆帯2本垂下。	堀之内2
63	浅鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による斜格子文が描かれる。器面割落。	加賀川E3
64	深鉢	胴部	覆土	明褐色	微砂粒	沈線による組合せ曲線文様を描き、文様内に矢羽根状沈線文を充順。	豊草文系
65	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	砂粒多	細沈線により大きく重なり合った音状文を連続して描く。地文は見られない。	加賀川E4
66	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	精製	薄手土層、隆帯による横円区画渦巻き文様描く。器面良く研磨される。	加賀川E3
67	鉢形土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部下に向けて斜め方向の刺突文を有す隆帯が回り口縁直下に付された8文字の隆帯2本垂下。	堀之内2
68	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による平行線文様、さらに短形文様描き、縄文充順。	堀之内2
69	深鉢	取手	覆土	淡褐色	精製	口縁部突起、上端が円盤状に広が。外面沈線が凹状に下がり中に文が施文。	加賀川E4
70	深鉢	取手	覆土	黒褐色	微砂粒	突起に突起し耳字状を呈す取手片。30と同一個体。	管科2
71	深鉢	胴部	伊 ¹	淡黄褐色	微砂粒	隆帯による曲線文。	加賀川E4
72	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部肥厚、無文で内外面良く研磨されている。	加賀川E3
73	深鉢	胴部	伊 ¹	淡褐色	粗砂粒	無文、器面や中実れている。	中期末

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
74	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	砂粒	胴部に縦位の沈線文が看取され、横位の短沈線文が見られる。	加曾利E 4
75	深鉢	胴部	伊 ¹	灰褐色	砂粒	胴部に縦位の沈線文が看取される。	加曾利E 4
76	深鉢	胴部-底部	覆土	灰褐色	砂粒	胴部はやや外反して立ち上がる。無文で研磨見られる。	中期後半
5-114号住居跡 (第253図)：PL163							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位沈線、地文に断末文を縦位施文。	中期中葉
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による曲線文横く、朝突文、斜位方向の集合沈線見られる。	唐草文系
3	深鉢	口縁	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	中期後半
5-115号住居跡 (第253図)：PL163							
1	深鉢	口縁	覆土	灰褐色	微砂粒	厚手の口縁、隆帯による横文溝構成か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	朝突文有子隆帯で区画文描き縦位の集合沈線を光果か、以下横位隆下に短沈線施文。	唐草文系
3	深鉢	口縁	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部短沈線突起、沈線文、朝突文見られる。	堀之内1
5-116号住居跡 (第257図)：PL163							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯、断手文か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	粗縄文が横位羽状施文、一部に沈線文か。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半?
5-117号住居跡 (第259図)：PL163							
1	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	微砂粒	隆帯による区画文を構成か。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	隆帯による横文と横位隆帯。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	肥厚した隆帯で滑書き文、さらにこれに繋がる隆帯が多方向に延び横文を構成か、区画内には縄文施文。	大本系3
4	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	縦位併行沈線で無文帯を画す。縄文は縦位L施文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	縦位集合沈線文。	中期後半
6	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒	垂下沈線による磨り消し縄文帯画す。	加曾利E 3
5-118号住居跡 (第261・262図)：PL164							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯で無文帯を画し、横文溝を構成か、地文にはL系L施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による横文区画文を構成、区画内には縦位の沈線、胴部には垂下沈線、縄文が見られる。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	小波状を呈し、垂下帯下には隆帯による滑書き文を描きさらに2方向に隆帯伸びる。	管科3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒多	口縁部肥厚、隆帯による縦位文を配し、波状部に滑書き文が見られる。区画内には集合の短沈線文が施される。以下胴部は斜位の集合沈線か。	管科3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	小波状を呈し、波状部には隆帯による滑書き文を描きさらに隆帯が垂下する。地文には短沈線の集合沈線文。	管科4
6	深鉢	口縁取手	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に付く取手部分、上部部分が肥厚し瘤状を呈す。円孔、円形朝突文が見られる。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	横文区画文、横文区画の上下端部が肥厚。	加曾利E 3
8	深鉢	口縁取手	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁の取手部分、波状部に行く横位取手だけが欠損している、以下沈線による磨り消し文様横く。	称名寺1
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による横文区画文を構成、区画内は縦位の集合沈線で埋める。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による曲線文、滑書き文様を横く。	管科2
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	併行沈線により縦位横位に区画を構成し、縦位の集合沈線で埋める。	管科3
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による磨り消し文様。	称名寺1
13	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	外縁する無文の口縁部片。	後期
14	深鉢	底部	床面	茶褐色	砂粒多	厚手の底部片、縦位の沈線下端が看取される。台付きの可能性あり。	加曾利E 3
5-119号住居跡 (第264・265図)：PL164							
1	深鉢	胴部-胴部	床面	橙褐色	砂粒多	波状部分が入り隆帯による円形文を描かれ、これに繋がる隆帯が口縁に付く。胴部には縦位の滑書き文を垂直横く、地文は縄文L系施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	波状部に短沈線、Y状の横位取手が付くものと見られるが滑削している。両端には沈線による横文区画描かれ、縄文が充填される。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	隆帯による横位の滑書き文を構成、隆帯下には沈線が併行。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡橙褐色	砂粒	肥厚する横位隆帯で口縁部を画す。口縁部縄文施文、以下無文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	床面	黒色	砂粒	口縁部に隆帯による区画文を構成か、以下縄文L施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縄文を地文とし、2本または3本単位の沈線で無文帯を構成。	加曾利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	灰色	砂粒	2本の垂下沈線で縦位の無文帯、縄文はL系L施文。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	地文に粗縄文施文し沈線文様か。	堀之内1
9	深鉢	胴部	伊 ¹	茶褐色	砂粒	垂下沈線で幅広い無文帯を画す。文様帯には横位の沈線文、10・11には同一様。	管科3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
10	深鉢	胴部	砂	茶褐色	砂粒	垂下沈線で幅広い無文帯を画す。文様帯には横位の沈線文。	資料3
11	深鉢	胴部	砂	茶褐色	砂粒	垂下沈線で幅広い無文帯を画す。文様帯には横位の沈線文。	資料3
12	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	3本単位の垂下沈線で縦位区画帯、縦位矢羽根状の沈線文。	資料3
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	粗い縦位の集合沈線文。	資料3
14	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	翻状工具による刺状沈線の短沈線文が横かに見られる。	中期後半
15	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁に沈線が付されやや内傾。以下無文。	堀之内1
16	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	微砂粒	僅かに内傾する口縁部に浅い沈線が廻る。以下無文。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
18	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺1
19	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刺状文。	三十郎堀
20	両耳煮	取手	覆土	淡黄褐色	砂粒	取手部分、腕を指し上向き凹みや突起する。取手の内側には微細による無文帯が見られ下位には白状の沈線。	加資料E3
5-120号住居跡 (第268-270区：PL164・165)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	4単位の波状口縁。波頭下に2本単位の沈線で渦巻き文。さらに白状文様を交互に横位施す。縦文は口縁部は縦位に以下縦位のL施文。	加資料E4
2	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	砂粒	口縁部に白状の突起を有す。文様は粗い本線により渦巻き文、白状文様を片側に描いておりさらに縦位の本線を全面施文する。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁を呈す。波頭下には隆線で渦巻き文様か。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁を呈す。波頭下には隆線で渦巻き文様か。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に隆帯で横文文様構成。	加資料E3
6	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	隆帯で横文文を画す。横文内には縦文を充満施文。	加資料E3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部沈線で無文帯を画し、さらに隆帯垂下し区画文様施。縦文充満。	称名寺1
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦文地文とし沈線による白状文を描く。	加資料E4
9	深鉢	口縁部	床面	暗黒褐色	砂粒	口縁に横位の沈線廻り以下縦文を施文。	加資料E4
10	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	小波状部に横状取手。口縁に押圧文。取手左右に沈線が延びる。以下縦位施文された縦文が見られる。	後期
11	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	口縁部に幅状の無文帯。以下縦文Lを縦位に全面施文。	中期後半
12	甕形土器	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	やや内傾。磨り消し縦文による曲線文様。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	上下に文様帯か。下部文様帯には沈線による白状又は横文文を描き縦文Lを縦位施文する。前面は研磨。	加資料E4
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯で胴部を分類し横文文様を描く。	加資料E3
15	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部横文文。	加資料E3
16	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し帯内に上下に縦手文様。	加資料E3
17	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	幅状の2本単位の磨り消し帯および縦文帯。縦文は縦位のL施文。	加資料E2
18	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦文地に併行する隆帯で曲線文様を構成。前面内外ともに荒れが著しい。	加資料E3
19	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	微隆帯で磨り消し文様帯を画す。縦文は縦位のL施文。	加資料E3
20	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	2本単位の沈線によるU状、斜位の磨り消し縦文文様。	称名寺1
21	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文。充満される縦線文はややまばらに施文。	称名寺1
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
23	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	併行沈線による磨り消し縦文帯。	称名寺1
25	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	全面に縦位縦文Lを施文。	中期後半
26	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による曲線文様。	加資料E3
27	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	微隆帯によるJ字あるいは渦巻き文を構成か。	称名寺1
28	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	砂粒	波頭部に渦巻き隆帯。	加資料E3
29	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口唇部に沈線。縦文地文とし沈線で曲線文様さらに刺状文。	称名寺1
30	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	資料3
31	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の集合沈線。併行沈線で無文帯区画。縦位の集合波状沈線で彫られている一帯白状文様も見える。	加資料E3
32	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	資料3
33	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	資料3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部	種	部位・存在	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
34	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縦位線状の沈線文。	資料3	
35	深鉢(密形)	口縁部	床面	茶褐色	砂粒	口縁下に環状取手が付き内側および下位には沈線による横間文が描かれる。内外面より研削されている。	後期	
36	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に渦巻き隆起文。	資料1	
37	深鉢	口縁部	床面	灰黄褐色	砂粒	口縁下に2本の沈線が横位縦間文帯、円孔有す。	巻名第2	
38	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位連続斜交文下に3本の沈線を廻らす。さらに縦位、斜位の沈線文。	後期	
39	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	刻み状の押圧文や隆帯が顕る。	堀之内1	
40	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位隆帯から併行沈線垂下し左右には横位の集合沈線文。	資料3	
41	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位の連続への字文。	資料3	
42	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	斜交文。	三十船場	
43	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	斜交文。	三十船場	
44	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部やや内傾し小波状を呈す。波頂部分に2重門形文と左右に対照状文風く。	堀之内1	
45	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に沈線廻り、陰帯による円形貼付文。以下円形斜交文縦位集文。	堀之内1	
46	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	外反する口縁に円形押圧文を削むように対照状文。	堀之内1	
47	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部やや外傾し口唇部が肥厚し隆帯突起がつくものと思われる。		
48	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	肥厚した口縁部に横位の沈線。	堀之内1	
49	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部肥厚し内屈、無文で波部に横位の沈線廻る。	堀之内1	
50	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色白色	微砂粒	口縁部やや内屈し口唇部に沈線、以下無文。	堀之内1	
51	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆線。	堀之内1	
52	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	幅位の無文口縁部、器面研削。	後期	
53	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	無文の口縁部片。	後期	
54	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は肥厚、無文で器面風化。	後期	
55	深鉢	胴・底部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	縦位の沈線が無文帯加し横位集文するが、無文は浅く不連続、器面やや風化。	加曾利E3	
56	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部、網状痕あり。	後期	
5-121号住居跡 (第2739号)：PL166								
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部から刻みをもつ隆帯垂下、内側には沈線で区画文様巻き籠文を充麗。	堀之内1	
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	横位押し隆帯。	堀之内1	
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯によるC状文様、文様端部に円形文。以下縦位沈線で囲んだ横位集文。	堀之内1	
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	横位に平行する刻み隆帯。	堀之内2	
5-122号住居跡 (第2750号)：PL166								
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	小波状口縁、横間渦巻き文様を構成。	加曾利E3	
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	小波状口縁、波頂部に隆帯による渦巻き文様きその脇に円形押圧文見られる。	加曾利E3	
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に横間文様か。	加曾利E3	
4	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	隆帯による横間渦巻き文を構成。	加曾利E3	
5	浅鉢	口縁部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線廻り、以下無文を施文。	加曾利E3	
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	肥厚する隆帯で渦巻き文、この渦巻き文から繋がる隆帯により横間文を施し、それぞれ中に無文を施す。	大木希	
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	隆帯による横間文様を上下段に隔て、横間文内は縦交Rを縦位充麗施文。	加曾利E3	
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	厚土上部、2本の沈線による縦位磨り消し帯、縦文はLR施文。	加曾利E3	
9	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位の沈線が無文帯、縦文帯を両す。縦文帯には波状垂下沈線見られる。	加曾利E3	
10	深鉢	胴部	砂	暗赤褐色	砂粒	縦位の併行沈線で両す磨り消し無文帯。	加曾利E3	
11	深鉢	胴部	砂	黄褐色	砂粒	縦位沈線。	中期後半	
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の沈線文、研削痕も看取される。	中期後半	
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒多	縦位の沈線文、削い部分と要な部分が見られ、研削痕も顕る。	中期後半	
14	深鉢	胴部	砂	黄褐色	砂粒	縦位沈線。	中期後半	
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	2本単位の隆帯で渦巻き文、地文には斜位の集合沈線文。	資料2	
16	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	併行する縦位の隆帯、左右には縦位の沈線文見られる。	資料3	
17	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の沈線文、渦巻き文を描く磨り消し横文、縦間縦文を充麗施文。	堀之内1	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
18	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	押圧文有す横位の隆帯に8字状文を付し、これを基点に上下にも隆帯が延びる。	堀之内1
19	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に厚い円孔が見られ、これから延びた隆帯の下がり、口縁下の隆帯に繋がる。	堀之内1
5-124号住居跡 (第277・284号：PL167)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	大型土器、隆帯による横門文を構成か、RL横文横位束頭文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	太い隆帯による横門曲書き文を構成か、横門内にはRL横位横位束文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁に沈線による横門文書き文を充満する。文様下にも横文束文。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	隆帯による横門文様か、断頭土土。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線による白伏文様を描きその脇には縦手文。横文は口縁部は横位、口伏文内は横位にRLを施す。	加曾利E4
6	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部に横位の隆帯、隆帯から2本単位の沈線が垂下し縦帯を横文と束頭文に縦位束頭文、横文はRLを隆帯直下は横位、以下は横位に施文。	加曾利E4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線に横位の隆帯廻り以下横文が見られる。	加曾利E3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線、胴部には横文束文後、2本単位の縦手文を縦位、斜位に施す。	加曾利E4
9	深鉢	口縁部	覆土	短褐色	砂粒	口縁部に横位の隆帯を握り合わせた突起が付き、円孔も2カ所に分かれている。	堀之内1
10	深鉢	胴部	砂体土器	暗褐色	砂粒	隆帯による7単位の対向U状、白伏文を描き、中は縦文RLを縦位束文。	加曾利E4
11	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による横門文様構成か、横文充満する。	加曾利E3
12	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	屈曲部分で上位は無文、横文束文後縦手沈線文を描く。	加曾利E3
13	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し横文部。	加曾利E3
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の沈線で無文、横文帯を画す。横文部分には沈線による縦S字文を描く。	加曾利E3
15	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位に太い2本の隆帯、地文には横文RLを方向を変えて施文している。	中期後半
16	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し横文、文様は2段に施される。	称名寺1
17	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯に一部が舌状に厚直し沈線に伴い隆帯がその下に垂下、その脇にも横門文を構成。隆帯上、横門文内には横文が施文される。	後期
18	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	波頭部に渦巻き隆帯文、隆帯脇に横位の沈線見られる。	加曾利E3
19	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	波状口縁部分の上に延び取手を形成、直下した隆帯の両側に渦巻きを形成。	曾利3
20	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	押圧文有す隆帯で渦巻き文を構成か。	加曾利E3
21	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁下に押圧文有す隆帯が廻り、その下には連続した横位の沈線が2段に施される。	中期後半
22	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	押圧文有す隆帯、地文には横位の太い短沈線文。	中期後半
23	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	2本の沈線による円形文様。	称名寺1
24	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	X状に接する隆帯から、横に押圧文を持つ隆帯が延びている。縦横文束文。	堀之内1
25	深鉢	口縁取手	覆土	黒褐色	微砂粒	横帯部分が断頭となる。中央部から斜め有す隆帯が垂下、その脇には沈線による8字状文が見られる。	称名寺1
26	浅鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	渦巻き文、円形文配される。	加曾利E3
27	浅鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に横門形の環状突起が付き、以下無文。	堀之内1
28	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	口縁下に横位の沈線2条廻りこれに接して縦位の沈線が見られる。	堀之内1
29	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	刺突文を伴う隆帯の断面。	曾利2
30	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯が直下し左右に横位集合沈線文。	曾利3
31	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	幅広の無文口縁部、研磨されている。	後期
32	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に一部沈線文見られる。	加曾利E4
33	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒多	縦位の隆帯で胴部を画し間には斜位の沈線束文。底部に刺突状。	曾利3
5-124号住居跡 (第283-292号：PL168-173)							
1	深鉢	胴部	砂	淡褐色	砂粒	沈線による渦巻き文を横位に施す、これらを繋ぐ2本単位のV字状の縦帯が伸びる。さらに渦巻き文からは上下が約3本単位の沈線が描かれる。V字文部分には縦横文が施文される。砂体土器。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部は4単位の短沈線を見し、波頭部に内側に刺突が見られる環状文が4本帯が垂下し、隆帯部は約2本長縁に繋がる。文部部分は縦位を見、上7からの新突が見られる。さらに下位の隆帯と上位の文は円形文が行き交う。	堀之内2
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に大きく縦横無文、断面には4本の沈線を廻らし4横位のV字状の沈線が有すものと見られる。取手下には縦帯状文を横位帯状に施しさらに横位に4本の沈線文を垂下段文か。E-15アット出土片が報告。	堀之内2
4	小型深鉢	口縁-胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部に同じ隆帯が廻り8字状縦付文、以下胴部は菱形と三角の繰り返し組立文文様、円形面磨。	堀之内2
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁に無文で胴部に縦沈線が廻り、直下には横位矢羽根状の沈線文か、断面研磨。	堀之内2
6	小型深鉢	胴-底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線により横位重しU字状。地文には縦位にRL縦横文束文。	堀之内2

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	内湾する口縁には横位波線筋あり。沈線。胴中に短な女帯を持つ隆帯を纏らした上の文様帯を纏む。口縁には縦文地文後、2本単位の字線による横位波状文置き、波状間に沈線によるS字状文置き、また字線帯には1単位の本単位の沈線による連続白状文を置き文様内には文字彫刻文後、縦S字状文地文を纏む。	中期後半
8	深鉢	ほぼ完形	覆土	暗黒褐色	精製	口縁部は3単位の波状を見す。口縁部が内屈し口唇部は連続押し圧が付けられ波状状を見す。内面には3条、外面には4条の沈線が施す。外面には約め3単位の対式文が沈線の施設による方に施される。表面は内外面共に良く磨ききれている。底面に削代あり。	加賀朝ⅠB
9	小型形土器	口縁部欠	床面	灰褐色	精製	胴部は筒瓶玉形を見す。胴上半部に隆線で方形の窓状凹状を2単位付した上の部分に磨り消した凹状の取付で繋いでいたものと思われる。隆線の交点には凹形文。さらにそれぞれの凹内には沈線により磨き文が施される。底面が磨ききれ胴下半部には赤糸痕が見られる。口縁部分を欠く。	Ⅱ之内1
10	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒	小波状を見す。波頂部分に隆帯で凹状、中には縦文地文。	称名寺1
11	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部横位沈線下に縦文。	称名寺1
12	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	小波状部から肥厚した隆帯が左右に延びて無文帯を構成。以下紡錘形の磨り消し縦文が見られる。	称名寺1
13	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に幅状の横位縦文帯、無文帯を置き以下縦文と横位縦文。	称名寺1
14	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部に沈線。以下縦文地に沈線による文様帯もと思われる。	称名寺1
15	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口唇部内側に丸く肥厚。磨り消し縦文による曲線文様帯。	称名寺1
16	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部底部かに内屈。横位の沈線文。総磨孔あり。	称名寺1
17	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は肥厚する小波状を見す。横位に沈線。以下縦文を異方内湾。	称名寺1
18	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	精製	口縁部に付された凹形文から延びる隆帯が曲線文様を演出し、地文部分は縦文地文。	称名寺1
19	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し縦文文様。	称名寺1
20	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に腕状の取手が付く。中央部分が大きくくぼむ。以下口縁に沿って沈線。さらに曲線文様を細く磨り消し縦文。	称名寺1
21	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に刷文文と横位沈線を施し、以下磨り消し縦文による曲線文文様をもとに磨き文を纏む。	加賀朝ⅠE4
22	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部凹部を有す突起が付く。以下横位の沈線。縦文が施文されている。	称名寺1
23	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に凹形の貼付文。縦文地文後沈線による凹形施文。	称名寺1
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位沈線縦り。弧状に沈線縦り。縦文が見られる。	称名寺1
25	浅鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部は内傾。口縁部文様帯には縦文地文。	加賀朝ⅠE3
26	深鉢	胴部	覆土	黄白色	微砂粒	括弧状に沈線。	加賀朝ⅠE4
27	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	2本単位の沈線による渦巻き懸垂文。	称名寺1
28	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	磨り消し縦文による渦巻き文。	称名寺1
29	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦文地文に沈線文様。	後期
30	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し縦文による曲線文様。	称名寺1
31	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線による渦巻き磨り消し縦文。	称名寺1
32	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による刷文状磨り消し縦文。	称名寺1
33	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	磨り消し縦文による曲線文様。	称名寺1
34	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	磨り消し縦文による矩形文様。	Ⅱ之内2
35	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	胴部凹れ部分。上下に沈線による磨り消し縦文文様。	称名寺1
36	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	磨り消し縦文文様。	称名寺1
37	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部内面に肥厚。沈線による矩形文様帯。	称名寺2
38	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に横位沈線。刷線が見られる。脇に沈線が一部看取される。	後期
39	形形土器	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒(白色)	口縁部はくの字に折く隆帯。胴部には縦文地文後沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
40	小型形土器	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部短く凸る。横位沈線で描かれた縦文地文。以下無文地に凹状に縦の帯が看取される。	称名寺1
41	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	磨り消し縦文による曲線文様。	称名寺1
42	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縦文帯。	Ⅱ之内1
43	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縦文帯。	Ⅱ之内1
44	形形土器	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	胴中に横位沈線。刷線が見られる。脇に沈線が一部看取される。磨り消し縦文。	Ⅱ之内2
45	深鉢	底面	覆土	茶褐色	金粟母粒	縦文地文とし3本単位の縦位沈線文。	中期後半
46	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	精製	交互に縦文帯、無文帯を表出する磨り消し文様。	Ⅱ之内1
47	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線による重畳状懸垂文。以下縦文地文。	Ⅱ之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
48	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線で彫文様を施し区内には縄文施文。	堀之内1
49	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	赤名寺1
50	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線により上下に平行沈線によるU状文様、胴部に円形文、縄文が見られる。	加曾利E4
51	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位の隆帯下に遊弧状に沈線文、胴部の縄文が見られる。	堀之内1
52	壺形土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	胴部に横位の沈線、以下曲線文様の磨り消し縄文。	堀之内2
53	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	2本分の沈線による縦位、矢状文が描かれる。区内には縄文施文。	堀之内2
54	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	3本単位の沈線により三角文を基調とする縄文充て紙文様を構成。	堀之内1
55	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による縦位U状文様、沈線間に縄文施文。	堀之内1
56	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線による垂葉状懸垂文。	堀之内1
57	鉢形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	胴部に押文施文磨り以下胴部にはU状の垂弧文、垂弧文、縦位、斜位の集合沈線文様から一帯文様間には縄文が彫文。	堀之内1
58	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の隆帯を挟み垂弧状の沈線文。	堀之内1
59	鉢形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	集合沈線文が顕下。	堀之内1
60	深鉢	胴部	覆土	明茶褐色	砂粒	沈線による上下からの垂弧状文、および縦位沈線文が見られる間は縄文が施文。	堀之内1
61	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯下に沈線により遊弧状に沈線文を描き中央の初縁部分には縄文施文。	堀之内1
62	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位沈線下に2本の沈線による垂葉状懸垂文、曲線文L型が横位施文される。	堀之内1
63	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	沈線による円形文、縦位の沈線文様と文様間に縄文、刺突文が有取される。	堀之内1
64	深鉢	胴部	覆土	暗黒茶褐色	微砂粒	隆帯により平行、三角文様を描き、交点に円形文。	堀之内1
65	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	沈線による遊弧線手文。	堀之内2
66	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	遊弧状口縁を見す、口唇部は内側に丸く肥厚、口縁部に付いた沈線は深部で下がる。以下胴部は三角文をモチーフとする磨り消し縄文施文。	堀之内2
67	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	口縁部は短く内傾、横位の平行沈線による縄文を基調とする磨り消し内面施文、灰化物付着。	堀之内2
68	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	精製	磨り消し縄文による三角文様中を沈線による垂三角文様で埋める。	堀之内2
69	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	磨り消し縄文。	堀之内2
70	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	砂粒	内側に円形文有す三角形の磨り消し縄文文様。	堀之内2
71	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	精製	磨り消し縄文による三角文様中を沈線による垂三角文様で埋める。	堀之内2
72	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	磨り消し縄文による三角文様中を沈線による垂三角文様で埋める。	堀之内2
73	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	縦位の隆帯、三角の磨り消し縄文文様、断面研磨。	堀之内2
74	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	磨り消し縄文で垂葉形文を構成。	堀之内2
75	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	菱形磨り消し縄文。	堀之内2
76	浅鉢	口縁(注口)	覆土	灰褐色	砂粒	口縁が深部部分で隆帯状になり表面に垂葉文を形成、口縁部には沈線で横字文を描き縄文を充て紙施文。深部下には注口が設けられる。	赤名寺1
77	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	遊弧状下に付いた隆帯状部分から、突起部を文様、沈線による横位文、円形文が見られる。文様内には縄文、刺突文内彫印文が見られる。	赤名寺1
78	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は外反、隆帯の輪状取手が付くものと思われ、胴部には沈線による弧状文を描き、縄文を粗く施文。	堀之内1
79	深鉢	突起部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	突起部が大きいこと以上の上面部に円孔が付く。以下沈線による曲線文様の磨り消し縄文。	赤名寺1
80	皿口土器	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部は短く外傾、胴部の輪状取手が付くものと思われ、胴部には沈線で横字文様で彫文を施す。	堀之内2
81	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に沈線施らす。深部下には対弧状文を描き、さらに下位へ沈線垂下。	堀之内1
82	小型壺形土器	口縁→胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	隆帯に8字状彫印文、下位に沈線による弧状文、Y字文様を描く。口縁部には横位に沈線が顕下。	堀之内1
83	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁下に横位の刺突文、以下沈線による垂葉文を基調とする文様を配す。	堀之内1
84	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁直下に隆帯磨り以下隆帯、斜位方向の沈線文。	堀之内1
85	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に遊弧状印文、以下平行沈線が顕下。	堀之内1
86	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に沈線、以下胴部は垂下、U状の沈線文様細く、外面に灰化物、	堀之内1
87	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位線形状の沈線文。	堀之内1
88	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁直下に沈線が顕下、以下無文で胴部には横位の沈線と刺突文を磨り消し縄文の沈線が顕下。	堀之内2
89	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位に弧を有す隆帯に8字状彫印文が付き、下位には沈線による垂葉文文。	堀之内2
90	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位沈線下に垂葉状文、刺突文付す。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
91	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	3本の横位沈線に胎付文、そこから2本の沈線が弧状、直形に下がる。	堀之内1
92	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の隆帯、上下に2本単位の沈線による横付文を施す、隆帯、胎文には横方向の刺突文を配す。	堀之内1
93	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	弧状の隆帯、取り巻くように沈線が配される。	堀之内1
94	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	弧状の沈線文。	堀之内1
95	小型変形土器	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線による渦巻き文か、器面研磨。	堀之内2
96	深鉢	胴部	覆土	白色	砂粒	沈線による曲線文様、器面に白色の顔料塗彩、97は同一個体。	堀之内1
97	深鉢	胴部	覆土	白色	砂粒	沈線による曲線文様、器面に白色の顔料塗彩。	堀之内1
98	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯とこれに沿って沈線、さらに白状文が下がる。	堀之内1
99	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線により横位沈線文施き間に円形刺突文。	堀之内1
100	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刺突文とそこから延びる隆帯が見られる。	堀之内1
101	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁部に環状突起、沈線、刺突文が伴う。突起下には隆帯による円形刺突文が下がる。さらに左右に隆帯が延びる。	堀之内1
102	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に環状突起、突起内側には沈線文、円形刺突文が見られる。	堀之内1
103	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	白色砂粒	小突起を見す、やや肥厚し沈線による横付文、円形文さらには重畳状文を施す。内面に有刺突文が見られる。	堀之内1
104	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状部分、円形を有し周面に隆帯、刺突文が施される。	堀之内1
105	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部の小突起部分、円形文、沈線文が見られる。	堀之内2
106	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	砂粒	波状口縁部、波頂部淡黄に隆帯による渦巻き文、以下沈線による渦巻き文を施す。	堀之内1
107	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部肥厚し隆帯が流まる横長の横付文状文。	堀之内1
108	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部小突起を見す、円孔を伴う円形文と刺突文が表面に見られる。さらに隆帯の隆帯が施される。	堀之内2
109	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部に付された環状突起、刺突文弧状沈線が施される。内面に有刺突文を施す。	堀之内1
110	深鉢	突起部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部に付された突起部分、円形文、隆帯を巻き付けた下部に長円形の円孔を伴う。	堀之内1
111	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	微砂粒	口縁部には肥厚しやや高まる部分に円形文、と左右に弧状文。	堀之内1
112	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	肥厚しやや高まった口縁部分に円形文と逆弧状の沈線が見られる。	堀之内1
113	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部はくの字に折れ、屈曲部に溝状の窪み付を付す。さらに口縁部は等間隔に高まるような間に沈線、高直に對向した文を施す。	堀之内1
114	浅鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁部を見す、口縁部には沈線が配され端部に刺突文、波頂部には弧状横付文と刺突文が見られる。内面研磨。	堀之内1
115	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内側に一部小突起を見し、端部の短沈線に左右に沈線、刺突文が施される。2ヶ所に施されあり。	堀之内1
116	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部やや突起し刺突文、沈線で表面を飾る。刺突文下、縦に隆帯。	堀之内1
117	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	口縁部短く内傾し、押圧状の太い沈線文。	堀之内1
118	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部から左右斜め下方に押圧隆帯が延びる。	堀之内1
119	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	精製	口縁部に白状の隆帯が付される。	堀之内1
120	浅鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	くの字に内傾した口縁部に8字状の胎付文が付される。	堀之内1
121	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	波状口縁部、口唇部内側に肥厚、波頂部には口縁部、胴部から延びる隆帯が集まり大の字状を見す。縦に3本の円形刺突文が付される。	堀之内2
122	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	波状口縁部、口唇部内側に肥厚、波頂部には口縁部、胴部から延びる隆帯が集まり円形刺突文が施される。	堀之内2
123	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部の字に外傾し、端部が直く直する。直下には沈線が横り口縁部集まった部分で途切れ、そこから隆帯が傾下し胴部の横位沈線に繋がる。	堀之内1
124	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部に横位の隆帯が横り8字状胎付文が付されるさらに直下に隆帯が延びる。隆帯に沿って沈線が見られる。	堀之内1
125	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁下に扇状の押圧隆帯文。	堀之内1
126	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	口縁下に横位押圧隆帯。	堀之内1
127	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に押圧隆帯が施される。	堀之内1
128	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	横位の押圧隆帯。	堀之内1
129	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁下に横位短沈線文を付された隆帯が施される。	堀之内1
130	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯が施される。隆帯の一部が湾りあり横付文を表出。さらに左下に胎文を配す。	堀之内1
131	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口唇部が角面状を見す、口縁下に横位隆帯が施される。	後期初頭
132	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯が施される。	後期初頭
133	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯が施される。	後期初頭
134	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位の隆帯に胎付文。	後期初頭

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
135	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	鈎線状の発線の交点に8字状の貼付文。	後期初頭
136	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	くの字に屈曲しながらの踵下隆線。屈曲部に円形文が付きされる。	後期初頭
137	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	微砂粒	8字状の貼付文。	後期初頭
138	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	円形文からV状に隆部。	後期初頭
139	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	八状に垂下する隆部の接点に円形文が貼付される。	後期初頭
140	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	隆部が付きされる。	後期初頭
141	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	弧状の隆部。	後期初頭
142	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線によるJ字状文。	称名寺2
143	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文様。	称名寺2
144	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による曲線文様。	称名寺2
145	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	円形形の貼付文および隆部による文様。	堀之内1
146	小型土器	胴部	覆土	暗黒褐色	精製	斜め有す横位隆部、上位に沈線による曲線文様。	堀之内2
147	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	大きく開く口縁部、外面部文で内面に円形刺突文を囲み垂弧状文様。さらに口縁に沿って沈線が見られる。	堀之内2
148	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁直下に沈線が廻りやや高まった部分に垂弧状の沈線、頸部からこの部分に向かってV字状に斜めを持つ隆線が見られる。	堀之内2
149	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部より押圧隆部が垂下する。器外面に炭化物の付着。	堀之内2
150	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部短く内屈し、無文で内外面研磨されている。	堀之内2
151	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位の波状集合沈線。	曾利3
152	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位集合沈線による波状文。	曾利3
153	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	白色砂粒	縦位の波状集合沈線文。	後期
154	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	厚手の口縁部片、微状突起と思われるが一部欠損。口縁を巻くように刺突文有す隆部が見られ内面に繋がる。	堀之内1
155	口土器	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部の刺突貼付文から注口部に横位の隆部が繋がっていたものと見られる。	堀之内1
156	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部の波状突起部分、隆部による円形文、沈線文、刺突文が付きされる。	堀之内1
157	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部内側に内屈し、屈曲部に廻る隆部が口縁部に巻き文構成。	堀之内1
158	成形土器	胴部	覆土	黒色	精製	縦線により平行線、曲線文様を描く。器面研磨、赤彩痕。	堀之内2
159	深鉢	胴部	砂	黄白色	砂粒	無文の胴部。	後期
160	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁下に横位2列の円形刺突文。	後期
161	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文。	三十船場
162	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十船場
163	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
164	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
165	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	爪形刺突文。	三十船場
166	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
167	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
168	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
169	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	刺突文、刺突施文時の端部盛りあがりがある。	三十船場
170	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十船場
171	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部はくの字に内屈、横位の沈線、横位の連続斜めが付きされる。	堀之内1
172	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に横位に沈線、直下に斜めに連続の押圧文を配す。	堀之内2
173	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	口縁部に沈線文。	後期
174	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は肥厚し、併行沈線間に横位の円形押圧文列が見られる。	堀之内1
175	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	頸部に2本の横位沈線と下に連続の円形刺突文が付きされる。	堀之内1
176	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内屈し沈線が廻る。	堀之内1
177	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は沈線が廻り肥厚、無文黒色でワルシカ。	堀之内2
178	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部内屈し沈線が廻る。	堀之内1
179	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位沈線が廻る。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	形 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
180	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位沈線が廻る。	堀之内1
181	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	微砂粒	口縁部内周し沈線が廻る。	堀之内1
182	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部内周し口唇部丸くなる。横位沈線廻る。	堀之内1
183	深鉢	口縁部	覆土	淡灰褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線が廻る。	堀之内1
184	変形土器	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部は短く内周し沈線が見られる。頸部はくの字に折れ横位の沈線が廻る。	堀之内2
185	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線。	杉倉寺2
186	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は内側に折り高されて肥厚。口縁下に横位連続刺突文を有する低い隆帯が廻る。	堀之内1
187	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に沈線による横員横口文描き。中に横位短沈線を配す。	堀之内1
188	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁は内側に折れ横位沈線2条施される。	堀之内1
189	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	微砂粒	口縁部肥厚。無文の口縁部片。	堀之内1
190	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
191	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
192	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の口縁部片。	後期
193	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	斜めに走る隆帯が見られる。	後期
194	小型変形土器	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部くの字に折れる。無文。	堀之内2
195	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部はくの字に外周し口唇部は内側に丸く肥厚。無文で、器面研磨。	堀之内2
196	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は外周し平坦な面を形成。端部が薄くなる。	後期
197	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	微砂粒	無文。器面に成形時の押印痕が見られる。	後期
198	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	外縁する無文口縁部片。頸部に横位の沈線。	堀之内1
199	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部は内側に折り高されて肥厚。口唇上部には部分的に沈線が見られる。無文。	堀之内1
200	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部が短く内周する無文口縁部片。	堀之内1
201	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
202	変形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	肩から頸部、無文。	堀之内2
203	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位の隆帯。	後期
204	深鉢	取手	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部付された隆状突起。側縁に沈線、刺突文が見られる。	堀之内1
205	深鉢	取手	覆土	黄褐色	砂粒	置状口縁部に付けられた隆状取手。上面が平坦な隆状を見し沈線、円形文が見られ。胴部に高かった隆状隆帯が下がる。	堀之内1
206	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁部に大きく盛り上がった隆状突起。口縁部から続く面が幅広くなり溝巻き文、刺突文が配される。	堀之内1
207	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部に隆帯状の8字文を連続させ頸部隆帯に繋げる。口縁部に円孔。	堀之内1
208	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁下に刺突を伴う隆帯によるS字文が付される。	堀之内1
209	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒	突起部上部が開き漏斗状を呈す。決めには沈線による重弧状文が見られる。	堀之内1
210	深鉢	取手	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に付く隆状突起。上面が円形で沈線による溝巻き文が見られる。	堀之内1
211	注口土器	注口部分	覆土	黄褐色	砂粒	注口は斜めの上を向き先端部から口縁部に欠けた彎曲部で繋ぐ隆状突起を有す。突起下口縁部に縦文、沈線が横かに着取される。	堀之内1
212	注口土器	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部はくの字に外周し表状を見す。腹面部には突起が打くものと見られるが突縁。前面に沈線が横かに着取される。	堀之内1
213	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線が縦状文様様刺突文を付す。下位には突起する尾付文が見られる。微熱による発色が見られる。	後期
214	深鉢	隆状取手	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部付された隆状突起。上下に2つの円孔を持つ。	後期
215	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に内側を向くカエル様の突起文が付く。	堀之内2
216	深鉢	取手	覆土	灰褐色	微砂粒	置状口縁部で作られた隆状の取手の上さらに8字文に隆帯を纏らした2段の隆状取手。器面部分的に刺突。	堀之内1
217	注口土器	注口部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	注口上部に付された幅広く隆状取手。	堀之内1
218	注口土器	注口部	覆土	茶褐色	砂粒	注口の付け根部分は厚くなり、先端部はやや細く作られる。器面研磨。	堀之内1
219	注口土器	注口部	覆土	灰褐色	砂粒	円筒形で先端部が僅かに広がるか、注口上部に取手と思われる刺突帯が見られる。	堀之内1
220	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	底部は平手で器面やヤシが凸が見られる。	中期後半
221	浅鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部に刺代肌。内面研磨。	堀之内2
222	浅鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	内外面研磨。	堀之内2
223	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	横貫って外面研磨。底面に刺代肌。	後期
224	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	底面に刺代肌。器面風化。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
225	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	底面に網代瓦。	後期
226	浅鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	底面に網代瓦。	後期
227	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	底面に網代瓦。器面風化。	後期
228	浅鉢	底部	覆土	黒色	精製	無文。器面研磨され、底部は厚紙面著。	後期
229	深鉢	底部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文の底部片。底部中央が窪くなる。	後期
230	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	網代瓦による不規則な文様。器面研磨。	後期
231	深鉢	底部	覆土	灰青褐色	砂粒	無文の底部片。	後期
232	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文の底部片。	後期
233	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底面に網代瓦。	後期
234	深鉢	底部	砂	黄褐色	砂粒	無文・外面良く研磨される。底面に網代瓦。	製之内2
235	土製円盤	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	大型の土製円盤。径約7.0cm。	後期
236	土製円盤	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒(石灰)	縁部の集合沈線。反りを有す。径約4.0cm。	資料3
237	土製円盤	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	深鉢のやや薄手の胴部片利用。径約3.5cm。	後期
238	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	小型鉢。径約3.0cm。	後期
239	土製円盤	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	無文の胴部片利用。縁丸方形を呈す。一辺約5.0cm。	後期
240	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	小型鉢。器面やや風化。径約2.5cm。	後期
241	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	側縁部の成形やや粗い。径約2.5cm。	後期
242	土製円盤	胴部	覆土	灰白色	砂粒	無文胴部片利用。径約3.0cm。	後期
3-125号住居跡(第303-305号; PL176-177)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	厚手の口縁部。隆帯を横位に廻らし、胴部には縄文施文後、沈線による白伏文を描く。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	床面	暗褐色	砂粒	口縁部の沈線。胴部は縄文施文後、沈線による白伏文を描く。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部に無文帯を画し、以下胴部は隆帯による縦位区画の無文帯、縄文帯を構成。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	床面	暗茶褐色	微砂粒	口縁部に口状の突起。胴部は沈線で矩形区画を横位に構成し、縄文帯による二角文、段状文を描く。縄文は以高を横位。縦位に無文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部内側に横位隆帯によるC字状が付きされる。胴部はJ字状の磨り消し文様を描く。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口内側面に丸く肥厚。沈線による磨り消し文様を描く。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	併行隆帯で無文帯を画す。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	床面	淡茶褐色	砂粒	幅広い磨り消し無文帯。	加曾利E 3
9	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	T字状に隆帯が重なり縄文帯、無文帯を画す。	加曾利E 4
10	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は幅広い肥厚し溝状を呈す。波頂部には内外面に扁平な隆帯でC字文を描き、左右の口縁部側面には沈線により横J字文を描き縄文施文。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	厚手の胴部。縦位の磨り消し縄文。	加曾利E 3
12	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に円形刺突列見られ、下位に横位の沈線文。	称名寺2
13	深鉢	取手	覆土	黄褐色	微砂粒	波状口縁部分が高く盛り上がり上下に円孔を持つ磨り取手を有す。	称名寺2
14	口土器	注口部	覆土	灰褐色	微砂粒	浅鉢形の注口土器か。器上面に横位突起が付き内面に円形文。取手は口縁部上面に突き出る。	称名寺2
15	浅鉢	胴部	覆土	赤茶褐色	砂粒	胴部に断面矩形の隆帯が付き、複数の円孔が見られるが、穴はやや平でやや斜に穿けられている。	中期後半
16	深鉢	口縁部	覆土	淡黄茶褐色	微砂粒	口縁部横位隆帯により無文帯を画し、円形刺付文を基本とし隆帯が重なり。	称名寺2
17	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	屈曲する隆帯が見られる。	称名寺2
18	深鉢	胴部	床面	黒褐色	砂粒	円形文から隆帯が重なり。	称名寺2
19	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	円形文を伴う隆帯。	称名寺2
20	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	円形文より隆帯が重なり。	称名寺2
21	深鉢	胴部	覆土	褐色	微砂粒	高まりを持つ隆帯の端部が見られる。	称名寺2
22	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	小波状口縁部を呈し、波頂部に縦位6本の沈線。	製之内1
23	深鉢	口縁部	床面	黒褐色	微砂粒	口内側面に肥厚、組みを有す隆帯が口縁部を巻くような形から重なり。沈線による白伏、矩形文様を描く。	称名寺2
24	鉢形土器	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	大きく開く口縁部片。外面は無文で、内面に沈線による同心円文。	製之内2
25	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	沈線による垂対距状文。	製之内1
26	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	溝状の刺突文。	三十稲輪

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
27	装束土器	胴部	覆土	褐色色	砂粒	頸部く字を呈す、口縁部を欠く。頸状の取手が付くと見られるが欠損している。胴部文様は連続する波形の刺状文。	三十稲場
28	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	刺状文。	三十稲場
29	深鉢	胴部	床面	明褐色	砂粒	太い横位の隆帯下に頸状工具による縦位の集合刺状文。	中期後半
30	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
31	両耳甕	取手	覆土	淡茶褐色	砂粒	幅広い橋状取手部片、両側がやや盛り上がり上端が舌状に突き出る。	中期後半
32	浅鉢	取手	覆土	灰褐色	砂粒	幅広い橋状取手片。	中期後半
33	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	小型品、縦位の併行沈線が見られる。	加曾利E3
34	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文の底部片。	中期後半
35	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	刺状沈線で飾り消し文様か、以下細線文が底部付近にまで施文される。	称名寺1
36	鉢形土器	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片、断面風化。	後期
37	深鉢	底部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文底部片、断面研磨。	後期
5-126号住居跡 (東309号；PL178)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁に縦位の沈線、以下無彫刻文を縦位施文後2本単位の沈線の内状文を施す。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し刺状文による曲線文様。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	磨り消し刺状文による曲線文様。断面研磨。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁下に縦位の隆帯、さらに2本の併行する隆帯で曲線文様。	称名寺2
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は短く外反し断面肥厚、刺状文有し隆帯の取手が付くか、断面に縦位の沈線。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	併行沈線による渦巻き文様。	称名寺2
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文様。被熱しており断面荒れる。	称名寺2
8	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	沈線による平行、曲線文様間には斜位の短沈線文が付きされる。	後期
9	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	縦位の併行沈線間に刺状文。	称名寺2
10	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の波状集合刺状文。	後期
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	細い縦位集合刺状文が部分的に施文される。	後期
12	台付鉢	脚台部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	ハの字に開く台部片、2カ所に円孔を有す。	後期
13	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文の底部片、断面研磨。	後期
5-127号住居跡 (東311・312号；PL178)							
1	浅鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文か、隆帯が割溝。	称名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁に円形押圧文列、以下縦位の沈線が見られる。	称名寺2
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	小波状口縁を呈す、口縁部内外面に円形刺状文を併う沈線。	堀之内1
4	浅鉢	口縁部	覆土	灰色	微砂粒	口縁部は強くくの字に内傾し口縁面が平坦をなす。無文。	中期後半
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	橋状突起を有す。上位に棒状の取付文。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	砂粒	厚手の胴部片、縦位区画の磨り消し刺状文、刺状文はR対称加添刺状文を縦位施し縦位の表状沈線を施す。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の磨り消し刺状文、隆帯間を磨り消す。	加曾利E3
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	磨り消し刺状文による曲線文様。	称名寺1
9	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	上下に口状の沈線文。	加曾利E4
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	2本単位の重下沈線、弧状を呈す。	加曾利E4
11	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	幅広い縦位隆帯と縦位にハの字状沈線文。	資料4
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	橋状、斜位に粗い沈線文。	資料3
13	浅鉢	取手	覆土	淡黄褐色	砂粒	橋状取手が付けられるが、欠損している。取手下側の付け根部からは隆帯が残る。	後期
5-128号住居跡 (東314号；PL178)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位無文帯有す磨り消し刺状文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	標赤文Rを縦位施文、縦位山形沈線文。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位平行沈線、斜位の集合刺状文。	資料3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
5-129号住居跡 (東315号；PL178)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横円渦巻き文を構成し、刺状文は横位施文、胴部は縦位の磨り消し刺状文で、無文帯が中央で2分断されている。刺状文は縦位のR。	加曾利E3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による縦位磨り消し帯、縦位の帯合基線文。	資料3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨状工具による列点状刺突の溝跡への字文。	中期後半
5-130号住居跡 (第318段：PL178)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文帯。	加群期E3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	弧状沈線が見られる。	群名寺2
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	弧状沈線が見られる。	後期
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	砂粒	無文口縁部。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無文の胴部片、断面全体に凹凸が見られる。	後期
5-131号住居跡 (第320・321段：PL179)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に沈線および円形文、以下胴部には沈線帯で帯形文を描く。	堀之内1
2	浅鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	口縁部は縦状に突起し連続状を見し最も高まった突起の内面には円形文、口縁部から器外面にかけて良く研ぎされる。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰灰褐色	微砂粒	口縁部に押印文、以下平行する横位の沈線。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部に環状突起、両側に押印を伴う沈線文、内側にも沈線、押印文が見られる。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部やや肥厚し底部に押印文有沈線が磨る、断面研削。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁に浅い凹線磨り、垂下沈線文。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	砂	暗黒褐色	砂粒	口縁部に2条の沈線が磨る、頸部には沈線と粘付文か。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	押印隆帯。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	砂粒	口縁下に横位の隆帯、火を受けている。	後期
10	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片、火を受けゆがみを有す。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	精製	やや外反する無文口縁部片。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文様の磨り消し文様。	群名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦縄文LRを施文。	後期
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線によるJ字状文。	群名寺2
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	弧状の隆帯。	後期
16	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	平行隆線。	堀之内1
17	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	縦線文。	堀之内1
18	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	屈曲する頸部に沈線が磨り、肩部には縦位の浅い平行沈線が見られる。	後期
19	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	複数の平行沈線による垂下文様。	堀之内1
20	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による重三角文様、一部分沈線に連続結節文。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位平行沈線およびひの字状沈線文。	資料3
22	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の沈線、断面やや風化。	群名寺2
23	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	平行垂下沈線。	群名寺1
24	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。底部に刺状痕。	群名寺1
25	深鉢	底部	砂	暗茶褐色	砂粒	無文の底部片、断面、底面良く研削。	後期
26	深鉢	底部	覆土	暗灰褐色	砂粒	無文の底部片。	後期
27	小型形土器	胴-底部	覆土	淡灰褐色	精製	無文、小型土器。	後期
28	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	無文の胴部片利用、やや角張り径約4.0cm。	後期
29	土製円盤	胴部	覆土	灰白色	砂粒	胴部片を利用、隆帯が見られる。径約2.5cmとやや小型品。	後期
5-132号住居跡 (第323・324段：PL179・180)							
1	深鉢	口縁-胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部はやや外反、肩部に隆帯を帯し円形区画文、以下胴部には全面に縄文施文。	加群期E3
2	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	小径口縁部、底面下位に円形の押印文、浅い沈線による横間文を区画し縄文を施文施文。	加群期E3
3	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下縄文施文後沈線で画した白状文。	加群期E4
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による横間、溝巻き文。横間文内には縄文施文、口縁部欠損。	加群期E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	砂粒	口縁部はやや外反、肩部に隆帯を帯し、以下隆帯による横間文か。	加群期E3
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	縦位沈線で両す無文帯、縄文帯。縄文は縦位のLRを施文。	加群期E3
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	全面に縄文LRを横位に施文。	

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	精製	把手部片、板状の隆帯を内および外面側から折り返してS字状に結合されている。口縁、把手から足がた後縁縁・刺突文、縄文を伴う。研ぎ磨き。	中期末
9	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	沈線2面した横位縄文帯、下位には曲線文。	加曾科E 3
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯文に沿って刺突文。縄文充塞。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部厚し沈線による高橋口文、縦位刺突文を付し稍円内の隆帯部を閉じ文。以下胴部には沈線による縄文も残された彫形刺突文を併せ成。	加曾科E 3
12	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	平行沈線で直した縄文帯によるV字状文様、中には逆気文を配す。	後期
13	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	精製	横位に3本隆帯、最上部の隆帯端部は高まり溝巻きとなり、交互刺突文に繋がる。また隆帯下には斜沈線文。	資料4
14	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	精製	波状口縁。やや幅広の無文部を持ち、隆帯による溝巻き文か。	資料4
15	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	金雲母粒	口縁部肥厚し、以下胴位の集合沈線文。	資料4
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	横位の隆帯下位に沈線による曲線文。	資料4
17	深鉢	口縁-胴部	覆土	灰黒色	砂粒	波状口縁を見す。波頂部に円孔か、口縁部には稍円弧文が覗かれ、縦位の沈線で埋めている。以下胴部には縦位の沈線で無文帯、鬚子造り文文。	資料3
18	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	ハの字状の沈線文。	資料3
19	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位沈線を横き左右に弧状の沈線文。	資料3
20	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	炭母粒	沈線による溝巻き文から2本の沈線が垂下。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位集合沈線文上に波状垂下文。	中期後半
22	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文で、磨き肌見られる。	後期
23	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	精製	沈線による曲線文。内外面に赤彩肌見られる。	加曾科E 4
24	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部内側、内外面で異なるが、上部に整形時に付いたものか横方向の用い沈線が看取される。内外面磨き。	中期後半
5-133号住居跡 (MR325・2020B：PL180)							
1	深鉢	口縁部	砂?	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位の隆帯が帯る。	称名寺1
2	浅鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に横位2条の沈線および円形文が付きされる。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に沈線、押注文が見られる。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	砂?	茶褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線帯る。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯下に縄文文様。	称名寺1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
8	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	平行沈線による稍円、菱形文様描き縄文で埋めている。	称名寺1
9	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位沈線から沈線が垂下交点部分に対向弧状沈線文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位、弧状の沈線文。	堀之内1
11	深鉢	口縁取手	覆土	黒褐色	微砂粒	波状口縁波頂部分が高く伸び隆帯の突起となる。突起外縁には沈線、刺突文が見られる。以下胴面には沈線による横下文様と、列点状文が付きされる。	称名寺2
12	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位の隆帯に円形の貼付文。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	斜位の隆帯。	堀之内1
14	深鉢	胴部	砂?	暗黒褐色	砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
15	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に横位押注隆帯。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の隆帯。下段の隆帯には押注文が見られ下位方向にも延びる。交点部には円形文。	堀之内1
17	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	円形刺突文。	三十稲場
18	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	爪形状の刺突文。	三十稲場
19	深鉢	胴部	砂?	灰黄褐色	砂粒	縦位の沈線による無文帯と縦位集合沈線。	加曾科E 3併行
20	深鉢	胴部	砂?	灰褐色	砂粒	縦位の集合曲線文。	中期後半
21	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
22	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
23	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
24	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文口縁部片。	堀之内1
25	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片。断面やや丸れる。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
26	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片。断面や丸れる。	後期
27	注口土器	注口部片	覆土	黄褐色	微砂粒	注口部片、先磨を欠く。下部に縞状の條帯が見られる。小片に破損しており断面も風化。	堀之内1
5-134号住居跡 (第328・299回：PL181)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縄文による三角文、渦巻き文様を施す。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁に横位沈線通り直下には縦位短沈線を連続施文。以下縄文施文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下沈線による渦巻き文をやや乱雑に施す。底文に横位が部分的に施文。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下沈線による曲線文様。	加曾利E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位の條帯が通り、その下には横位連続の矢羽根状沈線文を後期に施す。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	頸部屈曲し外反、頸部には沈線で画した垂四角文、横き無彫縄文しを縦位充塞施文する。	称名寺1
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による曲線文を横き縄文を充塞施文。	加曾利E 4
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	2本沈線による磨り消し文様。	加曾利E 4
9	深鉢	胴部	床面	暗茶褐色	微砂粒	垂下沈線による縞状の無文帯を画す。	加曾利E 3
10	深鉢	口縁一部欠	埋塞	暗褐色	砂粒	底面小さくキャッパ形を呈す。無文であるが、成形時の編み目が写り残る。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁から縁外縁帯による渦巻き文および沈線文が見られる。條帯文は円形断交文が伴う。	堀之内1
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	弧状の微彫線。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
14	深鉢	底部	覆土	暗褐色	微砂粒	垂下沈線による縄文、無文部。	加曾利E 3
15	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文の底部片、底面に網代焼。	後期
5-135号住居跡 (第333回：PL182)							
1	深鉢	口縁部	♀	灰黄褐色	微砂粒	くの子に折れた口縁部に沈線で画された縄文帯、以下胴部には沈線区画	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に押江文を持つ小突起有す。横位に沈線で画された縄文帯。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	♀	灰黄褐色	微砂粒	口縁部はくの子を外反し、輪部が成立。口縁から胴部に縦位に円形断交文を有する斜り付け條帯文が行く。胴部には沈線通り以下横位の縄文帯。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	♀	灰褐色	砂粒	沈線区画の磨り消し文様。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部部は内側に折れ、上面に平坦面を形成し円形断交文が見られる。また下位には断面三角の横位の條帯が斜る。断面円形。	後期
6	深鉢	口縁部	♀	灰黄褐色	微砂粒	無文の口縁部片。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	磨り消し文様、断面に斜縄文、頸部には沈線文の一部が看取される。	堀之内1
8	深鉢	胴部	♀	茶褐色	砂粒	垂下沈線により無文、縄文部。	加曾利E 3
9	深鉢	底部	♀	灰褐色	砂粒	無文底部片。	後期
10	深鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	底面に網代焼。	後期
11	深鉢	底部	♀	黄褐色	砂粒	無文底部片。	後期
12	土製円盤	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線文様見られる。径約4cm。	称名寺2
5-136号住居跡 (第335回：PL182)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	微砂粒	横位隆帯上に縦位の押江文列。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	低い横位隆帯。	中期後半
5-137号住居跡 (第337回：PL182)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	小波状口縁。横位沈線が通り、以下沈線で磨り消し文様を施す。縄文はLR、口縁部は横位。以下は縦位方向に施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	褐色	微砂粒	口縁部に横位の條帯。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	沈線で磨り消し縄文文様を施す。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による彫形文。	称名寺2
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の沈線、両側に沈線で画した縄文充塞の円状文、渦巻き文が見られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による垂下文、重弧文様施す。交点には円形文が見られる。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位に無文帯、集合沈線帯。	中期後半
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位集合縞帯。	中期後半
5-138号住居跡 (第339回：PL182)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰灰褐色	砂粒	口縁に隆帯文様のみ。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位沈線、隆帯による渦巻き文。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	3本脊の沈線文、縄文施文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	器面風化し文様不鮮明。	中期後半か
5	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位の隆帯。	後期か
5-139号住居跡 (R340・341区：PLR3・R3D)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	精製	口縁に沈線が廻る。以下無文で器面研ぎされる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部、器面に横位沈線。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し器面に押印文有す沈線が廻る。波状下には隆帯が顕下。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	磨り消し縄文。	杉名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	器面に横位平行沈線廻り8字状の刷付文、下位に斜位弧状沈線文が見られる。縄文L形施文。	堀之内1
6	小型球形土器	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文、刷手文様を描く。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縄文地文に横位沈線、曲線文を描く。	加曾利E4
8	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	器面に横位平行沈線廻り間に刷付文付す。さらに胴中には3本の横位沈線が廻らされ、沈線間を縄文で埋めている。	堀之内1
9	深鉢	胴部	砂	黄褐色	砂粒	縄文施文。	中期後半
10	浅鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文沈線、器面に輪轆み痕が見られる。	後期
11	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	無文の口縁部片、器面風化。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	T状の隆線交点に円形の刷付文。	後期前葉
13	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯による縦位区内に押印文有す隆帯顕下。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	刷付文。	後期
15	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部片。	後期
5-140号住居跡 (R342区：PLR3D)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部内側に肥厚し、円形の隆起文が見られる。器面黒色で研ぎされる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯廻り無文部を有す。以下縄文L形横位施文。	加曾利E4
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による刷付文。	杉名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位沈線、刷付文が見られる。	堀之内1
5	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
6	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文底部片。	後期
5-141号住居跡 (R345区：PLR3D)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	小波状を呈す。波状下に隆帯による渦巻き文様。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	小波状を呈す。口縁内側に横位隆帯が見られる。隆帯による渦巻き文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縄文地文に沈線で曲線文を描く。	加曾利E4
5	深鉢	胴部	覆土	灰色	砂粒	縄文L形を縦位施文後、2本の沈線で磨り消し曲線文を描く。	加曾利E4
6	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒多	隆帯による円状の区画文連続させ、中には斜位、横位の集合沈線文を去風。	資料3
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯下に縦位羽状沈線文。	資料3
8	浅鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	口縁部に内側に刷付文を伴う隆帯か。	中期後半
5-142号住居跡 (R347区：PLR3D)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	小波状口縁、円形押印文有し隆帯による横位文様構成か。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線と縦位集合沈線。	資料3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	平行沈線による磨り消し文様。縄文はL形。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文。	加曾利E4
5	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縦位沈線で無文帯、縄文帯。	杉名寺1
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の沈線。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	押印文有す横位隆帯廻り下位には弧状、斜位の沈線文。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯が剥落し、地文の集合沈線が見られる。	資料3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯文。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-144号住居跡 (第39～35)区画: PL184・185)							
1	深鉢	口縁-胴部	砂土土層	暗黄褐色	砂粒	口縁は3単位の様状か、縦断面は肥厚し上段に円形文、内面に横円文を構成。胴部文様は縦断面より、沈線で開催した「字状」縄文帯帯文様の大小2段に渡って描かれたものが3単位幅かかれている。文様には縄文帯を縦断面に字状文様、字状土層。	後期初頭
2	深鉢	口縁-胴部	灰床	黒褐色	砂粒	口縁部に沈線が施り、胴部には直下沈線で縦位4分劃した区画内に整重垂弧状文飾きその下には直軌状文を描く。文様の間隙には縄文帯が施される。	後期初頭
3	壺形土器	口縁-胴部	覆土	暗黄褐色	精製	口縁には直立し胎部に沈線の刺突文が施る。以下沈線による渦巻き文の横位連続する。口縁部に数字が付くか、内外面共に研磨。	後期初頭
4	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は外反し、胎部は直く立脚、胎部に円形文を有す横位の隆帯、以下沈線による直軌状文を描く。胎部に炭化の付着。	後期初頭
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線、以下渦巻き文、横円文を組み合わせた縄文帯。	後期初頭
6	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に側面沈線で飾られた横位突起が付くものと見られる。口縁下に横位の沈線、直軌文を描き、沈線間は縄文帯で埋める。	後期初頭
7	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	3本単位の沈線による渦巻き文様。	後期初頭
8	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位の沈線下に同心円文、区画内には縄文帯。	後期初頭
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	精製	縄文帯下に沈線により渦巻き文、具柄文様を描く。	後期初頭
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縄文帯下に沈線による直軌文用を描く。	後期初頭
11	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位に沈線以下、縄文帯による渦巻き文。	終末寺1
12	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	沈線による三角および横円文様を描き、縄文帯、器面炭化。	後期初頭
13	深鉢	胴部	覆土	暗灰白色	砂粒	横位の沈線に8字胎付文、以下沈線による直軌文、縦横円文を描く。	後期初頭
14	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	終末寺1
15	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	沈線で磨り消し曲線文様を描く。	後期初頭
16	深鉢	胴部	覆土	黒茶色	微砂粒	沈線による直軌形文飾き細線文が充填施文される。	後期初頭
17	深鉢	口縁部	覆土	黒黄色	微砂粒	平行沈線で画かれた横位縄文帯。	後期初頭
18	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	三角形の磨り消し縄文。	後期初頭
19	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	磨り消し縄文による彫形区画文、胴部の集合沈線文。	後期初頭
20	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部突起状に肥厚し、内外面に直軌状沈線、その左右に刺突を有す沈線が施される。	後期初頭
21	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に刻みを有す沈線、横位に肥厚した部分には刺突文が見られる。	後期初頭
22	深鉢	口縁部	覆土	褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による「字状」文様、胎部に押江文、隆帯上には刺突文が付けられ、口縁部にも円形文、刺突文が付けられる。	後期初頭
23	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内屈し沈線が施られ、直下が隆帯上に高まる。	後期初頭
24	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内屈し沈線、円形文が見られる。	後期初頭
25	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	口縁部は短く外反し横位の沈線が見られる。以下横位刺突文列。	終末寺2
26	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に押江隆帯。	後期初頭
27	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁から押江文を有す隆帯が垂下。	後期初頭
28	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部内面に肥厚、押江文を有す隆帯が垂下。	後期初頭
29	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に2本の沈線が施る。隆帯による円形文飾き、刺突文が見られる。黒色の埋込部分に施る。磨か。	後期初頭
30	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	口縁部から垂下した隆帯が左右に分かれ横円文を構成、隆帯に沿って一部に角押し沈線の刺突文が見られる。	後期初頭
31	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	砂粒多	端位の取手が付くものと見られるが欠損。	後期
32	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	精製	口縁部は直状を見し、口唇部が平面をなし沈線が見られる。内外面共に研磨。	後期初頭
33	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁部肥厚し胎部分に刺突文、その脇には刺突文を有す隆帯が垂下。	後期初頭
34	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部に直軌隆帯による横軌円形孔。さらに口縁部に沿って2本の隆帯が施る。	後期初頭
35	壺形土器	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部は短く立ち上がる。隆帯による横円文飾き組み合わせる。円形文が見られる。	後期初頭
36	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	胎部に刺突を有す胎付文見られ、沈線による同心円文、直軌文が施される。	後期初頭
37	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部が肥厚し、沈線が施る。沈線下に沿って横位押江文付される。器面やや炭化。	後期初頭
38	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁に2本の沈線が施る。器面やや炭化。	後期初頭
39	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部内面に肥厚、外面は無文。	後期初頭
40	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	胎部外反し、横位直軌の隆帯、以下沈線による直軌文を描く。	後期初頭
41	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の隆帯が垂下。	後期初頭
42	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	胎部に横位円形刺突文列、胴部の集合沈線文。	後期初頭
43	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	胴部に直軌状および直下沈線施き、周囲には列点状の刺突文を付す。	後期初頭

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
44	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	爪形の削文が幅広く施される。	三十世紀
45	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位の沈線。	後期
46	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	幾重の縦位の磨り消し帯。	加曾科E3
47	注口土器	注口部分	覆土	暗茶褐色	砂粒	注口部は沈線を受けている。上部に口縁から繋がる横位の削りが付く。注口内側には幾重、および沈線による横文、注口下には斜位の横文帯。	堀之内1
48	浅鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	無文の胴部片。	後期
49	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	無文の胴部片。	後期
50	深鉢	底部	覆土	暗赤褐色	砂粒	縦の沈線下部部が見られる。底部削り痕。	後期
51	深鉢	胴→底部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。器面の一部黒色の沈線が残る。漆か。	後期
52	深鉢	取手	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部突き出た横位突起と思われる。内側には幾重様に肥厚した粘り付け文が見られる。沈線。凹形削文が付される。	堀之内1
53	注口土器	注口部	覆土	灰褐色	微砂粒	注口部分、先端部がやや細く、上部付け根部分に取手の突起部が見られる。器面は研ぎされている部分が見られる。	堀之内1
54	土製鉄輪	取手	覆土	淡褐色	砂粒	縦径0.9cm。厚さ約0.6cmで両端が丸みを有す。横きを持った凹円形を呈すものと考えられる。表面に染色された白色顔料が部分的に残る。	後期
5-1号住居跡(第35窟)：PL18D							
1	深鉢	胴部	砂体土器	淡黄褐色	砂粒	3本単位の下下沈線および縦文帯が明確に置いて見られる。縦文はLRを縦位施す。砂体土器。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	砂?	黄白色	砂粒	口縁下に横位の幾重帯。以下縦文LRを施文しているが、縦文施文帯を下を横文で幾重帯を作り出している。	後期
3	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	縦位、斜位の沈線文。地文にLRの縦文。	堀之内1
4	壺形土器	口縁部	床面	黒色	砂粒	口縁部が短く外反、器面には幾重き文帯の磨り消し縦文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	床面	灰褐色	砂粒	沈線による凹状文。	加曾科E4
6	深鉢	胴部	床面	灰褐色	微砂粒	沈線による幾重文。	堀之内2
7	深鉢	胴部	床面	灰褐色	精製	横位沈線見られ器面研ぎ。	堀之内1
8	深鉢	胴部	砂?	暗茶褐色	砂粒	無文胴部片。1と同一個体か。	後期
9	深鉢	底部	砂?	淡黄褐色	砂粒	無文で器面研ぎされる。底面に削り痕か。火を受け傷み、器面に灰色の付着物あり。	堀之内2
6-10号住居跡(第32窟)：PL18E							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	石英粒多	口縁下に横位の幾重帯、口縁との間に連続の結節文。以下縦文施文か。	中期
2	深鉢	口縁部	Fr3内	橙褐色	微砂粒	口縁部に押出文幾重帯が横位に付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	石英粒多	口縁部、器面に横位沈線。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に沈線が磨る。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に沈線が磨る。	堀之内1
6	浅鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に細かい刻みを有す。内側に幾重帯の磨り消しに下位には4本の沈線が多段施文されている。外面は無文。	堀之内2
7	深鉢	口縁部	床面	暗黄褐色	微砂粒	口縁下に横位刻み幾重帯。	堀之内2
8	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部短く内傾し沈線が磨る。	堀之内2
9	深鉢	口縁部	床面	灰色	微砂粒	口縁部沈線が無文帯面す。以下垂葉形文。	堀之内2
10	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部が短く内傾。口縁から沈線を垂下、間には連続の山形沈線文を垂下帯とする。	後期
11	深鉢	口縁部	床面	灰黒色	微砂粒	口縁部内傾し平行沈線が垂下。	堀之内1
12	深鉢	口縁部	床面	淡褐色	微砂粒	口縁下に横位の幾重帯、沈線文。	堀之内2
13	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁くの字に内屈する。折れた部分は平潰に潰かれている。	後期
14	深鉢	口縁部	床下土坑	黒色	砂粒	口縁部片。	後期
15	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	横位の沈線文以下磨り消し縦文。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	微砂粒	垂三角磨り消し縦文。	堀之内2
17	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂多	沈線で縦位および斜位方向の文様磨き、縦文文を充填施文。	堀之内1
18	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈線文、地文は横位LR。	後期
19	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	横位磨り消し縦文帯。	堀之内2
20	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	微砂粒	沈線による垂三角磨り消し縦文。	堀之内2
21	深鉢	胴部	床面	黄褐色	砂粒	沈線による垂三角磨り消し縦文。	堀之内2
22	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位磨り消し縦文帯。器内極めて薄い。	堀之内2
23	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁内面に沈線。	堀之内2

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
24	深鉢	胴部	床面	黄褐色	微砂粒	胴部に8字筋付文、これを囲むように沈線による重弧文。	堀之内2
25	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文。	堀之内2
26	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	精製	沈線による渦巻き文か、戻化物付着。	後期
27	深鉢	胴部	床面	黒褐色	微砂粒	重垂形文。	堀之内2
28	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文様。	後期
29	深鉢	胴部	床面	赤褐色	砂粒	斜みを有す横位隆帯。	堀之内1
30	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	微砂粒	横位、縦位の隆帯。	後期
31	深鉢	口縁部	床面	灰褐色	砂粒	押圧隆帯文。	堀之内1
32	深鉢	胴部	床面	灰褐色	精製	無文。	後期
33	深鉢	把手	覆土	橙褐色	微砂粒	口縁部把手片、手前側は橋状になると見られるが欠損している。	後期
34	深鉢	底面	覆土	茶褐色	微砂粒	底面に刺状紋。	後期
6-15号住居跡 (第360回：P.186)							
1	深鉢	口縁部	Pt.3	灰褐色	砂粒多	口縁部が広く内面が段を持って平坦面をなす。口縁外側に連続点形文。	
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	内湾する無文口縁部。	
3	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	隆帯による曲線文、波状垂下文。地文には斜方向の条線文。	縄文系
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	垂下波状隆帯文。地文には斜方向の条線文。	縄文系
5	深鉢	胴部	床面	茶褐色	砂粒	縦位併行隆帯。地文には斜方向の条線文。	縄文系
6	深鉢	胴部	床面	黄褐色	微砂粒	横位羽状沈線文。	資料3
6-16号住居跡 (第363～365回：P.186～188)							
1	深鉢	口縁・胴下部	がけ土層	淡褐色	白色砂粒多	隆帯による横位文様帯、横内には縦位文様帯。下部隆帯には押圧文が付され胴部にも押圧文が廻る。胴部沈線による縦位横位文、縦字文。	加資料E2
2	両耳壺	口縁・胴上部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁は無文で外反する。把手は縁の部分高まり縦長S字状の沈線。把手左右の胴部には縦文帯が施文される。胴部沈線による口伏文、縦字文。	加資料E3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部横位区画文、区画間の隆帯上下に円形押圧文。横内文内縦文RL系縦文。胴部には垂下沈線による無文・縦文帯構成、縦文帯には字文。	加資料E3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横位、渦巻き文。区画内縦文帯で埋めている。胴部には垂下無文帯、縦文帯を構成するが縦文帯がかなり短く作られる。	加資料E3
5	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による横位文様構成。縦文RLを横位施文する。	加資料E3
6	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部内面する。横位沈線で画された縦文帯が見られる。	加資料E2
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文部下。横位に連続斜突文。以下沈線による縦位横位文および縦字文が見られる。横内文内には縦文RLが縦位施文されている。	加資料E3
8	深鉢	胴上部	覆土	黒色	微砂粒	隆帯に円形文が廻る。以下2本の沈線で胴部を画し、胴部には3本の沈線が同時に見られる。区画内には縦文RLが縦位施文されている。	堀之内1
9	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	垂下無文帯、縦文帯を構成。無文帯には縦文帯した縦位横位文を描きその下に縦字沈線文。縦文は縦位のRL。	加資料E3
10	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	沈線による垂下無文および縦文帯。縦文は縦位のRL。	加資料E3
11	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒多	口縁に沿って斜突文。以下縦位の集合条線文および沈線。	
12	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	口縁下に縦位隆帯が縦り連続押圧文が付される。縦位は縦位の横位伏渦巻き隆帯文が見られ、上部には部分的に縦文RL縦位施文が採取される。	資料3
13	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	雲母粒	口縁部に垂下三角の隆帯による渦巻き文を付す。さらに左右に2本ずつの隆帯が結び付いている。	資料3
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	雲母粒	渦巻き隆帯文。地文には縦位、斜位の集合沈線。	縄文系
15	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒多	隆帯により横位区画帯、曲線文、矩形文を隆帯で描き出し隆帯には沈線文が付される。	資料3
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位の隆帯下にS字状の垂下文。字には沈線による重弧文帯を描き横位に矢羽状に縦文帯を配す。	縄文系
17	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位の帯状、渦巻き状伏文。地文には縦位の沈線。口縁部内面に押し高めて使用。	資料3
18	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位にH字状の隆帯文付し、斜位の集合沈線。	資料3
19	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	雲母粒	3本の垂下隆帯。地文には斜位の集合沈線文。	資料3
20	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	雲母粒	垂下隆帯。	資料3
21	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦、横方向の隆帯。横位隆帯上位は縦、下位部分には斜位の沈線施文。	資料3
22	深鉢	胴部	床面	淡黄褐色	砂粒	沈線により縦位に斜位横位文を描く。横内文内には中央に縦位沈線1本を描く。地には斜位の集合沈線文。	資料3
23	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文。内面に戻化物。	杉本寺
24	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	精製	沈線による渦巻き文か、一部に刺状文。	後期
25	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	内径に、縦長の箱形形通かし孔を持つ。通かし孔の上下に隆帯文が見られ、両端部に円形の斜突文。口縁部には沈線による横位文。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
26	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	円形刺文文を有す横位の隆帯。	後期
27	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位の沈線下に沈線による垂弧文。	堀之内2
28	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	白色砂粒	口縁付近内側に斜く折れる。外面沈線により無文帯を画し、以下胴部には沈線による矩形磨り出し刺文。刺文は無彫しを横位無文としている。	堀之内1
29	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	白色砂粒	口縁付近内側に斜く折れる。外面沈線により無文帯を画し、以下胴部には沈線による垂弧文。内側には磨文無彫しを施されている。	堀之内2
30	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂多	横位の沈線下に同心円状の刺文帯。	堀之内2
31	深鉢	口縁部	覆土	黒色	白色砂粒	口縁部に横位の沈線廻る。	堀之内1
6-17号住居跡 (第369図：PL188)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁内側に肥厚する。無文。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による縦位無文帯。縦文帯区画。刺文は縦位RLを施文。	加曾科E3
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	金雲母	縦位羽状沈線文。	曾科3
4	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	砂粒多	沈線による縦位の区画帯内に羽状沈線文。	堀之内2
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	矩形区画内に縦位の集合沈線。	中期後半
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	縦位集合沈線文。	中期後半
5区埋土 (第372図：PL189)							
1	深鉢	腹部	5-1号土 (5-1号土 12-14号土)	淡褐色	微砂粒	腹部から前面片、2本の隆帯による垂弧状の沈線とその連結部下位には溝文あり。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	5-1号土 (12-14号土)	灰褐色	微砂粒	隆帯に横位刺文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	5-1号土 (12-14号土)	暗褐色	微砂粒	沈線の交点部に円形文。	堀之内1
4	深鉢	底部	5-1号土 (12-14号土)	淡褐色	砂粒	胴部無文。底部には刺代痕。	後期
5区埋土・炉・配石 (第374・375図：PL189)							
5-9号埋土 (第374図：PL189)							
1	深鉢	胴部	9号埋土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横位刺文を施す縦位集合沈線帯で包圍。胴部は10単位位の縦位の集合沈線文帯を磨り出し帯で画し、同じ工具により波状磨り出し文を施す。さらにその上から沈線による矩形磨り出し文を付与が、この上1帯のみ集合沈線による縦位文を画いて配行跡下文が付与されている。下部の欠け口は丸く整形される。	曾科3
5-10号埋土 (第374図：PL189)							
1	深鉢	胴部-胴上部	10号埋土	灰褐色	砂粒	口縁部隆帯により横位字様の横円文を垂弧させて描き、その下の横円文にのみ縦位集合沈線文を施文。また隆帯交点に円形文を付与。胴部は縦位沈線による縦位帯および集合沈線文帯に区画。	加曾科E3
5-11号埋土 (第374図：PL189)							
1	深鉢	胴部	11号埋土	淡黄褐色	金雲母付	全面に縦文RLを縦位施文する。口縁部、底部を欠く。	中期後半
5-12号埋土 (第375図：PL189)							
1	深鉢	口縁-胴部	12号埋土	灰褐色	石灰-長石粒	口縁部隆帯による横位、溝文と文様帯を構成。横円文内には縦位の集合沈線文。胴部は縦位の沈線により無文帯、縦位沈線文帯を画す。	加曾科E3併行
2	深鉢	胴部	12号埋土	黒褐色	精製	弧状沈線文。	曾科3
5-13号炉 (第375図：PL189)							
1	深鉢	口縁部	炉内	淡褐色	砂粒多	隆帯による横円文、溝文と、縦文L横位施文。胴部には隆下沈線による無文帯、刺文帯。	加曾科E3
5-44号配石 (第376図：PL189)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁下に刻みを持つ横位の隆帯廻り隆帯上に円形刺付文。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に刺付文を有す円形隆帯が廻る。口唇部内側に沈線。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刻みを持つ横位併行隆帯。	堀之内2
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯交点に円形文。	堀之内1
5	浅鉢	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	薄手の底部片。底部に刺代痕。	堀之内2
5-44号灰石 (第376図：PL189)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部肥厚し沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	横位、斜位の沈線。	堀之内2
3	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	底部に刺代痕。	堀之内2
5-44号灰石 (第376図：PL189)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に重C状の沈線	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	横位凹線。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に沈線廻る。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に押圧隆帯。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位平行沈線上に円形文。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	平行沈線による渦巻き文および横位平行線。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	押圧線帯文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	C字状文。	堀之内1
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位平行沈線。	堀之内1
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	平行沈線側に刺突文。	堀之内1
13	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口唇部に沈線。	堀之内1
14	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁に廻る隆帯に連続円形文。	堀之内1
15	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口唇部に沈線。	堀之内1
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	無文。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文。口唇部は平ら。	堀之内1
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文。	堀之内1
5-445号灰石 (93378図・PL189)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位沈線。	堀之内2
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	横位平行沈線。	堀之内1

土坑出土土器一覧表

4-71号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯で画かれた横円渦巻き文。縄文R1が縄文される。文様下に無文有り。	加曾判E 2
4-72号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒多	口縁下に凹線廻り以下縄文が見られる。断面風化。	加曾判E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	口縁下に沈線による弧状文様。中に円孔文見られる。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	曲線磨り消し縄文。	称名寺
4	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	縦位沈線に併行する連続刺突文。	
4-73号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	併行沈線による渦巻き文。	称名寺
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	矩形の磨り消し縄文。	称名寺
4-75号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による磨り消し縄文。	称名寺
4-78号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	無文下に隆帯文。	
4-89号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	有段で、肥厚。	
4-85号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	把手部	覆土	淡黄褐色	砂粒	端部は円形に高まり中央が凹む。	後期
4-88号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文。	曾判3
2	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	無文で、口唇部は内側に凹む。	後期
4-89号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微石英粒	口縁部に連続押圧文。以下沈線による円状文か。	
4-96号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位隆帯。	
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	
4-102号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	精製	沈線による渦巻き文。	
4-103号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	精製	無文。口唇部内側に窪みに肥厚。	
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線による直下無文帯。縄文LR施文。	加曾判E 3
4-105号土坑 (第423図・PL190)							
1	土製円盤	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	斜位の集合沈線文。	
4-106号土坑 (第423図・PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部隆帯の文様が付られ、縄文R1が縄文される。また胴部には直下無文帯および沈線文見られる。	加曾判E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁下部に横位の條帯、以下縦文施文。特徴かなり厚肌。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	口縁部内側、條帯で文様帯を囲い渦巻き文、縦文を充填する矩形文様。	加曾利E 2
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に幅状の縦文区画帯、1と同一。	加曾利E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に低い横位條帯、2と同一個体の。	加曾利E 4
6	深鉢	把手部	覆土	灰褐色	微砂粒	大型の把手片、中央および下部に円孔を有し手前縁は横状となる。表面に沈線、刺突文が見られ表面上部は渦巻き文となる。	称名寺
7	深鉢	把手部	覆土	黄褐色	微砂粒	内縁すると見られる長円形の把手、両面に円形長円形の凹み有す。	称名寺
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線による三角文内に刺突文。	称名寺
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	波状の集合沈線。	
10	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒多	部分的に縦文が見られるが風化顯著。	
4-108号土坑 (第42区: PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位沈線および縦条線文。	
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位沈線および縦条線文。	
4-109号土坑 (第42区: PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	無文で、口唇部にはやや厚肌。	
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の沈線区画内へのU字状沈線文。	資料3
3	鉢形土器	胴下~底部	覆土	灰黒色	微砂粒	條帯によるU字区画文。区画内は無文。底部は僅かに彫り込み有す。	
4-110号土坑 (第42区: PL190)							
1	深鉢	口縁~胴部	覆土	明褐色	微砂粒	口縁部に條帯により横位、渦巻き文、胴部はU字状の区画に渦巻き帯下置状文、無文帯さらには条線文。また一部波状沈線と帯下無文帯間に横文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁~底部	覆土	淡桃褐色	兵石粒	口縁に沈線を廻らした下位には2本単位の沈線と横位の波状文を描く、胴部は沈線によるU字状で埋め、間には縦手置下文。やや粗い縦文施文。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	波状部片、口縁に沿って條帯が見られる。以下無文。	
4	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	兵石粒	縦文施文とし、沈線による波状文を上下に隔く。	加曾利E 3
4-111号土坑 (第42区: PL190)							
1	深鉢	口縁部	覆土	橙褐色	砂粒	口縁部無文で凹縁で画される。以下無筋土織文を縦位に施文。	
5-804号土坑 (第42区: PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	横位の條帯から沈線による渦巻き文有す條帯が帯下し胴部を矩形区画か、区画内には縦文施文。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位2本條帯で無文帯、地文には斜位集合沈線。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	精製	縦位羽状沈線。	中期後半
4	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	石英粒多	條帯による縦位長楕円條帯文、斜位集合沈線。	中期後半
5-811号土坑 (第42区: PL190)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微石英粒	薄手。下位に横位沈線文間に円形文。	後期
5-812号土坑 (第42区: PL191)							
1	深鉢	ほぼ完形	底面	茶褐色	微砂粒	2単位の小波状口縁、口縁下に断面三角の條帯が廻る。胴部には沈線による波状U字状が施されているが、それぞれは形は不揃いで一部は異なる。	称名寺1
5-813号土坑 (第42区: PL191)							
1	深鉢	口縁~底部	覆土	暗褐色	砂粒	大型の土器。およそ片割半分である。口縁部は(7)単位の波状把手片が入れられる。各片手置からの断面三角の條帯が断面を持って渦巻き状に繋がる。突起下にはおむすび形の窓が開けられ、窓部渦巻き文が左右に描かれている。胴部文様は2本単位のU字状の区画にU字状の区画、口縁部から交互に帯下し、地文にはU字状の区画の縦位刻文。下半部には刺突文を縦位に施文するが、胴部一部分には両者が混在して施文されている。	中期後半 (大本系)
2	深鉢	口縁~胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部にほぼ水平に條帯による渦巻き文が突起状に付く。胴部は口縁部以下で渦巻き文と繋がる。口縁部には條帯による楕円文構成。中は沈線による高低渦巻き條帯、横位沈線、交互刺突文を帯下置状とする。胴部には條帯による縦手置、渦巻き帯文、地文に縦位、斜位に集合沈線混在。	書卒文系
3	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁部に2本の條帯による連続弧状文、つなぎ部下部に沈線によるU字状文。	資料3
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線を伴い帯下渦巻きおよび、帯下條帯が行われる。地文は文様内には羽状にU字状を帯下置状に描かれたりしている。	書卒文系
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部文様帯にU字状による渦巻き文縦位の集合沈線。文様下のく字に附れる所には沈線に伴う條帯が行われる。胴部は無文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	粗く均めの太沈線、横位平行沈線から、以下平行沈線による縦手置下文。渦巻き文を帯下し、胴部地文には縦位U字状施文。	中期後半
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	條帯による楕円、渦巻き文。以下胴部には縦位沈線、縦文帯。	加曾利E 2
8	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒多	縦位條帯、横位に2本の帯を有す條帯が廻り、下位は縦位、上位には平行沈線、縦位沈線が混在。	資料3
5-814号土坑 (第42区: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	胴部による楕円文様、楕円文様を帯下し縦位2列、計6個の円形文が行われる。筒内文内には縦位の集合沈線。	資料3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-813号土坑 (第427図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。内面にも口縁に沿って隆帯が見られる。2・3は同一個体。	縄文系
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。内面にも口縁に沿って隆帯が見られる。	縄文系
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	金雲母	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。内面にも口縁に沿って隆帯が見られる。	縄文系
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	縦位の集合縞条線文。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	微砂粒	縦位沈線による無文、縄文部。縄文は縦位LRの縦位施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	縦位沈線による無文、縄文部。縄文はLRの縦位施文。	加曾利E 3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	垂下沈線の沈線文。	曾利 3
5-814号土坑 (第427図: PL191)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	口縁部平らで、無文。内外面良く研磨。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位の集合沈線。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	微砂粒	横位沈線を多段施文し膝下段には結防文。以下縦位の条線文。	中期後半
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の集合沈線。	中期後半
5-821号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は無文無彫模様に印刷状無文。以下横位の隆帯と隆帯による渦巻き垂下文。地文には斜位の集合沈線も施文。	縄文系
5-824号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	波状口縁部片、隆帯による渦巻き文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による楕円文構成か。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部文様は隆帯による楕円文様を構成か、胴部は重磨り消し縄文。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	緑青褐色	砂粒	沈線による凸状文様。器面風化が顕著で文様不鮮明。	加曾利E 4
5	小型鉢形土器	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	胴部はやや膨らみを有して立ち上がる。無文で内外面整形が残る。磨りで磨貫5感じ。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	垂下沈線および重弧状沈線文。	曾利 3
5-825号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒	口縁部に細る隆帯から磨り消し隆帯文が弧状に垂下。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	刻みを有す横位隆帯。	後期
3	浅鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	隆帯による渦巻き文。内面研磨され赤彩痕。	加曾利E 3
5-826号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部隆帯による楕円文構成か、口縁部に斜位の集合沈線。	曾利 2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒	口縁部隆帯による楕円文構成か。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰灰褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯以下縄文施文。	加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	2本単位の沈線による凸状文か、縦手沈線文見える。	加曾利E 4
5-827号土坑 (第428図: PL191)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	浅い沈線文。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	砂粒	重集合沈線、器面荒れる。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-828号土坑 (第428・4290: PL192)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒	隆帯による弧状区画文。区内無文施文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒	口縁部に隆帯による連続弧状文。文様内には縄文施文。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁に沈線磨り、以下沈線により凸状の磨り消し文。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	金雲母	口縁部から縦手文状に垂下する隆帯に渦巻き部に平行して隆帯が垂下する。地文は口縁部下に横位2条の沈線。以下縦位凸字状に沈線文。	曾利 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状口縁、隆帯による渦巻き文および楕円文様を画す。楕円文内には斜位の沈線文。	曾利 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	金雲母	口縁部から縦手文状に垂下する隆帯に渦巻き部に平行して隆帯が垂下する。地文は口縁部下に横位2条の沈線。以下縦位凸字状に沈線文。	曾利 3
7	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位の沈線以下磨り消し縄文による曲線文様。	赤名寺 1
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	磨り消し縄文。	赤名寺 1
9	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	沈線による渦巻き文か。	赤名寺 2
10	深鉢	突起部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に付された帯状突起、沈線。円孔の周りは隆帯で飾る。	曾利 2
11	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	砂粒	隆帯による垂下凸状文。	加曾利E 4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-829号土坑 (第429図: PL192)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部底状を呈す。隆帯による槽門湾登り文を構成か、区画内には縄文施文。	加曾利 E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による槽門文構成し、槽位矢羽根状の沈線文。	曾利 2
3	浅鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	槽位沈線廻り以下縦位の集合条線文。赤彩痕。	加曾利 E 3
4	短頸土器土坑	胴部	覆土	暗茶褐色	精製	口縁部は環か外側に外縁しなら直り上がる。両面に槽位平行隆帯が厚いこれを繋ぐ横状の取手の付く。器面内外面とも研ぎられ、赤彩痕見られる。	加曾利 E 4
5-830号土坑 (第430図: PL192)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による円形文および4本単位の帯下沈線文。	堀之内 1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線および縄文。	加曾利 E 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	金雷母	隆帯による曲線文、異方向斜位の集合沈線文。	曾利 2
5-831号土坑 (第431図: PL192)							
1	深鉢	胴部	灰面	橙黄褐色	砂粒	胴中位が凹れ、口縁、器底を欠く。沈線により上下列のU・凸状文を交互に並べ、文様内には縄文LRを縦位施文。また下段文様の内1つは2重に描かれる。	加曾利 E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線、以下順手曲下沈線文の。地文には縄文LR縦位施文。	加曾利 E 3
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	沈線によるU状文描き、縄文LRを縦位施文。器面風化。4・5は同一個体。	加曾利 E 4
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	沈線によるU状文描き、縄文LRを縦位施文。器面風化。	加曾利 E 4
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	沈線によるU状文描き、縄文LRを縦位施文。器面風化。	加曾利 E 4
5-832号土坑 (第432図: PL192)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	浅口鉢。口縁内側には2条の沈線が並ぶ。外面口縁下に凹みを有す隆帯下に沈線で描かれた縄文帯。	堀之内 2
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による円形文か、一部が見られる。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位縄文帯および沈線で凸状文描き縄文光沢文。4・5は同一個体。	加曾利 E 4
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位縄文帯が上部に見られる。3の下部分。	加曾利 E 4
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位縄文帯および沈線で凸状文描き縄文光沢文。	加曾利 E 4
5-833号土坑 (第431・432図: PL192・193)							
1	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部はやや外反し幅広い無文となる。口縁部文様には隆帯で槽門湾登り文を構成し、文様内には縄文LRを縦位に多量施文。	加曾利 E 3
2	深鉢	口縁~胴部	覆土	明褐色	砂粒	口縁部は底状を呈し、波面底部には隆帯による湾登り文構成。以下沈線で描かれた縦長の不定槽門文の中には縄文施文、以下磨り消し縄文。	加曾利 E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に沈線で槽門文構成。縄文LRを縦位施文。	加曾利 E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒多	口縁部に縦位の集合沈線、耳状の突起文が付く。	曾利 2
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部に縄文施文後沈線による凸状文。	加曾利 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	石英粒	口縁下に凹みを有す横位の隆帯廻り、以下斜位の集合沈線。	曾利 2
7	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部やや肥厚し縦位の短沈線文。	曾利 2
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁直下に円形刺突文。	加曾利 E 4
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に縦位の短沈線文。	曾利 2
10	浅鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	口縁部が断面三角に肥厚、器面研ぎされ赤彩痕。	中期後半
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部無文とし、以下2重凸状文、凸状文内は磨り消す。縄文は、縦位に見。	加曾利 E 4
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曾利 E 3
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曾利 E 3
14	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂(石英)粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曾利 E 3
15	深鉢	胴~底部	覆土	暗褐色	砂粒	2本単位の帯下沈線により胴部縦位分帯。このうち7箇所に縦位円形刺突文が行われる。縦位区画内には斜位の集合条線文見られる。	
16	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部は隆帯で描かれた文様構成か、帯下底状隆帯、横位の平行沈線文描き、縦位集合沈線を他交とする。	曾利 2
17	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	3~4単位の縦位の沈線文及び縦位矢羽根状文。	曾利 3
18	深鉢	胴~底部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位RL施文。	加曾利 E 3
19	深鉢	取手	覆土	茶褐色	金雷母	口縁部に付された取手取手。片側が大きく開き平坦を為し沈線による湾登り文が描かれる。さらに器面には縦手文等が施される。	書草文系
20	深鉢	取手	覆土	灰黒色	砂粒	器面付された縦状取手。取手部分より周辺には浅い沈線による文様が見られる。	中期後半
5-834号土坑 (第432・433図: PL193)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒多	口縁下に横位沈線。	加曾利 E 4
2	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁内湾、浅い沈線で凸状文を描く。器面研ぎされ赤彩痕見られる。	加曾利 E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒多	口縁部に横位、以下縦位のRL施文施文。沈線による凸状文描き。	加曾利 E 4

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	沈殿による磨り消し縄文様、突起の新痕あり。	堀之内2
5	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒多	無文口縁部片。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒多	無文口縁部片。	中期後半
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄色	微砂粒	斜めを有す横位隆帯。	堀之内2
8	深鉢	底部	覆土	灰青褐色	砂粒多	底面に網代瓦。	後期
5-836号土坑 (第433図: PL193)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	複数の縦位沈殿による磨り消し文。縄文は縦位のRL。	加曾利E3
5-838号土坑 (第433図: PL193)							
1	深鉢	底部	覆土	黒色	砂粒	底面に網代瓦。	後期
5-840号土坑 (第433・434図: PL193・194)							
1	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	口縁部は無文。上部が口状に突起した円形隆帯の上下から左右に伸びる隆帯が狭長区画文様を構成。文様内には縄文彫刻を構成し、縦位に光縄文を縦位施文する。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に沈殿による横位文、口状文を描き縄文RLを光縄する。口状文内には縦位光縄文垂下。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に沈殿による横位文、口状文を描き縄文RLを光縄する。口状文内には縦位光縄文垂下。	加曾利E3
4	深鉢	口縁~胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	口縁下に沈殿による横位文、縦文を光縄。以下順手垂下文見られる。	加曾利E3
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に沈殿による横位文、口状文を描き縄文RLを光縄する。口状文内には順手沈殿文垂下。	加曾利E3
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は無文で横位の隆帯で覆される。隆帯からは懸垂弧状文が認められ縄文を光縄施文する。また隆帯にも縄文が施文されている。	加曾利E3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に隆帯廻り、平行隆帯による口状の垂下文垂下。文様内には縄文が施文される。	加曾利E4
8	大口型土器	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は無文で円形突起文を作り横位の隆帯が見られる。	後期
9	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部全面縄文施文後、沈殿による垂下文、および隆帯による口状隆帯。	加曾利E3
10	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈殿による縦位文を多段横位に描き縄文を光縄施文する。	大木系
13	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈殿による渦巻き文。	加曾利E3
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯円形文。および沈殿文見られる。	堀之内1
15	深鉢	胴部	覆土	暗青褐色	砂粒	横位の沈殿文様。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈殿による渦巻き文及び重弧状の沈殿文。	曾利3
5-842号土坑 (第434図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に無文部あり。以下縄文施文。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に無文部、以下縄文施文後沈殿による口状文様。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に横位の沈殿。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁部は肥厚し沈殿を巻き付けるように配す。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	小突起を見し波頂部に孔あり。隆帯による円形文や沈殿で覆られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E4
7	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	沈殿で横位縄文部あり。	堀之内2
8	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	やや楕円形形状あり。無縁部の作りは粗く打ち崩れた状態。径約5.0cm。	後期
9	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文胴部片利用。径約4.0cm。	後期
5-843号土坑 (第434図: PL194)							
1	小壺形土器	胴部	覆土	灰黒色	粗粒	横位平行沈殿文。	後期
2	浅鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	粗粒	斜位の沈殿文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	弧状の沈殿文。	称名寺2
5-844号土坑 (第434図: PL194)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈殿を伴う隆帯文。	中期後半
5-845号土坑 (第435図: PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	波状口縁。波頂部に渦巻き文、以下隆帯により渦巻き文、楕円文構成。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	平行沈殿による磨り消し渦巻き文。有文部には斜位の細条線文施文。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	横位沈殿間に刺突文。	称名寺2

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈澱による垂下文様。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縄文文に沈澱による渦巻き文。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	沈澱による渦巻き文。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	円形胎付文から隆帯が垂下。	堀之内1
5-846号土坑 (第435図：PL194)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰色	微砂粒	無文胴部。	後期
5-847号土坑 (第435図：PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁を呈す。横位の沈澱、磨り消しJ字文を描く。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に黒い隆帯廻り。以下沈澱で消した横位縄文帯。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰黄褐色	微砂粒	沈澱による垂下文、白伏文および円形文見られ一部に縄文充眼。	堀之内1
4	深鉢	口縁～胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁は密厚、胴部に横位幅状帯円文の磨り帯状取手が付くものと思われる。以下胴部にも隆帯による垂下文様縞さ、縦位の集合沈澱が充眼される。	資料2
5	深鉢土器	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	隆帯による円形文下に縦位の平行沈澱、横位集合沈澱施文。	資料3
6	斐形土器	胴部	覆土	黄灰褐色	砂粒	胴部に横位連続爪形刺突文。	三十船場
7	深鉢	磨り取手	覆土	灰黄褐色	砂粒	波頭部に縦状帯に紐状の磨り取手、上部は開き渦巻き文が描かれる。	後期
5-848号土坑 (第435・436図：PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈澱を伴う横位の隆帯、以下LR縦位施文。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に無文部を有し以下縄文施文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	大きく張り出した横位の隆帯で口縁部文種地を両す。文様帯には沈澱で方形の区画文様縞さ縄文を充眼施文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	隆帯で両す縦位縞さ縄文を充眼施文。	加曾利E3
5	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	縦縄文を多方向施文。	後期
5-849号土坑 (第436図：PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位区画文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部文様を両す隆帯見られ、以下縦位の磨り消し縄文、縄文は縦位R。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	平行条下隆帯、左右には横位集合沈澱文。	資料3
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の条縞文。	中期後半か
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文、沈澱が取除される。	中期後半
5-850号土坑 (第436図：PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部横位区画文、縦位の集合沈澱充眼。	資料3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	微隆帯で消した磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部。	後期
4	鉢形土器	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	横位沈澱で消した縄文帯。	称名寺1
5-851号土坑 (第436図：PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部に波状を見し波頭部に取手がつくものと見られる。口縁下には隆帯の廻り。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	弧状の併行沈澱文。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の隆帯に円形文、沈澱が付され、下部には沈澱による三角文縞さ縄文が施文される。	堀之内1
5-852号土坑 (第436図：PL194)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に沈澱による渦巻き文。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	磨り消し縄文、胴面に黒色の塗痕残る。漆か。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈澱により対向する白伏文を描き縄文施文。文様帯には縦位の沈澱が見られる。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位幅状のJ状垂下文、沈澱で縦位区画、文様帯には斜位の沈澱文が見られる。	資料3
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位幅状のJ状垂下文、重弧状沈澱文見られる。	資料3
5-854号土坑 (第437図：PL195)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に横位沈澱、以下縄文施文後沈澱による白伏文を連続に描く。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	平行沈澱による磨り消し文様。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	砂粒多	口縁部に刺突文、沈澱文、垂下波状沈澱文。	称名寺2
4	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁下に円形胎付文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横位沈澱、渦巻き文を描く。縦位集合沈澱施文。	資料2
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位平行沈澱間に矢引斜位の縦位沈澱施文。	資料3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
7	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
5-856号土坑 (第437図：PL195)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	精製	無文、口縁内側に隆帯が廻る。断面研磨。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片、内外面研磨。	後期
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文口縁部片、内外面研磨。	後期
5-858号土坑 (第437図：PL195)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	横位隆帯。	後期
5-859号土坑 (第438図：PL195)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	灰褐色	砂粒	浅凹口縁、口縁部に刺突文付す。口縁部に向けて浅く沈線下廻り以下縦文施文。縦位隆帯による横位消し文の垂下文。	加曾利E4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文様。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縦文施文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部に2段の連続横位刺突文、以下縦文Lが横位矢羽根状に施文。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波頭部に捻れを持つて広がる突起文。下位には沈線で画した縦文施文。	称名寺1
7	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に浅い横位沈線、以下縦文Lを縦位施文。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文様を組合せる。	大木系
9	瓦片貯付皿	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	磨の裏出しはほぼ本平で裏り出しは削い、斜めに空けられた円孔有。断面研磨。	中期後半
10	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位の沈線廻りし以下無施の縦文Lを施文。	後期
11	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縦位隆帯で画された幅広の磨り消し縄文帯。縄文は縦位L施文。	加曾利E4
12	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	平行沈線で大きく描かれる渦巻き文。	加曾利E4
14	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺2
15	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位、波状の垂下沈線。	後期
16	両耳蓋	磨り取手	覆土	淡茶褐色	砂粒	両面の大きき磨り上がる磨り取手の付く、取手ふ縁には横位の沈線下に縦文の染文入り。	加曾利E3
17	深鉢	取手	覆土	黒褐色	砂粒	上部が広がって上面が凹む、波頭部に延びた取手片。	後期
5-860号土坑 (第438図：PL195)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	低い隆帯による横位渦巻き文様のみ、以下横位の沈線で画した胴部にLも施文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位隆帯に付された円形文から、斜めに隆帯が延びる。	堀之内1
5-861号土坑 (第439図：PL195)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は舌状の小波状を呈す、下位の隆帯による横文。	加曾利E3
2	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は肥厚し口唇上部は平らに成形。無文で内外面研磨。	中期後半
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は肥厚し外側は隆帯状を呈す。無文で内外面研磨。	中期後半
4	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	精製	口縁内側に(4)本の横位沈線廻る。	堀之内2
5-862号土坑 (第439図：PL195)							
1	深鉢	口縁	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部下に隆帯による渦巻き文、口縁部区画文内には斜位の沈線。	御草文系
2	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による渦巻き文、横位隆帯が傾に延び口縁部区画文のみ。斜位の集合沈線が染文。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	2本単位の隆帯による渦巻き文と垂下模様。放射状の沈線および斜位の集合沈線が行き渡る。	御草文系
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による横文、渦巻き文様を描く、横位文様内には縦位の集合沈線文。	御草文系
5	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦文施文後沈線による曲線文様を描く。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の集合沈線および斜位の縦沈線文帯が見られる。	曾利3
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位集合未線。	後期
8	深鉢	底部	覆土	暗赤褐色	砂粒	垂下隆帯の下部が見られる。	曾利3
5-864号土坑 (第439図：PL195)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線に伴って刺突文。	称名寺2
5-865号土坑 (第439図：PL195・196)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	小波状の突起部分から左右に隆帯が延び口縁部に無文部を画す。また窪下には平行沈線による筋線状の磨り消し文様が垂下する。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に連続爪形文を伴う沈線が廻る。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	隆帯による渦巻き文及び放射状の集合沈線付。	唐草文系
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	胴部に横位の沈線、以下縦文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	刻みを有す縦位隆帯、および縦位矢羽根状の集合沈線文。	資料3
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	円形の大きく突き出した突起文、中央に沈線による円形文および刺突を有し、突起文を囲うように沈線文および環状刺突文が見られる。	後期
5-866号土坑 (第440図：PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	溝状口縁、被函部には沈線文、隆帯による横S字文および刺突文が付される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	砂粒	口縁部に突起状の把手が付く、上部部に沈線による渦巻き文、隆帯からは3本単位の隆帯が二筋に重なり、その間からも2本の隆帯が重なり、横には縦位の集合沈線。	資料3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は無文で内側は折り返されて肥厚。	資料3
4	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦位、斜位の沈線文。	資料3
5	深鉢	胴一底部	覆土	暗茶褐色	金重目	3本単位の重下隆帯、および縦位の重下沈線文が見られる。	資料3
5-867号土坑 (第440図：PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の沈線。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦文LR縦位施文。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位磨り消し縦文、縦文は縦位RL。	加資料E 3
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縦文施文。	杉名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	横位磨り消し縦文部。	堀之内2
5-868号土坑 (第440図：PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下に縦位隆帯。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁から口縁の懸垂磨り消し文。	杉名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	刻みを有す横位隆帯に円形貼付文が付され、さらに隆帯重下し胴部は縦文系、横文対に縦位に施す。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	3本単位の沈線による縦位磨り消し縦文。	加資料E 3
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	縦文施文に沈線による曲線文、沈線重下文。	加資料E 3
7	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒多	沈線による縦文光潤する三角文様か。	堀之内1
8	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	溝字でやや反りを持つ土器片用片。楕円形で一部欠損。長径約4.4cm。	後期
9	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	集合隆帯を斜格子状に貼り付ける。	資料2
10	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に押圧文を有す横位の隆帯磨り、口唇部にも押圧文。	堀之内1
5-869号土坑 (第441図：PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯により楕円区施文、区間区間にはコイル状の隆帯文、楕円区間内には縦位沈線。	資料2
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縦文、縦文はLR縦位施文。	加資料E 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	隆帯により口状文施文光潤。	加資料E 4
5-870号土坑 (第441図：PL196)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による渦巻き文を基点に横位および下位に2本の隆帯が重なる。施文には横状文、斜状文、刺突文が見られ、さらに矢羽根状の沈線文施文。	資料3
2	深鉢	取手	覆土	茶褐色	砂粒	円形を有す口縁部突起、上部部は広がり外側に瘤状に肥厚し下位に向かつて櫛状の取手が付くものと見られる。左右の面に横位の沈線文。	資料2
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文、磨面研磨。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	暗灰黒色	砂粒	縦位併行隆帯文、斜位の集合沈線。	資料3
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	金重目	斜位の隆帯及び縦位矢羽根状沈線文。	資料3
5-871号土坑 (第441図：PL196)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口唇部が内側に肥厚し上部部平らで赤彩痕みられる。	中期後半
2	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	曲線磨り消し縦文。	加資料E 4
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縦文による渦巻き文。	杉名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	上下に対向するU状文及び縦文光潤施文。	加資料E 4
5	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位へ状沈線、沈線は細く、間が空きやや粗い施文。	資料4
5-872号土坑 (第441図：PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に隆帯文。磨面研磨。	加資料E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位沈線下に縦位磨り消し縦文、縦文部には重下沈線文。	加資料E 3
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の集合沈線文。	中期後半

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による文様区画内に斜位の組合系線文。	中期後半
5-873号土坑 (第441図：PL196)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部やや内傾、横位の沈線以下縄文施文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位隆帯の一部が瘤状に肥厚、以下縄文施文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位の頸み隆帯下に横位縄文帯。	堀之内2
4	土製円盤	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	無文胴部、外縁部縁く打ち欠かれており土製円盤か。径約4.5cm。	後期
5-874号土坑 (第442図：PL196・197)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁に所々で切れる沈線が付す。以下胴部腹区画の文様型に、U状、弧状、三角文、さらには渦巻き文様を組み合わせた。文様の間隙には部分別に縄文が施文される。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は縄文やや内傾する。横位隆帯下に沈線が走る。縄文Lを横位施文。	
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	腹区画に瘤状把手が付く。口縁に沿って沈線が見られ、取手部分を含め縄文が施文される。沈線による扇状文の先端部が切れる。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	やや内傾する筒形、口縁下に横位沈線らし以下条線文を不明間に施文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯が平行して横り隆帯間には横位連続短直文、隆帯を繋ぐ短直文が付く。取手は中央に円孔を有しY状の横状で、内凹文が付される。	中期後半
6	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	砂粒	口縁部内傾、沈線による紡錘文。	加曾利E 4
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位平行沈線、間に連続の刺突文施文。	堀之内1
8	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	肥厚口縁部、円形文、沈線が付される。	
9	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に弧状沈線、以下縄文施文。	称名寺1
10	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁内側に沈線走る。	堀之内1
11	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	外傾する無文口縁部片。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	横位磨り消し縄文。	堀之内2
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による対向するU状文を2段に横り、区画内は縄文を充塞施文。	加曾利E 4
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	渦巻き磨り消し文。	称名寺1
15	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し縄文。	加曾利E 4
16	深鉢	胴～底部	覆土	灰白色	砂粒	無文底部分、底面に銅代板。	後期
5-875号土坑 (第443図：PL197)							
1	鉢形土器	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部に円孔、以下断面を有す隆帯が横おび、Y字状に垂下、交点には円形刺付文。口縁部内側に下向きのが三角文。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	砂粒	磨り消し、腹区画に突起付し左右に頸み隆帯が横びる。以下山形に沈線文を施しY字文が施文される。	堀之内2
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に押出隆帯廻り横位の8字刺付文、下位には弧状の沈線文が見られる。	堀之内2
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に頸み隆帯廻り以下横位沈線と縄文帯。	堀之内2
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄色	砂粒	口縁下に沈線と無文帯を施し以下縄文施文。	称名寺1
6	小型土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	胴上位に横位沈線文。	堀之内2
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	沈線による横位磨り消し文。	称名寺1
8	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	併行隆帯文による渦巻き文か、内傾は無文。	称名寺1
5-876号土坑 (第443図：PL197)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	金雲母	口縁部に斜位の組合系沈線、断面には横位方向の磨り消し隆帯間に横位磨り消し隆帯。さらに胴部には渦巻き懸垂文を施す。地には横位に組合系沈線。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	金雲母	1の胴部片、隆帯による渦巻き文。	曾利3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に無文帯、以下縄文施文地に口伏無文帯。	加曾利E 4
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯以下横位磨り消し縄文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部には内傾に肥厚、沈線と横した横位縄文帯下に垂下彫形文。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁下に沈線によるU状文。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位隆帯下に横位縄文帯による渦巻き文様か、隆帯上位に連続刺突文が行われる。	加曾利E 4
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による横位紡錘状文内に縄文L&Rを横位充塞施文。	加曾利E 4
9	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	沈線による磨り消しU状文。	加曾利E 4
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈線による横位紡錘状文か、縄文L&Rを横位充塞施文。	加曾利E 4
11	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位磨り消し縄文帯、12は同一個体。	加曾利E 4
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位磨り消し縄文帯。	加曾利E 4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈殿によるU状文様。縄文施文。	加曾利E 4
14	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	沈殿による縦位縞線状文か、縄文LRを縦位充填施文。	加曾利E 4
15	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁は内屈し円孔、小突起を有す。露面研磨。	堀之内1
16	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に沈殿廻り隆帯が沿う。	堀之内1
17	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	小黒点、径約2.8cm。	後期
18	浅鉢	底面	覆土	茶褐色	砂粒	無文底面片。内外面研磨。	後期
5-877号土坑 (第444図：PL197)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部は無文帯を施し、以下沈殿による白文を沈殿で描く、縄文LRを縦位施文。内面に炭化物が付着。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位の沈殿から波状垂下文様。	中期後半
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	3本単位の隆帯による渦巻き文、文様内には放射状に沈殿を付し、外側には縦位の集合沈殿。	曾利3
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	石英粒	隆帯に沿って刺突文か。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の貼り付け隆帯文様、地文にはU状沈殿文。	曾利3
6	深鉢	底面	覆土	暗褐色	砂粒	無文底面片。	後期
5-878号土坑 (第444・445図：PL197・198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯による横円渦巻き文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	横位の沈殿下に縦位縄文LRを全面施文。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に無文帯を有し長横円文を沈殿で描く、以下縦位の集合沈殿文。	曾利3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波上部が突起状を呈す。口縁に沿って沈殿が付き、縄文施文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による横円文配し、下位は隆帯で囲まれた無文帯構成か、縄文LRを縦位施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	併行沈殿による磨り消し文様。縄文はRL縦位施文。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	渦巻き文、赤彩痕。	加曾利E 4
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	3本単位で重下沈殿、両側には重弧状沈殿文。	書草文系
9	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に付された環状突起、上部が開き中が凹む。	加曾利E 3
10	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	砂(石)粒多	縦位の集合沈殿。銅鍍痕あり。	中期後半
5-879号土坑 (第445図：PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に弧状沈殿文、以下磨り消し縄文による彫形文様。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状部に環状突起が付き、隆帯で囲す縄文帯垂下。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位磨り消し縄文帯。	堀之内2
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	円形貼付文から横位、下方斜めに隆帯が延びる。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部隆帯で無文帯とし、隆帯下位に刺突文。	称名寺2
6	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に横長の横円沈殿文。	称名寺2
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
9	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	横位隆帯下に無部縄文LRを縦位に施文。	後期
11	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	渦巻き沈殿文。	堀之内1
12	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈殿による円形文。	称名寺2
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	垂下隆帯が広がる、円形文対弧状に沈殿付す。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位円形文隆帯。	堀之内1
15	土製陶輪	底片	覆土	灰黄褐色	微砂粒	新断面円形を呈す。表面に縄文文が施文されている。	後期
5-880号土坑 (第446図：PL198)							
1	深鉢	口縁～胴部	埋設土層	淡黄褐色	砂粒	口縁下に縦位隆帯に5単位のV字状隆帯帯が付き、胴部を縦位分限、分限面には横位の沈殿文。	曾利3
5-881号土坑 (第446図：PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	刺突文見られる。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈殿による刷手文。	加曾利E 3
5-882号土坑 (第446図：PL198)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	露面荒れて文様不鮮明。沈殿文様か。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-883号土坑 (第446図：PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による横円筒巻き文を2段構成。区内内は縄文Rを横位施文。口縁部文様は内凹文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	口縁部が丸く肥厚。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	じ状文焼き縄文光順。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈凹による縦位絞縄文焼き縄文を光順か。	加曾利E 4
5-884号土坑 (第446図：PL198)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による曲線文施し沈凹斜位に付す。口縁下には交方押し当てられた押印文。	曾利3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に縦位の沈線。	曾利3
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の下重沈線文。および縄文が見られる。	中期後半
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	対向するじ状文を沈線と連続して焼き。文様内は縄文施文。	加曾利E 4
5-885号土坑 (第447図：PL198)							
1	深鉢	口縁部	底面	灰黄褐色	砂粒	幅広い無文口縁で外反、内面に低い隆帯が廻る。以下縦位の沈線文か。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に隆帯廻り、隆帯上位に連続縦線、下位には斜位の集合縦線が見られる。	曾利3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部肥厚し内外面研磨。	加曾利E 3
4	深鉢	口縁部	底面	暗黒褐色	砂粒	口縁から繋がる隆帯が渦巻き文焼き、さらに隆帯が下重、さらに内面にも隆帯による渦状の白文が描かれ、間は灰化。縦位の沈線文が描かれる。	曾利2
5	鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯により渦巻き文、横円文を描くものと思われ。横円文内には斜交文。以下胴部には縦位の集合縦線文。	加曾利E 3
6	鉢	環状取手	覆土	灰褐色	砂粒	波頭部に付く環状取手片、5-90号住居跡14と同一個体か。	中期後半
5-888号土坑 (第447・448図：PL199)							
1	深鉢	口縁～胴部	覆土	黒褐色	砂粒	沈凹による三角文、J字状、斬先状文等焼き刺突文が見られる。	称名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	砂粒	口縁には波頭部で挟まる無文帯、以下縄文施文後沈線による白沈線磨り消し文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	口縁部横位沈線下に縄文施文。	称名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部に横位沈線、以下縄文R横位施文。	称名寺1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部内傾し沈線が廻る。以下縄文施文後じ状沈線文。	称名寺1
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は隆帯で無文帯、さらに重下隆帯で無文帯面す。	称名寺1
7	鉢形土器	口縁部	覆土	白褐色	砂粒	口縁下から繋がる沈線による波状垂下文。	称名寺2
8	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	口縁部が内傾する無文口縁部片、13は同一個体。	称名寺2
9	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	口縁部が内傾する無文口縁部片。	称名寺2
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文様。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	黄灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による渦巻き文、曲線文様焼き。	称名寺1
12	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈凹による渦巻き磨り消し文様。斜めの平行沈線が見られる。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	無部屈曲、胴部以下曲線文施文。	後期
14	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	平行沈線による渦巻き磨り消し、4単位か、間には沈線によるじ状文、さらに磨り消し文下には凹文を縦向きに施した沈線文が見られる。沈線文間を磨り消す。地文には縄文R施文。	堀之内1
15	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈凹による横円文、じ状文、平行文焼き文様内に曲線文Lを施文。	称名寺1
16	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	平行重下沈線。	称名寺2
17	深鉢	口縁部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。18～21は同一個体片。	後期初期
18	深鉢	口縁部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初期
19	深鉢	口縁部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初期
20	深鉢	胴部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初期
21	深鉢	胴部	覆土	灰白褐色	微砂粒	口縁下に横位連続刺突文を付した隆帯が廻る。	後期初期
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の隆帯直下に付された円形貼り付け文から隆帯が弧状に垂下する。	後期初期
23	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位の隆帯端部付された円形貼り付け文から弧状隆帯が垂下。	後期初期
24	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状垂下隆帯文。	後期初期
25	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	平行重下隆帯。	後期
26	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内傾、刺突文から隆帯垂下。	後期
27	波形土器蓋	蓋	覆土	黄灰褐色	砂粒	蓋斗状を見し上面は丸く反っており上面部は平らに成形されている。下部には環状取手が隆帯状に付く。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-889号土坑 (第1449回: PL199)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部隆帯による栴門文構成し黒文裏施文。	加曾利 E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横い溝の沈線以下黒文施文。	加曾利 E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁部に沈線による横栴門文様。	後期
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁直下より黒文施文、口縁部は横位以下縦位にR1。	
5	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文口縁部片。	中期後半
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部に無文部を画し、以下黒文施文。	加曾利 E 3
7	深鉢	胴部	覆土	赤褐色	砂粒	横位隆帯で口縁部に無文部を画し、以下黒文施文。	加曾利 E 3
8	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文底部片。底面厚減し角が丸みを呈す。	中期後半
9	深鉢	底起	覆土	暗黒褐色	微砂粒	横状底起文。上部は環状を呈し内側に沈線、刺突文を配す。	堀之内 I
5-890号土坑 (第149・450回: PL199・200)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部栴門文構成か、黒文施文。	加曾利 E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	小波状口縁か、口縁部に横位沈線ありし、以下栴門文構成か、文様内には縦位L施文。	加曾利 E 3
3	浅鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に横位沈線、赤彩痕。	加曾利 E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	波状口縁、口縁部は隆帯で無文部を画す。波頂部には渦巻き帯文か、横位に黒文L横位。	加曾利 E 3
5	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による栴門文の円形刺押文。以下黒文施文。	加曾利 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯文、および重弧状沈線。	書草文系
7	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	無文の口縁部片、端部が傾かへ外反。	後期
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横位渦巻き文、胴部には縦位平行沈線および重弧状沈線文。	書草文系
9	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯下に隆帯による渦巻き文、渦巻き文内には放射状短沈線、外縁には縦位文を配す。断面風化。	書草文系
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による重下文、放射状短沈線、断面風化。	書草文系
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による重下文、放射状短沈線、断面風化。	書草文系
12	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈線による重下文、同心円状短沈線、断面風化。	書草文系
13	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位沈線部に連続押印円形文。	加曾利 E 3
14	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位集合沈線および無文帯。	曾利 3
15	浅鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文底部片。	中期後半
5-891号土坑 (第450・453回: PL200)							
1	深鉢	口縁-胴部	覆土	暗灰黄褐色	砂粒	前部が破り、口縁部はきや外傾してしまふ。口縁部は無文で隆帯を画す栴門文隆帯が見られる。前部には隆帯による横位渦巻き文様による文様帯構成。胴部には縦位集合条線。	曾利系
2	深鉢	口縁-胴部	覆土	橙褐色	砂粒	波頂下には隆帯による渦巻き文、左右には栴門文を画し下部内側に刺押文帯を配す。栴門文内文、放射状の横位沈線文。前部は本單位の沈線による横状帯文を上下対に施す。中央に縦に長栴門文、縦手文様。胴部には渦巻き文が画かれ、文様内には縦位の矢羽状沈線文。	書草文系
3	深鉢	口縁-胴部	覆土	灰褐色	砂粒	胴部には横位隆帯回り円形刺押文を基点に胴部に向かって押印隆帯が垂下し胴部縦位L施文。施文には口縁部縦位集合条線。胴部区画内には波状の縦位集合条線文。	中期後半
4	深鉢	口縁-胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	波頂下に隆帯による渦巻き文の上に口縁に沿って左右に隆帯が延びる帯下に沈線による栴門文渦巻き文を施す。以下沈線による縦位帯の肩。	加曾利 E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	隆帯による栴門渦巻き文構成か、栴門文内には縦文R1が横位施文される。	加曾利 E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁は小波状を呈す。横位に沈線回り以下栴門文を構成か。	加曾利 E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗赤茶褐色	砂粒	口縁部には沈線短弧状文を画し、以下帯り消し黒文による文様を描く。断面風化。	加曾利 E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒多	口縁部はやや幅広い無文部を持ち、以下隆帯による渦巻き栴門文構成。	加曾利 E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	波状口縁部下に隆帯による渦巻き文。	加曾利 E 3
10	深鉢	胴部	覆土	暗灰黄褐色	砂粒多	口縁部に栴門文を画し黒文施文。以下縦位の帯り消し黒文帯。	加曾利 E 3
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	口縁部文様下、縦位の帯り消し黒文。	加曾利 E 3
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位L刺突文帯下に沈線による白状文帯手文様さ、白状文内には縦位Lを縦位施文。後沈線沈線を画す。	加曾利 E 3
13	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は隆帯による区画文、以下縦位の帯り消し黒文。断面剥落。9と同一帯り。	加曾利 E 3
14	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	2本單位の沈線による横位波状文を描き、黒文R1を縦位光輝施文。	加曾利 E 3
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	胴部中に縦位円形刺押文が廻りこれを挟み沈線が廻る。以下沈線による白状文が横位黒線施文。文様内には縦文R1を縦位施文。	加曾利 E 4
16	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部には横位帯り消し黒文を画す。隆帯による横位渦巻き弧状文。横文は縦位波状が施文。	書草文系

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
17	深鉢	口縁部	覆土	黒色	金雲母	肥厚した口縁部から片側に刺突文を伴った隆帯が垂下。	資料 2
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に2本の横位隆帯で幅状の文様帯を圍し、中には斜位の連続線。	中期後半
19	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に横位の花線、隆帯による渦巻き文と横位文様、地文には縦位の集合沈線。	縄文系
20	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による横文模様か、区内内列点状文が見られる。	加群E 3
21	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	表状部が高く屈びた形状、縦位の横円形透かし孔を有し、上部は肥厚隆帯による渦巻き垂下文が一對描かれていたものと思われるが割落。	縄文系
22	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	無文、僅かに赤彩痕が見られる。	中期後半
23	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	外反する無文口縁部片。	後期
24	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	無文口縁部片、器面研磨。	中期後半
25	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文、縄文は意のR.L施文。	加群E 3
26	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の磨り消し縄文、やや薄手の作り。	加群E 3
27	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	縦位の磨り消し縄文。	加群E 3
5-894号土坑 (第43回: PL201)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	T状の隆帯文、地文に斜位の集合沈線。	資料 3
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯で胴子区画内に縦位の集合沈線。	資料 3
5-895号土坑 (第43回: PL201)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位平行沈線、渦巻き垂下文、および縄文帯が見られる。	加群E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	U状の垂下隆帯、左右には横位、縦位の集合沈線。	資料 4
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	平行垂下隆帯、縦位の連続沈線。	資料 4
5-896号土坑 (第43回: PL201)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、器面風化。	加群E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	縦位磨り消し縄文、器面風化。	加群E 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縄文による曲線文。	称名寺 1
4	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位の垂下沈線。	加群E 3
5-898号土坑 (第43回: PL201)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	横位の隆帯およびU状沈線文様。	加群E 3
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による渦巻き垂下文、縦位の集合沈線。	資料 3
5-899号土坑 (第43回: PL201)							
1	深鉢	口縁部	覆土	明茶褐色	砂粒	隆帯をT状に付し胴部は縦位無文、縄文帯を画す。縄文は縦位R.L施文。	加群E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯を廻り、ここから縦位の隆帯垂下させU状の無文、縄文帯を画す。	加群E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に隆帯による横文、中には縄文施文。	加群E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	口縁部に突起状の小波状を見す、突起下から口縁部に向けて隆帯が見られ、以下縄文施文後平行線による内位の磨り消し帯が見られる。	加群E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	黄茶褐色	砂粒	口縁部からの磨り消し渦巻き垂下文、縄文は口縁部は横位以下は縦位にR.L施文。	称名寺 1
6	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	横位の隆帯で口縁部に無文部を画す。以下縄文施文。	加群E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文様。	加群E 3
8	玄室器土器	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯による曲線文。	加群E 4
9	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文口縁部片。	中期後半
10	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	無文底部、器面研磨。	中期後半
5-900号土坑 (第44回: PL201・202)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位押圧文付し下位に沈線が廻る。以下縄文施文した円形文、三隅巻き下部に沈線文による目状文様か、間隙にはやはり縄文施文された紡錘文が描かれ沈線細手文が配される。	加群E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒多	隆帯による横文渦巻き文、文様間に2つ以上の円形文を縦に配す。横文内には縄文施文、器面風化。	加群E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位連続弧状文か、縄文充塞施文。	加群E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒多	口縁部に横位押圧文付し、下位に沈線が廻る。以下縄文施文。	加群E 3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縄文施文、沈線直下は横位、以下縦位のR.L施文。	加群E 3
6	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に小突起を有し突起下には円形押圧文、口縁部は隆帯による円渦巻き文様か、口唇部内面には凹線が廻る。	加群E 3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。縄文帯には垂下波状文、縄文はR.L縦位施文。	加群E 3
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁の内面をU字状に凹線が見す、隆帯による渦巻き文が縦位連続しこれら渦巻き文から隆帯が垂下し横文文様を画す。横内面は縄文の充塞施文。	大木系

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
9	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は肥厚、直下には沈線による透気文を配し、縦位沈線を充満する。	資料3
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線による縦位区画、縄文部ではなく縦位の沈線文が施され、さらに波状垂下沈線区画。	加資料E3
11	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文口縁部片、断面研磨。	後期
12	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	2本単位の隆帯によるY状文様を付す、地文には縦位連続ハの字文。	資料4
5-902号土坑 (第455・456区：PL202)							
1	有孔円土器	口縁-胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部直立し胴には付く、ほぼ5cmの間隔で孔が穿けられている。胴部は太い沈線による円形、渦巻き文様が見られる。赤彩が見られる。	加資料E4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	隆帯による横間渦巻き文。	加資料E3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	波状口縁を見す、沈線による横間文様を施文。	加資料E3
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波頭下隆帯による渦巻き文。	加資料E3
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に凹線、直下には沈線による横位長橋間文、以下重なる集合沈線が見られる。	資料3
6	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	石英粒	隆帯による横間文様構成か、重橋状の沈線が充満線。以下隆帯で横間文様を施文。	資料2
7	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	円形削突文。	三十稲場
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	波頭部に数字が描かれていたものと見られる。波頭下には沈線による砂粒状文を施す。	加資料E4
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による渦巻き磨り消文。	称名寺1
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縄文施文後沈線による磨り消し古状文を垂下させる。	加資料E3
11	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	肥厚した隆帯で渦巻き文構成さらにこれらに繋がる隆帯が垂下し縦位の区画を構成し、沈線による渦巻き文が見られる。	資料2
12	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
13	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	無文口縁部片、やや反り、断面研磨。	後期
14	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文口縁部片、断面研磨。	後期
15	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	小型土器の底部、縦位沈線の下部が見られる。	中期後半
5-903号土坑 (第456区：PL202)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文施文。	中期後半
5-904号土坑 (第456区：PL202)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微黄母粒か	縦位の隆帯、横位、縦位の沈線文が見られる。	資料2
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の集合条線。	中期後半
5-905号土坑 (第456区：PL202)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	小波状口縁、口縁部にゆる隆帯が波頭下で渦巻き文を作りこれから2本の隆帯が垂下する。地文には縦位の集合沈線。	資料3
5-906号土坑 (第456・457区：PL202・203)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に横位隆帯で無文部を画す、以下縄文施文後沈線による磨り消し砂粒状文様。	加資料E4
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁直下に隆帯で画した古状文様を充満線文、さらに口縁の磨り消し文が見られる。	加資料E4
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部内側に無文、以下縦位の磨り消し縄文。	加資料E4
4	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下無文。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に横位の沈線および刻みを有す。以下無文で無文に複数の横位沈線。	堀之内2
6	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部内側に肥厚、無文。	後期
7	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	無文。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に横S字状の突起文、突起文下の内面に凹状に垂下する隆帯文、口縁部には横位沈線、刻みを有す隆帯が画れる。	堀之内2
9	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に横位、以下胴位の縦線か、隆線に沿って削突文。	称名寺2
10	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯で画した縦位磨り消し縄文、内面の刺落罫。	加資料E3
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位隆帯。	加資料E3
12	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。	加資料E3
13	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文が並ぶ。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の波状集合沈線。	中期後半
15	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線間に横位矢羽根状の短沈線文。	後期
16	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	底部に縄文か。	後期
17	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	無文で研磨。	後期
18	深鉢	底部	覆土	茶褐色	砂粒	無文、底部に削代板。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-907号土坑 (第457・458図：PL203)							
1	埋蔵物土器	口縁・胴部	覆土	灰青褐色	微砂粒	口縁部は直立、横位の平行隆帯を繋ぐ腕状取手が付され、取手は鉤状の沈線で飾られる。胴部は無文、赤彩は見られる。	加賀料 E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	表状に縦線を見す。隆帯による横内溝巻き文を2段構成、横内文内には斜交文。口縁部の磨り消し施文。	加賀料 E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	表状に縦線を見す。隆帯による横内溝巻き文を2段構成か、横内文内には横文かも裏施文される。	加賀料 E 3
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部下に横位沈線、以下縦文施文。	加賀料 E 4
5	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部には横位隆帯で飾られた無文部有す。以下縦文施文され、横位の取手が付いているいたものと思われるが一部欠損。	加賀料 E 4
6	深鉢	口縁部	覆土	赤茶褐色	砂粒	表状に縦線を見す。隆帯による横内溝巻き文構成か、以下縦位磨り消し施文。	加賀料 E 3
7	深鉢	口縁部	覆土	暗青褐色	砂粒	縄文施文か、施文不詳明で縦面やや風化。	中期後半
8	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部更厚し無文、以下隆帯による溝巻き文か。胴位の集合沈線が見られる。	資料 3
9	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁下に横位の隆帯、ここから隆帯による横内文を構成する。横内文内には縦位の集合沈線。	資料 3
10	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に隆帯による溝巻き弧状文、中には縦位の沈線文。	加賀料 E 3
11	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に横位の沈線、以下縦位矢羽状沈線。	資料 3
12	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	隆帯で飾られた横位取手が付く。取手上端部には溝巻き文、取手で離れた部分には胴位の集合沈線が見られる。	資料 3
13	浅鉢	胴部	覆土	淡黄茶褐色	砂粒	大きく肥厚した胴部三角の隆帯で口縁部文様を覆す。沈線による重層内文か。	加賀料 E 3
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による筋線状文様中は無文とする。	加賀料 E 4
15	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	縦位磨り消し施文。	加賀料 E 4
16	埋蔵物土器	口縁部	覆土	灰青褐色	砂粒	胴部に横位平行隆帯を繋ぐ腕状の取手が付く。	加賀料 E 3
5-908号土坑 (第458図：PL203)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し施文、垂下沈線施文。縄文は縦位取。L	加賀料 E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し施文、垂下沈線施文。縄文は縦位取。L	加賀料 E 3
3	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	複数単位の垂下沈線、縦位斜交文が見られる。	堀之内 1
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	沈線による同心円文か。	堀之内 1
5-909号土坑 (第458図：PL203)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	隆帯による横内溝巻き文構成か。	加賀料 E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は隆帯で飾られた無文部。	後期
5-910号土坑 (第459図：PL203)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁下に横位沈線、以下縦文LRを縦位施文。	加賀料 E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁下に横位隆帯。	資料 3
3	深鉢	胴部	覆土	暗赤褐色	微砂粒	隆帯に沿って斜交文列。	中期後半
5-914号土坑 (第459図：PL204)							
1	埋蔵物土器	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	微隆帯で飾られた口縁部は無文で、口縁端部が短く直立する。以下胴部には縦位施文。	加賀料 E 4
2	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縦位矢羽状沈線の沈線文。	資料 4
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	弧状の集合沈線文。	堀之内 1
5-917号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	微砂粒	縦位磨り消し施文。	加賀料 E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	砂粒	縄文施文に横位沈線。	加賀料 E 3
5-918号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰青褐色	砂粒	横位沈線下に縦位の磨り消し施文。	加賀料 E 3
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	磨り消し施文。	堀之内 1
3	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線によるV字文が見られる。	後期
5-919号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒	口縁部に横位の沈線より以下縦文施文。	加賀料 E 3
5-920号土坑 (第459図：PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部沈線で無文部を飾り、直下の溝巻き文から二股に分かれる隆帯施文は矢羽状沈線、胴位の沈線文。	資料 4
5-921号土坑 (第460図：PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下縦文を斜位方向施文。	加賀料 E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部から幅状の白沈線文垂下、両側には横位集合沈線文。	資料 4
3	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位磨り消し施文。	加賀料 E 3
4	埋蔵物土器	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯による溝巻き文。赤彩施。	加賀料 E 4
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微石英粒	縦位の平行沈線文。	加賀料 E 3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-924号土坑 (第460図: PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部に沈線廻り、沈線による自然磨り消し施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	口縁部に付く環状突起部片、弧状の沈線が付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	併行隆帯による円形文様縦向きに織文を施文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の縦位磨り消し施文。	加曾利E3
5-925号土坑 (第460図: PL204)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	砂粒	表沈線を見し、直下部に隆帯による円形の突起を配し、そこから肩部に横位の取手が下がる。取手は沈線、刺突文を有す隆帯で飾る。さらに取手下部から口縁に沿って肩みを有す隆帯が走り口縁部文様帯を画す。文様部内は沈線で弧状文様を描き、刺突文で充填する。また胴部にも縦文施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部下に織文LRを斜位方向施文。	加曾利E4
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線により胴部に自然区画配す。区画間には水平垂下文を描く。また区画内は織文LRを縦位充眼施文し沈線による波状垂下文見られる。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位に併行隆帯。地には縦位の集合条線見られる。	加曾利E3
5	蓋形土器	底部	覆土	灰褐色	微砂粒	小形の柳型を呈し、両端に円孔が見られる。径約4.7cmで高さ約2.0cm。	後期
5-926号土坑 (第460・461図: PL204)							
1	深鉢	口-胴部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に隆帯を付けた形の突起文が付く。胴部には沈線により重口状文、横円文、刺突文を組み合わせて横位文様を描く。	称名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	波線が環状となる。外面には肩の肩みを有す隆帯が垂下し、左右には沈線による約状文様縦文施文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯による横円文構成。	加曾利E3
4	深鉢	取手	覆土	暗茶褐色	微砂粒	波上口縁部に付された横位取手、上端に円形押印文が見られる。	称名寺1
5	形造形土器	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	肩部に平行隆帯が回りこれを繋ぐ横位の取手が付く。取手下には波帯で肩文基部の区画文が見られる。断面研磨。一部に赤彩残存。	加曾利E4
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒多	横位1本の沈線。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂粒	横位隆帯から約縦状に隆帯垂下し中を無文とする。織文はやや乱雑な厚取しを施文する。	加曾利E4
8	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	やや反した舌状の突起、細線に円形刺突文。断面の風化が著しい。	後期
9	深鉢	底部	覆土	灰白色	微砂粒	縦位の沈線下部部が見られる。	中期後半
5-928号土坑 (第461図: PL204)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部から併行隆帯が垂下し、左右には重弧状文が見られる。	曾利2
2	深鉢	突起部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	環状の突起部片か、沈線見られる。	後期
3	深鉢	底部	覆土	淡褐色	砂粒	厚手の底部、底面に刺突文。	後期
5-929号土坑 (第461図: PL204)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位の併行隆帯および斜位の集合沈線文。	曾利3
5-931号土坑 (第461図: PL205)							
1	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	微砂粒	口縁部は肥厚し横位沈線間に刺突文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し肥厚する。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部は内屈しやや波状を呈す。波状部分には横位波状沈線文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	3本単位の垂下沈線間に縦位LR織文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	縦位沈線間には沈線による結線状文様と織文LRを施文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯、断面研磨。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の隆帯、断面研磨。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	円形貼付文か。	堀之内1
5-932号土坑 (第462図: PL205)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	口縁部は内屈し小波状を呈す。直下には沈線、刺突文および横位沈線文。胴部には透線刷み文が付され、以下無文となり胴部には横位沈線。	堀之内2
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線文様内に織文施文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒	縦位沈線間に織文施文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄白色	砂粒	横位沈線下に重弧状沈線文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	T字の隆帯。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黄灰褐色	微砂粒	刺突文有す横位隆帯、補修孔見られる。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文による微隆帯文。	中期後半

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色	調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-933号土坑 (第462回: PL205)								
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒		縦位の磨り消し縄文帯、縄文帯には沈線による波状文直下。縄文は縦位の片状縄文。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰色	砂粒		波状沈線、波頂部には隆帯による渦巻き文および横文文か、縄文を施す。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒		口縁直下から縄文施文、沈線による磨り消し筋状縄文か。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒		胴部の縦位磨り消し縄文、縄文帯には波状直下沈線。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒		縦位磨り消し縄文、縄文帯には縦位沈線。縄文は複数段を縦位施文。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	灰白色	砂粒		縦位磨り消し縄文、面画風化。	加曾利E 3
7	深鉢	口縁取手	覆土	灰褐色	微砂粒		波状口縁部に付く中央位の縄状突起部分より上方に凹部を有す。突起部は隆帯で飾られ渦巻き文、押し文見られる。突起部には縄文施文。	大木系
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒		口縁部は凹部で突起部なく。隆帯による横位渦巻き文を構成し、横位文内は重畳状文である。	加曾利E 3
9	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒		隆帯による横位横文、区内内には横矢羽根状の沈線文。	曾利 3
10	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒		隆帯で飾られた横位文様帯、横位矢羽根状沈線文が施文。	曾利 3
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒		斜位の集合条線文。	曾利 3
12	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒		縦位刺突文帯。	中期後半
13	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒		口縁部から大きく上に延びる突起部と思われる。隆帯により三叉状に延びる渦巻き文を構成。	曾利 3
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒		3本の横位隆帯の上に交互刺突文、下位には隆帯による曲線渦巻き斜位の集合沈線文か。	曾利 2
5-934号土坑 (第463回: PL205)								
1	深鉢	口縁部	覆土	淡茶褐色	砂粒		口縁下に横位縄文帯。	堀之内 2
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒		肥厚沈線で飾られた縄文帯による曲線文様。	称名寺 1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒		磨り消し曲線文様。	称名寺 1
4	小型形土器	胴部	覆土	灰白色	微砂粒		併行沈線による重下文様。	称名寺 2
5	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒		縦位の隆帯。	堀之内 1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒		縦位の波状隆帯。	堀之内 1
5-935号土坑 (第463回: PL205)								
1	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒		口縁下に横位の隆帯帯り、縦位文、凸状の重下文が認められる。	加曾利E 3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒		文様帯部分が肥厚し、隆帯による渦巻き文横き、明確に凹形文が見られる。周囲に刺突文。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒		縄文RLを縦位施文、両端に縦位の沈線が見られる。	加曾利E 3
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒		縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
5	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒		縦位磨り消し縄文、面画見ている。	加曾利E 3
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒		磨り消し縄文による渦巻き文様横きか。	称名寺 1
7	浅鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒		口唇部はやや肥厚し角面状を呈す、内外面研磨。	加曾利E 3
5-936号土坑 (第464回: PL206)								
1	深鉢	胴部	覆土	明茶褐色	砂粒		平行沈線間に刺突文有す磨り消し文様。	称名寺 2
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒		平行沈線による渦巻き文か。	称名寺 2
3	深鉢	胴部	覆土	黄灰白色	微砂粒		平行沈線による渦巻き文か。	称名寺 2
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒		頸部に横位の沈線か。	堀之内 1
5	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒		無文底部片。	後期
6	土製円盤	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒		やや小形品、径約3.3cm。	後期
5-937号土坑 (第464回: PL206)								
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒		口縁部に横位沈線帯。	堀之内 1
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒		矩形磨り消し文。	称名寺 1
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒		縦位の沈線文様。	称名寺 2
4	深鉢	胴部	覆土	黄白色	砂(石)粒		3本単位の縦位沈線。	堀之内 1
5-940号土坑 (第464回: PL206)								
1	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	精製		口縁部に小突起、内面に刺突文有す。口縁直下に平行する筋み隆帯が帯りこれらを縦に繋ぐ8字文が付けられる。以下横位の沈線文が帯り取られる。	堀之内 2
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒		沈線による渦巻き文。	称名寺 2
5-941号土坑 (第464回: PL206)								
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒		口縁部はやや内傾し小波状を呈す、無文。	堀之内 1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	平行沈線による横位連続三角文様跡。	
3	短形土器	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部はゆるく直立するものと思われる。斜行する集合細沈線文様後、沈線による円形文、平行線文並び文様跡には刺突文も見られる。	堀之内1
4	短形土器	胴部	覆土	暗茶褐色	精製	沈線による組合せ渦巻き文様跡。器面研削。	堀之内2
5-942号土坑 (第465図: PL206)							
1	両耳壺	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部は隆帯で無文帯、以下胴部には沈線で磨り消し渦巻き文様跡。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	2本単位の横位沈線文、細線文様。	
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	斜位の平行沈線。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文。	三十船場
5	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	表状口縁波状頂部に環状取手が付され、上端部に刺突文が見られる。器面部分的に刺突がある。	堀之内1
5-943号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	微砂粒	口縁部に無文帯を横す隆帯隆帯。	堀之内1
2	鉢形土器	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯で画した無文帯を横位、斜位に績く。	称名寺1
3	深鉢	底部	覆土	橙褐色	微砂粒	無文波部片、底部に削代肌。	後期
5-944号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒多	縦位の隆帯間に縦位矢羽状沈線文。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位押圧隆帯部片。	堀之内1
3	深鉢	底部	覆土	暗灰褐色	砂粒	無文波部片。	後期
5-945号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	微砂粒	口縁は外縁、口唇部やや盛り上がった部分に刺突文を付し、下に隆帯を重らし器面に刺突文、器面に横位の沈線が磨る。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	砂粒	3本単位の沈線による重下文様、左右には刺突文文。	三十船場
3	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	砂粒	沈線による曲線文様置き区画内に刺突文。	称名寺2
5-946号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	3本単位の沈線による横位文さらに斜位の沈線文、間隙には縦文文。	堀之内1
5-947号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	厚手土器、口縁下に横位の隆帯。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による彫形、曲線文か。	
3	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	微砂粒	隆帯による曲線文、器面研削。	後期
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線文様内に刺突文。	称名寺2
5-948号土坑 (第465図: PL206)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部は外反し輪状取手が付く、胴部には磨り消し渦巻きによる曲線文様。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	やや外反する無文口縁部片。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	微砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
5-949号土坑 (第466図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し織文。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	砂粒	縦位波状隆帯の波頂部に円形貼付文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による磨り消し文様文。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	縦位磨り消し織文。	加曾利E 3
5	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し織文。	加曾利E 3
5-950号土坑 (第466図: PL206)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	器面に押圧文有す隆帯が磨り、この隆帯状に付された円形文から口縁に向かう押圧有す隆帯が伸びる。隆帯文以下は円形文下には斜向状文、且状文が見られ、さらに重下沈線口状の沈線文が見られる。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位磨り消し隆帯、隆帯から磨り消し部分が広く伸びる。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	明黄褐色	砂粒	横位隆帯上に円形貼付文付され隆帯磨下す。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	円形貼付文から表状の重下隆帯。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位平行沈線文間に刺突文配す。	称名寺2
6	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	やや不正形、側面に凹凸。径約5.0cm。	三十船場
5-951号土坑 (第466図: PL207)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部は表状を見し、表状突起の両面に削代隆帯を貼り合わせている。突起内面には刺突文を伴う沈線文、口縁部にはやや刺突を伴う沈線で磨り消し文を連続させている。器内は滑い。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位の押圧隆帯。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	磨り消し織文による渦巻き文。	称名寺1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	刺突文、押された方向の器面に盛り上がり。	三つ橋編
5	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位（やや波状）の隆帯。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位の隆帯。	堀之内1
5-952号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に横位円形刺突文と沈線、以下横位、縦位の沈線文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	横位円形隆帯。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	2本単位の沈線によるU状磨り消し文様。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位沈線、渦巻き文等を描き刺突文、円形文が付される。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁下に沈線により重三角磨り消し文。	堀之内2
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
7	土製円盤	底部	覆土	灰褐色	砂粒	やや上側の底部部を利用した土製円盤、径約4.5cm。	後期
5-954号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部に沈線で横した横位縄文帯。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文、縦位L形縄文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰茶褐色	砂粒	口縁部波状を呈しやや円錐、無文。	堀之内1
5-955号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	赤褐色	砂粒	口縁部内側に無文帯を為す、以下沈線による縄文光潤口状文か。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位磨り消し隆帯。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位沈線文。部分的に縄文見られる。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	横位沈線、器面研磨。	後期
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
5-956号土坑（第467図：PL207）							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
2	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	厚手底部片。	中期後半
5-959号土坑（第468図：PL207）							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	3本単位の沈線文。	堀之内1
5-960号土坑（第468図：PL207）							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁下にU状磨り消し文様。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位隆帯の上位に沿って円形刺突文、隆帯以下縄文施文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦位隆帯により縦位の無文帯を画す。	加曾利E3
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部が肥厚し、縦位に円形文付し両側には沈線による横位円文。	称名寺2
5	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部に隆状突起が付され先端部から下に機状の取手が行くものと見られる。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部に隆状突起が付され先端部は三角形を呈し、円形押印文、下面には刺突文が見られる。さらに沈線による渦巻き文が付される。	堀之内1
7	土製円盤	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	やや長円形を呈す、長径約4.0cm。	後期
5-961号土坑（第468図：PL207・208）							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁部に沈線による横位縄文帯を画す。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による縦位磨り消し文様。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位区画の磨り消し縄文文様。	称名寺1
4	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	3本単位の縦位沈線、縄文L形縦位施文。	加曾利E3
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	垂下沈線文および縄文。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	3本の沈線で縦位の縦位磨り消し文様帯。	堀之内1
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位平行沈線で磨り消し無文帯帯、縄文はL形を縦位方向、下辺部の窪み口は横位で磨り消しされている。	加曾利E3
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	粗く縄文施文。	後期

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
11	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	平行沈線による縦位磨り消し無文帯。縦位の集合糸線と埋める。	加曾利E 3
12	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	縦位平行沈線間に刺突文。	称名寺 2
13	深鉢	口縁部	覆土	明褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線、以下無文。	堀之内 1
14	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の隆帯下に斜めに沈線文。	後期
5-962号土坑 (第469回：PL208)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文地に沈線による曲線文か。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	沈線による磨り消し縄文。	称名寺 1
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	胴部に付された隆帯に円形文、刺突文。	堀之内 1
5-963号土坑 (第469回：PL208)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し渦巻き文様。	称名寺 1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し渦巻き文様。	称名寺 1
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	平行隆帯による磨り消し曲線文様。	称名寺 1
4	深鉢	口縁部	覆土	明黄褐色	砂粒	横位、斜位の集合糸線。	後期
5	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部丸みを持って肥厚し、縦線状に沈線文。	後期
5-964号土坑 (第469回：PL208)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	粗製	口縁部は内屈、口縁部に沈線による横位縄文帯を画す。	称名寺 1
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	斜めの押圧文有す横位隆帯、以下彫形の磨り消し文様。	称名寺 1
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縄文地とし、3本単位の沈線による渦巻き文。	堀之内 1
4	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	砂粒	口縁下に横位の隆帯、円形文貼付し下位に隆帯が延びる。	堀之内 1
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部肥厚し横位沈線。	堀之内 1
6	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	横位押圧帯文。	堀之内 1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内 1
8	深鉢	底部	覆土	黒色	微砂粒	無文、底の部分欠く。	堀之内 2
9	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	無文底部片。	後期
10	深鉢	底部	覆土	灰黄褐色	砂粒	底部片、断面やや風化。	後期
5-965号土坑 (第469・470回：PL208)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	砂粒	平行沈線による白沈磨り消し文様。縄文は口縁部は横位、以下縦位のLを施文するが縄文は粗い、部風化。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に円形文と垂弧状沈線さらには横位沈線付す、円形文からは行頭が低下し、縄文無文。	堀之内 1
3	深鉢	口縁部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	波状部分が渦巻き状に肥厚、円形文、沈線が見られる。	堀之内 1
4	深鉢	取手部	覆土	灰褐色	微砂粒	波面部に隆帯によるL状文を持つ横位突起文。口縁に沿って沈線が見られる。	堀之内 1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微石灰粒	横位沈線のL上に縄文Lを横位施文、下位には縦位の集合糸線付しさらに垂下沈線文を施す。	中期後半
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による波状文か、波状文内は横位、他は縦位の縄文Lで埋める。	加曾利E 4
7	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し隆帯文。	加曾利E 3
8	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位磨り消し文、間には鈍角の横位矢羽状沈線文。	中期後半
9	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による渦巻き文が正広。	中期後半
10	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	斜位の集合沈線に斜格子状に粘土層を貼り付ける。	資料 2
11	両耳取	取手部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	取手部分であるが、欠損している。被熱。	加曾利E 3
12	土製円盤	胴部	覆土	灰白色	砂粒	土製円盤の欠損品か、推定径約5.5cm。	後期
5-966号土坑 (第470回：PL208)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	砂粒	口縁部に横位内屈、以下隆帯による円形文施文文様内には縄文施文。	称名寺 1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縄文施文。	加曾利E 4
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	隆帯による横円文、縦位沈線を充ち縄文。	資料 3
4	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	外反する無文口縁部片。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による曲線文様。	称名寺 2
5-968号土坑 (第470回：PL208)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	縄文施文後横位の平行沈線。	堀之内 1
2	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	縦位沈線および縄文。	堀之内 1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-979号土坑 (第470図: PL208)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に横位沈線。以下縦文施文後沈線により磨り消し絞線文を描く。	加賀期E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁に無文部有り。丁状に付された隆帯の交点に円形貼付文。	後期前期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	精製	沈線で横位縄文帯。	特名寺1
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部波状を呈し、口縁部及び微細部に円形文が付される。さらに微細部下にも円形文の縦列が付され、これを覆う隆帯には内点文が見られ、沈線による円形文が隆帯間に見られる。	大木系
5	深鉢	胴部	覆土	暗赤茶褐色	砂粒	沈線による横位平行文、曲線文を描く。被熱。	特名寺2
6	浅鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	口縁部が内傾し、上面に円孔を持つ環状取手が付く。	後期
5-972号土坑 (第470図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	V状隆帯の交点に円形文。	後期前期
2	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	併行直下隆帯に角状隆帯か、斜位の集合沈線。	資料2
5-973号土坑 (第470図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縄文LR施文。	後期
5-977号土坑 (第470図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-979号土坑 (第471・472図: PL209)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	微砂粒	口縁部はやや内傾し舌状の小突起が付く。器面には沈線による縦位区画の沈線文様を描く。内外面に炭化物の付着。	特名寺2
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁部に隆帯が渦巻きとなり、2つの円孔を持つ環状突起を作る。突起文下には黒色の塗下文面が施される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	口縁部はやや波状を呈す。沈線、刺突文が配される。器面研磨。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	微砂粒	円孔有隆帯による渦巻き文、沈線、刺突文を伴う。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による端部渦巻き文。	堀之内1
6	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部に横位の隆帯。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	外傾する無文口縁部。口唇部は角面状をなす。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部が傾かに内傾する無文口縁部片。器面に横位の沈線。	堀之内1
9	深鉢	口縁部	覆土	灰黑色	砂粒	口縁部は外側にやや変形すると見られるが割落、無文。	後期
10	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部内側に両端部に刺突文を伴う沈線文が配される。内外面研磨。	堀之内1
11	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部が傾かに内傾する無文口縁部片。器面に横位の沈線。	堀之内1
12	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	無文口縁部片。頸部に横位の隆帯が。	堀之内1
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は横位隆帯で無文部を面す。隆帯からは波状直下隆帯。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は横位隆帯で無文部を面す。隆帯からは波状直下隆帯。	堀之内1
15	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁部は横位隆帯で無文部を面す。隆帯からは波状直下隆帯。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	横位平行沈線上に円形貼付文。	堀之内1
17	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	横位円形隆帯。	堀之内1
18	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	横位円形隆帯。	堀之内1
19	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位円形隆帯。	堀之内1
20	深鉢	口縁部	覆土	灰白色	微砂粒	口縁下に刺突文有す横位隆帯。	堀之内1
21	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縦位。形形の沈線文様。器面には縄文施文。	堀之内1
22	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯。沈線による形文文様。区画内には沈線で面された縄文充填文。	堀之内1
23	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	微砂粒	併行沈線による縦位。斜位の区画文様。区画内は縄文LRを施文。	堀之内1
24	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	併行隆帯帯文による白状文。	特名寺2
25	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	曲線隆帯文。	堀之内1
26	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈線による曲線文様か。	特名寺2
27	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	沈線による直下文、曲線文。	特名寺2
28	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	縦位の集合縞条線文。	後期
29	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	爪形刺突文。	三十稲場
30	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-980号土坑 (第472図: PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	金雲母	横位隆帯上に刻み、以下施文施文。	三十稲場

第3章 検出された遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	精製	沈線で面した磨り消し縄文様。	称名寺1
3	浅鉢	底部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	内外面研磨。	後期
5-983号土坑 (第47図：PL209)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位隆帯上に円形貼付文が行きこれから左右下方方向に隆帯が広がる。	堀之内1
5-984号土坑 (第47・47a図：PL210)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	(4) 単位の波状口縁、波頂部に円孔有す突起文が付き、口縁部には沈線による長横円文が2単位ずつ描かれ横円文間に隆帯による渦巻き文。また波状下に沈線による古状文が斜めに並ぶ。横円文、古状文内には縦線文。	称名寺1
2	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	(4) 単位の波状口縁、波頂部には隆帯が細帯状を呈す隆帯突起が付き、突起内には沈線による斜状垂下文。口縁部には沈線による長横円文が2単位ずつ描かれ、横円文内には刺状文。文様間には隆帯による渦巻き文。断面研磨。	称名寺2
3	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	上下に対向する円状文を隆帯で描き、縄文LRを充塞施文する。断面研磨。	加曾利E 4
4	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
5	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	微砂粒	V状に垂下する3本単位の沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	隆帯文、断面研磨。5と同一個体。	堀之内1
5-985号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯下に縄文施文か。	加曾利E 4
2	深鉢	口縁部	覆土	黄白色	微砂粒	口縁部くの字に内凹、口縁下には縦位の沈線、刺状文か。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	隆帯による彫形文。中には沈線で面した文様内に縄文を施文。	堀之内2
4	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁下に刻みを有す隆帯、さらに隆帯下位にも爪形の刺状文が描く。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文様だが中心部は隆帯となる。	堀之内1
5-986号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	沈線による円状文描き縄文充塞施文。	加曾利E 4
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線及び縄文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	隆帯による曲線文様。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	隆帯の交点部に隆帯による複数の円形文を付す。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	垂弧状沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	集合沈線文。	堀之内1
7	土鍋か	足	覆土	灰褐色	微砂粒	前面は楕円形を呈し、接地部は丸く広がる。外面研磨。	後期
5-987号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に隆帯で南円文区画。中には沈線による渦巻き垂弧状文。	曾利3
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	横位の隆帯、縄文施文後、隆帯に沿って沈線を引く。	加曾利E 3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	縄文施文後、沈線による波状垂下文。	加曾利E 3
5-988号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	沈線による垂弧状文様中に垂弧文、さらに複数の垂下文様と同様に縄文を施文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	横位沈線で縄文、無文帯を両す。	堀之内2
3	浅鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部に内側に環盤状に肥厚した面形突起文が付く。	堀之内2
5-991号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部突起を有し、円孔が見られる。内側は口縁に沿って走る隆帯が突起部上端に向かって渦巻き状をなす。	後期
5-992号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。2は同一個体。	後期初頭
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	隆帯の交点に円形貼付文。	後期初頭
5-993号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁下に横位隆帯。	後期
5-996号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3
3	深鉢	口縁部	覆土	黒色	砂粒	平行沈線による弧状文、および縦位の平行沈線文。	曾利2
4	深鉢	底部	覆土	淡茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文の下端部が磨り取られる。	加曾利E 3
5-997号土坑 (第47図：PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状を呈す。波頂部は古状に突起、以下隆帯による渦巻き文様。中には縄文LRを横位施文。また隣り合う文様間には円形文が見られる。	加曾利E 3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄茶褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E 3

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No	部 種	部位・共存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-998号土坑 (第47回：PL210)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁内面に横位沈線。刺突文が付けられる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	口縁下に横位沈線。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	沈線による狭下J状文。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	弧状の隆帯文。	称名寺2
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	ハ状に沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無彫刺突文を施文。	後期
5-999号土坑 (第47回：PL210)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	隆帯による円形文、さらに併行沈線による渦巻き文様か。胴部には横位沈線。断面研磨。	堀之内1
2	鉢形土器	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	胴部に刻みを持つ横位隆帯、以下沈線による三角形文様を描く。	堀之内2
3	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	沈線文様。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	縦位の隆帯。	堀之内1
5-1000号土坑 (第47回：PL210・211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	明茶褐色	砂粒	口縁部内側に肥厚、口縁下には隆帯による渦巻き文様か。	中期後半
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	金雲母	横位、縦位の隆帯貼り付け、地文には斜位の集合沈線文、貫状垂下文が見られる。	資料3
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に横位沈線。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	3本単位の沈線垂下無文帯。	加曾利E3
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	隆帯による渦巻き文から2本の隆帯垂下し、両側には縦文施文。	大木系
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位沈線を挟み上下に縦位の集合沈線文。	資料3
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	横位沈線下に重弧状文。	堀之内1
8	大口壺形土器	胴部	覆土	黒色	微砂粒	手内彫りの渦巻き文。断面研磨。	加曾利E4
5-1001号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	併行沈線による縦線文。	称名寺2
5-1002号土坑 (第47回：PL211)							
1	不明	突起部	覆土	黄褐色	微砂粒	キノコ状を呈すつまみ状の取手部片。接合部は二股になっている。刺突文の縦位。横位に見られる。キノコ状の土製品か。	後期
5-1004号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位磨り消し織文。	称名寺1
2	深鉢	突起部	覆土	暗灰褐色	微砂粒	丸みを持った三角形を呈す突起部で、下面が楕円状の取手となる。断面には4ヶ所の円形刺突文が付けられ、突起の欠損部が残る。	後期
5-1005号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒多	無文底部片、上げ底状を呈す。	後期
5-1006号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	無文口縁部片。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。	堀之内1
5-1007号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位併行沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位平行沈線下に縦文施文した三角文。	堀之内1
5-1008号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	斜めに平行沈線文、間を縦文が埋める。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	微砂粒	口縁部に横位沈線彫り肥厚する。	堀之内1
5-1009号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	沈線による稍文張り下位には横位の併行沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	横位沈線下に刺突文。	三十船場
5-1010号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は内側に波状を呈す。胴部に刺突文有す横位の隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	磨り消し渦巻き文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	波状の垂下隆帯。	後期初葉
4	蓋形土器	横状取手部	覆土	黒色	微砂粒	外縁に沿って2本の隆帯が回りこれるを繋ぐ楕円状の取手が付く。中央部が窪みに落ちる。内面研磨。長さ16.9cm。	後期
5-1011号土坑 (第47回：PL211)							
1	大口壺形土器	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	横位隆帯上に円形文、以下組合せ渦巻き文様を描く。	堀之内1
5-1012号土坑 (第47回：PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部は内側に小波状を呈す。波状部に弧状文、円形文が付けられる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	褐色	砂粒	口縁に押し隆帯。	堀之内1

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈殿による区画文様。地文には縄文L形横位施文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	沈殿による帯状区画文内の上位に横位L形刺突文施し、裏状文内は均しL状の刺突文が施される。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	刺突文。	三十軒堀
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈殿による三角文か。	後期
7	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	無文底部片。	後期
5-1013号土坑 (第476段: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁下に弧状の押圧隆帯文。	堀之内1
5-1014号土坑 (第476段: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黑色	砂粒	平行沈殿下に横位の垂弧状文。	堀之内1
5-1015号土坑 (第476段: PL211)							
1	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒多	横位の隆帯。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒多	口縁部に沈殿廻り、胴部に横位沈殿廻り。	堀之内1
5-1018号土坑 (第476段: PL211)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	沈殿による曲線文様施し縄文充填施文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗赤褐色	砂粒	波頭部に隆帯で垂紡線状文。下位には刺突文。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	砂粒	波状口縁、波頭部に隆帯による渦巻き文、下位には沈殿による渦巻き文の内面には円形文。	堀之内1
4	深鉢	口縁部	覆土	暗灰褐色	精製	口縁部はやや内傾、隆帯によるC状文が付きL形横位に刺突文。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	無文口縁部片。	
6	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	刺突文施文。	三十軒堀
7	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	隆帯および円形胎付文がやや乱雑に付される。	堀之内1
5-1019号土坑 (第476・477段: PL211)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	波状口縁、波頭部に縁孔有し機状取手が付く。取手部から2本の沈殿胴部に垂下し、口縁部には長箱内文を描く。被焼か。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部隆帯は面が凹みC状を呈し、そこから機状の取手が口縁下に繋がる。胴部は沈殿文内に横文が充填施文される。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部肥厚し刺突文、円形文付される。	
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦文磨り消し縄文。部面やや風化。	加曾利E3
5	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	磨り消し縄文による組合せ文様。	称名寺1
5-1023号土坑 (第477段: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁下に沈殿による横位相間文様施文が充填施文される。文様間には円形押圧印文。	称名寺1
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	口縁下に沈殿による横位龍文帯。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	沈殿による曲線文様。	称名寺2
4	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部やや肥厚、沈殿による横位内文。	称名寺2
5	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁に横位の沈殿を廻り下部が肥厚、以下沈殿による曲線、矩形文様を描く。	称名寺2
6	深鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による渦巻き状の突起を有す。以下沈殿による渦巻き文が描かれる。	堀之内1
7	深鉢	口縁部	覆土	黄灰白色	砂粒	無文の口縁部片、内外面研磨。	後期
8	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	やや外反し口縁部が内傾する。	堀之内1
9	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	横位龍線に横位に短沈線文、以下縄文施文。	堀之内1
10	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位平行沈殿間に縄文施文。	称名寺1
11	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縄文。	称名寺1
12	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	平行沈殿により無文、縄文帯を有す。10と同一個体か。	称名寺1
13	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	複数沈殿による文様間に縄文施文。	堀之内1
14	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	斜めの平行沈線文、及び刺突文が見られる。	称名寺2
15	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の弧状隆帯。	堀之内1
16	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の隆帯。15と同一個体。	堀之内1
5-1024号土坑 (第478段: PL212)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁下に押圧文隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位磨り消し縄文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	縦位平行沈線。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	併行する横位隆帯に刺突文。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	沈線による蟹重文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜位の集合沈線。	資料3
5-1025号土坑 (第478区：P.121)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	黄褐色	微砂粒	口縁部が内傾。隆帯による渦巻き文が上下にはみ出すように付けられる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁部は内湾し上端が平らである。隆帯、沈線が施される。	中期後半
3	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部は施文で外反する。胴部以下には爪形の刺交文が施文される。底化物付着。	三十輪堀
5-1026号土坑 (第478区：P.121)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡褐色	砂粒	口縁部に横長の横門文を両すか、以下縄文施文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	胴部に付された円形文から横位、下位に沈線が並び文様を両す。焼熟。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	縦位矢羽根状沈線文。	資料2
4	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	やや不整形で利用する土器片は薄手である。長径約5.0cm。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	縦位の平行沈線文。土器片の周囲を整えた痕跡が見られる。	称名寺1
5-1028号土坑 (第478区：P.121)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部外反し胴部に横位隆帯。	後期
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜行する沈線。	中期後半
3	深鉢	底部	覆土	暗褐色	砂粒	無文底部片。	中期後半
4	深鉢	底部	覆土	灰白色	砂粒	無文底部片。焼熟で器面風化。	不明
5-1029号土坑 (第478区：P.121)							
1	深鉢	口縁部	覆土	玉褐色	微砂粒	口縁部に彫線状の環状突起。唇縁に沈線が配られる。以下無文部が見られる。平行沈線が斜り以下縄文が施文される。	堀之内2
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	口縁部沈線部分に環状突起が付く。上位に沈線あり。突起内面には円形の刺交文見られる。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	精製	口縁部隆帯状に突起し横位沈線が施される。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄白色	微砂粒	沈線による環状文様施す。	堀之内1
5	深鉢	底部	覆土	灰白色	砂粒	無文底部片。焼熟で器面風化する。	後期
5-1030号土坑 (第478区：P.121)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	磨り消した沈線文様。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	沈線による曲線文。	称名寺2
5-1034号土坑 (第478区：P.121)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	浅い沈線による渦巻き文。	堀之内1
5-1038号土坑 (第479区：P.121)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消した縄文。縄文はR.L.縦位施文。	加曾利E3
2	深鉢	胴部	覆土	黄茶褐色	微砂粒	胴部に押圧隆帯が施される。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	T状に付された隆帯。	堀之内1
4	深鉢	底部	覆土	暗茶褐色	砂粒	無文底部片。器面研磨。	後期
5-1039号土坑 (第479区：P.121)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は内湾し器面には波状隆帯が付けられる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	砂粒	口縁下に横位隆帯を帯らし口唇部からC状の隆帯取付。以下無文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	縦位の集合条線文。	中期後半
4	深鉢	底部	覆土	黄褐色	砂粒	底面に刺交文。	後期
5-1041号土坑 (第479区：P.121)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は隆帯で無文部を両し以下縄文施文。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線による腕骨状文様。縄文はL.L.施文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	沈線による口状文。	称名寺2
5-1042号土坑 (第479区：P.121)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙褐色	砂粒	隆帯で両した無文部。縄文はL.R.	称名寺1
5-1043号土坑 (第479区：P.121)							
1	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部に隆帯が磨り削り状を為すと認められる。この隆帯から口状集合文が配す。縄文はR.L.施文。	加曾利E4
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位磨り消した縄文。縄文はR.L.縦位施文。	加曾利E3
3	深鉢	胴部	覆土	暗灰褐色	砂粒	縦位磨り消した縄文。縄文はR.L.縦位施文。	加曾利E3
4	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	口縁部に平行沈線施す間には円形文。	加曾利E3

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-1044号土瓦 (第479回：P.212)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙茶褐色	砂粒	縦位磨り消し織文。	加曾科E3
5-1047号土瓦 (第479回：P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	横位の押文隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	織文地で横位、弧状に沈線文様。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	織文地に渦巻き文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	織文L&施文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による渦巻き文。	称名寺2
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	微砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	口縁部無文で胴部に隆帯磨り、以下横位の列点状の刺突文。	三十船場
8	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	横位の平行沈線。器面研磨。	堀之内1
9	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位平行沈線。	堀之内2
5-1050号土瓦 (第480回：P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部直下に隆帯が磨り、小波状はC状の横帯が厚く肥厚、再掘に沈線が延びる。	堀之内1
5-1052号土瓦 (第480回：P.213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。器面風化。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒多	胴上半部に横列多段に刺突文施文。大器土器。	三十船場
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒褐色	砂粒	平行沈線による渦巻き文から横に沈線が延びる。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位の細沈線文。	後期か
5-1054号土瓦 (第480回：P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部に小突起を有し左右に沈線が延びる。以下直下沈線および研文が見られる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は小波状を呈し、刺突文および重弧状沈線文が付される。	堀之内1
3	深鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は小波状を呈し、横S字文、左右に延びる沈線文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位3本単位の沈線文。地文に黒織文施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	平行沈線による曲線文か。	称名寺2
5-1055号土瓦 (第480回：P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し、沈線文刺突文および重弧状沈線文が付される。	堀之内1
5-1058号土瓦 (第480回：P.213)							
1	深鉢	取手部	覆土	暗茶褐色	精製	波状口縁の上部が高く突き出て半円状の磨り取手。円孔有し、口縁部に沈線が磨り、器面L字内溝とも磨磨。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	磨り消し渦巻き文様。織文L&施文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	3本単位の直下沈線文か。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位平行沈線間に長めの刺突文が付される。	称名寺2
5-1059号土瓦 (第481回：P.213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	爪形刺突文施文。	三十船場
5-1060号土瓦 (第481回：P.213)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	平行沈線による重口伏磨り消し織文。織文は縦位L&施文。	称名寺1
5-1061号土瓦 (第481回：P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部肥厚し以下織文が施文。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	無文で口縁部が窪かに内傾。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	横位沈線で磨り消し文様を描き、間に刺突文。	称名寺2
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦織文施文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	織文施文後横位平行沈線、渦巻き文を描く。	堀之内1
5-1062号土瓦 (第481回：P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口縁部に隆帯による突起文、さらには円孔、沈線文が見られる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部内傾し、渦巻き文弧状沈線文が見られる。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	刺突文有す横位隆帯。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	横位沈線で画された織文帯。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	淡灰黄褐色	砂粒	横位沈線、貼付文配し円形文さらには織文が見られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	胴部に横位刺突文有す隆帯が磨る。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	押文隆帯。	堀之内1
5-1068号土瓦 (第481回：P.213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰茶褐色	砂粒	織文施文後3本の沈線による円形文様。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-1070号土坑 (第481区: P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は肥厚し、以下縄文施文。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	黒色	微砂粒	口縁部は内側に小波状を呈す。波上部に沈線による渦巻き文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	横位併行沈線。	堀之内1
5-1071号土坑 (第481区: P.213)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部に横位押圧文隆帯。	堀之内1
5-1074号土坑 (第481区: P.213)							
1	浅鉢	胴部	覆土	黒色	砂粒	左右方向への併行沈線文。内外面研磨。	堀之内1
5-1075号土坑 (第481区: P.213)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	磨り消し縄文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	2本の波状重下隆帯。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	爪形刺交文。	三十郎堀
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位隆帯。	堀之内1
5-1078号土坑 (第481区: P.214)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	弧状の沈線磨り消し文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	磨り消し縄文施文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	磨り消し縄文施文。	称名寺1
5-1081号土坑 (第481区: P.214)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	砂粒	横位隆帯上に円形粘付文付し、ここから下方および斜めに沈線が延びる。	堀之内1
5-1084号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁部は僅かに内湾。縄文施文か、器面剥落しており不詳明。	中期後半
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	重下隆帯および斜位の沈線が乱雑に施文されている。3は同一個体。	曾利3
3	深鉢	胴~底部	覆土	茶褐色	砂粒	渦巻き文より重下併行隆帯、およびハの字状の沈線が乱雑に施文されている。	曾利3
5-1087号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
5-1088号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	底部	覆土	灰褐色	砂粒	縦縄文L字を帯状に縦位施文。	後期
5-1090号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	沈線によるU状文、および斜位の縦合沈線。	曾利3
5-1093号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	縦縄文施文。	後期
5-1094号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は内側に1行孔有す突起文が付き、口縁部に沈線。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	縦位集合帯線上に垂下する太沈線。	曾利4
5-1097号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	口縁下に沈線による横門文模成か。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	橙茶褐色	微砂粒	口縁部内側に器面研磨。赤砂痕。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	沈線による横位波状文様。く。	加曾利E4
4	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	重下併行沈線。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	無文。	後期
7	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	沈線によるU状文、刺交文付す。	称名寺2
8	深鉢	底部	覆土	黄褐色	微砂粒	無文底部片。	後期
5-1098号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	4縦位の波状口縁を呈し、波道間は円形で円形刺交文を付す。口唇部には浅く沈線が磨る。胴部は沈線による磨り消し文様が認められる。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁部肥厚し横位の平行沈線。	堀之内1
5-1100号土坑 (第482区: P.214)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
5-1101号土坑 (第483区: P.214)							
1	浅鉢	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は肥厚、器内外面研磨。	中期後半
5-1102号土坑 (第483区: P.214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	口縁に爪形の刺交文磨り、沈線以下に縄文Lを横位施文。一部にU状沈線文の上端部分か。	加曾利E4

第3章 検出された遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
5-1163号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈す。横位併行沈線文、および垂下沈線。	後期
5-1164号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	砂粒	口縁部は小波状を呈し蓋頂部で途切れる沈線が付きされる。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	側隆帯で面した縦位の無文帯。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	垂下隆帯に凹形貼付文付きされる。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	隆帯によりJ状文、両書き文並びさらに下に隆帯面下。文様内に斜位の沈線文。	資料2
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜位の沈線文。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	黒色	金帯文	隆帯による両書き文。	資料2
7	土製円盤	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	側隆帯はやや斜めに成形されている。径約3.5cm。	後期
5-1165号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	微砂粒	横位併行沈線帯。	堀之内1
5-1166号土坑 (第483図: PL214)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡黄白色	微砂粒	口縁部に凹位を伴った隆帯が廻り、以下沈線による縦位、弧状、波状の垂下文を描く。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	砂(石)粒	口縁部に沈線が廻り環状の小突起が付きされる。以下胴部は突起下に斜みを伴った隆帯を呈しこれに沿って平行沈線が付きされる。さらに平行沈線による両沈線、両書き文が認められる。型には横位又は縦文が施される。	堀之内1
3	短頸形土器	口縁部	覆土	灰黒色	微砂粒	口縁部は短く直立、胴部に沈線で輪状の横位縦文帯、無文帯を帯す。以下波状沈線文。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	微砂粒	横位隆帯からJ状の垂文文。	堀之内2
5	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	沈線で面した縦文帯により文様面す。	堀之内2
6	深鉢	胴部	覆土	黒色	精製	横位磨り消し縦文帯、蓋面研削。	堀之内2
7	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	縦文帯による弧状文様。	堀之内2
8	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	斜位方向の沈線文。	堀之内1
9	小型短頸土器	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	胴部に横位の両文隆帯が廻り8字状貼付文。以下蓋面状の垂文さらに縦位方向の沈線による磨り消し縦文。	堀之内2
10	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位併行沈線帯。	堀之内1
11	深鉢	底面	覆土	灰黄褐色	微砂粒	無文、蓋面に輪縁みの凹凸が現れる。蓋面研削。	後期
5-1167号土坑 (第484図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	砂粒	縦位磨り消し縦文。	称名寺1
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	縦位磨り消し縦文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	横位、縦位の隆帯。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	無文胴部片。	後期
5-1168号土坑 (第484図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	砂粒	口縁部に横位の隆帯が廻り以下沈線文。	資料3
2	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	磨り消し縦文による両書き文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	三角文様の磨り消し縦文。	堀之内2
4	深鉢	胴部	覆土	暗黄褐色	砂粒	隆帯による磨り消し文様、区画内に縦文施文。	堀之内1
5	深鉢	口縁部	覆土	黒色	精製	無文口縁部片。	後期
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	波状の縦位貼り付け隆帯、地には斜位の沈線。	資料3
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	爪形刺状文。	三十稲場
5-1170号土坑 (第484図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	平行沈線による斜方向文。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	沈線による磨り消し曲線文。	称名寺1
3	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	平行沈線による両書き文。	堀之内2
4	深鉢	胴部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	沈線による両書き文を複数描き間には縦文光順施文。	堀之内1
5	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	砂粒	縦位の矢羽状沈線文。	資料3
6	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	横位併行沈線下に両書き文。	堀之内1
5-1171号土坑 (第484・485図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黒褐色	微砂粒	波状口縁、沈線による両書き文、口縁内側に隆帯が廻る。	称名寺2
2	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	砂粒	縦位集合沈線。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	黄褐色	微砂粒	横位隆帯および斜位沈線。	堀之内1

第3節 縄文時代の遺構と遺物

No.	部 種	部位・残存	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	爪形刺文。	三十稲垣
5	浅鉢	取手部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部に渦巻き文、円孔文、横状を呈す飾り取手が付く。器面は丁寧な刷毛が見られる。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	砂粒	縦位隆帯。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	無文。	後期
5-1112号土坑 (第485図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	無文口縁部片。	後期
5-1113号土坑 (第485図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	三角形を基調とする磨り消し文様。	称名寺1
2	両耳蓋	脚状取手部	覆土	淡茶褐色	砂粒	中央部分がやや凹む横状取手。取手の上下接合部の隆帯状に左右に及び、口縁部文様部を跨す。文様部内に縦位刺文が見られる。	加曾科E3
5-1114号土坑 (第485図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗黄褐色	微砂粒	口縁下に横位の縦位文隆帯。	堀之内1
2	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	渦巻き磨り消し文。	称名寺1
3	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	口縁下に横位の隆帯が付くものと見られるが割断。1と同一個体の。	堀之内1
4	深鉢	胴部	覆土	灰黄褐色	砂粒	縦位区画の沈線文様。横位、J状文飾り縦位の列点文が付される。	称名寺2
6-204号土坑 (第486図: PL215)							
1	深鉢	口縁部	覆土	茶褐色	石英粒	横位の縦位隆帯文、沈線で横口文を画し、斜位方向の沈線で埋める。渦巻き文下位から垂下隆帯。地文にも斜位沈線。	曾科3
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒多	口縁部に泡裂状の隆帯。沈線に画された横口文内には縦位集合沈線。	曾科3
3	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	雲母石英粒	渦巻き隆帯文。	曾科3
4	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	3本の隆帯が弧状に、内側には刺文が見られる。	磯町
5	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	白色砂粒	隆帯による前立渦巻き文、平行垂下文が付され、地文には斜位方向に集合沈線。	草草文系
6	深鉢	胴部	覆土	灰黒色	砂粒	隆帯および刺状沈線文。	曾科3
7	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微雲母粒	波状の垂下隆帯、斜位の沈線文であるが、地文は細く、部分的である。	曾科3
8	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	微砂粒	渦巻き持つ3本の垂下隆帯、および波状隆帯を持つ。地文には斜位の集合沈線文。	草草文系
6-205号土坑 (第486図: PL215)							
1	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	微砂粒	刺文文有縦位の隆帯、地文は縦位条線文。	曾科2
2	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	縦位の羽状沈線施文後横位の沈線文。	曾科2
3	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒	斜格子状の隆線。さらに波状隆線を横位に付す。	曾科2
4	深鉢	胴部	覆土	暗茶褐色	雲母石英粒	垂下隆帯、縦位の集合沈線施文後、横位3本の平行沈線、横位沈線内には刺文文付す。	曾科3
6-206号土坑 (第486図: PL216)							
1	深鉢	胴部	覆土	黒褐色	砂粒	隆帯により渦巻き文、隙間には放射状沈線文。	草草文系
2	深鉢	胴部	覆土	淡褐色	砂粒多	隆帯による曲線文を置き、隙間部分は集合沈線で埋めている。	曾科3
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	砂粒多	波状の垂下隆帯文、地には羽状の沈線文が付される。器面かなり風化している。	曾科3
6-207号土坑 (第487図: PL216)							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	白色砂粒	口縁部は無文で外反する。胴部に横位の隆帯を画す。隆帯に沿って沈線が付され、以下沈線による垂状、斜位文磨り消し文。	堀之内1
2	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	のびに隆帯する。口縁部に円形隆帯文が先に刺文文。そこから隆帯が隙間に下がる。内面には沈線や突起する渦巻き文を画す。	堀之内1
3	浅鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	内面の口縁直下には隆帯が、さらに下位部分に多岐の沈線文が施る。	加曾科B
4	深鉢	口縁部	覆土	淡黄褐色	微砂粒	口縁部内面、口縁部無文。	後期
5	深鉢	胴部	覆土	黒色	微砂粒	磨り消し文による曲線文。内面に凹線状に横位の横線。	堀之内1
6	深鉢	胴部	覆土	暗褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文、放射文様を描く。地の地文は施文方向を覆順に交差している。器体は粗い。	堀之内1
7	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	沈線による曲線文。	後期
8	深鉢	胴部	覆土	淡黄褐色	砂粒	微隆帯文。	後期
6-209号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	胴部	覆土	淡茶褐色	砂粒	無文の胴下部片。	後期
6-210号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	胴部	覆土	明褐色	砂粒	垂下沈線による無文部、龍文部には波状垂下文。	加曾科E3
6-211号土坑 (第488図: PL216)							
1	深鉢	口縁部	覆土	灰黄褐色	微砂粒	口縁部が内側に肥厚。無文。	後期
2	浅鉢	胴部	覆土	明褐色	微砂粒	磨り消し文。	堀之内1
3	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	金雲母	縦位併行隆線。地文は斜位の集合沈線文。	曾科3

第3章 検出された遺構と遺物

No	部 種	部位・存在	出土位置	色 調	胎 土	文 様 等 の 特 徴	時 期
4	土製円盤	胴部	覆土	茶褐色	砂粒	無文。小型品。	
6-212号土坑（第488回：PL216）							
1	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	砂粒	胎土による口縁部文様は横長の横引文を2段構成。横引文部分は横に延び幅文された胎土も帯状に長くなる。胴部には垂下沈線。胎土および幅文等。	加曾利E3
2	深鉢	口縁部	覆土	暗褐色	微砂粒	波状口縁部の上縁が外側に張り出しとなり胎土による渦巻き文。下部には横引文を施し幅文を先頭施文。さらに円形文を付す。垂下沈線帯には縦手文。	加曾利E3
3	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	微砂粒	口縁部下に横位沈線。以下縦文施文。	
4	深鉢	口縁部	覆土	橙黄褐色	砂粒多	口唇部角部状。口縁下に横位の条状様沈線文。	晩期か
5	深鉢	口縁部	覆土	灰褐色	砂粒	無文の口縁部。	
6	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	砂粒	横位の條帯から4本の垂下沈線を持つ無文帯。および渦巻き文が描かれる。胎土は斜めに無部状を施文。	
7	深鉢	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	2本條帯による「J」字文。内側に沿って棒子状の短沈線文。外側は斜位の垂点沈線文。	煎草文系
8	深鉢	胴部	覆土	茶褐色	微砂粒	沈線による渦巻き文、平行線文、斜沈線文。	曾利3。
9	土製円盤	胴部	覆土	灰褐色	微砂粒	小型品。	
6-213号土坑（第488回：PL216）							
1	深鉢	口縁部	覆土	暗茶褐色	微石英	口縁部内面下に横位の條帯。	後期
2	深鉢	口縁部	覆土	黒褐色	微砂粒	口唇部に沈線。横8字文。	後期
3	深鉢	胴部	覆土	橙黄褐色	砂粒	磨り消し縦文。	後期

第3節 縄文時代の遺構と遺物

表3 石器観察表

遺物No.	部類	出土位置	残存	石体長×幅×厚(㎜)	重量(g)	石材	特徴	備考
4-16号住居跡(第8区:PL112)								
16	石鏃	床面	完形	2.7 1.8 0.3	1.1	黒色火山岩	凹形基部、先端部から縦に深い線刻を有す	
17	石鏃	床面	ほぼ完形	8.6 2.7 1.5	15	緑石	長方形の形状を呈すが片方がやや歪くなる。中央に穿孔あり	
18	石鏃	床面	ほぼ完形	14.3 4.9 2.1	251	緑色片岩	縦刻のやや扁平な棒状部、両面に打痕、磨痕	
4-17号住居跡(第12・13区:PL112・113)								
25	石鏃	東方	ほぼ完形	2.4 1.6 0.5	1.8	黒色頁岩	凹形基部であるが、狭り小さく、両側の厚み不均等	
26	石鏃	東方	未製品	2.0 1.8 0.8	2.3	黒曜石	片面に厚みを有す。線刻部に調整痕を有す	
27	石鏃	東方	欠損品	(1.6) (1.4) 0.4	(1.0)	黒曜石	基部のみ、石鏃の可能性有り	
28	打製石片	床面	完形	14.5 6.5 2.3	234	細粒輝石火山岩	線刻、片側縁の中央やや上位に小さい鋭りあり、刃部磨痕顕著	
29	打製石片	東方	完形	9.2 5.3 1.6	90	黒色頁岩	分割製、狭り部分の打痕と上面にのみ鋭りあり。刃部はやや磨痕	
30	打製石片	床面	欠損品	(2.0) 3.8 1.1	(110)	黒色頁岩	凸形基部のみ、刃部、基部を欠く	
31	スレイバー	床面	完形	11.8 5.3 1.3	74	黒色頁岩	ほぼ三角形のやや鋭い削片で線刻に自然痕、他辺に刃部作出	
32	砥石	床面	完形	8.6 6.0 1.4	75	砂岩	線刻の扁平部、線刻にのみ、表面に若干の使用痕、磨痕している	
33	磨石	床面	完形	8.6 8.0 2.8	752	安山岩	線刻で磨る所にやや鋭い刃部が見られる	
34	磨石	東方	完形	7.0 5.5 4.5	248	細粒輝石火山岩	やや扁平な磨石を呈し、両面に使用痕	
35	砥石	床面	完形	7.3 5.8 1.3	78	砂岩	扁平な磨石を利用、両面使用痕	
36	石鏃	立石	完形	45.6 28.8 5.5	9,900	粗粒輝石火山岩	板状の角鏃、片面積めて平置、往復磨に立石として利用、砂岩利用が	
37	石鏃	立石	完形	(22.3) 9.6	— (2,340)	ゴイザイト	キノコ状の頭部はやや扁平で、下部下縁部から徐々に太くなる	
4-18号住居跡(第18区:PL114)								
21	石鏃	東方	欠損品	(1.0) (1.7) 0.3	(0.4)	黒曜石	平基部磨痕の基部のみ	
22	打製石片	西方	完形	6.2 2.4 2.4	43.7	黒曜石	線刻のみ、下線刻には打製調整痕みられる	
23	小型磨石	東方	刃部欠損	(2.6) (3.0) 0.9	(5.4)	凝灰岩	小型の定式型、基部は線刻、成形部の線刻磨痕	
24	多孔石	床面	ほぼ完形	(13.7) 19.9 8.7	(3,320)	粗粒輝石火山岩	おむすび形の鏃で一部欠損、表に7の磨痕に4の所の凹み、保存痕	
25	多孔石	東方	完形	15.9 15.9 13.6	3,400	粗粒輝石火山岩	大形型の磨石のほぼ全面に凹みが見られる	
26	石鏃	床面	欠損品	(32.7) 30.0 (12.1)	(10,44)	粗粒輝石火山岩	不定形の磨石、基部に広く平らである。軸、基部に小凹みが見られる	
4-19号住居跡(第20区:PL114)								
17	石鏃	東方	未製品	2.1 1.8 0.6	2.0	黒曜石	三角形で、側面にやや鋭く(側縁調整)	
18	石鏃	東方	欠損品	(0.5) (0.4) 0.2	(0.2)	黒曜石	基部、基部、先端部を欠く	
19	多孔石	床面	完形	12.8 12.2 (11.2)	(2,360)	粗粒輝石火山岩	自然磨石の残る部分に3の所は凹みのみ、最大で2㎝、深さ0.5cm	
4-20号住居跡(第22区:PL115)								
13	石鏃	東方	完形	1.7 1.5 0.5	1.0	黒曜石	狭りほぼ正三角形、片面に打痕あり、脊りは無い	
14	打製石片	東方	ほぼ完形	(9.3) 5.7 1.2	(60)	粗粒輝石火山岩	線刻、刃部あまり広がらず、両手で基部を欠く	
15	磨石	東方	完形	13.9 9.5 4.4	802	粗粒輝石火山岩	やや扁平な磨石利用、両面に使用痕	
16	石鏃	東方	ほぼ完形	14.1 9.5 4.6	870	粗粒輝石火山岩	やや扁平な磨石利用、線刻に打痕、表面は風化によるもの小凹磨痕あり	
4-23号住居跡(第31・32区:PL117)								
38	石鏃	東方	完形	1.8 1.3 0.3	0.4	黒曜石	凹形基部、狭り浅い、磨石作りはほぼ正	
39	石鏃	東方	欠損品	(1.7) (1.6) 0.6	(1.1)	黒曜石	先端部のみ、厚み有り	
40	石鏃	東方	欠損品	(1.8) (1.3) 0.3	(0.4)	黒曜石	凹形基部、狭りが深く、片側を欠損	
41	石鏃	東方	ほぼ完形	1.8 1.6 0.4	0.5	粗粒輝石火山岩	狭りが見られる。両面使用を有す。側縁部に若干の調整	
42	石鏃	東方	欠損品	(1.7) (1.6) 0.3	(0.6)	黒曜石	凹形基部、やや扁平な磨石の、先端部を欠く	
43	石鏃	東方	欠損品	(1.2) (1.5) 0.4	(0.4)	黒曜石	凹形基部、先端部欠き、狭り部は薄く作出している	
44	石鏃	東方	ほぼ完形	2.2 0.8 0.6	0.7	黒曜石	棒状部、基部は短めで、磨痕見られる	
45	打製石片	東方	完形	10.1 5.1 2.0	95	粗粒輝石火山岩	線刻、刃部は薄く作られた棒状部	
46	打製石片	東方	ほぼ完形	11.4 5.4 2.9	149	粗粒輝石火山岩	線刻、両面に自然磨痕。刃部磨痕、基部がやや欠く	
47	打製石片	東方	完形	11.8 5.9 1.3	109	粗粒輝石火山岩	磨石の割製、扁平磨石利用、両面に自然磨痕。刃部磨痕	
48	打製石片	東方	欠損品	(0.3) 5.2 2.0	(124)	粗粒輝石火山岩	線刻のみ、片面に自然磨痕大きく残る。刃部を欠く	
49	打製石片	床面	欠損品	(6.1) 5.6 1.7	(120)	粗粒輝石火山岩	短棒状のみ、片面に大きく自然磨痕。刃部欠く	
50	打製石片	東方	欠損品	(6.9) 2.3 1.3	(70)	粗粒輝石火山岩	扁平な磨石を利用、刃部はほぼ全面に両面及び片側にかけて自然磨	
51	打製石片	東方	欠損品	(6.7) 4.9 1.8	(60)	粗粒輝石火山岩	線刻、片面に自然磨痕見られる。基部を欠く	
52	打製石片	東方	基部欠損	(6.6) 5.4 1.6	(103)	粗粒輝石火山岩	扁平な磨石利用、片面に自然磨痕。刃部磨痕	
53	打製石片	東方	欠損品	(7.7) 5.5 1.6	(90)	粗粒輝石火山岩	線刻のみ、扁平磨石利用、刃部磨痕のみ欠損、基部を欠く	
54	打製石片	東方	欠損品	(8.2) 2.4 1.8	(86)	粗粒輝石火山岩	線刻、基部が短く刃部に向かって削く。刃部欠く	
55	打製石片	東方	欠損品	(7.1) 4.8 1.7	(96)	粗粒輝石火山岩	線刻のみ、片面に自然磨痕見られる	
56	打製石片	東方	欠損品	(4.0) 6.2 1.3	(43)	粗粒輝石火山岩	割製棒状部を利用、基部が欠	
57	スレイバー	9区内	完形	7.9 5.3 1.7	65	粗粒輝石火山岩	やや不正な形を呈す、下縁に刃部を作出	
58	スレイバー	床面	完形	8.0 6.9 1.2	84	黒色頁岩	やや変形の割製削片、片側線刻下縁部に刃部を作出	
59	磨石	東方	刃部欠損	(15.2) 7.1 4.2	(803)	凝灰岩	大形型、刃部を欠く(軽石)	
60	磨石	西方	完形	13.2 4.2 4.6	255	安山岩	棒状部を利用、端部より2割部に多数の凹みが見られる	
61	多孔石	東方	完形	15.4 11.2 8.6	1,372	多孔質火山岩	不定形でやや中々を帯びた鏃を利用、打による二面に凹みが見える	
5-1号住居跡(第34区:PL117)								
14	打製石片	東方	欠損品	(4.4) 4.6 1.0	(23)	黒色火山岩	線刻打製石片の基部のみ	
15	磨石	東方	欠損品	(11.8) 11.8 8.3	(1,562)	粗粒輝石火山岩	大形型の磨石部分、表面に調整磨痕、磨痕あり	
16	磨石	東方	完形	9.5 9.1 5.9	266	粗粒輝石火山岩	凹形型の磨石利用、両面使用	
17	磨石	東方	完形	19.5 5.5 4.3	820	石英閃輝石岩	棒状部、表面に調整	
5-38号住居跡(第37区:PL117)								
1	石鏃	東方	完形	1.5 1.4 0.4	0.6	黒曜石	凹形基部、狭り浅く側面に左右不均衡、片面にやや大きく磨痕	

第3章 検出された遺構と遺物

5-39号住居跡 (第38~40回; PL118)

遺物No.	種類	出土位置	現存	計測値(長さ×幅×厚さmm)	重量(g)	石材	特徴	備考
17	石碁	礎土	完形	2.3 1.3 0.5	0.9	磨石	四角無蓋、挟りは丸みを有す	
18	石碁	礎土	山伏形	1.9 1.1 0.4	0.6	磨石	四角無蓋で挟りは浅い、面には凹凸を有す	
19	石碁	礎土	山伏形	2.5 1.7 0.4	1.2	磨石	四角無蓋で挟りが極めて浅い	
20	石碁	礎土	完形	2.2 1.8 0.4	1.0	単色頁岩	四角無蓋、面は中や細く、片側面に付られる	
21	石碁	礎土	完形	2.8 2.0 0.6	2.7	黒色火山岩	四角無蓋で全体が厚い、両面に付られる(アスファルトの)	
22	石碁	礎土	完形	2.8 1.4 0.4	1.3	珪質頁岩	四角無蓋であるが極めて浅い、面は中や細い作り	
23	石碁	礎土	欠損品	(1.6) (1.0) 0.3	(0.4)	黒曜石	石碁先端部が見える	
24	石碁	礎土	欠損品	(1.1) (1.1) 0.3	(0.2)	黒曜石	石碁先端部であるが側面部分の一部のみ残存	
25	石碁	礎土	欠損品	(1.2) (1.2) 0.3	(0.4)	黒曜石	先端部、片側が平らである	
26	石碁	礎土	欠損品	(1.5) (1.2) 0.4	(0.5)	黒曜石	側面が平ら	
27	石碁	礎土	欠損品	(1.4) (1.1) 0.3	(0.3)	黒曜石	つまみ部か	
28	石碁	礎土	欠損品	(0.9) (0.8) 0.2	(0.1)	黒曜石	碁の破片か	
29	石碁	礎土	山伏形	2.1 1.5 0.4	0.9	黒曜石	扁平な碁形を呈すつまみ下部に磨部を有す。先端部を欠く	
30	石碁	礎土	完形	2.6 0.8 0.7	0.9	黒曜石	斜縁状を呈す。磨部は鋭く出る	
31	石碁	礎土	山伏形	2.4 0.7 0.5	0.8	黒曜石	斜縁状、磨部の先端を鋭く欠く	
32	石碁	礎土	完形	2.0 0.6 0.4	0.5	黒曜石	小形で、一個個のみの磨部が見られる	
33	スクリュー	礎土	山伏形	2.9 1.8 0.8	3.3	黒曜石	碁部につまみ状の突起を有す。石碁か	
34	二次加工片	礎土	山伏形	2.2 1.9 0.7	2.1	黒曜石	不定形で一面に刃状突起	
35	打撃石片	礎土	完形	18.3 5.3 1.8	222	凝結輝石火山岩	楕圓形を呈す。打撃面の一部に自然磨痕	
36	打撃石片	礎土	完形	10.4 4.8 2.4	108	凝結輝石火山岩	楕圓形、打撃面が滑りし跡は無い。打撃部から磨痕	
37	打撃石片	礎土	完形	10.1 5.4 1.7	106	凝結輝石火山岩	楕圓形、打撃面が磨痕	
38	打撃石片	礎土	完形	9.9 4.2 1.1	51	単色頁岩	楕圓形、やや小形で磨部の作り、左右非対称。打撃部鈍	
39	打撃石片	礎土	山伏形	10.2 5.0 1.9	105	凝結輝石火山岩	楕圓形、基部の一部欠損、打撃面に磨痕	
40	打撃石片	礎土	欠損品	(11.5) 7.2 2.0	(176)	凝結輝石火山岩	薄い板状の破片、片側に平らな自然磨痕。打撃面は磨く作られる	
41	打撃石片	礎土	欠損品	(10.2) 7.7 0.9	(91)	凝結輝石火山岩	薄い板状の破片、両面に自然磨痕。打撃は丸角で磨部は磨痕	
42	打撃石片	礎土	欠損品	(6.3) 5.4 1.8	(84)	凝結輝石火山岩	短冊形か、基部、打撃面を欠く、片面に一部自然磨痕	
43	打撃石片	礎土	欠損品	(3.0) 4.1 1.0	(25)	凝結輝石火山岩	基部のみ、やや扁平で一部自然磨痕	
44	打撃石片	礎土	欠損品	(4.5) 5.9 2.2	(76)	凝結輝石火山岩	楕圓形か、基部磨痕あり。打撃、基部を欠く	
45	磨石	礎土	完形	16.1 9.1 6.7	1,480	凝結輝石火山岩	やや大形の長円形磨石。使用面磨痕、両面に打撃あり	
46	磨石	礎土	完形	10.7 7.0 4.9	881	凝結輝石火山岩	なまびらきの磨石用。使用面使用	
47	磨石	礎土	欠損品	7.8 5.4 3.6	(255)	凝結輝石火山岩	楕圓形の磨石。両面に使用面、基部に打撃あり。一部欠損	
48	磨石	礎土	完形	7.2 4.2 3.2	147	凝結輝石火山岩	不定形の磨石用	
49	磨石	礎土	完形	12.7 7.5 4.8	692	凝結輝石火山岩	やや扁平な長円形磨石。両面を使用、面の磨痕細密	
50	磨石	礎土	完形	11.2 8.9 4.1	580	凝結輝石火山岩	小形磨石を呈す。両面に凹凸あり。基部に打撃あり。磨部鈍	
51	磨石	礎土	完形	6.5 6.4 3.1	161	凝結輝石火山岩	やや扁平な円形磨石。扁平な面を使用	
52	磨石	礎土	完形	4.7 3.9 3.1	79	凝結輝石火山岩	小形の円形磨石。やや平らな面に磨り差を有す	
53	石碁	礎土	欠損品	(17.5) (15.9) 9.9	(2,309)	凝結輝石火山岩	大形の凹凸の磨石。両面にやや中央部が凹み磨痕。両面あり	
54	斬石用品	礎土	欠損品	(6.2) (4.6) 2.9	(12)	板石	楕圓形で磨部は平らで粗面を有す。上部は自然磨痕を呈し、打撃面に欠損部	
55	多孔石	礎土	完形	30.5 25.2 23.1	15,446	凝結輝石火山岩	大形の丸角磨石。上部に凹凸あり	
56	多孔石	礎土	完形	18.3 16.0 11.1	3,870	凝結輝石火山岩	不定形の丸角磨石。磨り合う二面に凹凸の凹凸を有す	

5-69号住居跡 (第44~46回; PL120)

49	石碁	礎土	完形	1.8 1.5 0.3	0.7	黒曜石	半角無蓋、小形で作りは丁寧	
50	石碁	礎土	完形	1.6 1.4 0.3	0.4	黒曜石	半角無蓋、やや小形で三角形を呈す	
51	石碁	礎土	完形	2.8 1.4 0.4	1.6	単色頁岩	四角無蓋、挟りは浅く両面磨痕	
52	石碁	礎土	完形	2.2 1.8 0.6	1.6	黒曜石	四角無蓋、挟りは浅く作りは粗く左右非対称	
53	石碁	礎土	完形	2.1 1.4 0.3	0.6	黒曜石	四角無蓋、挟りは浅く磨部の作り	
54	石碁	礎土	完形	1.6 1.8 0.3	0.7	黒曜石	四角無蓋、三角形を呈し、両面は大きく削ぐ。先端角は大きい	
55	石碁	礎土	完形	2.0 1.2 0.3	0.6	チャート	四角無蓋、挟りは浅く作りは丁寧	
56	石碁	礎土	欠損品	(2.5) (1.8) 0.4	(1.1)	磨石	四角無蓋、側面部分に挟り差を有す。片側を欠く	
57	石碁	礎土	山伏形	0.9 0.8 0.2	0.3	磨石	半角無蓋、小形で打撃三角部である	
58	石碁	礎土	山伏形	2.0 1.6 0.4	1.0	磨石	未熟品か、基部の作りは未了	
59	石碁	礎土	欠損品	(1.5) (1.0) 0.3	(0.3)	磨石	先端部、調整斜縁状で丁寧な作り	
60	石碁	礎土	欠損品	(2.1) (1.1) 0.3	(0.4)	磨石	基部を欠く。先端部は小さく作りは丁寧	
61	石碁	礎土	未熟品	2.2 1.7 0.5	1.9	磨石	両側面に粗い調整斜縁、両面は無調整。石碁の未熟品と見られる	
62	石碁	礎土	欠損品	(1.2) (0.7) 0.3	(0.2)	磨石	先端部片	
63	石碁	礎土	欠損品	(1.2) (1.4) 0.2	(0.5)	磨石	四角無蓋、挟りは浅く先端部を欠く。やや磨部の作り	
64	石碁	礎土	欠損品	(1.1) (1.3) 0.2	(0.3)	磨石	四角無蓋、基部は磨く作られる。先端部を欠く	
65	石碁	礎土	欠損品	(1.7) (1.5) 0.4	(0.8)	磨石	石碁の先端部と見られるが、製作途中か	
66	石碁	礎土	欠損品	(1.2) (1.4) 0.3	(0.5)	磨石	四角無蓋、磨りのはれを有す。先端部を欠く	
67	石碁	礎土	欠損品	(1.2) (1.2) 0.3	(0.2)	磨石	側面部分の一部か	
68	石碁	礎土	欠損品	(0.8) (1.1) 0.3	(0.2)	磨石	先端部片	
69	石碁	礎土	欠損品	(1.3) (1.4) 0.2	(0.4)	磨石	半角無蓋、磨り差があるが作りは中や粗い。先端部を欠く	
70	石碁	礎土	未熟品	(1.8) (1.8) (1.4)	(1.3)	磨石	二次に調整斜縁を有す。石碁の未熟品か	
71	石碁	礎土	完形	1.6 0.5 0.2	0.3	磨石	小形の斜縁状。やや扁平で調整。先端部調整	
72	石碁	礎土	完形	2.1 0.8 0.5	0.9	磨石	小形の斜縁状。調整三角形	
73	石碁	礎土	完形	6.9 2.9 1.7	28.4	磨石	楕圓形に磨り込まれた石碁	
74	石碁	礎土	完形	4.7 4.1 1.6	24.8	磨石	楕圓形の中や大形の割石	
75	石碁	礎土	完形	5.3 3.7 2.5	22.7	磨石	片側に調整する石碁片	
76	打撃石片	礎土	完形	14.6 5.6 2.8	214	凝結輝石火山岩	やや長形の楕圓形。身の中心に厚みがある。打撃部から欠損	
77	磨石	礎土	完形	2.1 2.0 0.4	2.4	磨石	四角形を呈す。三辺に刃状突起	
78	打撃石片	礎土	完形	8.7 3.8 2.8	134	凝結輝石火山岩	楕圓形、基部の一部に磨痕。打撃面は中や粗い磨部を付られている	
79	打撃石片	礎土	完形	9.1 5.3 1.4	26	単色頁岩	自然磨痕で残す一次打撃痕跡。磨り作りは粗い。打撃部鈍	
80	打撃石片	礎土	欠損品	(9.1) (4.9) 1.6	(43)	凝結輝石火山岩	楕圓形か、基部から身にかけての割面片と見られる	
81	打撃石片	礎土	欠損品	(7.2) 5.3 1.7	(76)	凝結輝石火山岩	楕圓形、比較的磨部の作りが中や粗い。基部を欠く	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-69号住居跡 (第44~46区: PL120)

遺物No.	部 類	出土位置	残 存	計測長さ×幅×高さ(mm)	重量(g)	石 材	特 徴	備 考	
82	打製石斧	礫土	文物品	(10.1)	2.4	2.8	1399	楕圓形石山山頂	細部はであるが、幅広く片面に大きく自然面を残す。磨刃である
83	打製石斧	礫土	文物品	9.9	4.4	2.3	1863	楕圓形石山山頂	細部の基部が欠け、基部は平らに磨削
84	打製石斧	礫土	文物品	12.60	4.8	1.4	1173	楕圓形石山山頂	半月状を呈す。刃部片は見える
85	スレイバー	礫土	完形	4.0	2.3	0.8	9	黒色山石前	扁平な小片利用。一個縁に刃部作付
86	スレイバー	礫土	完形	4.2	3.5	0.9	13	黒色山石前	片面に自然面を残す小片利用。両側縁に簡単な刃部を作出
87	スレイバー	河原	完形	9.3	6.7	1.7	101	楕圓形石山山頂	ほぼ三角形を呈す大型の一次利用片。下部に刃部作付
88	石斧	礫土	完形	12.9	8.9	6.1	263	楕圓形石山山頂	幅広く大きく自然面を残す。二面の大きな刃部を有する
89	石斧	礫土	完形	7.4	2.1	3.1	383	楕圓形石山山頂	片面に平らな内磨り面、両面磨削
90	石斧	礫土	文物品	12.6	(5.2)	5.4	(412)	楕圓形石山山頂	棒状利用
91	磨石	礫土	完形	7.2	6.5	4.7	263	楕圓形石山山頂	やや扁平な内磨り面。片面中央部、個縁部に若干の打痕。磨刃付磨石
92	磨石	礫土	完形	10.6	8.8	4.2	442	楕圓形石山山頂	扁平な長円磨石。両面使用面
93	磨石	礫土	完形	3.9	2.8	2.5	42	楕圓形石山山頂	小磨り用。磨石か
94	多孔石	礫土	完形	17.2	11.4	10.0	1,679	楕圓形石山山頂	角筒形用。磨り向き三面に複数の凹み状を有する大ききほぼ円形一

5-70号住居跡 (第53~56区: PL122+123)

36	石鏃	礫土	文物品	(2.2)	(1.8)	(0.5)	(1.7)	黒曜石	つまみ形三角形で下位に基部の付いたもの。基部を欠く
37	石鏃	河原	完形	2.6	1.9	0.5	0.8	黒曜石(河原産)	平基底。ほぼ正三角形で個縁。基部が欠く作られている
38	石鏃	礫土	完形	1.6	1.4	0.4	0.9	黒曜石	四角基底。縁ははやく個縁部に位置を呈す
39	スレイバー	礫土	完形	2.6	2.2	0.9	4.8	黒曜石	片面が磨り上がった厚手の製品。下部に細く刃部作付
40	石鏃	礫土	完形	0.9	(1.1)	(0.2)	(0.2)	黒曜石	平基底。小断面で基部を欠く
41	石鏃	礫土	文物品	(1.2)	(1.0)	(0.3)	(0.2)	黒曜石	四角基底。縁ははやく両縁は端部に僅かに突起する。先端部が見え
42	石鏃	礫土	文物品	(1.0)	(2.2)	(0.3)	(1.1)	黒曜石	四角基底。大型でやや扁平の形に作り。先端部欠け。基部の可塑性あり
43	石鏃	礫土	文物品	(1.0)	(2.2)	(0.3)	(0.5)	黒曜石	四角基底。先端部やや扁平で縁は削片。片側を欠く
44	石鏃	礫土	文物品	(1.0)	(1.1)	(0.3)	(0.4)	黒曜石	四角基底。縁ははやく、片側作付
45	石鏃	礫土	完形	3.1	0.6	0.4	0.2	黒曜石	棒状用。断面J字状で両端尖角。作りは丁寧
46	石鏃	礫土	完形	3.1	0.7	0.5	0.8	黒曜石	棒状であるが、両面二面でも断面J字状の両面磨削
47	石鏃	礫土	完形	2.6	1.5	0.4	1.4	黒曜石	正三角形の小片を利用。断面は断面三角
48	石鏃	礫土	完形	1.9	1.0	0.5	0.9	黒曜石	角筒状の小片を利用。作りは簡い。使用痕はあまり見られず
49	打製石斧	河原	完形	15.5	6.1	2.1	234	楕圓形石山山頂	細部、両側縁部を利かした状のもの。刃部厚縁
50	打製石斧	礫土	ほぼ完形	11.7	4.9	1.6	100	黒色山石前	細部であるが刃部の凸部は僅かである。両縁に鋭い縁が見られる
51	打製石斧	礫土	完形	10.4	6.0	1.5	133	楕圓形石山山頂	細部。片面に自然面を残す。刃部厚縁
52	打製石斧	礫土	完形	10.8	4.8	2.0	122	楕圓形石山山頂	細部。基部および刃部は一部自然面を残す。刃部は縁取りされる
53	打製石斧	礫土	文物品	(9.2)	5.3	1.9	(121)	楕圓形石山山頂	細部。基部欠損か、刃部や磨削
54	打製石斧	礫土	完形	17.9	6.4	1.9	213	黒色山石前	細部であるが、刃部が狭くなる。断面の可塑性あり
55	打製石斧	河原	完形	10.7	5.7	2.1	125	黒色山石前	磨削。刃部やや扁平
56	打製石斧	礫土	文物品	(12.1)	2.4	2.3	(124)	楕圓形石山山頂	細部。刃部で断面は自然面を残す。基部を欠く
57	打製石斧	礫土	完形	10.6	6.0	1.2	92	楕圓形石山山頂	似た形状の複製品。磨削で左の隅の部分が欠ける。刃部厚縁
58	打製石斧	礫土	完形	9.7	5.3	1.2	59	楕圓形石山山頂	細部。刃部は片側の片で磨削している
59	打製石斧	礫土	文物品	(8.4)	5.3	1.5	(72)	楕圓形石山山頂	細部。基部は欠損か、刃部断り作られている
60	打製石斧	礫土	文物品	(8.4)	6.0	2.1	(128)	楕圓形石山山頂	細部。基部を欠損。刃部の縁取りされる
61	打製石斧	礫土	文物品	(9.1)	6.2	1.4	(84)	黒色山石前	細部。刃部は刃内付で厚縁磨削
62	打製石斧	河原	文物品	(7.8)	5.9	1.5	(62)	楕圓形石山山頂	細部。基部は自然面を残す。表面は自然面を残す。刃部を欠く
63	打製石斧	礫土	文物品	(14.2)	6.4	2.0	(160)	黒色山石前	細部。基部が極めて薄く、刃部を欠く
64	打製石斧	礫土	文物品	(10.8)	5.4	1.6	(119)	楕圓形石山山頂	細部。基部は削片。基部の磨削は粗い
65	打製石斧	河原	文物品	(7.3)	4.8	1.1	(56)	黒色山石前	基部を欠損か、刃部やや厚みを帯び若干の磨削あり
66	スレイバー	礫土	完形	7.8	6.4	1.9	96	楕圓形石山山頂	一次利用片用。磨削刃や下辺に刃部作付
67	スレイバー	礫土	完形	7.4	5.4	1.2	45	楕圓形石山山頂	不完全な一次利用片用。一旦に刃部作付。片面に大きく自然面
68	魚骨状石	河原	完形	34.0	15.2	11.6	6,200	楕圓形石山山頂	大型の棒状物。両面が平らとして磨削。刃部の一面が鋭く凹凸
69	磨石	礫土	完形	9.2	5.6	2.7	204	山石前	細長・扁平磨石用。両面および両端の一面に若干の打痕あり
70	磨石	礫土	ほぼ完形	10.2	9.9	4.2	534	楕圓形石山山頂	扁平な内磨り用。両面使用
71	磨石	礫土	完形	10.4	9.2	5.1	696	山石前	扁平な磨石用。両面使用。片面にかさこつ凹穴あり。一部に磨刃付
72	磨石	礫土	ほぼ完形	6.3	5.6	4.6	204	楕圓形石山山頂	小磨り用の内磨り。やや平坦な面を使用
73	磨石	礫土	完形	11.8	7.7	4.4	815	楕圓形石山山頂	扁平な小磨り用。両面使用し平磨。片面に僅かの打痕や磨削
74	磨石	礫土	完形	15.9	8.7	4.6	989	楕圓形石山山頂	扁平な磨石利用。やや傾いた断面で打痕磨削。若干の打痕付
75	磨石	礫土	完形	9.6	8.6	4.7	424	楕圓形石山山頂	やや不定な磨石を利用。両面に使用痕。若干の打痕磨削される
76	磨石	礫土	ほぼ完形	21.8	8.3	7.3	2,200	石山山頂	両端の内側や中間の内側を利用。両面使用面。端部に刃部磨削
77	石斧	礫土	文物品	(12.2)	(15.1)	(5.5)	(958)	楕圓形石山山頂	大型の石製の片側使用面は平滑。磨石あり
78	多孔石	河原	完形	36.9	16.1	8.3	3,760	磨石	やや扁平な磨石用。片面に大きく多数の凹み状

5-71号住居跡 (第61~62区: PL124)

30	石鏃	礫土	完形	1.8	1.3	0.3	0.5	黒曜石	四角基底。磨の長さが限られている。凸部で作りは丁寧
31	石鏃	河原	完形	2.0	1.6	0.3	0.9	碧玉	四角基底。身の中央部に鋒を有する。扁平な作り
32	石鏃	礫土	文物品	(1.0)	(1.0)	(0.3)	(1.1)	黒曜石	つまみ形三角形を呈す。基部を欠く。研磨未製品の可能性も
33	石鏃	礫土	ほぼ完形	1.8	1.6	0.4	1.7	黒曜石	中央部分がやや膨らむ。基部を欠損か
34	石鏃	礫土	ほぼ完形	1.7	1.4	0.2	0.2	黒曜石	扁平な石鏃で基部を欠損か
35	石鏃	礫土	文物品	(1.0)	(1.1)	(0.3)	(0.5)	黒曜石	小断面。片側を欠く
36	石鏃	礫土	文物品	(1.0)	(0.9)	(0.2)	(0.2)	黒曜石	先端部欠
37	石鏃	礫土	文物品	(1.3)	(1.1)	(0.3)	(0.4)	黒曜石	先端部片
38	石鏃	礫土	文物品	(1.3)	(0.7)	(0.2)	(0.2)	黒曜石	先端部片。磨身で磨や中割に形成
39	石鏃	礫土	文物品	(1.2)	(1.4)	(0.3)	(0.5)	黒曜石	四角基底。先端部を欠く
40	石鏃	礫土	文物品	(0.8)	(1.1)	(0.2)	(0.2)	黒曜石	小断面。平基底。基部を欠く
41	石鏃	礫土	文物品	(1.2)	(1.4)	(0.3)	(0.5)	黒曜石	四角基底。先端部を欠く。狭く、片側縁部に僅かに調整磨
42	石鏃	礫土	文物品	(1.3)	(1.5)	(0.3)	(0.6)	黒曜石	四角基底。先端部を欠く

第3章 検出された遺構と遺物

5-71号住居跡 (第61～62図：PL124)

遺物%	種類	出土位置	残存	計測値	長さ×幅×高さ (mm)	重量 (g)	行	材	特徴	備考
43	石鏡	礎土	未製品	(1.6)	(1.5)	0.40	(1.1)	黒曜石	石鏡未製品か、不定形で側縁部に調整痕	
44	打製石片	礎土	山打形	11.4	4.5	2.1	131	緑松輝石火山岩	短冊形、両面の一部を欠損	
45	打製石片	礎土	次製品	66.83	41.3	18	(56)	緑松輝石火山岩	短冊形、両面に磨く作られた。基部を欠く	
46	打製石片	礎土	次製品	66.83	5.0	2.0	(82)	緑松輝石火山岩	短冊形、やや内側の作り。刃部を欠く	
47	スチレバー	礎土	完成	8.7	7.4	1.7	108	黒色頁岩	やや丸みを帯びた作り。縁辺にやや鋭い刃部を欠く	
48	スチレバー	灰面	完成	5.7	5.1	1.0	31	黒色頁岩	両面に丸みを帯びた作り。二辺に刃部を欠く	
49	打製石片	礎土	次製品	66.2	6.5	1.1	140	緑松輝石火山岩	扁平な作り。刃部は下向きにやや平削れ	
50	磨石	礎土	完成	6.7	4.6	2.4	92	緑松輝石火山岩	扁平な楕円形。両面磨	
51	磨石	礎土	完成	9.9	8.1	4.5	501	デイヤオ	扁平な楕円を削り、片側を使用面とする。側縁部に若干の打痕が見られる	
52	磨石	礎土	完成	13.4	7.0	5.2	752	緑松輝石火山岩	長円形。両面磨り面とし、両端部に溝が打痕	
53	磨石	礎土	完成	7.8	7.6	3.1	436	緑松輝石火山岩	長円形。両面使用面を平削	
54	磨石	礎土	完成	11.6	11.4	8.5	1,377	緑松輝石火山岩	やや丸みを帯びた楕円。やや平削りな面を磨り面として使用	
55	磨石	礎土	完成	5.5	4.4	2.2	80	緑松輝石火山岩	小型の扁平。両面使用面	
56	磨石	礎土	完成	4.1	3.7	3.7	81	緑松輝石火山岩	小型の楕円。やや平削り二面を使用面とする。若干の磨り痕	
57	磨石	礎土	完成	12.0	6.6	3.3	425	緑松輝石火山岩	扁平でわずかな磨り面を有し、片側に凹み穴	
58	磨石	礎土	完成	9.5	3.9	4.1	313	緑松輝石火山岩	不定形な磨り面を有し、凹み穴使用面は観察される	
59	磨石	礎土	完成	8.5	5.0	4.3	255	緑松輝石火山岩	楕円の平削り。両面磨り面を有する	
60	石鏡	礎土	次製品	(16.5)	(17.5)	8.3	(2,750)	黒松輝石火山岩	使用面が大きく凹み、極めて平削りである	
61	石鏡	礎土	次製品	(6.9)	(4.1)	(1.7)	(48)	緑色片岩	大型石鏡の小破片と思われる。基部	
62	多孔石	灰面	完成	23.1	19.5	10.5	7,100	緑松輝石火山岩	両面に自然磨り面を有する磨り鏡。表面に数箇所の小陥りな凹み穴有り	
63	多孔石	礎土	完成	17.2	16.6	9.2	2,310	緑松輝石火山岩	不定形な自然磨り面。溝。溝の平削りに大小の凹み穴有り	

5-72号住居跡 (第68～69図：PL125)

29	石鏡	礎土	完成	2.3	1.7	0.3	0.8	黒曜石	凹形無蓋。磨りや外側に磨く。作りは丁寧	
30	石鏡	礎土	未製品	(1.8)	(1.6)	(0.5)	(1.3)	黒曜石	石鏡の未製品か、片側がやや凹み縁部に調整痕	
31	石鏡	礎土	次製品	(1.1)	(2.2)	(0.3)	(0.6)	黒曜石	凹形無蓋。基部が磨く作られ、片側を欠く	
32	石鏡	礎土	次製品	(0.9)	(2.1)	(0.2)	(0.5)	黒曜石	凹形無蓋。縁りははやく片側を欠く	
33	石鏡	礎土	次製品	(1.4)	(1.3)	(0.3)	(0.6)	黒曜石	先頭部片。やや厚みを帯び	
34	石鏡	礎土	完成	(1.2)	(0.9)	(0.2)	(0.5)	黒曜石	本家の磨り面。先頭部を欠く	
35	石鏡	礎土	次製品	(1.1)	(1.5)	(0.2)	(0.5)	黒曜石	凹形無蓋。先頭部および縁部の一部を欠く。やや磨り面の作り	
36	石鏡	礎土	次製品	(1.8)	(1.6)	(0.2)	(0.7)	黒曜石	凹形無蓋。先頭部を欠く	
37	石鏡	礎土	ほぼ完成	1.6	0.5	0.2	0.3	黒曜石	小型楕円状。断面三角形	
38	打製石片	灰面	完成	13.3	5.5	1.5	140	緑松輝石火山岩	短冊形。両辺が片側に自然磨。磨削面	
39	打製石片	礎土	完成	9.9	4.6	1.4	67	緑松輝石火山岩	短冊形。片側に自然磨り面を有する作り。刃部内側で平削れが見られる	
40	打製石片	礎土	完成	(7.4)	(4.3)	(2.2)	(78)	黒色頁岩	短冊形。片側に自然磨り面を有する作り	
41	打製石片	礎土	次製品	(6.6)	(5.2)	(1.6)	(83)	黒色頁岩	短冊形。片側に大きく自然磨り面。刃部を欠く	
42	打製石片	礎土	次製品	(7.1)	(4.5)	(3.2)	(128)	緑松輝石火山岩	基部片。極めて厚みがやや断面三角形を呈す	
43	打製石片	礎土	次製品	(4.9)	(4.2)	(2.0)	(43)	黒色頁岩	短冊形。やや厚みを帯び	
44	磨石	礎土	完成	10.1	8.8	7.8	876	緑松輝石火山岩	上記2の凹形。表面の使用面はあまり磨く無く、若干の打痕あり	
45	磨石	灰面	ほぼ完成	12.1	6.9	4.0	479	緑松輝石火山岩	やや平削りな小判形。両面使用面。基部により凸み縁面	
46	磨石	礎土	完成	(9.7)	(8.1)	(5.8)	(469)	緑松輝石火山岩	長円形磨り面。両面使用面。基部	
47	磨石	礎土	次製品	(14.0)	(8.3)	(4.9)	(222)	火山岩	使用面平削り。磨り面の打痕が見られる	
48	磨石	Flg.8	完成	(16.0)	(7.6)	(4.7)	(568)	緑松輝石火山岩	やや平削りな小判形。両面使用面を平削。基部より凸み縁面あり	

5-73号住居跡 (第72～73図：PL126・127)

35	石鏡	礎土	次製品	(1.2)	(2.4)	(0.3)	(0.7)	黒曜石	凹形無蓋。片側を欠く。作りは丁寧	
36	石鏡	Flg.8	次製品	(1.9)	(1.6)	(0.4)	(1.2)	黒曜石	凹形無蓋。縁り残し先頭部。片側の一部を欠く	
37	石鏡	礎土	完成	1.7	1.6	0.5	1.3	黒曜石	凹形無蓋。厚さが先頭部が鋭く欠く	
38	石鏡	礎土	次製品	(1.4)	(2.2)	(0.3)	(1.2)	黒曜石	平形無蓋の基部のみ。扁平でやや大型	
39	磨石	礎土	ほぼ完成	1.9	1.7	0.3	1.2	黒曜石	三角形の断面。磨り面の作り	
40	打製石片	礎土	次製品	(5.0)	(4.9)	(1.2)	(27)	黒色火山岩	刃部片。磨り面の縁から作り出している。刃部両面に自然磨	
41	小判形石片	礎土	次製品	(2.9)	1.8	0.8	(7.4)	黒松輝石	小判形片。刃部が明確に幅広となる。使用面有り。基部を欠く	
42	石鏡	灰面	完成	1.6	1.2	0.3	0.5	黒曜石	大型の凹形無蓋。つまみ部が大きく、刃先は鋭くはいる。片側に自然磨	
43	スチレバー	礎土	完成	11.1	5.3	1.3	70	黒色火山岩	ほぼ三角形で下部部に刃部を有する	
44	磨石	礎土	完成	11.3	7.2	2.5	227	緑松輝石火山岩	大型の一側削りで片側に自然磨。縁辺の一部に刃部を有する	
45	磨石	礎土	完成	12.3	7.7	4.3	503	緑松輝石火山岩	やや平削りな長判形。片側に二面。片側に一面の凹み有り	
46	磨石	礎土	完成	9.3	6.7	5.0	450	石炭閃緑岩	長判形。両面に使用面が見られる	
47	磨石	礎土	完成	6.3	4.9	4.0	155	緑松輝石火山岩	小型の磨石。両面に使用面	
48	磨石	礎土	完成	1.6	1.2	0.3	0.6	デイヤオ	小型の扁平。両面使用面を有する	
49	磨石	礎土	ほぼ完成	12.3	9.0	5.3	1,055	緑松輝石火山岩	不定形な磨り面。一面がぼんぼり使用面。一面は磨り面としての使用面か	

5-74号住居跡 (第77～79図：PL127・128)

34	石鏡	礎土	完成	3.6	1.9	0.2	1.7	黒曜石	凹形無蓋。大型で厚いが鋭い。縁部を削りて右側の透明面あり	
35	石鏡	礎土	完成	2.3	1.5	0.3	0.7	黒曜石	凹形無蓋。作りは丁寧	
36	石鏡	礎土	完成	1.4	1.4	0.2	0.3	黒曜石	凹形無蓋。やや小型品で磨り面は大きく開く	
37	石鏡	礎土	未製品	3.4	2.2	0.2	6.9	黒曜石	凹形無蓋。小陥り。凹み縁部がやや丸みを帯び	
38	石鏡	礎土	ほぼ完成	2.1	1.4	0.5	1.4	黒曜石	つまみ部を有し縁部は鋭い作り先頭部を欠く	
39	石鏡	礎土	次製品	(1.4)	(1.4)	(0.2)	(0.5)	黒曜石	凹形無蓋。縁りははやく先頭部を欠く	
40	磨石	礎土	完成	2.4	0.7	0.4	0.8	黒曜石	楕円状。断面三角形で先頭部は断面方向に作り出されている	
41	磨石	礎土	完成	2.8	0.8	0.5	1.5	黒曜石	楕円状。両端は丸み。先頭部が僅かに欠く作られている	
42	磨石	礎土	完成	(1.1)	(0.8)	(0.5)	(0.9)	黒曜石	楕円形磨り面。先頭部を欠く。やや厚みが有する	
43	石鏡	礎土	未製品	3.4	2.2	0.2	6.9	黒色頁岩	扁平な作り。両面。縁部に調整痕。石鏡の未製品か	
44	打製石片	礎土	完成	9.5	5.5	1.1	8.5	緑松輝石火山岩	短冊形の磨り。両面に自然磨。両辺がやや平削れ	
45	打製石片	礎土	次製品	(7.5)	(4.3)	(1.7)	(79)	緑松輝石火山岩	小型の短冊形。両面に自然磨。基部欠損。尖を欠けている	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-74号住居跡 (第779号図：PL127・128)

遺物No.	遺物	出土位置	残存	計測値(長×幅×厚)cm	重量(g)	石材	特徴	備考	
46	打製石片	埋土	欠損	8.3	2.1	1.3	166	細粒輝石山岳片	磨石の基底片が、物置の片組にのみ大規模に見られる
47	打製石片	埋土	欠損品	19.5	4.9	1.6	187	細粒輝石山岳片	短冊状。縦長磨石、自然面側より欠損。刃部を欠く
48	打製石片	埋土	欠損品	8(1)	5.5	1.6	164	細粒輝石山岳片	短冊状。やや扁平で基部側が側面欠損。表を打つて見ると、片面に部分のみに磨んだ跡が残る。基部から基部にも見られる
49	磨石	埋土	欠損	12.2	6.4	3.1	462	板状磨石	短冊状。片面に部分のみに磨んだ跡が残る。基部から基部にも見られる
50	磨石	埋土	欠損品	12.3	2.0	0.7	14	板状磨石	小型磨石の基部片。定角式と見られる。基部は丸みあり
51	打製石片	埋土	欠損品	17.4	5.3	1.6	177	黒色頁岩	丸みを持った形状で、基部の黒化が顕著。基部欠損品か
52	スライパー	埋土	欠損	7.3	5.9	1.3	56	細粒輝石山岳片	不定形で下部縁に刃部作付
53	スライパー	埋土	欠損品	15.3	14.3	1.1	251	細粒輝石山岳片	片面に自然面残す形状
54	磨石	埋土	欠損	7.9	5.5	3.7	193	細粒輝石山岳片	やや扁平な磨石。表面に打痕見られる。磨付面
55	磨石	埋土	欠損	12.8	9.0	4.3	728	板状磨石	扁平な磨石。基部側面から打痕見られる
56	磨石	埋土	欠損品	18.3	7.8	4.5	1444	アズサイト	両面磨を欠損。両面を磨き出して使用。片面に凹み穴。被蝕
57	磨石	埋土	欠損	11.9	6.3	3.6	401	細粒輝石山岳片	やや扁平な片磨石。片磨大さく。両面に打痕あり
58	磨石	埋土	欠損品	19.4	7.9	4.4	472	細粒輝石山岳片	やや扁平な片磨石。表面使用面が磨けて平滑。片面に打痕顕著
59	磨石	埋土	欠損	11.7	5.7	3.3	323	細粒輝石山岳片	棒状。両面に僅かな打痕
60	磨石	埋土	欠損品	130.5	7.8	7.6	1962	細粒輝石山岳片	棒状の磨石で、両面使用面とし、部分のみに側面あり。被蝕
61	磨石	埋土	欠損	5.4	4.0	2.0	43	細粒輝石山岳片	小型の扁平な片磨石。両面使用
62	多孔石	埋土	欠損	22.8	36.7	39.6	6,400	細粒輝石山岳片	多孔の椀形磨石を呈す。表面に4方向の凹み穴。両面に平らで両側縁
63	磨石	埋土	欠損	8.6	2.9	5.3	216	細粒輝石山岳片	棒状で、表面は平らで若干の使用面見られる
64	磨石	埋土	欠損	6.2	4.0	1.0	8	板石	薄板状の扁平な磨石で下部縁は中弧状に磨らる。上部に穴を有す
65	磨石	埋土	欠損品	15.1	4.1	1.2	171	板石	板状で長方形。下部を欠く。上部に穴を有す

5-75号住居跡 (第82・83号図：PL126)

25	石鏃	埋土	欠損	1.5	1.4	0.4	0.7	黒曜石	凹凹無蓋。磨石が正三角形を呈す。両側縁に厚みあり
26	石鏃	埋土	欠損品	1.1	1.1	0.3	10.4	黒曜石	凹凹無蓋。扁平の形で見られる
27	打製石片	埋土	ほぼ完整	9.8	4.9	2.1	122	細粒輝石山岳片	磨石。刃部縁の一部欠く。刃部および全体に磨痕が見られる
28	打製石片	埋土	欠損品	17.8	4.9	2.0	927	黒炭片	磨石。刃部欠損時に片磨大さく側縁を有す
29	磨石	埋土	欠損	14.6	8.8	5.6	1,085	細粒輝石山岳片	やや大きめの片磨石。両面使用。両面に僅かな打痕あり
30	磨石	埋土	欠損	12.8	6.5	3.6	526	細粒輝石山岳片	扁平な片磨石。両面使用
31	多孔石	埋土	欠損	23.5	23.4	39.5	5,100	細粒輝石山岳片	不定形でやや扁平な磨石の両面に多数の凹み穴あり

5-76号住居跡 (第87号図：PL129)

22	石鏃	砂埋土	欠損品	1.0	1.0	0.3	0.7	黒曜石	基部側面を欠損する
23	石鏃	埋土	欠損品	1.2	1.1	0.2	0.3	黒曜石	凹凹無蓋。扁平の形。先端部を欠く
24	石鏃	埋土	欠損品	1.2	0.8	0.3	0.2	黒曜石	凹凹無蓋。扁平
25	石鏃	埋土	欠損	2.5	1.8	0.8	2.5	黒曜石	三角のつまみ部有し。基部は短く扁平となる。全体に磨痕有り
26	磨石	埋土	欠損	1.9	1.6	0.4	1.8	黒曜石	短冊状を呈す。一面に自然面残し。定角式の形に類似
27	打製石片	埋土	欠損品	19.7	6.6	1.2	1,062	細粒輝石山岳片	短冊状。基部の短冊状であるが基部側縁より欠けあり。刃部を欠く
28	打製石片	埋土	欠損品	18.6	5.5	1.6	1,066	細粒輝石山岳片	短冊状。表面に自然面残す。基部を欠く
29	打製石片	砂埋土	欠損品	14.0	4.1	0.8	115	細粒輝石山岳片	扁平の片磨石。基部に打痕見られる
30	スライパー	埋土	欠損品	6.4	3.0	0.9	23	黒色頁岩	三角形を呈す。下部に刃部作付。欠損品
31	磨石	埋土	欠損品	12.5	5.2	1.1	750	板状磨石	磨石。片磨の側面部分の破片に見られる。基部の側面顕著
32	磨石	埋土	欠損	10.3	6.6	4.9	587	細粒輝石山岳片	棒状。両面に磨り跡として使用。両面に打痕

5-77号住居跡 (第93・94号図：PL130)

19	石鏃	灰面	欠損	3.0	1.8	0.3	1.4	黒色山岳片	凹凹無蓋。磨石は厚。両面にやや内側に欠く
20	石鏃	埋土	欠損	1.9	1.2	0.3	0.7	黒色頁岩	凹凹無蓋。磨石は薄。やや中形の磨石
21	石鏃	灰面	ほぼ完整	1.5	1.3	0.5	0.8	黒曜石	小形。平基部で、片磨が顕著し側縁を有す
22	石鏃	埋土	欠損	1.3	0.9	0.2	0.2	チャート	小形。凹凹であるがほとんど平らに近い形状。扁平の片磨
23	石鏃	埋土	欠損品	1.3	1.1	0.4	0.7	黒曜石	先端部欠く。基部の一部を欠く
24	石鏃	埋土	欠損品	1.1	1.0	0.3	0.3	黒曜石	小形。凹凹無蓋。磨石は厚。比較的面積が狭く、先端部僅かに欠く
25	石鏃	埋土	欠損品	1.2	0.7	0.4	0.6	黒曜石	片磨を大きく欠く。基部のみに側縁
26	石鏃	埋土	欠損品	1.2	1.1	0.3	0.5	黒曜石	凹凹無蓋。やや中形で先端部および片磨を欠く。扁平の片磨
27	石鏃	埋土	欠損品	1.2	1.1	0.2	0.5	黒曜石	凹凹無蓋。磨石で作りは厚。先端部および片磨を欠く
28	石鏃	埋土	欠損品	1.1	1.1	0.2	0.3	黒曜石	凹凹無蓋。やや中形で先端部を欠く
29	石鏃	埋土	ほぼ完整	1.5	0.9	0.2	0.3	黒曜石	凹凹無蓋と思われが、全体に磨痕としており平基部
30	石鏃	埋土	ほぼ完整	3.5	1.6	0.4	0.4	黒曜石	基部片が、断面は断面はほぼ円形であるが先端部は六角形となる
31	石鏃	灰面	欠損	1.1	1.0	0.5	1.1	褐色山岳片	長方形。二面三角を呈す磨石。基部の断面はほぼ矩形に作られる
32	打製石片	埋土	欠損品	6(4)	5.2	2.1	1,700	細粒輝石山岳片	磨石と思われが、刃部を欠く
33	スライパー	灰面	欠損	8.1	7.2	1.8	83	黒色山岳片	ほぼ矩形を呈す。両側縁。下部に刃部作付
34	スライパー	灰面	欠損	11.0	6.7	1.8	117	黒色山岳片	棒状の磨石を呈す。両面に刃部を有す。基部に刃部作付
35	磨石	埋土	欠損	30.7	9.0	3.8	320	黒色山岳片	片面に大きく自然面残す。大断面が顕著して凹み穴が一つだけあり
36	スライパー	埋土	欠損	5.3	4.5	1.0	23	黒色山岳片	ほぼ矩形で二面に刃部作付。一面は弧状。刃部は凹み穴あり
37	小形磨石	灰面	ほぼ完整	3.3	1.9	0.7	8.0	板状磨石	19号ヒット内出土。小型定角式。刃部縁が磨石状。刃部一部欠く
38	小形磨石	灰面	ほぼ完整	5.1	2.4	0.9	18.5	板状磨石	19号ヒット内出土。小型定角式。刃部使用による欠損あり
39	磨石	埋土	欠損	12.8	10.1	5.4	1,025	細粒輝石山岳片	やや扁平な片磨石。両面に磨り跡として痕跡が顕著。若干の打痕
40	磨石	埋土	欠損	11.9	7.8	3.9	542	細粒輝石山岳片	扁平な片磨石。両面。両面を磨き出して使用。凹み穴一つだけあり
41	磨石	灰面	欠損	10.1	8.1	4.2	523	細粒輝石山岳片	やや扁平な片磨石。両面磨り跡として使用。凹み穴一つだけあり
42	磨石	灰面	欠損	10.3	7.6	4.4	439	細粒輝石山岳片	不定形な磨石。両面がほぼ平らで使用面とする
43	磨石	灰面	欠損品	13.9	9.5	3.4	591	細粒輝石山岳片	扁平な小形磨石を呈す。両面磨り跡として凹み穴が見られる。基部欠く
44	小形磨石	灰面	ほぼ完整	35.9	24.6	39.5	14,161	細粒輝石山岳片	やや扁平な磨石の一面を欠く。両面使用面とする
45	石鏃	灰面	欠損	10.5	1.1	1.2	39.3	緑色片岩	両面に小室有

第3章 検出された遺構と遺物

5-78号住居棟 (第99-101図：PL13)

遺物%	種	出土位置	残	存	計測値	長さ	幅	厚	重	g	材	特	備
56	石鏝	礎土	欠損品	(2.9)	(1.2)	0.3	(1.0)				黒曜石	四角無蓋、片方の隅を欠く	
57	石鏝	礎土	欠損品	(1.7)	(1.1)	0.2	(0.5)				黒曜石	四角無蓋、やや平削りな型石面残存	
52	石鏝	礎土	欠損品	(0.9)	(1.2)	0.3	(0.7)				黒曜石	四角無蓋、おぼろかに片側の下部を欠く	
53	石鏝	礎土	欠損品	(2.0)	(1.2)	0.2	(0.6)				黒曜石	下部を欠損、欠損部が縁線的に削れている	
54	石鏝	礎土	欠損品	(1.3)	(1.2)	0.2	(0.6)				黒曜石	四角無蓋、先端部が縁線的に削れている	
55	石鏝	礎土	欠損品	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.6)				黒曜石	四角無蓋、両側はやや丸みを持って削られている	
56	石鏝	礎土	欠損品	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.7)				黒曜石	四角無蓋、先端部および片側の隅が欠ける	
57	石鏝	礎土	欠損品	(1.4)	(1.1)	0.2	(0.5)				チャート	四角無蓋、先端を欠く、端子の作り	
58	石鏝	礎土	欠損品	(2.3)	(0.8)	0.4	(0.7)				黒曜石	基部を欠損、縁部は端部はやや平削りな型	
59	石鏝	礎土	欠損品	(2.1)	(0.6)	0.3	(0.5)				黒曜石	やや端部を持つ縁部、先端部を欠く	
60	石鏝	礎土	欠損品	(1.5)	(0.5)	0.3	(0.2)				黒曜石	先端部が欠けた縁部	
61	打製石片	床面	完形	22.3	4.0	2.9	148				黒色頁岩	縁部、中央部がやや平削りな縁部、刃部が鋭く	
62	打製石片	床面	完形	14.1	4.2	2.1	197				緑松輝石安山岩	縁部、片側縁は厚く自然面ではとどろ無調整、刃部縁部	
63	打製石片	礎土	完形	11.4	4.0	2.0	115				黒色頁岩	縁部の短形部、やや丸みを有し表面自然面に自然面残存	
64	打製石片	礎土	完形	9.8	3.8	2.4	141				緑松輝石安山岩	縁部、刃部やや端部となり広がりを持つ	
71	打製石片	礎土	完形	12.2	3.9	1.5	121				緑松輝石安山岩	短形部、端部より基部が厚く刃部に向って薄くなる	
66	打製石片	礎土	ほぼ完形	(11.1)	5.0	1.6	(136)				緑松輝石安山岩	短形部、端部がやや鋭くなる。基部は厚みの打痕を残す	
67	打製石片	礎土	欠損品	(11.5)	(6.4)	(2.1)	(242)				緑松輝石安山岩	縁部、両側縁は丁寧に磨き上げられている。刃部を端部を欠く	
68	打製石片	礎土	完形	10.7	4.8	1.5	91				黒色頁岩	縁部、やや平削りに反りを持つ。刃部縁部	
69	打製石片	礎土	ほぼ完形	10.2	3.8	1.3	86				緑松輝石安山岩	短形部、端部の作り、表面に自然面残存。刃部縁部、無調整	
70	打製石片	礎土	完形	9.1	4.1	1.6	82				緑松輝石安山岩	短形部、やや端部で基部が厚く刃部に向って薄くなる	
71	打製石片	礎土	完形	12.2	4.2	1.8	92				緑松輝石安山岩	短形部であるが、両端部がやや鋭くなる。基部は厚みの打痕を残す	
72	打製石片	礎土	ほぼ完形	(10.5)	5.5	2.3	(115)				緑松輝石安山岩	縁部、刃部は丸みを持つがやや平削りな型	
73	打製石片	床面	完形	10.4	4.6	1.2	83				緑松輝石安山岩	扁平な一次削りを利用、片側縁は厚みがあり無調整である	
74	スクリュー	床面	完形	8.6	6.4	2.2	131				緑松輝石安山岩	片側の大型削りを利用、3個縁に刃部を作出	
75	打製石片	礎土	欠損品	(5.4)	5.0	1.5	(40)				頁岩	打製石片の基部片、両側縁に鋭い切りあり	
76	打製石片	礎土	欠損品	(4.0)	4.4	2.1	(40)				黒色頁岩	打製石片の基部片を見られ、厚みがある	
77	スクリュー	礎土	完形	7.0	4.3	1.0	27				黒色頁岩	2角形を呈す。片側は自然面、直線的な刃部を下部に作出	
78	打製石片	礎土	欠損品	(7.4)	3.2	1.3	(40)				黒色頁岩	打製石片の刃部片も見え刃が欠けよう無調整あり	
79	磨石	礎土	完形	4.8	3.4	1.2	28				黒色頁岩	長方形を呈し、片側平らで刃部は端部	
80	スクリュー	礎土	完形	7.1	9.1	1.4	89				緑松輝石安山岩	扁平で楕円形を呈す。1個縁に簡単な刃部を作出、磨痕が見られる	
81	磨石	礎土	完形	10.4	7.2	4.5	238				輝石	扁平な楕円形を呈す。両面に凹み穴、右側縁が縁部が鈍化	
82	磨石	礎土	完形	11.9	8.3	4.3	472				緑松輝石安山岩	扁平な片削り、両面使用、端部に刃部を持つ	
83	磨石	床面	完形	10.9	10.1	4.9	785				緑松輝石安山岩	やや扁平な片削り、両面使用、刃部は片削り	
84	磨石	礎土	完形	9.8	8.4	5.5	712				緑松輝石安山岩	やや扁平な片削り、両面使用	
85	磨石	礎土	完形	6.9	5.8	5.0	272				緑松輝石安山岩	扁形の内縁。打痕あり	
86	磨石	礎土	完形	7.2	3.4	1.7	89				緑松輝石安山岩	扁平な小片削り、両面使用	
87	磨石	礎土	完形	5.4	4.2	3.6	112				緑松輝石安山岩	小片削り、両面使用	
88	玉	礎土	欠損品	(2.1)	1.1	(0.5)	(1.9)				セシイ	平玉状台形。片側縁部が見られ、両面に穿孔が見られる。磨痕あり	

5-79号住居棟 (第103図：PL13)

9	打製石片	礎土	完形	12.1	6.1	2.3	192				緑松輝石安山岩	縁部、片側縁はほとんどが無調整で、自然面が残る。刃部縁部	
10	打製石片	礎土	欠損品	(9.0)	5.4	1.0	(37)				緑松輝石安山岩	縁部を利用、両面に自然面。両側縁部に調整あり、基部を欠く	

5-80号住居棟 (第106図：PL13)

14	石鏝	礎土	欠損品	(1.7)	(1.0)	0.4	(0.7)				黒曜石	四角無蓋、縁りは浅く、片側の隅を欠く表面に型石面残存	
15	石鏝	礎土	欠損品	(1.0)	(1.1)	0.3	(1.1)				黒曜石	石鏝の本用品か、平削り基部に調整痕	
16	打製石片	礎土	欠損品	(4.5)	(2.2)	(0.8)	(31)				緑松輝石安山岩	片削りな型石面、端部の作り	
17	磨石	床面	完形	11.8	8.7	4.2	670				緑松輝石安山岩	やや扁平な片削りを利用、両面使用している。側縁にも打痕あり	
18	磨石	礎土	完形	27.0	8.0	4.9	1,300				石灰岩	大型の棒状縁部、端部に円形の無調整	
19	石鏝	礎土	欠損品	(30.2)	(21.6)	(8.5)	(5,560)				緑松輝石安山岩	縁の一部を欠く、両側縁で角部は厚く作られる。裏面に複数の凹み穴	

5-81号住居棟 (第109・110図：PL13・134)

11	石鏝	礎土	完形	1.5	0.8	0.2	0.3				黒曜石	四角無蓋、小型品、縁りは浅い	
12	石鏝	礎土	完形	2.3	0.9	0.3	1.0				黒色頁岩	二等辺三角形を呈す。両面平削りである。作りは粗い	
13	石鏝	礎土	欠損品	(1.5)	(1.0)	0.2	(0.3)				黒曜石	四角無蓋か、小型品、片側の隅を欠く	
14	石鏝	床面	欠損品	(1.6)	(1.1)	0.3	(0.5)				黒曜石	四角無蓋、縁りはやや丸みを持つ	
15	石鏝	礎土	欠損品	(2.4)	(1.4)	0.2	(1.0)				黒曜石	片側縁部調整、四角無蓋で扁平な作り、片側を欠く	
16	石鏝	礎土	欠損品	(1.0)	(1.0)	0.2	(0.4)				黒曜石	四角無蓋、先端部を欠く	
17	石鏝	礎土	欠損品	(1.7)	(1.1)	0.4	(1.1)				黒曜石	やや不定形な欠損品、右側つまみの可能性もある	
18	石鏝	礎土	欠損品	(1.2)	(0.4)	0.2	(0.2)				黒曜石	縁部の欠損品	
19	打製石片	床面	完形	10.3	6.4	2.0	164				緑松輝石安山岩	縁部、基部両側縁に浅く切りが見られる。刃部は広がり厚みあり	
20	打製石片	礎土	完形	10.5	4.6	2.0	108				緑松輝石安山岩	短形部、刃部はやや端部となり厚縁	
21	打製石片	床面	欠損品	(9.9)	(5.1)	(1.6)	(82)				緑松輝石安山岩	縁部、基部の一部を欠く、刃部縁部	
22	打製石片	床内	完形	10.3	6.0	1.9	248				緑松輝石安山岩	長さ不明な無調整の内縁、基部は調整して磨ける。基部の上端が厚み	
23	打製石片	礎土	完形	10.1	4.6	2.0	73				緑松輝石安山岩	縁部であるが刃部、基部に丸みを持つ。片側縁部が厚み	
24	打製石片	礎土	欠損品	(9.2)	3.8	1.7	(69)				緑松輝石安山岩	縁部、刃部を鋭く欠く	
25	打製石片	床面	欠損品	(8.2)	4.6	1.9	(88)				緑松輝石安山岩	短形部、基部欠損、刃部は端部	
26	スクリュー	礎土	完形	10.6	4.6	0.8	28				黒色頁岩	本用品か一次削りを利用、両側縁に簡単な刃部を作出	
27	小刀	礎土	完形	8.7	2.0	0.2	348				黒色頁岩	片削り、片側は自然面	
28	磨製石片	礎土	破片	(3.0)	(2.1)	(0.5)	(5.4)				蛇紋石	磨製石片の破片	
29	磨石	礎土	欠損品	(5.1)	4.5	2.3	(69)				緑松輝石安山岩	やや角形の石材。磨れており磨痕が顕著。尖を受けている	
30	磨石	床面	完形	8.7	8.0	4.0	379				緑松輝石安山岩	片削り利用、やや丸みを帯びた凹み穴を有す。凸凹あり	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-81号住居跡 (第109・110図) ; PL133・134

遺物%	部 類	出土位置	残 存	計測	長さ×幅×高さ (cm)	重 (g)	石 材	特 徴	備 考
31	磨石	礎土	ほぼ完全	10.7	8.7	5.9	836	精製輝石火山岩	両面、縁辺部使用。浅い凹み有り。縁部磨損
32	磨石	礎土	完全	9.3	7.8	4.9	375	精製輝石火山岩	片側利用。両面に凹み及び凹み穴あり
33	磨石	灰面	欠損品	10.33	7.23	4.83	1493	石炭閃緑岩	縁部磨、縁部磨痕あり、磨痕

5-82号住居跡 (第113・114図) ; PL141

29	打製石片	礎土	完全	11.3	4.7	1.5	89	黒色頁岩	断片、全体にわずかに刃が認められ、刃部磨痕
30	打製石片	礎土	完全	10.4	4.5	1.5	92	黒色頁岩	断片、内面に自然磨痕。刃部磨痕は縁辺部に認められる。刃部磨痕
31	打製石片	礎土	欠損品	7.23	4.8	2.0	1117	精製輝石火山岩	厚手づつりは無い。刃部、基部欠片状。縁部か
32	磨石	礎土	完全	11.4	7.8	4.9	375	精製輝石火山岩	両面に凹み及び凹み穴あり
33	打製石片	礎土	完全	14.3	5.9	3.7	638	精製輝石火山岩	特殊磨利面。刃部に2箇所の凹み穴あり
34	磨石	灰面	完全	8.9	6.9	3.2	505	精製輝石火山岩	片側利用。側面に磨り跡、磨り痕あり
35	磨石	礎土	完全	6.1	5.2	3.1	236	精製輝石火山岩	小片断。全面使用
36	磨石	礎土	完全	12.4	5.8	3.9	414	精製輝石火山岩	特殊磨利面。片面に使用による磨痕見られる
37	磨石	礎土	完全	5.1	3.0	2.2	72	精製輝石火山岩	扁平な小片断。凸凹あり。両面に自然磨痕あり
38	磨石	礎土	完全	12.6	6.1	2.0	382	精製輝石火山岩	扁平な中厚な磨石。扁平な全面使用
39	磨石	礎土	完全	12.0	5.4	4.0	452	精製輝石火山岩	特殊磨利面。側面、縁部使用
40	磨石	礎土	完全	9.8	4.6	3.4	219	石炭閃緑岩	縁部の片断石。やや扁平な上面使用面

5-83号住居跡 (第128～130図) ; PL138・139

173	石鏃	礎土	欠損品	02.03	01.1	0.3	10.53	黒曜石	凹部無き。縁りが深く端正な作り
174	石鏃	礎土	欠損品	01.27	00.33	0.2	10.27	黒曜石	凹部無き。扁平小形。やや厚みがあり三尖状を呈す
175	石鏃	礎土	欠損品	01.80	01.00	0.4	10.80	碧玉	平頭無き。片磨りをわずかに欠く
176	石鏃	礎土	欠損品	01.53	01.00	0.3	10.53	黒曜石	先端磨利
177	石鏃	礎土	欠損品	01.11	01.01	0.2	10.33	黒曜石	凹部無き。やや厚み作りで先端部を欠く
178	石鏃	礎土	完全	5.2	3.6	3.5	61.0	珩首頁岩	多方向からの磨痕が行われている。自然面も比較的残る
179	スライパ	礎土	完全	8.0	6.5	1.7	68	黒色安山岩	扁平な磨石。片磨りに使用による、自然面も比較的残る
180	スライパ	礎土	完全	11.5	3.2	1.1	55	黒色安山岩	縁部片一枚の断面が同軸線に照準し片磨りを作出
181	スライパ	礎土	完全	5.8	5.3	1.5	52	チャート	不定型で上面に自然磨、裏面に下刃面に片磨りを作出
182	磨製石片	灰面	欠損品	04.53	4.0	2.3	1763	軟状頁岩	定角式の基部片
183	磨製石片	灰面	欠損品	06.40	4.2	2.8	1366	軟状頁岩	磨製石片の断面品か。両面縁部磨利され縁部を作出
184	磨石	灰面	完全	10.8	7.3	3.0	294	精製輝石火山岩	扁平な長円錐。両面に使用面。2ヶ所の浅い凹み穴及び凹面あり
185	磨石	礎土	完全	12.8	8.3	4.8	702	精製輝石火山岩	特殊磨利面。両面に使用面。2ヶ所の浅い凹み穴及び凹面あり
186	打製石片	灰面	完全	9.8	11.1	4.3	216	磨石	中央に凹み穴と基部部を平らに磨り出して利用か。基部部の片磨りを作出
187	磨石	礎土	ほぼ完全	12.9	7.8	5.0	768	精製輝石火山岩	両面、側面使用。両面に打痕。2箇所の浅い凹み穴及び凹面あり
188	磨石	礎土	完全	11.6	8.7	4.9	709	精製輝石火山岩	やや扁平な長円錐利用。両面に使用面磨痕あり
189	磨石	灰面	欠損品	09.0	5.6	3.0	2331	精製輝石火山岩	やや扁平な長円錐利用。両面に浅い凹み、磨痕。両面に打痕
190	磨石	灰面	完全	17.2	6.5	3.6	858	石炭閃緑岩	断面三角の縁部を呈す。上面に浅い凹み穴。両面に打痕
191	磨石	礎土	完全	9.8	5.2	4.6	322	精製輝石火山岩	小形のもの取上げ利用。両面に凹み及び凹面あり
192	磨石	礎土	完全	8.1	5.3	2.7	178	精製輝石火山岩	扁平な長円錐。両面に凹み及び凹面あり
193	磨石	礎土	完全	8.8	4.5	2.9	163	精製輝石火山岩	小形のもの取上げ利用。片面平ら
194	磨石	礎土	欠損品	07.71	04.0	5.1	13663	精製輝石火山岩	磨石。やや厚みのある縁部で両面使用面。側面に打痕。磨痕あり
195	砥石	礎土	完全	9.4	9.8	1.8	219	砂岩	凹部の磨利面。両面平磨で中央部が使用により浅く凹む
196	磨石	灰面	完全	3.8	2.5	4.1	165	精製輝石火山岩	小片断。両面に使用面
197	砥石	灰面	完全	16.3	4.2	4.0	343	精製輝石火山岩	断面三角の縁部を呈す。両面に打痕
198	磨石	灰面	欠損品	17.23	7.9	3.1	1444	磨石	やや厚みのある磨石。両面使用。両面磨を欠く
199	磨石	灰面	完全	11.3	6.4	1.1	222	緑色片岩	緑色の扁平な磨利面。側面磨られて磨くことになっている
200	石鏃	礎土	欠損品	12.8	10.6	4.1	10423	多孔質安山岩	欠損品。表底面の石材を使用。裏面に凹みあり
201	多孔石	灰面	完全	29.2	38.0	11.6	6100	精製輝石火山岩	両面を欠いた自然石。上面に小形のもの凹み穴が4箇所ほど穿れている
202	多孔石	灰面	完全	26.7	38.9	10.7	7180	精製輝石火山岩	不定型自然磨利面のはっきりと凹み穴が4箇所ほど穿れている
303	石鏃	礎土	完全	6.9	3.3	4.3	61	磨石	発掘時の自然磨利した基部の石鏃か。磨利してあるか

5-84号住居跡 (第135・136図) ; PL140

20	石鏃	礎土	欠損品	02.23	02.3	0.2	10.73	黒曜石	凹部無き。縁りが良く、丁寧な作り
21	石鏃	礎土	欠損品	02.1	01.4	0.6	11.71	黒色安山岩	凹部無き。縁りが良く片面に磨利の跡のみを有す
22	石鏃	礎土	欠損品	01.9	01.4	0.5	11.61	黒曜石	凹部無きの未成品か
23	石鏃	礎土	欠損品	01.40	01.7	0.2	10.47	黒曜石	下刃部を欠く。断面がやや厚く磨か
24	石鏃	礎土	欠損品	01.53	01.1	0.2	10.53	黒曜石	凹部無き。断面がほぼ2片の断面を有す。下面が磨かかれている
25	石鏃	礎土	欠損品	01.80	02.23	0.3	11.13	黒曜石	凹部無きであるが縁りが良い。先端部突き出た作り
26	石鏃	礎土	欠損品	00.9	01.0	0.2	10.33	黒曜石	凹部無きであるが縁りが良い。先端部突き出た作り
27	磨石	礎土	欠損品	01.83	00.50	0.4	11.03	黒曜石	両面に先端および基部を欠き、やや厚みを有す
28	打製石片	礎土	ほぼ完全	9.9	3.3	1.4	94	精製輝石火山岩	断片、刃部が刃が先端部をわずかに欠く
29	スライパ	礎土	欠損品	11.53	01.1	0.2	10.53	精製輝石火山岩	厚手づつりした断面が同軸線に照準し片磨りに使用面を作出
30	打製石片	礎土	欠損品	04.33	4.8	1.6	1473	精製輝石火山岩	断面品か。磨利あり
31	磨製石片	灰面	欠損品	13.05	04.8	2.3	1553	軟状頁岩	定角式。側面の縁ははっきりと残る。刃部の片磨りを欠く
32	磨石	礎土	完全	11.5	9.7	5.6	903	精製輝石火山岩	やや扁平な長円錐利用。両面使用
33	磨石	灰面	完全	13.8	7.3	3.5	259	精製輝石火山岩	扁平な長円錐。両面に使用面。浅い凹み穴見られる
34	磨石	礎土	完全	7.7	2.7	6.7	42	精製輝石火山岩	精製輝石火山岩
35	磨石	灰面	完全	9.8	6.8	5.3	547	精製輝石火山岩	断面品。両面使用。磨痕
36	石鏃	礎土	完全	17.9	17.0	5.8	2700	精製輝石火山岩	扁平な長円錐利用。両面使用。磨痕
37	石鏃	礎土	欠損品	07.91	3.3	2.2	1743	結晶片岩	大型の扁平な石鏃と認められる。磨利あり

5-85号住居跡 (第139・140図) ; PL141

26	石鏃	灰面	完全	7.5	4.3	1.7	66.5	黒曜石	断面の一部に良く自然磨利す。やや扁平な石鏃
27	磨石	礎土	完全	19.2	8.5	3.7	713	チャート	やや扁平な厚板。表面の割傷磨痕で、基部の鉄片状を有す
28	磨石	礎土	完全	9.6	4.0	2.9	165	精製輝石火山岩	特殊の片断石。表面平磨

第3章 検出された遺構と遺物

5-85号住居跡 (第129・140図：PL141)

遺物%	種類	出土位置	残存	計測員	長さ	幅	高さ	量	2g	石	材	特	備
29	磨石	礎土	文物品	3.8	1.9	0.30		0.30		緑色片岩		中や扁平な石製の細部小片か	

5-86号住居跡 (第142図：PL141)

10	スライバー	床面	完形	8.4	6.3	2.1		103		黒色頁岩		厚みを持った一次削片利用。下に階的な層状構造	
11	磨石	礎土	ほぼ完形	7.0	6.2	5.8		125		緑色片岩		下部に平らな面を有する。傾斜。北面に打痕が見られる	
12	磨石	床面	完形	10.8	6.8	5.0		548		石製四角錐		断面がほぼ正方形を呈し、両端面に打痕が見られる	
13	磨石	礎土	完形	5.5	4.3	1.4		15.4		磨石		板状の凹凸形状を呈し、中や張り出した角に円孔と中央に未穿孔あり	

5-87号住居跡 (第145・146図：PL141)

8	石鏝	礎土	文物品	0.10	0.90	0.2	0.30		10.30	磨石		凹形無蓋、小型品。持ち手は深く個體部をわずかな膨らみを持つ	
9	石鏝	礎土	文物品	0.30	0.20	0.3	0.40		10.40	磨石		凹形無蓋、持ち手は浅くほぼ正三角形を呈す	
10	石鏝	礎土	文物品	0.30	0.10	0.3	0.40		10.40	磨石		凹形無蓋、先端面を欠く、側面が丸みを持って深く凹状か	
11	石鏝	礎土	文物品	0.30	0.20	0.3	0.30		10.30	磨石		凹形無蓋、脚は中や広く、扁平な削片を用いた個體部のみで作出	
12	石鏝	礎土	文物品	0.20	0.10	0.3	0.30		10.30	磨石		凹形無蓋、片側および個體部の一部を欠削。持ち手は扁平	
13	石鏝	礎土	文物品	0.30	0.20	0.4	0.30		10.30	磨石		凹形無蓋、片側および先端面を欠く	
14	石鏝	礎土	文物品	0.20	0.10	0.6	0.30		10.30	磨石		凹形無蓋、先端面が欠ける	
15	磨石	床面	文物品	32.4	5.6	3.3	477		477	板状岩		断面は欠削後に再削削し角削ししている。磨石として再利用か	
16	スライバー	床面	完形	4.9	3.8	1.4	22		22	建造岩		不定型な小削片の一個體に継がれた断面を呈出	
17	磨石	礎土	完形	11.0	9.4	6.2	249		249	緑色片岩		中や扁平な面一様に使用	
18	磨石	礎土	完形	12.3	7.1	5.2	609		609	緑色片岩		中や平らな面一様に使用	
19	磨石	礎土	完形	9.4	8.5	7.1	839		839	緑色片岩		両面に使用面、個體部部に打痕、磨痕	
20	磨石	礎土	文物品	16.0	6.5	4.2	1674		1674	緑色片岩		扁平な棒状物。両面使用し個體部の一部に打痕あり	
21	磨石	礎土	完形	9.9	8.5	7.2	824		824	緑色片岩		一部に扁平面を有す。平坦部部分を使用面とする	
22	磨石	礎土	完形	11.8	4.3	4.1	1399		1399	緑色片岩		棒状の用片を両面用	
23	磨石	礎土	完形	7.8	4.2	2.4	58		58	緑色片岩		小削片(扁平)利用。両面に使用面を呈す	
24	石鏝	礎土	文物品	0.40	0.40	0.40	0.70		0.70	緑色片岩		中や平らな面一様に用	

5-88号住居跡 (第151～153図：PL142)

35	石鏝	礎土	ほぼ完形	1.4	0.6	0.1	0.2		0.2	磨石		凹形無蓋の小型品	
36	打製石片	床面	完形	15.3	7.0	1.9	156		156	緑色片岩		細形、扁平で刃部が広がった。持ち手は短い	
37	打製石片	床面	ほぼ完形	10.0	4.7	1.9	114		114	緑色片岩		細形、基部をわずかに欠か。表面に凹痕。刃部短く磨痕あり	
38	打製石片	床面	完形	6.9	5.0	1.9	1057		1057	緑色片岩		細形、基部を欠く。刃部がやや中や広く	
39	打製石片	礎土	文物品	11.0	4.9	2.8	1171		1171	緑色片岩		細形、刃部を欠く。刃部は細部部を呈す	
40	石鏝	礎土	完形	9.8	8.4	5.0	475		475	黒色片岩		割削された残石核で3分の1程度の自然のこぼ	
41	磨石	床面	文物品	10.0	7.5	5.6	5111		5111	緑色片岩		ほぼ正方形に似た片状物。磨痕による傾斜。ひび割れ痕あり	
42	磨石	礎土	ほぼ完形	9.7	7.6	6.8	616		616	緑色片岩		中や扁平な面を呈す。表面に打痕。また片側面に浅い凹穴あり	
43	磨石	礎土	完形	9.7	7.9	6.6	616		616	緑色片岩		円錐。基部に平らな面を有す。片側面に磨痕	
44	磨石	礎土	完形	9.1	6.8	5.6	537		537	緑色片岩		棒状の棒。表面は平滑	
45	磨石	礎土	完形	10.7	5.6	2.4	269		269	緑色片岩		扁平な棒状物。両面に使用面	
46	丸石	床面	完形	15.2	12.9	1.1	3,180		3,180	石灰質砂岩		表面は平滑	
47	石鏝	伊	文物品	0.1	8.8	7.4	0.2000		0.2000	緑色片岩		有角の断面を持ち断面に木痕が見られ、以下欠削。先端面が磨痕	伊に磨痕
48	多孔石	床面	ほぼ完形	18.8	16.8	17.3	6,400		6,400	緑色片岩		上部の一部欠く大形角柱状物。1断面および上面に複数の凹み穴	

5-89号住居跡 (第155図：PL142・143)

10	石鏝	礎土	文物品	0.30	0.90	0.2	0.30		10.30	磨石		凹形無蓋、小型品で扁平な削片を用いた個體部のみに対面調整	
11	石鏝	礎土	文物品	0.20	0.10	0.3	0.40		10.40	磨石		凹形無蓋、片側をわずかに欠く	
12	石鏝	礎土	ほぼ完形	2.8	1.8	0.5	1.2		1.2	磨石		凹形無蓋、持ち手は欠く。片側面から全体に磨す	
13	石鏝	礎土	ほぼ完形	2.5	1.6	0.5	1.3		1.3	磨石		凹形無蓋だが持ち手は欠いていない。片側面から全体を有す	
14	石鏝	礎土	文物品	0.20	0.20	0.2	0.30		10.30	磨石		基部を欠く	
15	石鏝	礎土	文物品	0.20	0.30	0.5	0.40		10.40	磨石		側面を欠く。中や厚手であるが先端面は深く削り出された	
16	石鏝	礎土	文物品	0.40	0.10	0.3	0.40		10.40	磨石		凹形無蓋、片側を欠く	
17	石鏝	礎土	文物品	0.10	0.40	0.2	0.30		10.30	磨石		基部を削り出す	
18	打製石片	礎土	文物品	46.40	5.1	1.7	957		957	緑色片岩		両面に使用面	
19	スライバー	床面	完形	9.5	6.9	2.6	132		132	黒色頁岩		厚みももった面を呈す。斜断面に継がれた調整	

5-90号住居跡 (第159図：PL143)

21	石鏝	礎土	文物品	0.20	2.1	0.3	0.10		0.10	磨石		欠けで不整形。製作途中の磨削か	
22	石鏝	伊	完形	2.9	1.7	0.5	1.2		1.2	磨石		棒状物。断面断面が丸みを呈す	
23	石鏝	礎土	完形	3.4	1.7	0.4	1.2		1.2	磨石		棒状の削片を利用。両側面を調整し先端面を整えている	
24	打製石片	床面	文物品	98.50	4.7	1.5	673		673	緑色片岩		細形、刃部を欠く。表面は自然磨痕。持ち手は中や短い	
25	磨石	床面	文物品	17.10	4.1	1.9	941		941	板状岩		断面は、基部の傾斜	
26	磨石	床面	完形	6.8	6.4	4.4	290		290	緑色片岩		中や扁平な片状物。表面平滑	

5-91号住居跡 (第161図：PL143)

14	石鏝	礎土	文物品	0.10	1.3	0.2	0.10		0.10	黒色片岩		凹形無蓋、作りはいい。先端面を欠く	
21	磨石	床面	ほぼ完形	12.4	6.0	3.3	387		387	緑色片岩		扁平な小削片物。両面使用。それ前後に深く一対する凹み穴	

5-92号住居跡 (第165～167図：PL144・145)

30	石鏝	礎土	完形	3.1	2.0	0.3	1.3		1.3	磨石		凹形無蓋、持ち手は浅く、全体に深く丁寧に磨かれている	
31	石鏝	礎土	完形	3.1	1.6	0.5	1.2		1.2	磨石		凹形無蓋、持ち手は浅く個體部の傾斜を呈す	
32	石鏝	礎土	ほぼ完形	1.8	1.3	0.3	0.6		0.6	磨石		凹形無蓋、傾斜が鋭く右左対称に磨かれている	
33	石鏝	礎土	ほぼ完形	1.6	0.9	0.2	0.3		0.3	磨石		凹形無蓋であるが、小削りしたか。両側面は中や中細な面を有す	
34	磨石	礎土	ほぼ完形	2.0	1.3	0.4	0.8		0.8	磨石		凹形無蓋、片側を削り出す。断面が傾斜	
35	石鏝	礎土	文物品	0.30	0.10	0.30	0.30		0.30	緑色片岩		細身の作り。基部を欠く	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-92号住居跡 (第165~167回; PL144~145)

遺物No	種類	出土位置	残存	寸法(長×幅×高mm)	重量(g)	材質	特徴	備考
36	石鏃	礎土	ほぼ完全形	1.9 1.6 0.4	1.0	黒色安山岩	平基無蓋、取付片を利用、柄1つ有り	
37	石鏃	礎土	ほぼ完全形	1.2 0.9 0.2	0.3	黒曜石	凹基無蓋であるが取りはわずである。小型で石材は透明度高い	
38	石鏃	礎土	欠損品	1.7 (1.4) 0.2	10.53	黒曜石	凹基無蓋、片鏃を欠損	
39	石鏃	礎土	欠損品	2.2 (1.3) 0.3	11.00	黒曜石	柄1つである。基部を斜めに欠損	
40	石鏃	礎土	欠損品	1.6 (1.0) 0.2	10.31	黒曜石	基部欠損、やや基部の作り	
41	石鏃	礎土	ほぼ完全形	1.7 1.0 0.4	0.6	黒曜石	平基無蓋、小型	
42	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) 1.2 0.2	10.43	黒曜石	基部欠欠	
43	石鏃	礎土	欠損品	(1.1) 1.0 0.3	10.43	黒曜石	凹基無蓋、基部欠	
44	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) 1.2 0.3	10.53	黒曜石	基部を欠欠	
45	石鏃	礎土	欠損品	1.2 (0.7) 0.2	10.23	黒曜石	先頭部片	
46	石鏃	礎土	欠損品	(1.1) 1.1 0.3	10.31	黒曜石	先頭部あるいは脚部片	
47	石鏃	礎土	ほぼ完全形	1.4 1.3 0.4	0.9	黒曜石	平基無蓋、先頭部が厚みを増し、やや反っている。作りは粗い	
48	石鏃	礎土	欠損品	(0.8) 0.5 0.2	10.31	黒曜石	凹基無蓋で先頭部が大きく欠損、両手で作りは丁寧	
49	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) 1.3 0.4	10.71	黒曜石	基部および先頭部を欠欠	
50	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) 1.2 0.4	10.53	黒曜石	先頭部片	
51	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) (0.9) 0.3	10.43	黒曜石	凹基無蓋、先頭部、片鏃を欠欠	
52	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) 0.6 0.2	10.23	黒曜石	右側の脚部片が、先頭部突出	
53	スプレーバー	礎土	ほぼ完全形	1.3 1.3 0.4	0.8	黒曜石	小型の円筒を有す	
54	石鏃	礎土	欠損	3.0 0.7 0.3	0.6	黒曜石	鋭い・鋭利な刃を呈し片鏃が断らみを有す	
55	石鏃	礎土	ほぼ完全形	2.0 0.8 0.5 0.7	黒曜石	小型の鋭利な刃を有す、つまみ部がやや大きく作られる		
56	石鏃	礎土	欠損	2.5 0.6 0.4 0.6	黒曜石	欠損した脚部を利用		
57	石鏃	礎土	欠損	4.3 1.3 0.6 2.4	黒曜石	長く尖った形状を有し、基部に調整溝が、つまみ部は無調整		
58	石鏃	礎土	欠損	2.5 0.7 0.8 1.2	黒曜石	つまみ部を欠損が、基部は先頭に向かって徐々に細くなる		
59	石鏃	礎土	欠損	2.0 1.0 0.6 0.8	黒曜石	短めの前縁状を呈す		
60	石鏃	礎土	欠損品	1.6 0.7 (0.5) 10.53	黒曜石	基部、先頭部やや平縁		
61	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) 0.6 0.2	10.23	黒曜石	脚部片、断面やや平縁	
62	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) 0.7 0.2	10.23	黒曜石	基部の作り、跡の識別性も	
63	石鏃	礎土	欠損品	(1.7) 0.6 0.3	10.43	黒曜石	鋭い・鋭利な片の調整溝を有調整し、片出	
64	打製石片	灰面	欠損	10.9 5.0 1.5	104	黒色江戸岩	鋭利、やや小形かつ調整溝	
65	打製石片	灰面	欠損	11.9 3.0 1.6	120	黒色安山岩	鋭利、片面に大きく自然面を残す。対面は円状で調整痕みある	
66	打製石片	礎土	ほぼ完全形	10.5 5.5 1.6	92	黒曜石(安山岩)	鋭い・鋭利な片を有し、調整溝に浅く切り入れられる。両面に自然面残	
67	打製石片	礎土	欠損品	(11.0) 6.1 2.1	1175	黒曜石(安山岩)	鋭利、片面に大きく自然面を残す。対面欠	
68	打製石片	灰面	欠損品	66.3 4.4 1.8	167	黒曜石(安山岩)	短形短小、刃部を欠	
69	打製石片	礎土	欠損品	(7.0) 4.6 2.1	183	黒曜石(安山岩)	短形短小、刃部を欠	
70	スプレーバー	礎土	欠損	1.9 (1.4) 0.4	79	黒色安山岩	5/8を呈し、柄1つ出た状態の刃部を有す	
71	磨石	礎土	欠損	92.3 7.8 4.7	204	黒曜石(安山岩)	やや扁平な調整溝、調整面を呈し見られる	
72	三脚形石鏃	灰面	欠損	11.1 4.0 6.8	269	粗粒輝石(安山岩)	調整面三角形、各面調整された痕み認められるが、調整痕み、一部縁部	石冠
73	磨石製品	礎土	欠損品	(7.8) 4.5 1.2	(7.2)	粗粒輝石	小判形を有す。調整面はやや厚みで作られている	

5-92号住居跡 (第175~177回; PL146~147)

76	石鏃	礎土	欠損	1.8 1.3 0.3 0.5	黒曜石	凹基無蓋、小型品で作り浅い		
79	石鏃	礎土	欠損	1.6 1.2 0.2 0.4	黒曜石	小型の凹基無蓋、側面下部に調整、石材断心を有す		
80	石鏃	礎土	ほぼ完全形	2.2 1.5 0.3 1.1	黒曜石	平基無蓋に近いが基部に調整溝を有す。調整溝が断らみ作りは粗い		
81	石鏃	礎土	ほぼ完全形	2.7 1.7 0.3 1.5	黒色安山岩	凹基無蓋、縁りは深く調整溝に断らみがある		
82	石鏃	灰面	欠損品	(2.3) 1.3 0.2	10.23	黒曜石	凹基無蓋、縁り深く先頭部および脚部を欠欠	
83	石鏃	礎土	ほぼ完全形	1.9 1.4 0.4 1.0	黒曜石	凹基無蓋、ベース部を呈す円筒が小さく、先頭部細く尖る		
84	石鏃	礎土	ほぼ完全形	2.0 1.4 0.3 0.8	黒曜石	凹基無蓋で縁りは極めて浅い、先頭部を僅かに欠欠		
85	石鏃	灰面	ほぼ完全形	1.2 1.2 0.2 0.3	黒曜石	小型で三角を呈し、角は尖みを帯び持ち残りは見られない		
86	石鏃	礎土	欠損	1.7 1.5 0.2 0.6	黒曜石	凹基無蓋、ベース部を呈し先頭部が尖る		
87	石鏃	礎土	ほぼ完全形	2.2 1.9 0.6 2.4	黒曜石	凹基無蓋、基部に厚みを有し先頭部に調整溝は見られない	スプレーバー	
88	石鏃	礎土	ほぼ完全形	1.5 1.3 0.4 1.0	黒曜石	厚みを有し、調整溝は調整面にのみ施される。スプレーバー又は木製		
89	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) (1.2) 0.2	10.53	黒曜石	凹基無蓋、小型品で片鏃を欠欠	
90	石鏃	礎土	欠損品	(2.3) (1.3) 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、縁り深く調整溝が浅く作出、片鏃を欠欠	
91	石鏃	礎土	欠損品	(2.3) (1.3) 0.3	10.43	黒曜石	凹基無蓋、片鏃を欠欠、先端、脚部にある	
92	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) 1.7 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、ベース部を呈し片鏃を欠欠、やや厚みを持ち調整面有	
93	石鏃	礎土	欠損品	(2.3) (1.3) 0.3	10.53	黒曜石	先頭部片と呈せられる	
94	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) (2.0) 10.53	(1.7)	黒曜石	先頭部やや内側に片出、厚みあり、先頭部あるいはスプレーバー片	
95	石鏃	灰面	欠損品	(2.0) 1.6 0.2	(1.6)	黒色安山岩	凹基無蓋、縁り深く先頭部を欠欠、調整溝にやや断らみ有す、両手の作り	
96	石鏃	灰面	欠損品	(2.0) 2.0 0.3	(1.1)	黒色安山岩	凹基無蓋、縁り深く、いわゆる長脚鏃、先頭部を欠欠	
97	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) 1.8 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、脚はハの字に開く	
98	石鏃	礎土	欠損品	(1.3) 1.3 0.3	10.53	黒曜石	凹基無蓋、三角に縁りを付す小型品	
99	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) 1.6 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、先頭部を欠欠し、やや厚みの作り	
100	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) 1.7 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、縁りはほぼ直線に欠欠される	
101	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) (1.4) 0.3	10.23	粗粒輝石(安山岩)	凹基無蓋、縁りは深く先頭部、片鏃を欠欠	
102	石鏃	礎土	欠損品	(2.3) 1.3 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、三角に縁りを付す小型品	
103	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) (0.6) 0.2	10.23	黒曜石	基部を斜めに欠欠	
104	石鏃	礎土	欠損品	(1.0) (0.8) 0.2	10.17	黒曜石	凹基無蓋の脚部片と見られる	
105	石鏃	礎土	欠損品	(1.1) 1.3 0.2	10.43	黒曜石	凹基無蓋、小型品で作り浅い	
106	石鏃	礎土	欠損品	(2.2) (1.0) 0.2	10.53	黒曜石	凹基無蓋の脚部片と見られる	
107	石鏃	礎土	欠損品	(1.4) (1.0) 0.3	10.31	黒曜石	先頭部片と見られる	

第3章 検出された遺構と遺物

5-93号住居跡 (第175~177図; PL146・147)

遺物%	種 類	出土位置	残 存	計測値	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	備 考
108	石鏝	床面	欠損品	Q.77	2.1	0.4	0.60		チャート	十字型を呈し、磨部の先端を欠く	
109	石鏝	礎土	山打形跡	2.1	0.5	0.3	0.3		黒曜石	小型の棒状を呈す	
110	石鏝	礎土	完整	1.7	0.4	0.3	0.2		黒曜石	小型の棒状を呈す	
111	石鏝	礎土	欠損品	0.3	0.5	0.4	0.40		黒曜石	小型の棒状を呈す。中央部分が壊れに欠く	
112	石鏝	礎土	欠損品	12.3	1.4	0.5	1.11		黒曜石	三角型を呈す。磨部の先端を僅かに欠く	
113	石鏝	礎土	欠損品	1.4	0.6	0.5	0.30		黒曜石	断面三角を呈す磨部片	
114	石鏝	礎土	欠損品	Q.11	1.2	0.3	0.46		黒曜石	つまみ部分が膨らむ形を呈し、磨部は中平砥平に作出され先端を欠く	
115	スチレール	礎土	完整	2.7	3.4	0.9	6.7		黒曜石	三角型を呈す。一側縁が厚く刃部を作出	
116	小型磨石	礎土	完整	3.6	1.9	0.5	1.2		板状岩	小形定角式。やや厚みで作りは丁寧	
117	打製石斧	床面	山打形跡	15.3	7.2	1.9	206		黒色頁岩	板状磨石を利用。刃部は縁が片側の一部を欠く	
118	打製石斧	床面	完整	19.1	5.7	2.0	241		粗粒輝石火山岩	大型の板状磨石を利用した磨石。両面に大きく自然面残る	
119	打製石斧	礎土	完整	30.2	4.4	1.1	85		黒色火山岩	短軸形。小振りで中平砥平の作り	
120	打製石斧	礎土	山打形跡	11.4	5.8	2.2	178		火山岩	磨石。片側や中央部を有す。両面に自然面残る	
121	打製石斧	礎土	完整	13.7	7.4	3.9	378		黒色頁岩	磨石。厚手で中央部が削れ、刃部が大きく広がる	
122	打製石斧	礎土	完整	8.5	4.9	1.7	95		粗粒輝石火山岩	磨石。刃部の広がりには縁が内側	
123	打製石斧	礎土	欠損品	30.2	4.7	1.9	125		黒色火山岩	短軸形。厚手の刃部で一部を欠く	
124	打製石斧	床面	完整	6.6	2.7	0.8	23		黒色頁岩	小形の短軸形。厚手で中平砥平を有す	
125	打製石斧	床面	欠損品	Q.20	4.5	1.5	156		粗粒輝石火山岩	磨石。小振りの作りで両面に自然面。刃部を欠く	
126	打製石斧	礎土	欠損品	47.4	1.7	4.9	1123		粗粒輝石火山岩	短軸形。両面に自然面残る基礎片	
127	打製石斧	床面	欠損品	10.4	4.8	2.5	1222		黒色頁岩	磨石。基部や中厚みを有す。刃部が斜めに磨蝕	
128	打製石斧	礎土	欠損品	8.5	4.1	1.7	192		粗粒輝石火山岩	磨石。刃部を欠く	
129	打製石斧	礎土	欠損品	66.2	4.8	1.9	172		粗粒輝石火山岩	磨石の基部が、両側縁の刃部で磨蝕	
130	打製石斧	礎土	欠損品	55.0	3.4	1.1	1413		粗粒輝石火山岩	磨石。やや小振り刃部を欠く	
131	打製石斧	礎土	欠損品	5.3	4.9	1.2	1383		粗粒輝石火山岩	厚手の基部片両面に自然面残る。側縁に磨蝕痕あり。側縁に磨蝕痕あり。刃部を欠く	
132	打製石斧	床面	欠損品	69.0	5.3	1.6	1833		粗粒輝石火山岩	板状の磨石を利用。両面に自然面残る。側縁に磨蝕痕あり。刃部を欠く	
133	打製石斧	礎土	欠損品	7.3	4.5	2.3	1050		粗粒輝石火山岩	短軸形。刃部を欠く	
134	打製石斧	床面	完整	10.1	3.7	1.5	59		黒色頁岩	小形磨石。中平砥平を有す。刃部が斜めに磨蝕	
135	スチレール	礎土	完整	8.6	5.3	2.1	80		粗粒輝石火山岩	不定形な磨石。両側縁共に自然面残り。片側縁に縁く刃部作出	
136	打製石斧	礎土	欠損品	13.0	5.3	2.1	609		黒色火山岩	磨石。基部、刃部を欠く	
137	磨石	床面	完整	7.4	7.2	2.0	138		細粒輝石火山岩	一次削りの規正型を打ち欠き円形に作出	
138	磨製石斧	床面	欠損品	66.5	4.5	2.2	1232		板状岩	定角式。上端部に縁打痕あり。刃部を欠く	
139	磨製石斧	床面	欠損品	13.2	6.0	0.8	17.8		板状岩	細線形の磨石	
140	磨石	床面	完整	2.4	5.9	0.9	9.4		粗粒輝石火山岩	中平砥平を利用。一側縁に縁がい磨蝕で刃部作出	
141	磨石	床面	完整	11.3	6.8	3.8	454		石灰質頁岩	不定形な磨石。片側面平で鋭い凹み穴を有す	
142	磨石	礎土	欠損品	8.0	7.1	5.1	1477		粗粒輝石火山岩	半分を欠く。中平砥平な磨石(両面使用で平磨、磨蝕)	
143	磨石	礎土	完整	14.3	6.4	4.4	649		粗粒輝石火山岩	扇形の自然磨。下面使用	
144	磨石	床面	完整	17.8	8.2	4.5	779		粗粒輝石火山岩	なすび型を呈し、片側が平らである	
145	磨石	礎土	完整	4.6	4.5	3.9	100		粗粒輝石火山岩	小形磨石	

5-94号住居跡 (第181図; PL148)

54	石鏝	礎土	完整	1.9	1.4	0.3	0.8		黒色火山岩	四角無蓋。縁は鋭利を呈し浅い	
55	石鏝	礎土	欠損品	14.0	1.9	0.3	11.23		黒曜石	四角無蓋。先端部を欠く	
56	磨石	礎土	完整	10.4	8.6	7.6	920		粗粒輝石火山岩	平磨な使用面2面あり。端部に刃痕が見られる	

5-95号住居跡 (第183図; PL149)

4	打製石斧	礎土	完整	12.3	4.7	2.3	179		粗粒輝石火山岩	磨石。基部や中厚く刃部片側を磨蝕し磨く	
5	磨石	礎土	完整	11.5	7.6	3.4	722		粗粒輝石火山岩	扁平な磨石。両面使用面。浅い打痕あり。磨蝕	

5-97号住居跡 (第187図; PL149)

8	二次加工品	礎土	完整	2.1	1.7	0.9	3.4		黒曜石	中平砥平十字状を呈し全体に磨蝕の痕あり。端部が尖頭状となる	
---	-------	----	----	-----	-----	-----	-----	--	-----	-------------------------------	--

5-98号住居跡 (第192図; PL150)

19	石鏝	礎土	山打形跡	2.0	1.3	0.4	0.8		黒曜石	四角無蓋。縁は鋭く全体に磨蝕の痕あり	
20	石鏝	礎土	欠損品	1.3	1.4	0.3	0.50		黒曜石	丸頭山打形	
21	スチレール	礎土	完整	2.4	5.9	0.9	9.4		黒曜石	2/3が平らを利用。一側縁に縁がい磨蝕で刃部作出	
22	石鏝	礎土	山打形跡	3.4	2.2	0.8	4.9		黒曜石	側縁に縁がい磨蝕。本製品か	
23	砥石	床面	欠損品	14.0	14.0	0.7	16.53		チャート	板状の小片。3面に中平砥平面に浅い凹みあり	
24	磨石	礎土	山打形跡	8.7	6.8	4.1	301		粗粒輝石火山岩	中平砥平で両面中平面に浅い凹みあり	
25	石鏝	床面	欠損品	126.7	12.0	11.2	104.94		粗粒輝石火山岩	厚手の大型品。縁は鋭く使用面は平らである。上部を欠く	

5-99号住居跡 (第196・197図; PL151)

26	石鏝	礎土	完整	2.7	1.9	0.7	2.7		黒曜石	片側面が磨りあがり縁部部に粗い磨蝕が見られる。本製品と思われる	
27	石鏝	床面	完整	2.7	1.5	0.5	1.3		黒曜石	つまみ部分三角型を呈しやや厚みがある。磨部は縁が尖り若干の磨蝕	
28	打製石斧	礎土	山打形跡	7.8	5.0	1.8	67		黒色頁岩	磨石。刃部は丸みを帯び	
29	スチレール	床面	完整	12.4	5.2	1.4	108		粗粒輝石火山岩	半月状で下側に直線の浅い凹み部を呈す。打製石斧の可能性あり	
30	磨石	礎土	完整	11.0	6.1	3.9	280		粗粒輝石火山岩	扁平な磨石。片側打痕による浅い凹みあり	
31	磨石	礎土	完整	14.6	12.9	9.7	2,630		粗粒輝石火山岩	中平砥平の両面。両面に使用面	
32	磨石	床面	完整	11.9	7.8	3.7	485		火山岩	扁平な磨石を利用。両面に複数の打痕。表面に微細の凹凸あり	
33	磨石	床面	山打形跡	29.4	10.3	9.2	2,640		粗粒輝石火山岩	やや大型の扇形磨石。縁は鋭く	

5-100号住居跡 (第205・206図; PL152・153)

28	石鏝	礎土	完整	3.2	1.7	0.3	0.9		黒曜石	四角無蓋。縁は三角に入る。比較的丁寧な作り	
39	石鏝	床面	完整	2.1	1.6	0.3	0.7		黒曜石	四角無蓋。縁は三角に入る。比較的丁寧な作り	
40	四角無蓋	礎土	完整	2.1	1.5	0.7	1.9		黒曜石	四角無蓋。縁は鋭く片側が磨蝕に磨り上がる。本製品と思われる	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-100号住居跡 (遺205・206号：PL152・153)

遺物%	種 類	出土位置	残 存	計測値長×幅×厚(mm)	量(g)	石 材	特 徴	備 考
41	石鏃	深面	完形	7.3 1.4 0.4	0.57	黒曜石	小型の凹形鏃。ほぼ正三角形で磨がひららく形状	
42	石鏃	深面	次製品	(1.1) 1.6 0.2	0.41	黒曜石	凹形鏃。先端部欠く	
43	石鏃	深面	次製品	(0.7) 1.7 0.3	0.30	黒曜石	凹形鏃。縁は深い。先端部欠く	
44	石鏃	深土	次製品	(1.2) 1.4 0.4	0.63	黒曜石	凹形鏃。先端部欠く	
45	石鏃	深土	次製品	(0.9) 1.7 0.6	(1.8)	黒曜石	平形鏃。先端を欠き、やや細な作り	
46	石鏃	深土	次製品	(1.2) (0.8) 0.3	(0.2)	黒曜石	やや丸みを持った先端部	
47	石鏃	深土	次製品	(1.4) (1.1) 0.4	(0.5)	黒曜石	先端部欠き見られるが、丸みを呈す	
48	石鏃	深土	完形	2.7 1.3 1.1	2.7	黒曜石	2.5mm程度の幅で、磨面が平く	
49	石鏃	深土	ほぼ完形	2.3 0.7 0.5	0.6	黒曜石	棒状。断面やや丸みを呈す	
50	石鏃	深土	ほぼ完形	1.6 0.6 0.5	0.4	黒曜石	小型の棒状。先端部磨かた欠く	
51	石鏃	深土	次製品	(1.5) 0.7 0.4	(0.4)	黒曜石	小型棒状で磨面を無くす作りの	
52	打製石片	深面	ほぼ完形	11.6 6.0 1.8	171	黒曜石	細粒の打製石片	
53	打製石片	深面	完形	12.1 5.8 1.9	147	黒曜石	細粒。磨面が欠ける	
54	打製石片	深面	完形	30.8 4.8 1.5	93	黒曜石	細粒。側面にわずかな縁を有す	
55	打製石片	砂	次製品	0.4 5.0 2.1	158	黒曜石	細粒。ほぼ丸い。断面はやや細粒となり磨面見られる	
56	打製石片	深面	ほぼ完形	10.4 4.1 1.6	107	黒曜石	細粒。やや細身の作り。刃部磨面	
57	打製石片	深土	次製品	(6.4) 4.7 1.4	(52)	黒曜石	細粒の打製石片	
58	打製石片	深土	次製品	(7.4) 3.3 2.5	(38)	黒曜石	かなり短冊形。断面欠く	
59	打製石片	深土	次製品	9.7 6.2 1.5	95	黒曜石	細粒。磨り、断面欠く	
60	打製石片	深土	ほぼ完形	9.1 5.3 1.3	50	黒曜石	磨り作りの磨面が平く	
61	打製石片	深面	次製品	(8.1) 6.6 2.9	(167)	黒曜石	厚手作り。刃部の刃部、刃角は鋭角	
62	打製石片	深土	次製品	(8.2) 5.4 1.5	(78)	黒曜石	板状の磨面を呈する。作りは粗く刃部欠く	
63	打製石片	深土	次製品	(10.4) 6.7 2.5	(272)	黒曜石	粗い作り。刃部欠く	
64	打製石片	深面	次製品	(5.2) 3.8 1.2	(32)	黒曜石	板状を呈す。断面磨	
65	打製石片	深土	次製品	6.9 3.4 1.3	35	黒色頁岩	断面が粗くなる磨面の打製片と思われる	
66	磨石	深面	完形	9.1 8.3 6.2	697	黒曜石	断面にリング状の打痕あり	
67	磨石	深土	完形	8.3 5.9 2.7	211	黒曜石	小判型を呈す細平磨。両面使用	
68	磨石	深土	完形	16.8 7.8 4.7	1155	黒曜石	やや扁平な棒状磨。磨面の打痕磨	
69	磨石	深土	次製品	(4.1) 3.9 1.4	(7.3)	磨石	下半部を欠く。板状の打痕を有す	
70	磨石	深面	未製品	2.3 1.0 0.6	2.9	黒色頁岩	小型の丸丸形磨を呈す。磨面磨。刃部がやや薄く。未磨石ともなり	

5-101号住居跡 (遺2120号：PL154)

38	石鏃	深面	完形	2.9 2.0 0.6	2.2	褐色砂岩	凹形鏃。数箇の石材を利用。磨面が見られる	
39	石鏃	深面	完形	1.9 1.3 0.3	0.6	黒曜石	凹形鏃であるが、縁は厚く鋭い	
40	石鏃	深土	ほぼ完形	1.8 1.5 0.3	0.9	黒曜石	凹形鏃であるが、縁は鋭い	
41	石鏃	深土	完形	2.0 1.3 0.4	1.8	黒曜石	平形鏃であるが磨面の打痕とみえ、刃部は平く	
42	石鏃	深土	次製品	(2.0) (1.0) 0.4	(1.1)	黒曜石	断面のつまみ部に細平な磨面が平く先端部を欠く	
43	石鏃	深面	完形	2.1 0.7 0.5	0.8	黒曜石	小型の棒状磨で端に磨がりを有す	
44	スプレッパ	深土	次製品	5.4 1.5 1.0	7.2	黒曜石	細身の磨を呈す。下部部は断面に異なる刃部作	
45	打製石片	深面	次製品	(8.0) 4.4 1.6	(97)	黒曜石	磨り。刃部欠く	
46	打製石片	深面	次製品	(8.8) 5.1 2.0	(112)	黒曜石	磨り。断面がやや細く作られる。刃部欠く	
47	打製石片	深面	完形	7.6 4.3 2.0	73	黒色頁岩	小型。短い短冊形で刃部がやや丸みを持つ	
48	打製石片	深土	完形	6.8 4.0 0.9	36	黒曜石	小型で基部。刃部に丸みを持つ小判型を呈す	
49	打製石片	深土	ほぼ完形	(7.5) 4.9 1.2	(56)	黒色頁岩	短い短冊形。薄手の作り	
50	磨石	深土	完形	6.5 7.3 1.3	361	黒曜石	不定型な板状の磨	

5-102号住居跡 (遺2148号：PL155)

16	打製石片	深面	完形	12.0 4.2 1.8	136	黒曜石	細粒。片面に磨らみを持ち刃部がやや磨面	
----	------	----	----	--------------	-----	-----	---------------------	--

5-103号住居跡 (遺2168号：PL156)

6	磨石	深面	完形	11.7 7.5 4.9	653	黒曜石	小判型を呈す。両面使用。浅い凹穴が一時ずつ見られ、断面は細粒磨	
7	磨石	深面	ほぼ完形	15.9 8.6 4.6	989	黒曜石	扁平な小判型を呈す。断面は細粒磨	
8	多孔石	砂岩	完形	25.4 13.9 12.9	4,650	黒曜石	不定型な自然磨の断面に大小の凹穴が多数穿かれている	

5-104号住居跡 (遺2188号：PL157)

12	石鏃	深土	次製品	(1.0) (1.0) 0.4	(0.4)	黒曜石	先端部片	
14	石鏃	深土	ほぼ完形	3.3 2.3 0.9	23.3	黒曜石	小舟鏃。ほぼ全面を磨面が磨はごく一部に止まる	
15	打製石片	深土	完形	11.4 4.3 1.6	125	黒曜石	細粒。細平な棒状の磨を利用。両面に欠き自然。刃部磨	
16	打製石片	深土	次製品	(6.2) 4.3 1.0	(38)	黒曜石	打製石片の断面片と見られる。断面の刃部は磨面。磨面欠	
17	打製石片	深土	次製品	(7.1) (4.2) 1.4	(43)	黒曜石	一次打製片。片面に自然磨。削り作り。スプレッパ	
18	磨石	深土	完形	12.8 5.9 4.8	572	黒曜石	細粒。両面に打痕あり	

5-105号住居跡 (遺222・223号：PL158)

19	石鏃	P15	完形	2.8 1.6 0.3	1.8	黒曜石	凹形鏃。比較的作りは丁寧	
20	石鏃	深土	完形	1.9 1.4 0.3	0.6	黒曜石	凹形鏃。小型で左右非対称	
21	石鏃	深土	次製品	2.1 (1.4) 0.3	(0.5)	黒曜石	凹形鏃。先端部を欠く	
22	石鏃	深土	ほぼ完形	2.4 1.1 0.5	1.8	黒曜石	つまみ部が平くなる磨面。やや丸みを有し、断面は細粒磨	
23	打製石片	深土	完形	9.4 4.4 1.4	79	黒曜石	細粒。断面に大小の自然磨のこぼれ。側面。刃部は平く作	
24	打製石片	深土	完形	11.3 4.9 1.4	88	黒曜石	磨り。断面が、刃部が鋭く尖り磨面を呈す。刃部磨	
25	打製石片	深土	完形	9.8 5.7 2.1	138	黒曜石	磨り。板状の磨を利用。刃部磨	
26	打製石片	深土	次製品	(9.7) 5.7 2.1	(124)	黒曜石	磨り。刃部欠。尖を有している	
27	磨石	深面	次製品	(6.1) 6.3 2.8	(166)	板状頁岩	大形磨石片の刃部。刃部断面の断面に比べて研削磨	
28	磨石	深土	次製品	(5.2) 5.4 2.1	(87)	板状頁岩	磨石片の刃部。断面に自然磨のこぼれに比べて研削磨	
29	スプレッパ	深土	完形	5.6 14.1 1.9	122	黒曜石	やや大形な凹形の刃部を下辺に作	

第3章 検出された遺構と遺物

5-105号住居跡 (第222・223区; PL156)

遺物%	種 類	出土位置	残 存	計測値	長さ×幅×高さ(mm)	重量(g)	材 質	特 徴	備 考
30	礫	層土	完形	9.5	12.9	5.5	875	安山岩	大形礫片の下部部を打ら欠き、対面縁に作出
31	礫石	層土	完形	12.4	7.6	6.9	628	粗粒輝石安山岩	片割れ礫片、断面に浅い凹み穴有り
22	礫石	層土	欠損品	44.9	44.1	1.9	660	安山岩	小形の扁平礫、両面平縁
33	礫石	層土	完形	7.3	6.2	4.0	241	粗粒輝石安山岩	小型の円縁、縁上にむきびけられ見られる
34	礫石	床面	完形	8.6	7.7	5.7	518	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円縁利用、両面使用
35	礫石	層土	完形	10.1	8.8	4.9	653	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円縁を利用、両面使用。2個一対の浅い凹み穴有す

5-106号住居跡 (第224区; PL157)

1	スチール棒	床面	完形	10.6	6.5	1.6	82	粗粒輝石安山岩	木の扉の削片で扉部の作出は見られない
---	-------	----	----	------	-----	-----	----	---------	--------------------

5-107号住居跡 (第262区; PL157)

10	石礫	層土	ほぼ完形	1.5	1.0	0.4	0.7	黒曜石	先端部が凹みがあるが、厚み有し未熟品の可能性もある
11	打製石片	床面	ほぼ完形	10.4	6.2	1.3	950	粗粒輝石安山岩	薄い板状の礫を利用、両面に自然面残す
12	打製石片	層土	欠損品	5.3	5.6	1.5	530	粗粒輝石安山岩	縁のみ、扁平で断面欠く
13	礫石	床面	完形	11.6	7.5	4.0	564	粗粒輝石安山岩	扁平な小形礫を呈す、両面使用により極めて平縁

5-108号住居跡 (第288区; PL157)

10	礫石	床面	完形	8.3	6.8	3.4	381	粗粒輝石安山岩	扁平な長円形礫片、表面に浅い打痕あり
11	礫石	床面	完形	8.9	8.0	3.9	365	粗粒輝石安山岩	扁平な円縁利用、浅い打痕あり
12	礫石	床面	完形	11.5	7.3	3.1	435	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面使用、縁残
13	石礫	層土	完形	20.9	27.1	11.1	1,320	粗粒輝石安山岩	厚手で縁は広く使用面は平らに作られる。断面に凹み穴有り

5-109号住居跡 (第222区; PL158)

27	石礫	層土	ほぼ完形	1.6	1.8	0.4	0.8	黒色安山岩	四角無蓋、両縁が大きく突き出し有り、先端部を僅かに欠損
28	石礫	層土	完形	1.5	1.2	0.5	1.0	黒曜石	小形、三角形を呈す鈍片で、縁部に凹縁、断面と凹みあり
29	石礫	層土	完形	5.4	5.3	0.7	2.6	黒曜石	不定形な扁平打製片、断面は一縁に凹み縁、使用による厚縁残
30	打製石片	床面	欠損品	10.1	5.0	1.1	1,045	粗粒輝石安山岩	板状の礫を利用、両面縁は直線的に作出す。断面欠く
31	礫石	床面	完形	10.4	7.4	4.9	604	アイサイト	厚手な小形礫に打痕による凹み、縁の状が顕著

5-110号住居跡 (第234区; PL158)

5	打製石片	床面	完形	8.4	4.4	1.6	85	粗粒輝石安山岩	小型の縁形、対面平縁
6	礫石	床面	完形	6.7	5.7	5.0	265	粗粒輝石安山岩	縁の縁、両面使用
7	礫石	層土	完形	5.6	5.4	3.6	129	粗粒輝石安山岩	小形礫、やや扁平な円縁を利用
8	礫石	層土	完形	10.7	6.7	3.0	366	粗粒輝石安山岩	扁平な長円礫、両面平縁で平縁

5-111号住居跡 (第288区; PL159)

24	石礫	Flint	完形	1.6	1.2	0.3	0.4	チャート	四角無蓋、小型品で作りは丁寧
25	石礫	層土	完形	1.3	1.1	0.3	0.2	黒曜石	四角無蓋、小型品で丁寧作り、やや厚みがある
26	石礫	層土	欠損品	0.9	0.5	0.3	0.9	粗粒輝石安山岩	四角無蓋、先端部より断面欠く
27	石礫	層土	欠損品	1.7	0.1	0.3	0.3	チャート	四角無蓋、縁の凹み部を有し凹み、小形で片割れ欠く
28	石礫	層土	ほぼ完形	1.7	1.6	0.6	1.7	碧玉	半扁平蓋、厚みを有し先端部を中央に欠く
29	石礫	層土	欠損品	2.5	0.0	0.3	0.3	黒色頁岩	四角無蓋、縁の欠く個部部が断面もやや平縁、縁に大きく欠損
30	石礫	層土	完形	2.1	0.7	0.5	0.6	黒曜石	縁の凹み部片を利用、縁部は扁平で一縁にのみ凹縁
31	磨製石片	層土	欠損品	0.4	3.6	1.2	1.4	板状岩	定角式、やや薄手の作りで、断面に凹み穴有り。断面も欠損あり
32	磨製石片	層土	欠損品	10.0	2.5	2.7	2,052	細灰岩	定角式、厚みはほぼ中央に付き、断面欠
33	礫石	層土	完形	7.5	6.8	5.1	298	粗粒輝石安山岩	縁の形、両面やや平縁で、両面に小さく浅い凹み穴有す
34	礫石	層土	欠損品	6.5	5.4	0.3	1,043	粗粒輝石安山岩	小型の円縁、表面よりつた両面使用
35	礫石	Flint	ほぼ完形	0.7	0.5	1.5	777	玄武岩	扁平な楕円礫、両面平縁で両面に打痕あり
36	礫石	層土	完形	6.3	5.5	3.7	178	粗粒輝石安山岩	やや扁平な小縁礫、両面使用面と1使用面残
37	礫石	層土	完形	13.1	6.9	3.2	336	粗粒輝石安山岩	縁状で、両面より縁に縁を有す。平縁面残し、後縁の凹み穴有す縁残

5-112号住居跡 (第240区; PL160)

24	石礫	層土	欠損品	2.8	0.7	0.4	0.3	黒曜石	やや鋭い作りで断面を欠損しているものと見られる
24	石礫	層土	欠損品	17.2	11.2	-	4,280	アイサイト	大形の板片、断面は片割れ欠損あり
25	多孔石	層土	欠損品	19.2	15.0	0.0	2,560	粗粒輝石安山岩	表面が平らな角礫を利用、両面に大小数個の凹み穴有す

5-113号住居跡 (第249-251区; PL162・163)

77	石礫	層土	完形	1.6	1.3	0.3	0.3	黒曜石	四角無蓋、三角の鋭りを持つ小型品
78	石礫	層土	完形	2.0	2.0	0.3	0.8	粗粒輝石安山岩	四角無蓋、縁が大きく突き出し有り
79	石礫	層土	ほぼ完形	1.8	1.7	0.3	0.9	黒曜石	四角無蓋、板状の鋭りや両縁部が丸みを持つ、先端部を僅かに欠く
80	石礫	層土	完形	1.3	1.4	0.2	0.3	黒曜石	四角無蓋、小形品、断面が凹縁
81	石礫	層土	欠損品	1.8	0.2	0.3	0.3	黒曜石	四角無蓋、両縁部が丸みを有す小型品、片割れ欠く
82	石礫	層土	欠損品	1.0	0.0	0.3	0.3	黒曜石	四角無蓋、縁の鋭り、片割れ部
83	石礫	層土	欠損品	2.5	1.8	0.3	1.4	碧玉	つまみ部は縁より三角に作られる。先端部を欠いている
85	スチール棒	層土	完形	2.4	1.0	0.5	1.3	黒曜石	棒状の角、つまみ部はほぼ中央に付き、左右対称に作られる
86	打製石片	層土	完形	13.5	4.8	1.8	142	黒色頁岩	縁部の縁形、両面の厚縁残
87	打製石片	床面	欠損品	10.0	5.1	2.7	127	粗粒輝石安山岩	縁部の縁部のみ、断面に丸みを有す片は断面あり
88	打製石片	層土	ほぼ完形	0.7	5.7	1.1	1,151	黒曜石	片割れ縁部は片割れ、片面に比較的平らな自然面残も使用面残も残す
89	打製石片	床面	欠損品	0.9	4.9	2.6	772	粗粒輝石安山岩	縁部の断面片、断面縁を利用
90	打製石片	層土	欠損品	3.3	1.0	1.3	440	黒色安山岩	縁部の断面片
91	打製石片	層土	欠損品	0.7	4.5	2.7	927	黒色安山岩	縁部の断面片、厚手で片割れ縁部
92	打製石片	床面	欠損品	5.3	4.2	1.3	440	黒色頁岩	縁部の断面片

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-113号住居跡 (第249-251段: PL162・163)

遺物%	種 類	出土位置	残 存	計測値	長さ(mm)	幅(mm)	重さ(g)	石 材	特 徴	備 考
93	打製石斧	礎土	欠損品	(9.6)	5.4	2.5	1147	磯松輝石火山岩	基部欠く短形。身は厚手で刃部は薄手の造りである	
94	打製石斧	礎土	山打形	8.1	4.2	1.5	68	赤石	細形。小断面で刃部も欠く	
95	打製石斧	灰土	欠損品	7.9	5.0	1.1	64	黒色頁岩	打製石斧の基部のみ。薄手である	
96	スレイバー	礎土	完形	7.1	5.3	1.2	66	火山岩	不整形を呈す。下部部にはほぼ線形的な刃部を有す	
97	打製石斧	礎土	欠損品	(6.3)	4.9	2.0	(78)	黒色頁岩	基部と見られる	
98	礎石	礎土	完形	7.0	7.5	3.2	158	黒色火山岩	不整形で粗く調整された刃部を持つ	
99	打製石斧	礎土	欠損品	(5.4)	4.3	1.3	(79)	黒色火山岩	打製石斧の刃部のみ	
100	打製石斧	礎土	欠損品	(2.2)	3.1	0.9	(5.5)	黒色火山岩	刃部のみ。基部と判別難	
101	礎石	礎土	完形	11.6	8.6	2.9	435	磯松輝石火山岩	扁平な塊の塊面を打ち欠き、側面に以線打による使用痕	
102	礎石	礎土	完形	10.8	8.5	4.4	658	磯松輝石火山岩	扁平な塊利用。両面平打ち面に凹み穴。側面に打痕あり	
103	礎石	礎土	完形	12.9	7.6	4.1	696	石炭閃綠岩	やや扁平な凹面打。片面平打ちで使用痕より判別できない	
104	礎石	灰土	山打形	13.6	12.5	11.5	2,810	磯松輝石火山岩	やや大型の円錐。基部	
105	礎石	礎土	完形	8.4	7.1	3.9	512	磯松輝石火山岩	細形を呈す。片面平	
106	礎石	礎土	欠損品	(6.1)	6.7	5.6	(231)	多孔質火山岩	両側面は扁平である。両面には使用痕あり。やや軽量黒色頁岩の石材	
107	石皿	灰土	欠損品	(14.0)	(10.2)	4.7	(938)	緑色片岩	使用痕が残る凹む。欠損品。裏面は扁平で平造	
108	磯石製品	礎土	完形	7.0	4.9	3.5	44	輝石	細形を呈す。両側面に未穿孔孔あり	
109	石棒	礎土	完形	34.9	18.2	13.6	1,400	磯松輝石火山岩	大型の長円錐。表面側に打痕あり	

5-114号住居跡 (第253段: PL163)

4	スレイバー	礎土	完形	4.5	5.0	0.8	15.2	黒曜石	不整形な薄片の一端に粗く刃部を有す	
5	骨	打石	完形	5.7	4.8	3.1	124	磯松輝石火山岩	小断面。両面使用による磨耗痕。基部	
6	台石	礎土	完形	19.9	15.0	6.0	2,900	石炭閃綠岩	平ら面を持つやや大きな円錐。使用面は平らである	
7	丸石	礎土	欠損品	(31.2)	(20.4)	15.5	(15.6)	石炭閃綠岩	大型の礫。一部欠く	

5-115号住居跡 (第255段: PL163)

4	石鏃	礎土	欠損品	(1.7)	(1.0)	0.3	(0.4)	磯松輝石火山岩	両側面を欠損。表面に突起が見られる	
5	打製石斧	礎土	完形	11.7	5.2	2.0	178	磯松輝石火山岩	細形。大型の塊面を打ち欠いた二次利用。両面を整形跡	
6	打製石斧	礎土	欠損品	(2.0)	4.7	2.2	(96)	黒色頁岩	細形。刃部片断に自然欠。基部を欠く	
7	礎石	礎土	完形	11.1	9.1	4.7	712	磯松輝石火山岩	扁平な円錐利用。片面に浅い凹み穴。側面に打痕見られる	

5-117号住居跡 (第259段: PL163)

7	石鏃	礎土	欠損品	2.0	(1.3)	0.2	(0.5)	黒曜石	凹面無き。側縁の一端および基部を欠損	
---	----	----	-----	-----	-------	-----	-------	-----	--------------------	--

5-118号住居跡 (第262段: PL164)

15	打製石斧	礎土	山打形	8.8	5.5	1.3	6.2	黒色頁岩	分断されているが小さく作られる。断面左右非対称で薄手	
----	------	----	-----	-----	-----	-----	-----	------	----------------------------	--

5-119号住居跡 (第265段: PL164)

21	スレイバー	灰土	完形	4.6	5.7	1.4	32	黒色頁岩	三角形を呈し側縁部分に刃部調整が為されるが調整しきない	
22	石皿	灰土	欠損品	(14.3)	(16.5)	6.5	(2,560)	磯松輝石火山岩	欠損品。断面にはほぼ長方形で作業痕の凹みは浅く、裏面に凹み穴	

5-120号住居跡 (第270・271段: PL165・166)

37	石鏃	礎土	完形	2.4	1.4	0.5	1.2	チャート	凹面無き。狭りは現状で保つてある。片面調整し跡のみを有す	
54	石鏃	礎土	欠損品	(0.3)	(0.3)	0.2	(0.1)	黒曜石	先端細形	
59	打製石斧	礎土	欠損品	(10.1)	7.6	2.2	(187)	磯松輝石火山岩	細形の磨りか。基部を欠いていると思われるが、刃部の作りは粗い	
60	磨製石斧	灰土	欠損品	(10.0)	6.2	4.4	(473)	蛇紋岩	縁に丸みを有す。比較的的大型で刃部大きく欠く	
61	礎石	礎土	完形	11.2	10.1	5.5	909	磯松輝石火山岩	やや扁平な円錐の両面を使用面とする。側縁に打痕	
62	礎石	灰土	完形	12.1	10.1	4.6	742	磯松輝石火山岩	扁平な円錐利用。両面使用による磨耗痕の凹み穴のみを有す	
63	礎石	礎土	欠損品	(14.3)	7.2	3.7	(992)	磯松輝石火山岩	棒状。断面は浅く凹み穴。一端を欠く	
64	礎石	礎土	完形	7.2	5.8	4.5	254	磯松輝石火山岩	小型の円錐。側縁に打痕あり	
65	礎石	礎土	完形	6.2	5.7	5.0	240	磯松輝石火山岩	小型の円錐	
66	礎石	灰土	欠損品	(23.2)	10.4	8.6	(2,880)	磯松輝石火山岩	大型の棒状錐。上面に一つの凹み穴を有し。側面に打痕	

5-122号住居跡 (第275段: PL166)

20	石鏃	礎土	山打形	1.9	1.7	0.4	1.1	黒曜石	平ら無き。片面に凹みに凹み作りは粗い	
21	打製石斧	礎土	欠損品	(9.3)	5.8	1.2	(85)	磯松輝石火山岩	細形。刃部を欠く。比較的薄手の作り	
22	磨製石斧	礎土	欠損品	(13.2)	5.7	3.4	(530)	蛇紋岩	定角状が縁にやや丸みを有す。刃部を欠損後磨製加工として利用か	

5-123号住居跡 (第278・293段: PL167)

34	石鏃	礎土	欠損品	2.4	(1.8)	0.3	(1.6)	黒曜石	凹面無き。狭りは現状を呈し基部が凹みに凹み跡を呈す。片鏃を欠く	
35	石鏃	礎土	欠損品	(0.7)	(0.9)	0.3	(0.1)	黒曜石	先端は台形細形	
36	石鏃	礎土	欠損品	(1.1)	(1.1)	0.3	(0.4)	黒曜石	細形のみ	
37	打製石斧	灰土	完形	10.7	5.2	1.3	116	磯松輝石火山岩	短形。刃部は凹むやや狭くなる	
38	礎石	礎土	完形	10.8	9.0	8.3	995	磯松輝石火山岩	円錐。全面を使用か。磨耗しているものと見られる	
39	礎石	礎土	完形	12.8	11.2	10.8	2,100	磯松輝石火山岩	やや大きな円錐。一端に打痕による凹み跡が見られる	

5-124号住居跡 (第291-300段: PL173-176)

243	石鏃	礎土	山打形	2.2	1.3	0.3	0.4	黒曜石	凹面無き。三角の縁。首りは平造。片鏃の一部を欠く	
244	石鏃	礎土	欠損品	(2.4)	1.9	0.3	(1.3)	黒色火山岩	凹面無き。狭り部は調整痕。首りは打痕で調整痕を欠く	
245	石鏃	礎土	完形	11.0	10.0	9.4	9.9	磯松輝石火山岩	小断面。凹面無き。断面に粗い凹み穴のみで。片鏃を有す	
246	石鏃	礎土	欠損品	(11.7)	(11.7)	9.5	(10.1)	磯松輝石火山岩	凹面無き。断面に粗い凹み穴のみを有す。首りは一段欠く	
247	石鏃	礎土	欠損品	7.1	(11.0)	9.2	(10.3)	黒曜石	凹面無き。小断面で平造。凹み穴のみを有す。首りは一段欠く	
248	石鏃	礎土	欠損品	(11.7)	9.5	9.2	(10.3)	黒曜石	凹面無き。断面に粗い凹み穴のみを有す。首りは一段欠く	
249	石鏃	礎土	欠損品	11.1	9.5	9.2	(10.3)	黒曜石	凹面無き。三角に打痕。先端部を欠損	

第3章 検出された遺構と遺物

5-124号住居跡 (東292-300区・PL173-176)

遺物%	種類	出土位置	残存	計測長×幅×厚さ(mm)	重(g)	石	材	特徴	備	備考
250	石礎	礎土	文物品	(1.0)	1.2	0.2	10.20	黒曜石	四角断面。小断面。三方に角り、先端部を欠損	
251	石礎	礎土	文物品	(1.2)	1.1	0.2	10.20	黒曜石	四角断面。縁は直線。三方に角り、断面がほぼ正方形。裏面に凹凸がある	
252	石礎	礎土	ははけ形状	3.4	(1.7)	0.8	(1.3)	焼粘り砂岩	断面がほぼ正方形。裏面に凹凸がある。先端部が欠損	
253	石礎	礎土	ははけ形状	2.9	1.0	0.7	1.8	黒曜石	中央部分が大い欠損部を見ず横状。断面を僅かに欠損	
254	石礎	礎土	文物品	1.7	(1.2)	0.4	(0.9)	黒曜石	石礎の未成品か、一部欠損	
255	スレンドバー	礎土	文物品	1.7	1.8	0.6	1.7	チャート	ほぼ円形の棒で両端に調整部。裏のつまみ部は可能性もある	
256	石製土器	礎土	文物品	11.8	2.2	1.8	158	黒色頁岩	分銅状。断面は自然断面。欠損部が大半の厚作りはあり	
257	打製石片	礎土	文物品	12.9	2.7	1.7	147	黒粘り砂岩	短冊状。断面は平ら。薄手の作りで調整部がある	
258	打製石片	礎土	文物品	(8.2)	0.4	2.1	(111)	黒色頁岩	短冊状。厚手の作りで調整部が自然に下。調整部欠損	
259	打製石片	礎土	文物品	(6.1)	4.6	1.4	(53)	黒粘り砂岩	短冊状。厚手の作り。断面は自然。調整部欠損	
260	磨製石片	礎土	文物品	9.1	3.7	2.5	156	軟粘岩	定角式。中央部分から断面に厚みがある。調整部欠損	
261	磨製石片	礎土	文物品	(10.7)	4.0	2.8	(224)	軟粘岩	定角式。断面が細く厚作り。調整部欠損	
262	磨製石片	礎土	文物品	(11.0)	4.2	3.7	(216)	軟粘岩	定角式。断面が細く厚作り。調整部欠損	
263	磨製石片	礎土	文物品	(9.7)	4.4	2.4	(172)	軟粘岩	定角式が細く丸み。断面断面に丸み。調整部欠損	
264	磨製石片	礎土	文物品	(4.6)	3.5	1.3	(41)	軟粘岩	定角式の断面。やや厚手の作り	
265	磨製石片	礎土	文物品	(3.2)	(3.0)	(1.9)	(28)	軟粘岩	断面の断面	
266	磨製石片	礎土	文物品	14.8	11.3	5.9	994	黒色頁岩	断面が細く厚作り。調整部欠損	
267	磨製石片	礎土	文物品	13.7	10.0	5.6	1,156	黒粘り砂岩	やや扁平な小断面。調整部欠損	
268	磨製石片	礎土	文物品	9.9	8.8	3.4	292	黒粘り砂岩	小断面の断面。調整部欠損	
269	磨製石片	礎土	文物品	10.9	10.2	4.5	659	チャート	扁平な調整部。調整部欠損	
270	磨製石片	礎土	文物品	10.3	8.7	5.3	689	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
271	磨製石片	礎土	文物品	11.3	6.6	4.1	488	黒粘り砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
272	磨製石片	礎土	文物品	11.8	7.1	4.5	626	石灰質砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
273	磨製石片	礎土	文物品	7.7	6.6	4.9	329	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
274	磨製石片	礎土	文物品	33.2	10.9	5.3	1,175	黒粘り砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
275	磨製石片	礎土	文物品	11.0	9.1	5.2	827	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
276	磨製石片	礎土	文物品	11.6	9.8	3.2	544	石灰質砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
277	磨製石片	礎土	ははけ形状	11.7	8.5	4.5	294	石灰質砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
278	磨製石片	礎土	文物品	11.5	10.2	6.8	1,221	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
279	磨製石片	礎土	文物品	(13.6)	9.5	3.0	(553)	黒粘り砂岩	小断面の調整部。調整部欠損	
280	磨製石片	礎土	文物品	11.0	6.9	5.2	582	黒粘り砂岩	長方形の調整部。調整部欠損	
281	磨製石片	礎土	ははけ形状	12.8	9.5	3.7	727	黒粘り砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
282	小断面石片	礎土	文物品	14.2	8.4	3.0	422	黒粘り砂岩	長方形の調整部。調整部欠損	
283	磨製石片	礎土	ははけ形状	12.0	6.5	3.3	509	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
284	磨製石片	礎土	文物品	9.5	5.9	2.5	199	黒粘り砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
285	磨製石片	礎土	文物品	7.5	4.8	2.0	119	石灰質砂岩	小断面の調整部。調整部欠損	
286	磨製石片	礎土	文物品	12.8	8.4	3.4	503	黒粘り砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
287	磨製石片	礎土	文物品	7.6	8.0	5.7	424	黒粘り砂岩	調整部欠損	
288	磨製石片	礎土	文物品	11.5	8.5	4.8	602	黒粘り砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
289	磨製石片	礎土	文物品	15.5	9.7	8.0	1,874	黒粘り砂岩	比較的平たい調整部。調整部欠損	
290	磨製石片	礎土	文物品	9.8	7.6	4.3	568	石灰質砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
291	磨製石片	礎土	文物品	9.8	3.0	4.4	239	黒粘り砂岩	小断面の調整部。調整部欠損	
292	磨製石片	礎土	文物品	9.7	4.9	3.5	319	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
293	磨製石片	礎土	文物品	4.4	2.7	1.4	79	黒粘り砂岩	小断面の調整部。調整部欠損	
294	磨製石片	礎土	文物品	10.4	10.1	5.1	1,093	黒粘り砂岩	調整部欠損	
295	磨製石片	礎土	文物品	8.7	7.9	5.1	495	黒粘り砂岩	調整部欠損	
296	磨製石片	礎土	文物品	10.3	6.7	3.0	236	黒粘り砂岩	調整部欠損	
297	磨製石片	礎土	文物品	8.4	6.8	3.6	226	黒粘り砂岩	調整部欠損	
298	磨製石片	礎土	ははけ形状	12.5	7.7	4.2	417	石灰質砂岩	扁平な調整部。調整部欠損	
299	磨製石片	礎土	文物品	10.3	6.9	4.1	434	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
300	磨製石片	礎土	文物品	13.6	12.4	9.5	2,100	黒粘り砂岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
301	磨製石片	礎土	文物品	8.6	8.1	6.3	532	黒粘り砂岩	調整部欠損	
302	磨製石片	礎土	ははけ形状	7.7	5.3	4.1	243	黒粘り砂岩	調整部欠損	
303	磨製石片	礎土	文物品	6.8	6.2	5.3	333	黒粘り砂岩	調整部欠損	
304	磨製石片	礎土	ははけ形状	10.9	(7.0)	(6.4)	(587)	黒粘り砂岩	調整部欠損	
305	磨製石片	礎土	文物品	9.7	5.2	3.8	129	黒粘り砂岩	調整部欠損	
306	磨製石片	礎土	文物品	15.1	8.6	5.4	894	安山岩	やや扁平な調整部。調整部欠損	
307	磨製石片	礎土	文物品	30.6	8.9	3.7	1,197	黒粘り砂岩	調整部欠損	
308	磨製石片	礎土	文物品	16.8	8.2	4.5	1,003	黒粘り砂岩	調整部欠損	
309	磨製石片	礎土	文物品	12.1	6.4	3.8	442	黒粘り砂岩	調整部欠損	
310	磨製石片	礎土	文物品	14.1	7.3	2.4	316	黒粘り砂岩	調整部欠損	
311	磨製石片	礎土	文物品	13.6	6.3	3.7	503	石灰質砂岩	調整部欠損	
312	磨製石片	礎土	文物品	10.9	7.0	2.7	309	黒粘り砂岩	調整部欠損	
313	磨製石片	礎土	文物品	13.1	7.5	4.7	624	黒粘り砂岩	調整部欠損	
314	磨製石片	礎土	ははけ形状	10.3	7.8	3.0	289	黒粘り砂岩	調整部欠損	
315	磨製石片	礎土	文物品	6.5	5.0	4.9	165	黒粘り砂岩	調整部欠損	
316	磨製石片	礎土	文物品	19.1	8.3	2.3	1,023	黒粘り砂岩	調整部欠損	
317	磨製石片	礎土	文物品	10.9	6.9	2.7	322	安山岩	調整部欠損	
318	磨製石片	礎土	文物品	19.3	7.7	3.9	627	黒粘り砂岩	調整部欠損	
319	磨製石片	礎土	文物品	11.8	13.8	3.0	809	黒粘り砂岩	調整部欠損	
320	磨製石片	礎土	ははけ形状	19.2	5.6	4.8	272	黒粘り砂岩	調整部欠損	
321	石礎	礎土	文物品	(10.1)	(2.0)	3.9	(680)	黒粘り砂岩	調整部欠損	
322	石礎	礎土	文物品	9.5	5.3	6.7	466	黒粘り砂岩	調整部欠損	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-124号住居跡 (第292-300段: PL173-176)

遺物%	部 類	出土位置	残 存	計数量	3ヶ所平均値 (n=3)	重量 (g)	石 材	特 徴	備 考	
325	石核	埋土	欠損品	(15.2)	(11.3)	(7.5)	緑色片岩	両端部および側面部に破断面を持つ大型片、破断面は荒らせず	検出なし	
234	石核	埋土	欠損品	(14.0)	(9.2)	(7.9)	黒色頁岩	両端部が欠けた大型片	検出なし	
322	斬石	埋土	欠損品	6.4	4.9	3.4	30.5	輝石	断端を呈す輝石の上面に欠けた凹み凹痕を呈す	
326	多孔石	埋土	欠損品	22.4	18.1	14.1	4,500	輝石輝石火山岩	自然孔や磨孔、三角の凹みに輝石の凹みを含む	
327	多孔石	埋土	欠損品	23.1	19.1	14.3	5,500	輝石輝石火山岩	不定型な縁の高まった表面に厚1-2mmの凹みを20ヶ所穿穿す	
328	多孔石	埋土	欠損品	29.4	23.6	18.0	12.4kg	輝石輝石火山岩	上部やや平らな自然磨孔の上面に複数の凹みを複数加工されている。	
329	多孔石	埋土	欠損品	46.4	34.2	26.5	43.5kg	輝石輝石火山岩	上部やや平らな大型自然磨孔跡、厚3-4mmの凹みが複数数えられる	

5-125号住居跡 (第305-307段: PL177)

39	石核	埋土	欠損品	1.6	1.3	0.2	0.4	チャート	凹無磨孔、折り深く片端は平ら、小型で作りは丁寧	
39	石核	埋土	ほぼ完形	1.9	1.3	0.4	0.5	黒曜石	凹無磨孔、折り深く凹み、小型片で片端中央が鋭角に欠損	
40	石核	埋土	ほぼ完形	1.6	1.3	0.4	0.8	黒曜石	凹無磨孔、全体に作りは拙い	
41	石核	埋土	欠損品	(2.2)	1.8	0.3	(1.1)	黒色火山岩	凹無磨孔、折り深く、先端部を僅かに欠く	
42	石核	埋土	ほぼ完形	2.0	(1.6)	0.3	(0.3)	黒曜石	平無磨孔、片端に大きく凹無磨孔し平らである	
43	石核	埋土	欠損品	(1.0)	1.5	0.2	(0.4)	黒曜石	凹無磨孔、先端部を欠く	
44	石核	埋土	欠損品	(2.2)	(0.9)	0.3	(0.4)	黒曜石	凹無磨孔、折り深く側縁がやや凹みを有するいわゆる磨孔、片側欠く	
45	石核	埋土	欠損品	(1.6)	(1.6)	0.7	(1.9)	チャート	丁状を呈しつまみ部分は磨孔、磨面は欠損	
46	石製石片	埋土	欠損品	11.8	3.3	1.7	121	黒色頁岩	磨孔や凹みは縁に欠ける。刃先は凹み、やや平らな縁	
47	石製石片	埋土	未製品	22.4	7.4	2.8	229	黒色火山岩	両端部に折りをもつ片側縁が鈍い。凹みは凹み	
48	スレバー	埋土	欠損品	4.9	8.2	0.7	29	黒色頁岩	三角を呈す。下辺部が平らで上縁が鋭い	
49	磨石	埋土	ほぼ完形	9.6	9.6	7.5	1,106	輝石輝石火山岩	磨石のやや大きな縁、若干の凹み縁が見られる	
50	磨石	埋土	欠損品	9.4	7.8	3.1	379	輝石輝石火山岩	扁平な凹縁、表面の平らな面を使用面とする	
51	磨石	埋土	欠損品	13.3	8.5	2.7	296	輝石輝石火山岩	扁平な小形の磨石、凹縁を使用、使用面は平滑	
52	磨石	埋土	欠損品	(16.0)	(7.0)	4.3	(472)	輝石輝石火山岩	やや扁平な磨石、使用面は極めて平滑である	
53	磨石	埋土	欠損品	(4.0)	(2.5)	(4.4)	(173)	輝石輝石火山岩	磨石面片	
54	磨石	埋土	欠損品	23.5	12.1	9.9	4,600	火山岩	磨石の大型自然磨石、使用面見られず、表面に数分厚な赤褐色皮	
55	磨石	埋土	欠損品	26.6	11.1	8.2	3,480	輝石輝石火山岩	大型の縁状磨石、比較的平らな2面を作業面とする	
56	磨石	埋土	欠損品	25.4	9.2	5.9	2,450	輝石輝石火山岩	大型の縁状磨石、比較的平らな2面を作業面とする、右石として利用か	

5-126号住居跡 (第309段: PL179)

14	石核	埋土	欠損品	1.5	(1.1)	0.3	(0.3)	黒曜石	凹無磨孔、小型片	
15	石製石片	埋土	欠損品	30.1	5.8	1.8	134	輝石輝石火山岩	いわゆる磨石ではあるが、磨面が小さく、折りをもつ片側縁である	
16	磨石	埋土	ほぼ完形	(7.6)	(4.0)	(2.2)	(128)	黒曜石	磨石、扁平で平らである、縁縁、基部部に鋭角に欠損	
17	磨石	埋土	欠損品	(8.7)	9.2	3.0	(366)	輝石輝石火山岩	扁平な片側縁、一部を欠損、両面平らで使用面としている	
18	磨石	埋土	欠損品	(9.7)	(4.3)	2.1	(104)	輝石輝石火山岩	小形の磨石、半分を欠く、両面平らで使用面とする	
19	磨石	埋土	欠損品	(7.0)	2.8	(2.6)	(90)	黒曜石	縁状磨石、半分を欠く表面、両面に鋭角に欠損	

5-131号住居跡 (第321段: PL179)

30	凹石	埋土	欠損品	12.6	8.3	4.0	471	輝石輝石火山岩	半月形の自然磨石を利、両面に凹み凹痕を有し、両面に打痕	
31	磨石	埋土	欠損品	(6.2)	6.3	2.0	(117)	輝石輝石火山岩	扁平な凹石を利	

5-132号住居跡 (第324段: PL180)

25	石核	埋土	欠損品	2.2	0.6	0.4	0.6	黒曜石	縁状磨石、基部が僅かに鋭くなっている、基部磨孔	
26	スレバー	埋土	ほぼ完形	2.1	0.9	0.4	0.7	黒曜石	やや扁平な縁状を呈す、両側に凹み凹痕	
27	スレバー	埋土	欠損品	5.5	4.5	0.9	23	黒色頁岩	平片形の磨石、縁部に凹み凹痕	

5-133号住居跡 (第326段: PL180)

29	石核	埋土	欠損品	5.9	2.8	2.1	35.1	黒曜石	全体に凹みをもつ石核で、ほぼ全部が平らな自然磨	
29	磨石	埋土	欠損品	5.4	4.4	2.9	96	輝石輝石火山岩	磨石の小形、両面はやや平ら	

5-134号住居跡 (第329-331段: PL181)

16	石核	埋土	欠損品	(1.0)	1.4	0.3	(0.6)	黒曜石	凹無磨孔、先端部は片端を欠く	
17	スレバー	埋土	欠損品	2.3	4.6	1.0	13	黒色頁岩	角形を呈し一側縁に両面利による刃部を有す	
18	磨石	埋土	欠損品	30.3	11.0	1.5	203	輝石輝石火山岩	大型の磨石から取った扁平大型磨石、片端は片側面に使用面	
19	磨石	埋土	ほぼ完形	(14.3)	6.3	(3.5)	(601)	黒曜石	大型の定形式、真鍮が磨かれている、刃部を欠く磨石として利用	
20	磨石	埋土	欠損品	12.6	9.0	7.0	1,070	輝石輝石火山岩	やや大型の磨石を呈す、片端平らで使用面とする	
21	磨石	埋土	欠損品	8.8	8.7	6.4	877	輝石輝石火山岩	磨石の片縁、両面に使用面	
22	磨石	埋土	欠損品	15.6	6.8	5.5	946	輝石輝石火山岩	縁状磨石を利、両面に凹みによる小の凹痕の打痕見られる	
23	磨石	埋土	欠損品	(13.4)	(9.8)	(2.9)	(827)	輝石輝石火山岩	扁平な大型磨石、片縁に磨孔を欠く、片側縁を欠く	
24	凹石	埋土	欠損品	19.0	17.5	4.1	2,490	輝石輝石火山岩	扁平な凹石、両面平らで使用面として利用か	
25	凹石	埋土	欠損品	17.1	16.1	5.7	2,620	輝石輝石火山岩	扁平やや不定型な磨石を利、両面平らで使用面	
26	凹石	埋土	欠損品	(36.2)	(28.3)	3.0	(33k)	輝石輝石火山岩	磨石の大型磨石、使用面は平らで平ら	
27	石核	埋土	欠損品	14.5	5.4	1.5	231	緑色片岩	鋭い扁平磨石、表面、縁縁やや磨孔	
28	斬石	埋土	欠損品	5.5	5.0	1.1	16	輝石	凹みをもつ縁状の磨石、上部に厚6mm程度の凹み凹痕が認められる	

5-137号住居跡 (第337段: PL182)

9	石製石片	埋土	欠損品	(2.2)	(4.0)	(9.9)	(14)	輝石輝石火山岩	長尺打製石の細磨石片	
---	------	----	-----	-------	-------	-------	------	---------	------------	--

5-138号住居跡 (第339段: PL182)

8	石核	埋土	欠損品	(1.0)	(1.2)	0.2	(0.4)	黒曜石	先端部、両縁は直線的に作り出された丁寧	
---	----	----	-----	-------	-------	-----	-------	-----	---------------------	--

第3章 検出された遺構と遺物

5-141号住居跡 (第345図：PL183)

遺物%	種 類	出土位置	残 存	計測値	長さ×幅×高さ(m)	重量(g)	材 質	特 徴	備 考
9	石鏝	礎土	欠損品	(3.1)	1.8	0.3	(1.2)	黒曜石	四角無蓋、基部の両側縁がやや内傾を有す。片縁を欠く
16	打製石斧	礎土	完形	11.8	4.7	1.8	121	黒色頁岩	楕形、基部、刃部縁鋭直線

5-144号住居跡 (第352図：PL183)

55	磨石	礎土	完形	4.4	3.3	1.4	26	黒色頁岩	方形で、片縁が肥厚。縁部には側縁により方形作出
56	スレンドー	礎土	完形	5.8	3.8	1.3	24	黒色頁岩	制作の1辺に刃部を作出
57	磨石	P92	完形	12.8	9.8	3.8	618	安山岩	扁平な楕円状磨石。側縁の一部に打痕。熟熱によるものか浮腫れあり
58	磨石	礎土	ほぼ完形	14.0	4.4	3.3	378	粗粒輝石安山岩	楕形・磨石を利用。両面両面に打痕による側縁あり
59	磨石	P92	完形	6.2	4.6	3.0	115	粗粒輝石安山岩	やや扁平で楕形の小平磨石
60	磨石	P92	完形	9.4	7.8	4.7	425	粗粒輝石安山岩	おむすび形を呈し、やや突った部分に打痕見られる
61	磨石	P92	完形	9.0	8.0	3.4	379	粗粒輝石安山岩	扁平な小型磨石。側縁の一部に打痕見られる
62	打石	礎土	完形	25.0	18.1	5.4	2,650	粗粒輝石安山岩	やや不定形の扁平磨石を利用。使用面は平らで平滑。縁部部に側縁

5-145号住居跡 (第354図：PL183)

10	磨石	礎土	完形	4.8	4.2	3.8	72	粗粒輝石安山岩	小平磨。全体に表面が粗い
11	磨石	P91	完形	5.0	4.9	3.8	136	粗粒輝石安山岩	小平磨

6-10号住居跡 (第357・358図：PL186)

35	打製石斧	床面	欠損品	5.9	4.6	(1.0)	(25)	粗粒輝石安山岩	打製石斧の側面片か、次を受けている
36	打製石斧	床面	欠損品	(9.3)	7.7	4.0	(301)	黒色頁岩	厚手の分厚削。残りは浅く刃部を欠く
37	磨石	礎土	ほぼ完形	10.8	9.0	5.8	880	粗粒輝石安山岩	両面に1側縁部。凹み穴付。使用面平滑。一端を打痕する
38	多孔石	礎土	完形	21.1	22.0	13.6	6,100	粗粒輝石安山岩	両面に1側縁のやや不揃いな凹み穴を有す

6-15号住居跡 (第360図：PL186)

7	打製石斧	礎土	完形	15.2	6.4	1.7	254	粗粒輝石安山岩	楕形。片面に自然剥痕。両側縁端正に方形し調整。刃部縁鋭直線
---	------	----	----	------	-----	-----	-----	---------	-------------------------------

6-16号住居跡 (第365～367図：PL183)

32	石鏝	礎土	欠損品	(2.3)	(1.5)	0.3	(9.7)	黒曜石	薄手の四角無蓋。両面を粗かに欠いている
33	石鏝	礎土	完形	1.7	0.9	0.5	0.5	黒曜石	片面に先端部から縁部がある。右側欠損品の可能性有
24	石鏝	欠損品	(1.7)	(1.0)	0.3	(9.7)	黒曜石	四角無蓋。左側の尖角を欠く。先端部欠損	
35	磨石	礎土	完形	2.0	1.4	1.6	1.2	黒曜石	片面に右側縁部に側縁調整
36	二次加工片	礎土	完形	3.3	1.9	0.8	4.3	チャート	下縁部に刃部を作出
37	打製石斧	礎土	ほぼ完形	9.3	5.7	1.4	63	黒色頁岩	楕形で刃部は刃角で薄く作られ、大きく開く
38	打製石斧	礎土	完形	14.4	3.6	1.9	171	粗粒輝石安山岩	楕形。中央部と上段に鋭い縁角を有す。作りはやや平削
39	打製石斧	礎土	完形	10.9	4.4	1.4	91	チャート	中央で細部の後部。側縁部が分厚くされ、刃部が鋭く呈しなせる
40	スレンドー	床面	完形	7.9	4.3	1.1	31	黒色頁岩	楕形の側片を利用。片側縁に粗く打痕。次を受けている
41	スレンドー	礎土	完形	4.6	3.5	1.2	16	黒色頁岩	小形で楕形を呈す。刃部は風状
42	スレンドー	礎土	完形	6.5	4.9	1.4	49	黒色安山岩	刃角が、刃部は側縁部の欠損が顕著
43	磨石	礎土	完形	11.9	4.4	4.3	469	粗粒輝石安山岩	楕形・磨石による凹み穴。両面に自然剥痕。熟熱によるヒゲ割れ
44	磨石	礎土	ほぼ完形	9.4	7.6	5.5	630	粗粒輝石安山岩	やや扁平で楕形の小平磨。一端を欠損
45	磨石	礎土	完形	4.2	3.8	3.3	66	粗粒輝石安山岩	小形の円磨。ほぼ全面に使用痕。熟熱
46	磨石	礎土	ほぼ完形	(10.9)	9.8	5.5	(630)	粗粒輝石安山岩	やや扁平で楕形の小平磨。両面使用痕とし極めて平滑。一端を欠く
47	磨石	礎土	完形	8.7	7.4	5.6	507	粗粒輝石安山岩	円磨状。両面やや平削で、部分に厚み有
48	石鏝	礎土	部品	(9.0)	6.0	—	(205)	緑色頁岩	右側の縁部が厚みである。キツ後の部分より作り出した中部品
49	打石	礎土	欠損品	37.5	30.0	11.4	21,5kg	粗粒輝石安山岩	大型の円磨。使用面平滑で大人数用の凹み穴が見られる
50	多孔石	礎土	完形	16.5	18.8	11.5	4,550	粗粒輝石安山岩	両面。側面に多数の凹み穴を有す。穴の断面は円磨形を呈す
51	多孔石	礎土	完形	30.1	47.2	20.3	31,0kg	粗粒輝石安山岩	両面。側面に多数の凹み穴を有す。穴の断面は円磨形を呈す

6-17号住居跡 (第369図：PL186)

7	打製石斧	礎土	完形	11.5	4.5	2.1	124	黒色頁岩	やや楕形の楕形。体部に厚みを持ち刃部はやや直削。磨削している
8	打製石斧	礎土	欠損品	(6.1)	3.8	0.8	(24)	黒色頁岩	薄手の楕形か。刃部を欠く

5-11号井 (第370図：PL189)

2	石鏝	礎土	欠損品	(1.4)	2.0	0.5	(1.5)	黒曜石	平無蓋基盤の基部部分。端部は直ぐ仕上げられ、欠損部は深い
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	-----	------------------------------

5-444号配石 (第378図：PL189)

19	石鏝	礎土	完形	2.1	0.7	0.3	0.5	黒曜石	両端が尖る小型の薄状鏝
20	磨製石斧	礎土	欠損品	(7.3)	4.5	2.3	(134)	硬頁岩	定角状。刃部を欠く

4-89号土坑 (第423図：PL190)

2	打製石斧	礎土	欠損品	(5.9)	5.7	1.2	(53)	粗粒輝石安山岩	短冊形か。薄手の作り。刃部を欠く
3	スレンドー	礎土	欠損品	7.2	(2.1)	1.4	(30)	黒色頁岩	半月状を呈し片面に自然剥痕。側縁は粗い。打製石斧の対面片か
4	スレンドー	礎土	完形	6.6	4.1	1.7	48	黒色頁岩	本の断面を呈す削削で、側縁は明く側縁は特定できず

4-97号土坑 (第423図：PL190)

1	磨石	礎土	欠損品	(9.7)	7.5	4.3	(431)	粗粒輝石安山岩	やや扁平な円磨を利用。両面使用し使用面は極めて平滑。熟熱あり
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	---------	--------------------------------

4-105号土坑 (第423図：PL190)

2	磨石	礎土	完形	13.6	7.9	4.0	576	粗粒輝石安山岩	小平磨を呈す。両面使用。浅い凹み穴を有す。熟熱あり
---	----	----	----	------	-----	-----	-----	---------	---------------------------

5-813号土坑 (第427図：PL191)

9	スレンドー	礎土	ほぼ完形	5.8	4.1	1.0	23	黒色頁岩	不定形で、片面に自然剥痕。刃部は一定方向に欠かれる
---	-------	----	------	-----	-----	-----	----	------	---------------------------

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-814号土坑 (第427回: PL191)

遺物%	部 類	出土位置	残 存	計測値 長さ×幅×厚(mm)	重(g)	材 質	特 徴	備 考	
2	石鏃	埋土	欠損品	2.1 (1.5)	0.2	10,80	黒曜石	凹形基部、縁りは浅く片側の一部を欠く	
3	スチレノール	埋土	完形	5.3 4.4 1.5	79	黒色火山岩	縁りなし、基部は厚く刃部はやや高段を呈す		

5-816号土坑 (第427回: PL191)

5	打製石片	埋土	完形	8.5 4.1 1.8	71	黒色頁岩	縁りの小型品である。刃部磨光	
6	打製石片	埋土	欠損品	16.7 4.7 1.7	(77)	細粒輝石火山岩	基部付、片面に大きく自然面を残す	
7	磨石	埋土	完形	6.3 6.1 4.6	261	粗粒輝石火山岩	内縁利用、両面磨り面	

5-825号土坑 (第428回: PL191)

4	石鏃	埋土	完形	1.5 1.3 0.2	0.4	黒曜石	小型凹形基部、縁りやや深く作りは丁寧	
---	----	----	----	-------------	-----	-----	--------------------	--

5-826号土坑 (第428回: PL191)

5	石鏃	埋土	欠損品	0.6 1.4 0.4 (1.2)		碧玉	凹形基部か、極めて鋭い刺刺調整、片側を欠く	
---	----	----	-----	-------------------	--	----	-----------------------	--

5-828号土坑 (第429回: PL192)

12	石鏃	埋土	欠損品	0.3 (1.8) 0.3 (1.1)		黒曜石	凹形基部、作りは丁寧、先端部を欠く	
13	打製石片	埋土	欠損品	6.7 4.7 2.4	(151)	粗粒輝石火山岩	鋭い作り、刃部を欠く	
14	磨石	埋土	完形	7.9 6.2 4.1	303	粗粒輝石火山岩	やや扁平な形状の鏃、両面使用面	

5-829号土坑 (第429回: PL192)

5	石鏃	埋土	完形	1.9 1.4 0.2	0.3	黒曜石	凹形基部、やや小型で、鏃、先端部が縁身の作り	
6	打製石片	埋土	完形	11.3 5.4 2.2	204	黒色火山岩	短形片、刃付	
7	磨製石片	埋土	欠損品	0.4 3.5 (1.4)	(56)	板状岩	定角式の基部片	

5-830号土坑 (第430回: PL192)

4	打製石片	埋土	完形	6.4 3.7 1.4	16	粗板岩	細片	
---	------	----	----	-------------	----	-----	----	--

5-831号土坑 (第430回: PL192)

6	打製石片	埋土	欠損品	(14.5) 5.7 1.8	(169)	細粒輝石火山岩	縁り、やや扁平な鏃を利用、表面に自然面を残す、刃の一部を欠く	
7	磨製石片	埋土	欠損品	(11.8) 6.6 4.0	(527)	板状岩	やや大型の定角式か、断面形状により極めて鋭く見られる。刃部欠く	

5-833号土坑 (第432回: PL193)

21	石鏃	埋土	ほぼ完形	2.6 1.4 0.2	0.4	黒曜石	凹形基部、縁りはやや浅い、縁身の作り、先端を僅かに欠く	
22	石鏃	埋土	完形	2.1 0.6 0.3	0.4	黒曜石	縁部等の形状で刃りを持つ。細鏃、先端部を鋭く調整、先端部磨光	
23	打製石片	埋土	欠損品	0.4 4.7 1.3 (106)		細粒輝石火山岩	短形片、縁りや両面に自然面、刃部の磨削調整	
24	打製石片	埋土	欠損品	0.4 4.5 1.5 (85)		細粒輝石火山岩	短形片、刃部を欠く	
25	打製石片	埋土	欠損品	0.8 5.3 1.9 (107)		細粒輝石火山岩	短形片、刃部の磨削調整	
26	スチレノール	埋土	完形	8.6 4.6 1.4	40	細粒輝石火山岩	鋭い作り	
27	磨石	埋土	完形	12.3 9.5 4.5	732	火山岩	やや扁平な円錐、両面使用または使い分けが見られる	
28	磨石製品	埋土	欠損品	0.2 (0.7) 0.8 (0.4)		輝石	凹みを有し、一部つまみ状に高まり穿孔痕と見られる溝状の痕跡あり	

5-834号土坑 (第433回: PL193)

9	石鏃	埋土	欠損品	0.8 (0.6) 0.4 (1.0)		黒曜石	調整調整がやや大きい、先端部片	
10	石鏃	埋土	欠損品	0.2 (0.2) 0.5 (1.3)		黒曜石	凹形基部であるが、縁りはごく僅かである。先端部分を欠く	
11	打製石片	埋土	欠損品	0.1 4.6 1.6	(105)	細粒輝石火山岩	縁り、刃部を欠く	

5-840号土坑 (第434回: PL194)

17	打製石片	埋土	欠損品	0.3 3.1 1.4	(97)	細粒輝石火山岩	縁りや両面に自然面、刃部を欠く	
18	磨石	埋土	完形	4.8 3.3 3.5	76	粗粒輝石火山岩	縁りの小円錐	

5-842号土坑 (第434回: PL194)

10	石鏃	埋土	完形	1.4 1.0 0.2	0.3	黒曜石	さびめて小型の凹形基部鏃	
----	----	----	----	-------------	-----	-----	--------------	--

5-847号土坑 (第435回: PL194)

8	スチレノール	埋土	完形	2.8 2.3 1.0 5.6		黒曜石	鋭く刃部を作出、厚みがあり全周に鋭い作り	
---	--------	----	----	-----------------	--	-----	----------------------	--

5-848号土坑 (第436回: PL194)

6	打製石片	埋土	欠損品	0.7 5.0 1.9	(85)	黒色火山岩	刃部付、縁りあり	
7	磨石製品	埋土	欠損品	0.4 (0.1) 1.8 (1.3)		輝石	発色度の高い輝石、端に近い部分に凹孔を有す	

5-850号土坑 (第436回: PL194)

5	打製石片	埋土	欠損品	0.8 4.6 1.7	(66)	黒色頁岩	基部片	
---	------	----	-----	-------------	------	------	-----	--

5-851号土坑 (第436回: PL194)

4	石鏃	埋土	欠損品	0.0 (0.3) 0.5 (0.4)		黒曜石	凹形基部、やや小型で比較的薄手の作り、先端部および片側を欠く	
---	----	----	-----	---------------------	--	-----	--------------------------------	--

5-852号土坑 (第437回: PL194)

6	打製石片	埋土	完形	11.7 6.8 1.8	126	細粒輝石火山岩	縁りだが刃部が鋭角に作られている。縁りで鋭い作り	
7	打製石片	埋土	欠損品	0.8 5.0 1.9	(84)	細粒輝石火山岩	基部付	
8	打製石片	埋土	ほぼ完形	16.8 3.6 1.2	48	黒色頁岩	縁身で鋭い作り、刃部も鋭く調整されている	

第3章 検出された遺構と遺物

5-854号土坑 (第437回: PL195)

遺物No.	種類	出土位置	残存	非線画長3-幅厚5 (cm)	重(g)	石	材	物	備
8	石鏃	層土	ほぼ完全形	1.6	1.0	0.3	0.3	黒曜石	小型の凹基無縁鏃、片側の縁が湾みに強い
9	打製石片	層土	完形	13.9	16.0	7.6	1.440	粗粒輝石火山岩	不定形でやや凹基無縁鏃、ほぼ全面に大小の凹みが見られる

5-856号土坑 (第437回: PL195)

4	石鏃	層土	欠損品	(0.4)	4.1	1.6	(107)	緑色片岩	扁平な棒状鏃、表面は平滑で両刃に打製あり、打製石片の基部から
---	----	----	-----	-------	-----	-----	-------	------	--------------------------------

5-859号土坑 (第438回: PL195)

18	石鏃	層土	欠損品	(1.0)	(1.3)	0.2	(0.5)	黒曜石	凹基無縁、先端部を欠く、両手の作り
19	打製石片	層土	ほぼ完全形	(0.2)	4.6	1.3	(70)	黒色火山岩	両縁がわずかに膨らみを生じ刃部状を呈す、スクレイパーか

5-862号土坑 (第438回: PL195)

9	打製石片	層土	欠損品	(1.0)	6.7	2.6	(287)	粗粒輝石火山岩	片側に自然崩れ、厚みがあり刃部先端は鋭くなる、基部を欠く
---	------	----	-----	-------	-----	-----	-------	---------	------------------------------

5-865号土坑 (第439回: PL196)

7	石鏃	層土	欠損品	2.1	(1.0)	0.3	(0.3)	黒曜石	凹基無縁、三角の鋭りを持つと思われる、片鏃を欠き、先端部縁面に欠く
---	----	----	-----	-----	-------	-----	-------	-----	-----------------------------------

5-867号土坑 (第440回: PL196)

6	石鏃	層土	欠損品	(1.8)	(2.0)	0.9	(2.6)	黒曜石	両端を欠く、断面が扇形で両縁が刃部状を呈す、スクレイパーか
7	磨石	層土	完形	8.7	7.4	3.4	297	安山岩	扁平な円盤、片側やや膨らみがある、使用面平滑
8	磨石	層土	完形	6.1	3.0	2.5	86	粗粒輝石火山岩	扁平な小円盤、両面を使用

5-868号土坑 (第440回: PL196)

11	石鏃	層土	完形	1.9	0.6	0.3	0.5	黒曜石	小型棒状鏃、先端部やや膨らみ
12	打製石片	層土	欠損品	(4.4)	5.0	1.9	(35)	黒色頁岩	刃部片、厚縁顕著

5-871号土坑 (第441回: PL196)

6	磨石	層土	完形	6.4	5.1	2.1	101	粗粒輝石火山岩	扁平な小円盤、両面使用
---	----	----	----	-----	-----	-----	-----	---------	-------------

5-874号土坑 (第442回: PL197)

17	石鏃	層土	完形	2.2	6.5	0.3	0.5	黒曜石	棒状鏃、断面は縁線で先端部が湾みに欠陥が
18	石鏃	層土	完形	4.0	2.0	0.6	4.2	黒色頁岩	鋭く折れたつまみ部に基部の付く
19	磨石	層土	完形	6.6	6.6	4.5	296	粗粒輝石火山岩	小円盤、両面平滑

5-876号土坑 (第444回: PL197)

19	石鏃	層土	欠損品	1.5	(1.3)	0.3	(0.4)	黒曜石	比較的薄く作られた石鏃の先端部片か
20	二次加工品	層土	完形	3.8	2.9	1.1	9.2	黒曜石	不定形でやや凹基を持つ割片の弧状縁部部分に、簡単な刃部を作出
21	石鏃	層土	完形	4.5	2.2	2.7	37	黒曜石	一部に線画、断面は扇形
22	打製石片	層土	欠損品	(0.4)	4.3	2.0	(112)	粗粒輝石火山岩	扇形、一次割片利用、片側に自然崩れ、刃部欠く
23	スクレイパー	層土	完形	10.4	8.1	2.2	167	黒色火山岩	楕円形の割片、弧状の下辺部を刃として使用か
24	磨石	層土	欠損品	(12.1)	6.8	4.2	(516)	粗粒輝石火山岩	丸みを帯びた棒状、使用面はあまり見られない、断面面に赤色痕

5-877号土坑 (第444回: PL197)

7	磨製石片	層土	欠損品	(0.4)	3.4	2.9	(307)	凝灰岩	不定式、基部を欠損、刃部は使用による刃口は鈍
---	------	----	-----	-------	-----	-----	-------	-----	------------------------

5-878号土坑 (第445回: PL198)

11	打製石片	層土	欠損品	(5.4)	4.5	1.9	(63)	黒色頁岩	片側に縦紋に磨製した刃部片、厚縁顕著
12	打製石片	層土	完形	8.1	4.9	1.8	109	粗粒輝石火山岩	短い扇形、刃部は正がある

5-880号土坑 (第446回: PL198)

2	磨石	層土	完形	10.6	5.9	4.3	439	粗粒輝石火山岩	長円形、全面使用し平滑
3	磨石	層土	完形	12.8	6.5	4.8	664	粗粒輝石火山岩	長円形、両面および縁面に浅い刃痕による凹み複数あり、線画
4	磨石	層土	完形	19.2	7.2	4.0	496	粗粒輝石火山岩	扁平な長円形、両面平滑、線画

5-881号土坑 (第446回: PL198)

3	石鏃	層土	欠損品	(1.8)	(0.9)	0.2	(0.4)	黒曜石	凹基無縁、縁は鋭く作られる、片鏃を欠いている
---	----	----	-----	-------	-------	-----	-------	-----	------------------------

5-885号土坑 (第447回: PL198)

7	石鏃	層土	完形	1.7	1.2	0.5	1.1	黒曜石	凹基無縁、縁は鈍く厚みがある、
8	打製石片	層土	欠損品	(4.0)	2.3	0.9	(35.4)	黒色火山岩	打製石片の刃部片か

5-888号土坑 (第448回: PL199)

28	石鏃	層土	ほぼ完全形	1.8	1.5	0.3	0.6	黒色火山岩	凹基無縁、縁り大きい
29	打製石片	層土	欠損品	(0.4)	6.6	1.3	(106)	粗粒輝石火山岩	扇形の一次割片利用、両面に大きく自然崩れあり、刃部欠く

5-889号土坑 (第449回: PL199)

10	打製石片	層土	欠損品	(7.5)	(2.9)	1.4	(82)	粗粒輝石火山岩	棒状鏃、両面に自然崩れ残す基部片
----	------	----	-----	-------	-------	-----	------	---------	------------------

5-890号土坑 (第450回: PL200)

16	石鏃	層土	欠損品	(1.8)	(1.1)	0.3	(0.5)	黒曜石	凹基無縁、薄い割片素材に作られている、両端を欠く
17	打製石片	層土	欠損品	(3.2)	5.2	2.1	217	粗粒輝石火山岩	扇形、縁部あり、刃部を欠く

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-891号土坑 (第452回: PL200・201)

遺物No.	種類	出土位置	残存	計測値(長×幅×厚)(cm)	重量(g)	材質	特徴	備考	
28	石鏃	層土	欠損品	(1.3)	(1.7)	0.3	10.23	黒曜石	凹縁無蓋、縁は尖くない、半分を欠く
29	スライパー	層土	完形	1.5	1.2	0.4	1.6	黒曜石	小形品、凹縁に鋭角の刃部を作出
30	石鏃	層土	ほぼ完成形	2.3	1.2	0.5	1.2	黒曜石	平刃部を有す厚縁状、断面は短い、石鏃製品の可能性あり
31	打製石片	層土	完形	11.7	5.4	1.9	102	細粒輝石火山岩	断面、凹縁部に浅い切りあり、刃部欠く厚縁
32	打製石片	層土	完形	11.8	4.7	1.8	126	細粒輝石火山岩	断面、基部が鋭くなる、刃部は欠く厚縁
33	打製石片	層土	欠損品	(9.7)	5.0	1.4	(144)	一歩型	断面、片面に尖った自然面残す、刃部
34	凹石	層土	欠損品	(10.0)	7.2	(4.4)	(402)	粗粒輝石火山岩	長円形を利用、浅い凹み穴あり、3分の1ほどを欠く、焼熟
35	凹石	層土	完形	10.4	7.4	4.3	446	粗粒輝石火山岩	平円形の鏃を利用、凹部に凹み穴
36	凹石	層土	欠損品	(8.3)	7.9	4.0	(401)	粗粒輝石火山岩	凹部にやや浅い凹み穴を有す、一部欠損しており焼熟あり
37	磨石	層土	完形	8.3	2.7	3.4	331	粗粒輝石火山岩	やや扁平な円盤、両面に使用面、焼熟
38	磨石	層土	完形	13.4	4.4	3.5	331	粗粒輝石火山岩	長楕円状の鏃、断面に若干の打痕が見られる

5-899号土坑 (第453回: PL201)

11	打製石片	層土	完形	7.1	4.8	1.0	56	黒色頁岩	短い鏃形、基部部に自然面、刃部欠く厚縁
----	------	----	----	-----	-----	-----	----	------	---------------------

5-900号土坑 (第454・455回: PL202)

13	石鏃	層土	ほぼ完成形	1.7	1.3	0.4	0.9	黒色頁岩	平縁無蓋、刃は鋭く表面は風化
14	石鏃	層土	欠損品	2.2	1.4	0.5	1.4	黒曜石	凹縁無蓋など、大型の規格含まれる、片側部分を欠く
15	石鏃	層土	欠損品	1.6	(1.1)	0.3	(0.5)	黒曜石	凹縁無蓋、縁は鋭角で浅い、片側を欠く、全体に反りを物づく
16	打製石片	層土	完形	14.6	6.4	2.8	269	細粒輝石火山岩	断面、全体にやや反りを有す、刃部使用により厚縁
17	打製石片	層土	ほぼ完成形	11.2	6.0	1.6	114	細粒輝石火山岩	断面、扁平で刃部の一部を欠く
18	打製石片	層土	完形	10.7	5.4	1.5	90	細粒輝石火山岩	断面、扁平で刃部は直刃
19	打製石片	層土	欠損品	(7.3)	5.3	1.2	(48)	細粒輝石火山岩	断面、扁平で凹縁部に浅い切りを有す、刃部を欠く
20	打製石片	層土	欠損品	(5.7)	(4.0)	(3.3)	(23)	黒色頁岩	断面、自然面を有する
21	打製石片	層土	欠損品	(7.2)	5.4	1.8	(85)	細粒輝石火山岩	断面、板状の鏃を素材とする、両面に自然面を残す、基部片
22	打製石片	層土	欠損品	(3.1)	4.1	1.2	(16)	細粒輝石火山岩	打製石片の欠損品か
23	磨石	層土	完形	8.9	2.3	3.6	63	磨石	やや扁平な長円盤、両表面は磨面により成形か
24	磨石	層土	完形	4.7	4.4	3.5	92	粗粒輝石火山岩	小形の円盤、断面が扁平
25	磨石	層土	完形	9.2	8.3	4.9	553	粗粒輝石火山岩	やや扁平な円盤、両面使用し扁平、片面に打痕あり

5-902号土坑 (第456回: PL202)

16	磨石	層土	完形	10.9	7.3	5.3	638	粗粒輝石火山岩	長円形、全面に使用面
----	----	----	----	------	-----	-----	-----	---------	------------

5-903号土坑 (第456回: PL202)

2	石鏃	層土	欠損品	(19.7)	25.5	9.9	(8,900)	粗粒輝石火山岩	厚みがあり、両面使用しており、浅い切り、さらに凹み穴が見られる
---	----	----	-----	--------	------	-----	---------	---------	---------------------------------

5-906号土坑 (第457回: PL203)

19	石鏃	層土	欠損品	(1.1)	(0.9)	0.2	(0.2)	黒曜石	断面片か
20	磨石	層土	欠損品	(7.3)	5.7	4.3	(246)	粗粒輝石火山岩	特殊磨りか
21	磨石	層土	完形	4.5	4.3	4.0	169	安山岩	小円盤、表面に鉄分の沈着層あり

5-907号土坑 (第458回: PL203)

17	石鏃	層土	ほぼ完成形	(1.1)	(1.4)	0.3	(0.4)	黒曜石	凹縁無蓋と思われる、断面は大きく鋭く
18	石鏃	層土	欠損品	1.8	(1.2)	0.4	(0.6)	黒曜石	凹縁無蓋、片側を欠く
19	打製石片	層土	完形	10.3	4.1	1.4	72	細粒輝石火山岩	断面の短形鋭、刃部は凹刃で厚縁
20	打製石片	層土	欠損品	(10.0)	4.2	1.9	(164)	細粒輝石火山岩	断面、片面に自然面を残す、刃部を欠く
21	磨石	層土	完形	10.9	9.5	6.0	963	粗粒輝石火山岩	平円形の鏃で断面が扁平を利用

5-909号土坑 (第458・459回: PL203)

3	石鏃	層土	完形	10.5	9.7	5.0	896.5	黒曜石	大型の鏃、1面に自然面残り他は風化面
4	石鏃	層土	完形	9.3	4.4	4.5	194.3	黒曜石	1面に自然面、他の面も1面を削り、若干の風化が見られる、断面は直
5	打製石片	層土	完形	11.6	5.4	1.7	126	細粒輝石火山岩	短形鋭、刃部厚縁し丸みを帯び
6	打製石片	層土	完形	9.8	5.5	1.3	92	細粒輝石火山岩	断面、やや小皿で刃部の刃は扁平である

5-910号土坑 (第459回: PL203)

4	磨石	層土	完形	12.1	10.3	3.1	683	粗粒輝石火山岩	扁平な円盤、扁平な片面の使用面顯著
---	----	----	----	------	------	-----	-----	---------	-------------------

5-918号土坑 (第459回: PL204)

4	石鏃	層土	欠損品	(25.4)	24.2	9.7	(4,110)	粗粒輝石火山岩	やや扁平な鏃状で、基部部の凹みも中央で鋭くなる、焼熟
---	----	----	-----	--------	------	-----	---------	---------	----------------------------

5-919号土坑 (第459回: PL204)

2	打製石片	層土	欠損品	(6.1)	4.4	1.8	(51)	細粒輝石火山岩	片面に自然面残す基部部
---	------	----	-----	-------	-----	-----	------	---------	-------------

5-925号土坑 (第460回: PL204)

6	石鏃	層土	完形	2.3	1.5	0.2	0.4	黒曜石	凹縁無蓋、扁平でほぼ直刃有り
7	打製石片	層土	ほぼ完成形	(9.8)	4.6	1.6	(90)	細粒輝石火山岩	短形鋭、刃部の大きく自然面、刃部一部欠、やや鋭くなる

5-926号土坑 (第461回: PL204)

10	石鏃	層土	ほぼ完成形	(1.4)	(1.4)	0.3	(0.4)	黒曜石	凹縁無蓋、小形品で作りは丁寧
11	石鏃	層土	欠損品	(1.5)	(1.5)	0.3	(0.6)	黒曜石	凹縁無蓋、扁平でほぼ直刃を欠く
12	石鏃	層土	欠損品	(2.4)	(2.5)	0.5	(2.2)	黒色頁岩	1字形を呈す、断面が鋭くしており基部部分を欠く

5-932号土坑 (第462回: PL205)

8	スライパー	層土	完形	6.9	3.2	1.1	26	黒色頁岩	木の葉形の石片利用、板状の縁部部分に刃部を作出
---	-------	----	----	-----	-----	-----	----	------	-------------------------

第3章 検出された遺構と遺物

5-934号土坑 (第463回: PL205)											
遺物%	部 類	出土位置	残 存	計測値	長さ	幅	厚	重	材	特 徴	備 考
7	磨石	礫土	完形	11.8	9.7	4.8	799		粗粒輝石安山岩	やや扁平な円盤利用。両面使用。平面で僅かに打痕が見られる	
5-935号土坑 (第463・464回: PL205)											
9	石鏃	礫土	欠損品	(2.5)	(1.7)	9.3	(1.1)		黒曜石	凹底無茎。持ち大きく作られる。比較的厚手で片側および先端部を欠く	
5	打製石片	礫土	完形	12.8	4.0	1.0	73		粗粒輝石安山岩	縁が、極めて薄手で刃部も鋭く円刀となる	
10	打製石片	礫土	欠損品	(4.7)	5.0	1.8	(56)		黒色頁岩	打製石片の基部付近と思われる	
11	磨石	礫土	完形	4.5	4.1	3.7	92		石炭閃綠石	小円盤利用	
12	磨石	礫土	完形	11.9	5.8	4.3	460		粗粒輝石安山岩	扁平な輪状。両面に浅い打痕による凹みをも有す	
13	磨石	礫土	欠損品	(12.5)	5.8	3.2	(387)		粗粒輝石安山岩	扁平な長方形の輪状物。両面に使用痕。端部を欠く	
5-937号土坑 (第464回: PL206)											
5	石鏃	礫土	欠損品	(1.4)	2.0	0.2	(0.6)		黒曜石	凹底無茎。持ち部分大きく(脚も長い)。端手の作り、先端部分を欠く	
6	磨石	礫土	完形	13.0	6.9	3.6	545		粗粒輝石安山岩	扁平な長円盤。両面使用	
7	磨石	礫土	完形	5.3	4.9	2.0	74		粗粒輝石安山岩	小円盤形の鏃。両面使用	
5-940号土坑 (第464回: PL206)											
3	石鏃	礫土	欠損品	2.2	(1.0)	0.3	(0.7)		硬質珪石	凹底無茎。持ちが長く(脚)である。片側を欠く	
5-941号土坑 (第464回: PL206)											
5	磨石	礫土	完形	11.3	9.2	4.2	698		石炭閃綠石	扁平で不定形な自然鏃	
5-948号土坑 (第465回: PL206)											
4	磨石	礫土	完形	10.6	7.3	3.6	437		粗粒輝石安山岩	小判形の扁平鏃利用。両面使用により平滑	
5-949号土坑 (第466回: PL206)											
6	磨石	礫土	完形	11.4	4.5	3.3	265		粗粒輝石安山岩	棒状鏃。表面は平滑	
5-950号土坑 (第466回: PL206)											
7	磨石	礫土	欠損品	(7.4)	7.3	5.8	(54)		石炭閃綠石	棒状鏃の欠損品。欠き受け一部に保存物	
5-951号土坑 (第466回: PL207)											
7	磨石	礫土	欠損品	(7.5)	9.3	9.1	(733)		粗粒輝石安山岩	円盤利用。割れた後も編み直しとして利用が、磨耗	
5-952号土坑 (第467回: PL207)											
9	磨石	礫土	欠損品	(7.0)	6.3	4.4	(222)		粗粒輝石安山岩	鈍底三角の棒状鏃。平面を欠く	
5-954号土坑 (第467回: PL207)											
4	磨石	礫土	完形	9.7	6.8	4.7	470		粗粒輝石安山岩	やや扁平な長円盤。表面は平滑	
5	磨石	礫土	欠損品	(8.0)	6.4	3.3	(274)		粗粒輝石安山岩	扁平でやや不定形な鏃を利用。約半分を欠く	
5-956号土坑 (第467回: PL207)											
3	多孔石	礫土	完形	20.6	20.2	9.7	4,690		粗粒輝石安山岩	自然鏃利用。比較的平坦な表面に1箇所のみ凹みが見られる	
5-961号土坑 (第468回: PL208)											
15	打製石片	礫土	欠損品	(9.5)	5.3	1.6	(720)		粗粒輝石安山岩	1箇所。刃部を欠く。表面は黒化が見られる	
16	打製石片	礫土	欠損品	(16.0)	(7.1)	(2.8)	(246)		黒色頁岩	いわゆる縁形であるが刃部の形状は不定形。基部のみ	
5-962号土坑 (第469回: PL208)											
4	磨石	礫土	完形	8.9	4.4	4.2	337		粗粒輝石安山岩	1式製の長円盤。両面に僅かに打痕が見られる	
5-964号土坑 (第469回: PL208)											
11	小葉形磨石片	礫土	欠損品	(2.1)	1.7	9.5	(1.7)		軟頁岩	小葉形。刃部は弧状を見す。基部を欠損	
5-965号土坑 (第470回: PL208)											
13	打製石片	礫土	欠損品	(10.2)	6.3	2.2	(113)		黒輝石青透輝石 石炭頁岩	扇形であるが、扇状の作りで刃部を欠く	
5-966号土坑 (第470回: PL208)											
6	石鏃	礫土	欠損品	(1.5)	(1.3)	9.3	(0.6)		黒曜石	下半分を欠く。作りはやや粗い	
5-973号土坑 (第470回: PL209)											
1	磨石	礫土	完形	12.3	9.3	6.3	1,085		粗粒輝石安山岩	円盤利用。両面使用	
5-979号土坑 (第472回: PL209)											
21	磨製石片	礫土	完形	3.9	3.6	0.7	11.8		軟頁岩	1式製の定式。やや扁平で刃部は直線に見える	
22	磨石	礫土	完形	9.2	4.9	2.3	177		粗粒輝石安山岩	やや扁平な棒状鏃。使用痕はほとんど見えず。黒化が	
5-987号土坑 (第473回: PL210)											
4	打製石片	礫土	欠損品	(6.0)	(3.0)	(1.0)	(18)		黒色頁岩	1式製。上面部に痕が見られる。刃部は欠損	
5-1006号土坑 (第475回: PL211)											
3	磨石	礫土	欠損品	(2.4)	(2.7)	5.7	(714)		粗粒輝石安山岩	円盤形鏃利用。刃部および基部に打痕が見られる。一部欠損	
5-1023号土坑 (第477回: PL212)											
17	磨石	礫土	完形	10.8	16.4	5.3	2,720		粗粒輝石安山岩	大型の扁平鏃利用。両面に複数のやや浅い凹み穴が見られる	

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5-1052号土坑 (第480回: PL213)										
遺物%	部 類	出土位置	残 存	許容値 長さ×幅×厚さ(cm)	重(g)	石 材	特 徴	備 考	PLNo.	
5	磨石	表土	完形	21.8	8.8	7.3	2,340	粗粒輝石安山岩	やや大型の磨石。表面に使用痕が見られる。	PL214
6	磨石	表土	欠損品	19.5	6.9	3.5	1,610	チャート	長円磨石。片面に打痕。断面がぼけており磨き直しして利用か。	PL214
5-1058号土坑 (第480回: PL213)										
5	磨石	表土	欠損品	13.0	9.1	3.8	1670	粗粒輝石安山岩	扁平磨石。両面使用。1面に浅い打痕あり。両面に欠け。	PL214
5-1068号土坑 (第481回: PL213)										
2	石鏃	表土	欠損品	12.1	11.0	0.3	10.91	黒曜石	平扁菱形か、やや菱形の作り。磨の断面を欠く。	PL214
5-1075号土坑 (第481回: PL213)										
6	石鏃	表土	欠損品	11.7	11.2	0.4	11.11	黒曜石	つまみ部を折った石鏃と思われるが、磨の大部分を欠く。	PL214
5-1084号土坑 (第482回: PL214)										
4	打製石片	表土	完形	12.8	4.7	2.1	146	褐色頁岩	短物。磨部が磨く方向に向かって厚みを増す。刃部磨石。	PL214
5-1088号土坑 (第482回: PL214)										
2	磨石	表土	ほぼ完形	24.9	17.0	16.0	12,010	粗粒輝石安山岩	大型の棒状磨。被熱部分的に割傷が見られる。一部表面に打痕。	PL214
5-1110号土坑 (第484回: PL215)										
7	磨製石片	表土	欠損品	16.6	4.9	1.1	146	紫段岩	磨子でやや不定形。刃部を欠く。	PL214
8	磨石	表土	完形	5.8	5.1	3.6	145	粗粒輝石安山岩	小磨石。両面使用し平磨。	PL214
5-1113号土坑 (第485回: PL215)										
3	打石	表土	欠損品	15.2	6.2	4.6	1549	粗粒輝石安山岩	棒状磨石。片面に2か所の凹み有り。また断面に打痕あり。	PL214
4	磨石	表土	完形	13.3	7.8	4.1	720	粗粒輝石安山岩	扁平長円磨。片面両面を使用。	PL214
6-204号土坑 (第486回: PL215)										
9	磨石	表土	完形	9.9	8.6	4.5	442	粗粒輝石安山岩	おむすび形の磨を利用。表面に複数の凹み有り。	PL214
6-206号土坑 (第486・487回: PL216)										
4	磨石	表土	完形	12.4	7.7	3.2	545	粗粒輝石安山岩	小磨石を呈す。両面平磨で、粗磨にも磨き残し打痕あり。	PL214
5	磨石	表土	完形	10.2	8.6	7.3	824	粗粒輝石安山岩	磨石を呈す。表面に使用による磨痕および磨打による割傷あり。	PL214
6-207号土坑 (第487回: PL216)										
9	石鏃	表土	欠損品	11.0	11.1	0.5	10.71	細粒輝石安山岩	先端部片か。	PL214
10	スライパ	表土	完形	7.4	6.3	2.2	86	珪質頁岩	厚みのある刮片で、刃部は鋭利な直方で行面調整。	PL214
11	磨石	表土	ほぼ完形	13.3	9.1	4.3	825	粗粒輝石安山岩	扁平平磨を利用。両面使用で平磨。	PL214
12	多孔石	表土	完形	17.1	11.3	7.0	1,123	多孔質安山岩	三角の磨を利用。一面に打ち寄せた凹みを含む。	PL214
13	磨石	表土	完形	11.5	4.7	2.7	203	安山岩	扁平平磨状。両面に1か所だけの浅い凹みを有し両面に打痕。	PL214
14	磨石	表土	ほぼ完形	10.9	8.3	3.7	145	輝石	石製のミニチュア品。磨色の磨石。磨石に磨られていた。	PL214
6-212号土坑 (第488回: PL216)										
10	打製石片	表土	完形	10.5	4.2	1.7	81	黒色安山岩	短物。小磨りで刃部磨かか広くなく。基部断面に自然磨。刃部磨石。	PL214
4区遺構外										
遺物%	部 類	出土位置	残 存	許容値 長さ×幅×厚さ(cm)	重(g)	石 材	特 徴	備 考	PLNo.	
第5602-1	石鏃	J-17	完形	2.8	1.6	0.3	1.1	チャート	四角菱形。作りは丁寧で、磨部はやや丸く磨石状。	PL214
第5602-2	石鏃	N-21	完形	1.9	0.4	0.3	0.4	チャート	四角菱形。先端部、磨部が磨く痕が三角形を呈す。	PL214
第5602-3	石鏃	Y-11	ほぼ完形	1.7	1.1	0.3	0.51	黒曜石	小形の四角菱形。	PL214
第5602-4	石鏃	表土	完形	1.7	1.4	0.3	0.5	黒曜石	四角菱形。磨子の作り。	PL214
第5602-5	石鏃	表土	完形	1.7	1.8	0.3	0.6	黒曜石	四角菱形。抄り残し磨部は鋭く、先端部磨き上げられる。	PL214
第5602-6	石鏃	表土	完形	2.1	1.3	0.3	0.5	チャート	四角菱形。抄り残し磨部は鋭い。作りは丁寧。	PL214
第5602-7	石鏃	Q-18	ほぼ完形	1.7	1.1	0.3	0.5	黒曜石	小形の四角菱形。	PL214
第5602-8	石鏃	X-13	ほぼ完形	2.1	1.5	0.3	0.6	黒曜石	平扁菱形。二等辺三角形を呈す。刃部磨製磨。	PL214
第5602-9	石鏃	表土	ほぼ完形	2.0	1.7	0.4	0.8	黒曜石	四角菱形。中央部厚く作られる。	PL214
第5602-10	石鏃	表土	ほぼ完形	1.7	1.2	0.4	0.8	黒曜石	四角菱形。基部が鋭い。	PL214
第5602-11	石鏃	C-10	欠損品	12.3	12.0	0.4	12.03	黒色安山岩	やや大型の四角菱形。片磨を欠く。	PL214
第5602-12	石鏃	O-15	欠損品	11.3	1.3	0.3	10.53	黒曜石	四角菱形。やや菱形の作り。先端部を欠く。	PL214
第5602-13	石鏃	O-16	欠損品	11.0	1.8	0.5	11.01	チャート	四角菱形。やや平面的な三角形を呈す。磨のつまみ部欠。	PL214
第5602-14	石鏃	P-19	欠損品	12.3	11.3	0.3	10.63	黒曜石	四角菱形。先端部、磨部が磨き付く痕有り。片磨を欠く。	PL214
第5602-15	石鏃	Y-11	欠損品	12.0	1.7	0.4	11.61	黒曜石	四角菱形。磨き付く痕有り。先端部を欠く。	PL214
第5602-16	石鏃	X-13	欠損品	11.2	1.2	0.4	10.43	黒曜石	四角菱形か。先端部、磨部を欠く。	PL214
第5602-17	石鏃	Y-11	欠損品	11.0	11.0	0.7	11.13	黒曜石	未熟品と見られるが、石鏃つまみ部の磨部付有り。	PL214
第5602-18	石鏃	Y-11	欠損品	11.4	11.1	0.5	10.43	黒曜石	磨部付か。厚み有り。	PL214
第5602-19	石鏃	Y-12	欠損品	11.0	1.5	0.2	10.31	黒曜石	四角菱形。磨部や刃部磨部を欠損している。先端部を欠く。	PL214
第5602-20	石鏃	Y-19	欠損品	11.4	11.1	0.3	10.53	黒曜石	四角菱形。磨子で。先端部、片磨を欠く。	PL214
第5602-21	石鏃	表土	欠損品	11.7	11.2	0.4	10.43	黒曜石	四角菱形の先端部折れと思われる。片磨を欠く。	PL214
第5602-22	石鏃	表土	欠損品	11.0	1.6	0.3	10.71	黒曜石	四角菱形。先端部を欠く。	PL214
第5602-23	石鏃	Y-15	欠損品	2.5	1.7	0.4	1.4	黒曜石	先端部付片。基部は未熟磨。	PL214
第5602-24	石鏃	N-18	完形	2.6	0.9	0.4	0.6	黒曜石	短磨石を呈す。磨部の作りは鋭い。	PL214
第5602-25	石鏃	Y-11	完形	4.2	2.3	0.9	3.4	珪質頁岩	磨石状のつまみ部を呈す。磨部磨部が直線的に磨ける。	PL214
第5602-26	石鏃	Y-11	欠損品	11.4	1.3	0.5	11.11	黒曜石	つまみ部を磨き付く。磨部は平面的で、先端部を欠く。	PL214
第5602-27	石鏃	Y-11	完形	2.1	0.7	0.3	0.4	黒曜石	短物付片。磨部が直線的に磨ける。	PL214
第5602-28	石鏃	M-22	欠損品	11.7	0.6	0.3	10.43	黒曜石	小磨石状。小形短物を利用。先端部を欠く。	PL214

第3章 検出された遺構と遺物

4区遺構外

遺物%	種類	出土位置	残存	計測値(長さ×幅×高さ)	量(21g)	石	材	特	備	PLNo.
第50702-29	石製	O-19	欠損品	(4.3)	1.3	1.1	53.20	黒曜石	大型の磨石片、断面三角で使用する磨石類推察	PL224
第50702-30	石製	L-22	欠損品	3.1	1.2	0.9	7.8	黒曜石	断面1角で、縁部は調整痕、断面に凹みがある	PL224
第50702-31	磨石類	Y-11	欠損品	3.7	1.9	0.6	1.6	黒曜石	両側縁部に刃状を出す	PL224
第50702-32	打製石片	J-21	欠損品	9.0	6.0	1.6	81	黒色頁岩	断面がやや楕円形、刃部鋭利	PL224
第50702-33	打製石片	N-21	対称欠損品	(10.2)	5.2	2.5	(116)	黒色頁岩	断面、厚みが均一、両側縁部分だけが自然に欠けた	PL224
第50702-34	打製石片	N-21	欠損品	(5.2)	4.2	0.8	(23)	黒色頁岩	磨石類の断面片と見られる	PL224
第50702-35	2点ノミ	N-21	山打型	6.8	4.6	1.3	42	黒色頁岩	断面1角を削ぎ、ノミ縁部に磨石刃状を出す	PL224
第50702-36	磨石類	N-21	欠損品	(3.5)	2.0	0.8	(16)	灰緑岩	断面1角を削ぎ、ノミ縁部に磨石刃状を出す	PL224
第50702-37	磨石類	表土	欠損品	(6.7)	5.1	2.3	(121)	灰緑岩	断面1角を削ぎ、ノミ縁部に磨石刃状を出す	PL224
第50702-38	凹石	5層	ほぼ完全品	14.2	6.5	3.2	439	粗粒輝石安山岩	扁平で縦長い棒を利用、両面にやや浅い凹み穴を複数作る。磨石あり	PL224
第50702-39	磨石	M-22	欠損品	11.0	6.5	4.3	482	粗粒輝石安山岩	片側縁部、裏面使用面と極めて平直、残り凹みが見られる	PL224
第50702-40	磨石	M-22	欠損品	13.7	8.2	4.3	680	粗粒輝石安山岩	扁平で小形の磨石、裏面に1対の凹み穴がある	PL224
第50802-41	磨石	M-22	欠損品	10.3	9.4	5.6	366	多孔質安山岩	やや扁平で平直で、矢張り、裏面に若干の使用痕	PL224
第50802-42	磨石	M-22	欠損品	9.8	9.0	4.3	376	粗粒輝石安山岩	やや扁平。いっぺんおろす形で両面を磨り面として使用	PL224
第50802-43	磨石	M-22	欠損品	11.5	7.9	3.4	457	粗粒輝石安山岩	小形の扁平磨石。裏面に浅い2つの凹み穴を有す	PL224
第50802-44	磨石	N-22	欠損品	9.1	6.6	3.9	252	粗粒輝石安山岩	やや扁平で平直。両面に打痕の上の凹み穴あり。両側縁部分に黒褐色	PL224
第50802-45	磨石	N-22	欠損品	11.5	6.4	2.4	292	粗粒輝石安山岩	扁平で平直の磨石を利用、片側縁部を中心に行われる磨石見られる	PL224
第50802-46	磨石	P-18	欠損品	11.4	8.9	4.1	609	粗粒輝石安山岩	扁平で平直を利用、裏面に使用痕、若干の打痕有り	PL224
第50802-47	磨石	P-21	欠損品	10.4	8.4	6.6	852	粗粒輝石安山岩	上記2の打痕。使用の痕跡はあまり見られず、全面に平直の打痕	PL224
第50802-48	磨石	P-21	欠損品	9.1	6.9	3.1	292	粗粒輝石安山岩	小形の扁平磨石。両面使用し、縦辺には打製痕が見られる	PL224
第50802-49	磨石	Q-21	欠損品	9.6	8.0	4.6	547	粗粒輝石安山岩	扁平で平直の磨石。前面に使用痕、両辺部に若干の打痕	PL224
第50802-50	磨石	W-16	欠損品	12.0	9.2	4.9	762	粗粒輝石安山岩	小形の磨石を利用、裏面に1対の小形の凹み穴あり。磨石あり	PL224
第50802-51	磨石	表土	欠損品	9.3	8.2	4.8	535	粗粒輝石安山岩	やや扁平で平直。両面に使用痕、片側縁の浅い凹みあり	PL224
第50802-52	磨石	5層	欠損品	5.9	4.9	4.3	169	粗粒輝石安山岩	小形の扁平磨石。保存済	PL224
第50802-53	磨石	W-16	欠損品	12.0	8.9	5.0	746	粗粒輝石安山岩	やや扁平で平直を利用、片面使用痕、残り凹みが見られる	PL224
第50802-54	磨石	M-22	ほぼ完全品	10.7	7.0	3.1	349	粗粒輝石安山岩	扁平で平直。裏面部分の欠けが見られる	PL224
第50802-55	磨石	P-21	欠損品	11.2	8.1	5.5	952	粗粒輝石安山岩	片側縁部利用、裏面に使用痕、裏面に	PL224
第51002-56	磨石	P-21	欠損品	(14.3)	11.6	4.1	(1055)	粗粒輝石安山岩	断面1角を削ぎ、ノミ縁部に磨石刃状を出す	PL224
第51002-57	石皿	M-18	欠損品	(6.4)	(6.3)	7.2	(677)	粗粒輝石安山岩	集約品の石を用いる。使用面はあまり磨きかけられず、縁部はほぼ直線	PL224
第51002-58	石皿	M-22	欠損品	(6.1)	(2.6)	(11.5)	(4,300)	粗粒輝石安山岩	角縁の一面が縦状に窪む。底の凹みは若干	PL225
第51002-59	多孔石	W-17	欠損品	16.1	19.1	14.7	3,940	粗粒輝石安山岩	やや気泡質の縦状片。一面を削ぎ、中央に大小の凹み穴が穿たれる	PL225
第51002-60	多孔石	L-18	欠損品	14.3	11.0	10.0	1,309	粗粒輝石安山岩	不定形な磨石片。ほぼ全面に大小の凹み穴が見られる	PL225
第51102-61	石製	P-21	欠損品	(11.7)	10.5	-	(1,089)	アズライト	やや平直の磨石片。断面、縁部に1対の凹み穴がある。磨石あり	PL225
第51102-62	磨石類	W-17	欠損品	6.9	3.5	1.7	15	軽石	角の付いた長方形。上辺中央に突出する下部に縦長の小凹みあり	PL225

5区遺構外

第51102-1	石製	A-17	欠損品	1.3	1.2	0.2	0.3	黒曜石	平無蓋系の小皿類。ほぼ正三角形を呈す	PL225
2	石製	C-13	欠損品	1.2	1.2	0.2	0.2	黒曜石	小皿。片側縁部で縁が鋭く削がれ、作りは丁寧	PL225
3	石製	D-15	欠損品	1.7	1.1	0.3	0.4	黒曜石	平無蓋系。両面平直	PL225
5	石製	E-15	欠損品	1.4	1.5	0.4	0.8	黒曜石	四角無蓋と見られるが、作りがやや丁寧。1面磨の可能性あり	PL225
6	石製	L-16	欠損品	1.3	1.1	0.2	0.3	黒曜石	小型の平無蓋系。縁りは浅く作りは丁寧	PL225
7	石製	O-14	欠損品	3.0	1.8	0.7	4.1	チャート	四角無蓋。厚みを削ぎ先端部は鋭く磨く。作りはやや粗い	PL225
8	石製	P-15	欠損品	1.3	0.9	0.4	0.4	黒曜石	四角無蓋。小皿型と見られる。作りは浅い	PL225
9	石製	T-14	欠損品	2.6	1.1	0.2	0.6	チャート	四角無蓋。縁りは小さく浅い	PL225
10	石製	U-15	欠損品	2.0	1.2	0.3	0.5	黒曜石	四角無蓋。やや楕円形で片側がやや厚みしている	PL225
11	石製	A-15	欠損品	2.1	1.6	0.5	1.1	碧玉	四角無蓋。やや厚みであるが作りは丁寧	PL225
12	石製	U-16	欠損品	1.7	1.0	0.2	0.3	黒曜石	四角無蓋。小皿型で平直の作り、縁りは浅く、作りは丁寧	PL225
13	石製	X-13	欠損品	1.4	1.1	0.2	0.2	黒曜石	小型の四角無蓋。断面はU状に削がれ、作りは丁寧	PL225
14	石製	表土	欠損品	3.1	2.2	0.3	1.8	黒曜石	四角無蓋。縁りは浅く作りは丁寧。先端部は平直の作り	PL225
15	石製	表土	欠損品	2.0	1.4	0.3	0.7	黒曜石	四角無蓋。両側縁部にやや丸みがある	PL225
16	石製	表土	欠損品	2.1	1.2	0.3	0.6	黒曜石	六角有蓋。縁部は平直	PL225
17	石製	V-17	欠損品	1.8	1.1	0.3	0.5	黒曜石	四角無蓋。小皿型で平直の作り、縁りは浅く	PL225
18	石製	A-15	ほぼ完全品	2.6	1.6	0.4	1.1	碧玉	四角無蓋であるが縁りは浅く平直に近い。先端部は僅かに欠く	PL225
19	石製	B-13	ほぼ完全品	1.9	1.1	0.3	0.5	黒曜石	やや平直の磨石類。小皿型	PL225
20	石製	C-13	ほぼ完全品	(1.4)	(1.7)	3.0	(10.3)	黒曜石	二次加工品か	PL225
21	石製	C-20	ほぼ完全品	2.5	1.9	0.2	1.0	黒曜石	四角無蓋。縁手の作りでほぼ全面が割断面	PL225
22	石製	D-13	ほぼ完全品	(3.3)	(3.1)	0.3	(6.4)	黒曜石	四角無蓋。縁りは極めて浅い。小型で先端部は僅かに欠く	PL225
23	石製	D-22	ほぼ完全品	2.3	1.5	0.2	0.8	黒曜石	四角無蓋。縁りは浅く、縁としてはやや平直が不整	PL225
24	石製	F-18	ほぼ完全品	2.3	0.5	0.2	0.4	黒曜石	縁部は磨石片利用。両側縁に刃状を出す	PL225
25	石製	F-18	ほぼ完全品	(2.0)	(1.5)	0.2	(0.8)	黒曜石	四角無蓋。縁りは浅い。先端部は僅かに欠く	PL225
26	石製	K-16	ほぼ完全品	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.4)	黒曜石	四角無蓋。小型でやや楕円	PL225
27	石製	T-16	ほぼ完全品	(1.5)	(1.5)	0.2	(0.6)	黒曜石	平無蓋系。三角形を呈し、片面は平ら。作りは粗く、両側の可能性あり	PL225
28	石製	V-17	欠損品	(2.1)	1.9	0.6	(1.4)	黒曜石	平無蓋系。中央が凹みを削り両下縁部に丸み。先端部は僅かに欠く	PL225
29	石製	V-17	欠損品	(1.0)	(1.0)	0.2	(0.2)	黒曜石	先端部のみ	PL225
30	石製	A-18	欠損品	(1.2)	(1.4)	0.3	(0.7)	黒曜石	四角無蓋と見られるが両側を欠く	PL225
31	石製	B-14	欠損品	(1.8)	(1.9)	0.3	(0.9)	黒曜石	四角無蓋。先端部を欠く。左右の形状長が異なる	PL225
32	石製	B-15	欠損品	(1.7)	(1.8)	0.4	(0.8)	黒曜石	四角無蓋の磨石片か	PL225
33	石製	C-14	欠損品	(2.4)	(3.0)	0.3	(0.2)	黒曜石	断面欠く。先端部は平直で、縁部調整痕は確認	PL225
34	石製	C-14	欠損品	(1.2)	1.7	0.2	(0.5)	黒曜石	先端部を欠く四角無蓋。丁寧な作り	PL225
35	石製	C-21	欠損品	(1.4)	(1.5)	0.3	(0.7)	黒曜石	四角無蓋。縁りは浅い。先端部が欠けた後再調整か	PL225
36	石製	D-14	欠損品	2.3	(1.4)	0.2	(0.6)	黒曜石	四角無蓋。縁手の作り片側を欠く	PL225

第3節 縄文時代の遺構と遺物

5区遺構外

遺物%	部 類	出土位置	残 存	計測値	長さ×幅×高さ(mm)	重量(g)	石 材	特 徴	PLN	
37	石鏃	D-14	欠損品	(1.3)	1.7	0.2	06.60	黒曜石	凹形基部、先端部を欠く	PL225
38	石鏃	D-14	欠損品	(1.2)	0.8	0.2	06.30	黒曜石	凹形基部、先端部を欠く	PL225
39	石鏃	D-14	欠損品	(1.7)	0.9	0.3	06.43	黒曜石	凹形基部	PL225
40	石鏃	E-13	欠損品	(1.7)	(1.1)	0.2	06.33	黒曜石	凹形基部の小形品、片側、先端部を欠く	PL225
41	石鏃	E-14	欠損品	(1.3)	1.5	0.2	06.50	黒曜石	凹形基部、先端部を欠く、比較的厚手の作り	PL225
42	石鏃	E-14	欠損品	(1.5)	0.9	0.3	06.43	黒曜石	細身の先端部と目される	PL225
43	石鏃	E-14	欠損品	(1.6)	0.9	0.3	11.30	黒曜石	両側に知照面がある、石鏃の未熟品か	PL225
44	石鏃	E-14	未熟品	(2.4)	(3.5)	0.3	(11.30)	黒曜石	両側に知照面がある、石鏃の未熟品か	PL225
45	石鏃	F-14	欠損品	(1.5)	1.6	0.2	06.73	黒曜石	凹形基部、やや反りを有し刃片を利用、やや緩な作りで先端部を欠く	PL225
46	石鏃	F-14	欠損品	(1.2)	0.8	0.2	06.33	黒曜石	先端部片、比較的細身の	PL225
47	石鏃	F-15	欠損品	(1.5)	(1.3)	0.3	06.61	黒曜石	平基部基部で先端部より基部を欠く	PL225
48	石鏃	F-16	欠損品	(1.7)	(1.5)	0.3	06.67	黒曜石	基部を欠く	PL225
49	石鏃	F-17	欠損品	(1.7)	0.9	0.2	06.43	黒曜石	凹形基部基部の断面片か	PL225
50	石鏃	G-17	欠損品	(1.0)	1.4	0.2	06.43	黒曜石	基部片か、薄手の作り	PL225
51	石鏃	I-15	欠損品	(1.4)	1.4	0.4	06.73	黒曜石	凹形基部、先端部を欠く、身のほぼ中央部分に突起部あり	PL225
52	石鏃	I-15	欠損品	0.8	1.7	0.3	06.43	黒曜石	先端部あるいは断面片	PL225
53	石鏃	I-16	欠損品	(1.0)	1.2	0.2	06.20	黒曜石	小形品、凹形基部基部の断面片	PL225
54	石鏃	K-16	欠損品	(1.1)	(1.5)	0.3	06.67	黒曜石	平基部、先端部を欠く	PL225
55	石鏃	K-16	欠損品	(1.1)	1.7	0.3	06.50	黒曜石	凹形基部、縁りは低直で浅い、先端部を欠く	PL225
56	石鏃	K-17	欠損品	(1.7)	1.4	0.2	06.33	黒曜石	凹形基部、縁り深く長脚、先端部を欠く	PL225
57	石鏃	K-17	欠損品	(1.4)	1.5	0.3	(11.30)	黒曜石	平基部、断面含み基部部分を欠く	PL225
58	石鏃	P-16	欠損品	(1.7)	0.9	0.2	06.33	黒曜石	凹形基部、小形品、約半分を欠く	PL225
59	石鏃	R-16	欠損品	(1.8)	0.7	0.2	06.27	黒曜石	凹形基部、縁りは深く長脚、半分を欠く	PL225
60	石鏃	R-17	欠損品	(1.8)	(1.4)	0.2	06.80	黒曜石	凹形基部、厚手の作り、知照面(作面)	PL225
61	石鏃	R-18	欠損品	(2.0)	0.8	0.3	06.50	黒曜石	凹形基部、縁り深く長脚、半分を欠く	PL225
62	石鏃	S-17	欠損品	(1.0)	1.5	0.4	(11.30)	黒曜石	平基部、先端部を欠く、粗い作り	PL225
63	石鏃	T-14	欠損品	(1.0)	(1.5)	0.2	06.50	黒曜石	凹形基部、片側が浅く凹む、脚を欠く	PL225
64	石鏃	T-16	欠損品	(1.5)	1.6	0.3	06.50	黒曜石	凹形基部、縁り深く作りは丁寧、先端部を欠く	PL225
65	石鏃	T-16	欠損品	(1.3)	(1.3)	0.2	06.50	黒曜石	凹形基部、縁り深く作りは丁寧、脚がやや中国型、片側を欠く	PL225
66	石鏃	T-16	欠損品	0.7	(1.3)	0.2	10.20	黒曜石	斜めに欠けた先端部片である	PL225
67	石鏃	T-16	欠損品	(2.2)	(1.7)	0.2	06.50	黒曜石	凹形基部、薄手の作り、脚の一部を欠く	PL225
68	石鏃	T-17	欠損品	(1.8)	(1.4)	0.2	06.50	黒曜石	凹形基部、小形品、片方の脚を僅かに欠く	PL225
69	石鏃	U-14	欠損品	(2.0)	(1.8)	0.4	(11.61)	黒色安山岩	平基部、片側が僅かに凹む、作りは極めて粗雑、断面風化	PL225
70	石鏃	U-15	未熟品	(1.4)	1.1	0.2	06.27	黒曜石	小形の断面片に見える	PL225
71	石鏃	V-28	欠損品	(1.7)	(1.2)	0.2	06.50	黒曜石	石鏃の先端部である小形品が有る、片側がやや左面	PL225
72	石鏃	表土	欠損品	(2.1)	0.7	0.2	06.20	黒曜石	凹形基部、縁りは三角に入る、半分を欠く	PL225
73	石鏃	表土	欠損品	(2.3)	0.7	0.2	06.43	黒曜石	凹形基部、縁り深く脚も長い、半分を欠く	PL225
74	石鏃	表土	欠損品	(1.9)	(1.4)	0.4	06.80	黒曜石	凹形基部、縁りは極めて浅い、片側を欠かに欠く	PL225
第51100-75	石鏃	T-15	未熟品	2.5	1.1	0.5	1.6	黒曜石	凹形基部の片側が残り先端部は目字状を呈す、未熟品と見られる	PL225
第51100-76	石鏃	A-15	完形	3.9	1.5	0.7	3.9	黒曜石	つるま基部が幅に比べて厚くなる、基部は太く、先端を欠く	PL225
第51100-77	石鏃	B-16	完形	1.9	0.6	0.3	6.4	黒曜石	小形鋭縁片を呈す	PL225
第51100-78	石鏃	C-13	完形	3.0	0.9	0.4	1.2	黒曜石	棒状部、基部が僅かに凹む(組込)となる、やや曲りを有す	PL225
79	石鏃	D-13	完形	2.5	1.9	0.7	2.3	黒曜石	基部は厚みのある三角形を呈す、断面は鋭い、右面に知照	PL225
第51100-80	石鏃	D-14	完形	1.6	0.6	0.3	0.3	黒曜石	極めて小形で鋭縁片を呈す	PL225
第51100-81	石鏃	T-16	完形	2.5	0.6	0.3	0.3	黒曜石	棒状部、小形品で作りは丁寧	PL225
第51100-82	石鏃	C-14	欠損品	(1.3)	(1.3)	0.2	06.50	黒曜石	基部片か、断面やや鋭縁、片側がやや中国型	PL225
83	石鏃	D-13	欠損品	(2.5)	0.6	0.6	(11.30)	黒曜石	断面片か、先端部は使用上は知照が見られる	PL225
84	石鏃	D-14	欠損品	(0.8)	(1.0)	0.4	06.73	黒曜石	基部はまたまつみ部と考えられるが判別し難い	PL225
第51100-85	スズレバー	A-14	完形	1.5	3.0	4.0	1.7	黒曜石	細長削片状、下縁部に刃部突出	PL225
86	スズレバー	C-16	完形	1.8	2.5	0.6	3.0	黒曜石	刃部はやや厚みを有し鋭縁を呈す	PL225
87	スズレバー	S-14	完形	1.1	1.0	0.4	0.5	黒曜石	小形鋭片(短)の断面に調整痕、極めて小さく明確な用途不明	PL225
第51100-88	磨石(石鏃)	A-15	完形	1.7	2.4	0.5	2.1	黒曜石	平行両辺で両短辺に知照を有す	PL225
89	磨石(石鏃)	E-16	完形	2.2	1.5	0.5	2.0	黒曜石	ほぼ長方形で、やや歪みとなる下縁と直交する側面に刃部突出	PL225
90	磨石(石鏃)	W-17	完形	1.9	1.5	0.5	1.6	黒曜石	短長方形で、斜に走る側面に刃部突出	PL225
91	磨石(石鏃)	D-13	ほぼ完形	(1.4)	1.5	0.2	06.80	黒曜石	鋭縁を呈す、下縁と直交する側面に刃部調整痕見られる	PL225
92	磨石(石鏃)	D-13	完形	(2.1)	1.9	0.3	06.80	黒曜石	短小形で平行両辺、溝を有し2辺に調整痕	PL225
第51100-93	打撃石片	D-13	完形	10.6	4.6	2.3	127	緑泥輝(打撃石)	磨石、やや厚手で鈍縁部	PL226
第51100-94	打撃石片	D-13	完形	14.5	5.7	2.7	185	緑泥輝(打撃石)	磨石、基部から片側にかけて自然面、両方で磨石あり	PL226
第51100-95	打撃石片	D-15	完形	8.7	4.7	2.3	116	緑泥輝(打撃石)	知照片、刃部は露くなる	PL226
第51100-96	打撃石片	E-13	完形	11.1	5.1	2.1	123	黒色頁岩	磨石、基部は厚みを有し刃部は露くなる	PL226
97	打撃石片	J-18	完形	10.9	5.4	2.0	101	黒色頁岩	磨石、刃部は丸みを有す、調整痕は鋭い、刃部には若干の磨石痕あり	PL226
98	打撃石片	J-18	完形	9.2	4.6	1.4	66	緑泥輝(打撃石)	磨石、小形でやや厚み、調整痕は鋭い	PL226
99	打撃石片	S-15	完形	9.4	6.1	2.3	138	緑泥輝(打撃石)	磨石、両側面に鋭い縁りあり、刃部は丸みや丸みを呈す	PL226
100	打撃石片	V-19	完形	8.5	4.8	1.4	92	黒色頁岩	磨石、やや鋭く刃部の広がりに鋭い、刃部露縁	PL226
101	打撃石片	V-19	完形	18.8	6.3	2.1	324	緑泥輝(打撃石)	磨石、片面に大きく自然面あり	PL226
第51100-102	打撃石片	A-13	ほぼ完形	8.5	4.6	1.4	74	黒色頁岩	知照片、断面がやや厚み	PL226
第51100-103	打撃石片	C-13	ほぼ完形	9.3	4.9	1.5	87	黒色安山岩	やや厚手で、両側面に鋭い縁りを有す、刃部露かに欠損	PL226
第51100-104	打撃石片	H-15	ほぼ完形	10.0	3.9	1.5	66	黒色頁岩	知照片、刃部はやや厚く折られる	PL226
105	打撃石片	J-18	ほぼ完形	10.2	4.7	1.8	103	黒色頁岩	知照片、両側面調整しされる、刃部露かに欠損	PL226
106	打撃石片	U-14	ほぼ完形	14.2	5.6	1.8	214	緑泥輝(打撃石)	磨石、片面に大きく自然面あり	PL226
第51100-107	打撃石片	A-13	欠損品	6.6	4.0	1.2	(43)	緑泥輝(打撃石)	磨石、断面が厚み	PL226
第51100-108	打撃石片	D-14	欠損品	(5.3)	3.3	1.4	(43)	緑泥輝(打撃石)	基部片、断面に自然面露出	PL226
第51100-109	打撃石片	D-13	欠損品	(7.1)	4.0	1.7	(62)	黒色頁岩	磨石の基部片、片面平手でやや厚みがある	PL226
第51100-110	打撃石片	P-19	欠損品	(8.1)	5.5	2.0	(101)	緑泥輝(打撃石)	磨石、両側面に鋭い縁りあり、刃部を欠く	PL226

第3章 検出された遺構と遺物

5 区遺構外

遺物%	部 類	出土位置	残 存	計測値(長さ×幅×高さ)	量計(g)	材 質	特 徴	備 考	PLN
111	打製石斧	U-15	欠損品	(8.1) 5.1 1.3	(71)	細粒輝石火山岩	細粒、両側面に浅い溝が見られる。断面は広がるものと思われる。		PL226
112	打製石斧	U-17	欠損品	(6.1) 5.9 1.7	(82)	細粒輝石火山岩	細粒打製石斧の基部のみ。やや幅広で短い作り。		PL226
113	打製石斧	U-17	欠損品	(4.9) 5.4 1.5	(57)	細粒輝石火山岩	打製石斧の基部と思われる。		PL226
114	打製石斧	V-18	欠損品	(6.3) 3.5 0.9	(77)	黒色頁岩	細粒打製石斧の基部のみ。小断面で厚手の作り。		PL226
115	打製石斧	W-13	欠損品	(6.7) 4.3 2.1	(82)	砂岩	細粒のみ、厚みのある基部のみ。		PL226
116	打製石斧	X-13	欠損品	(8.0) 4.9 2.5	(114)	細粒輝石火山岩	細粒、断面を欠く、短い作りのみ。断面やや風化。		PL226
117	石製石斧	V-12	欠損品	(4.8) 2.5 1.2	(72)	細粒輝石火山岩	細粒、小型の基部のみ。		PL226
118	打製石斧	Y-16	欠損品	(7.2) 3.6 1.4	(66)	細粒輝石火山岩	短断面、やや縦身の作り。基部と思われる。		PL226
第51202-119	スチレノール	A-14	完形	7.2 3.9 2.0	56	黒色頁岩	中央部が膨らみ、細粒打製の細線は長い作り、打製石斧基部のみ。		PL226
第51202-120	スチレノール	C-20	完形	8.0 5.6 0.9	44	黒色頁岩	台形を見ず薄断面計、二辺に刃部を作出。		PL226
第51202-121	スチレノール	D-13	完形	4.3 4.3 0.9	18	黒色頁岩	ほぼ円形の細片利用。風化に刃部を作出。		PL226
第51202-122	スチレノール	E-14	完形	4.5 2.1 0.6	7	黒色頁岩	不整形で一辺に細く刃部を作出。		PL226
第51202-123	スチレノール	E-17	完形	5.3 3.8 0.8	16	黒色頁岩	ほぼ四角形の細い細片。打製石斧基部の可能性がある。		PL226
第51202-124	スチレノール	F-17	完形	8.1 4.7 1.7	68	黒色頁岩	断面に厚みをもし粗い断面。断面の風化顕著。		PL226
125	スチレノール	S-17	完形	3.2 2.3 1.0	7.7	チャート	上面が厚く厚みをもつ。断面は粗く刃部を作出。		PL226
126	スチレノール	S-17	完形	8.2 4.3 1.3	46	細粒輝石火山岩	半円形の細片利用。下縁部に若干の刃部断面が見られる。		PL226
127	スチレノール	表上	完形	6.7 3.7 0.9	43	黒色頁岩	ほぼ四角形を見ず細い細片利用。各辺に簡単な刃部を作出。		PL226
第51202-128	スチレノール	D-14	ほぼ完形	4.6 2.5 0.8	14	細粒輝石火山岩	断面が細く小さい作り、四方であるが断面の断面はほとんど無し。		PL226
129	石製	S-17	完形	5.5 3.7 2.5	38.8	凝灰岩	不整形な断面。各面は平らで断面が直線的。複数の断面が見られる。		PL226
第51202-130	磨製石斧	E-22	欠損品	(4.1) 5.0 2.0	(56)	凝灰岩	刃部のみ。定角式か、やや丸みがある。		PL226
131	円石	R-16	欠損品	(11.0) 6.4 3.6	(370)	細粒輝石火山岩	やや扁平な楕圓状利用。表面は1対の凹みがある。半分を欠き被熱。		PL226
132	礫石	R-15	ほぼ完形	138 55 38	497	石灰質緑岩	楕圓状。表面打撃によるものか凹み顕著。		PL226
第51202-133	磨石	A-13	完形	13.1 6.2 4.2	566	細粒輝石火山岩	長円形。表面及び断面に磨り面がある。		PL226
第51202-134	磨石	C-13	完形	3.7 3.7 2.8	55	細粒輝石火山岩	小型の内磨。被熱。		PL226
第51202-135	磨石	E-14	完形	5.8 5.3 4.3	190	細粒輝石火山岩	小型の内磨で磨り面がやや平直。断面の改造で茶褐色を呈す。		PL226
第51202-136	磨石	E-18	完形	6.9 5.1 3.9	193	火山岩	やや扁平な磨石の磨。両面使用。		PL226
第51202-137	磨石	F-18	完形	10.7 8.5 6.3	863	細粒輝石火山岩	この上、大の磨石を利用。二面使用とし、部分的に打痕が見られる。		PL226
138	磨石	P-19	完形	5.2 4.7 4.2	132	チャート	小型の内磨。表面平磨。		PL226
139	磨石	S-16	完形	9.0 7.0 5.0	312	細粒輝石火山岩	やや扁平な内磨利用。両面使用で両面。細線部に打痕あり。		PL226
140	磨石	S-16	完形	10.0 4.4 2.8	172	細粒輝石火山岩	楕圓状利用。全面平磨であるが凹部が使用痕は残されており。		PL226
141	磨石	T-17	完形	9.5 7.9 5.5	137	細粒輝石火山岩	やや扁平な内磨利用。両面使用し一面に打痕が見られる。		PL226
142	磨石	W-13	完形	7.1 5.8 3.9	126	細粒輝石火山岩	楕圓形の小型利用。		PL226
143	磨石	X-13	完形	12.2 10.3 2.8	499	細粒輝石火山岩	扁平。両面平らで使用痕が見られる。		PL226
144	磨石	X-13	完形	11.2 6.8 2.3	242	細粒輝石火山岩	扁平。両面平らで平磨。細線部に打痕が見られる。		PL226
第51202-145	磨石	F-17	ほぼ完形	11.3 7.0 5.0	371	細粒輝石火山岩	長円形。両面断面で磨めて平直である。断面部分的に凹部あり。		PL226
第51202-146	磨石	H-16	ほぼ完形	9.8 6.8 4.5	441	細粒輝石火山岩	やや扁平な磨石の磨。両面使用し、部分的に厚磨有り。		PL226
第51202-153	磨石	C-13	欠損品	(7.4) 4.3 3.6	(230)	細粒輝石火山岩	楕圓状。断面風丸形で4面磨り面。部分的に厚磨有り。		PL226
第51202-148	磨石	G-21	欠損品	(7.4) (5.9) 3.9	(293)	細粒輝石火山岩	やや大型磨石の破断品。被熱。		PL226
149	磨石	R-14	欠損品	(11) (8) 29	(242)	細粒輝石火山岩	扁平な長円形。打撃による割痕あり。半分を欠く。被熱あり。		PL226
150	石製	表上	欠損品	(11.1) (8.9) 5.3	(871)	赤土質安山岩	石製の小型。断面は粗い石を有し、断面には厚磨の凹み穴あり。		PL227
151	石製	表上	欠損品	(12.4) 12.9 5.5	(740)	細粒輝石火山岩	風化の両面に限定的な磨り面を有す。使用面は粗く断面に磨り面を有す。被熱。		PL227
152	円石	T-14	欠損品	(8.0) (5.9) 5.4	(310)	細粒輝石火山岩	大型の扁平磨石利用した台石の破断品か。		PL227
第51202-153	磨石	D-13	欠損品	(4.2) (3.3) 1.3	(3)	礫石	両面へ取付を見ず見られる。角がやや丸くなった欠損品。		PL227
第51202-154	ニッパ刀型	F-22	欠損品	(6.1) (5.0) 2.0	(32)	礫石	石製のニッパ刀型と見られる。断面はほぼ直交し断面は平らである。		PL227

6 区遺構外

第51202-1	磨石	D-12	ほぼ完形	8.6 3.5 2.0	108	凝灰岩	やや小型の定角式であるが平磨。厚みがあり側面。断面欠損。		PL227
第51202-2	磨石	A-14	完形	7.1 5.6 4.1	233	細粒輝石火山岩	断面を見ず。断面に打痕が見られる。		PL227

第4節 平安時代の遺構と遺物

弥生・古墳時代の遺構は検出されていない。平安時代の住居跡は4区および5区において1軒ずつ、計2軒を検出した。その他土坑等については該期に比定される遺構は確認されなかった。

1. 住居跡

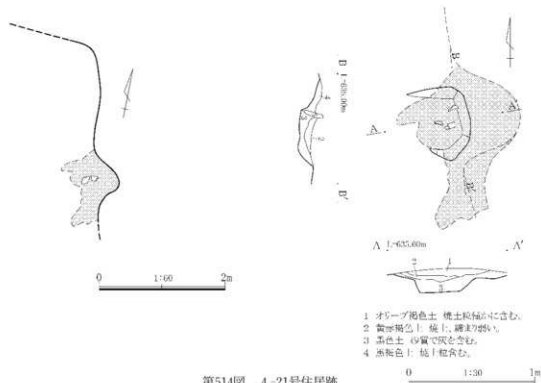
4-21号住居跡 (第514・515図: PL106・227)

位置 W-14・15グリッドに位置する。**重複** 住居内に4-105号土坑、4-10号焼土が見られる。4-10号焼土は住居よりも新しい。

形状 隅丸方形と思われるが、削平が著しく全容は不明である。

規模 (350)×(350)×10cm。**方位** N-82°-E **床面** カマドの手前においてやや硬化した貼り床面が小範囲であるが認められた。

カマド 住居の東に作られ、壁外に馬蹄形に張り出す。上部はほとんど削られており、火床面が残るのみである。住居内側に焼土の広がりが見られた。



第3章 検出された遺構と遺物

柱穴 検出されなかった。

時期・所見 削平が著しく、残存状況は極めて悪い。出土遺物はほとんど見られず、カマド内より甕、土釜の副部片が出土。時期は10世紀後半か。

5-68号住居跡 (第516～518図：PL106・227)

位置 E・F-21グリッドに位置する。 **重複** 無し。

形状 やや東西方向に長い隅丸長方形。 **規模** 515×405×25cm。 **方位** N-89°-E

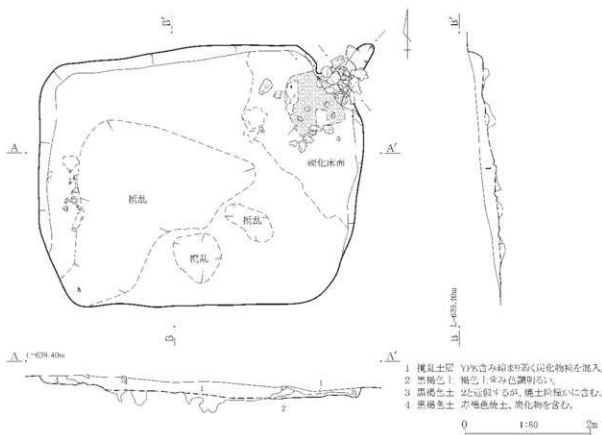
床面 明瞭な面は確認できなかった。住居の中央から南西部分は攪乱を受けていた。カマドの手前部分については比較的硬化面が確認された。

カマド 北東隅に構築されていた。焚き口幅は約50cm、奥行きは約1mである。本体はかなり崩れた状態で、掘方は壁外に馬蹄形に張り出し、両袖部分にやや小振りの石を据えている。カマド内火床面からカマド前面にかけ焼土の広がりを認めた。 **柱穴** 確認されなかった。

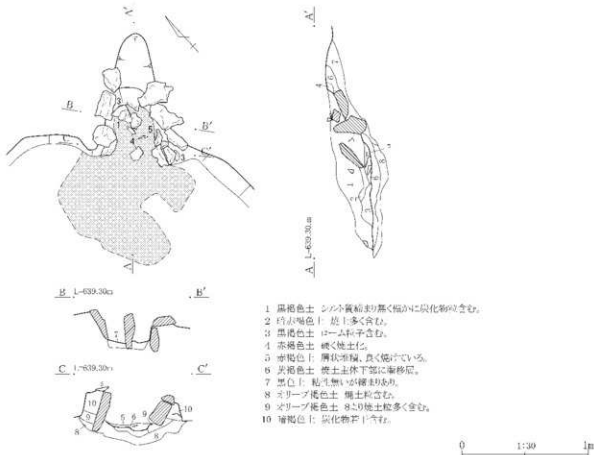
掘方 凹凸が認められたがいわゆる床下土坑などは見られなかった。

出土遺物 カマド内および周辺より須恵器環の底部片、羽釜などが出土しているが数は少ない。

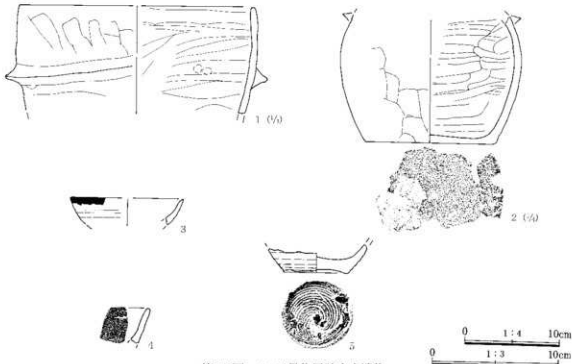
時期・所見 5区の北側やや南に下る傾斜地に構築されている、住居北側に比して南側は攪乱を受けていることもあり遺存状況は悪い。形状はやや東西に長く、カマドが北東の角に構築されており、本遺跡においては少例となる。器高の低い砂底の羽釜や環類から、時期は11世紀後半と見られる。



第516図 5-68号住居跡(1)



第517図 5-68号住居跡(2)



第518図 5-68号住居跡出土遺物

第5節 中・近世の遺構と遺物

当該期の遺構は4区において中世に比定される掘立柱建物跡2棟、竪穴状遺構4基、焼土9基、土坑5基を、5区で7基の土坑を検出した。竪穴状遺構は平成13年度の調査でも今回の調査区の南側に2軒検出されている。

焼土は4区の調査区全体において点在している。この焼土遺構は5区において検出された焼土遺構と比較して、焼土の発色が鮮やかであること、灰層が明瞭に観察されたり、木灰（炭）などが見られること、さらに全体に軟質であること、一部に平安時代の住居跡を切っているものがあることなどから、明らかに時代的には新しくなるものと思われ、中世以降の所産と判断されるものである。4-9号焼土からは煙管の吸い口が出土している。

平成13年度に調査が行われた南側においても2軒の竪穴状遺構、柵列等が検出されており、今次の調査で検出した遺構と一連のものであると考えられる。

ヤックラ（集石遺構）に関しては4・5区内において4基が存在していた。

1. 掘立柱建物跡

4区において中世と思われる掘立柱建物跡を2棟検出している。東西に約20m離れて位置しており、いずれも柱穴の規模は小さい。ともに建物内に焼土の広がりや確認されており、囲炉裏等の存在が考えられよう。また両建物の南側には平成13年度の調査で東西に走る柵列が検出されており、両建物跡との関連が窺える。

4-1号掘立柱建物跡（第519図：PL107・227）

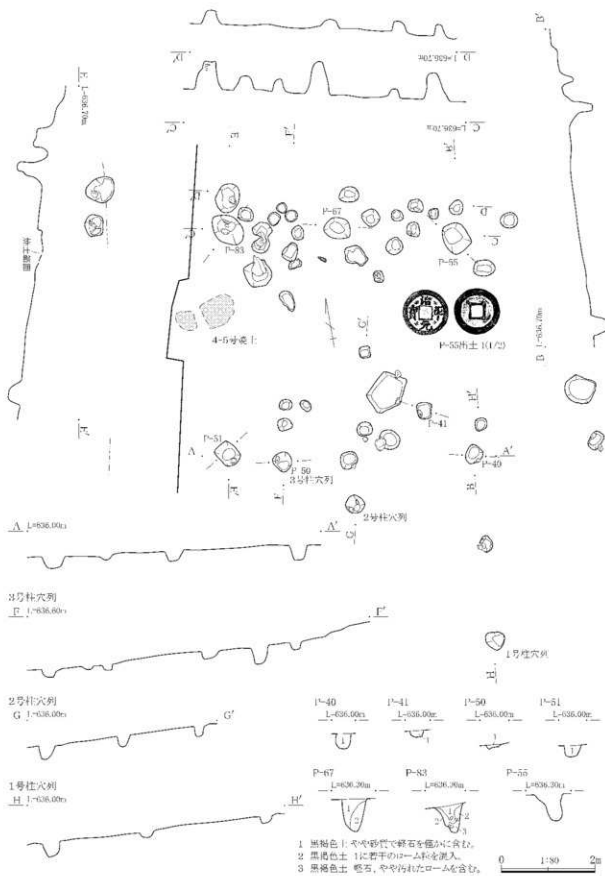
N・O-13~16グリッドに位置する。北側列は東西3間の柱が2列に並ぶ。南側列は2間を確認（西端については現道下にあると思われる）。北側は庇がつくものと考えられる。また、南傾斜地に位置していたために南側はかなり削られている状況を示しており、確認時において北側と南側ではかなりのレベル差が認められる。建物の施設については、中央西寄りに4-5号焼土が検出されている。本建物に付随する可能性がある。焼土は2カ所に広がり、かなり焼け込んだ様子が確認されている。

焼土からの出土遺物は見られなかったが、建物の北東部に位置するP-55からは、治平元宝が出土している。また、本址からんで多くの柱穴が確認されていることから重複、あるいは建て替えの可能性がある。さらに本址の南西側には平成13年度に調査された東西に並ぶ2列の柵列があり、4-2号掘立柱建物を含め関連が想定される。

4-2号掘立柱建物跡（第520図：PL107）

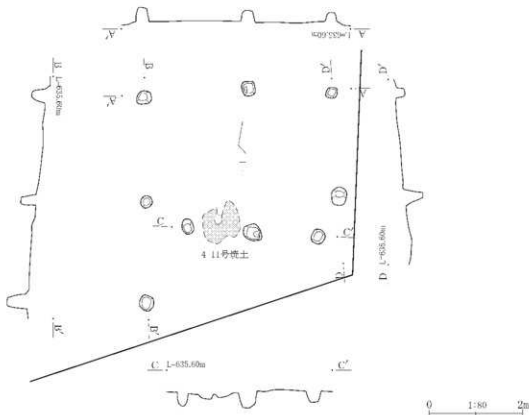
T・U-15・16グリッドに位置する。南北2間×東西2間と思われる。南側については西端に柱穴を確認している。柱穴は径30cm前後で深さは20~40cmである。東側の2本については平成13年度の調査で4-2号集石および近世の集石遺構（ヤックラ）下にあったために未確認の可能性がある。

建物のほぼ中央やや南寄りには4-11号焼土が検出されており、4-1号掘立柱建物と同様に焼土との関連が想定される。焼土はやや方形に広がり発色が良く、断面ラミナ状の堆積を示していた。出土遺物は見られなかった。



第519図 4-1号掘立柱建物跡・出土遺物

- 1 黒褐色土にやや砂質で碎石を僅かに含む。
- 2 黒褐色土に若干のロームを混入。
- 3 黒褐色土、碎石、やや均れたロームを含む。



第520図 4-2号掘立柱建物跡

2. 竪穴状遺構

4区において4基を検出。このうち4号は遺存状態が悪い。平成13年度に検出されている2基と合わせ計6基がまとまって存在していたことになる。

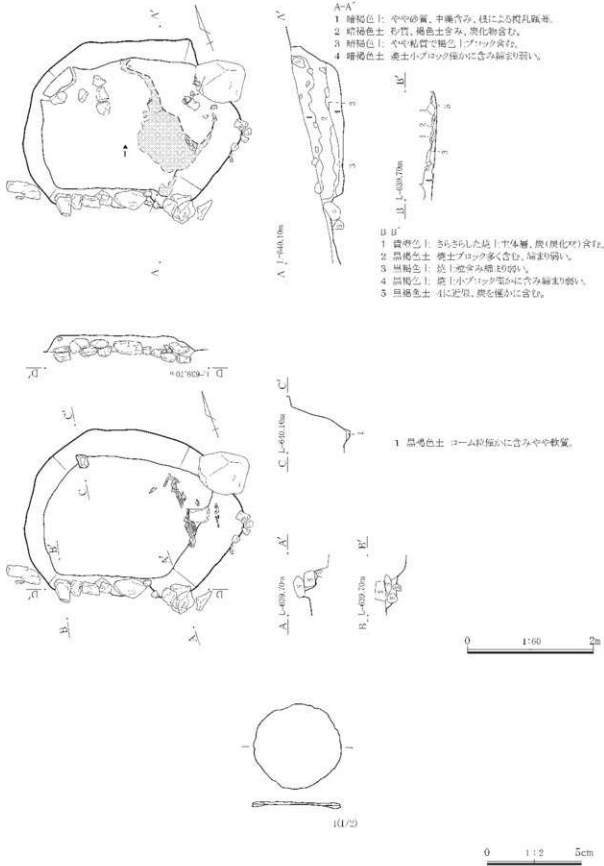
4-3号竪穴状遺構 (第521図: PL107・108・227)

M・N-20・21グリッド、4区北寄りの高い場所に位置、かなりの傾斜地に作られている。形状はやや東西に長い楕円形を呈すが南側の壁は石が積まれ直線的である。規模は東西3.5m、南北2.5mである。傾斜地にあるため掘り込みは北側が高く南が低くなる。最大壁高は約80cmを測る。南側の壁には礫が石垣状に2～3段積まれている。また北東の隅には地山の大型礫が一部露出し遺構内にやや張り出す状態である。床面上には炭化物、焼土がほぼ円形に検出されており、炭化材も見られた。

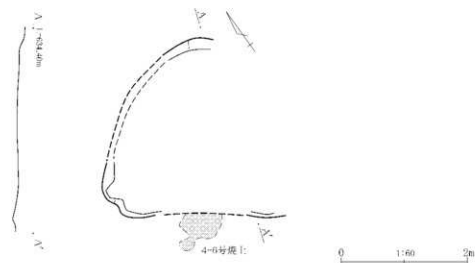
出土遺物は土器類は見られなかったが、床面近くで紡錘車と見られる鉄製の円盤が出土している。床面は平らで良く締まっている。

4-4号竪穴状遺構 (第522図: PL108)

E・F-10・11グリッドに位置、調査区の東寄り南北に積まれたヤックラの南端下部に検出された。平面形状は隅丸方形と思われる。壁の高さは最大で20cmほどである。南側に4-6号焼土が重複しこれを切っている。東側および南側の立ち上がりは削平されており不明瞭である。底面はやや南傾斜を持つ。出土遺物は混入した縄文土器が散見されているのみで、時期は不明である。



第521図 4-3号竪穴状遺構・出土遺物



第522図 4-4号竪穴状遺構

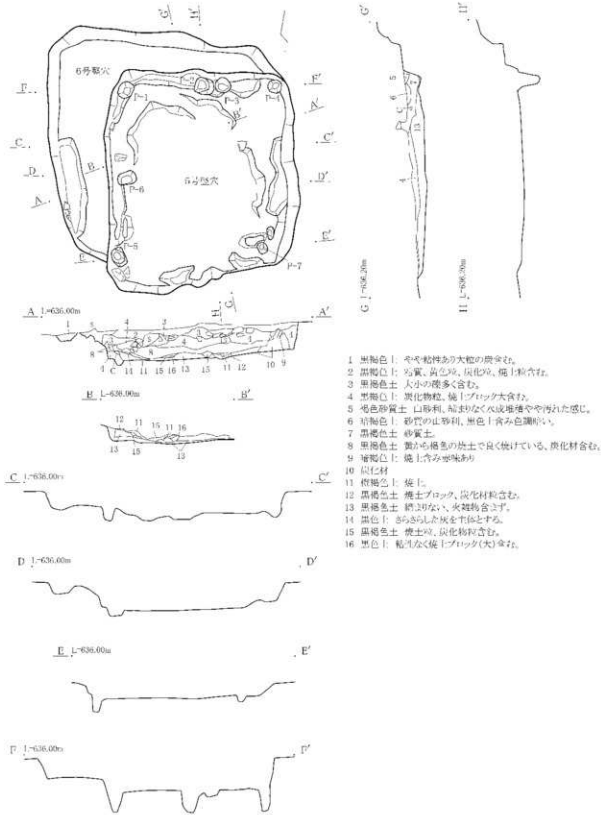
4-5号竪穴状遺構 (第523～525図: PL108・109・227)

V・W-16・17グリッドに位置する。4-6号竪穴状遺構の南東部に重複して掘り込まれていた。形状はほぼ隅丸方形を呈す。規模は南北約3.5m、東西約3mである。深さはおよそ70cmである。埋土の中央部分に比較的大型の礫が投げ込まれた状況で集中して検出されている。また礫の周囲、下部には炭化材、焼土が多く認められ、火を受けているものと見られる。炭化材は壁側から内側に倒れ込んだ状態で検出されている。焼土は壁に沿っており壁の一部が焼土化している。出土遺物は礫の中に破砕された茶臼片や鉢の破片、白磁の合子片などが見られた他、銅製の筒状製品が出土している。床面は比較的平坦で壁の立ち上がりはやや緩やかである。

茶臼は白の挽き目は左廻り8分割で、目溝は細いが等間隔にしっかりと刻まれている。芯穴は、すりあわせ部で直径が2.2cmのほぼ正円で、底部に向かいラップ状に広がっている。茶臼の成形は、底部や芯穴下部に残る加工痕から棒状のノミの使用を、また整形は、平ノミ状工具による小叩き後に水磨き仕上げして丁寧な平滑面を形成したことを、はんざり上面や側面の痕跡から推測することができる。なお、白半径の外側約1/2は、使用によるすりあわせできれいに磨滅している。白(すりあわせ部)の角から側面全てに、人為的破壊の為の規則的な刻痕が認められる。なお、底部には二次的な煤の付着後に破損したことを窺わせている。

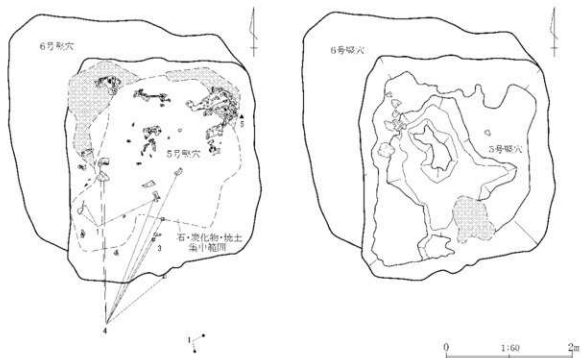
4-6号竪穴状遺構 (第523・524図: PL108・109)

4-5号竪穴状遺構に大きく切られている。規模は一回り大きくなるものと思われる。形状は隅丸方形を呈すものと思われ、規模は1辺が約4m程と思われる。掘り込みは4-5号竪穴状遺構に比して浅く壁の高さは40cm程である。床面はほぼ平坦である。柱穴などは検出されなかった。炭化材、焼土などは検出されず、出土遺物も見られなかった。



第523図 4-5・6号竪穴状遺構(1)

0 1:00 2m



第524図 4・5・6号貯穴状遺構(2)

3. 焼土

前述したように4区内において検出された焼土は明らかに縄文時代の炉などの痕跡とは異なっていた。いずれも表土直下において確認されており、比較的軟質で橙褐色を呈するものが多いが炭化物、灰層が見られるものもある。さらには自然礫を組んだようなものも検出されている。総数は9基であるが、中世と考えられる掘立柱建物内に位置し、関連が想定されるものや、近世の煙管が出土したもの等がある。

4-3号焼土 (第526図: PL109)

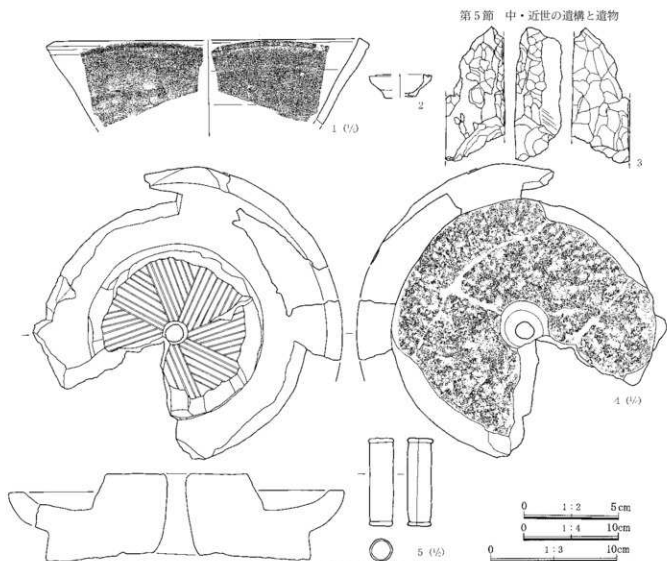
L-21グリッドに位置する。西側に大きな地山礫が露出し、その東脇にやや高まりを持った焼土の広がりを認めた。断面では焼土下位に灰が見られた。北に接してピット状の掘り込みを確認した。出土遺物は見られない。

4-4号焼土 (第526図: PL109)

G・H-13グリッドに位置する。わずかに不定形に広がる焼土を確認、長方形の掘方が検出されたが、純層の焼土は上層に留まる。周囲に土坑、ピットが見られるが規格性は無く、建物跡等を想定するには至らなかった。出土遺物は無い。

4-5号焼土 (第526図: PL109)

O-15グリッドに位置する。4-1号掘立柱建物跡内に検出された。建物のやや西寄りに位置、焼土は不定形なものと同馬蹄形に広がる2カ所が近接して見られた。明確な掘方や組石のようなものは検出されず、出土遺物も見られない。検出した焼土は上面部分が良く焼けており、硬く締まりも見られた。建物跡の付随施設の痕跡か。



4-6号焼土 (第526図: PL109)

第525図 4-5号竪穴状遺構出土遺物

F-10グリッドに位置する。4区東側の集石(ヤックラ)の南端部下層に検出され、礫を伴い不定形に広がる焼土が確認された。焼土を取り除くと浅い落ち込みが見られた。4-4号竪穴状遺構に東側を切られている。出土遺物は見られない。

4-7号焼土 (第526図: PL109)

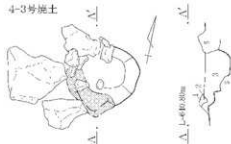
E-15グリッドに位置する。軸を南北に取る長円形の焼土と浅い掘り込みが確認された。掘り込み面は焼けており火を受けた礫も見られた。焼土下にはなすび形の落ち込みが確認されている。出土遺物は見られず、炭窟跡とも考えられる。

4-8号焼土 (第526図: PL109)

K-21グリッドに位置する。区の高い位置に検出された。南北軸の瓢箪形に焼土の広がりが見られ、北側には板状の礫が壁の様立った状態で出土。焼土下部は浅く落ち込んでおり、焼土は灰層と互層になっており20cm以上の厚さを持つ。検出された中では焼土の広がりが最も大きいもので、炭窟跡か。出土遺物は見られない。

第3章 検出された遺構と遺物

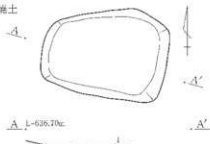
4-3号焼土



4-3号焼土

- 1 黄褐色土 コームが埋土化、右側が壊れている。
- 2 黒褐色土 砂質土コーム混入。
- 3 黒褐色土 砂質でやや赤味あり、灰を多く含む。

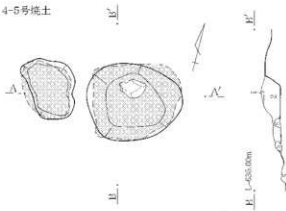
4-4号焼土



4-4号焼土

- 1 黒褐色土 細砂り粗い灰土、黒褐色土小コームが混入。
- 2 黒褐色土 粗砂り粗い、YPK、コーム細粒が混入を含む。
- 3 褐色土 YPK混入、コーム細粒が混入を含む。

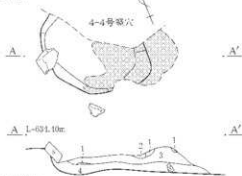
4-5号焼土



4-5号焼土

- 1 黄褐色土 固く砂質上面よく焼けている。
- 2 黒褐色土 やや砂質小礫混入、焼土粒、黒炭粒が混入。

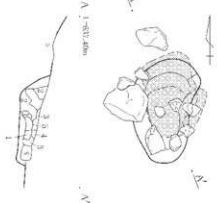
4-6号焼土



4-6号焼土

- 1 濃い黄褐色土 深次の砂質土黒褐色土層か、炭化物を含む。
- 2 黒褐色土 灰層。
- 3 黒褐色土 炭を混入を含む。
- 4 褐色土 コーム細粒が混入を含む。

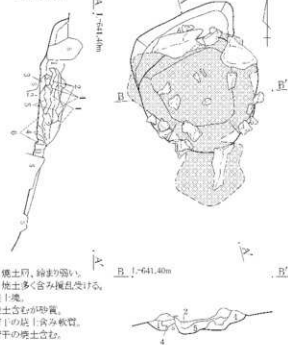
4-7号焼土



4-7号焼土

- 1 暗褐色土 コーム細粒と黒褐色土の混入。
- 2 赤褐色土 粘まり強い。
- 3 褐色土 粘り強い。
- 4 濃い黄褐色土 灰状の粗砂り土。
- 5 褐色土 やや赤味を帯び粘り強い。

4-8号焼土

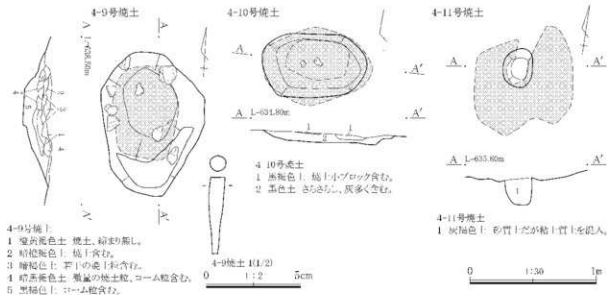


4-8号焼土

- 1 淡褐色土 焼土屑、粘り強い。
- 2 淡褐色土 焼土屑多く含む横長尖れる。
- 3 赤褐色土 焼土塊。
- 4 暗褐色土 焼土含む砂質。
- 5 暗褐色土 若干の灰土含む軟質。
- 6 黒褐色土 若干の焼土含む。

第526図 4-3～8号焼土

第5節 中・近世の遺構と遺物



第527図 4-9～11号焼土・出土遺物

4-9号焼土 (第527図: PL110・228)

T-20グリッドに位置する。楕円形に広がる焼土を検出、ドーナツ状に焼けており中央部には灰層が残る。糠等は見られなかった。焼土層上位から煙管の吸い口部が出土している。

4-10号焼土 (第527図: PL110)

W-14グリッドに位置する。4-21号住居跡の南に接して検出された。当初住居との関連も考えられたが本址が新しいと判断された。焼土の広がりや厚みはわずかである。周囲が長円形に浅く落ち込む。出土遺物は見られない。

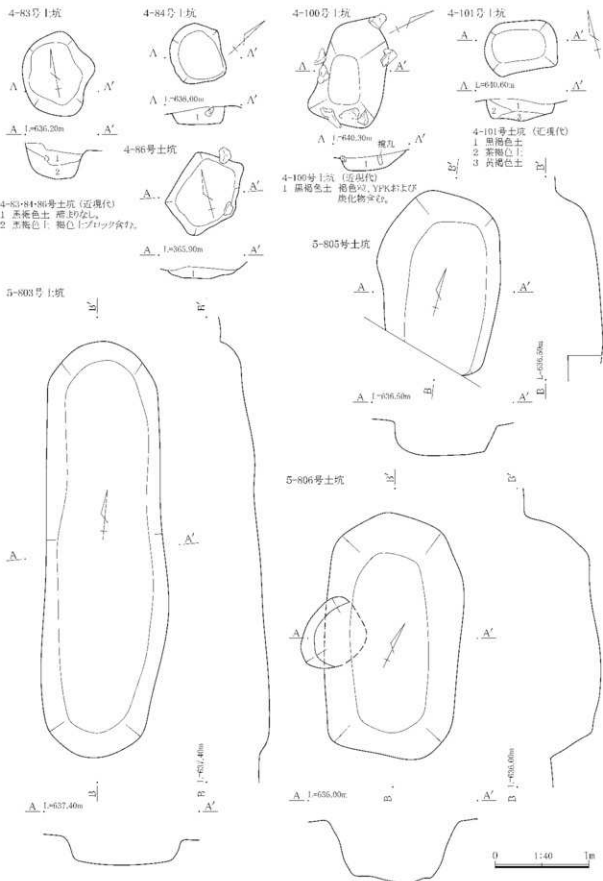
4-11号焼土 (第527図: PL110)

U-15グリッドに位置する。4-2号掘立柱建物跡の中央やや南寄りに検出されている。不定形に広がる焼土と中央にピットが検出されている。焼土の厚さはあまりない、出土遺物は見られないが建物との関連が想定される。

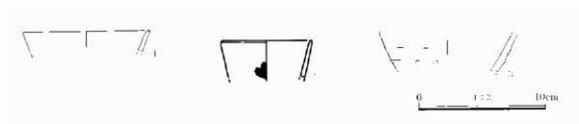
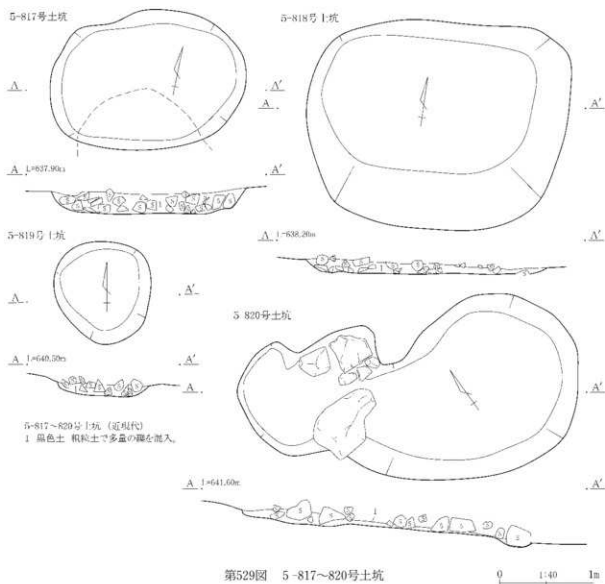
4. 土坑 (第528～530図: PL110・111・228)

中世以降の所産と考えられる土坑はあまり多くはなかったが、4区において5基、5区において7基を検出した。6区では検出されなかった。4区の土坑はいずれも不定形で覆土は軟質で混入物が多く見られた。かなり新しくなるものと判断される。5区において検出された集石土坑も近世以降のものと判断される。これらの土坑は長円形中には拳～人頭大の石が詰め込まれた状態で出土している。用途として考えられるもの一つとして耕作中に出てきた石をまとめて埋めるためのものと考えられる。こうした土坑からは陶磁器類の破片が出土している。

第3章 検出された遺構と遺物

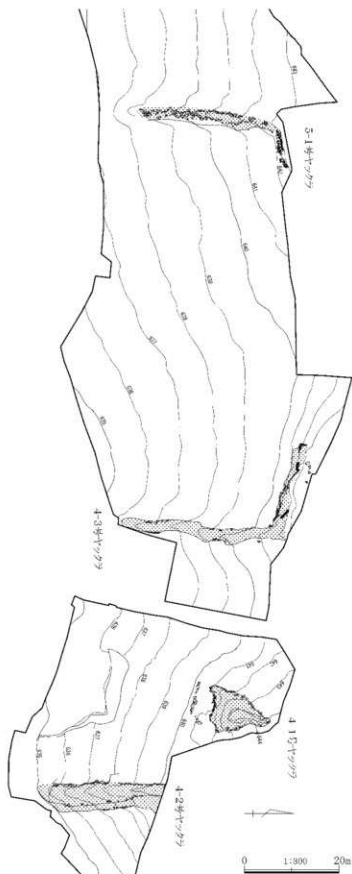


第528図 4-83・84・86・100・101・5-803・805・806号土坑



5. ヤックラ（集石遺構）

調査区の地境に大小の礫を石垣状あるいは土塁状に延びる遺構である。開墾や耕作中に耕地内から出る石を寄せ集めたものであり、シシ土手としての機能も考えられよう。近世から現代にわたって築かれたものと思われ、長野原地域においてはヤックラと呼ばれている。今回の調査でも4区の東側、北側、西側の3カ所に設けられていた。出土遺物からも明らかに近世以降の所産と考えられることから、他の集石遺構と峻別を



第531図 4・5区ヤックラ全体図

はかるためにここではヤックラの名称を用いることとする。

4-1号ヤックラ

(第531・532・535図：PL111・228)

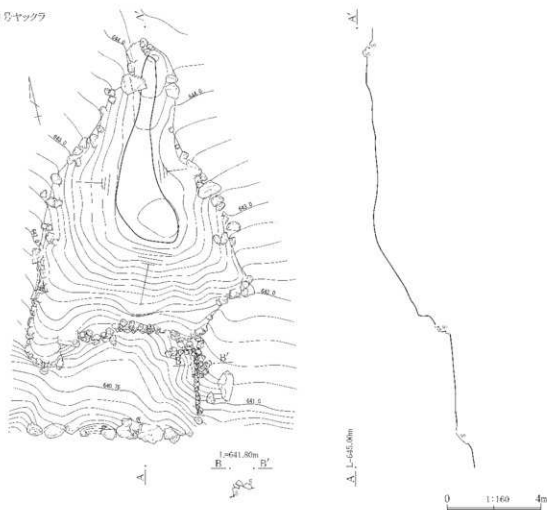
I～K-20～23グリッドに位置する。調査区の最も高い場所に構築されている。下辺部分には大型の石を矩形配し、その上に小山状に石を積み上げている。平面形は南側が広がる扇形を呈す。また南側にはテラス状の段が見られ、端には直線的に石が並べられている。ヤックラの規模は東西約9m、南北約15mで高さは4mを測る。出土遺物は陶磁器碗、皿、さらには鉢の破片である。

4-2号ヤックラ

(第531・533・535図：PL111・228)

調査区の東端に南北に築かれており地形に沿って南に傾斜しており、北側は調査区外となる。調査区内での長さ約27m、下幅最大で5m、高さは約1.5mである。南端部において礫の下から4-4号竪穴状遺構、4-6号焼土が検出されている。出土遺物は陶磁器類で猪口や、すり鉢などが見られる。

4-1号ヤックラ



第532図 4-1号ヤックラ

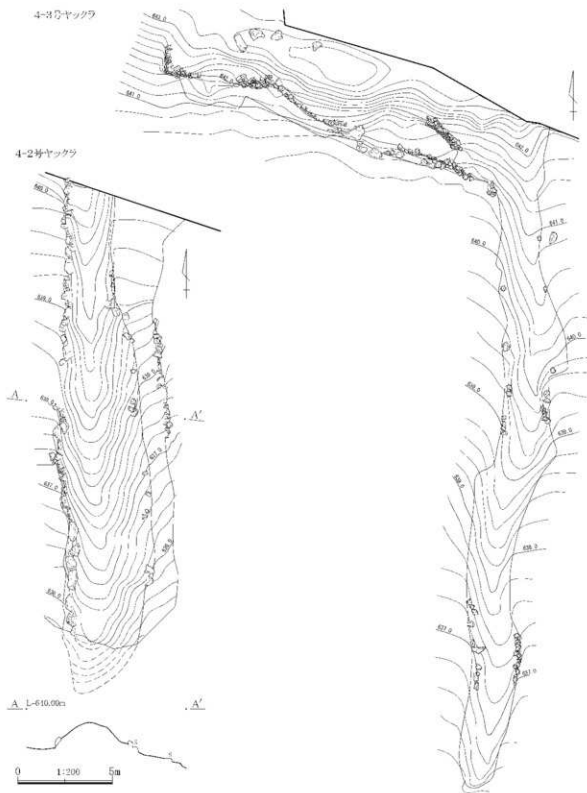
4-3号ヤックラ (第531・533・535図：PL111・228)

4区の西側に位置する、南北方向に伸びたものが北側で西に曲がる。曲がった部分は上段の畑の法面に石垣として続く。南北に走るヤックラは平成13年度に南部分の調査を行っている。下幅約3mで高さは1m程である。他のヤックラに比して全体に石がやや小振りである。

5-1号ヤックラ (第531・534図)

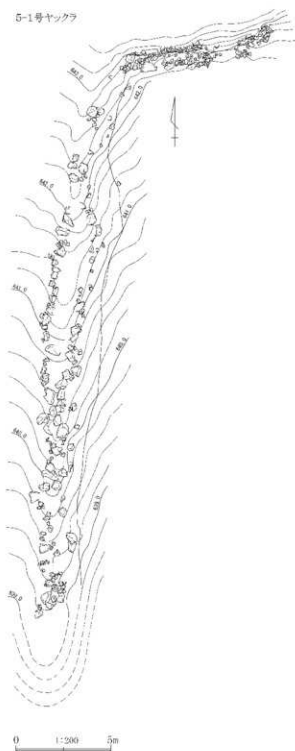
5区の中央に南北に走り、北端部で東に曲がり上段の畑の法面を構成する。南端部は区の中央で終わっている。石の積み方はやや乱雑で、下幅約1.5m、高さは1m弱である。

第3章 検出された遺構と遺物

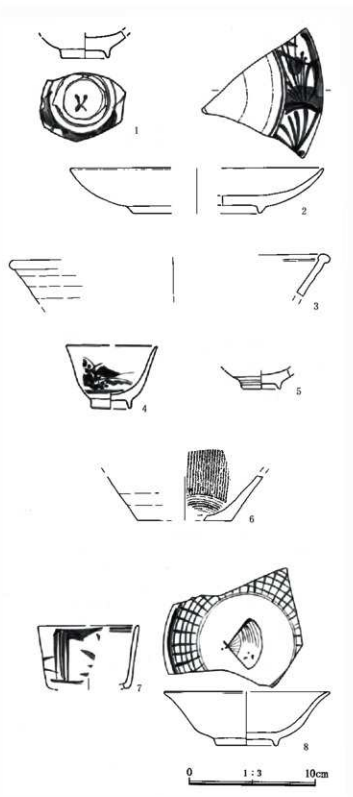


第533図 4-2・3号ヤックラ

5-1号ヤックラ



第534図 5-1号ヤックラ

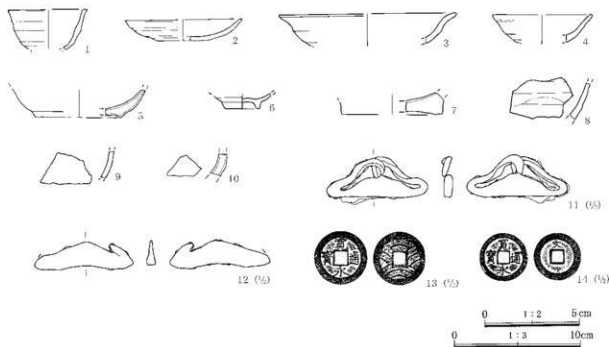


第535図 ヤックラ出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

6. 遺構外出土遺物 (第536図: PL228)

遺構外より出土した中・近世の遺物は陶磁器の碗、皿類の他、鉄製品としては火打金が2点、さらに寛永通宝2点が出土している。



第536図 遺構外出土遺物

表4 平安時代・中・近世遺物観察表

No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
4-21号住居跡 (第515図: PL227)							
1	土釜か	胴部片	カマド内	灰色	精製	厚手、内外面無成形、外面に若干の煤付着	11c後半
2	甕	胴部片	カマド内	黒褐色	砂粒多	外面縦方向溝彫り、内面横溝彫り	11c後半
5-68号住居跡 (第518図: PL227)							
No.	器種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	羽釜	口縁部片	カマド内	明褐色	砂粒	口縁部幅広で脚は大きく作られる。	11c後半
2	羽釜	胴一部分	カマド内	明褐色	砂粒	胴部分から口縁を欠く、外面彫り、内面無成形、器高く底径大きい、砂底。	11c後半
3	煎茶碗杯	口縁部片	カマド内	灰褐色	微砂粒	ロクロ成形。石明皿として使用、内面から外面口縁部にテール状の煤付着。	11c後半
4	土師器杯	口縁部片	西壁	黒褐色	微砂粒	ロクロ成形。	11c後半
5	煎茶碗杯	底部	西壁	灰褐色	微砂粒	ロクロ成形、右回転赤切り底、内面に塗喰付着。	11c後半
4-1号竪立柱建物跡 (第519図: PL227)							
No.	種類	残存	出土位置	特徴等			時期
1	鉄貨	貨幣	西55内	「治平元寶」北宋、治平年間(1064~1067)径2.4cm、重さ4.4g			中世
4-3号竪穴状遺構 (第521図: PL227)							
No.	種類	残存	出土位置	特徴等			時期
1	鉄製品	欠損品か	床面中央	径5.0cm、軸の部分欠く、錆のため表面に凹み。初繰車か。			中世

第5節 中・近世の遺構と遺物

4-5号塚石状遺構 (第5258号: PL227)

No.	遺種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	鉢	口縁部片	覆土	灰色	砂粒	口縁部内外面無で成胎。体外外面には成形時の指痕跡、外稜を持ち、口内裏は内張り、内面磨光する。	
2	合子	破片	覆土	白色	精製	合子の身か蓋、貿易陶磁ではない。	近世以降
No.	種類	残存	出土位置	特 徴 等			石材
3	茶臼	欠損品	覆土	長さ10.5cm、高さ4.6cm。大型磁石の破片と思われる。4面以上の使用面あり、焼熟している。			精粒輝石安山岩
4	素白	欠損品	覆土	茶臼下白破片、7片が接合。全体の3/4、白面直径18cm、全高9.0cm、(はんぎり部直径5cm)、重さ6.62kg。着目1百の粒が全体の部数である。			粗粒輝石安山岩
5	金属製品	完形	覆土	長さ7.8cm、径1.3cm。管状の銅製品。両端部分は丸く縮取りされ、外面磨に合わせ目が見られる。			銅製

4-9号焼土 (第527号: PL228)

No.	種類	残存	出土位置	特 徴 等			時期
1	煙管	吸い口	焼土中	長さ4.0cm、径0.75cm。銅製。やや細身で吸い口の端部僅かに欠損。			近世

土坑 (第530号: PL228)

No.	遺種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	陶器・碗	口縁部	5-80号土坑	—	—	瀬戸・美濃。腰筒碗。	近世
2	磁器・皿口?	口縁部片	5-80号土坑	—	—	肥前。コンニャク印刷か。	近世
3	陶器・碗	体部片	5-80号土坑	茶褐色	—	瀬戸・美濃。天目茶碗か。	近世

4-1-3号ヤツクラ (第535号: PL228)

No.	遺種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	磁器・碗	3分の1	4号ヤツクラ	—	—	波佐見系。雪輪草花文か。高台内に読あり。	近世
2	磁器・皿	4分の1	4号ヤツクラ	—	—	肥前。見込み蛇ノ目輪刺ぎ。	近世
3	陶器・すり鉢?	口縁部片	4号ヤツクラ	—	—	瀬戸・美濃か。	近世?
4	磁器・小鉢	3分の1	4号ヤツクラ	—	—	肥前か。	近世以降
5	磁器・碗	3分の1	4号ヤツクラ	—	—	肥前。染付。	近世
6	陶器・すり鉢	底部片	4号ヤツクラ	—	—	瀬戸・美濃か。	近世?
7	磁器・碗	5分の1	4号ヤツクラ	—	—	肥前。筒形碗。	近世
8	磁器・鉢	3分の2	4号ヤツクラ	—	—	瀬戸・美濃か。浅い鉢。	近世以降

遺構外 (第536号: PL228)

No.	遺種	部位・残存	出土位置	色調	胎土	文様等の特徴	時期
1	陶器・小坏	破片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。登1か2小瓶。	
2	陶器・灯明	3分の1	4区表土	茶褐色	—	美濃。登9~11小瓶。	
3	陶器・皿	口縁部片	4区表土	—	—	志野。大甕4段階後。	
4	陶器・皿	口縁部片	4区表土	—	—	古瀬戸後初期。蘇軸小皿。増嶋として使用か。	
5	陶器・皿	体~底部片	4区表土	—	—	志野。大甕4段階後。	
6	陶器・小瓶	高台部片	4区U-22	—	—	美濃。登8か9小瓶。	
7	陶器・碗	高台部片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。天目茶碗。登2小瓶。	
8	陶器・碗	破片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。天目茶碗。登1か2小瓶。	
9	陶器・丸筒	破片	4区表土	—	—	瀬戸・美濃。	近世
10	磁器	破片	4区表土	—	—	国産。詳細は不詳。	近世以降
No.	種類	残存	出土位置	特 徴 等			時期
11	ねじり鉢型火打ち金	ほぼ完形	4区T-17	長さ5.3、幅2.3、厚さ0.4cm。重さ14.1g。両端が長く引き伸ばされ、上部で2じり合わせている。			近世
12	火打ち金	欠損品	4区表土	長さ(5.3)、幅(1.2)、厚さ0.6cm。重さ(9.2)。山形を呈し、端部欠損。			近世
13	寛永通宝	完形	4区表土	径2.8cm、重さ4.6g。背海文(11波)			近世
14	寛永通宝	完形	5区表土	径2.5cm、重さ2.4g。背「文」			近世

第3章 検出された遺構と遺物

表5 遺構一覧表(平成15年度)

4区住居跡											
番号	位置	形状	規模(m)	方位	伊	柱穴	床	面	出土遺物	時期	備考
16	N・O-18	納屋跡	4(20)×3(20)×15	N-23°E	石垣	不明	石	土	土器、右衛門 土器(石)	後期弥生	石組み遺構
17	E-18-18	井形	4(60)×2(24)×60	N-49°E	石垣	7	石	土	土器、右衛門	後期弥生	石組み遺構、土石
18	F・G-11	井形	5(7)×5(7)×32	N-9°W	石垣	5	石	土	土器	中期後半	
19	H-10-11	井形	3(23)×2(45)×35	N-2°W	石垣	5	石	土	土器	中期後半	
20	N-17-18	O-18	4(25×32)×11	N-42°E	石垣	6(40)	石	土	土器、右衛門	中期後半	
21	W-14-15	井形	3(50)×2(50)×10	N-52°E	石垣	9(40)	石	土	土器、右衛門	中期後半	機存状況不明
22	Q-R-18-19	井形	3(50)×2(26)×33	—	石垣	不明	石	土	土器、右衛門	中期後半	
23	Y-15-16	井形	3(78)×3(56)×43	N-5°E	石垣	7	石	土	土器、右衛門	中期後半	
5区住居跡											
番号	位置	形状	規模(m)	方位	伊	柱穴	床	面	出土遺物	時期	備考
1	S・T-13-14	井形	3(90)×3(30)×40	N-0°	石垣	6	入り口埋塞	土	土器、右衛門	中期後半	平石残存
38	E・F-13-13	井形	幅不定6.6m	—	不明	7	石	土	土器	中期後半	平石残存
39	D-12 E-12-13	井形	井口5.5×6m	N-5°E	地味砂	7	石	土	土器、右衛門	中期後半	平石残存
40	E・F-21	横長方形	3(15)×4(6)×35	N-59°E	石垣	—	石	土	土器	中期後半	
49	E・F-15-16	井形	6(60)×6(60)×35	N-6°W	石垣	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
70	G・H-15-16	井形	6(45)×6(40)×40	N-29°W	石垣	8	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
71	F・G-14-15	井形	4(50)×4(20)×40	N-11°E	地味砂	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	水溝壁に切られる
72	H-D-15-16	井形	6(60)×5(50)×40	N-12°W	石垣	6	入り口埋塞	土	土器、右衛門	中期後半	
73	A-C-16-17	井形	6(90)×5(40)×40	—	石垣	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	
74	C-E-13-14	納屋跡	6(50)×4(60)	N-21°E	水溝壁に切られる	10	納屋	土	土器、右衛門	後期	南側の立ち上がり不明
75	E・F-13-14	井形	3(50)×3(50)×30	—	水溝壁に切られる	10	土	土	土器、右衛門	後期	74と重複
78	E-12-14	井形	井1(50)×3(30)	N-6°W	石垣	9	土	土	土器、右衛門	中期後半	28・29・21と重複
77	H・I-16-17	納屋跡	5(60)×4(30)×40	N-4°W	石垣	15	石	土	土器、右衛門	中期後半	伊11土境、溝、堀2丁1小築り出土
28	O-21	井形	3(60)×2(90)×70	N-18°E	石垣	4	土	土	土器、右衛門	中期後半	
79	C-D-14	井形	4(50)×4(50)×15	—	—	2	土	土	土器、右衛門	中期後半	
80	L・M-22-23	井形	3(45)×3(30)×25	—	—	2	土	土	土器、右衛門	中期後半	
81	L・M-18-19	井形	4(70)×4(20)×10	—	土牆	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	
83	N-P-20-22	井形	7(20)×6(60)×37	—	—	7	土	土	土器、右衛門	中期後半	中に78
83	M-N-14-16	納屋跡	7(60)×6(60)×35	N-16°W	石垣	10	土	土	土器、右衛門	後期	5・283号瓦は伊1813土境
84	N・O-18-19	井形	6(30)×6(30)×40	—	—	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	47
85	O・P-17-18	井形	4(70)×4(30)×35	N-9°E	石垣	5	土	土	土器、右衛門	中期後半	
86	N・O-16-17	井形	4(60)×4(60)×30	—	—	2	土	土	土器、右衛門	中期後半	
87	K・L-16-17	井形	5(60)×4(50)×30	N-23°W	—	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	
88	L・M-17-18	納屋跡	6(60)×4(20)×33	N-27°W	石垣	10	一部敷石	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
89	M・N-18	井形	幅不定600cm	—	—	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
90	M-N-17	井形	6(30)×4(30)×30	N-10°E	石垣	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	
91	N・O-18	井形	3(30)×3(30)×30	—	—	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	
92	I・K-16-17	井形	6(60)×6(60)×40	N-0°	石垣	5(6)	土	土	土器、右衛門	中期後半	
93	J・I-15-16	井形	7(60)×6(60)×40	N-0°	石垣	7	土	土	土器、右衛門	中期後半	5・211号土境は入り口埋塞
94	K・L-14-15	井形	6(60)×6(60)×40	—	—	(4)	土	土	土器、右衛門	中期後半	
95	M-N-18	納屋跡	幅不定580cm	N-29°W	石垣	5	土	土	土器、右衛門	後期	幅は伊1813土境に切られる
96	Q・P-15-16	井形	6(60)×6(60)×40	—	地味砂	9(40)	土	土	土器、右衛門	中期後半	
97	N・O-17	井形	3(30)×3(30)×10	—	地味砂	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	
98	Q・R-24-25	井形	3(50)×6(60)×25	N-29°W	石垣	7	土	土	土器、右衛門	中期後半	
99	S-U-23-25	井形	7(25)×7(60)×72	N-8°W	石垣	7	土	土	土器、右衛門	中期後半	
100	T・V-18-19	井形	5(50)×5(40)×30	N-11°E	石垣	4	埋塞	土	土器、右衛門	中期後半	4埋塞
101	V-W-18-19	井形	7(60)×7(60)×40	N-0°	石垣	5	土	土	土器、右衛門	中期後半	5・107号土境は伊1813土境
102	L・M-18-19	井形	3(30)×3(30)×30	—	—	6(7)	土	土	土器、右衛門	中期後半	
103	P・Q-21-22	井形	4(10)×4(60)×15	N-5°W	石垣	4	土	土	土器、右衛門	中期後半	
104	Q・R-22	井形	3(40)×3(40)×25	N-0°	石垣	4	土	土	土器、右衛門	中期後半	入り口埋塞
106	P・Q-19-20	井形	4(30)×4(30)×38	N-9°E	石垣	5(6)	土	土	土器、右衛門	中期後半	
108	D-E-13-14	井形	4(60)×4(60)×30	—	—	3	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
105	V-W-18-19	井形	3(78)×3(78)×15	N-11°E	地味砂	2	埋塞	土	土器、右衛門	中期後半	
108	P・Q-19	井形	4(60)×4(60)×30	N-26°W	石垣	不明	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
108	P・Q-18-19	井形	4(50)×4(50)×30	N-3°W	石垣	5	土	土	土器、右衛門	中期後半	
110	P・Q-17-18	井形	3(30)×3(30)×25	—	—	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	
111	P・Q-14-15	井形	6(60)×6(60)×40	—	石垣	不明	土	土	土器、右衛門	中期後半	
112	Q-R-15-16	井形	4(50)×4(50)×40	—	不明	—	土	土	土器、右衛門	後期	
113	J・I-16-17	納屋跡	3(60)×3(30)×30	N-5°E	土垣	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	遺構不明
114	S・T-20-21	井形	幅不定5.5m	—	不明	5(6)	土	土	土器、右衛門	中期後半	幅は伊1813土境に切られる
115	N・T-19	井形	幅不定3.0m	N-5°E	石垣	7(13)	土	土	土器、右衛門	中期後半	ほぼ平坦
116	P-18	井形	3(50)×3(50)×15	—	不明	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	5号分を欠く
117	H-17	不明	不明	—	不明	8	土	土	土器、右衛門	中期後半	
118	W-X-15-16	井形	3(60)×3(60)×12	N-29°W	石垣	5(6)	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
119	V-W-16	井形	3(30)×3(30)×12	—	地味砂	5	土	土	土器、右衛門	中期後半	5土境遺構
120	V-W-16	井形	3(50)×3(50)×25	N-6°W	石垣	不明	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
121	Q・R-15-16	井形	幅不定1.5m	—	不明	9(40)	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
122	V-W-16	井形	3(60)×3(60)×10	N-0°	石垣	4	中1に切られる	土	土器、右衛門	中期後半	
122	N-14-15	井形	3(40)×3(40)×30	N-15°W	石垣	6	土	土	土器、右衛門	中期後半	
124	W-X-14-15	井形	8(60)×8(60)×40	N-8°E	地味砂、埋塞	12	伊1813土境	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
125	U-15-16	井形	3(10)×3(90)×40	N-5°E	石垣	8	土	土	土器、右衛門	中期後半	
126	X-15-16	井形	幅不定4.0m	—	不明	—	土	土	土器、右衛門	後期弥生	
127	U-V-16	井形	幅不定3.0m	—	不明	6(40)	土	土	土器、右衛門	後期	
128	W-X-15	不明	不明	—	不明	5(40)	土	土	土器、右衛門	中期後半	
128	X・Y-15	井形	井径4.0m	—	不明	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	
130	S・T-16-17	井形	不明	—	不明	—	土	土	土器、右衛門	後期弥生	
131	K・S-15-16	井形	6(60)×6(60)×40	—	不明	4(7)	土	土	土器、右衛門	後期弥生	
132	G-H-15	井形	3(50)×3(50)×35	—	地味砂(埋塞)	2	土	土	土器、右衛門	中期後半	2土境のみに
133	K-T-16-17	井形	幅不定3.0m	—	不明	—	土	土	土器、右衛門	中期後半	
134	U-14	納屋跡	3(30)×3(30)×40	N-0°	石垣	不明	土	土	土器、右衛門	後期弥生	幅は伊1813土境に切られる
135	Q・R-16	井形	幅不定6.5m	—	不明	9(40)	土	土	土器、右衛門	中期後半	伊1813土境に切られる
136	N-18-19	井形	幅不定(3.5)m	—	地味砂	不明	土	土	土器、右衛門	中期後半	一部のみ検出

番号	位置	形状	規模(m)	方位	伊	柱穴	床	面	出土遺物	時期	備考
137	U-16	円形	不明	—	不明	1			土器、石器	後期	一部の土器出土
138	S・F-15	円形	推定径5.6m	—	石圍・伊	6	不明		土器、石器	後期	範囲特定
139	R-15	円形	推定径5.6m	—	不明	4(8)			土器	中期後半	
140	T-14	長円形	200 × (180) × 10	—	地味砂、	1	一部に埋溝		土器片	後期	伊は5-156号灰石(2002)
141	V-12・13	円形	推定径6.6m	—	石圍	7			土器、石器	中期後半	5-83号灰石(2002)が伊か
142	V-15	円形	推定径4.6m	—	不明	不明			土器	中期後半	範囲特定
143	次墓	—	—	—	地味砂、埋溝	8			土器	後期	墓状の石圍
144	X-14・15	長方形	推定径6.6m	—	地味砂、埋溝	8			土器、石器	後期	5-124Eの下に横出
145	W-13・14	長方形	600 × 60(5) × —	N-S	地味砂、埋溝	12			土器、石器	後期	5-124Eの下に横出

6区住居跡

番号	位置	形状	規模(m)	方位	伊	柱穴	床	面	出土遺物	時期	備考
10	B・C-13・17	特殊形状	C260 × C235 × 30	N-W	不明	4	4面固定	土器片、石器	後期前半	土器片	
15	A・B-17・18	円形	C560 × C560 × 20	—	地味砂、	4	南側は傾平	土器、石器	後期	平成年度4-181号土器発見	
16	A・B-12・14	円形	推定径5 m	—	土器	4	埋溝	土器、石器	中期後半		
17	S・V・A-12	円形	(-) × (-) × 15	—	S-1傾斜石	—		土器、石器	中期後半		

竪立柱建物跡

5区

番号	位置	形状	規模(m)	方位	伊	柱穴	床	面	出土遺物	時期	備考
6	M-O-17・18	長方形	19.8 × 3.5m	東西	無し	(8)	不明		土器、石器	後期	西側部分に柱穴は存在
7	M-G-16・18	円(六角)	19.6 × 5m	—	無し	8	中・西側あり	土器、石器	後期	5-1号土器が伊と見られる	

埋溝

5区

番号	位置	形状	規模(m)	方位	備考	時期
12	F-16	直線	65.30 × 50	S-40傾斜		中期後半
10	F-17	曲線	深縁口幅1.5分の1	70 × 60 × 15	S-92土坑内	中期後半
11	C-20	曲線	深縁口幅1-側部	30 × 30 × 35	単掘	中期後半
12	C-15	曲線	深縁口幅1-側部	70 × 70 × 25	S-7埋入口部	中期後半

伊

5区

番号	位置	形状	規模(m)	出土遺物	備考	時期
11	F-15	石組み	40 × 35	土器片、石器	5-49号の入り口部に在り	中期後半
12	G-16	石積み	50 × 30	土器片、石器	5-79号の北東部に位置	

列石

5区

番号	位置	形状	規模(m)	備考	時期
9	S-U-14	墓状	長3.10m	5-104号柱の石から東に延びる	後期

配石

5区

番号	位置	形状	規模(m)	方位	備考	時期
441	F-Q-14	不定形	100 × 80	N-37-W	大石の群を囲うように埋設の溝	後期
442	Q-15	長方形	200 × 180	N-27-E	2本の埋溝から、5-116号土坑が下に位置する。立方あり。	後期
443	Q-15	不定形	170 × 160	—	5-442号灰石の北に位置する。	後期
444	X・Y-13・14	長円形	500 × 300	—	1 mを越える大型溝の横りに小溝が埋められる	後期
445	W・X-13	円状	200 × 150	円石から、5-4号円石(2002)と伊を有す。	後期	

竪穴状遺構

4区

番号	位置	形状	規模(m)	方位	伊	柱穴	床	面	出土遺物	時期	備考
1	M・X-20・17	不定形	3.4 × 3.6 × 0.4	無し	床面に横溝	無し	中・西側	土器片	中世	南側に石組み	
4	W・F-10・11	不定形	13.22 × 3.4 × 30.0	無し	掘り込みあり	無し	西側	土器片	中世	南平3号で伊不確定	
5	V・W-16・17	方形	3.4 × 3.0 × 0.5	無し	床面に横溝	無し	中・西側	土器片	中世	灰化材出土	
6	W・W-16・17	方形	3.8 × 3.8 × 0.4	無し	無し	無し	無し	土器片	中世	5号に次々く切られる	

竪土

4区

番号	位置	形状	規模(m)	備考	時期
2	L-21	円形	60 × 60	筒状に竪	古墳
4	H・H-13	長方形	5.00 × 3.0		古墳
5	O-15	不定形	130 × 60	2か所に竪土の穴があり、竪土中に埋蔵あり。	古墳
6	F-10	不定形	100 × 60	4-4号竪穴と重なり。	古墳
7	L-12	長円形	80 × 60	埋め出し	古墳
8	H-21	不定形	130 × 100	2箇所に竪土が掘られる。竪土厚1m。	古墳
9	T-20	竪状	110 × 80	埋溝状の出土	古墳
10	W-14	長円形	140 × 60	穴が多く見られる。	古墳
11	U-15	不定形	80 × 80	中央にピットあり	古墳

5区

番号	位置	形状	規模(m)	備考	時期
1	N-17	不定形	50 × 50	埋溝あり、周囲に竪土の穴があり、伊が埋蔵。埋蔵あり	5-7号竪立柱建物の伊か
2	R-18	不定形	80 × 50	竪土のレンガ状に埋蔵	5-86E上の土層部
3	次墓	—	—	—	—
4	N-18	円形	—	竪土のみ	5-136号住居の伊か
5	W-15・16	円形	30 × 30	—	5-121号住居跡の伊か

第3章 検出された遺構と遺物

土坑

4区

番号	区	位置	形状	掘削位置(単位・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
711	4	H-18・19	不整形	(12) × 12 × 48	—	縄文土器	—	—	—
724	4	K・L-17・18	不整形	245 × 181 × 73	—	縄文土器	不明	—	掘土中央に礎集中、風筒木か
734	4	L-17	不整形	316 × 234 × 62	—	縄文土器	不明	—	掘土中央に礎集中、風筒木か
744	4	穴番	—	—	—	—	—	—	—
754	4	N-16	不整形	198 × 149 × 42	—	縄文土器	不明	—	掘土中央に礎集中、風筒木か
764	4	I-18・17	不整形	139 × 109 × 31	N-20°-E	縄文土器	—	—	—
774	4	H-14	長円形	206 × 74 × 23	N-60°-E	縄文土器	—	—	—
784	4	I-13・14	不整形	82 × 60 × 40	—	縄文土器	縄文	—	—
794	4	G-13	長円形	66 × 33 × 14	N-90°	縄文土器	縄文	—	—
804	4	H-11	不整形	128 × 64 × 21	—	縄文土器	縄文	—	—
814	4	G-12・13	楕円形	105 × 81 × 21	N-20°-W	縄文土器	縄文	—	—
824	4	G-13・14	楕円形	56 × 50 × 34	—	縄文土器	縄文	—	—
834	4	M-15	不整形	90 × 75 × 29	N-0°	—	近世	—	—
844	4	M-14	不整形	62 × 54 × 18	N-60°-W	—	縄文	—	—
854	4	H-13	不整形	59 × 44 × 31	N-20°-E	縄文土器	縄文	—	—
864	4	N-14	不整形	88 × 69 × 11	N-35°-E	—	近世	—	—
874	4	穴番	—	—	—	—	—	—	—
884	4	F-10	円形	147 × 150 × 74	—	縄文土器	縄文	—	—
894	4	A・B-15	不整形	96 × 83 × 21	—	縄文土器、石器	縄文	—	—
904	4	F-10	楕円形	132 × 103 × 63	N-75°-W	—	縄文	—	—
914	4	F-17	楕円形	(103) × 109 × 33	N-25°-W	—	—	—	風筒木
924	4	F-17	長円形	115 × 73 × 50	N-0°	—	縄文	—	—
934	4	E・F-16	不整形	(73) × 79 × 46	—	—	—	—	—
944	4	E-16	円形	66 × 58 × 38	—	—	縄文	—	—
954	4	D-17	石製	82 × 63 × 27	—	—	—	—	—
964	4	E-17	長円形	121 × 89 × 36	N-90°	土器	縄文	—	—
974	4	E-17	楕円形	121 × 104 × 80	—	石器	縄文	—	—
984	4	H-20	楕円形	71 × 61 × 30	—	—	縄文	—	—
994	4	I-21	楕円形	98 × 63 × 24	N-65°-W	—	縄文	—	—
1004	4	H-18	不整形	112 × 62 × 15	—	—	近世か	—	—
1014	4	J-20	長円形	76 × 53 × 22	N-75°-W	—	近世か	—	—
1024	4	X-14・15	長円形	225 × 167 × 114	N-0°	土器	平安以降	—	船し穴
1034	4	X-19	楕円形	118 × 85 × 23	N-40°-E	土器	縄文	—	—
1044	4	T-18	楕円形	190 × 93	N-0°	—	縄文	—	—
1054	4	Y-6	長円形	133 × 76 × 105	N-75°-W	土器、石器	平安以降	—	船し穴
1064	4	Y-14・15	長円形	217 × 191 × 130	N-10°-E	土器	平安以降	—	船し穴
1074	4	V-W-18	不整形	235 × 160 × 30	N-70°-W	—	不明	—	風筒木か
1084	4	U-17・18	楕円形	280 × 168 × 36	N-10°-E	土器	—	—	—
1094	4	X・Y-19	長円形	440 × 275 × 69	N-15°-W	土器	不明	—	風筒木か
1104	4	U・V-21	円形	141 × 141 × 28	N-40°-W	大型土器片	縄文中期	—	割れた土器の中に黄土状の平石
1114	4	O-21	楕円形	94 × 89 × 25	N-70°-W	土器	縄文	—	—
1124	4	U・V-20・21	長円形	115 × 62 × 31	N-5°-E	—	縄文	—	—
1134	4	T-18・19	長円形	245 × 109 × 45	N-15°-E	—	近世	—	—
1144	4	V-21	楕円形	83 × 59 × 20	N-20°-E	—	縄文	—	—
1154	4	W-15	楕円形	89 × 79 × 13	N-22°-W	—	縄文	—	—
1164	4	T-16	長形	89 × 69 × 19	—	—	縄文	—	—

5区

番号	区	位置	形状	掘削位置(単位・深さ)cm	主軸方位	出土遺物	時期	備	考
803	5	F-16・17	長円形	438 × 126 × 30	N-5°-W	—	近世	—	集石
804	5	C-18	長円形	203 × 129 × 133	N-84°-W	土器	平安以降	—	船し穴
805	5	F-14・15	長円形	182 × 131 × 35	N-10°-W	陶磁器	近世	—	集石
806	5	C・D-14	長円形	256 × 144 × 68	N-27°-W	陶磁器	近世	—	集石
807	5	B・C-14・15	長円形	189 × 109 × 132	N-30°-W	—	平安以降	—	船し穴
808	5	D-15	長形	215 × 149 × 30	N-78°-E	陶磁器	近世	—	—
809	5	B-16	円形	95 × 89 × 33	N-0°	—	縄文	—	—
810	5	B-16	楕円形	43 × 40 × 26	N-3°-E	—	縄文	—	—
811	5	B-16・17	円形	106 × 109 × 47	N-0°	土器	縄文	—	—
812	5	F-19	楕円形	132 × 120 × 16	—	土器	縄文	—	—
813	5	F-16	楕円形	179 × 150 × 180	—	大型土器	縄文	—	5・69位の形を切る
814	5	H-15	長円形	162 × 83 × 23	N-20°-E	土器、石器	縄文	—	—
815	5	D-14	楕円形	80 × 63 × 50	N-0°	土器	縄文	—	—
816	5	E-14	円形	140 × 125 × 53	N-90°	土器、石器	縄文	—	—
817	5	K・L-16	長円形	205 × 148 × 22	N-78°-E	—	近世	—	集石
818	5	J・J-17	長円形	277 × 221 × 15	N-85°-E	—	近世	—	集石
819	5	K-22	円形	108 × 103 × 19	N-70°-W	—	近世	—	集石
820	5	L-23	不整形	261 × 193 × 15	N-35°-W	—	近世	—	集石
821	5	F-16・17	円形	(96) × 120 × 20	—	土器	縄文	—	—
822	5	L-23・24	不整形	90 × 87 × 20	N-0°	—	縄文	—	—
823	5	P-20	長円形	122 × 87 × 72	N-55°-W	—	縄文	—	—
824	5	O-20	楕円形	118 × 96 × 88	N-0°	土器片、礎	縄文	—	—
825	5	O-20	楕円形	103 × 89 × 60	N-0°	土器、石器	縄文	—	—
826	5	N-20	楕円形	250 × 215 × 75	N-72°-W	土器、石器	縄文	—	—
827	5	M-19	円形	122 × 120 × 35	—	土器	縄文	—	—
828	5	M-19	円形	154 × 154 × 65	—	土器、石器	縄文	—	土器片、礎、底に大型礎
829	5	L・M-19	円形	159 × 132 × 35	—	土器、石器	縄文	—	土器片、礎、底に大型礎
830	5	L-18	円形	52 × 50 × 83	N-40°-W	土器、石器	縄文	—	朽穴
831	5	I-17・18	長円形	145 × 117 × 31	N-50°-W	土器、石器	縄文	—	ほぼ方形の土器
832	5	H-17	楕円形	124 × 123 × 30	—	土器	縄文	—	—

番号	区分	位置	形状	総面積(坪)・長さ(m)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
833	N	-19	不整形	210 × (193) × 37	N-20°E	土器、石函	縄文	5-84号住の中心にあり
834	N	-18	楕円形	143 × 133 × 20	N-69°E	土器、石函	縄文	
835	K	-18	長円形	54 × 42 × 30	N-44°W	土器	縄文	
836	L	-15	長円形	137 × 75 × 35	N-28°W	土器	縄文	
837	O	P-16	不整形	60 × 55 × 35	N-0	—	縄文	5-96住穴か
838	P	-15・16	不整形	62 × 32 × 25	—	土器	縄文	5-96住穴か
839	K	L-15	楕円形	86 × 72 × 20	N-7°E	土器片、礫	縄文	
840	O	P-17	不整形	197 × (140) × 110	—	土器、石函	縄文	5-85号住居跡の南に重複
841	O	-17	長円形	56 × 46 × 63	—	—	縄文	5-85号住居跡の穴式
842	O	N-17	長円形	178 × 140 × 58	N-15°W	土器、石函	縄文	
843	O	-15	楕円形	69 × 58 × 47	N-43°E	土器	縄文	土層に露
844	N	O-16	円形	35 × 48 × 45	N-10°W	土器	縄文	5-86住穴の可能性あり
845	O	-17	不整形	85 × 85 × 97	N-20°W	土器	縄文	5-7号孤立柱建物
846	O	-17	不整形	63 × 42 × 56	N-70°E	土器	縄文	
847	N	-18	円形	176 × 165	—	土器、石函	縄文	
848	M	-17	楕円形	92 × 93 × 82	N-90°	土器片、礫	縄文	5-7号孤立柱建物
849	S	J-17	楕円形	124 × 114 × 34	N-0°	土器	縄文	中央にヒット
850	M	-18	楕円形	110 × 103 × 45	N-90°	土器片、礫	縄文	
851	O	-15	楕円形	47 × 47 × 42	N-3°W	土器、石函	縄文	5-96住穴か
852	O	-17	不整形	(92) × 80 × 55	N-42°E	礫	縄文	5-6号孤立柱建物
853	O	-20	長円形	87 × 58 × 53	N-7°W	—	縄文	
854	M	N-18	楕円形	104 × 78 × 70	N-30°E	土器、石函	縄文	5-7号孤立柱建物
855	O	-15	不整形	40 × 27 × 45	N-45°W	—	縄文	
856	N	-16・17	不整形	145 × (117) × 105	—	土器、石函	縄文	5-7号孤立柱建物
857	O	-16	楕円形	71 × (33) × 63	—	—	縄文	前半は水溜りに覆われている
858	M	-16・17	長円形	148 × 87 × 15	N-10°E	土器	縄文	
859	M	-17	楕円形	153 × 143 × 90	N-0°	土器片、礫	縄文	
860	S	L-15	半円形	107 × (60) × 83	—	土器	縄文	
861	S	L-15	楕円形	82 × 79 × 40	N-90°	土器	縄文	
862	M	-18	円形	116 × 112 × 98	—	土器、石函	縄文	5区A号孤立柱建物の北東住穴
863	N	-16	不整形	56 × (43) × 32	N-0°	—	縄文	
864	M	-17	不整形	(28) × 68 × 33	—	土器	縄文	
865	M	-17	長円形	105 × 85 × 78	N-32°W	土器、石函	縄文	5-7号孤立柱建物
866	N	-17	楕円形	73 × 65 × 76	N-13°W	土器、石函	縄文	5-6号孤立柱建物
867	N	-17・18	楕円形	185 × 174 × 65	N-30°W	土器、石函	縄文	土層に大型礫
868	S	L-17・18	円形	140 × 135 × 113	—	土器、石函	縄文	5-88号住居跡の北側に重複
869	S	N-18・19	不整形	(133) × (63) × 23	N-90°	土器	縄文	
870	O	-18	不整形	94 × 90 × 80	N-90°	土器	縄文	5-6号孤立柱建物
871	M	-17・18	円形	105 × 101 × 55	N-0°	土器片、礫	縄文	5-6号孤立柱建物
872	O	-19	長円形	105 × 88 × 37	N-10°E	礫	縄文	
873	N	-17	不整形	— × 57 × 50	—	土器	縄文	
874	S	N-0-18	長円形	116 × 103 × 92	N-55°E	土器、石函	縄文	5-7号孤立柱建物
875	N	O-18	楕円形	122 × 104 × 15	N-63°E	土器	縄文	
876	S	N-18	長円形	104 × 73 × 77	N-90°	礫	縄文	粗巻き石か
877	S	N-18	長円形	106 × 88 × 87	N-82°W	土器、石函	縄文	5-6号孤立柱建物
878	S	N-0-18・19	楕円形	155 × 147 × 65	N-60°E	土器、石函	縄文	
879	S	K-15・16	不整形	(102) × 105 × 80	N-0°	貝輪状土器片	後期	穴式
880	K	-17	円形	69 × 66 × 21	N-90°	陶器、磁土	縄文	約の可能性あり
881	S	K-L-16	長円形	(125) × 155 × 40	N-30°W	土器、石函	縄文	
882	S	N-17	長円形	90 × 57 × 50	N-0°	土器	縄文	
883	S	N-0-17・18	不整形	75 × (53) × 65	N-55°E	土器	縄文	
884	S	N-18	不整形	80 × 74 × 55	N-30°E	土器	縄文	
885	S	J-16	円形	120 × 100 × 70	—	大型の礫	後期	5-93・113住の遺構部に位置
886	S	J-16	長円形か	(110) × (90) × (40)	—	大型の礫	後期	5-113住内にあり、配石土瓦
887	S	R-21	長円形	125 × 100 × 42	N-40°E	—	縄文	
888	S	P-19	円形	125 × 122 × 97	—	土器片、礫	姓名寺1	5-108号住居跡の東に重複
889	S	R-19	不整形	150 × 125 × 82	N-0°	土器、石函	縄文	
890	S	Q-20	円形か	(180) × (180) × 40	—	土器片、礫	縄文	5-891号土瓦、5-105住に切られる
891	S	Q-20	長円形	372 × 190 × 66	N-0°	土器片、礫	縄文	5-890号土瓦を切る
892	S	S-18	長円形	97 × 69 × 21	N-50°W	—	縄文	
893	S	R-S-17	半円形	75 × (27) × 32	—	—	縄文	
894	S	R-18	長円形	118 × 113 × 25	—	土器	縄文	
895	S	Q-19	長円形	132 × 108 × 40	N-35°E	土器	縄文	
896	S	T-18	不整形	(100) × (175) × 57	N-30°E	土器	縄文	
897	S	P-Q-18	不整形	80 × 79 × 65	N-3°E	礫	縄文	
898	S	R-20・21	楕円形	118 × 98 × 31	N-40°W	土器	縄文	
899	S	R-19	円形	250 × 230 × 28	N-35°W	土器	縄文	住居の可能性
900	S	Y-19・19	楕円形	234 × 221 × 47	N-0°	土器片、礫	縄文	住居の可能性
901	S	S-24	長円形	99 × 73 × 34	N-20°W	—	縄文	
902	S	T-23・24	不整形	254 × 193 × 63	—	土器、石函	縄文	5-99号住居内
903	S	Q-23	円形	141 × 119 × 39	—	川原石	縄文	
904	S	T-24	—	—	—	—	縄文	5-99号住居内に重複
905	S	P-Q-21・22	円形	134 × 132 × 30	—	土器	縄文	
906	S	P-Q-16	不整形	285 × (160) × 60	N-90°	土器、石函	縄文	
907	S	T-20・21	不整形	(390) × (224) × 78	—	縄文・陶磁器	不明	風爛木、5-114号住居と重複
908	S	L-15	不整形	(140) × (80) × 77	N-25°W	土器	縄文	5-94住内
909	S	R-17	不整形	107 × 100 × 92	N-7°E	陶磁器(大)	縄文	大型の陶磁器(大) 2点出土
910	S	T-19	楕円形	245 × 233 × 40	N-48°E	土器、石函	縄文	風爛木、5-115号住居跡と重複
911	S	欠番	—	—	—	—	—	
912	S	欠番	—	—	—	—	—	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	区画	位置	形状	顔面位置(単位:cm)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
913	T-23	24	不整形	(511) × 64 × 36	N-55-W	瓦文		
914	T-11	23	不整形	(44) × 93 × 33	—	礎	瓦文	
915	T-23	23	不整形	61 × (43) × 15	N-90	瓦文		
916	S-R-20		楕円形	90 × 83 × 30	N-13-W	土器	瓦文	
917	S-Q-18		不整形	121 × 112 × 42	N-40-W	土器	瓦文	
918	S-Q-17		長円形	116 × 86 × 115	N-50-E	土器、右器	瓦文	上層に礎
919	S-Q-17		不整形	(82) × (72) × 23	N-80-W	土器、右器	瓦文	
920	S-Q-17		不整形	(88) × (56) × 80	N-80-W	土器	瓦文	
921	S-Q-19		円形	127 × 124 × 25	N-0	土器	瓦文	
922	S-X-Y-16		楕円形	115 × 112 × 35	N-0	瓦文		
923	S-W-16		楕円形	89 × 78 × 95	N-62-E	瓦文		
924	S-U-15		不整形	133 × 108 × 43	—	土器	瓦文	
925	S-Y-16	6 A-16	不整形	(192) × 181 × 35	N-40-W	土器、右器	瓦文	
926	S-Y-16		長円形	175 × 116 × 65	N-40-W	土器、右器	瓦文	
927	S-Q-17		円形	82 × 80 × 105	N-0	瓦文		粗巻き石
928	S-T-17		楕円形	94 × 80 × 80	N-30-E	土器	瓦文	柱版
929	S-T-18		不整形	(125) × 105 × 30	N-45-E	土器	瓦文	
930	S-Y-16		不整形	148 × 138 × 27	—	—	瓦文	
931	S-T-U-15		楕円形	175 × 155 × 30	—	土器	瓦文	
932	S-U-15		長円形	101 × 60 × 23	N-75-W	土器、右器	瓦文	
933	S-T-U-17		半円形	(136) × 146 × 67	N-13-E	土器	瓦文	
934	S-U-14	15	楕円形	137 × 131 × 40	—	土器片、礎	瓦文	
935	S-U-16	17	楕円形	103 × 95 × 135	N-5-E	土器、右器	瓦文	
936	S-U-15		長円形	111 × 78 × 17	N-90	土器	瓦文	
937	S-U-15		不整形	(169) × 86 × 45	N-42-W	土器、右器	瓦文	
938	S-P-16		楕円形	65 × (32) × 110	N-0	瓦文		
939	S-P-16		形不明	(76) × (29) × 62	—	瓦文		
940	S-Q-16		楕円形	(76) × (56) × 62	N-63-W	土器、右器	瓦文	
941	S-Q-15	16	楕円形	139 × 111 × 40	N-81-E	土器、右器	瓦文	
942	S-Q-16		長円形	174 × 86 × 55	N-80-W	土器	瓦文	
943	S-Q-R-16		不整形	(86) × 115 × 66	—	土器	瓦文	
944	S-Q-16		楕円形	(49) × 52 × 105	—	土器	瓦文	
945	S-Q-16		楕円形	68 × 59 × 48	—	土器	瓦文	
946	S-X-15		不整形	57 × 57 × 62	N-0	土器	瓦文	柱穴か
947	S-U-16		不整形	132 × 83 × 27	N-0	土器	瓦文	
948	S-R-16		円形	48 × 49 × 88	—	土器、右器	瓦文	柱版
949	S-T-16		不整形	141 × 113 × 50	N-90	土器、右器	瓦文	
950	S-T-16		不整形	(83) × (80) × 50	—	土器、右器	瓦文	
951	S-T-16		楕円形	80 × 76 × 115	N-35-W	粗巻き石	瓦文	柱版
952	S-Q-15	16	不整形	(54) × (32) × 97	—	土器、右器	瓦文	
953	S-Q-16		不整形	(94) × 67 × 110	—	瓦文		柱版
954	S-Q-16		不整形	(56) × (56) × 40	—	土器、右器	瓦文	
955	S-P-16		不整形	(130) × (60) × 80	—	土器	瓦文	
956	S-Q-16		不整形	(40) × 44 × 39	—	土器、右器	瓦文	
957	S-Q-16		楕円形	(70) × (46) × 90	N-0	—	瓦文	
958	S-Q-16		円形	115 × 100 × 120	—	瓦文		
959	S-Q-16		楕円形	58 × 51 × 55	—	土器	瓦文	
960	S-T-17		長円形	85 × 43 × 100	N-30-W	土器	瓦文	柱版
961	S-R-S-16	17	半円形	161 × (104) × 74	—	土器、右器	瓦文	
962	S-R-16		円形	57 × 50 × 45	N-65-E	土器、右器	瓦文	
963	S-R-16		円形	74 × 66 × 52	N-75-W	土器	瓦文	
964	S-Q-R-16		円形	106 × 105 × 35	—	土器、右器	瓦文	
965	S-V-16		不整形	100 × 100 × 120	—	土器、右器	瓦文	
966	S-X-Y-15		不整形	92 × 53 × 50	N-45-E	土器、右器	瓦文	
967	S-Q-16		不整形	88 × 77 × 100	N-35-W	瓦文		
968	S-Q-15		長円形	55 × 43 × 90	N-30-W	土器	瓦文	柱版
969	S-S-17		長円形	73 × 41 × 38	N-75-E	瓦文		5-981号土坑と重なる
970	S-S-17		不整形	90 × 78 × 78	—	土器	瓦文	5-980号土坑と重なる
971	S穴産							
972	S-T-16		楕円形	67 × 64 × 65	N-40-E	土器	瓦文	
973	S-T-16		円形	82 × 75 × 87	N-55-W	右器	瓦文	
974	S-Q-14		長円形	133 × 74 × 65	N-87-E	土器	瓦文	
975	S-R-16		不整形	(172) × 33 × 55	N-10-E	土器	瓦文	
976	S-V-W-15	16	円形	101 × 103 × 127	—	瓦文		柱版
977	S-W-15		円形	88 × 89 × 125	—	土器	瓦文	柱版
978	S-U-16	17	楕円形	85 × 85 × 63	N-60-W	瓦文		
979	S-Q-R-15	16	不整形	175 × 167 × 107	—	土器、右器	瓦文	
980	S-S-17		不整形	93 × 75 × 96	N-10-W	土器	瓦文	5-970号土坑と重なる
981	S-S-17		—	— × — × 43	—	瓦文		5-969号土坑と重なる
982	S-S-17		不整形	25 × 24 × 37	—	瓦文		
983	S-P-Q-16		不整形	(78) × 47 × 37	N-88-E	土器	瓦文	
984	S-R-16	17	不整形	68 × 55 × 79	N-90	土器	瓦文	
985	S-R-15		不整形	(70) × 68 × 86	N-85-E	土器	瓦文	
986	S-R-15		円形	97 × 90 × 75	N-0	土器	瓦文	
987	S-Y-6 A-16		長円形	167 × (116) × 38	N-50-W	土器、右器	瓦文	不明
988	S-Q-14		長円形	104 × 59 × 88	N-10-E	土器	瓦文	黒銅木か
989	S-T-14		長円形	80 × 58 × 60	N-78-W	瓦文		
990	S-T-14		長円形	70 × 50 × 24	N-9-W	瓦文		
991	S-Q-16		不整形	109 × (95) × 45	—	土器	瓦文	
992	S-Q-16		長円形	83 × 58 × 53	N-0	土器	瓦文	

番号	区画位置	形状	幅員(延べ)面積 δ ㎡	主軸方位	出土遺物	時期	備考
993	S-14	不整形	80 × 72 × 74	—	土器	縄文	
994	S-Q-16	不整形	(47) × (53) × 18	—	—	縄文	
995	S-Q-16	楕円形	40 × 37 × 30	N-0	—	縄文	
996	S-U-14	不整形	116 × 114 × 28	N-25-W	土器	縄文	
997	S-U-V-14	円形	80 × 80 × 50	—	土器	縄文	
998	S-T-16	長円形	93 × 65 × 80	N-65-E	土器	縄文	
999	S-T-16	長円形	80 × 51 × 105	N-10-E	土器	縄文	
1000	S-V-16	円形	138 × 130 × 125	N-10-W	土器	縄文	柱痕
1001	S-R-15	不整形	(45) × 50 × 88	N-87-E	土器	縄文	
1002	S-穴番	—	—	—	—	—	遺物あり
1003	S-S-15	不整形	76 × (53) × 40	—	—	縄文	
1004	S-S-15	不整形	88 × (73) × 85	—	土器	縄文	
1005	S-U-14	長円形	97 × 74 × 35	N-90	土器	縄文	
1006	S-T-16	不整形	56 × (37) × 75	N-35-W	土器、石器	縄文	
1007	S-T-15	長円形	121 × 87 × 60	N-42-E	土器	縄文	
1008	S-S-15	円形	75 × 69 × 64	—	土器	縄文	
1009	S-S-15	不整形	105 × 92 × 68	N-15-W	土器	縄文	
1010	S-T-15	長円形	82 × 72 × 75	N-15-W	土器	縄文	
1011	S-T-15	不整形	75 × 57 × 58	N-60-E	土器	縄文	
1012	S-S-16	円形	82 × 80 × 73	N-90	土器	縄文	
1013	S-U-15	円形	64 × 62 × 80	—	土器	縄文	
1014	S-U-15	円形	73 × 66 × 69	—	土器	縄文	
1015	S-T-16	不整形	45 × (23) × 45	N-5-E	土器	縄文	
1016	S-T-16	不整形	90 × (47) × 27	N-33-E	—	縄文	
1017	S-U-17	楕円形	64 × 51 × 20	N-10-E	—	縄文	
1018	S-T-U-16	不整形	85 × 83 × 65	N-75-E	土器	縄文	
1019	S-R-16	長円形	66 × 52 × 85	N-0	土器	縄文	
1020	S-S-17	不整形	56 × (43) × 53	N-90	—	縄文	
1021	S-T-14	円形	51 × 56 × 21	—	—	縄文	
1022	S-T-13・16	長円形	(543) × 63 × 30	N-30-W	—	縄文	
1023	S-S-16	長円形	(118) × (80) × 84	N-45-W	土器、石器	縄文	
1024	S-R-16	円形	68 × 67 × 105	—	土器	縄文	
1025	S-R-16	円形	65 × 67 × 107	—	土器	縄文	
1026	S-R-16	長円形	112 × 89 × 65	N-6-W	土器	縄文	
1027	S-S-17	長円形	44 × 35 × 41	N-45-E	—	縄文	
1028	S-R-S-16	長円形	88 × 64 × 75	N-7-E	土器	縄文	
1029	S-R-16	長円形	(44) × 42 × 52	N-3-W	土器	縄文	
1030	S-R-15・16	不整形	45 × 43 × 55	—	土器	縄文	
1031	S-S-16	長円形	(60) × 73 × 27	N-41-W	—	縄文	
1032	S-T-17	長円形	66 × 49 × 29	—	—	縄文	
1033	S-T-16	半円形	(26) × 50	—	—	縄文	
1034	S-T-16	円形	50 × 49 × 56	—	土器	縄文	
1035	S-V-16	不整形	(68) × 72 × 30	—	—	縄文	
1036	S-R-16	不整形	(40) × 40 × 22	—	—	縄文	
1037	S-R-S-15	不整形	43 × 36 × 28	—	—	縄文	
1038	S-T-16	円形	(50) × 53 × 68	—	土器	縄文	
1039	S-S-T-16	円形が2つ	78 × (39) × 73	—	土器	縄文	
1040	S-S-16	長円形	35 × 27 × 20	—	—	縄文	
1041	S-U-16	不整形	84 × 75 × 66	—	土器	縄文	
1042	S-T-17	長円形	(96) × 78 × 40	N-71-E	土器	縄文	
1043	S-T-U-17	長円形	80 × (40) × 105	N-50-E	土器	縄文	
1044	S-R-16・17	円形	40 × (40) × 70	—	土器	縄文	
1045	S-R-15	不整形	56 × 48 × 48	—	—	縄文	
1046	S-R-15	円形	53 × 60 × 45	—	—	縄文	
1047	S-S-15	円形	79 × 78 × 118	—	土器	縄文	
1048	S-Y-13	円形	56 × 47 × 40	—	—	縄文	
1049	S-Y-13	円形	72 × 63 × 96	—	—	縄文	
1050	S-T-15	円形	57 × 57 × 58	—	土器	縄文	
1051	S-R-15	円形	65 × 58 × 33	—	—	縄文	
1052	S-S-15	長円形	101 × (69) × 49	N-56-E	土器、石器	縄文	
1053	S-S-16	不整形	35 × (27) × 37	—	—	縄文	
1054	S-S-15	不整形	94 × 89 × 88	N-3-W	土器	縄文	
1055	S-R-15	不整形	92 × 55 × 40	N-0	土器	縄文	
1056	S-Q-14	長円形	60 × 39 × 41	N-20-E	土器	縄文	
1057	S-Y-13	長円形	(104) × 70 × 20	N-72-W	—	縄文	
1058	S-X-13・14	不整形	37 × 47 × 58	N-29-W	土器、石器	縄文	
1059	S-X-13	長円形	84 × 64 × 27	N-60-E	土器	縄文	
1060	S-X-13・14	長円形	108 × (63) × 43	N-40-E	土器	縄文	
1061	S-X-14	長円形	93 × (35) × 40	N-52-E	土器	縄文	
1062	S-X-14	長円形	(63) × 63 × 40	N-45-W	土器	縄文	
1063	S-S-16	円形	(50) × (40) × 40	—	—	縄文	
1064	S-R-15	円形	41 × 40 × 50	—	—	縄文	
1065	S-Q-15	長円形	94 × 57 × 44	N-27-W	—	縄文	
1066	S-R-16	不整形	97 × (62) × 20	—	—	縄文	
1067	S-R-16	円形	52 × 44 × 52	—	—	縄文	
1068	S-Q-15	長円形	56 × 40 × 37	N-85-W	土器、石器	縄文	
1069	S-Q-15	円形	(44) × 58 × 32	—	土器	縄文	
1070	S-R-15	円形	94 × 85 × 83	—	土器	縄文	
1071	S-S-15・16	長円形	72 × 43 × 65	N-40-W	土器	縄文	
1072	S-R-S-15・16	長円形	40 × 30 × 70	N-52-E	—	縄文	

第3章 検出された遺構と遺物

番号	区 位	置	形 状	縦横長(単位・厚さ)cm	主軸方位	出土遺物	時 期	備 考
1072	5 R-15・16	長円形	70 × 44 × 27	—	—	—	—	—
1073	5 R-15・16	長円形	67 × 54 × 88	N-0°	土器	—	—	—
1073	5 U-15・16	長円形	130 × 92 × 44	N-88°-E	土器、石器	—	—	—
1076	5 穴蓋	—	—	—	—	—	—	—
1077	5 Q・R-14	半円形	(48) × 73 × 33	—	—	—	—	—
1078	5 S-15	不整形	59 × 52 × 25	N-25°-E	土器	—	—	—
1079	5 R-15	不整形	40 × 32 × 32	—	—	—	—	—
1080	5 V-15	長円形	(57) × 67 × 35	N-25°-E	—	—	—	—
1081	5 R-15・16	長円形	(45) × 49 × 24	N-14°-E	土器	—	—	—
1082	5 U-15	長円形	67 × 45 × 28	N-30°-E	—	—	—	—
1083	5 U-16	円形	78 × 88 × 80	—	—	—	—	柱頭
1084	5 V-15	不整形	100 × 89 × 29	—	土器、石器	—	—	—
1085	5 U-17	不整形	(65) × 65 × 42	N-14°-E	—	—	—	—
1086	5 U・V-16	長円形	95 × 78 × 16	N-0°	—	—	—	—
1087	5 X-14・15	不整形	90 × 75 × 46	—	土器	—	—	—
1088	5 V-15	長円形	100 × 65 × 24	N-48°-W	土器、石器	—	—	—
1089	5 V-15	長円形	(73) × 75 × 18	N-23°-W	—	—	—	—
1090	5 V-17	不整形	72 × 62 × 17	N-24°-W	土器	—	—	—
1091	5 V-17	不整形	114 × 87 × 28	N-72°-W	—	—	—	—
1092	5 U-18	半円形	182 × (53) × 37	—	—	—	—	—
1093	5 S-16	不整形	36 × (28) × 25	—	土器	—	—	—
1094	5 R-14・15	円形	70 × 66 × 48	—	土器	—	—	—
1095	5 R-16	円形	27 × 25 × 38	—	—	—	—	—
1096	5 R・S-15	長円形	(73) × (57) × 30	N-71°-E	—	—	—	—
1097	5 S・T-16	円形	94 × (57) × 70	—	土器	—	—	—
1098	5 R-15	長円形	83 × 49 × 14	N-54°-W	土器	—	—	—
1099	5 R・S-15	長円形	95 × 54 × 78	N-12°-W	—	—	—	—
1100	5 Q・R-16	長円形	109 × (33) × 83	N-8°-E	土器	—	—	—
1101	5 V-16	半円形	(64) × 76 × 23	N-0°	土器	—	—	—
1102	5 V-15	半円形	93 × (53) × 30	—	土器	—	—	—
1103	5 V-15	不整形	(78) × 128 × 22	—	土器	—	—	—
1104	5 V-15	長円形	117 × 85 × 54	N-80°-W	土器	—	—	5-124号と重複
1105	5 T-16	円形	32 × 30 × 60	—	土器	—	—	—
1106	5 Q-15	長円形	192 × 154 × 58	N-4°-W	土器	—	—	—
1107	5 T-15	長円形	82 × 85 × 21	N-10°-W	土器	—	—	—
1108	5 V-15	長円形	93 × 50 × 52	N-50°-E	土器	—	—	—
1109	5 U-15	長円形	73 × 58 × 30	N-12°-E	—	—	—	—
1110	5 X・Y-13	長円形	(120) × 90 × 30	—	土器、石器	—	—	—
1111	5 S-16	長円形	121 × 111 × 97	—	土器	—	—	—
1112	5 R-16	円形	79 × 77 × 110	—	土器	—	—	—
1113	5 W-13	長円形	300 × (280)	N-0°	大型礎	—	—	5-124号の裏り出し配下
1114	5 Q-15	長円形	71 × (37) × 45	N-27°-W	土器	—	—	—
65	—	—	—	—	—	—	—	—
番号	区 位	置	形 状	縦横長(単位・厚さ)cm	主軸方位	出土遺物	時 期	備 考
204	6 B-14	長円形	205 × 180 × 35	—	—	—	—	6-205号土坑と重複
205	6 B-14	長円形	170 × 123 × 30	—	—	—	—	6-204号土坑と重複
206	6 A-16	円形	160 × 140 × 45	—	—	—	—	—
207	6 B-13	不整形	260 × 190 × 30	—	—	—	—	—
208	6 B-13	円形	46 × 45 × 75	—	—	—	—	6-207号土坑と重複
209	6 B-13	長円形	120 × 100 × 43	—	土器	—	—	6-16号住居内
210	6 A-15	不整形	—	—	土器	—	—	不明
211	6 A・B-13	円形	95 × 93 × 45	—	—	—	—	6-16号住居内
212	6 A-13	円形	180 × 170 × 85	—	—	—	—	6-16号住居内
213	6 B-12	長円形	100 × 80 × 25	—	—	—	—	—
214	6 B-12	円形	60 × 50 × 40	—	—	—	—	—
156	—	—	—	—	—	—	—	—
番号	区 位	置	形 状	縦横長(単位・厚さ)cm	主軸方位	出土遺物	時 期	備 考
1131	T・U-3	円形	300 × 310 × 30	—	—	—	—	—